

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

[Web報告書もくじ](#) > はじめに

## はじめに ～学習状況調査を生かした指導改善までのプロセス～

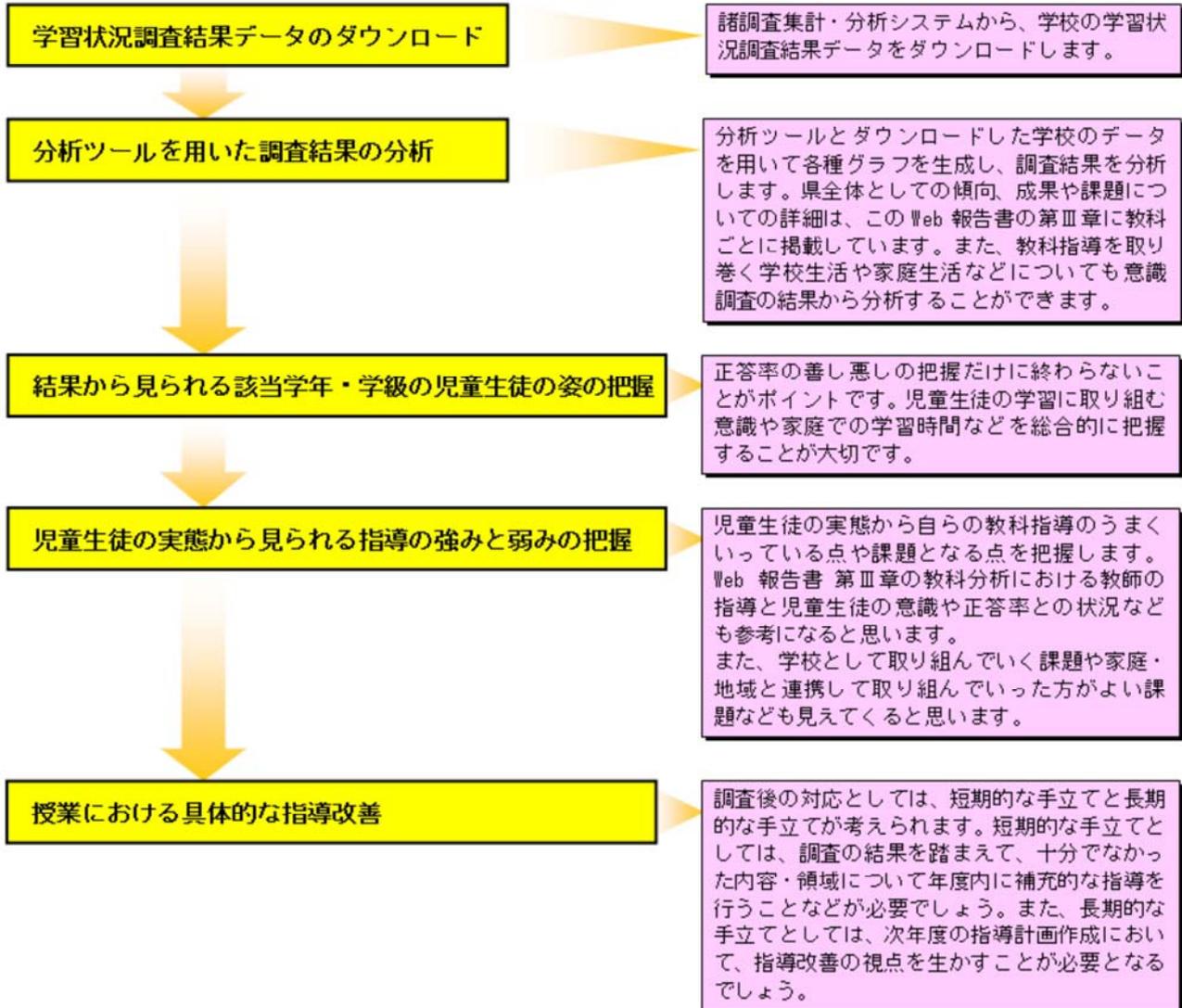
### 1 学習状況調査Web報告書公開の趣旨

佐賀県では、平成14年度から小・中学校学習状況調査を抽出調査で実施し、佐賀県の学力に関する課題の把握に努めてきた。平成18年度からは県全体の把握に加えて、各学校の教師が児童生徒一人一人の学習状況や学習・生活に対する意識等の実態を具体的に把握し、改善を図ることができるように、全数調査を実施してきた。また、調査結果をできるだけ学校現場の教師が生かしやすいように返却することに努めてきた。平成19年度より調査報告書をWeb発信することにより、より多くの教師が必要に応じて、必要な部分を活用できるようにした。また、平成21年度より調査時期を4月に変更することにより、年度中の早い時期に調査結果を各学校に返却できるようにした。平成24年度は、佐賀県小・中学校学習状況調査を4月16日・17日に、全国学力・学習状況調査を活用した調査を4月17日に実施した。5月9日には県正答率を公表し、個票をダウンロードできるようにした。各学校の調査結果を自動的にグラフ化する分析ツール及び分析ツールに必要な学校のデータについては、6月20日に公開した。

Web報告書では、佐賀県における今回の調査の結果概要や小学校・中学校の各教科における学習状況について詳細に分析し、学習指導及び児童生徒の学校生活・家庭生活の見直しに向けての示唆となるように努めた。各学校における児童生徒の学習状況や生活状況を把握し、よさや課題を見付け出してほしい。さらに、課題解決の一つのアイデアとして、Web報告書の関係ページを学校全体で活用してほしい。よさや課題はそれぞれの地域や学校によって異なる。また、学校においても学年・学級、更には児童生徒の一人一人によさもあれば、課題を抱えている場合もある。教師がよさや課題に目を向けて指導を行っていくためにも、このWeb報告書を積極的に活用してほしい。

## 2 学習状況調査を生かした指導改善までのプロセス

## 学習状況調査結果の公表から指導改善までのプロセス PDCA サイクルの Check Action から新たな Plan へ



上の図は「学習状況調査結果の公表から指導改善までのプロセス」を図式化したものである。多くの学校において、既に調査結果の分析が進んでいるものと推察される。分析を進めていく中で、今年度中に早急に手立てを取ることが必要な短期的課題や、次年度の教育課程編成や年間の指導計画作成に当たって考慮すべき長期的課題などが見付かるであろう。今年度内に見極めと具体的なアクションを起こしてほしい。

小学校であれば、調査対象である第5・6学年だけのこととして捉えるのではなくて、中学年、低学年での指導はどうであったかというような視点をもって取り組むことが大切である。中学校であれば、第2学年での結果が最終学年である3年生でどのようになっているのかという視点をもって、義務教育修了までの指導の在り方について考えることも必要であろう。さらには、小学校第6学年から中学校第1学年というつながりの部分についても、校区内での連携を図ることを期待する。大切なことは、教師一人一人の取組とともに、学校や地域が組織的、継続的に取組を進めることにあるのではないだろうか。

### 3 報告書の概要と活用に向けて

第Ⅰ章は「調査の概要」についてまとめている。児童生徒意識調査と教師意識調査における設問の意図やカテゴリについても説明をしているので、各学校での分析の参考にしてほしい。また、平成19年度から導入した到達基準の設定と到達基準との比較による調査結果の分析方法についてもまとめている。各学校における目標設定の参考にしてほしい。

第Ⅱ章は、「調査結果の概要」についてまとめている。各教科の県正答率、評価の観点別正答率など県全体の傾向を把握することができるようになっている。各学校の調査結果と県の状況とを重ねてみることで、各学校のよさや課題が見えてくるであろう。また、児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像(主に子どもの学校生活・家庭生活の様子が概観できる)、佐賀県の学習者像(学習に対する意識や取り組む態度などが概観できる)、教師意識調査から見た佐賀県の教師像(教師の指導の様子や指導に対する意識などが概観できる)をまとめている。

第Ⅲ章は、「各教科の調査結果の分析」についてまとめている。各教科における学習と指導の状況や成果と課題、さらには、具体的な設問を取り上げての指導改善の視点などをまとめているので、参考になる点については、指導に生かしてほしい。

第Ⅳ章は、「意識調査の結果の分析」についてまとめている。児童生徒意識調査については、児童生徒の学校生活・家庭生活など学習を取り巻く生活の状況について分析している。正答率等との関連が見られる部分については、その結果を記載している。学校生活におけるよさや課題の把握を進める上での参考になるであろう。また、家庭への協力を依頼する場合においても参考となるデータが得られるであろう。教師意識調査については、教師の意識と正答率等との関連について記載している。複数の教科に関係する内容や総合的な学習の時間の取組、学校組織マネジメントに関わることなどについてまとめている。グラフなども示しているので、各学校の状況と照らし合わせながら、指導に生かしてほしい。

第Ⅴ章は、「自校データの分析と活用」についてまとめている。根拠に基づく学校改善に関わって、自校の調査結果を活用する視点について述べている。

#### 4 指導改善のヒント

まずは、一人一人の教師が、自分の目の前にいる児童生徒の様子を思い浮かべながら、報告書を読んでほしい。「自分の学校の子どもはどうなのか？」とか「自分が指導している子どもたちはちゃんとできているのか？」など思ったことについて、分析ツールを使って調べてみてはどうだろうか。そこで見付かったよさや課題について、報告書の中の提言などをヒントにししながら、よりよい指導方法を自校の学習環境や自分の授業に取り入れることが指導改善の第一歩であろう。

しかしながら、個々の教師の取組だけでは、学校全体としての指導改善には至らないことが多い。一人の教師が6年間(中学校では3年間)を通して指導するということはまれであるし、中規模以上の学校では、学級集団も毎年変わるのが一般的である。系統的、継続的な指導を進めていくためには、どうしても学校としての共通理解・共通実践が必要であろう。また、様々な取組が行われてはいても、取組の教育的な意義や取り組む際の留意点などを指導する側の全ての教師が認識していなければ、数年で形骸化してしまうこともある。

問題を解決するためには、調査の結果や、日々の指導から得た経験知の中から、自校の課題となることを、全ての教師が共通に認識することが第一歩であろう。学校内での校内研修や教科部会等において、分析を行い自校の児童生徒の状況について考えてみるのが大切であろう。

よさについては、自校の成果として保護者や地域に対してもアピールすることができるし、更に伸ばすための手立てを考えていけば、ますますよい結果をもたらすであろう。課題については、改善に向けて、何らかの共通実践が必要であろう。どのような実践が望ましいかということについては、報告書の中でも多岐にわたって、提言をしている。これらを参考にしつつ、目の前の児童生徒のことをしっかりとイメージして、必要な実践内容を導き出してほしい。その際、関係する全ての教師が、継続的に共通実践できる内容であることをしっかり確認することが大切であろう。

課題となることは、国語、算数(数学)、理科、社会、英語の教科だけに関わることではない場合もあろう。調査の対象とはなっていない教科においても、授業の進め方や宿題の出し方、学習形態の工夫など共通に取り組むべきことが多くある。関係教科だけの課題とせずに、学校全体として取り組むことが大切であろう。

教科指導における課題だけでなく、学校生活に関わることや家庭生活に関わることについても課題は見付かるであろう。課題の解決に向けては、生徒指導担当や養護教諭などが中心となって、手立てを考えていくことや、保護者会などを通して保護者に協力を求めていくことなども考えられる。分析ツールから出力される資料などが有効に活用できるであろう。

採点・入力と多くの教師の尽力によって実施された学習状況調査だが、得たデータには無限の可能性がある。教師一人一人のアイデアや学校の創意工夫によって、指導改善が実現し、佐賀県の児童生徒によりよい指導がなされることを望みたい。

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > I 調査の概要

## I 調査の概要

### 1 調査の趣旨

学習指導要領に示されている目標や内容の実現状況、学習に対する意識・態度や生活習慣及び教師の指導に関する意識を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

各学校は、児童生徒一人一人の調査結果を踏まえた指導改善を行うとともに、教育委員会は、課題解決に向けた施策の見直しや充実を図る。

なお、調査にあたっては、市町教育委員会と県教育委員会が協力し、一体となって実施する。

### 2 調査の対象

#### (1) 調査対象

[児童生徒]

県内の公立小学校第5・6学年の児童全員、公立中学校第1・2・3学年の生徒全員を対象とする。県立中学校及び特別支援学校の小学部・中学部に在籍する児童生徒も対象とする。ただし、特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒の中で、対象教科に係る当該学年の学習指導要領に基づく目標・内容等の指導を受けていない児童生徒については対象としない。

[教職員]

上記の調査対象児童生徒のうち、平成23年度に小学校第4・5・6学年、中学校第1・2学年を担当した教職員。ただし、平成23年5月以降に採用された講師については対象としない。

#### (2) 調査対象学校

[児童生徒]

数及び調査対象人数	小学校	168校	第5学年	8,355人
			第6学年	8,428人
	中学校	95校	第1学年(県立学校を含む)	8,248人
			第2学年(県立学校を含む)	8,059人
			第3学年(県立学校を含む)	8,154人
	特別支援学校	6校	小学部第5学年	1人
			小学部第6学年	5人
			中学部第1学年	4人
			中学部第2学年	7人
			中学部第3学年	10人
			計	41,271人

[教職員]

小学校	第5学年(平成23年度 小学校第4学年担当)	458人
	第6学年(平成23年度 小学校第5学年担当)	474人
中学校	第1学年(平成23年度 小学校第6学年担当)	505人
	第2学年(平成23年度 中学校第1学年担当)	669人
	第3学年(平成23年度 中学校第2学年担当)	646人

## 3 調査の実施方法

## (1) 調査実施日及び実施教科

	平成24年4月16日(月)	平成24年4月17日(火)
小学校第5学年	社会・理科	国語・算数
小学校第6学年	社会	国語A・国語B・算数A・算数B・理科
中学校第1学年	社会・理科	国語・数学(算数)
中学校第2学年	社会・理科・英語	国語・数学
中学校第3学年	社会・英語	国語A・国語B・数学A・数学B・理科

※ 小学校第6学年、中学校第3学年の国語、算数・数学、理科は、平成24年度全国学力・学習状況調査の問題を使用し、全国学力・学習状況調査を活用した調査として実施。

※ 全国学力・学習状況調査(以下、全国調査)を活用した調査においても、佐賀県小・中学校学習状況調査と同様に、「修正エーベル法(橋本エーベル法)」に示されている手法を用いて到達基準(本章「7 到達基準の設定」参照)を設定する。

※ 学習や生活習慣等に関する児童生徒意識調査(以下、児童生徒意識調査)については別途時間を設けて実施。小学校第6学年、中学校第3学年は全国調査の質問紙調査を17日(火)に実施。

※ 学習指導等に関する教師意識調査(以下、教師意識調査)については平成23年度末に別途時間を設けて実施。

※ 中学校第1学年数学の調査問題については、小学校第6学年の学習範囲を中心に出題しているため、内容は算数となる。

## (2) 調査時間

## ア 教科に関する調査

小学校 各教科とも45分 各学校で時間を設定して実施。

中学校 各教科とも50分 各学校で時間を設定して実施。

※ 小学校第6学年、中学校第3学年については、全国調査のマニュアルに沿って実施。

## イ 児童生徒意識調査

小学校・中学校とも20～30分程度、各学校で時間を設定して実施

※ 小学校第6学年、中学校第3学年については、全国調査のマニュアルに沿って実施。

## ウ 教師意識調査

10～20分程度、各学校で随時実施

## 4 調査結果の処理

## (1) 採点・入力

教科に関する調査については、各学校において採点を行い、教育センター諸調査集計・分析システムを利用して、Web上から採点結果を入力する。教師意識調査・児童生徒意識調査についても、同様にその回答状況をWeb上から入力する。

## (2) 集計・分析

集計作業により教科ごとの設問別正答率、内容・領域別正答率、評価の観点別正答率を求め、本県において設定した到達基準(第7節を参照)との比較により、その実現状況を測る。また、意識調査の回答状況と正答率の相関に着目した分析を行う。その際、各学校における指導の状況を数値化するために学校スコア(※3参照)を算出して分析に用いる。

これらの集計結果を基に、各教科における傾向及び成果と課題を明らかにし、今後の指導に向けての提言を行う。なお、分析については、教育センターにおいて行う。

## 5 調査結果の返却方法

## (1) 集計・分析システムによる返却

調査対象となった各学校に対しては、諸調査集計・分析システムを介して、当該校の調査結果を返却するとともに、今後の指導改善に生かすことができる情報を提供する。調査結果個票は、各学校を通して、児童生徒に返却する。

## (2) 調査報告書による返却

調査結果から見られる県全体の傾向、各教科における成果と課題、これからの指導に向けての提言などをまとめた調査報告書を、佐賀県教育センターホームページから配信する。

(1) 教科に関する  
調査

## ア 実施教科

小学校第5・6学年は国語、社会、算数、理科の4教科

中学校第1学年は国語、社会、数学(算数)、理科の4教科

中学校第2・3学年は国語、社会、数学、理科、英語の5教科

※ 中学校第1学年数学の調査問題については、小学校第6学年の学習範囲を中心に出题しているため、内容は算数となる。

## イ 調査問題

県が独自に作成した問題によって構成する。

※ 小学校第6学年、中学校第3学年の国語、算数・数学、理科は、全国調査を活用した調査として実施。

## 「活用」に関する問題について

本県学習状況調査においては、全国調査の解説資料において示されている次の2つの出題範囲・内容のうち、〔主として「活用」〕に関わる問題作成の枠組みを基にして、各教科の「活用」に関する問題を作成している。

・〔主として「知識」〕…国語A、算数・数学A

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

・〔主として「活用」〕…国語B、算数・数学B

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容など

## ウ 出題範囲

前学年で学習した内容を中心に出题する。

※ 小学校第6学年、中学校第3学年の国語、算数・数学、理科は、全国調査の各教科解説資料に示してある。

(2) 児童生徒意識  
調査

## ア 意識調査の目的

本県児童生徒の学校生活・学習動機・学習活動やそれを取り巻く生活習慣・家族関係・地域における生活などについて広く調査し、その実態を把握する。学習に関わっては、更に詳細に各教科の学習に対する意識や学習に臨む態度の実態を把握する。また、それらが児童生徒の正答率(※1参照)とどのように関わっているのかということを明らかにする。

※ 小学校第6学年、中学校第3学年は全国調査の質問紙調査を実施。

## イ 調査方法

児童生徒を対象とした質問紙法による調査を行う。

## ウ 質問項目の構成

(ア) 学校生活

(イ) 学習動機

(ウ) 学習活動(教科全般)

(エ) 学習活動(各教科)

(オ) 家庭学習

(カ) 生活習慣等

質問項目とそれぞれの設問との関係は以下の表のとおりである。

質問項目	小学校 [全46問]	中学校 [全40問]
(ア) 学校生活	1・2・3・4	1・2・3・4
(イ) 学習動機	5・18(ア・イ・ウ・エ)・20 (ア・イ・ウ・エ)・35・36	5・18(ア・イ・ウ・エ・ オ)・20(ア・イ・ウ・エ・ オ)・38・39 ※18(オ)・20(オ)は中2のみ
(ウ) 学習活動 (教科全般)	15・16・17・37	15・16・17・40
(エ) 学習活動 (各教科)	国語	19ア・22・23・24・25
	社会	19イ・26・27・28
	算数 数学	19ウ・29・30・31
	理科	19エ・32・33・34
	英語	19オ・35・36・37 ※中2のみ
(オ) 家庭学習	6・7・8・9・10・11・ 12・13・14	6・7・8・9・10・11・ 12・13・14
(カ) 生活習慣等	21・38・39・40・41・42・ 43・44・45・46	21・41・42・43・44・45・ 46・47・48・49

## エ 質問の意図

### (ア) 学校生活

学校生活の楽しさ、好きな授業の有無などについて問うことにより、児童生徒の学校生活の実態を把握する。

### (イ) 学習動機

勉強に対する興味や有用性、将来の夢や目標の有無について問うことにより、学習動機の高さについての実態を把握する。

### (ウ) 学習活動(教科全般)

自分の考えを発表する機会や児童生徒の間で話し合う活動の頻度、自分の考えの表現に対する抵抗感について問うことにより、児童生徒の学習活動全般の実態について把握する。

### (エ) 学習活動(各教科)

各教科の内容の理解度についての自己評価、各教科の特性に応じた学習内容や学習方法についての児童生徒の興味・関心・意欲・態度について問うことにより、それぞれの教科についての学習活動の実態について把握する。

### (オ) 家庭学習

授業以外の勉強時間や勉強の内容、塾や家庭教師の有無など児童生徒の学習方法全般について問うことにより、児童生徒の家庭学習の実態について把握する。

### (カ) 生活習慣等

読書時間、テレビやゲームなどの時間、就寝時刻、朝食や家の手伝いの頻度、地域における行事などへの参加の頻度などについて問うことにより、児童生徒の家庭における生活習慣の実態について把握する。

## (3) 教師意識調査

## ア 教師意識調査の目的

本県教師の指導理念や指導法についての意識、日々の授業における指導の実際を把握することを目的とする。また、それらが児童生徒の正答率とどのように関わっているのかを明らかにすることを目的とする。

## イ 調査方法

調査対象学年を指導している教職員を対象とした質問紙法(教職員ポータルを介してWeb上から該当者が直接入力する方法)による調査を行う。

## ウ 質問項目の構成

カテゴリ	小学校	中学校
(ア) 家庭学習への関与状況	設問2～6	設問2～6
(イ) 学習環境の活用	設問7～10	設問7～10
(ウ) 教科等全般における指導法の工夫	設問11～19	設問11～19
(エ) 教科の特性に応じた指導法の工夫	設問20～29	設問20～31
(オ) 教師の指導観	設問30～33	設問32～35
(カ) 学校組織マネジメントに対する意識	設問34～36	設問36～38

## エ 質問の意図

## (ア) 家庭学習への関与状況

宿題を出している頻度並びに出している宿題の質(予習的宿題・復習的宿題)について問うことにより、宿題の出題状況を把握する。

## (イ) 学習環境の活用

授業におけるコンピュータや学校図書館の活用頻度とその活用内容を把握する。

## (ウ) 教科等全般における指導法の工夫

発展的な課題を取り入れた授業の実施状況、理解が十分でない児童生徒に対する授業外での対応状況、書いて表現する活動や話し合い活動を取り入れた授業の実施(教科の授業・総合的な学習の時間)、身に付けさせたい力を意識した総合的な学習の時間の指導、学習方法についての指導状況、学習形態の工夫、目標や評価規準を明確にした授業の実施について問うことにより、発展的学習・補充的指導・表現力の育成、総合的な学習の時間の指導、学習方法の指導、学習形態の工夫、目標を明確にした指導などの状況を把握する。

## (エ) 教科の特性に応じた指導法の工夫

国語における言語活動、読書指導、社会における調査学習を生かした発表・討論、算数・数学における算数(数学)的活動、問題解決的な学習、理科における見通しをもった観察や実験とそのまとめ、英語におけるコミュニケーション能力を高める指導や書く活動などについて問うことにより、各教科の特性に応じた指導法の工夫の状況を把握する。

## (オ) 教師の指導観

教師の指導行動を主に、課題達成の意識、集団維持の意識の2点から問うことにより、教師の指導観と正答率に及ぼす影響を分析する。

## (カ) 学校組織マネジメントに対する意識

教育活動方針の理解、方針や内容についての共通理解、職員間の雰囲気について問うことにより、学校組織マネジメントが児童生徒の正答率や児童生徒の学習に対する意識に及ぼす影響を把握する。

## (1) 調査結果の解釈に当たって

調査問題の作成に当たり、事前に設定した設問ごとの難易度に適合したものとなるよう、複数の委員が本県の児童生徒の実態を踏まえながら、指導に当たってきた経験に基づいて、問題内容を協議し、検討を重ねている。

問題の難易度は、調査した児童生徒のうち正答することが期待される者の人数の割合で示し、これを「期待正答率」と呼ぶ。本調査では、「期待正答率」として、各設問に「十分達成」「おおむね達成」という2つの基準値を設定している。

「おおむね達成」は、最低限これを上回る児童生徒が正答することが期待される人数の割合であり、下回っている場合は、学習内容の定着に課題があり、早急に改善の手立てが取られる必要があると考える。また、「十分達成」は、学習内容の定着が十分満足できると判断される基準であり、上回っている場合は、各地域・学校における取組の成果として評価できるものとする。

「期待正答率」を基にして算出した「到達基準」と調査結果の「正答率」を比較することにより、到達度を測ることができる。また、経年的な調査結果の比較により、定着に係る動向を知ることができる。各学校においては、調査結果に基づいて自校の取組を検証し、課題に応じた重点目標を設定し、解決に向けた指導改善を図っていくことが期待される。

## (2) 基準設定方法の選択

到達基準の設定に当たっては、1972年にエーベルが提唱した「エーベル法」に橋本重治が修正を加えて考案した「修正エーベル法(橋本エーベル法)」(※2参照)を基本的な考え方として採用する。採用の理由として、個々の小問の判断に基づく設定方法として理論的に優れている「エーベル法」をより簡略化して利用できるようにしたものであること、この方法は実際に「教研式標準学力検査CRT」などにも採用されていることなどが挙げられる。

## (3) 設定方法の概要

各小問(著書の中では「アイテム」と表現)を、関連性と困難度のマトリックスにおいて分類する。関連性は、「基礎的・基本的」(後への関連性が高い目標を測る問題)と「発展的・応用的」(比較的高度で、後の学習への関連性がそれほど高くない目標を測る問題)の2区分とし、困難度は「平易」「普通」「困難」の3区分とする。(表1のとおり)ただし、基礎・基本に分類される困難な目標は現実的ではないので、除外する。全ての小問は、表1中の(A)(B)(C)(D)(E)のいずれかに割り振られる。

表1 修正エーベル法におけるアイテム分類表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	(A)	(B)	—
発展的・応用的	(C)	(D)	(E)

また、それぞれの分類欄ごとの期待正答率は表2のように定められている。

表2 修正エーベル法における五つの分類ごとの期待正答率表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	0.85(85%) (A)	0.80(80%) (B)	—
	0.65(65%)	0.60(60%)	
発展的・応用的	0.75(75%) (C)	0.70(70%) (D)	0.65(65%) (E)
	0.55(55%)	0.50(50%)	0.45(45%)

(注) 上の数字は「十分達成」、下の数字は「おおむね達成」の場合を示している。

この表に基づいて、到達基準が算出される。

(4) 設定に当たっての具体的な手続き

- ① 調査問題を小問単位で、評価の観点別及び内容・領域別に分類する。
- ② 評価の観点別(もしくは内容・領域別)に分類された小問を表1に沿って、(A)～(E)に振り分ける。「知識・理解」「技能」「言語事項」などの観点についての小問の多くは「基礎的・基本的」に属するが、一部に「発展的・応用的」に属するものもあると考えられる。また、「思考」「資料の解釈・利用能力」「観察・実験の能力」「読解力」などの観点については、「発展的・応用的」に属する小問が多いと考えられるが、一部「基礎的・基本的」に属するものも含まれることが考えられる。
- ③ 分類が終わったら、評価の観点(もしくは内容・領域)ごとに分類表の各欄の小問数を確認する。
- ④ あらかじめ定められた期待正答率表(表2)の値を基にして、評価の観点(もしくは内容・領域)ごとに「十分達成」「おおむね達成」それぞれの到達基準を算出する。

表3 修正エーベル法による到達度基準の算出例

分類欄	小問数	十分達成		おおむね達成	
		期待正答率	小問数 ×期待正答率	期待正答率	小問数 ×期待正答率
(A)	4	0.85	3.40	0.65	2.60
(B)	3	0.80	2.40	0.60	1.80
(C)	2	0.75	1.50	0.55	1.10
(D)	2	0.70	1.40	0.50	1.00
(E)	1	0.65	0.65	0.45	0.45
合計	12	合計	9.35 (77.9%)	合計	6.95 (57.9%)

表3は、ある評価の観点(もしくは内容・領域)において(A)～(E)に分類される小問がそれぞれ4問・3問・2問・2問・1問であった場合の計算例である。それぞれの期待正答率と小問数の積の合計から導き出した得点を全小問数で割った数値(合計欄の下に示している%)がこの観点(もしくは内容・領域)の到達基準ということになる。

(5) 本調査で設定した期待正答率表

本調査では、前に述べた理論を参考に、小学校と中学校の学習内容の違いなどを考慮して、次の表4と表5のように期待正答率を設定した。

表4 小学校における期待正答率表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	0.85(85%) (A) 0.65(65%)	0.80(80%) (B) 0.60(60%)	—
発展的・応用的	0.75(75%) (C) 0.55(55%)	0.70(70%) (D) 0.50(50%)	0.65(65%) (E) 0.45(45%)

表5 中学校における期待正答率表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	0.75(75%) (A) 0.55(55%)	0.70(70%) (B) 0.50(50%)	—
発展的・応用的	0.65(65%) (C) 0.45(45%)	0.60(60%) (D) 0.40(40%)	0.55(55%) (E) 0.35(35%)

(1) 到達基準を設定することの効用

従前、佐賀県小・中学校学習状況調査においては、国立教育政策研究所が平成15年度までに実施した教育課程実施状況調査の調査問題を使用して、その全国平均正答率を一つの指標として用いてきた。

国が公表した全国平均正答率はあくまでも設問ごとのものであって、評価の観点別、内容・領域別については公表されていなかった。そのため、評価の観点別、内容・領域別については、県が便宜的に、国が公表した設問ごとの全国平均正答率を束ねて算出した。また、平成15年度以前に実施された調査の結果との比較という点において、調査実施年の隔たりは年々大きくなっており、その信頼性や客観性についても課題があった。

平成19年度には調査問題の6～7割を、平成20年度より調査問題の全てを県が独自に作成し、設問ごと、評価の観点別、内容・領域別に到達基準を設定した。

本調査では、県があらかじめ設定した到達基準との比較において、県としての成果と課題を明確にすることができるとともに、各学校においても、到達基準との関係において、自校の学習指導の成果と課題を把握することが可能となっている。

(2) 到達基準の「十分達成」と「おおむね達成」のラインについて

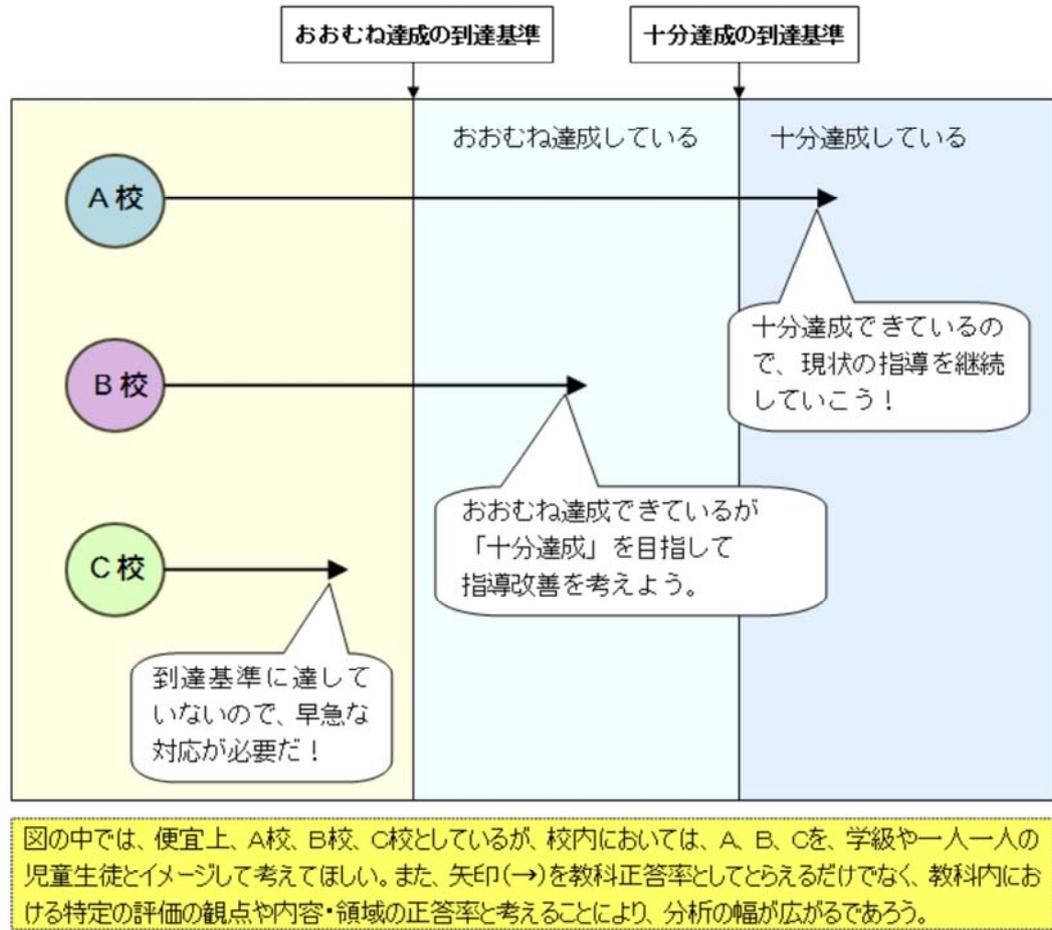
到達基準は、「おおむね達成」と「十分達成」の2つの分割点を設定することにより、各学校における到達の状況が明確となり、目標の設定が容易となった。

「おおむね達成」に到達していない教科や評価の観点、内容・領域については、緊急の課題であり、早急の対応が望まれる。必要に応じて年度内の補足的な指導などを施した上で、新年度につなげる必要があるであろう。

「おおむね達成」には到達しているが、「十分達成」には到達していない教科や評価の観点、内容・領域については、県が示す最低基準は達成していると考えられるが、更なる向上が望まれる。新年度の教育課程編成に関わって、指導改善に取り組むことが望ましい。

「十分達成」に到達している教科や評価の観点・内容・領域については、現状の指導が効果的に働いていることの表われであり、十分に成果が見られると考えられる。現状の指導を継続して差し支えないであろう。

## 到達状況についてイメージ図



以上のように、各学校、各学年、各教科の到達状況を把握し、今後の短期的、または長期的なビジョンの中で、児童生徒への対応や教師による指導改善が図られることを期待したい。

## (3) 今後の指導に向けて

到達基準との比較により、各学校において、教科、学年、学級などにおける指導の実現状況を把握することができれば、その強みを更に伸ばし、弱みを克服するために、個々の教師が指導改善に取り組むこととなる。

諸調査集計・分析システムから自校及び県全体の結果を集計したデータ及び分析ツールがダウンロードできるようになっている。また、県全体の成果と課題、及びこれからの指導に向けては調査報告書の第三章において教科ごとにまとめている。指導改善に向けての提言については、各学校の現状と照らし合わせながら、参考となる点を活用してほしい。

## 註

## ※1 正答率

正答率とは、学習の定着状況を示すために用いる、各設問における正答者数(準正答者数を含む)の解答者数に対する割合である。本報告書では、下記の方法で設問ごと正答率を算出している。

設問ごと正答率＝正答者数の合計÷(解答者数の合計－その他の数の合計)

県正答率	算出の方法
教科正答率	当該教科全ての設問を対象として、 各設問の正答数の合計÷(各設問の解答数の合計－各設問のその他の数の合計)
内容・領域別正答率	当該内容・領域に関わる設問を対象として、 各設問の正答数の合計÷(各設問の解答数の合計－各設問のその他の数の合計)
評価の観点別正答率	当該評価の観点に関わる設問を対象として、 各設問の正答数の合計÷(各設問の解答数の合計－各設問のその他の数の合計)

[→児童生徒意識調査へもどる](#)

## ※2 修正エーベル法

修正エーベル法(橋本エーベル法)の詳細については、下記の文献等を参考にいただきたい。

橋本 重治 『到達度評価の研究 その方法と技術』 1981年 図書文化社

橋本 重治 『続・到達度評価の研究 到達基準の設定の方法』 1983年 図書文化社

[→基準設定方法の選択へもどる](#)

## ※3 学校スコア

学校スコアとは、教師意識調査及び児童生徒意識調査の結果から、各学校における教師の指導や児童生徒の意識等に関する回答状況を数値化することを目的として、質問項目に対する回答選択肢ごとにポイントを付けて重み付けを行うことにより、独自に算出した値である。

(例) 宿題を出していますか。

- |                      |           |
|----------------------|-----------|
| 1 多くの時間で出している        | → 100ポイント |
| 2 どちらかといえば出している      | → 67ポイント  |
| 3 どちらかといえば出していない方が多い | → 33ポイント  |
| 4 全く出していない           | → 0ポイント   |

各学校の教師、又は児童生徒の回答状況を上記のようなポイントに換算して、その学校の平均値を求めたものを学校スコアとして、分析に用いている。

[→集計・分析へもどる](#)

最終更新日: 2012-10-15

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要 > 全体の概要

## II 調査結果の概要

### 教科ペーパーテスト及び児童生徒意識調査の概要

#### 1 教科ペーパーテスト 全体の概要

- 県で設定した「到達基準」に対して「おおむね達成」の基準を上回ったものは、26教科中23教科であり、本県児童生徒の学習内容の習得状況は概ね良好である。(全国調査問題のA、Bについては2教科として数えている。)
- このうち、「十分達成」の基準と同程度のもは小学6年国語A、基準を上回ったものは、中学2年国語、中学3年国語A、B、中学3年英語であり、これらの教科については、学習内容が十分習得されていた。
- 小学5年及び中学1年は、「十分達成」の基準を上回った教科はないが、全教科とも「おおむね達成」の基準を上回っている。中学2年は「十分達成」の基準を上回っている教科がある一方で、数学、社会が「おおむね達成」を下回るなど、教科間のばらつきが大きかった。
- 平成23年度と比べると、「十分達成」に対する割合が高くなったものは18教科中8教科、逆に、低くなったものは10教科であった。(小学6年国語、算数、中学3年国語、数学についてはA、B問題があり、単純に比較できないので除いている。)

教科	平成23年度の到達状況				教科	平成24年度の到達状況				経年比較
	県正答率(A)	到達基準		「十分達成」に対する割合(A/B)		県正答率(A)	到達基準		「十分達成」に対する割合(A/B)	
		十分達成(B)	おおむね達成				十分達成(B)	おおむね達成		
小5国語	69.0	80.4	60.4	0.86	小5国語	66.6	80.0	60.0	0.83	↘
小5社会	67.9	78.0	58.0	0.87	小5社会	73.3	78.2	58.2	0.94	↗
小5算数	70.2	79.7	59.7	0.88	小5算数	65.0	79.5	59.5	0.82	↘
小5理科	74.4	80.8	60.8	0.92	小5理科	64.1	79.4	59.4	0.81	↘
小6国語	64.2	※1 78.8	※1 58.8	0.81	小6国語A	※2 82.6	※3 82.6	※3 62.6	1.00	
					小6国語B	※2 52.6	※3 73.2	※3 53.2	0.72	
小6社会	68.2	77.7	57.7	0.88	小6社会	69.3	78.0	58.0	0.89	↗
小6算数	74.2	※1 79.4	※1 59.4	0.93	小6算数A	※2 73.5	※3 82.9	※3 62.9	0.89	
					小6算数B	※2 60.7	※3 71.9	※3 51.9	0.84	
小6理科	77.9	79.7	59.7	0.98	小6理科	63.7	※3 79.0	※3 59.0	0.81	↘
中1国語	75.7	80.2	60.2	0.94	中1国語	77.6	80.8	60.8	0.96	↗
中1社会	63.5	77.9	57.9	0.82	中1社会	61.6	78.8	58.8	0.78	↘
中1数学	63.4	78.3	58.3	0.81	中1数学	66.9	78.4	58.4	0.85	↗
中1理科	70.1	79.3	59.3	0.88	中1理科	66.1	79.3	59.3	0.83	↘
中2国語	64.5	69.2	49.2	0.93	中2国語	72.5	68.7	48.7	※4 1.05	↗
中2社会	48.4	69.0	49.0	0.70	中2社会	46.9	68.4	48.4	0.69	↘
中2数学	41.0	66.9	46.9	0.61	中2数学	43.7	69.5	49.5	0.63	↗
中2理科	51.5	68.3	48.3	0.75	中2理科	53.6	68.8	48.8	0.78	↗
中2英語	70.5	66.7	46.7	※4 1.06	中2英語	63.4	66.2	46.2	0.96	↘
中3国語	81.3	※1 69.5	※1 49.5	※4 1.17	中3国語A	※2 74.4	※3 72.3	※3 52.3	※4 1.03	
					中3国語B	※2 65.3	※3 62.2	※3 42.2	※4 1.05	
中3社会	50.5	67.0	47.0	0.75	中3社会	49.7	68.7	48.7	0.72	↘
中3数学	64.4	※1 69.3	※1 49.3	0.93	中3数学A	※2 61.4	※3 74.3	※3 54.3	0.83	
					中3数学B	※2 49.3	※3 65.0	※3 45.0	0.76	
中3理科	53.8	67.4	47.4	0.80	中3理科	50.1	※3 66.7	※3 46.7	0.75	↘
中3英語	56.3	65.6	45.6	0.86	中3英語	67.2	64.8	44.8	※4 1.04	↗

※1 H23年度調査の小6国語・算数、中3国語・数学については過去の全国調査問題を利用しているが、参考のために、県独自に到達基準を設定している。

※2 H24年度調査の小6国語・算数、中3国語・数学については、全国調査問題を利用しているため、A、Bに分けて正答率を出している。

※3 H24年度調査の小6国語・算数・理科、中3国語・数学・理科については、全国調査問題を利用しているが、参考のために、県独自に到達基準を設定している。

※4 網掛けについては「十分達成」に対する割合が1.0を上回っている教科を示している。

※到達基準は、十分達成/おおむね達成 のラインを示している → [到達基準の設定について](#)

県の各教科正答率の「十分達成」に対する割合をグラフに表すと次のようになる。「十分達成」を1.00としたときの、各教科正答率の比率を示している。「おおむね達成」の基準は各教科で若干異なる。

■各学年・教科正答率の「十分達成」に対する割合（十分達成＝1.00）



## 2 教科ペーパーテスト 教科ごとの概要

### ① 国語

- ・小・中学校ともに、相手の意図をつかみながら聞いたり、話の内容を的確に聞き分けたりするなど、話の内容を聞き取る力は昨年度までに引き続き、概ね良好であった。
- ・言語についての知識・理解・技能の定着も概ね良好であり、特に漢字の読みについての知識は良好であった。
- ・書く能力、読む能力については、学年によって定着にばらつきがあり、特に、相手や目的に応じて分かりやすく書いたり、条件に合わせて書いたりすること、文章の内容を捉えたり、文章の構成や展開、表現の特徴に気を付けながら読んだりすることには課題があった。

#### 《指導改善のポイント》

- 読み取った内容を、相手や目的、条件に合わせて書き換えるような指導の工夫
- 文章の内容だけでなく、表現の仕方にも注意して読むような指導の工夫

### ② 社会

- ・小学校においては、5、6年では資料から必要な情報を読み取ったり、それを基に説明したりする力や社会的事象を解釈する力など、全般的に概ね良好であったが、中学1年(小学6年の学習内容)において、課題があった。
- ・内容・領域別に見ると小学5年の「県の様子」、中学1年の「我が国の歴史」「我が国の政治の働き」に課題があった。
- ・中学校においては、2年で教科正答率が「おおむね達成」に到達していない状況にあり、特に2年では、「社会的な思考・判断」「社会事象についての知識・理解」の観点、3年では、「資料活用の技能・表現」の観点で「おおむね達成」に到達していない状況であった。

- ・中学校においては、相対的に地理的分野の内容の理解はできていたが、歴史的分野においては課題があった。

#### 《指導改善のポイント》

- 小学校においては、討論活動を行ったり、自分の考えをまとめたりする学習活動を行うなどして、児童の思考力・判断力・表現力を高めていくような指導の工夫
- 中学校においては、特に歴史分野の学習において、様々な資料を活用し、歴史的事象の意味や意義を理解させた上で、時代の特色を捉えさせるような学習活動の設定
- 小・中学校ともに、説明したり、論述したりする学習活動の設定とそれらの活動を適切に評価する方法の工夫

### ③ 算数・数学

- ・計算問題を解く技能や知識を問う問題は概ね良好であった。特に小学校における仮分数を帯分数で表したり、角の大きさを求めたりする技能や、中学校における数や文字を用いた式の計算、図形領域の知識は身に付いていた。
- ・問題の解き方や考え方などを言葉や式を使って説明する問題は正答率が低く、数学的な思考力・表現力については、昨年度に引き続き課題があった。

- ・ 中学校における、新学習指導要領への移行に伴い新しく追加された学習内容の定着についても昨年度に引き続き課題があった。

#### 《指導改善のポイント》

- 小集団活動などを通して、解決したことを図や式などを使って説明させるとともに、その説明が十分なものであるか、解決の手順としてふさわしいものであるかを検討させるような学習活動の設定
- 成り立つ理由や問題解決の方法について、自分の考えをまとめたり、互いに分かりやすく伝え合ったりする学習活動を通して、自分の考えを広げたり、深めたりするような指導の工夫

#### ④ 理科

- ・ 小学校、中学校ともに「科学的な思考力・表現力」は概ね良好であった。特に、中学校では、平成23年度と比べても向上する傾向が見られた。しかしながら、小学校では、「科学的な思考力・表現力」の中で、学習内容を日常生活にあてはめて考える力を問う問題には課題が見られた。
- ・ 中学2年の「大地の成り立ちと変化」の学習内容については、前年度と比べて改善が見られた。
- ・ 小学校・中学校ともに観察・実験の基礎的・基本的な技能の定着が不十分であり、中学校においては、目的に応じて条件を整えながら観察・実験を構想する力の定着に課題があった。

#### 《指導改善のポイント》

- 知識・技能の習得させる活動と、それらを活用させる活動のバランスがとれた指導の工夫
- 問題解決学習(中学校では探究活動)をなお一層充実させていくような指導の工夫

#### ⑤ 英語

- ・ 英語で話された内容から、時間、場所、用件などの具体的な情報を正確に聞き取る力は良好であった。
- ・ 中学3年においては、英語でまとめた内容の文章を書くことのできる力が身に付いている生徒が増え、前年度と比べて改善が見られた。
- ・ 「What」などの疑問詞を含む質問に対して、自分の考えや気持ちを英語で書くことには課題があった。

#### 《指導改善のポイント》

- 生徒同士のコミュニケーション活動やスピーチ活動を行うときに、書くことを取り入れた指導の工夫
- 生徒が英語を聞いたり読んだりするときに、考えたり判断したりする場面をつくる指導の工夫

### 3 児童生徒意識調査の経年比較及び学年間比較

※意識調査は県調査の児童生徒意識調査 小学:46問、中学:49問の回答を分析したもの。

※経年変化を把握するため、一部において全国調査の児童生徒質問紙調査と同一の設定をしている。

※平均正答率は、全教科の平均正答率を示す。

#### (1) 授業への関心・理解度

学校での学習については、「国語の勉強は好きだ」「算数(数学)の勉強は好きだ」「理科の勉強は好きだ」の質問に対して「当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、中学2年国語、中学3年数学以外では全て増加している。「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた児童生徒の割合では、中学2年国語、中学1年数学、中学3年数学、中学3年理科以外では全て増加している。

しかし、「国語の授業の内容はよく分かる」「算数(数学)の授業の内容はよく分かる」「理科の授業の内容はよく分かる」の質問に対して「当てはまる」と回答している児童生徒の割合はいずれの教科においても、小学6年、中学3年で減少しており、中学2年国語でも減少している。

「普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う」の質問については、中学3年以外の全ての学年で、「普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う」の質問については、小学6年と中学3年以外の全ての学年で、「当てはまる」と回答している児童生徒の割合が増加している。また、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」の質問については、全ての学年で「当てはまる」と回答している児童生徒の割合が減少している。

#### (2) 家庭での学習

家庭での勉強時間は、月～金曜日については大きな変化は見られないが、1時間以上取り組んでいる児童生徒の割合を見ると、中学2年以外では、わずかに増加している。学校が休みの日の勉強時間についても大きな変化は見られないが、2時間以上取り組んでいる児童生徒の割合を見ると、中学2年以外では、わずかに増加している。

家庭学習の取組については、「自分で計画を立てて勉強している」「学校の授業の復習をしている」の質問に対して、小学6年、中学3年以外の全ての学年で「している」と回答した児童生徒の割合が増加しており、「学校の宿題をしている」の質問に対しては、中学3年以外の全ての学年で「している」と回答した児童生徒の割合が増加している。「どちらかといえばそうしている」を合わせた児童生徒の割合についても同様の結果である。

全国調査の質問紙調査には質問がないので、小学6年、中学3年については把握できないが、「苦手な教科の勉強をしている」「テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している」の質問についても、小学5年、中学1年、中学2年ではほぼ同様の結果となっている。

### (3) 学校生活、家庭生活、児童生徒の意識

学校生活については、「学校での生活は楽しい」の質問に対して、小学5年と中学1年で、「学校では落ち着いて勉強することができている」の質問に対して、小学5年、中学1、2年で「そう思う」と回答した児童生徒の割合が増加している。（県調査のみの質問であるため、小学6年、中学3年の結果はない）

家庭生活については、1日あたりのテレビやビデオ・DVDを視聴する時間が2時間以上の児童生徒の割合が、小学6年を除くと減少している。また、2時間以上テレビゲームをする児童生徒の割合には大きな変化は見られないが、小学5年で若干増加しており、中学3年では減少している。

「朝食を毎日食べている」の質問については「している」と回答した児童生徒の割合が中学1年を除く全ての学年で増加している。また、「学校図書館・学校図書室や地域の図書館へ行く頻度」についても、中学3年を除くと、「週に1～3回程度」以上行くと回答した児童生徒の割合が増加している。

生徒の意識については、「将来の夢や目標をもっている」の質問に「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、中学2年で同数である以外は、全ての学年で増加している。

## 4 教科ペーパーテストと児童生徒意識調査の関連

### 教科ペーパーテストと児童生徒意識調査の関連分析

（ここでいう平均正答率は、各学年の全教科平均正答率を示す。）

・授業への関心・理解度については、「〇〇の勉強が好き」「〇〇の授業の内容はよく分かる」の質問に対して肯定的な回答をした児童生徒ほど平均正答率は高くなっている。また、「普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う。」の質問に対して肯定的な回答をした児童生徒ほど平均正答率は高くなっている。

・家庭での学習については、「学校の授業の復習をしている」の質問に対して肯定的な回答をした児童生徒ほど平均正答率は高くなっている。

・「学校の宿題をしている」「苦手な教科の勉強をしている」「テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している」の質問についても概ね同様の結果が見られた。特に「苦手な教科の勉強をしている」「テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している」の質問については、中学校において「している」と回答した生徒と「全くしていない」と回答した生徒の差が大きくなっている。

・学校生活、家庭生活、児童生徒の意識については、「学校生活が楽しい」「学校では落ち着いて勉強することができている」の質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒ほど平均正答率が高くなっている。また、「1日あたりテレビやビデオ・DVDを視聴する時間」と平均正答率には明確な関連は見られないが、「1日あたりテレビゲームをする時間」と平均正答率との関連では、テレビゲームをする時間が長い児童生徒ほど、平均正答率が低くなっている。

・家庭での学習については、学習時間は若干の増加が見られた。「学校の授業の復習をしている」「学校の宿題をしている」などの回答が全体的に増えるなど、家庭学習への意識や姿勢には改善が見られた。家庭生活については、テレビやビデオ・DVDの視聴時間は全体的に減っている一方で、テレビゲームをする時間は全体的にわずかに増えているなど、改善が図られている点と課題が見られる点があった。

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像(小学校第5学年) → [小学校第6学年](#) [中学校第1学年](#)  
[中学校第2学年](#) [中学校第3学年](#)

## 児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像 (小学校第5学年)

### 学校生活

数値は、小数第1位で四捨五入している。

(「思う」「どちらかといえば、思う」を合わせた割合)

■学校での生活は楽しい……………91%	■学校では落ち着いて勉強できている……………88%
■友だちに会うのは楽しい……………97%	■好きな授業がある……………97%

### 学習動機

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

■将来の夢や目標を持っている……………91%
■各教科の勉強は好きですか
・国語……………65%
・社会……………58%
・算数……………68%
・理科……………83%
・総合的な学習の時間……………81%
■各教科の学習は、社会に出たときに役に立つ
・国語……………90%
・社会……………89%
・算数……………92%
・理科……………83%
・総合的な学習の時間……………82%

### 家庭学習

■学校の授業以外に勉強をする時間 (月から金曜日)
2時間以上、3時間より少ない……………15%
1時間以上、2時間より少ない……………33%
1時間より少ない……………40%
全くしない……………4%
■学校の授業以外に勉強をする時間 (土・日曜日)
2時間以上、3時間より少ない……………13%
1時間以上、2時間より少ない……………30%
1時間より少ない……………37%
全くしない……………11%
■学習塾で勉強をしていますか(家庭教師を含む)
学習塾に通っていない……………57%
学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している……………16%
学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している……………12%
(「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)
■自分で計画を立てて勉強している……………63%
■学校の宿題をしている……………96%
■学校の授業の予習をしている……………51%
■学校の授業の復習をしている……………56%
■苦手な教科の勉強をしている……………58%
■テストで間違えた問題について勉強をしている……………61%



### 学習活動

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

■普通の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う……………75%
■普通の授業で、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていると思う……………80%

(「難しい」「どちらかといえば、難しい」を合わせた割合)

■学校の授業などで、自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しい……………65%
--

### 生活習慣等

■読書は好きだ……………84%	(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)
■家や図書館で、ふだん1日あたりどれくらい読書しますか	
30分以上、1時間より少ない……………25%	10分以上、30分より少ない……………27%
10分より少ない……………14%	全くしない……………11%
■昼休みや放課後、学校が休みの日に学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか	
週に1～3回……………23%	月に1～3回……………23%
年に数回程度……………21%	ほとんど行かない……………22%
■朝食を毎日食べている……………94%	(「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)
■ふだん(月～金曜日)、何時頃に寝ますか	
午後9時以降、10時より前……………48%	午後10時以降、11時より前……………28%
	午後11時以降、午前0時より前……………8%
■ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか	
3時間以上……………34%	2時間以上、3時間より少ない……………23%
1時間以上、2時間より少ない……………25%	1時間より少ない……………15%
■ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビゲームをしますか	
2時間以上……………25%	1時間以上、2時間より少ない……………22%
1時間より少ない……………32%	全くしない……………22%
■家の手伝いをしていますか	
よくしている……………46%	ときどきしている……………42%
	あまりしていない……………10%
(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)	
■新聞やテレビのニュースなどに関心がある……………63%	
■今住んでいる地域の行事に参加している……………75%	

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅱ 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像(小学校第6学年) → [小学校第5学年](#) [中学校第1学年](#)  
[中学校第2学年](#) [中学校第3学年](#)

## 児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像 (小学校第6学年)

**学校生活** 数値は、小数第1位で四捨五入している。

(「思う」「どちらかといえば、思う」を合わせた割合)

- 友だちに会うのは楽しい……………95%

**学習動機**

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 将来の夢や目標をもっている……………85%
- 各教科の勉強は好きですか
  - ・ 国語……………62%
  - ・ 算数……………65%
  - ・ 理科……………82%
- 各教科の学習は、社会に出たときに役に立つ
  - ・ 国語……………89%
  - ・ 算数……………90%
  - ・ 理科……………71%
  - ・ 総合的な学習の時間……………87%

**家庭学習**

- 学校の授業以外に勉強をする時間 (月から金曜日)
  - 2時間以上、3時間より少ない……………14%
  - 1時間以上、2時間より少ない……………36%
  - 1時間より少ない……………39%
  - 全くしない……………4%
- 学校の授業以外に勉強をする時間 (土・日曜日)
  - 2時間以上、3時間より少ない……………13%
  - 1時間以上、2時間より少ない……………33%
  - 1時間より少ない……………34%
  - 全くしない……………10%
- 学習塾で勉強をしていますか(家庭教師を含む)
  - 学習塾に通っていない……………59%
  - 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している……………16%
  - 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している……………8%

(「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)

- 自分で計画を立てて勉強している……………57%
- 学校の宿題をしている……………97%
- 学校の授業の予習をしている……………37%
- 学校の授業の復習をしている……………48%

**学習活動**

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 普通の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う……………78%
- 普通の授業で、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていると思う……………78%

(「難しい」「どちらかといえば、難しい」を合わせた割合)

- 学校の授業などで、自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しい……………65%



**生活習慣等**

■ 読書は好きだ……………76% (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

■ 家や図書館で、ふだん1日あたりどれくらい読書しますか

30分以上、1時間より少ない……………21%	10分以上、30分より少ない……………28%
10分より少ない……………17%	全くしない……………18%

■ 昼休みや放課後、学校が休みの日に学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか

週に1～3回……………25%	月に1～3回……………22%	年に数回程度……………20%	ほとんど行かない……………23%
----------------	----------------	----------------	------------------

■ 朝食を毎日食べている……………96% (「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)

■ 普段(月～金曜日)、何時頃に寝ますか

午後9時以降、10時より前……………41%	午後10時以降、11時より前……………41%	午後11時以降、午前0時より前……………11%
-----------------------	------------------------	-------------------------

■ 普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか

3時間以上……………40%	2時間以上、3時間より少ない……………25%
1時間以上、2時間より少ない……………23%	1時間より少ない……………11%

■ 普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビゲームをしますか

2時間以上……………21%	1時間以上、2時間より少ない……………21%
1時間より少ない……………34%	全くしない……………24%

■ 家の手伝いをしていますか

よくしている……………35%	ときどきしている……………47%	あまりしていない……………15%
----------------	------------------	------------------

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 新聞やテレビのニュースなどに関心がある……………61%
- 今住んでいる地域の行事に参加している……………76%

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像(中学校第1学年) → [小学校第5学年](#) [小学校第6学年](#)  
[中学校第2学年](#) [中学校第3学年](#)

## 児童生徒意識調査からみた佐賀県の子ども像 (中学校第1学年)

### 学校生活

数値は、小数第1位で四捨五入している。

(「思う」「どちらかといえば、思う」を合わせた割合)

- 学校での生活は楽しい……………95%
- 友だちに会うのは楽しい……………99%
- 学校では落ち着いて勉強できている……………94%
- 好きな授業がある……………93%

### 学習動機

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 将来の夢や目標をもっている……………87%
- 各教科の勉強は好きですか
  - ・ 国語……………62%
  - ・ 社会……………63%
  - ・ 数学……………61%
  - ・ 理科……………76%
  - ・ 総合的な学習の時間……………85%
- 各教科の学習は、社会に出たときに役に立つ
  - ・ 国語……………96%
  - ・ 社会……………89%
  - ・ 数学……………96%
  - ・ 理科……………81%
  - ・ 総合的な学習の時間……………86%

### 家庭学習

#### ■ 学校の授業以外に勉強をする時間 (月から金曜日)

- 2時間以上、3時間より少ない……………18%
- 1時間以上、2時間より少ない……………33%
- 1時間より少ない……………39%
- 全くしない……………4%

#### ■ 学校の授業以外に勉強をする時間 (土・日曜日)

- 2時間以上、3時間より少ない……………14%
- 1時間以上、2時間より少ない……………31%
- 1時間より少ない……………36%
- 全くしない……………10%

#### ■ 学習塾で勉強をしていますか(家庭教師も含む)

- 学習塾で勉強していない……………57%
- 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している……………17%
- 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している……………8%

(「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)

- 自分で計画を立てて勉強している……………66%
- 学校の宿題をしている……………96%
- 学校の授業の予習をしている……………54%
- 学校の授業の復習をしている……………63%
- 苦手な教科の勉強をしている……………61%
- テストで間違えた問題について勉強をしている……………62%



### 学習活動

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 普通の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う……………83%
- 普通の授業で、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う……………83%

(「難しい」「どちらかといえば、難しい」を合わせた割合)

- 学校の授業などで、自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しい……………72%

### 生活習慣等

- 読書は好きだ……………77% (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

#### ■ 家や図書館で、ふだん1日あたりどれくらい読書しますか

- 30分以上、1時間より少ない……………23%
- 10分以上、30分より少ない……………26%
- 10分より少ない……………15%
- 全くしない……………19%

#### ■ 昼休みや放課後、学校が休みの日に学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか

- 週に1～3回……………19%
- 月に1～3回……………24%
- 年に数回程度……………23%
- ほとんど行かない……………29%

#### ■ 朝食を毎日食べている……………95% (「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)

#### ■ ふだん(月～金曜日)、何時頃に寝ますか

- 午後10時以降、11時より前……………46%
- 午後11時以降、午前0時より前……………19%
- 午前0時以降……………6%

#### ■ ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか

- 3時間以上……………35%
- 2時間以上、3時間より少ない……………27%
- 1時間以上、2時間より少ない……………24%
- 1時間より少ない……………13%

#### ■ ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビゲームをしますか

- 2時間以上……………20%
- 1時間以上、2時間より少ない……………22%
- 1時間より少ない……………34%
- 全くしない……………24%

#### ■ 家の手伝いをしていますか

- よくしている……………41%
- ときどぎしている……………44%
- あまりしていない……………12%

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 新聞やテレビのニュースなどに関心がある……………69%
- 今住んでいる地域の行事に参加している……………75%

最終更新日: 2012-10-15

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像(中学校第2学年) → [小学校第5学年](#) [小学校第6学年](#)  
[中学校第1学年](#) [中学校第3学年](#)

## 児童生徒意識調査からみた佐賀県の子ども像 (中学校第2学年)

### 学校生活

数値は、小教第1位で四捨五入している。

(「「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合)

- 学校での生活は楽しい……………91%
- 学校では落ち着いて勉強できている……………88%
- 友だちに会うのは楽しい……………98%
- 好きな授業がある……………90%

### 学習動機

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 将来の夢や目標をもっている……………74%
- 各教科の勉強は好きですか
  - ・ 国語……………64%
  - ・ 社会……………59%
  - ・ 数学……………56%
  - ・ 理科……………66%
  - ・ 英語……………64%
  - ・ 総合的な学習の時間……………79%
- 各教科の学習は、社会に出たときに役に立つ
  - ・ 国語……………94%
  - ・ 社会……………73%
  - ・ 数学……………88%
  - ・ 理科……………62%
  - ・ 英語……………87%
  - ・ 総合的な学習の時間……………78%

### 家庭学習

#### ■ 学校の授業以外に勉強をする時間 (月から金曜日)

- 2時間以上、3時間より少ない……………19%
- 1時間以上、2時間より少ない……………35%
- 1時間より少ない……………35%
- 全くしない……………4%

#### ■ 学校の授業以外に勉強をする時間 (土・日曜日)

- 2時間以上、3時間より少ない……………20%
- 1時間以上、2時間より少ない……………33%
- 1時間より少ない……………28%
- 全くしない……………9%

#### ■ 学習塾で勉強をしていますか(家庭教師も含む)

- 学習塾で勉強していない……………53%
- 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している……………14%
- 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している……………12%

(「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)

- 自分で計画を立てて勉強している……………52%
- 学校の宿題をしている……………92%
- 学校の授業の予習をしている……………39%
- 学校の授業の復習をしている……………57%
- 苦手な教科の勉強をしている……………55%
- テストで間違えた問題について勉強をしている……………59%



### 学習活動

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 普通の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う……………79%
- 普通の授業で、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う……………75%

(「難しい」「どちらかといえば、難しい」を合わせた割合)

- 学校の授業などで、自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しい……………77%

### 生活習慣等

- 読書は好きだ……………76% (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

#### ■ 家や図書館で、ふだん1日あたりどれくらい読書しますか

- 30分以上、1時間より少ない……………20%
- 10分より少ない……………14%
- 10分以上、30分より少ない……………23%
- 全くしない……………27%

#### ■ 昼休みや放課後、学校が休みの日に学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか

- 週に1～3回……………15%
- 月に1～3回……………19%
- 年に数回程度……………23%
- ほとんど行かない……………38%

- 朝食を毎日食べている……………93% (「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)

#### ■ 普段(月～金曜日)、何時頃に寝ますか

- 午後10時以降、11時より前……………38%
- 午後11時以降、午前0時より前……………35%
- 午前0時以降……………14%

#### ■ 普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか

- 3時間以上……………34%
- 1時間以上、2時間より少ない……………25%
- 2時間以上、3時間より少ない……………28%
- 1時間より少ない……………11%

#### ■ 普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビゲームをしますか

- 2時間以上……………22%
- 1時間より少ない……………30%
- 1時間以上、2時間より少ない……………20%
- 全くしない……………27%

#### ■ 家の手伝いをしていますか

- よくしている……………29%
- ときどきしている……………48%
- あまりしていない……………18%

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

- 新聞やテレビのニュースなどに関心がある……………85%
- 今住んでいる地域の行事に参加している……………60%

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像(中学校第3学年) → [小学校第5学年](#) [小学校第6学年](#)  
[中学校第1学年](#) [中学校第2学年](#)

## 児童生徒意識調査からみた佐賀県の子ども像 (中学校第3学年)

### 学校生活

数値は、小数第1位で四捨五入している。

(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせた割合)

■ 友だちに会うのは楽しい……………95%

### 学習動機

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

■ 将来の夢や目標をもっている……………73%

■ 各教科の勉強は好きですか

- ・ 国語……………61%
- ・ 数学……………55%
- ・ 理科……………61%

■ 各教科の学習は、社会に出たときに役に立つ

- ・ 国語……………86%
- ・ 数学……………76%
- ・ 理科……………52%
- ・ 総合的な学習の時間……………80%

### 家庭学習

■ 学校の授業以外に勉強をする時間  
(月から金曜日)

- 2時間以上、3時間より少ない……………22%
- 1時間以上、2時間より少ない……………34%
- 1時間より少ない……………31%
- 全くしない……………6%

■ 学校の授業以外に勉強をする時間  
(土・日曜日)

- 2時間以上、3時間より少ない……………23%
- 1時間以上、2時間より少ない……………32%
- 1時間より少ない……………24%
- 全くしない……………11%

■ 学習塾で勉強をしていますか(家庭教師も含む)

- 学習塾で勉強していない……………45%
- 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している……………12%
- 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している……………12%

(「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)

- 自分で計画を立てて勉強している……………42%
- 学校の宿題をしている……………80%
- 学校の授業の予習をしている……………29%
- 学校の授業の復習をしている……………50%



### 学習活動

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

■ 普段の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う……………76%

■ 普段の授業で、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていると思う……………65%

(「難しい」「どちらかといえば、難しい」を合わせた割合)

■ 学校の授業などで、自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しい……………76%

### 生活習慣等

■ 読書は好きだ……………71% (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

■ 家や図書館で、ふだん1日あたりどれくらい読書しますか

- 30分以上、1時間より少ない……………16%
- 10分以上、30分より少ない……………23%
- 10分より少ない……………13%
- 全くしない……………34%

■ 昼休みや放課後、学校が休みの日に学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか

- 週に1～3回……………13%
- 月に1～3回……………16%
- 年に数回程度……………21%
- ほとんど行かない……………46%

■ 朝食を毎日食べている……………95% (「している」「どちらかといえば、している」を合わせた割合)

■ 普段(月～金曜日)、何時頃に寝ますか

- 午後10時以降、11時より前……………30%
- 午後11時以降、午前0時より前……………43%
- 午前0時以降……………22%

■ 普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか

- 3時間以上……………33%
- 2時間以上、3時間より少ない……………28%
- 1時間以上、2時間より少ない……………26%
- 1時間より少ない……………11%

■ 普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビゲームをしますか

- 2時間以上……………18%
- 1時間以上、2時間より少ない……………18%
- 1時間より少ない……………30%
- 全くしない……………34%

■ 家の手伝いをしていますか

- よくしている……………22%
- ときどきしている……………44%
- あまりしていない……………25%

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合)

■ 新聞やテレビのニュースなどに関心がある……………64%

■ 今住んでいる地域の行事に参加している……………44%

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅱ 調査結果の概要

## 児童生徒意識調査から見た佐賀県の子ども像

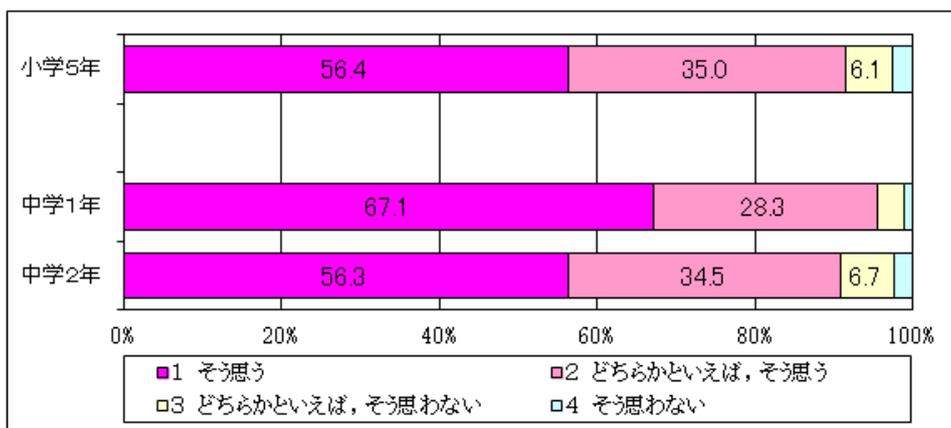
※数値は小数第二位で四捨五入している。

※グラフにおいては、5.0%未満の値については表示していない。

### 1 学校生活

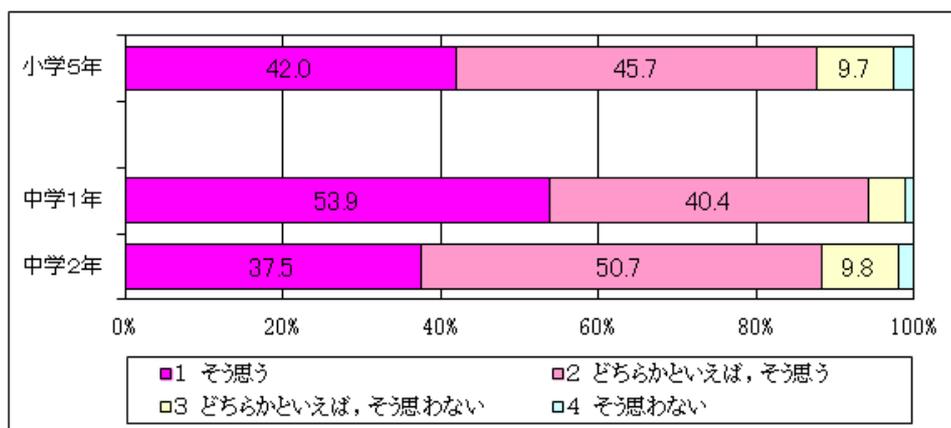
県:(1) 学校での生活は楽しい。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 そう思う	56.4	67.1	56.3
2 どちらかといえば、そう思う	35.0	28.3	34.5
3 どちらかといえば、そう思わない	6.1	3.4	6.7
4 そう思わない	2.6	1.2	2.5



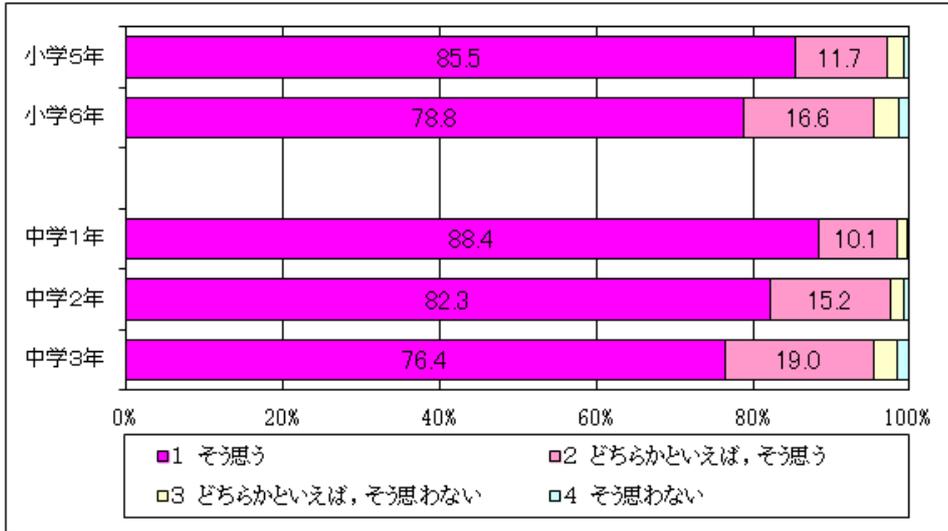
県:(2) 学校では落ち着いて勉強することができている。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 そう思う	42.0	53.9	37.5
2 どちらかといえば、そう思う	45.7	40.4	50.7
3 どちらかといえば、そう思わない	9.7	4.6	9.8
4 そう思わない	2.6	1.1	2.0



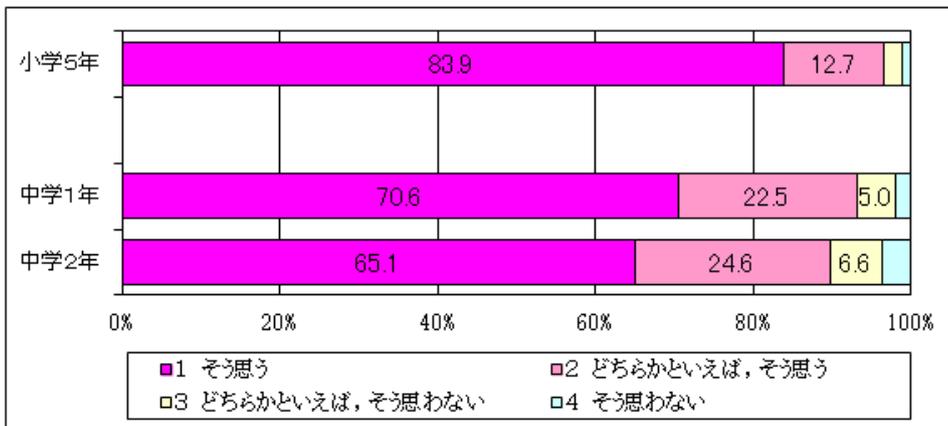
県:(3)  
 全国:(27) 友達に会うのは楽しい。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 そう思う	85.5	78.8		88.4	82.3	76.4
2 どちらかといえば、そう思う	11.7	16.6		10.1	15.2	19.0
3 どちらかといえば、そう思わない	2.0	3.1		1.1	1.7	3.0
4 そう思わない	0.8	1.5		0.4	0.8	1.6



県:(4) 好きな授業がある。

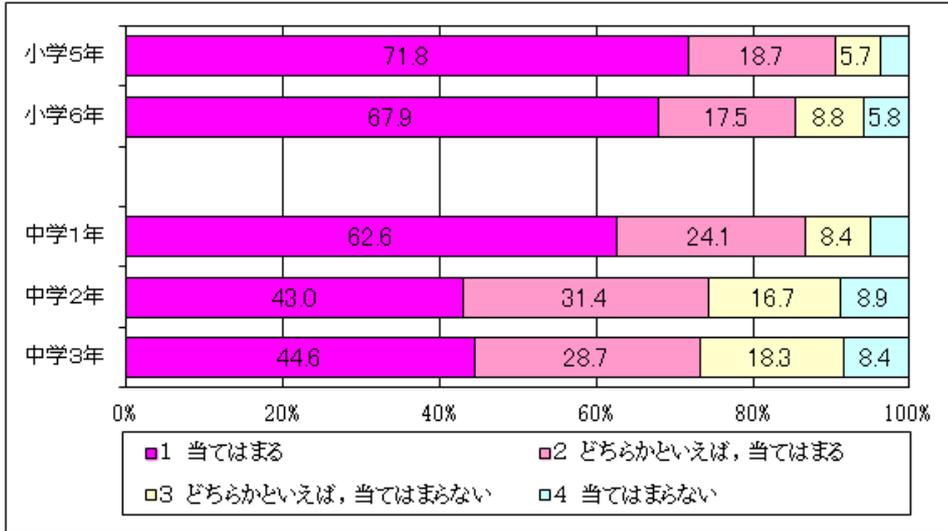
	小学5年		中学1年	中学2年
1 そう思う	83.9		70.6	65.1
2 どちらかといえば、そう思う	12.7		22.5	24.6
3 どちらかといえば、そう思わない	2.3		5.0	6.6
4 そう思わない	1.1		1.9	3.7



2 学習動機

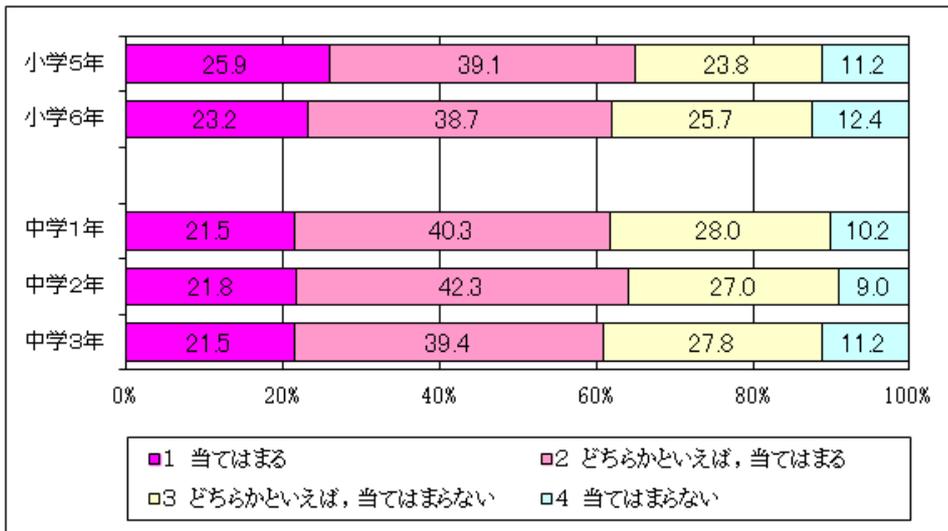
県:(5) 将来の夢や目標を持っている。  
 全国:(6)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	71.8	67.9		62.6	43.0	44.6
2 どちらかといえば、当てはまる	18.7	17.5		24.1	31.4	28.7
3 どちらかといえば、当てはまらない	5.7	8.8		8.4	16.7	18.3
4 当てはまらない	3.7	5.8		4.9	8.9	8.4



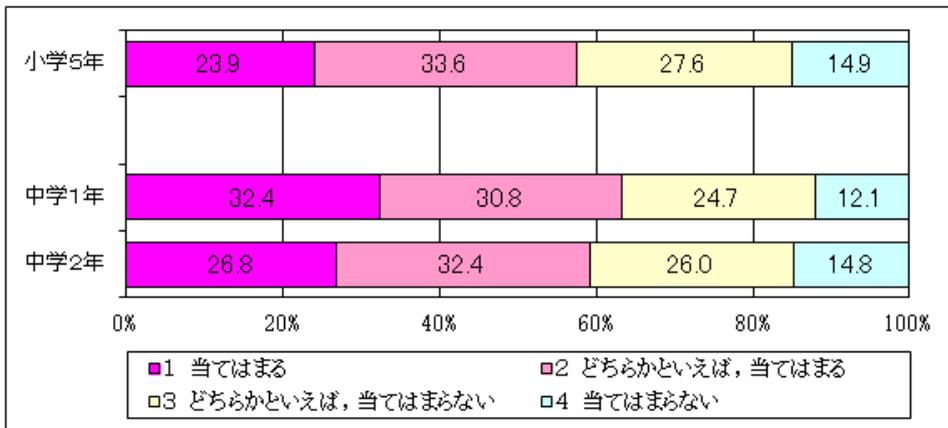
県:(18)ア 国語の勉強は好きだ。  
 全国:(45)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	25.9	23.2		21.5	21.8	21.5
2 どちらかといえば、当てはまる	39.1	38.7		40.3	42.3	39.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	23.8	25.7		28.0	27.0	27.8
4 当てはまらない	11.2	12.4		10.2	9.0	11.2



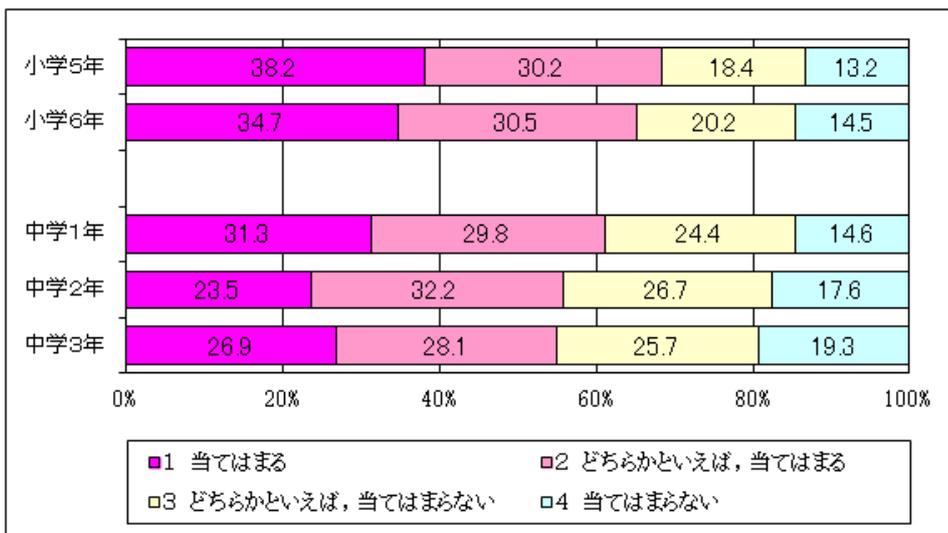
県:(18)イ 社会の勉強は好きだ。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	23.9	32.4	26.8
2 どちらかといえば、当てはまる	33.6	30.8	32.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	27.6	24.7	26.0
4 当てはまらない	14.9	12.1	14.8



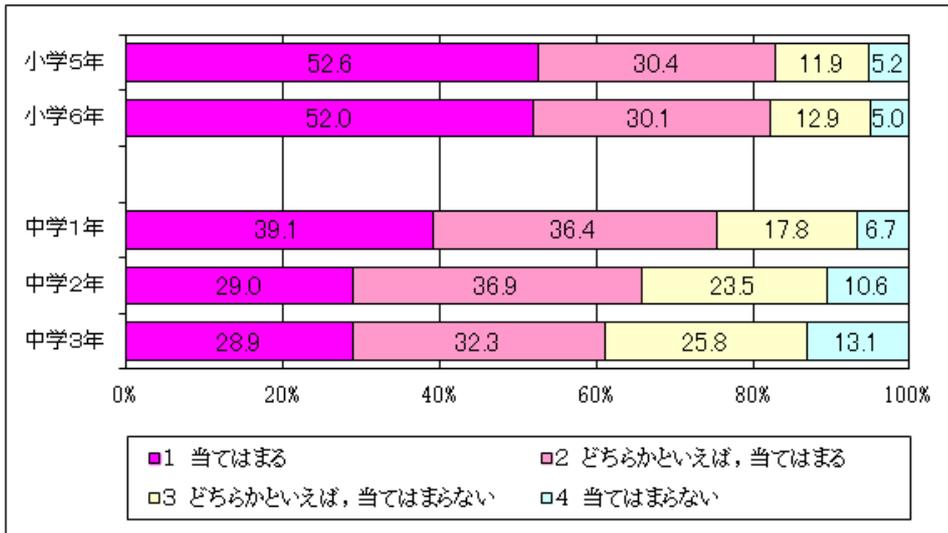
県:(18)ウ 算数・数学の勉強は好きだ。  
 全国:(56)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	38.2	34.7	31.3	23.5	26.9
2 どちらかといえば、当てはまる	30.2	30.5	29.8	32.2	28.1
3 どちらかといえば、当てはまらない	18.4	20.2	24.4	26.7	25.7
4 当てはまらない	13.2	14.5	14.6	17.6	19.3



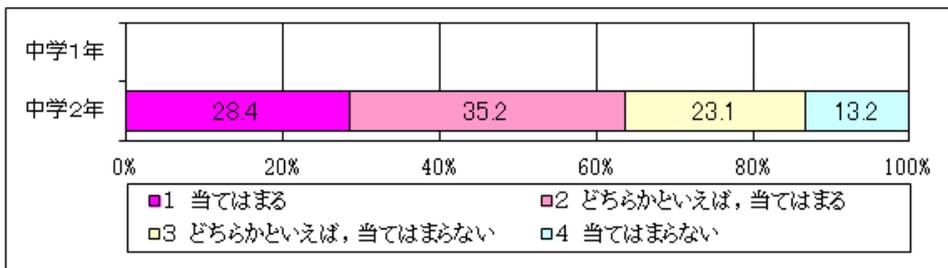
県:(18)工 理科の勉強は好きだ。  
 全国:(67)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	52.6	52.0		39.1	29.0	28.9
2 どちらかといえば、当てはまる	30.4	30.1		36.4	36.9	32.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	11.9	12.9		17.8	23.5	25.8
4 当てはまらない	5.2	5.0		6.7	10.6	13.1



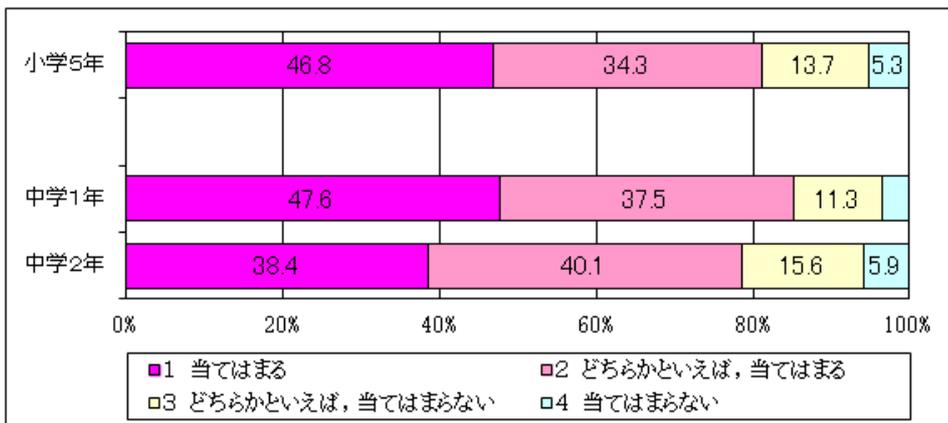
県:(18)オ 英語の勉強は好きだ。※ 2年生だけ教えてください。あとの質問も同じです。

	小学5年		中学1年	中学2年
1 当てはまる				28.4
2 どちらかといえば、当てはまる				35.2
3 どちらかといえば、当てはまらない				23.1
4 当てはまらない				13.2



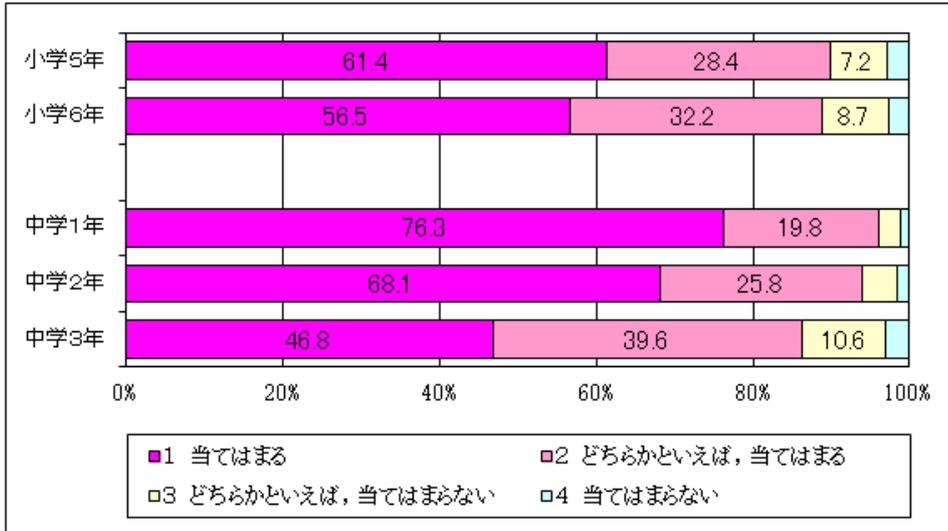
県:小(35) 「総合的な学習の時間」の勉強は好きだ。  
 県:中(38)

	小学5年		中学1年	中学2年
1 当てはまる	46.8		47.6	38.4
2 どちらかといえば、当てはまる	34.3		37.5	40.1
3 どちらかといえば、当てはまらない	13.7		11.3	15.6
4 当てはまらない	5.3		3.6	5.9



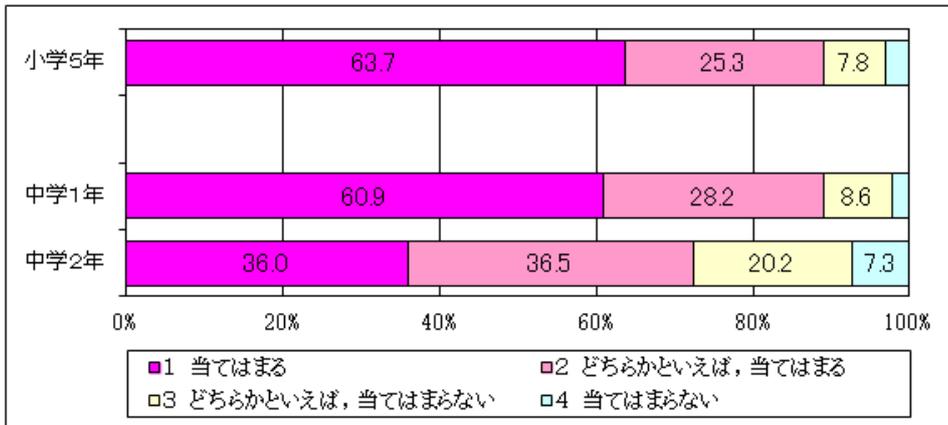
県:(20)ア 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。  
 全国:(49)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	61.4	56.5	76.3	68.1	46.8
2 どちらかといえば、当てはまる	28.4	32.2	19.8	25.8	39.6
3 どちらかといえば、当てはまらない	7.2	8.7	2.7	4.5	10.6
4 当てはまらない	2.9	2.6	1.1	1.6	3.1



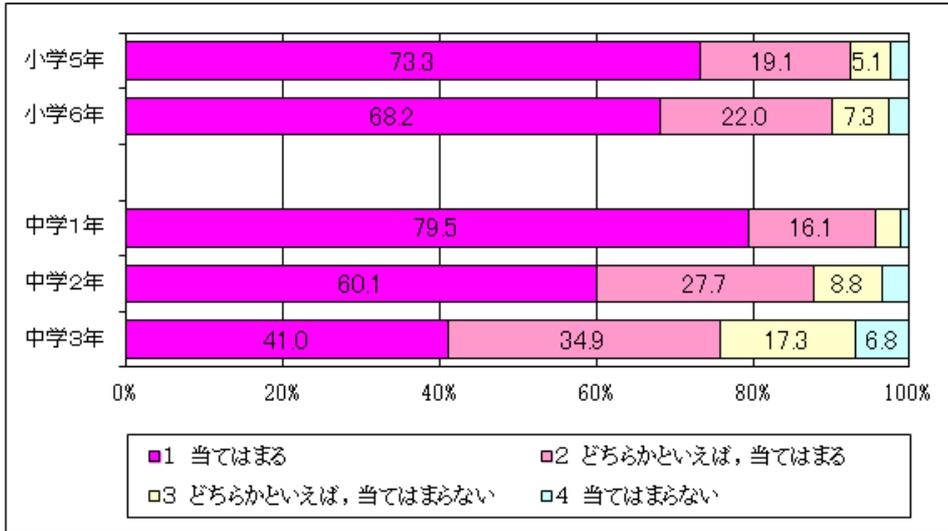
県:(20)イ 社会の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	63.7	60.9	36.0
2 どちらかといえば、当てはまる	25.3	28.2	36.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	7.8	8.6	20.2
4 当てはまらない	3.2	2.2	7.3



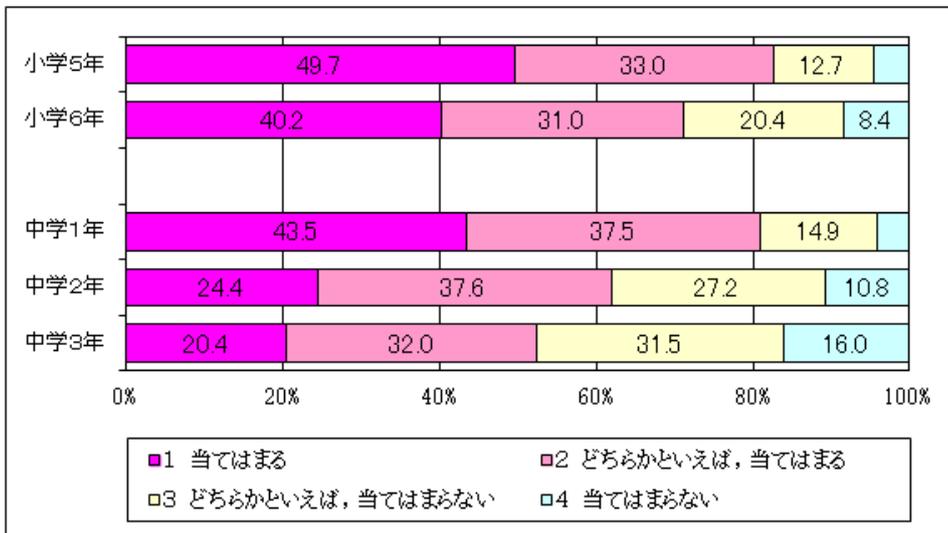
県:(20)ウ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。  
 全国:(62)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	73.3	68.2		79.5	60.1	41.0
2 どちらかといえば、当てはまる	19.1	22.0		16.1	27.7	34.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	5.1	7.3		3.2	8.8	17.3
4 当てはまらない	2.5	2.6		1.2	3.5	6.8



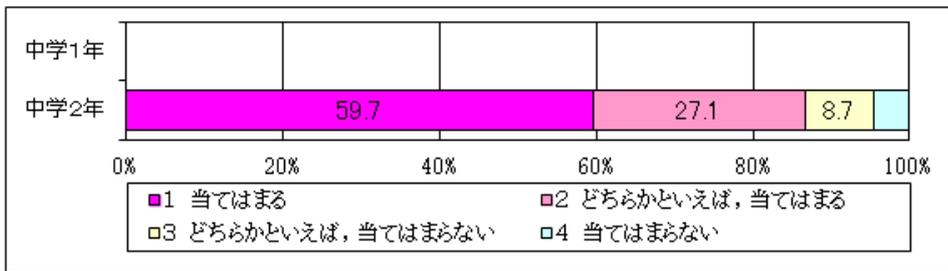
県:(20)エ 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。  
 全国:(73)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	49.7	40.2		43.5	24.4	20.4
2 どちらかといえば、当てはまる	33.0	31.0		37.5	37.6	32.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	12.7	20.4		14.9	27.2	31.5
4 当てはまらない	4.6	8.4		4.1	10.8	16.0



県:(20)オ 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

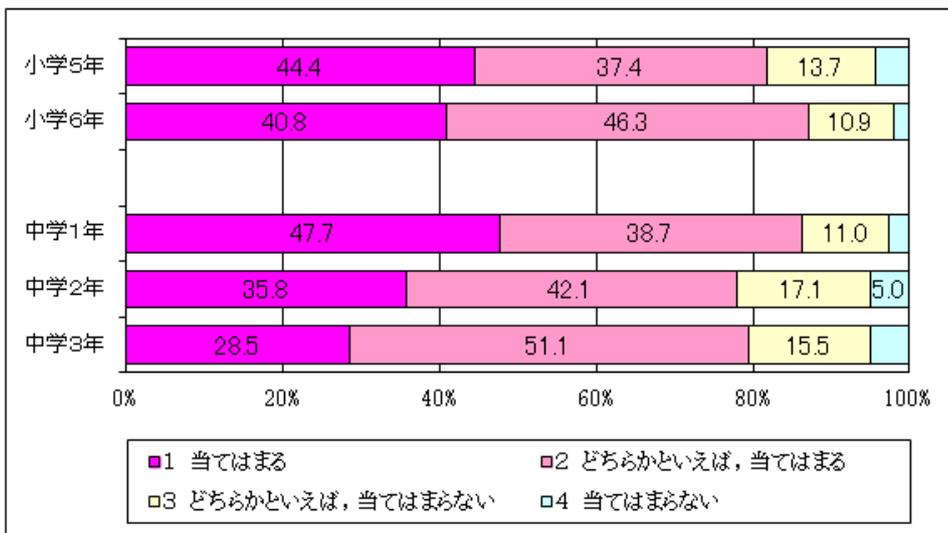
	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる			59.7
2 どちらかといえば、当てはまる			27.1
3 どちらかといえば、当てはまらない			8.7
4 当てはまらない			4.5



県:小(36)「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たと  
県:中(39)きに役に立つ。

全国:(39)

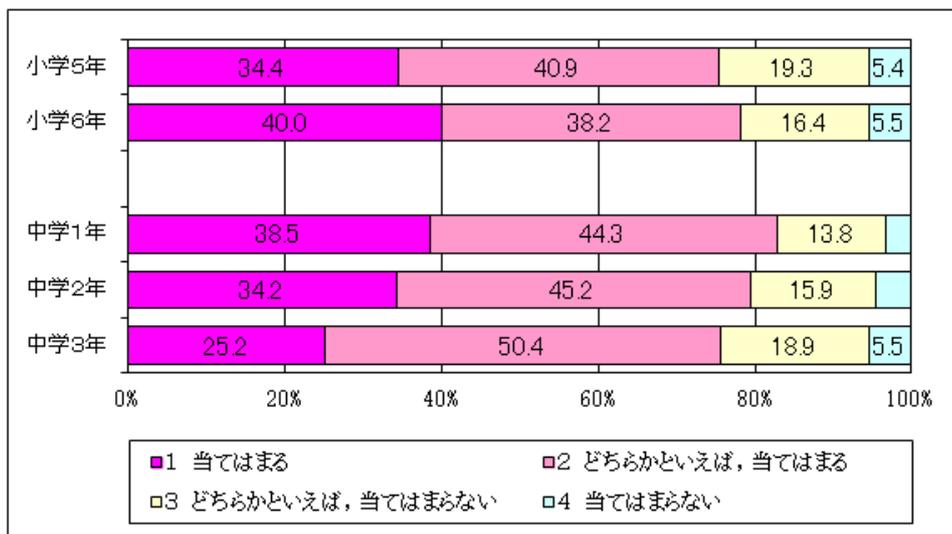
	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	44.4	40.8	47.7	35.8	28.5
2 どちらかといえば、当てはまる	37.4	46.3	38.7	42.1	51.1
3 どちらかといえば、当てはまらない	13.7	10.9	11.0	17.1	15.5
4 当てはまらない	4.4	2.0	2.7	5.0	4.9



3 学習活動(教科全般)

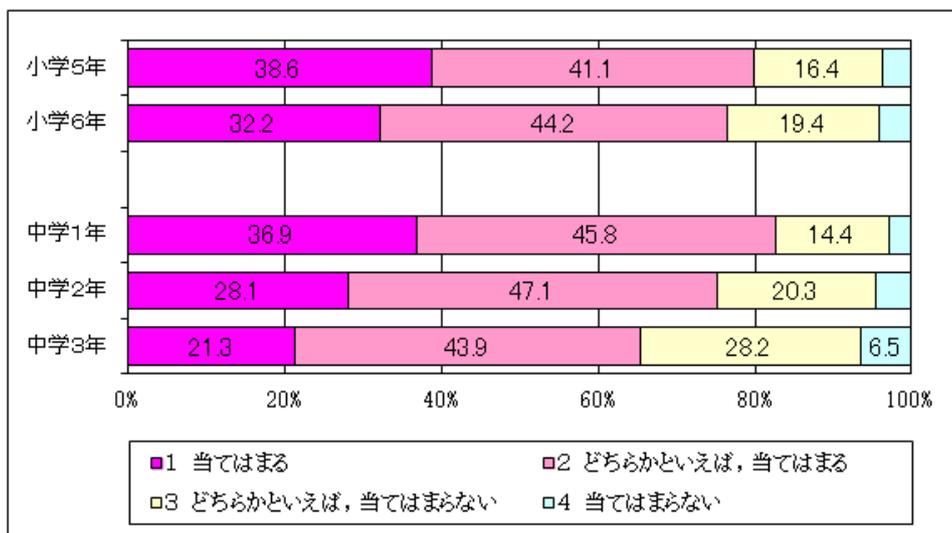
県:(15) 普通の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う。  
 全国:(41)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	34.4	40.0		38.5	34.2	25.2
2 どちらかといえば、当てはまる	40.9	38.2		44.3	45.2	50.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	19.3	16.4		13.8	15.9	18.9
4 当てはまらない	5.4	5.5		3.4	4.7	5.5



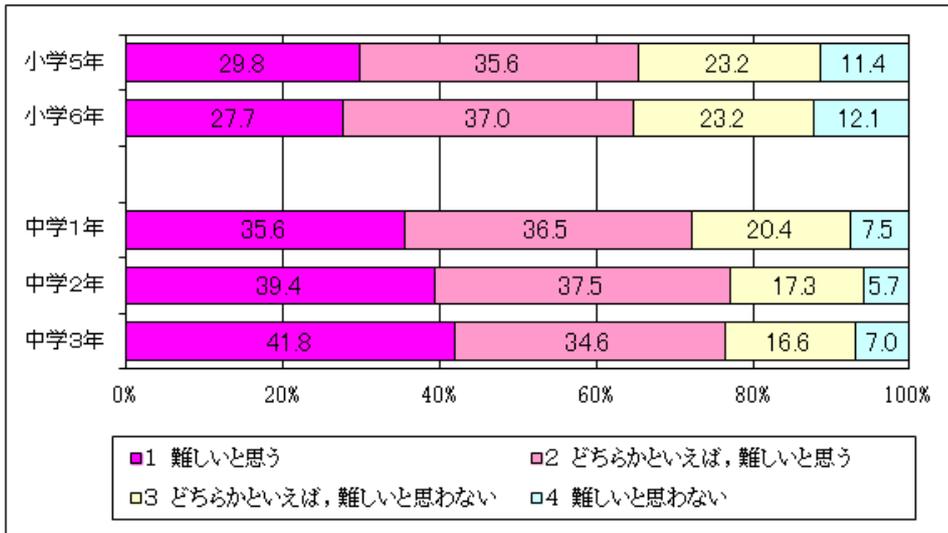
県:(16) 普通の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。  
 全国:(42)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	38.6	32.2		36.9	28.1	21.3
2 どちらかといえば、当てはまる	41.1	44.2		45.8	47.1	43.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	16.4	19.4		14.4	20.3	28.2
4 当てはまらない	3.8	4.2		2.9	4.6	6.5



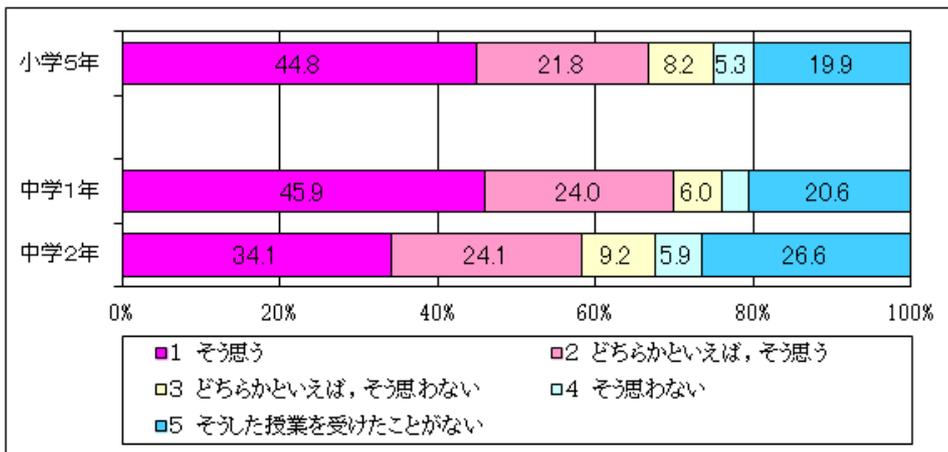
県:(17) 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするの  
 全国:(44) は難しい。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 難しいと思う	29.8	27.7		35.6	39.4	41.8
2 どちらかといえば、難しいと思う	35.6	37.0		36.5	37.5	34.6
3 どちらかといえば、難しいと思わない	23.2	23.2		20.4	17.3	16.6
4 難しいと思わない	11.4	12.1		7.5	5.7	7.0



県:(37) 授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の  
 県:(40) 内容が分かりやすくなった。

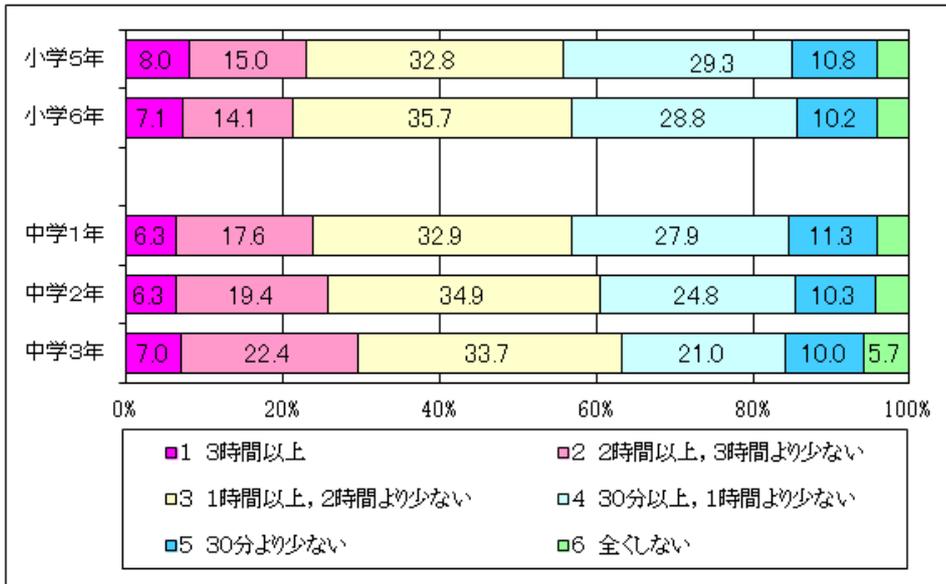
	小学5年		中学1年	中学2年
1 そう思う	44.8		45.9	34.1
2 どちらかといえば、そう思う	21.8		24.0	24.1
3 どちらかといえば、そう思わない	8.2		6.0	9.2
4 そう思わない	5.3		3.4	5.9
5 そろした授業を受けたことがない	19.9		20.6	26.6



4 家庭学習

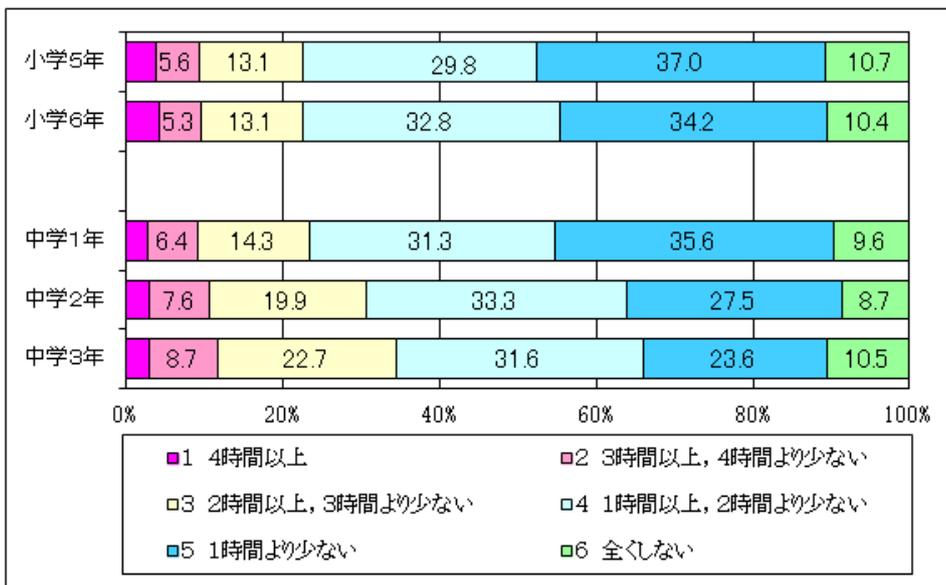
県:(6) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間もふくみます。)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 3時間以上	8.0	7.1		6.3	6.3	7.0
2 2時間以上, 3時間より少ない	15.0	14.1		17.6	19.4	22.4
3 1時間以上, 2時間より少ない	32.8	35.7		32.9	34.9	33.7
4 30分以上, 1時間より少ない	29.3	28.8		27.9	24.8	21.0
5 30分より少ない	10.8	10.2		11.3	10.3	10.0
6 全くしない	4.1	4.2		4.1	4.4	5.7



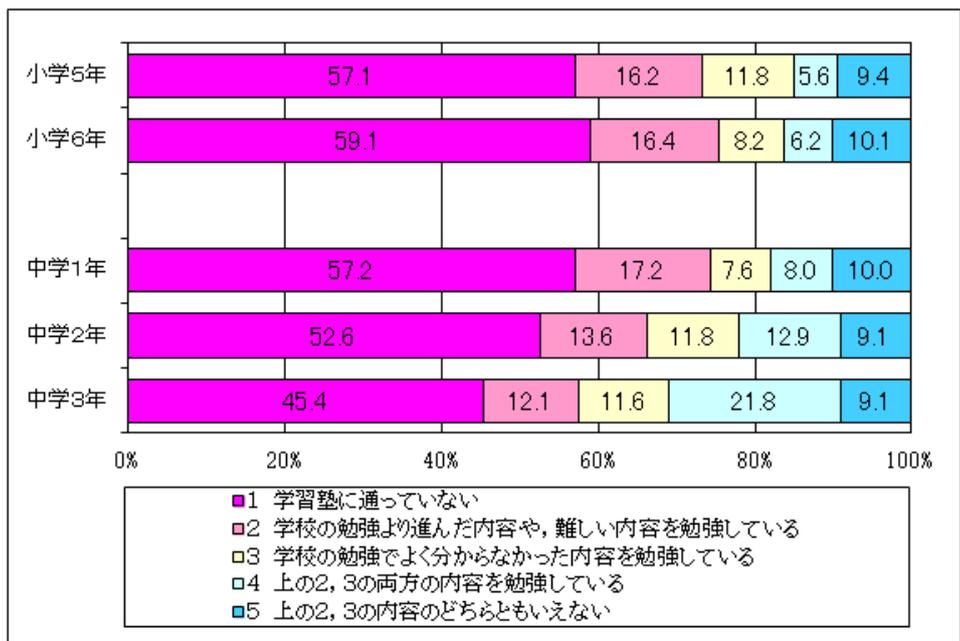
県:(7) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間もふくみます。)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 4時間以上	3.7	4.2		2.8	3.0	3.0
2 3時間以上, 4時間より少ない	5.6	5.3		6.4	7.6	8.7
3 2時間以上, 3時間より少ない	13.1	13.1		14.3	19.9	22.7
4 1時間以上, 2時間より少ない	29.8	32.8		31.3	33.3	31.6
5 1時間より少ない	37.0	34.2		35.6	27.5	23.6
6 全くしない	10.7	10.4		9.6	8.7	10.5



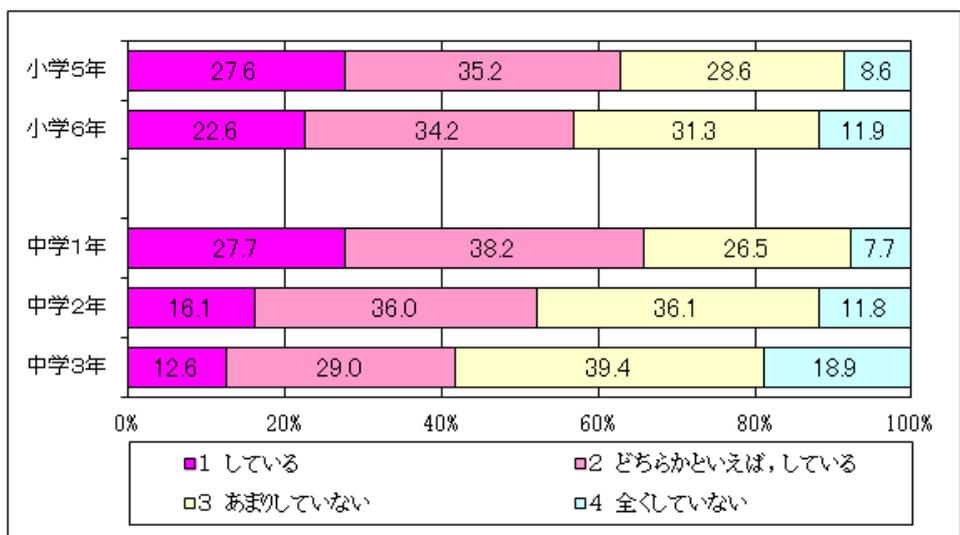
県：(8) 学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合もふくみます。)で勉強をしている  
 全国：(16) すか。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 学習塾に通っていない	57.1	59.1		57.2	52.6	45.4
2 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している	16.2	16.4		17.2	13.6	12.1
3 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している	11.8	8.2		7.6	11.8	11.6
4 上の2, 3の両方の内容を勉強している	5.6	6.2		8.0	12.9	21.8
5 上の2, 3の内容のどちらともいえない	9.4	10.1		10.0	9.1	9.1



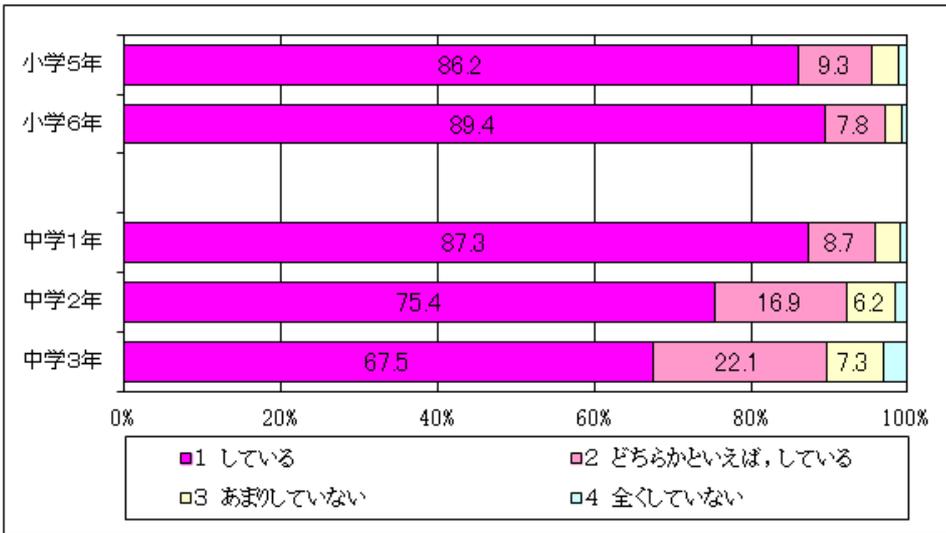
県：(9) 自分で計画を立てて勉強をしている。  
 全国：(23)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 している	27.6	22.6		27.7	16.1	12.6
2 どちらかといえば、している	35.2	34.2		38.2	36.0	29.0
3 あまりしていない	28.6	31.3		26.5	36.1	39.4
4 全くしていない	8.6	11.9		7.7	11.8	18.9



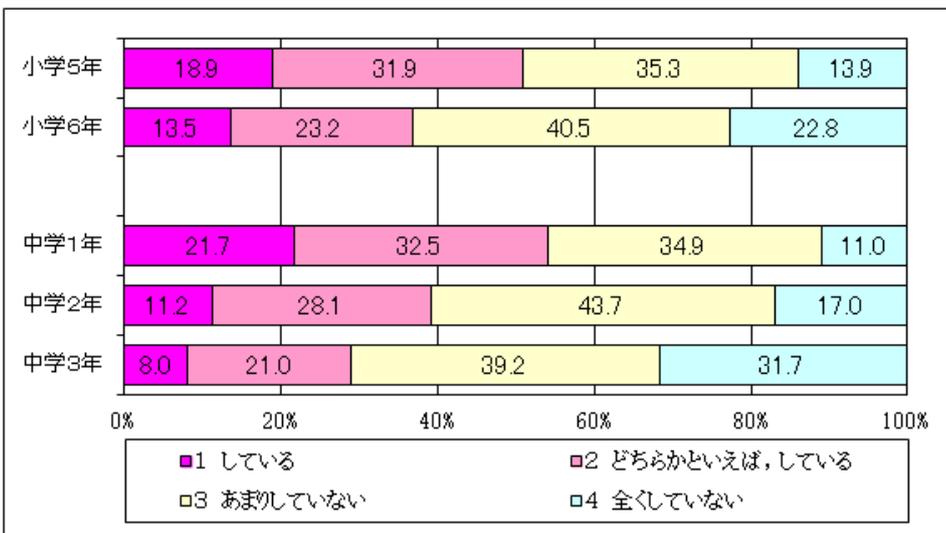
県:(10) 学校の宿題をしている。  
 全国:(24)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 している	86.2	89.4		87.3	75.4	67.5
2 どちらかといえば、している	9.3	7.8		8.7	16.9	22.1
3 あまりしていない	3.5	2.1		3.1	6.2	7.3
4 全くしていない	1.1	0.7		0.9	1.6	3.1



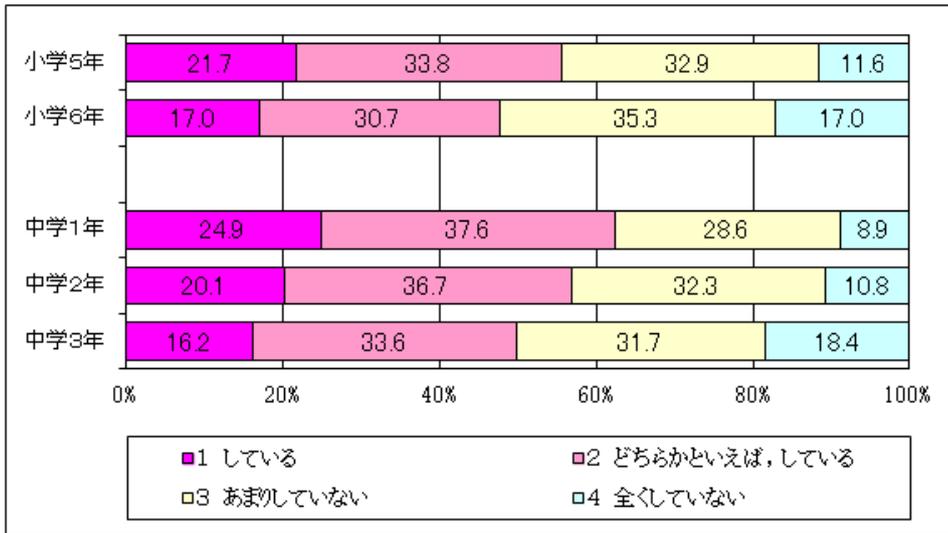
県:(11) 学校の授業の予習をしている。  
 全国:(25)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 している	18.9	13.5		21.7	11.2	8.0
2 どちらかといえば、している	31.9	23.2		32.5	28.1	21.0
3 あまりしていない	35.3	40.5		34.9	43.7	39.2
4 全くしていない	13.9	22.8		11.0	17.0	31.7



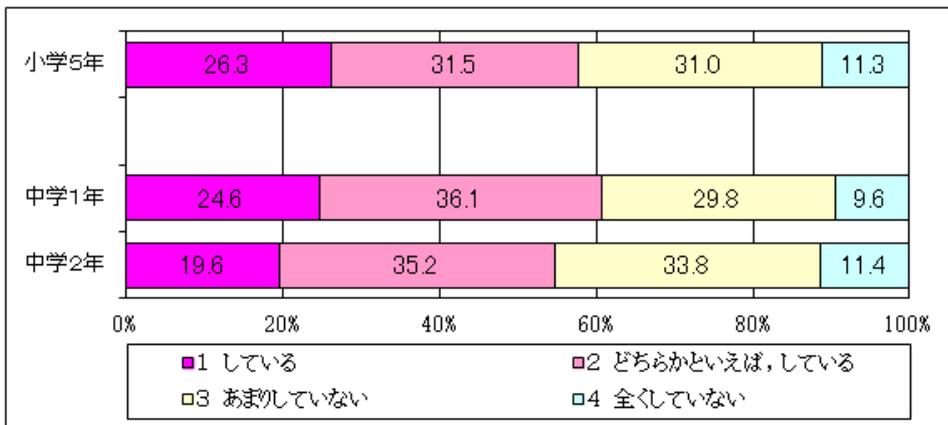
県:(12) 学校の授業の復習をしている。  
 全国:(26)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 している	21.7	17.0		24.9	20.1	16.2
2 どちらかといえば、している	33.8	30.7		37.6	36.7	33.6
3 あまりしていない	32.9	35.3		28.6	32.3	31.7
4 全くしていない	11.6	17.0		8.9	10.8	18.4



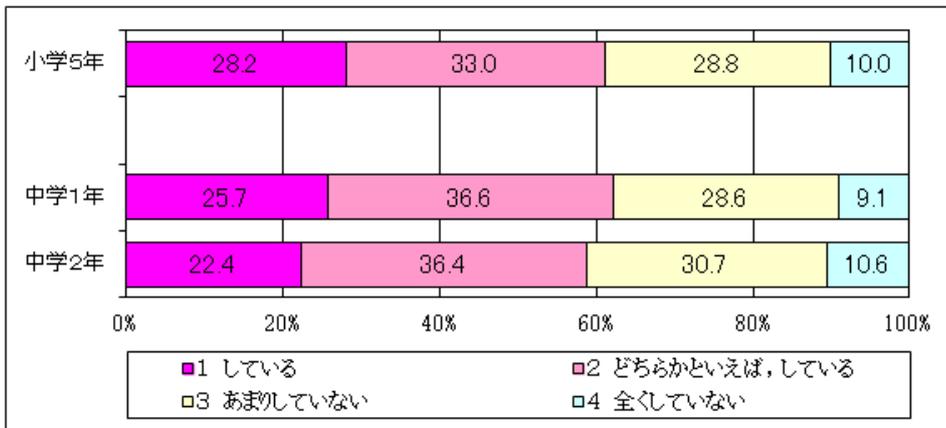
県:(13) 苦手な教科の勉強をしている。

	小学5年		中学1年	中学2年
1 している	26.3		24.6	19.6
2 どちらかといえば、している	31.5		36.1	35.2
3 あまりしていない	31.0		29.8	33.8
4 全くしていない	11.3		9.6	11.4



県:(14) テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している。

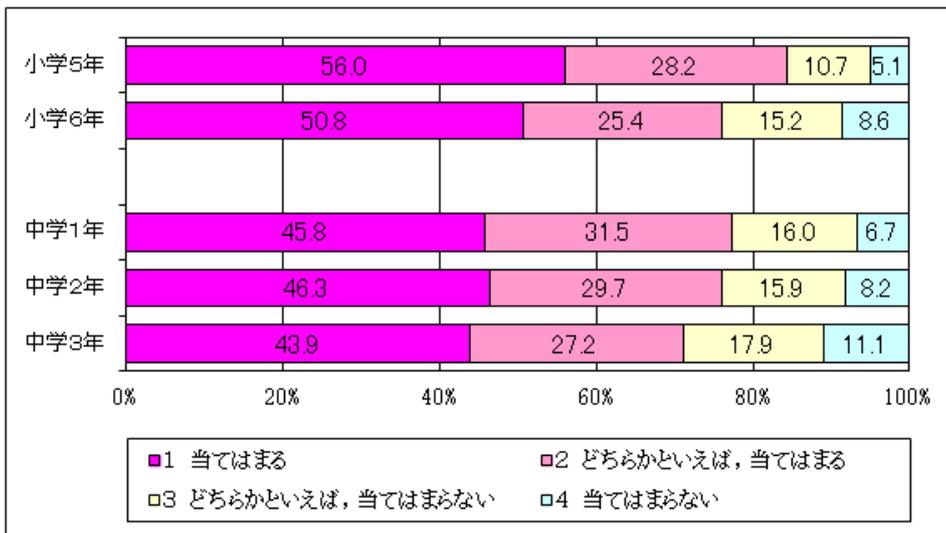
	小学5年	中学1年	中学2年
1 している	28.2	25.7	22.4
2 どちらかといえば、している	33.0	36.6	36.4
3 あまりしていない	28.8	28.6	30.7
4 全くしていない	10.0	9.1	10.6



5 生活習慣等

県:(21) 読書は好きだ。  
 全国:(48)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	56.0	50.8	45.8	46.3	43.9
2 どちらかといえば、当てはまる	28.2	25.4	31.5	29.7	27.2
3 どちらかといえば、当てはまらない	10.7	15.2	16.0	15.9	17.9
4 当てはまらない	5.1	8.6	6.7	8.2	11.1

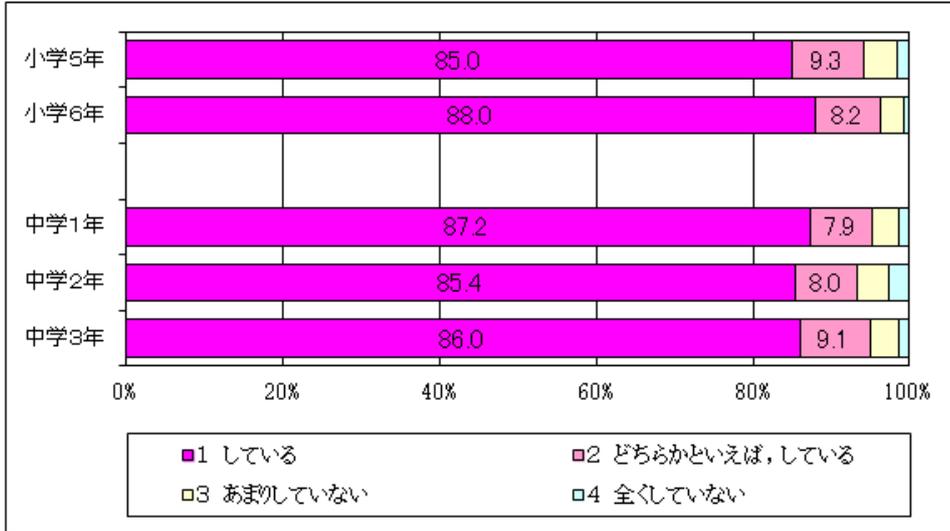


県:小(38)

県:中(41) 朝食を毎日食べている。

全国: (1)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 している	85.0	88.0		87.2	85.4	86.0
2 どちらかといえば、している	9.3	8.2		7.9	8.0	9.1
3 あまりしていない	4.2	3.1		3.5	4.0	3.5
4 全くしていない	1.5	0.7		1.3	2.6	1.5

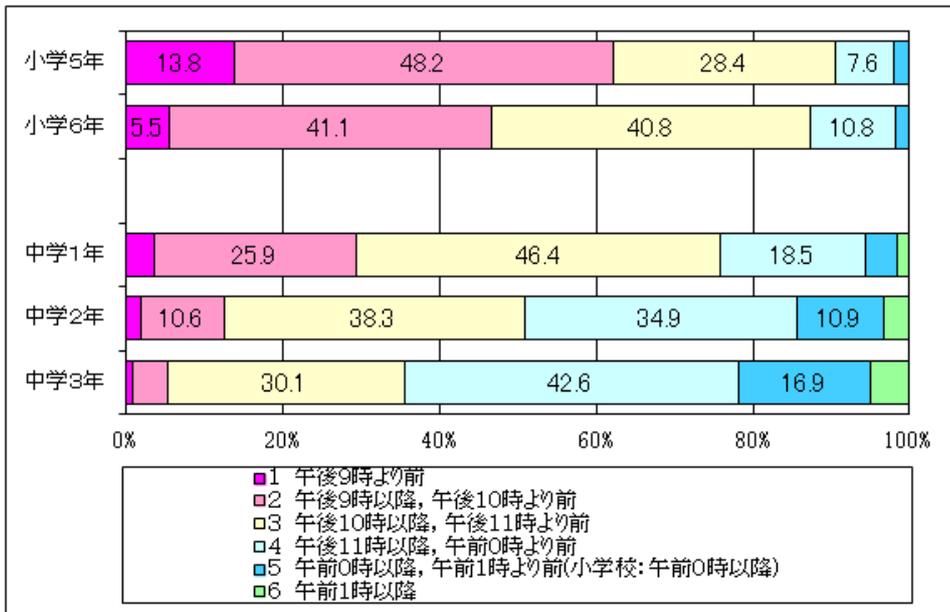


県:小(39)

県:中(42) 普段(月曜日から金曜日), 何時ごろにねますか。

全国: (8)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 午後9時より前	13.8	5.5		3.5	1.9	0.7
2 午後9時以降, 午後10時より前	48.2	41.1		25.9	10.6	4.6
3 午後10時以降, 午後11時より前	28.4	40.8		46.4	38.3	30.1
4 午後11時以降, 午前0時より前	7.6	10.8		18.5	34.9	42.6
5 午前0時以降, 午前1時より前(小学校: 午前0時以降)	1.9	1.8		4.1	10.9	16.9
6 午前1時以降				1.5	3.4	5.0

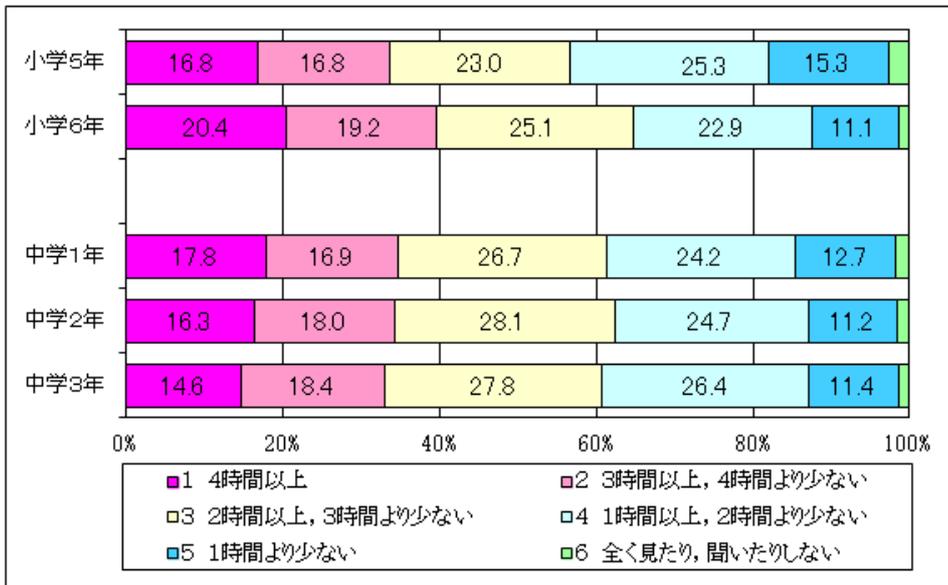


県:小(40) 普段(月曜日から金曜日), 1日あたりどれくらいの時間, テレビやビデオ・DVD

県:中(43) を見たり, 聞いたりしますか。(テレビゲームをする時間は除きます。)

全国:(10)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 4時間以上	16.8	20.4	17.8	16.3	14.6
2 3時間以上, 4時間より少ない	16.8	19.2	16.9	18.0	18.4
3 2時間以上, 3時間より少ない	23.0	25.1	26.7	28.1	27.8
4 1時間以上, 2時間より少ない	25.3	22.9	24.2	24.7	26.4
5 1時間より少ない	15.3	11.1	12.7	11.2	11.4
6 全く見たり, 聞いたりしない	2.7	1.4	1.8	1.7	1.4

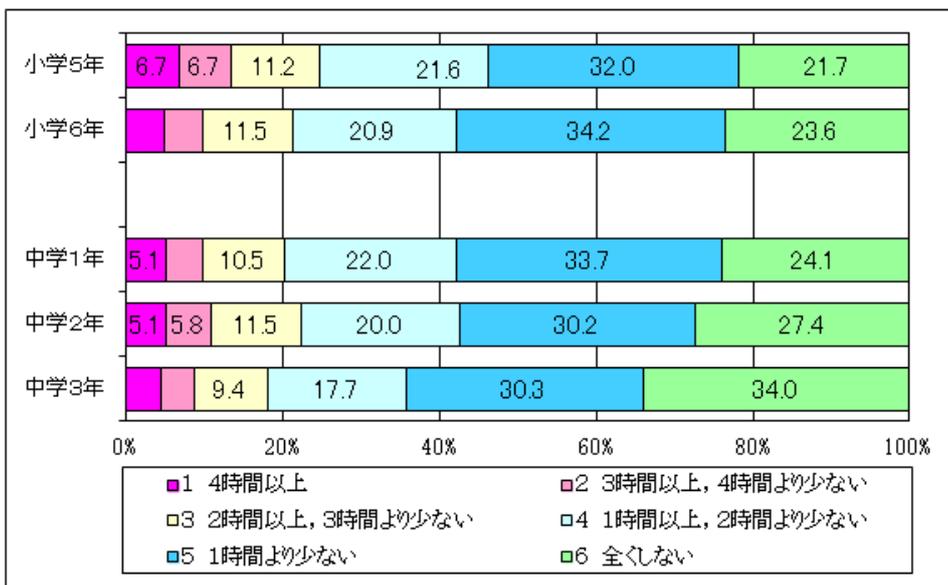


県:小(41) 普段(月曜日から金曜日), 1日あたりどれくらいの時間, テレビゲーム(コン

県:中(44) ピュータゲーム, 携帯式のゲームをふくみます。)をしますか。

全国:(11)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 4時間以上	6.7	4.9	5.1	5.1	4.5
2 3時間以上, 4時間より少ない	6.7	4.8	4.6	5.8	4.1
3 2時間以上, 3時間より少ない	11.2	11.5	10.5	11.5	9.4
4 1時間以上, 2時間より少ない	21.6	20.9	22.0	20.0	17.7
5 1時間より少ない	32.0	34.2	33.7	30.2	30.3
6 全くしない	21.7	23.6	24.1	27.4	34.0

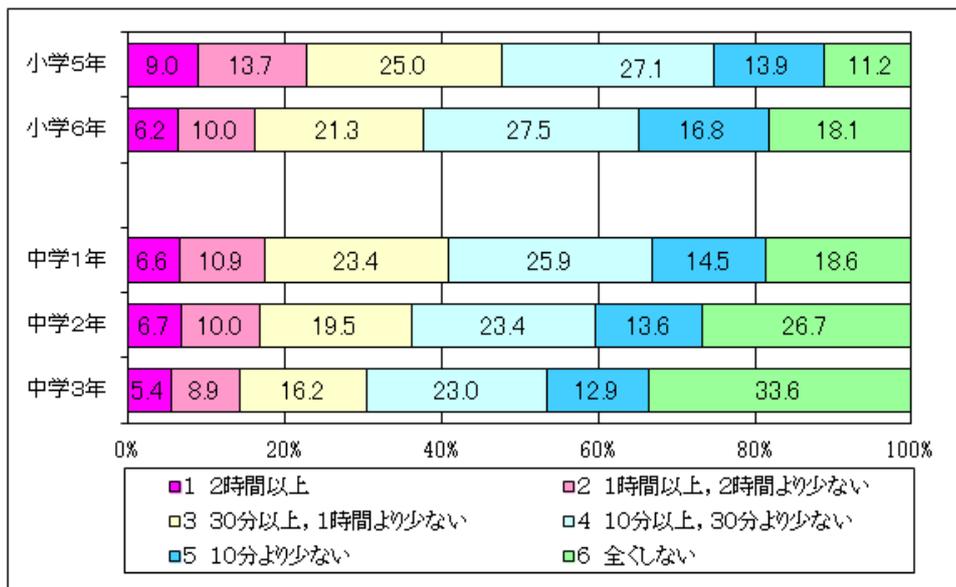


県:小(42) 家や図書館で、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書を

県:中(45) しますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)

全国:(17)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 2時間以上	9.0	6.2	6.6	6.7	5.4
2 1時間以上、2時間より少ない	13.7	10.0	10.9	10.0	8.9
3 30分以上、1時間より少ない	25.0	21.3	23.4	19.5	16.2
4 10分以上、30分より少ない	27.1	27.5	25.9	23.4	23.0
5 10分より少ない	13.9	16.8	14.5	13.6	12.9
6 全くしない	11.2	18.1	18.6	26.7	33.6

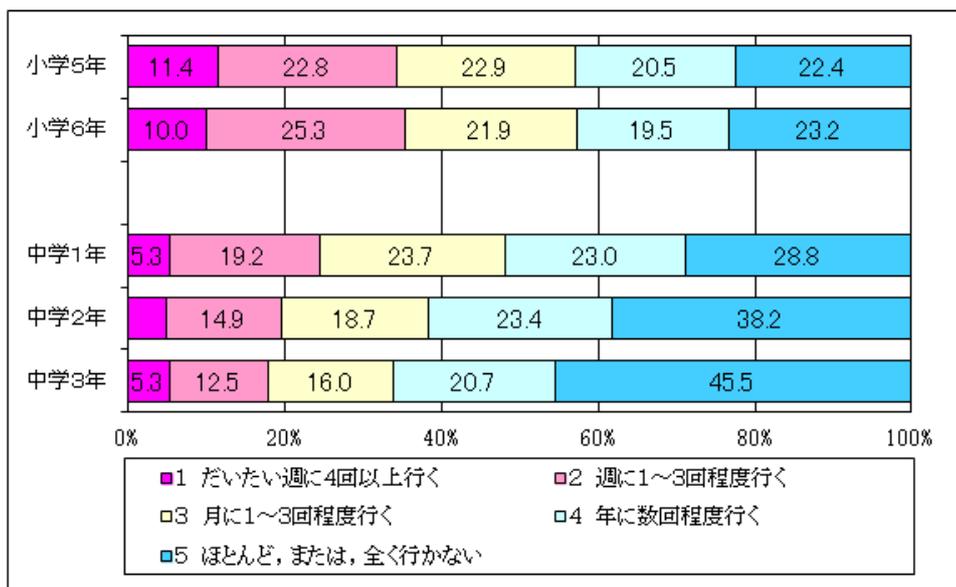


県:小(43) 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校

県:中(46) 図書館・学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか。(教科書や参考

全国:(18) 書、漫画や雑誌は除きます。)(一つ選んでください。)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 だいたい週に4回以上行く	11.4	10.0	5.3	4.8	5.3
2 週に1~3回程度行く	22.8	25.3	19.2	14.9	12.5
3 月に1~3回程度行く	22.9	21.9	23.7	18.7	16.0
4 年に数回程度行く	20.5	19.5	23.0	23.4	20.7
5 ほとんど、または、全く行かない	22.4	23.2	28.8	38.2	45.5

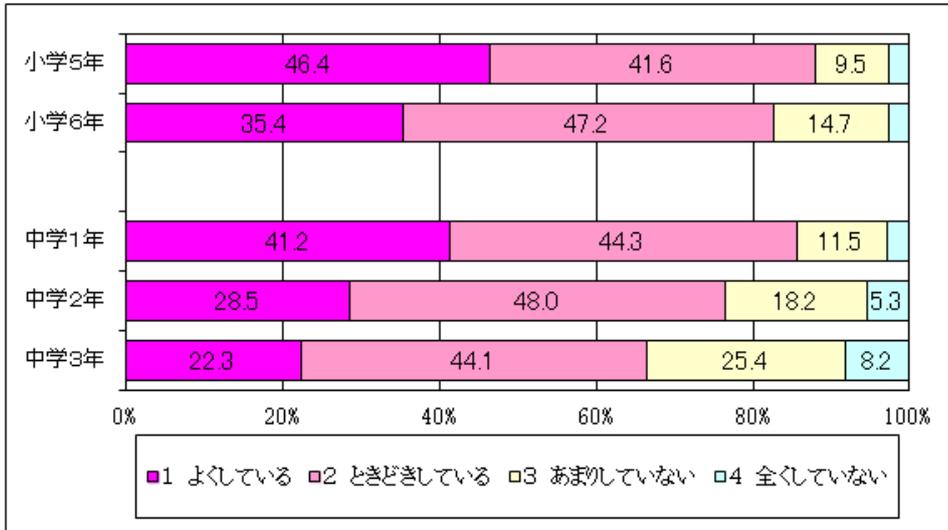


県:小(44)

県:中(47) 家の手伝いをしていますか。

全国:(21)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 よくしている	46.4	35.4		41.2	28.5	22.3
2 ときどきしている	41.6	47.2		44.3	48.0	44.1
3 あまりしていない	9.5	14.7		11.5	18.2	25.4
4 全くしていない	2.6	2.8		2.9	5.3	8.2

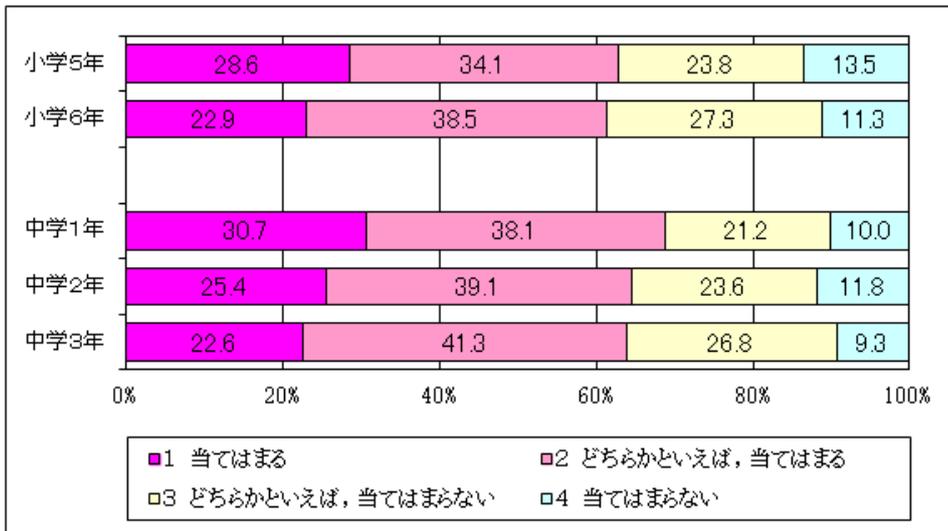


県:小(45)

県:中(48) 新聞やテレビのニュースなどに関心がある。

全国:(28)

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	28.6	22.9		30.7	25.4	22.6
2 どちらかといえば、当てはまる	34.1	38.5		38.1	39.1	41.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	23.8	27.3		21.2	23.6	26.8
4 当てはまらない	13.5	11.3		10.0	11.8	9.3

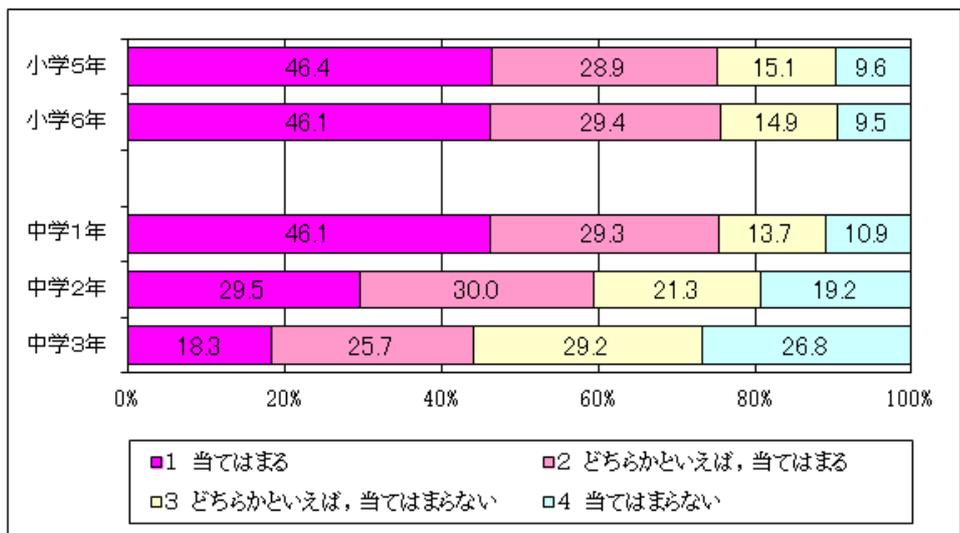


県:小(46)

県:中(49) 今住んでいる地域の行事に参加している。

全国:(29)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	46.4	46.1	46.1	29.5	18.3
2 どちらかといえば、当てはまる	28.9	29.4	29.3	30.0	25.7
3 どちらかといえば、当てはまらない	15.1	14.9	13.7	21.3	29.2
4 当てはまらない	9.6	9.5	10.9	19.2	26.8



最終更新日: 2012-10-15

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像(小学校第5学年) → [小学校第6学年](#) [中学校第1学年](#)  
[中学校第2学年](#) [中学校第3学年](#)

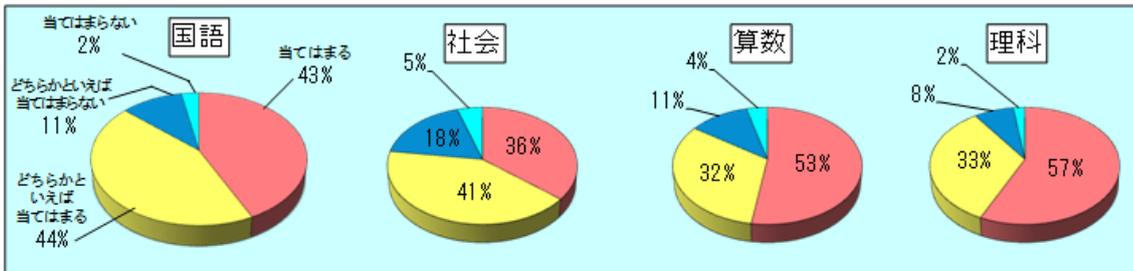
※数値は小数第一位で四捨五入している。なお、円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。

## 児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像 (小学校第5学年)

※数値は、小数第1位で四捨五入している。

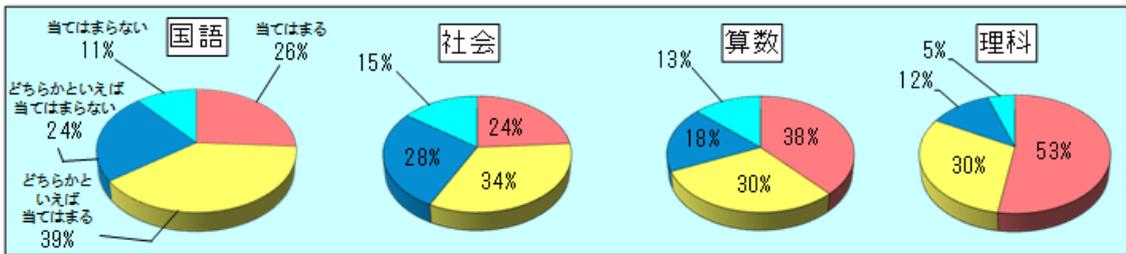
各教科の授業の内容は分かりますか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の勉強は好きですか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の特性に応じた学習内容や学習方法についての興味・関心・意欲・態度

国語	社会	算数	理科
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている ……62%	社会の授業で自分が考えたことや調べたことを、新聞のような形でノートや応用紙にまとめることは楽しい ……73%	算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考える ……71%	理科の授業で、自分の考えを発表したり友達に話したりするのは楽しい ……71%
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てをくふうしている ……61%	社会の授業で調べたことをもとにして、発表したり話したりすることは楽しい ……65%	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている ……76%	理科の授業で、観察や実験について図や文字で記録をしていくことは好きだ ……84%
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている ……71%	博物館や図書館、郷土資料館などで、自分の興味・関心をもったことについて調べることは好きだ ……77%	算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている ……84%	理科の授業で、自分が何を調べるのかははっきり分かって観察や実験を行っている ……88%
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる ……75%			



※図中の数値は「当てはまる」「そう思う」と回答した割合と「どちらかといえば、○○」と回答した割合を合わせた数値である。

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅱ 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像(小学校第6学年) → [小学校第5学年](#) [中学校第1学年](#)  
[中学校第2学年](#) [中学校第3学年](#)

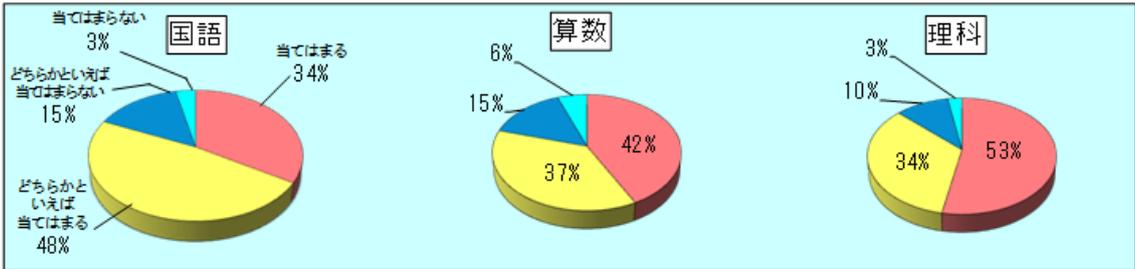
※小学校第6学年は全国調査の質問紙調査を実施しているため、社会に対する意識調査は行っていない。  
 ※数値は小数第一位で四捨五入している。なお、円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。

## 児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像(小学校第6学年)

※数値は、小数第1位で四捨五入している。

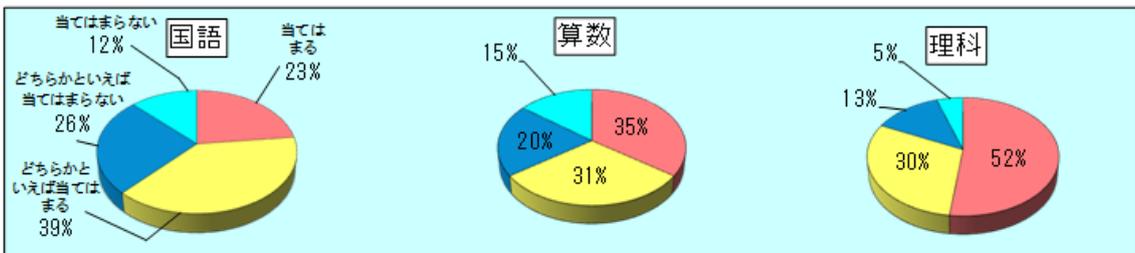
各教科の授業の内容は分かりますか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の勉強は好きですか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の特性に応じた学習内容や学習方法についての興味・関心・意欲・態度

国語	算数	理科
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている ……60%	算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考える ……68%	理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている ……70%
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てをくふうしている ……58%	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている ……80%	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている ……77%
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている ……71%	算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている ……84%	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方がまちがっていないかをふり返って考えている ……67%
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりに内容を理解しながら読んでいる ……72%		理科の授業でものをつくることは好きだ ……86%

※図中の数値は「当てはまる」「そう思う」と回答した割合と「どちらかといえば、○○○」と回答した割合を合わせた数値である。



# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像(中学校第1学年) → 小学校第5学年 小学校第6学年  
 中学校第2学年 中学校第3学年

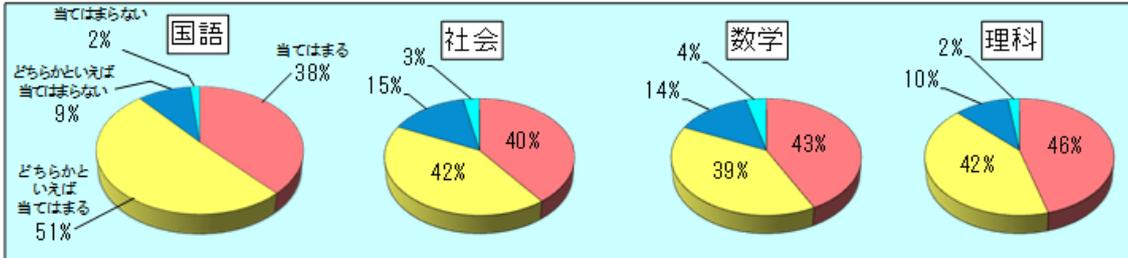
※数値は小数第一位で四捨五入している。なお、円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。

## 児童生徒意識調査からみた佐賀県の学習者像 (中学校第1学年)

※数値は、小数第1位で四捨五入している。

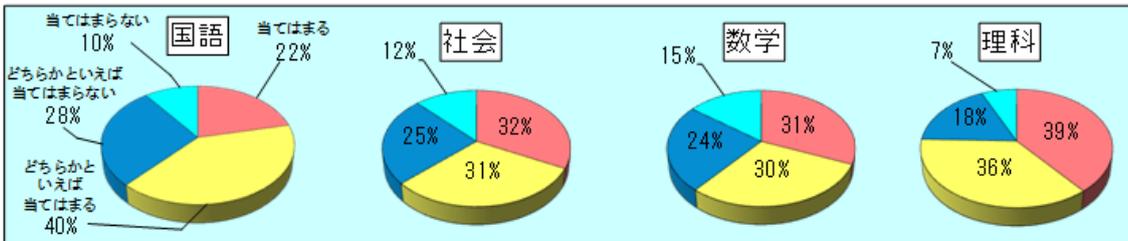
### 各教科の授業の内容はよく分かる。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



### 各教科の勉強は好きですか

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



### 各教科の特性に応じた学習内容や学習方法についての興味・関心・意欲・態度

<p><b>国語</b></p> <p>国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている                  ……62%</p> <p>国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している                  ……64%</p> <p>国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている                  ……77%</p> <p>国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる                  ……74%</p>	<p><b>社会</b></p> <p>社会の授業で自分が考えたことや調べたことを、新聞のような形でノートや広用紙にまとめることは楽しい                  ……71%</p> <p>社会の授業で調べたことをもとに考え、話し合いをすること(討論すること)は楽しい                  ……63%</p> <p>博物館や図書館、郷土資料館などで、自分の興味・関心をもったことについて調べることは好きだ                  ……76%</p>		<p><b>数学</b></p> <p>数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える                  ……66%</p> <p>数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている                  ……79%</p> <p>数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている                  ……87%</p>	<p><b>理科</b></p> <p>理科の授業で、自分の考えを文章や図を使って表現したり発表したりしている                  ……56%</p> <p>理科の授業で、問題を解決するために、自分で観察や実験を計画し実施したいと思う                  ……68%</p> <p>理科の授業で、自分が何を調べるのかははっきり分かって観察や実験を行っている                  ……85%</p>
--	--	--	---	---

※図中の数値は「当てはまる」「そう思う」と回答した割合と「どちらかといえば、○○○」と回答した割合を合わせた数値である。

最終更新日: 2012-10-15

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像(中学校第2学年) → [小学校第5学年](#) [小学校第6学年](#)  
[中学校第1学年](#) [中学校第3学年](#)

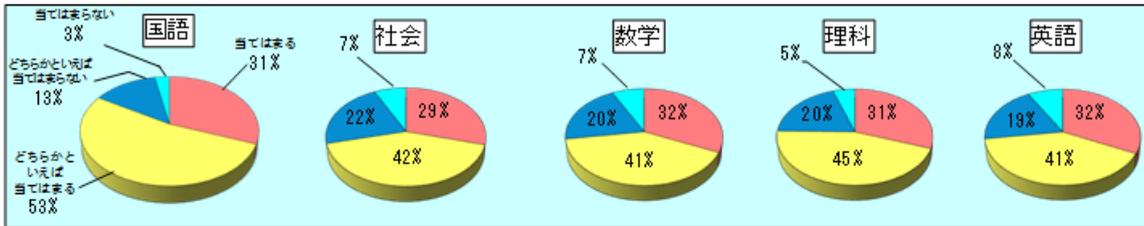
※数値は小数第一位で四捨五入している。なお、円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。

## 児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像(中学校第2学年)

※数値は、小数第1位で四捨五入している。

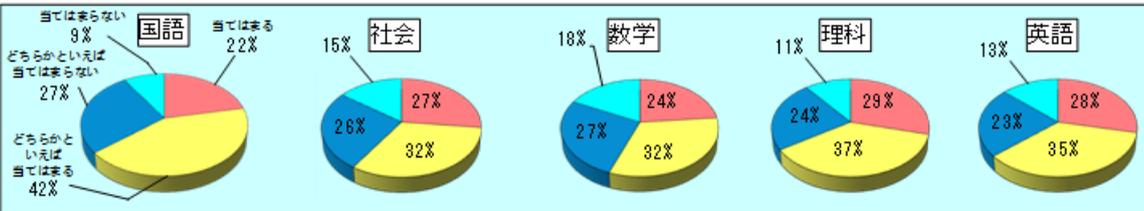
各教科の授業の内容は分かりますか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の勉強は好きですか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



### 各教科の特性に応じた学習内容や学習方法についての興味・関心・意欲・態度

国語	社会	数学	理科	英語
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている .....54%	社会の授業で自分が考えたことや調べたことを、新聞のような形でノートや応用紙にまとめることは楽しい .....59%	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える .....48%	理科の授業で、自分の考えを文章や図を使って表現したり発表したりしている .....41%	英語の授業で、あたえられたテーマについて、英語で簡単なスピーチをすることは好きだ .....40%
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している .....55%	社会の授業で調べたことをもとに考え、話し合いをすること(討論すること)は楽しい .....55%	数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている .....67%	理科の授業で、問題を解決するために、自分で観察や実験を計画し実施したいと思う .....57%	英語の授業で、身近な話題について自分の考えや気持ちなどを英語で書くことは難しい .....74%
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている .....69%	博物館や図書館、郷土資料館などで、自分の興味・関心をもったことについて調べることは好きだ .....64%	数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている .....82%	理科の授業で、自分が何を調べるのかははっきり分かって観察や実験を行っている .....78%	英語の授業で英語を聞いたり読んだりするとき、大まかな流れや大切な部分をつかみながら聞いたり読んだりしている .....73%
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごと内容に理解しながら読んでいる .....66%				



※図中の数値は「当てはまる」「そう思う」「難しいと思う」と回答した割合と「どちらかといえば、○○○」と回答した割合を合わせた数値である。

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像(中学校第3学年) → [小学校第5学年](#) [小学校第6学年](#)  
[中学校第1学年](#) [中学校第2学年](#)

※中学校第3学年は全国調査の質問紙調査を実施しているため、社会と英語に対する意識調査は行っていない。  
 ※数値は小数第一位で四捨五入している。なお、円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。

## 児童生徒意識調査からみた佐賀県の学習者像(中学校第3学年)

※数値は、小数第1位で四捨五入している。

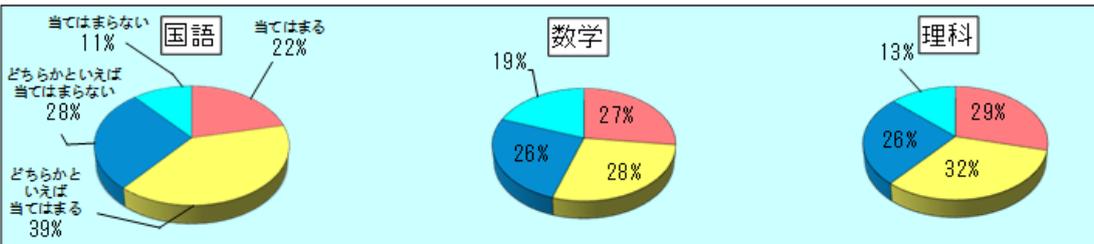
各教科の授業の内容は分かりますか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



各教科の勉強は好きですか。

※円グラフの数値は、自動的に100%になるように調整してある。



### 各教科の特性に応じた学習内容や学習方法についての興味・関心・意欲・態度

**国語**  
 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている .....49%  
 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している .....46%  
 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている .....60%  
 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる .....65%

**数学**  
 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える .....39%  
 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている .....70%  
 数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている .....82%

**理科**  
 理科の授業で、自分の予想のもとに観察や実験の計画を立てている .....47%  
 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている .....56%  
 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方がまちがっていないかをふり返って考えている .....53%  
 理科の授業でものをつくることは好きだ .....73%

※図中の数値は「当てはまる」「そう思う」「難しいと思う」と回答した割合と「どちらかといえば、○○○」と回答した割合を合わせた数値である。



# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

## 児童生徒意識調査から見た佐賀県の学習者像

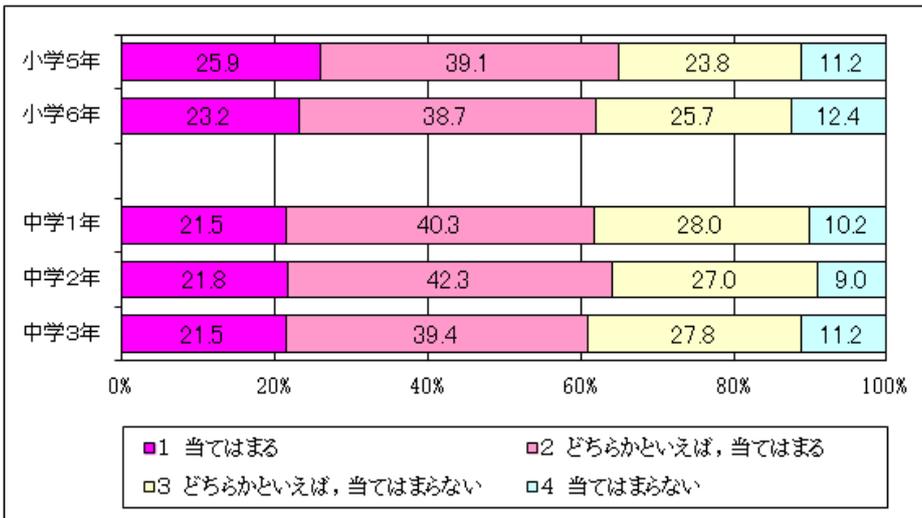
※数値は小数第二位で四捨五入している。

※グラフにおいては、5.0%未満の値については表示していない。

国語

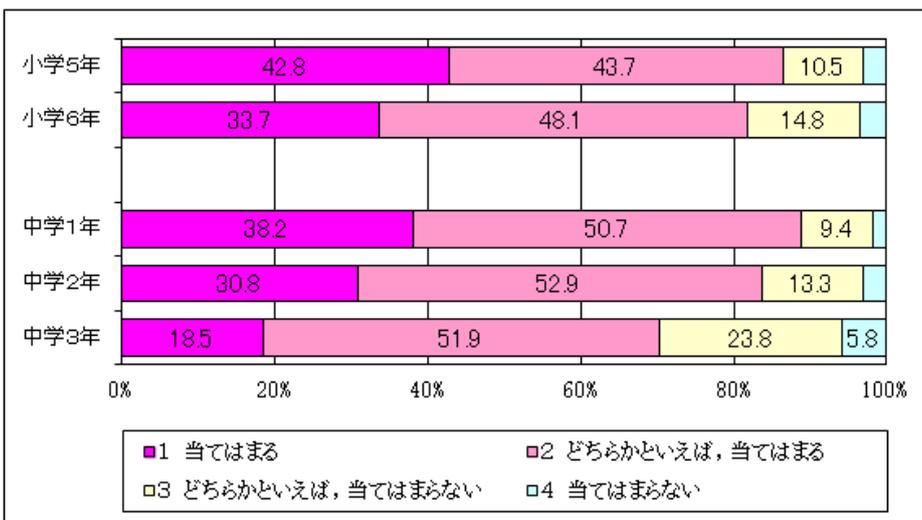
県:(18)ア 国語の勉強は好きだ  
 全国:(45)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	25.9	23.2	21.5	21.8	21.5
2 どちらかといえば、当てはまる	39.1	38.7	40.3	42.3	39.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	23.8	25.7	28.0	27.0	27.8
4 当てはまらない	11.2	12.4	10.2	9.0	11.2



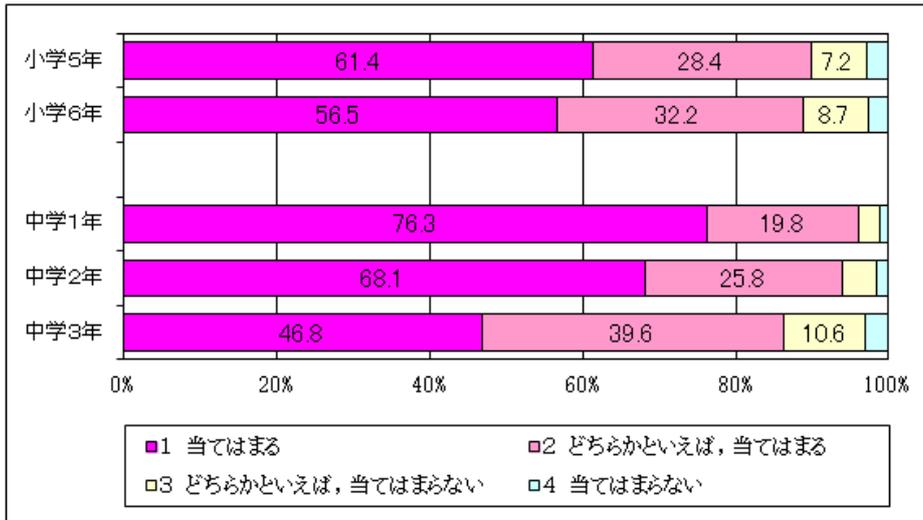
県:(19)ア 国語の授業の内容はよく分かる。  
 全国:(47)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	42.8	33.7	38.2	30.8	18.5
2 どちらかといえば、当てはまる	43.7	48.1	50.7	52.9	51.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	10.5	14.8	9.4	13.3	23.8
4 当てはまらない	3.0	3.4	1.7	3.0	5.8



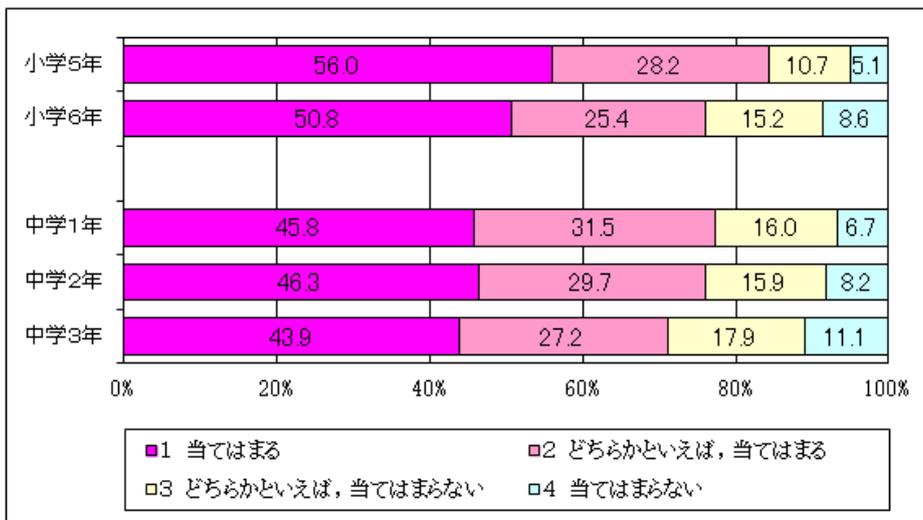
県:(20)ア 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ  
 全国:(49)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	61.4	56.5	76.3	68.1	46.8
2 どちらかといえば、当てはまる	28.4	32.2	19.8	25.8	39.6
3 どちらかといえば、当てはまらない	7.2	8.7	2.7	4.5	10.6
4 当てはまらない	2.9	2.6	1.1	1.6	3.1



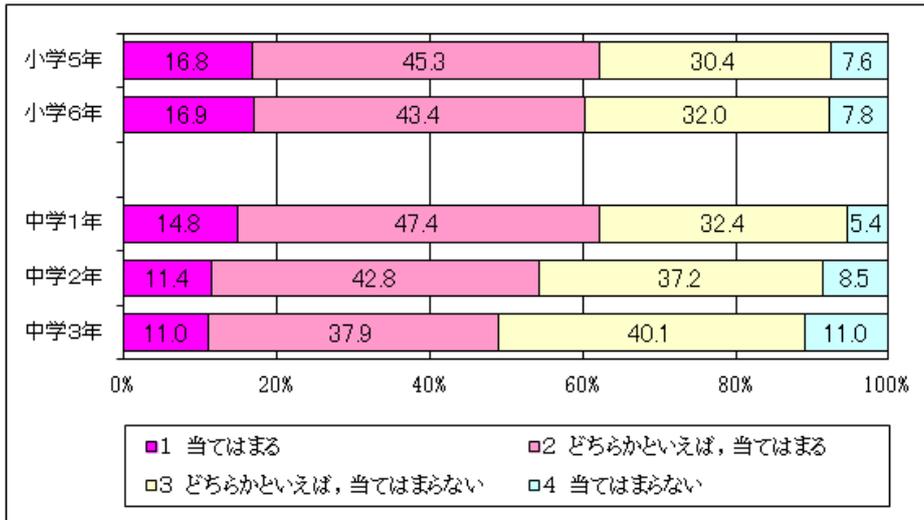
県:(21) 読書は好きだ。  
 全国:(48)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	56.0	50.8	45.8	46.3	43.9
2 どちらかといえば、当てはまる	28.2	25.4	31.5	29.7	27.2
3 どちらかといえば、当てはまらない	10.7	15.2	16.0	15.9	17.9
4 当てはまらない	5.1	8.6	6.7	8.2	11.1



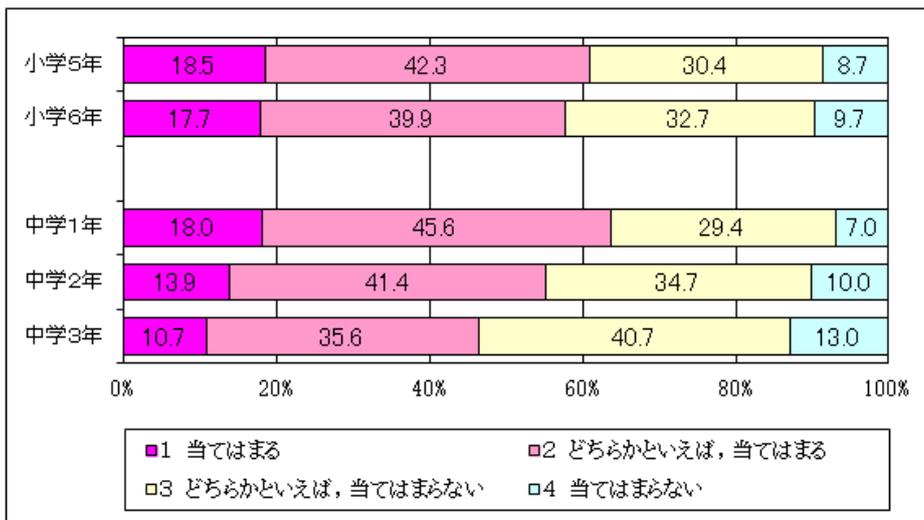
県:(22) 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。  
 全国:(50) 。

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	16.8	16.9	14.8	11.4	11.0
2 どちらかといえば、当てはまる	45.3	43.4	47.4	42.8	37.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	30.4	32.0	32.4	37.2	40.1
4 当てはまらない	7.6	7.8	5.4	8.5	11.0



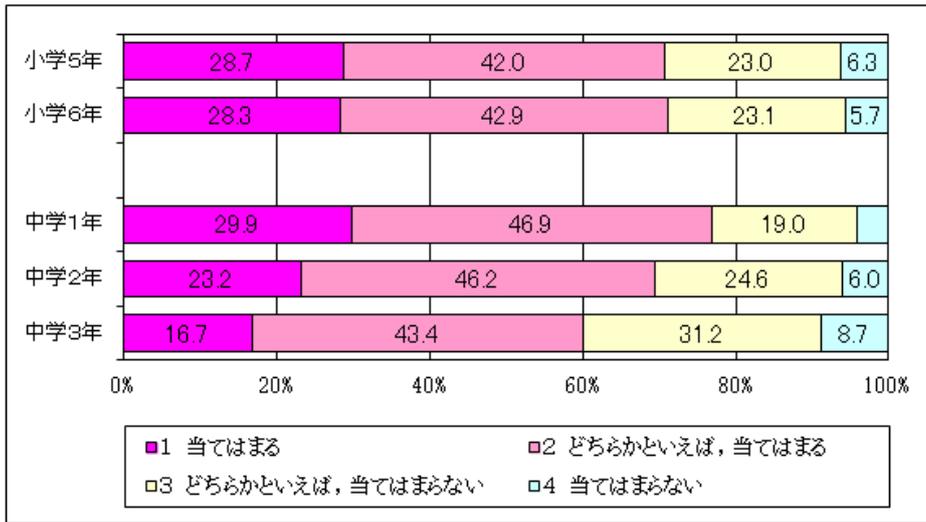
県:(23) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。  
 全国:(51) している。

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	18.5	17.7	18.0	13.9	10.7
2 どちらかといえば、当てはまる	42.3	39.9	45.6	41.4	35.6
3 どちらかといえば、当てはまらない	30.4	32.7	29.4	34.7	40.7
4 当てはまらない	8.7	9.7	7.0	10.0	13.0



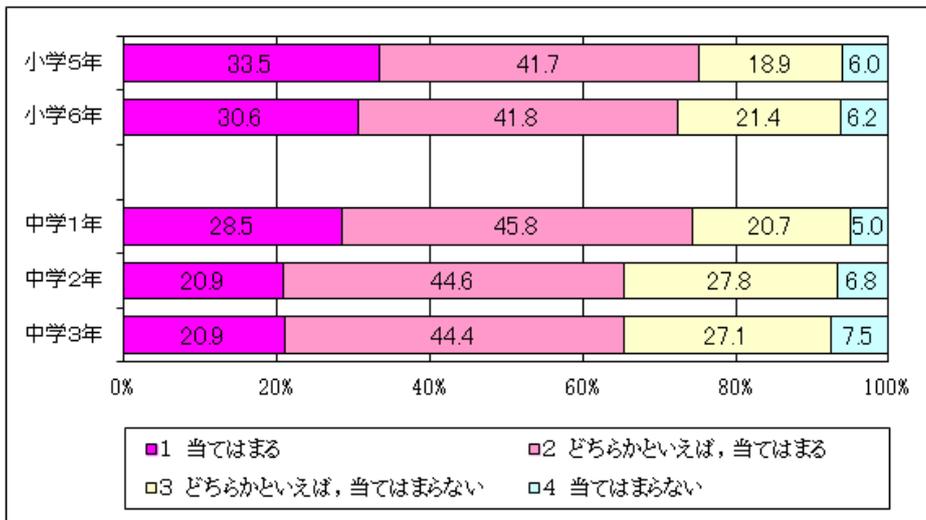
県:(24) 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書  
 全国:(52) いている。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	28.7	28.3		29.9	23.2	16.7
2 どちらかといえば、当てはまる	42.0	42.9		46.9	46.2	43.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	23.0	23.1		19.0	24.6	31.2
4 当てはまらない	6.3	5.7		4.2	6.0	8.7



県:(25) 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読  
 全国:(53) んでいる。

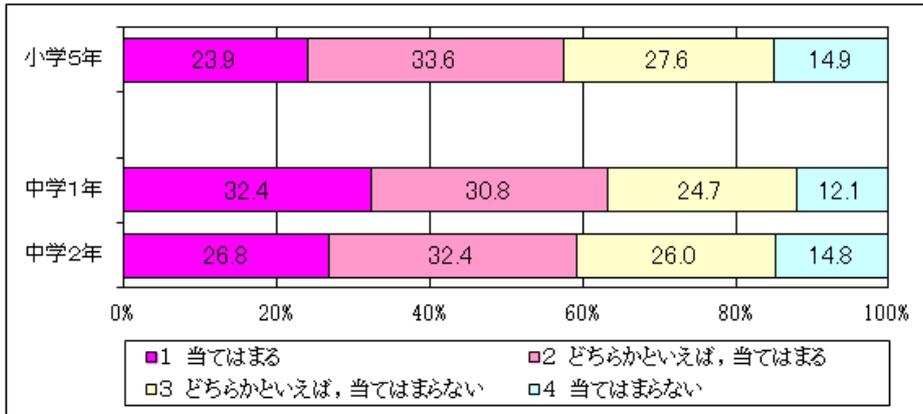
	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	33.5	30.6		28.5	20.9	20.9
2 どちらかといえば、当てはまる	41.7	41.8		45.8	44.6	44.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	18.9	21.4		20.7	27.8	27.1
4 当てはまらない	6.0	6.2		5.0	6.8	7.5



社会

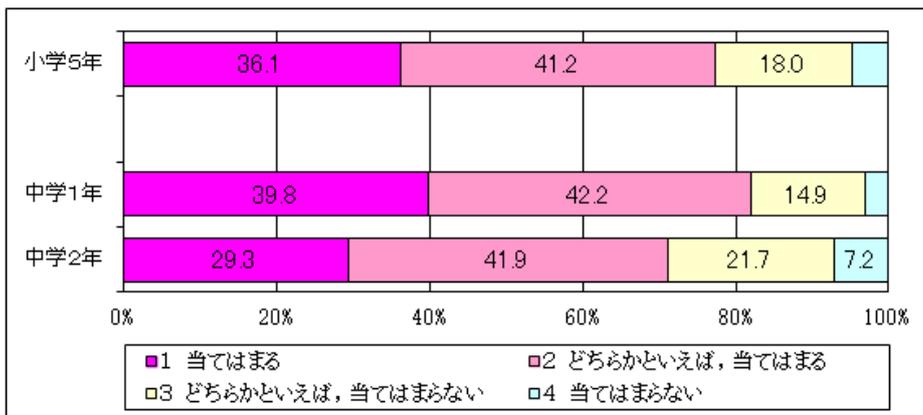
県:(18)イ 社会の勉強は好きだ。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	23.9	32.4	26.8
2 どちらかといえば、当てはまる	33.6	30.8	32.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	27.6	24.7	26.0
4 当てはまらない	14.9	12.1	14.8



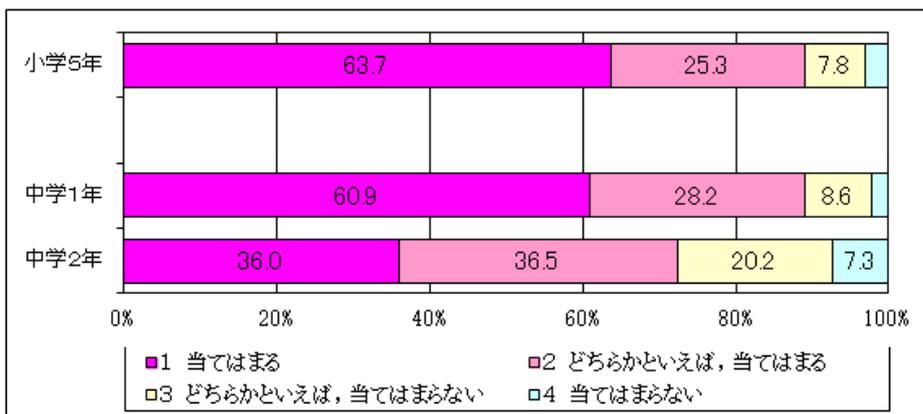
県:(19)イ 社会の授業の内容はよく分かる。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	36.1	39.8	29.3
2 どちらかといえば、当てはまる	41.2	42.2	41.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	18.0	14.9	21.7
4 当てはまらない	4.8	3.1	7.2



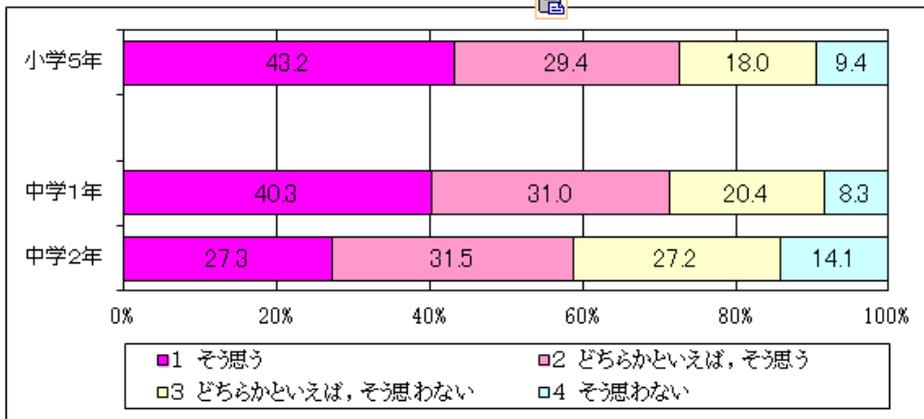
県:(20)イ 社会の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	63.7	60.9	36.0
2 どちらかといえば、当てはまる	25.3	28.2	36.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	7.8	8.6	20.2
4 当てはまらない	3.2	2.2	7.3



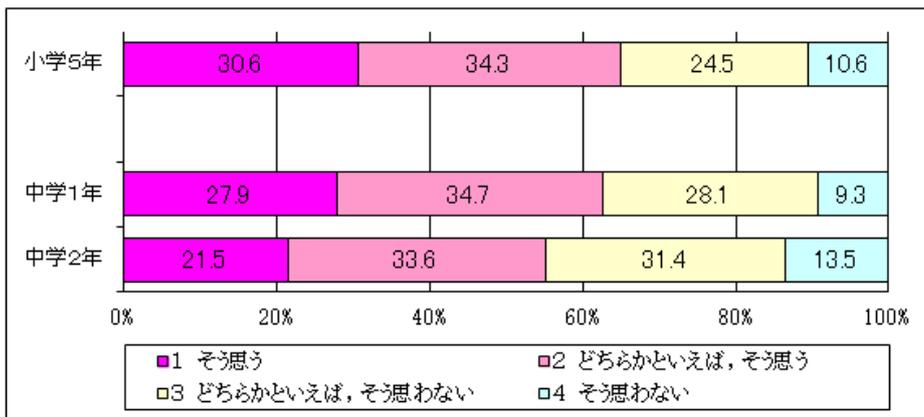
県:(26) 社会の授業で自分が考えたことや調べたことを、新聞のような形でノートや広用紙にまとめることは楽しい。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 そう思う	43.2	40.3	27.3
2 どちらかといえば、そう思う	29.4	31.0	31.5
3 どちらかといえば、そう思わない	18.0	20.4	27.2
4 そう思わない	9.4	8.3	14.1



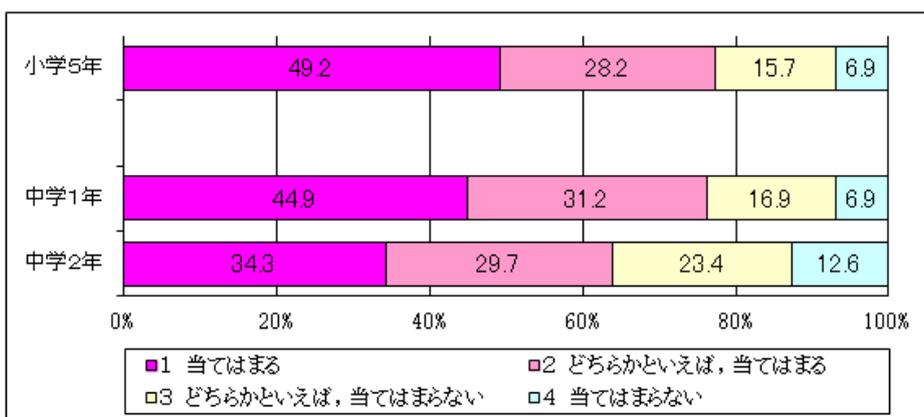
県:(27) 社会の授業で調べたことをもとに考え、話し合いをすること(討論すること)は楽しい。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 そう思う	30.6	27.9	21.5
2 どちらかといえば、そう思う	34.3	34.7	33.6
3 どちらかといえば、そう思わない	24.5	28.1	31.4
4 そう思わない	10.6	9.3	13.5



県:(28) 博物館や図書館、郷土資料館などで、自分の興味・関心をもったことについて調べることは好きだ。

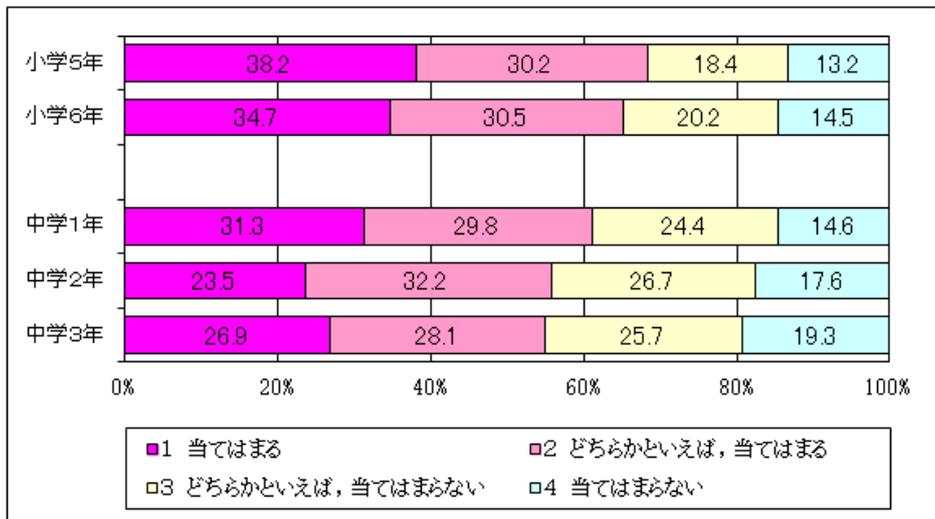
	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	49.2	44.9	34.3
2 どちらかといえば、当てはまる	28.2	31.2	29.7
3 どちらかといえば、当てはまらない	15.7	16.9	23.4
4 当てはまらない	6.9	6.9	12.6



算数・数学

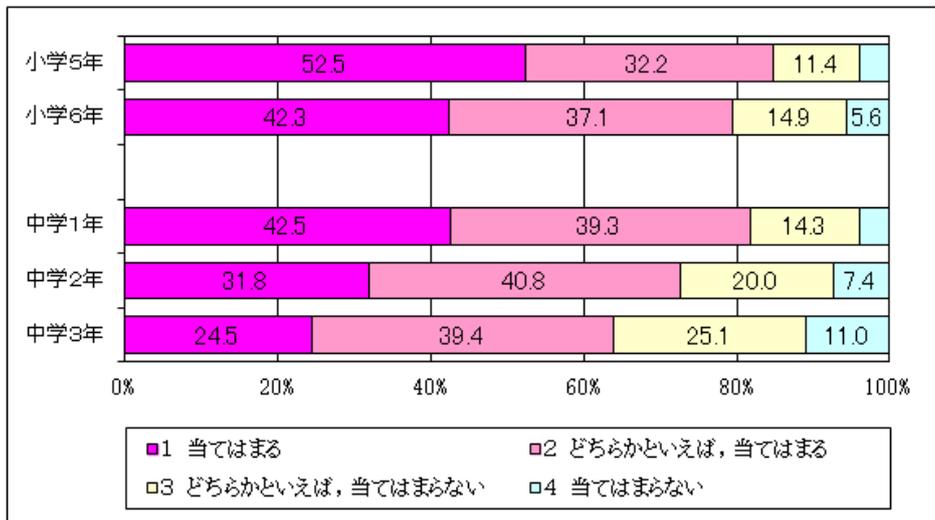
県:(18)ウ 算数・数学の勉強は好きだ。  
 全国:(56)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	38.2	34.7	31.3	23.5	26.9
2 どちらかといえば、当てはまる	30.2	30.5	29.8	32.2	28.1
3 どちらかといえば、当てはまらない	18.4	20.2	24.4	26.7	25.7
4 当てはまらない	13.2	14.5	14.6	17.6	19.3



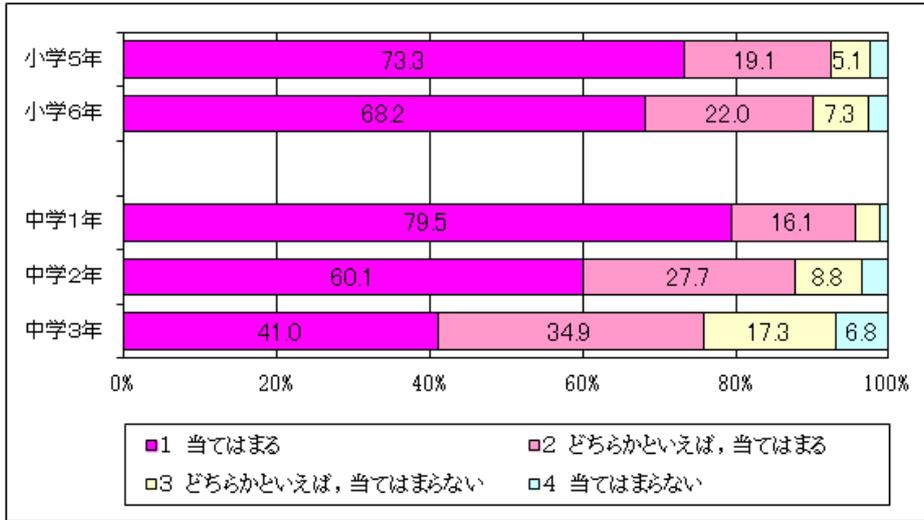
県:(19)ウ 算数・数学の授業の内容はよく分かる。  
 全国:(58)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	52.5	42.3	42.5	31.8	24.5
2 どちらかといえば、当てはまる	32.2	37.1	39.3	40.8	39.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	11.4	14.9	14.3	20.0	25.1
4 当てはまらない	4.0	5.6	3.9	7.4	11.0



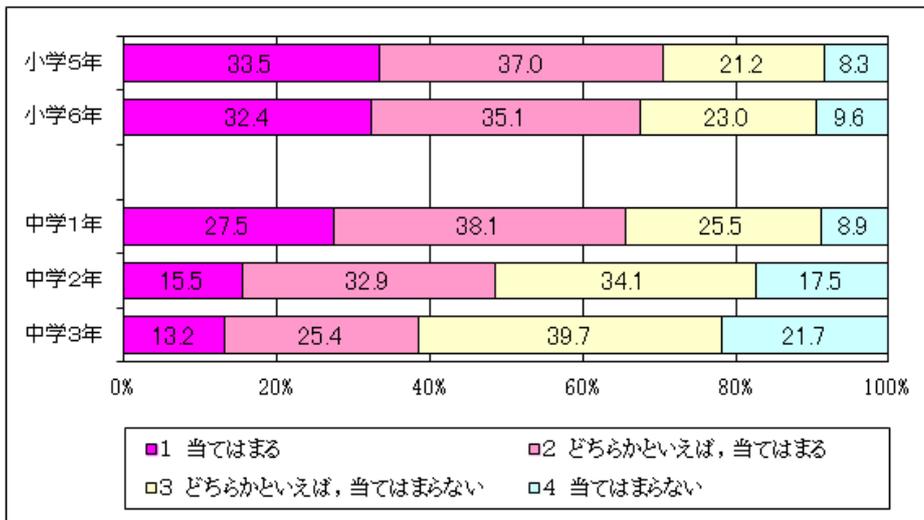
県:(20)ウ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ  
 全国:(62)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	73.3	68.2	79.5	60.1	41.0
2 どちらかといえば、当てはまる	19.1	22.0	16.1	27.7	34.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	5.1	7.3	3.2	8.8	17.3
4 当てはまらない	2.5	2.6	1.2	3.5	6.8



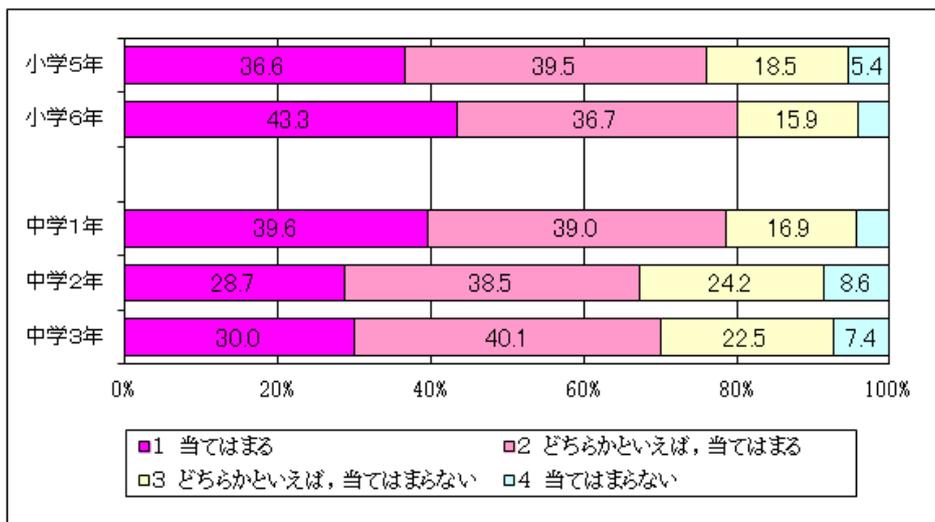
県:(29) 算数・数学の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考える。  
 全国:(61)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	33.5	32.4	27.5	15.5	13.2
2 どちらかといえば、当てはまる	37.0	35.1	38.1	32.9	25.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	21.2	23.0	25.5	34.1	39.7
4 当てはまらない	8.3	9.6	8.9	17.5	21.7



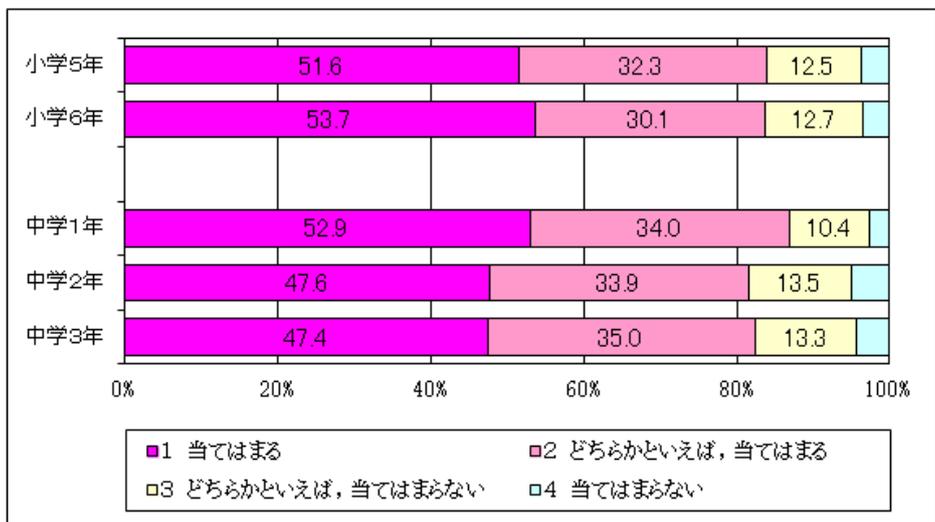
県:(30) 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ・根拠を理解するようにし  
 全国:(64) ている。

	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	36.6	43.3		39.6	28.7	30.0
2 どちらかといえば、当てはまる	39.5	36.7		39.0	38.5	40.1
3 どちらかといえば、当てはまらない	18.5	15.9		16.9	24.2	22.5
4 当てはまらない	5.4	4.0		4.4	8.6	7.4



県:(31) 算数・数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いてい  
 全国:(65) る。

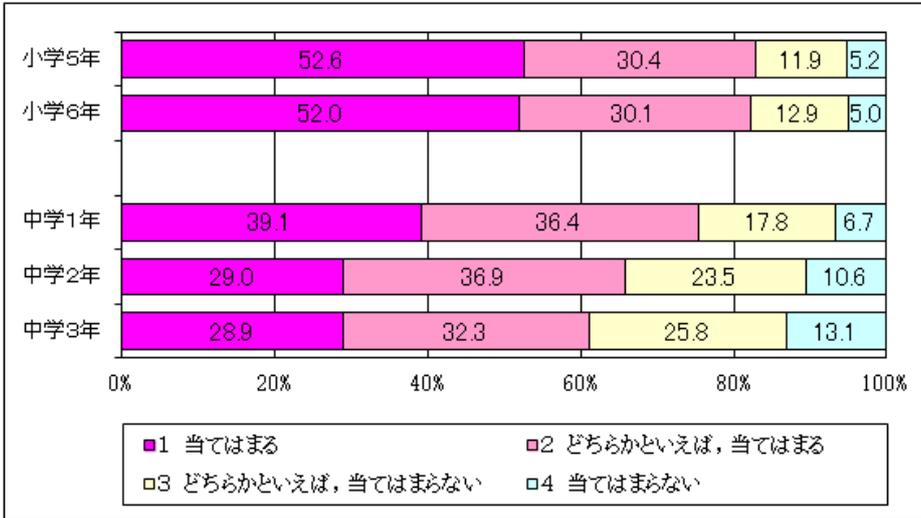
	小学5年	小学6年		中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	51.6	53.7		52.9	47.6	47.4
2 どちらかといえば、当てはまる	32.3	30.1		34.0	33.9	35.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	12.5	12.7		10.4	13.5	13.3
4 当てはまらない	3.7	3.5		2.7	4.9	4.3



理科

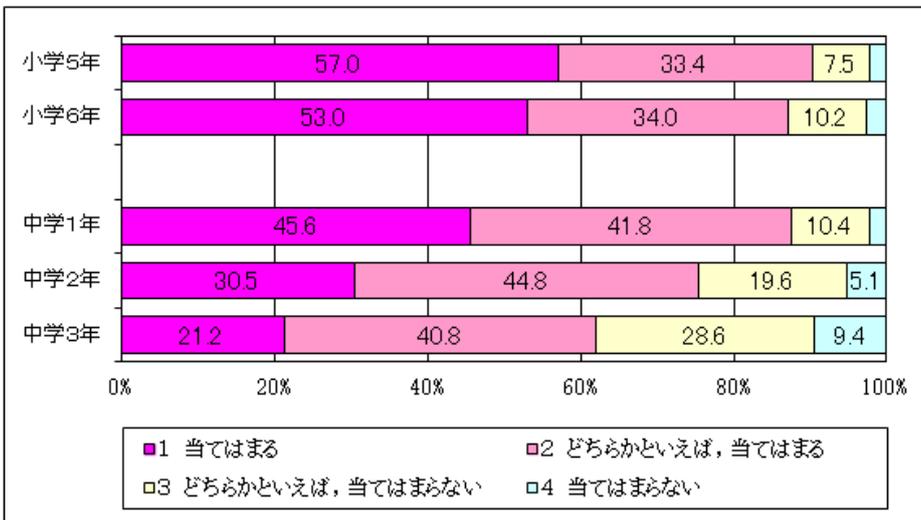
県:(18)エ 理科の勉強は好きだ。  
 全国:(67)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	52.6	52.0	39.1	29.0	28.9
2 どちらかといえば、当てはまる	30.4	30.1	36.4	36.9	32.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	11.9	12.9	17.8	23.5	25.8
4 当てはまらない	5.2	5.0	6.7	10.6	13.1



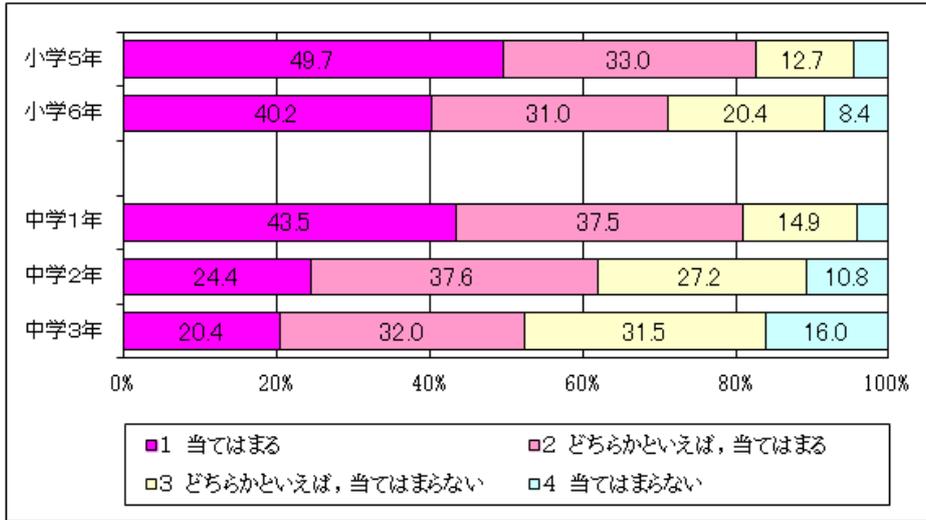
県:(19)エ 理科の授業の内容はよく分かる。  
 全国:(69)

	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	57.0	53.0	45.6	30.5	21.2
2 どちらかといえば、当てはまる	33.4	34.0	41.8	44.8	40.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	7.5	10.2	10.4	19.6	28.6
4 当てはまらない	2.2	2.7	2.2	5.1	9.4



県:(20)エ 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。  
 全国:(73)

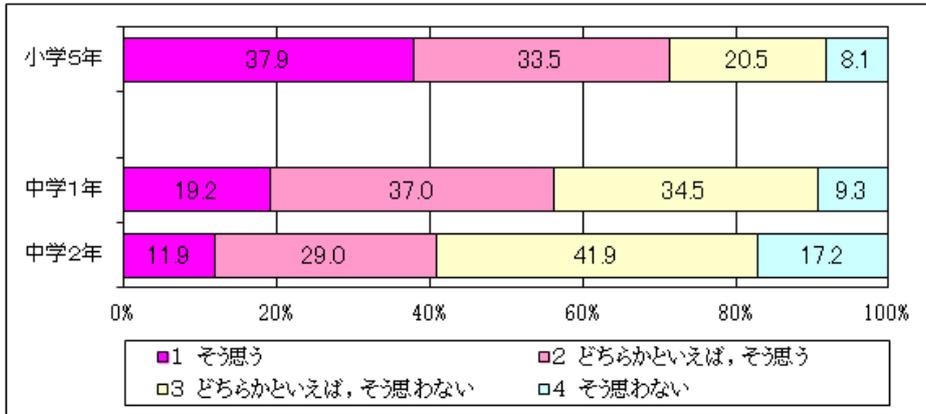
	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
1 当てはまる	49.7	40.2	43.5	24.4	20.4
2 どちらかといえば、当てはまる	33.0	31.0	37.5	37.6	32.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	12.7	20.4	14.9	27.2	31.5
4 当てはまらない	4.6	8.4	4.1	10.8	16.0



県:小(32) 理科の授業で、自分の考えを発表したり友達に話したりするのは楽しい。

県:中(32) 理科の授業で、自分の考えを文章や図を使って表現したり発表したりしている。

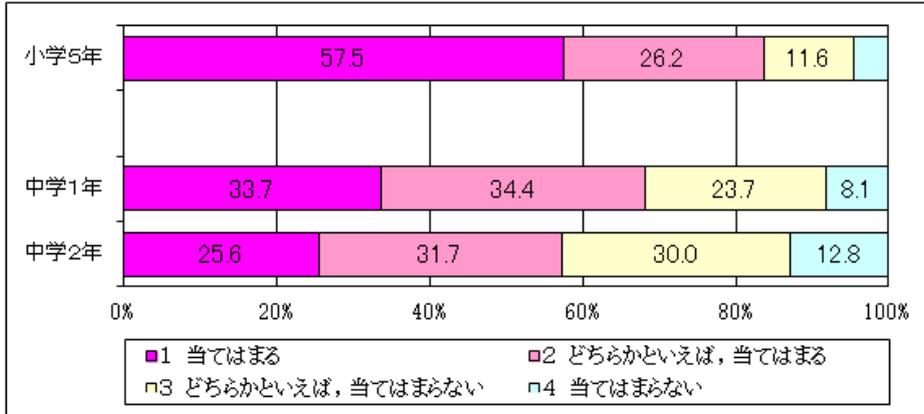
	小学5年	中学1年	中学2年
1 そう思う	37.9	19.2	11.9
2 どちらかといえば、そう思う	33.5	37.0	29.0
3 どちらかといえば、そう思わない	20.5	34.5	41.9
4 そう思わない	8.1	9.3	17.2



県:小(33) 理科の授業で、観察や実験について図や文字で記録をしていくことは好きだ。

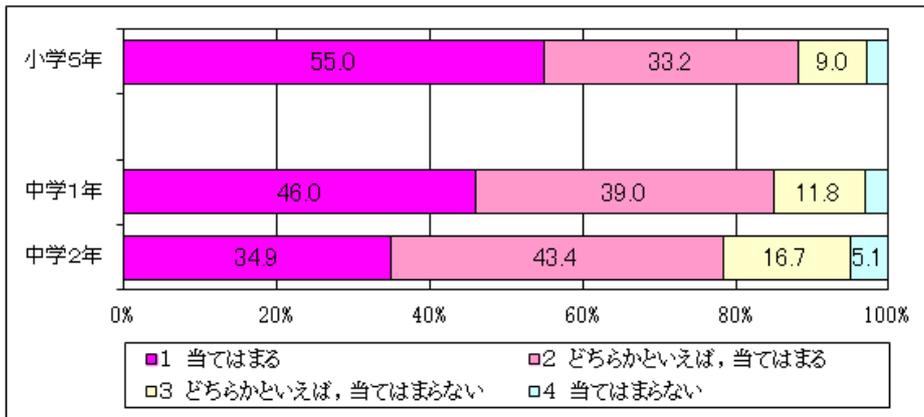
県:中(33) 理科の授業で、問題を解決するために、自分で観察や実験を計画し実施したいと思う。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	57.5	33.7	25.6
2 どちらかといえば、当てはまる	26.2	34.4	31.7
3 どちらかといえば、当てはまらない	11.6	23.7	30.0
4 当てはまらない	4.7	8.1	12.8



県:(34) 理科の授業で、自分が何を調べるのかははっきり分かって観察や実験を行っている。

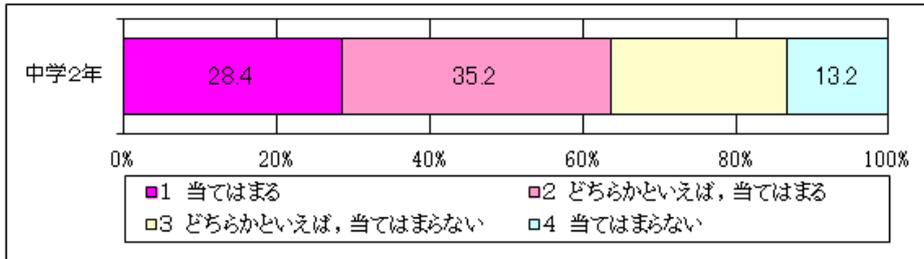
	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる	55.0	46.0	34.9
2 どちらかといえば、当てはまる	33.2	39.0	43.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	9.0	11.8	16.7
4 当てはまらない	2.8	3.2	5.1



英語

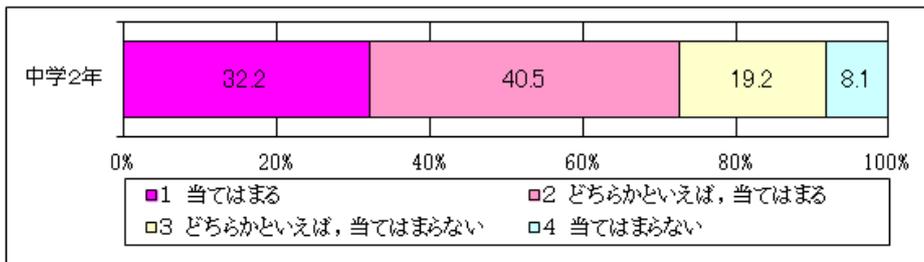
県:(18)オ 英語の勉強は好きだ。※ 2年生だけ教えてください。あとの質問も同じです。

	小学5年		中学1年	中学2年
1 当てはまる				28.4
2 どちらかといえば、当てはまる				35.2
3 どちらかといえば、当てはまらない				23.1
4 当てはまらない				13.2



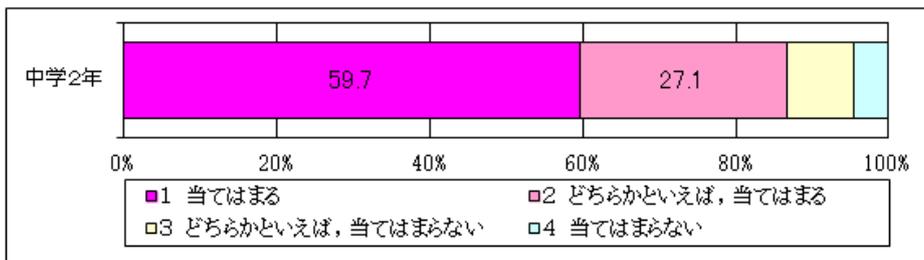
県:(19)オ 英語の授業の内容はよく分かる。

	小学5年		中学1年	中学2年
1 当てはまる				32.2
2 どちらかといえば、当てはまる				40.5
3 どちらかといえば、当てはまらない				19.2
4 当てはまらない				8.1



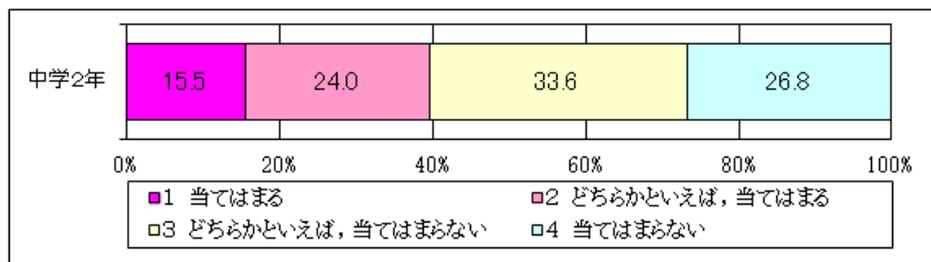
県:(20)オ 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。

	小学5年		中学1年	中学2年
1 当てはまる				59.7
2 どちらかといえば、当てはまる				27.1
3 どちらかといえば、当てはまらない				8.7
4 当てはまらない				4.5



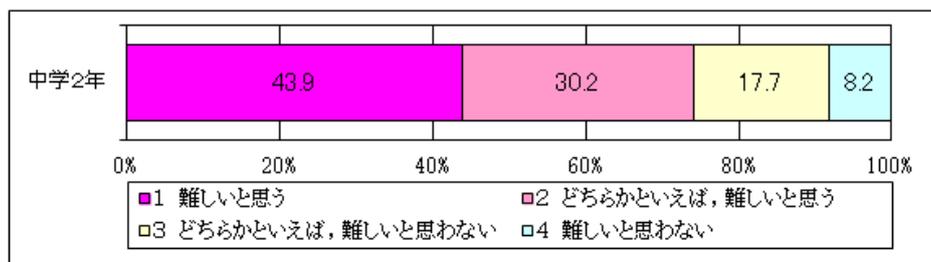
県:(35) 英語の授業で、あたえられたテーマについて、英語で簡単なスピーチをすることは好きだ。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる			15.5
2 どちらかといえば、当てはまる			24.0
3 どちらかといえば、当てはまらない			33.6
4 当てはまらない			26.8



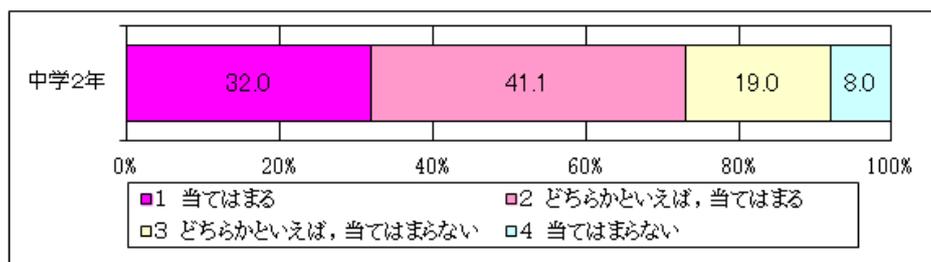
県:(36) 英語の授業で、身近な話題について自分の考えや気持ちなどを英語で書くことは難しい。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 難しいと思う			43.9
2 どちらかといえば、難しいと思う			30.2
3 どちらかといえば、難しいと思わない			17.7
4 難しいと思わない			8.2



県:(37) 英語の授業で英語を聞いたり読んだりするとき、大まかな流れや大切な部分をつかみながら聞いたり読んだりしている。

	小学5年	中学1年	中学2年
1 当てはまる			32.0
2 どちらかといえば、当てはまる			41.1
3 どちらかといえば、当てはまらない			19.0
4 当てはまらない			8.0



最終更新日: 2012-10-15

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅱ 調査結果の概要

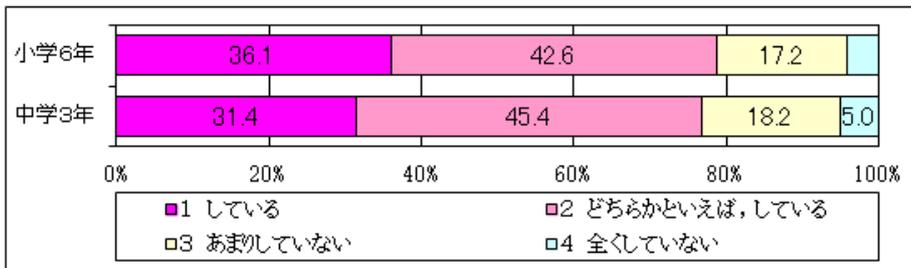
## 全国学力・学習状況調査を活用した調査のみの設問共通グラフ

※数値は小数第二位で四捨五入している。

※グラフにおいては、5.0未満の値については表示していない。

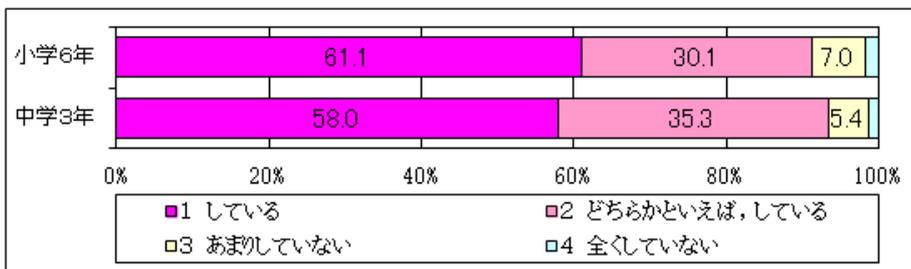
全国:(2) 毎日、同じくらいの時刻にねている。

	小学6年	中学3年
1 している	36.1	31.4
2 どちらかといえば、している	42.6	45.4
3 あまりしていない	17.2	18.2
4 全くしていない	4.0	5.0



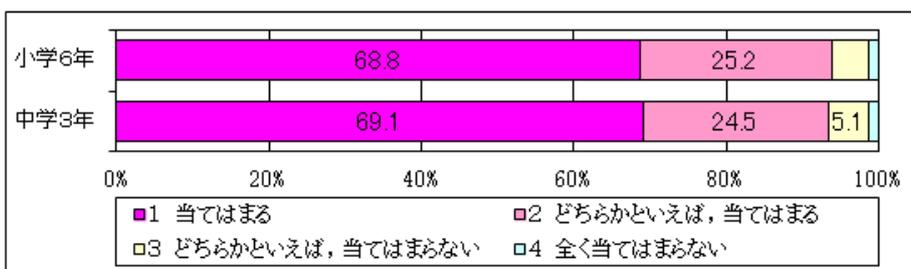
全国:(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きている。

	小学6年	中学3年
1 している	61.1	58.0
2 どちらかといえば、している	30.1	35.3
3 あまりしていない	7.0	5.4
4 全くしていない	1.8	1.2



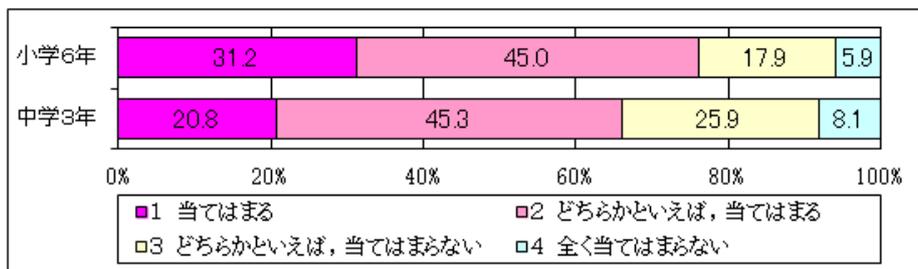
全国:(4) ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	68.8	69.1
2 どちらかといえば、当てはまる	25.2	24.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	4.7	5.1
4 全く当てはまらない	1.3	1.3



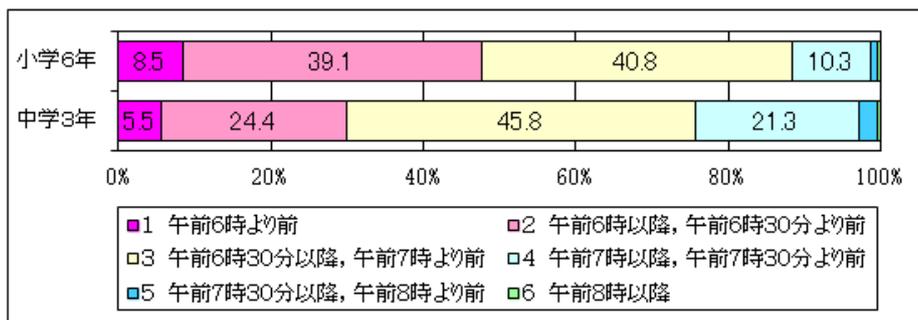
全国:(5) 自分には、よいところがあると思う。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	31.2	20.8
2 どちらかといえば、当てはまる	45.0	45.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	17.9	25.9
4 全く当てはまらない	5.9	8.1



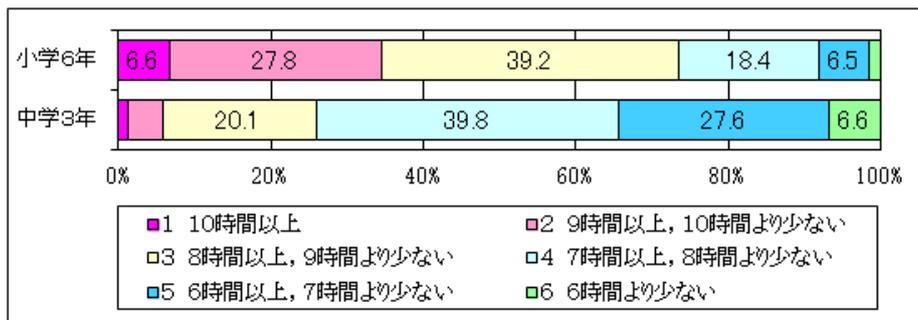
全国:(7) 普段(月曜日から金曜日)、何時ごろに起きますか。

	小学6年	中学3年
1 午前6時より前	8.5	5.5
2 午前6時以降、午前6時30分より前	39.1	24.4
3 午前6時30分以降、午前7時より前	40.8	45.8
4 午前7時以降、午前7時30分より前	10.3	21.3
5 午前7時30分以降、午前8時より前	0.9	2.5
6 午前8時以降	0.4	0.4



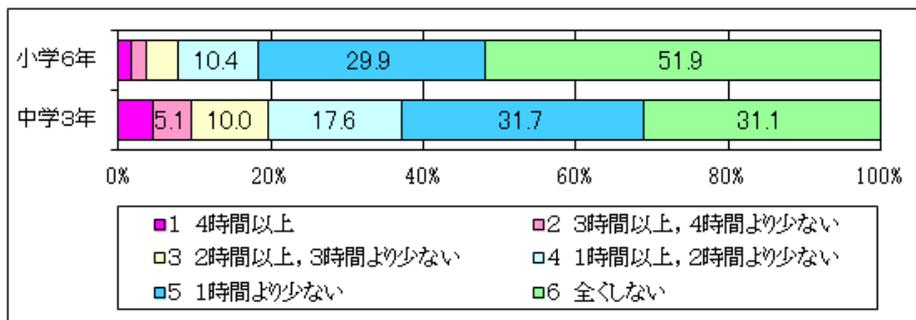
全国:(9) 普段(月曜日から金曜日)、1日にどれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いですか。

	小学6年	中学3年
1 10時間以上	6.6	1.2
2 9時間以上、10時間より少ない	27.8	4.7
3 8時間以上、9時間より少ない	39.2	20.1
4 7時間以上、8時間より少ない	18.4	39.8
5 6時間以上、7時間より少ない	6.5	27.6
6 6時間より少ない	1.5	6.6



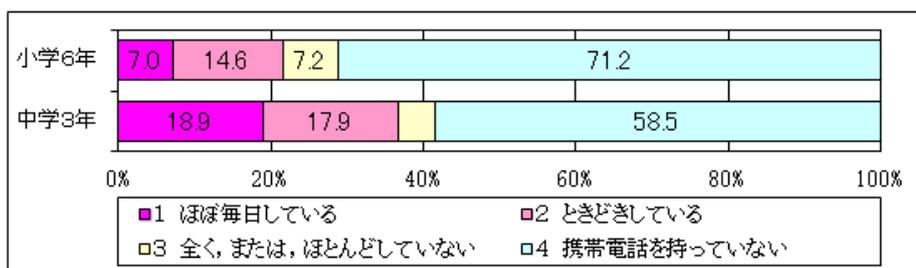
全国:(12) 普段(月曜日から金曜日), 1日あたりどれくらいの時間, インターネット(携帯電話を使ってインターネットをする場合もふくみます。)をしますか。

	小学6年	中学3年
1 4時間以上	1.6	4.5
2 3時間以上, 4時間より少ない	2.0	5.1
3 2時間以上, 3時間より少ない	4.3	10.0
4 1時間以上, 2時間より少ない	10.4	17.6
5 1時間より少ない	29.9	31.7
6 全くしない	51.9	31.1



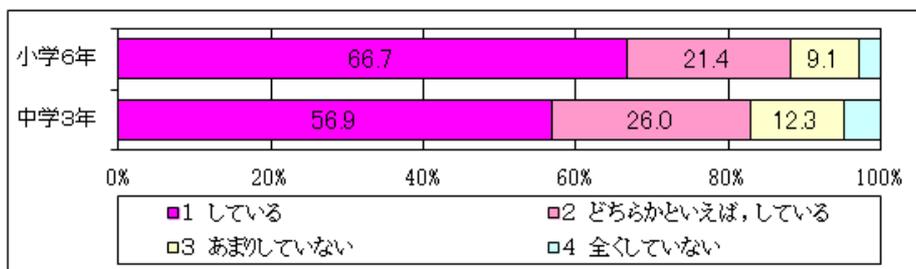
全国:(13) 携帯電話で通話やメールをしていますか。

	小学6年	中学3年
1 ほぼ毎日している	7.0	18.9
2 ときどきしている	14.6	17.9
3 全く, または, ほとんどしていない	7.2	4.8
4 携帯電話を持っていない	71.2	58.5



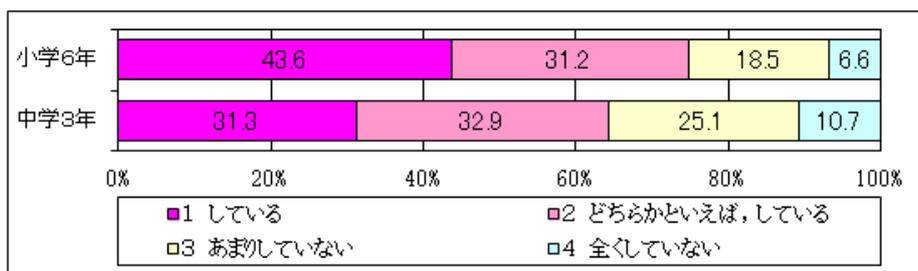
全国:(19) 普段(月曜日から金曜日), 夕食をいっしょに食べる。

	小学6年	中学3年
1 している	66.7	56.9
2 どちらかといえば, している	21.4	26.0
3 あまりしていない	9.1	12.3
4 全くしていない	2.8	4.8



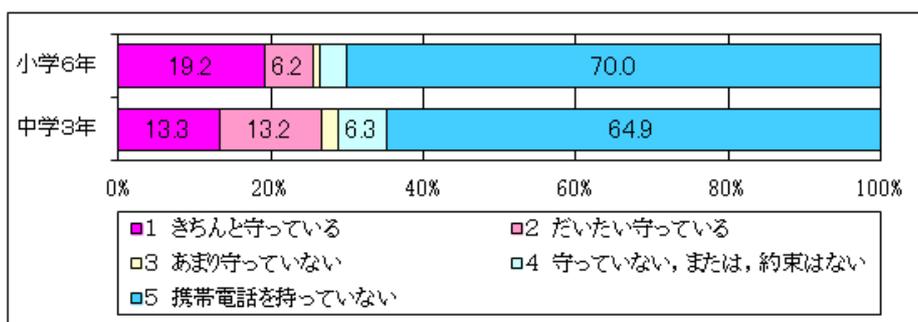
全国:(20) 学校での出来事について話をする。

	小学6年	中学3年
1 している	43.6	31.3
2 どちらかといえば、している	31.2	32.9
3 あまりしていない	18.5	25.1
4 全くしていない	6.6	10.7



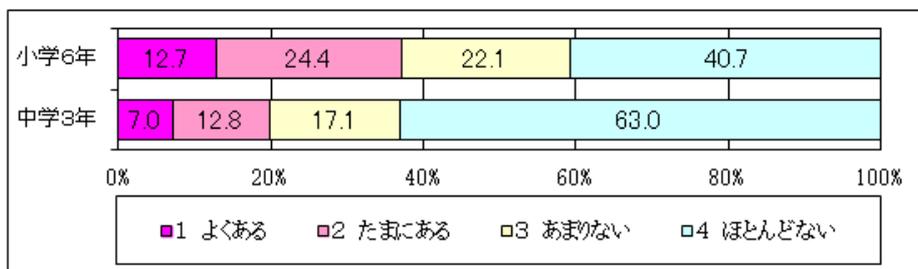
全国:(22) 携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

	小学6年	中学3年
1 きちんと守っている	19.2	13.3
2 だいたい守っている	6.2	13.2
3 あまり守っていない	1.0	2.3
4 守っていない、または、約束はない	3.5	6.3
5 携帯電話を持っていない	70.0	64.9



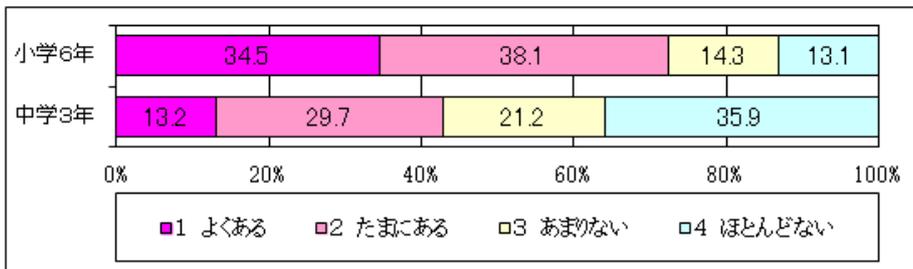
全国:(30) 学校や塾の先生や家の人以外の地域の大人といっしょに遊んだり、勉強を教えてもらったりすることがありますか。

	小学6年	中学3年
1 よくある	12.7	7.0
2 たまにある	24.4	12.8
3 あまりない	22.1	17.1
4 ほとんどない	40.7	63.0



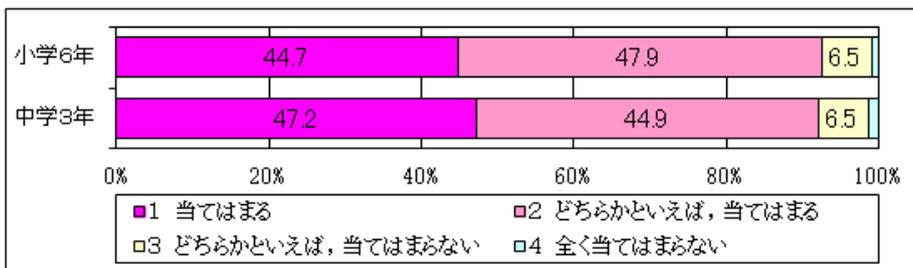
全国:(31) 年上や年下の友達といっしょに遊んだり、勉強したりすることがありますか。

	小学6年	中学3年
1 よくある	34.5	13.2
2 たまにある	38.1	29.7
3 あまりない	14.3	21.2
4 ほとんどない	13.1	35.9



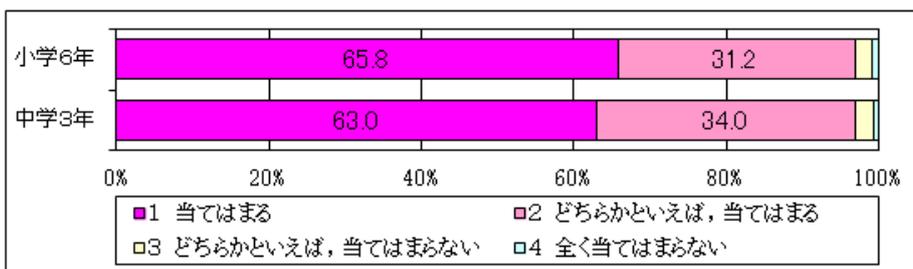
全国:(32) 学校のきまりを守っている。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	44.7	47.2
2 どちらかといえば、当てはまる	47.9	44.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	6.5	6.5
4 全く当てはまらない	0.9	1.4



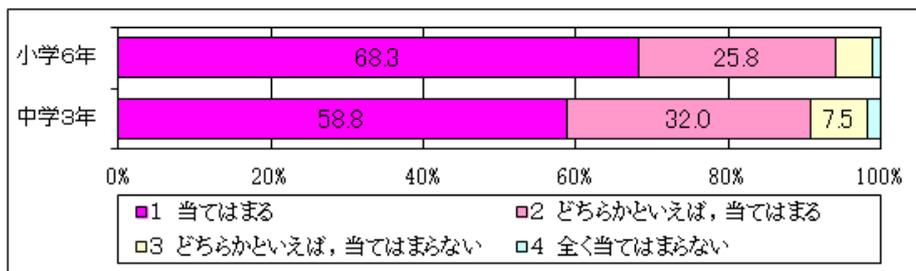
全国:(33) 友達との約束を守っている。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	65.8	63.0
2 どちらかといえば、当てはまる	31.2	34.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	2.3	2.4
4 全く当てはまらない	0.7	0.7



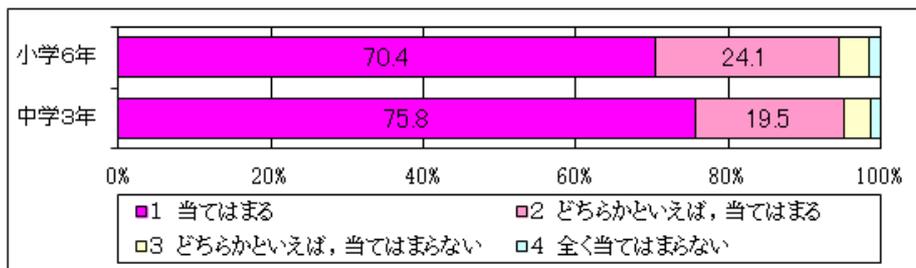
全国:(34) 近所の人に出会ったときは、あいさつをしている。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	68.3	58.8
2 どちらかといえば、当てはまる	25.8	32.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	4.8	7.5
4 全く当てはまらない	1.1	1.6



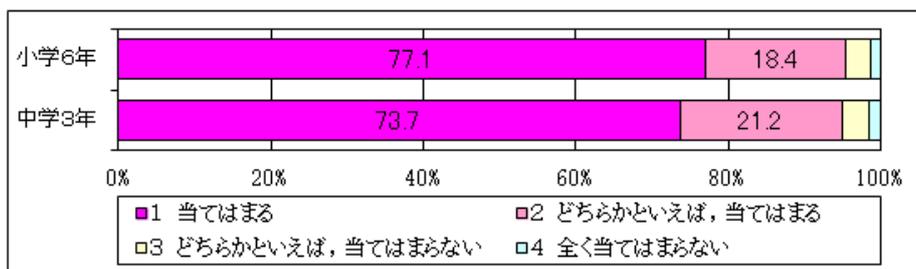
全国:(35) 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	70.4	75.8
2 どちらかといえば、当てはまる	24.1	19.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	4.1	3.3
4 全く当てはまらない	1.4	1.4



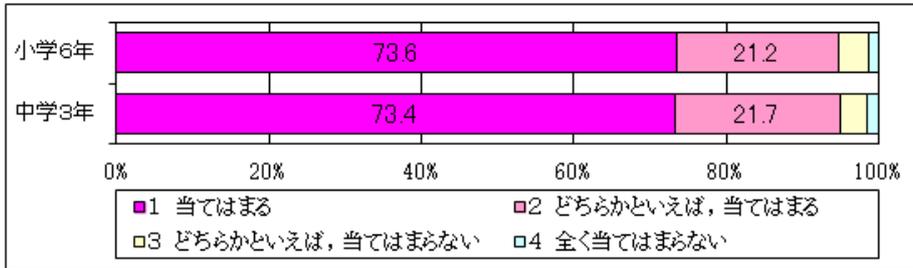
全国:(36) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	77.1	73.7
2 どちらかといえば、当てはまる	18.4	21.2
3 どちらかといえば、当てはまらない	3.3	3.7
4 全く当てはまらない	1.2	1.4



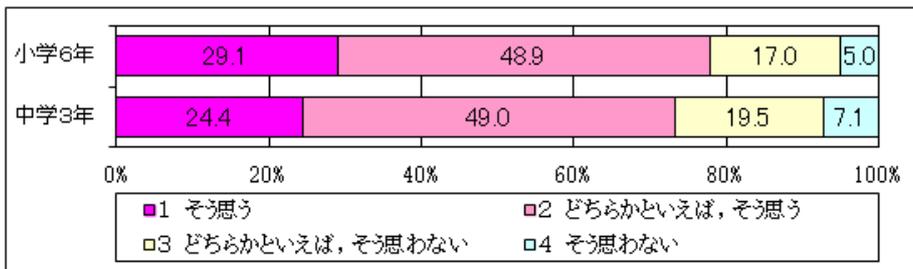
全国:(37) 人の役に立つ人間になりたいと思う。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	73.6	73.4
2 どちらかといえば、当てはまる	21.2	21.7
3 どちらかといえば、当てはまらない	4.0	3.6
4 全く当てはまらない	1.3	1.4



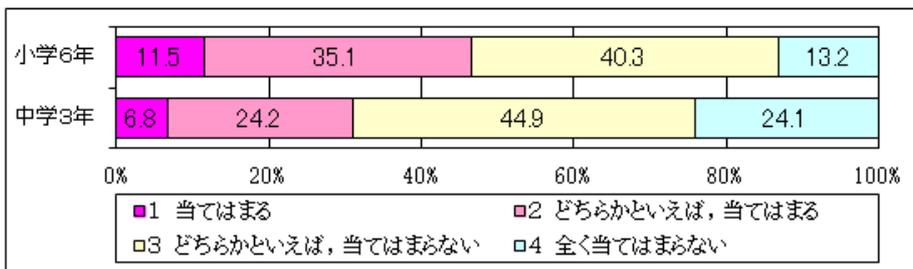
全国:(38) あなたの学級では、学級の友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思いますか。

	小学6年	中学3年
1 そう思う	29.1	24.4
2 どちらかといえば、そう思う	48.9	49.0
3 どちらかといえば、そう思わない	17.0	19.5
4 そう思わない	5.0	7.1



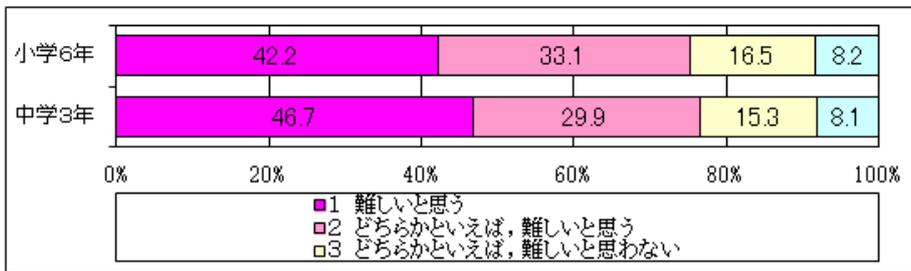
全国:(40) ふだんの授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思う。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	11.5	6.8
2 どちらかといえば、当てはまる	35.1	24.2
3 どちらかといえば、当てはまらない	40.3	44.9
4 全く当てはまらない	13.2	24.1



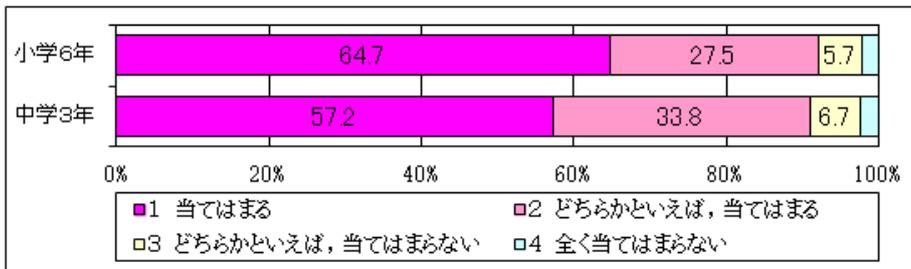
全国:(43) 400字づめ原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのは難しい。

	小学6年	中学3年
1 難しいと思う	42.2	46.7
2 どちらかといえば、難しいと思う	33.1	29.9
3 どちらかといえば、難しいと思わない	16.5	15.3
4 難しいと思わない	8.2	8.1



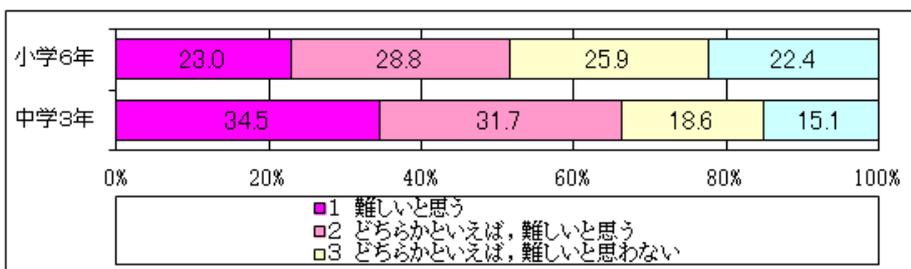
全国:(46) 国語の勉強は大切だ。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	64.7	57.2
2 どちらかといえば、当てはまる	27.5	33.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	5.7	6.7
4 全く当てはまらない	2.1	2.3



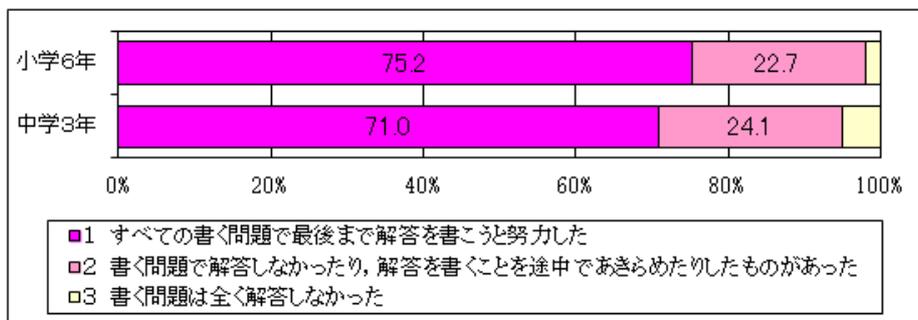
全国:(54) この問題にあるような、長い文章を読むのは難しい。

	小学6年	中学3年
1 難しいと思う	23.0	34.5
2 どちらかといえば、難しいと思う	28.8	31.7
3 どちらかといえば、難しいと思わない	25.9	18.6
4 難しいと思わない	22.4	15.1



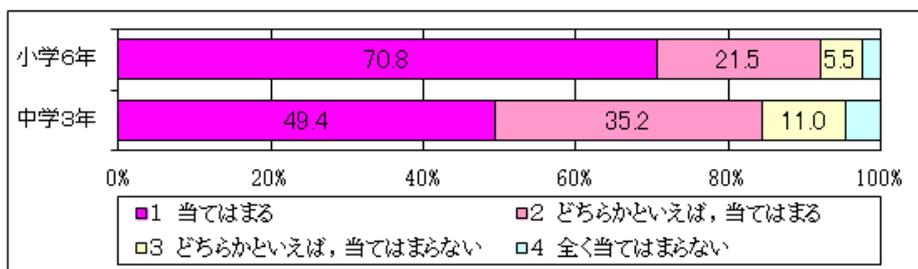
全国:(55) 解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。

	小学6年	中学3年
1 すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	75.2	71.0
2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた	22.7	24.1
3 書く問題は全く解答しなかった	2.0	4.9



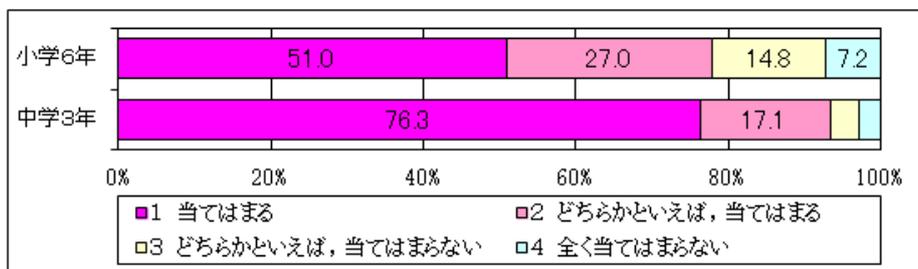
全国:(57) 算数の勉強は大切だ。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	70.8	49.4
2 どちらかといえば、当てはまる	21.5	35.2
3 どちらかといえば、当てはまらない	5.5	11.0
4 全く当てはまらない	2.3	4.4



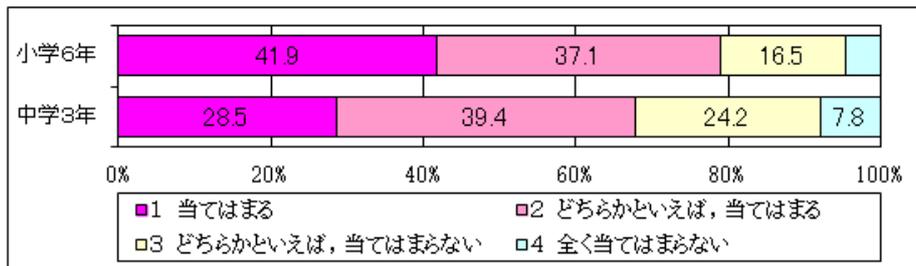
全国:(59) 算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたい。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	51.0	76.3
2 どちらかといえば、当てはまる	27.0	17.1
3 どちらかといえば、当てはまらない	14.8	3.8
4 全く当てはまらない	7.2	2.8



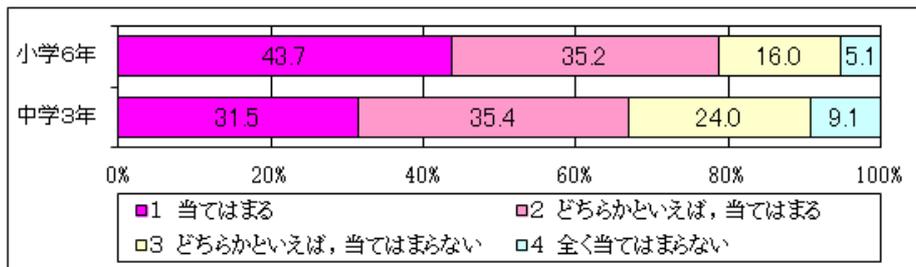
全国:(60) 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	41.9	28.5
2 どちらかといえば、当てはまる	37.1	39.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	16.5	24.2
4 全く当てはまらない	4.6	7.8



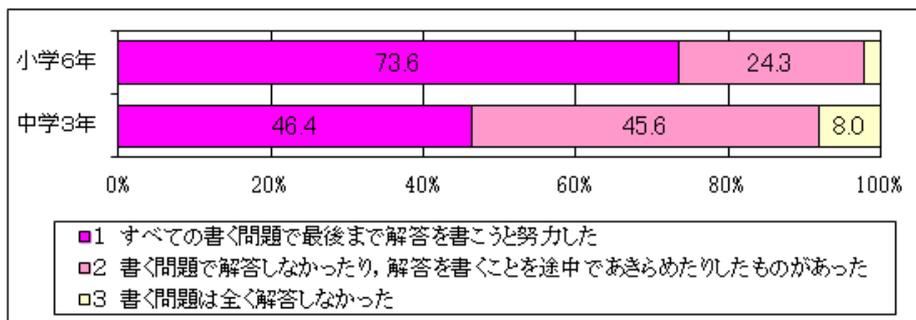
全国:(63) 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	43.7	31.5
2 どちらかといえば、当てはまる	35.2	35.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	16.0	24.0
4 全く当てはまらない	5.1	9.1



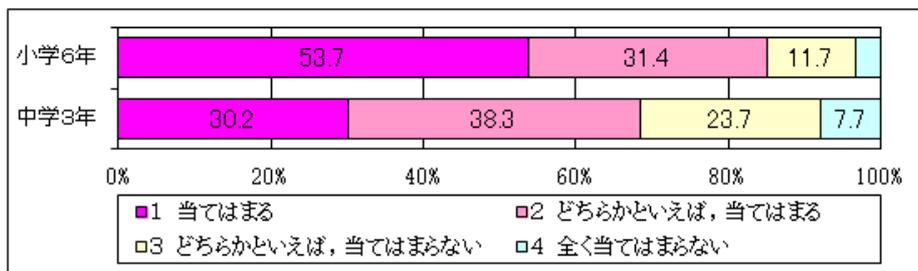
全国:(66) 言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。

	小学6年	中学3年
1 すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	73.6	46.4
2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった	24.3	45.6
3 書く問題は全く解答しなかった	2.2	8.0



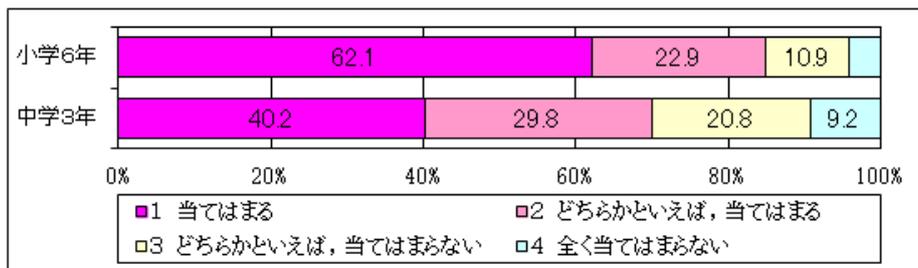
全国:(68) 理科の勉強は大切だ。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	53.7	30.2
2 どちらかといえば、当てはまる	31.4	38.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	11.7	23.7
4 全く当てはまらない	3.1	7.7



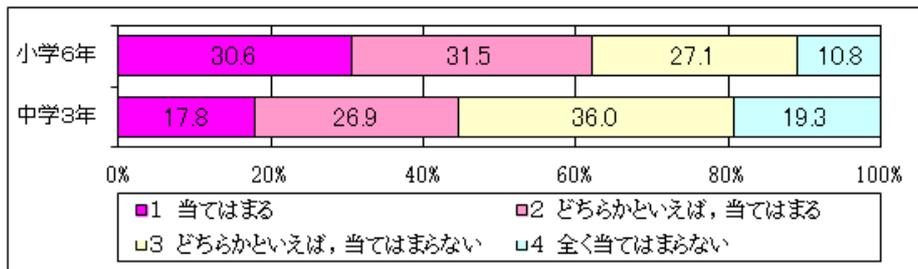
全国:(70) 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	62.1	40.2
2 どちらかといえば、当てはまる	22.9	29.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	10.9	20.8
4 全く当てはまらない	4.1	9.2



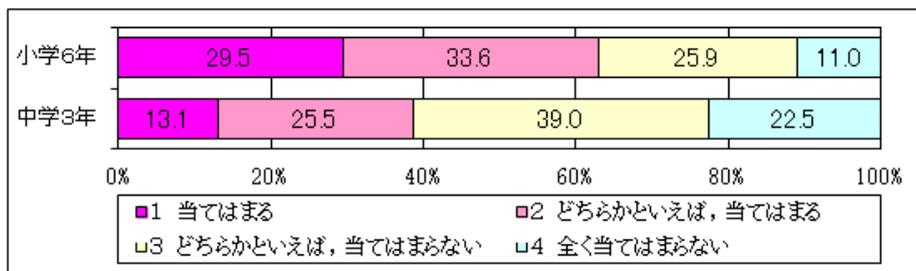
全国:(71) 科学や自然について疑問を持ち、その疑問について人に質問したり、調べたりすることがある。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	30.6	17.8
2 どちらかといえば、当てはまる	31.5	26.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	27.1	36.0
4 全く当てはまらない	10.8	19.3



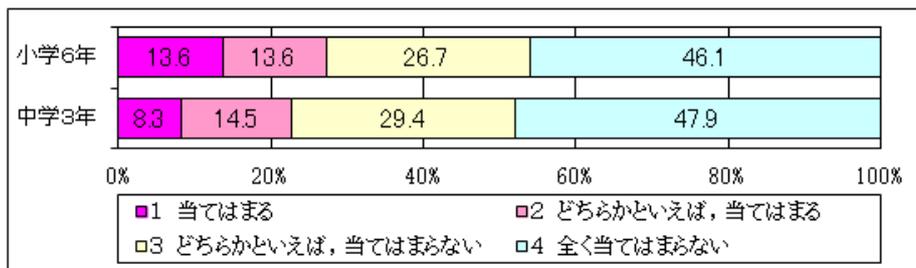
全国:(72) 理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考える。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	29.5	13.1
2 どちらかといえば、当てはまる	33.6	25.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	25.9	39.0
4 全く当てはまらない	11.0	22.5



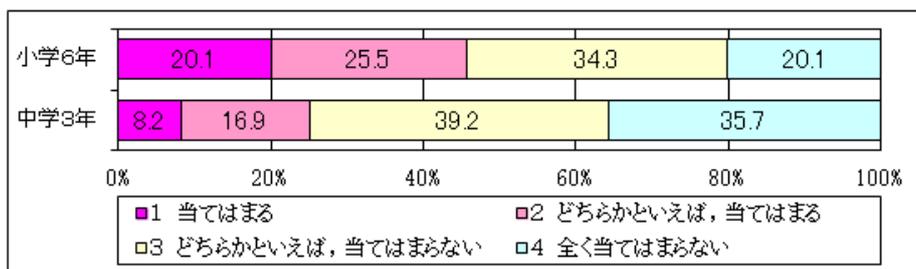
全国:(74) 将来、理科や科学技術に関する職業に就きたい。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	13.6	8.3
2 どちらかといえば、当てはまる	13.6	14.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	26.7	29.4
4 全く当てはまらない	46.1	47.9



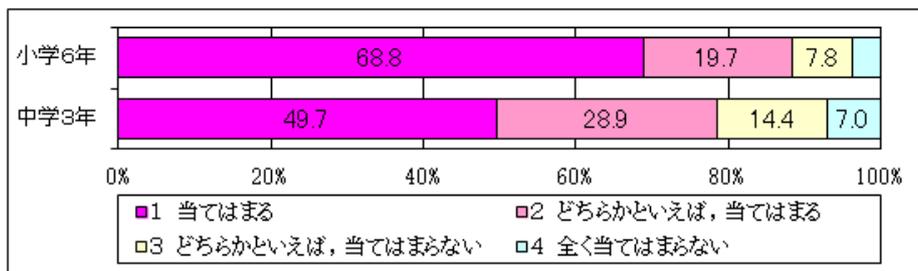
全国:(75) 理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	20.1	8.2
2 どちらかといえば、当てはまる	25.5	16.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	34.3	39.2
4 全く当てはまらない	20.1	35.7



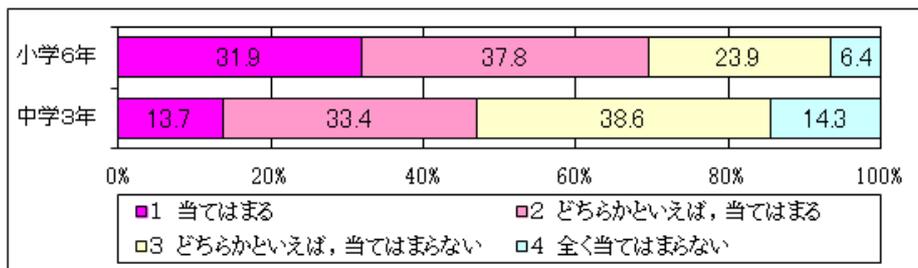
全国:(76) 観察や実験を行うことは好きだ。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	68.8	49.7
2 どちらかといえば、当てはまる	19.7	28.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	7.8	14.4
4 全く当てはまらない	3.6	7.0



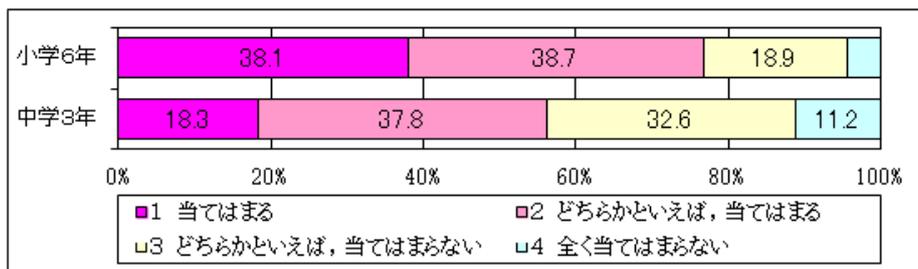
全国:(77) 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	31.9	13.7
2 どちらかといえば、当てはまる	37.8	33.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	23.9	38.6
4 全く当てはまらない	6.4	14.3



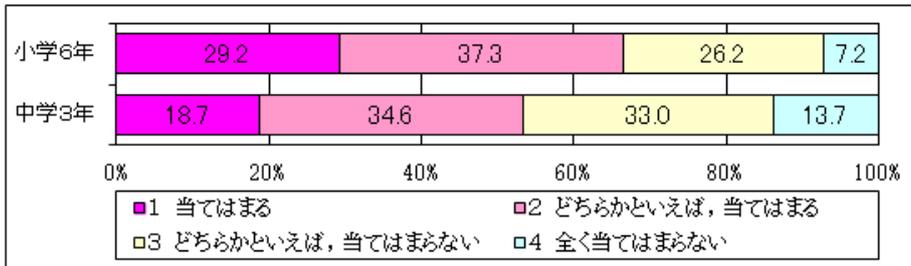
全国:(78) 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	38.1	18.3
2 どちらかといえば、当てはまる	38.7	37.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	18.9	32.6
4 全く当てはまらない	4.3	11.2



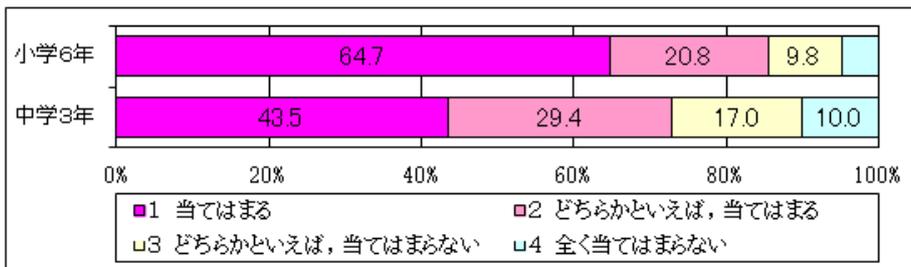
全国:(79) 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方がまちがっていないかをふり返って考えている。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	29.2	18.7
2 どちらかといえば、当てはまる	37.3	34.6
3 どちらかといえば、当てはまらない	26.2	33.0
4 全く当てはまらない	7.2	13.7



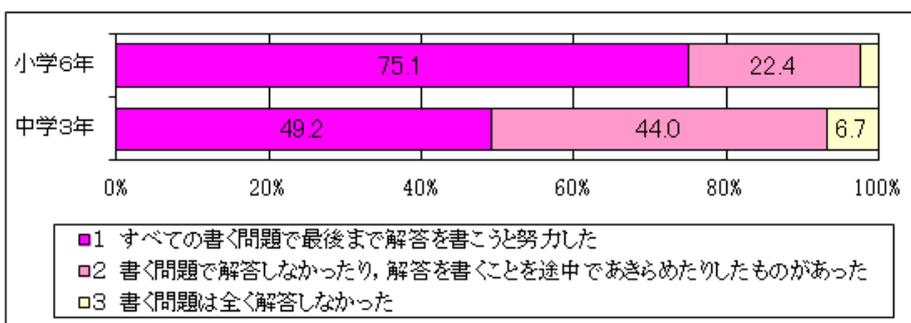
全国:(80) 理科の授業でものをつくることは好きだ。

	小学6年	中学3年
1 当てはまる	64.7	43.5
2 どちらかといえば、当てはまる	20.8	29.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	9.8	17.0
4 全く当てはまらない	4.7	10.0



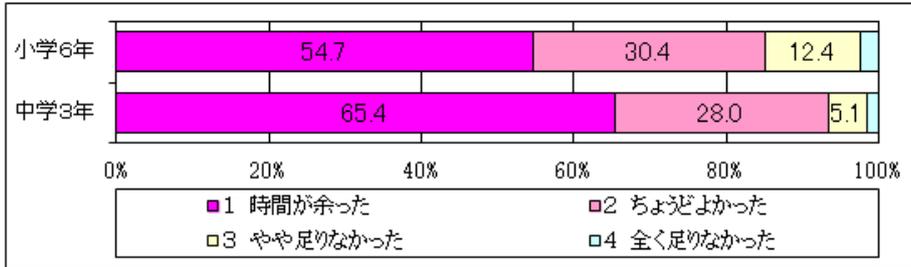
全国:(81) 言葉や文章を使って、わけを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。

	小学6年	中学3年
1 すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	75.1	49.2
2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった	22.4	44.0
3 書く問題は全く解答しなかった	2.4	6.7



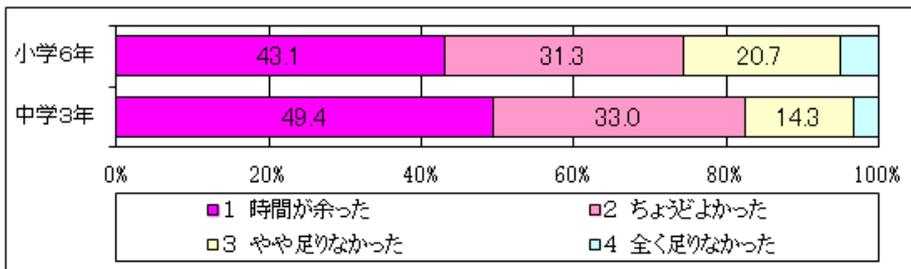
全国: 小(82) 国語A(20分)  
中(82) 国語A(45分)

	小学6年	中学3年
1 時間が余った	54.7	65.4
2 ちょうどよかった	30.4	28.0
3 やや足りなかった	12.4	5.1
4 全く足りなかった	2.4	1.5



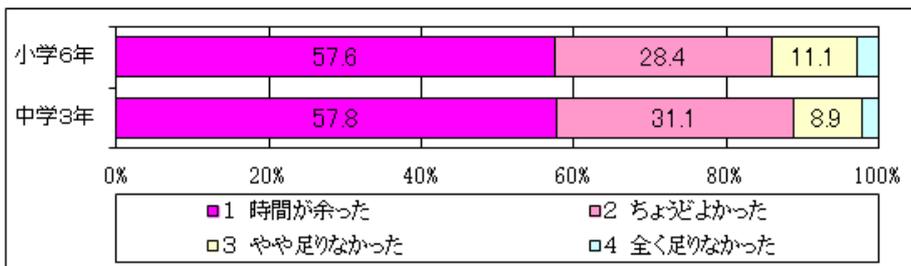
全国: 小(83) 国語B(40分)  
中(83) 国語B(40分)

	小学6年	中学3年
1 時間が余った	43.1	49.4
2 ちょうどよかった	31.3	33.0
3 やや足りなかった	20.7	14.3
4 全く足りなかった	4.9	3.2



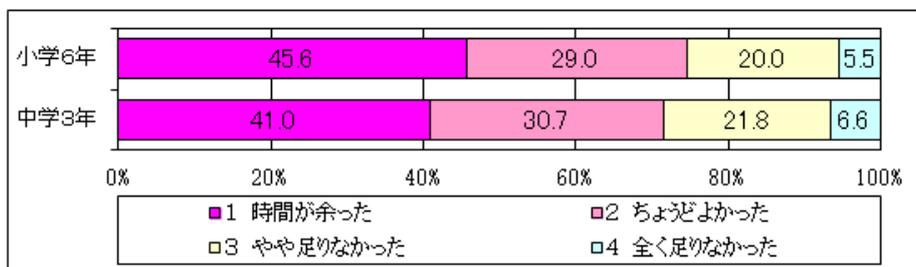
全国: 小(84) 算数A(20分)  
中(84) 数学A(45分)

	小学6年	中学3年
1 時間が余った	57.6	57.8
2 ちょうどよかった	28.4	31.1
3 やや足りなかった	11.1	8.9
4 全く足りなかった	2.8	2.2



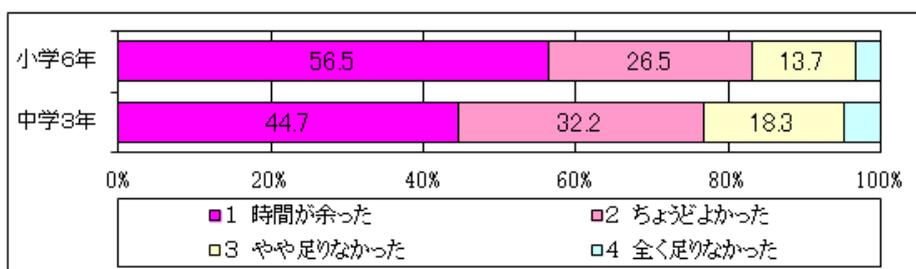
全国: 小(85) 算数B(40分)  
中(85) 数学B(45分)

	小学6年	中学3年
1 時間が余った	45.6	41.0
2 ちょうどよかった	29.0	30.7
3 やや足りなかった	20.0	21.8
4 全く足りなかった	5.5	6.6



全国: 小(86) 理科(40分)  
中(86) 理科(45分)

	小学6年	中学3年
1 時間が余った	56.5	44.7
2 ちょうどよかった	26.5	32.2
3 やや足りなかった	13.7	18.3
4 全く足りなかった	3.2	4.9



最終更新日: 2012-10-15

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

教師意識調査から見た佐賀県の教師像(小学校) ※数値は小数第一位で四捨五入している。→ [中学校はこちら](#)

## 教師意識調査から見た佐賀県の小学校教師像 (平成24年3月実施)

数値は、小数第1位で四捨五入している。

### 教科全般における指導法の工夫

- 発展的課題を取り入れた授業**  
多くの単元で行っている……9%  
半分程度の単元で行っている……20%
- 理解が十分でない児童への補足的指導**  
多くの単元で行っている……40%  
半分程度の単元で行っている……18%
- レポートや作文など、表現する活動を取り入れた授業**  
多くの単元で行っている……18%  
半分程度の単元で行っている……26%
- 表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業**  
多くの単元で行っている……48%  
半分程度の単元で行っている……25%
- 身に付けさせたい力を意識した総合的な学習における指導**  
行っている……35%  
どちらかといえば行っている……58%
- 学習目標や評価規準を明確化した指導**  
行っている……33%  
どちらかといえば行っている……61%
- 学習内容や学習方法についてのきめ細やかな指導**  
行っている……31%  
どちらかといえば行っている……59%
- 学習形態を工夫したメリハリのある授業**  
多くの単元で行っている……43%  
半分程度の単元で行っている……30%
- P D C Aサイクルを踏まえた実践**  
行っている……19%  
どちらかといえば行っている……64%

### 教科の特性に応じた指導法の工夫

小学校実施回答数 1200人

- 国語**
- 話したり聞いたりしたことを基に、自分の考えをもつような授業**  
多くの単元で……36%      半分程度の単元で……34%
- 書き手の考えや表現の仕方について、自分の考えをもつような授業**  
多くの単元で……41%      半分程度の単元で……34%
- 文章の内容や表現の仕方について、自分の考えをもつような授業**  
多くの単元で……33%      半分程度の単元で……39%
- 年間を通して、言葉の特徴やきまりなどの指導を行っているか**  
行っている……22%      どちらかといえば行っている……63%
- 社会**
- 資料などから読み取ったことをまとめる活動を取り入れた授業**  
多くの単元で……17%      半分程度の単元で……28%
- 資料などから読み取ったことを基に話し合うような授業**  
多くの単元で……14%      半分程度の単元で……27%
- 算数**
- 算数的活動を通して課題を解決する授業**  
多くの単元で……64%      半分程度の単元で……21%
- 問題解決的な学習を取り入れた授業**  
多くの単元で……50%      半分程度の単元で……28%
- 理科**
- 児童が見通しをもち、観察や実験をするような授業**  
多くの単元で……76%      半分程度の単元で……18%
- 実験結果やまとめにおいて、いろいろな考えを出し合う授業**  
多くの単元で……40%      半分程度の単元で……36%

### 学習環境の活用

- コンピュータを活用した授業**  
年20回以上……36%  
年10～19回程度……30%
- 【活用内容】  
インターネットを用いた調べ学習……50%  
教師がパソコンで行うプレゼンテーションや資料の提示など……34%
- 学校図書館を活用した授業**  
年20回以上……25%  
年10～19回程度……20%
- 【活用内容】  
読書指導・読書活動の場……43%  
調べ学習の場……46%



### 教師の指導観

- 児童が勉強するよう日頃から指導すべき**  
そう思う……81%  
どちらかといえばそう思う……18%
- 児童が規則を守るよう細かく指導すべき**  
そう思う……79%  
どちらかといえばそう思う……20%
- 勉強のことで児童が気軽に話しかけられるようにすべき**  
そう思う……92%  
どちらかといえばそう思う……8%
- 問題が起こった時、常に児童に意見を求めるべき**  
そう思う……34%  
どちらかといえばそう思う……57%

### 家庭学習への関与状況

- 宿題を出しているか**  
多くの時間で宿題を出している……58%  
どちらかといえば出している方が多い……23%
- 【宿題の内容】  
(「多くの時間で」どちらかといえば出している」を合わせた割合)  
予習的な内容の宿題を出している……13%  
復習的な内容の宿題を出している……85%  
調べたり書いたりする内容の宿題を出している……45%
- 家庭での学習方法について、指導をしているか**  
行っている……32%  
どちらかといえば行っている……48%

### 学校組織マネジメントに対する意識

- 学力向上や生徒指導など学校の方針を理解しているか**  
理解している……63%  
どちらかといえば理解している……36%
- 方針や教育内容についての共通理解が図られているか**  
そう思う……49%  
どちらかといえばそう思う……48%
- 学校内に気軽に話し合える雰囲気があるか**  
そう思う……60%  
どちらかといえばそう思う……36%

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > II 調査結果の概要

## 教師意識調査から見た佐賀県の教師像(中学校)※数値は小数第一位で四捨五入している。→ 小学校はこちら 教師意識調査からみた佐賀県の中学校教師像(平成24年3月実施)

数値は、小数第1位で四捨五入している。

### 教科全般における指導法の工夫

- 発展的課題を取り入れた授業**  
多くの単元で行っている……14%  
半分程度の単元で行っている……14%
- 理解が十分でない生徒への補足的指導**  
多くの単元で行っている……16%  
半分程度の単元で行っている……11%
- レポートや作文など、表現する活動を取り入れた授業**  
多くの単元で行っている……13%  
半分程度の単元で行っている……12%
- 表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業**  
多くの単元で行っている……26%  
半分程度の単元で行っている……14%
- 身に付けさせたい力を意識した総合的な学習における指導**  
行っている……29%  
どちらかといえば行っている……56%
- 学習目標や評価基準を明確化した指導**  
行っている……29%  
どちらかといえば行っている……60%
- 学習内容や学習方法についてのきめ細やかな指導**  
行っている……23%  
どちらかといえば行っている……58%
- 学習形態を工夫したメリハリのある授業**  
多くの単元で行っている……35%  
半分程度の単元で行っている……20%
- P D C A サイクルを踏まえた実践**  
行っている……15%  
どちらかといえば行っている……55%

### 学習環境の活用

- コンピュータを活用した授業**  
年20回以上……14%  
年10～19回程度……7%
- [活用内容]  
インターネットを用いた調べ学習……17%  
教師がパソコンで行うプレゼンテーションや資料の提示など……43%
- 学校図書館を活用した授業**  
年20回以上……0.4%  
年10～19回程度……2%
- [活用内容]  
読書指導・読書活動の場……11%  
調べ学習の場……44%

### 家庭学習への関与状況

- 宿題を出しているか**  
多くの時間で宿題を出している……33%  
どちらかといえば出している方が多い……31%
- [宿題の内容]  
予習的な内容の宿題を出している……31%  
復習的な内容の宿題を出している……71%  
調べたり書いたりする内容の宿題を出している……28%
- 家庭での学習方法について、指導をしているか**  
行っている……32%  
どちらかといえば行っている……50%

### 教科の特性に応じた指導法の工夫

中学校実施回答数 965人

- 国語**  
■**話したり聞いたりしたことを基に、自分の考えをまとめる授業**  
多くの単元で……21% 半分程度の単元で……19%  
■**自分の思いや考えを書いて表現するような授業**  
多くの単元で……23% 半分程度の単元で……26%  
■**文章の内容や表現の仕方について、自分の考えをもつような授業**  
多くの単元で……31% 半分程度の単元で……22%  
■**国語の特質に関する事項を、日常生活に生かすような指導を行っているか**  
行っている……32% どちらかといえば行っている……56%
- 社会**  
■**資料などから読み取ったことをまとめる活動を取り入れた授業**  
多くの単元で……4% 半分程度の単元で……5%  
■**資料などから読み取ったことを基に話し合うような授業**  
多くの単元で……12% 半分程度の単元で……7%
- 数学**  
■**数学的活動を通して課題を解決する授業**  
多くの単元で……33% 半分程度の単元で……26%  
■**問題解決的な学習を取り入れた授業**  
多くの単元で……29% 半分程度の単元で……22%
- 理科**  
■**生徒が見通しをもち、観察や実験をするような授業**  
多くの単元で……55% 半分程度の単元で……30%  
■**実験結果やまとめにおいていろいろな考えを出し合う授業**  
多くの単元で……32% 半分程度の単元で……28%
- 英語**  
■**スピーチをする活動を取り入れた授業**  
多くの単元で……5% 半分程度の単元で……9%  
■**自分の考えや気持ちなどを書く活動を取り入れた授業**  
多くの単元で……19% 半分程度の単元で……20%

### 教師の指導観

- 生徒が勉強するよう日頃から指導すべき**  
そう思う……74%  
どちらかといえばそう思う……25%
- 生徒が規則を守るよう細かく指導すべき**  
そう思う……65%  
どちらかといえばそう思う……32%
- 勉強のことで生徒が気軽に話しかけられるようにすべき**  
そう思う……80%  
どちらかといえばそう思う……19%
- 問題が起きた時、常に生徒に意見を求めるべき**  
そう思う……21%  
どちらかといえばそう思う……56%



### 学校組織マネジメントに対する意識

- 学力向上や生徒指導など学校の方針を理解しているか**  
理解している……50%  
どちらかといえば理解している……48%
- 方針や教育内容についての共通理解が図られているか**  
そう思う……36%  
どちらかといえばそう思う……54%
- 学校内に気軽に話し合える雰囲気があるか**  
そう思う……46%  
どちらかといえばそう思う……43%

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

[Web報告書もくじ](#) > II 調査結果の概要

## 教師意識調査から見た佐賀県の教師像

※数値は小数第二位で四捨五入している。

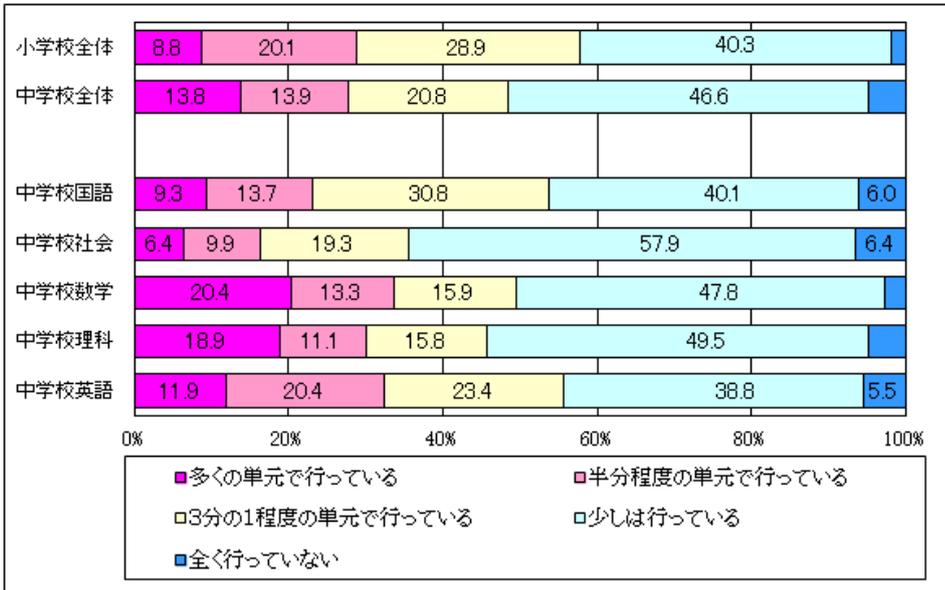
※グラフにおいては、5.0%未満の値については表示していない。

小学校実施回答数 1,200人      中学校実施回答数 965人

### 教科全般における指導法の工夫

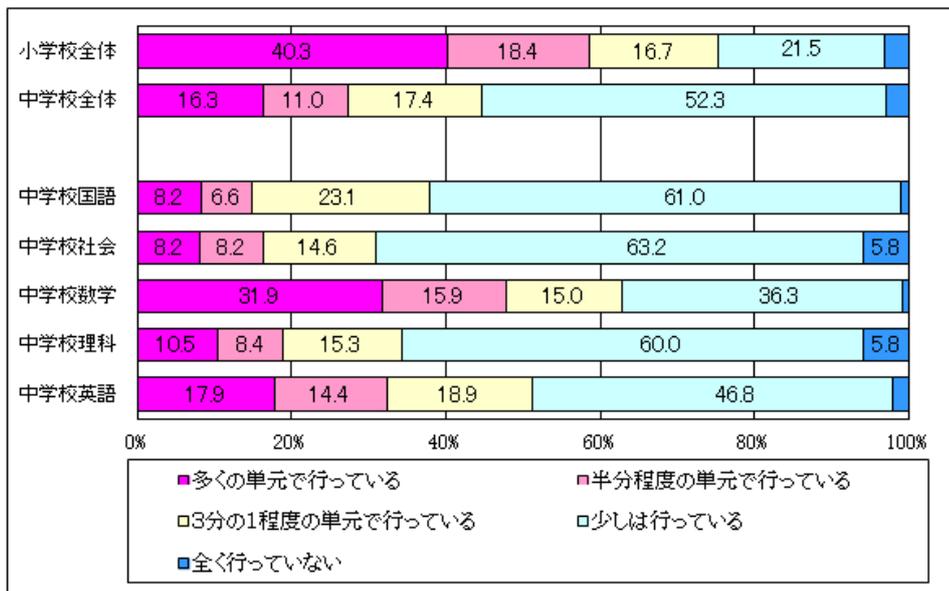
(11) 発展的な課題を取り入れた授業を行っていますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
多くの単元で行っている	8.8	13.8	9.3	6.4	20.4	18.9	11.9
半分程度の単元で行っている	20.1	13.9	13.7	9.9	13.3	11.1	20.4
3分の1程度の単元で行っている	28.9	20.8	30.8	19.3	15.9	15.8	23.4
少しは行っている	40.3	46.6	40.1	57.9	47.8	49.5	38.8
全く行っていない	1.9	4.9	6.0	6.4	2.7	4.7	5.5



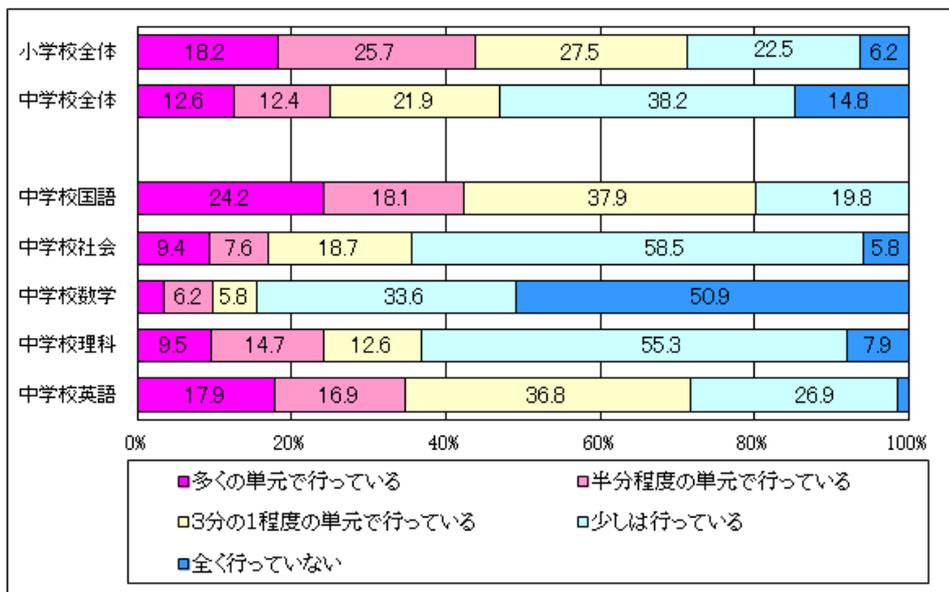
(12) 理解が十分でない児童・生徒に対し、授業の合間や放課後などに更に指導していますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
多くの単元で行っている	40.3	16.3	8.2	8.2	31.9	10.5	17.9
半分程度の単元で行っている	18.4	11.0	6.6	8.2	15.9	8.4	14.4
3分の1程度の単元で行っている	16.7	17.4	23.1	14.6	15.0	15.3	18.9
少しは行っている	21.5	52.3	61.0	63.2	36.3	60.0	46.8
全く行っていない	3.1	3.0	1.1	5.8	0.9	5.8	2.0



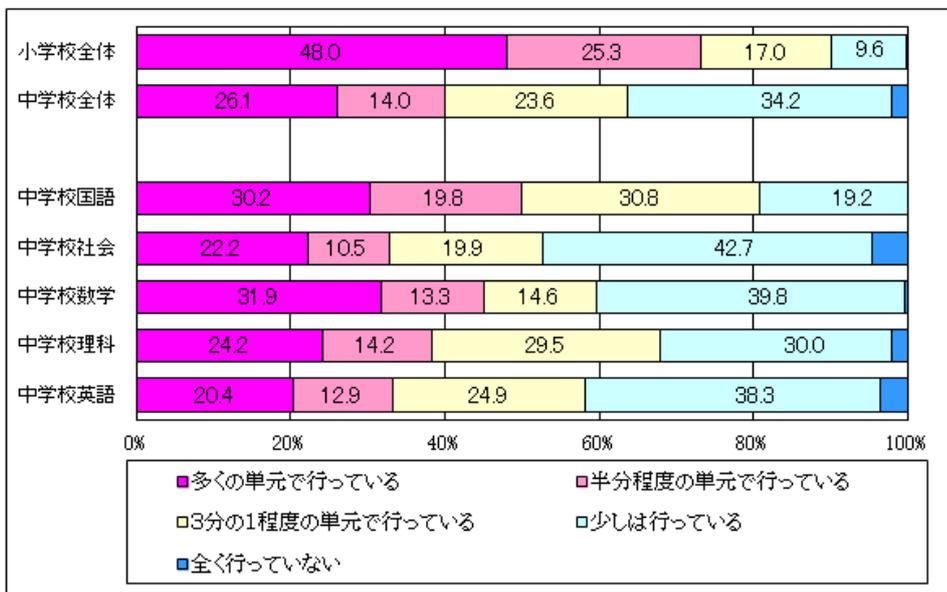
(13) レポートや作文など書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
多くの単元で行っている	18.2	12.6	24.2	9.4	3.5	9.5	17.9
半分程度の単元で行っている	25.7	12.4	18.1	7.6	6.2	14.7	16.9
3分の1程度の単元で行っている	27.5	21.9	37.9	18.7	5.8	12.6	36.8
少しは行っている	22.5	38.2	19.8	58.5	33.6	55.3	26.9
全く行っていない	6.2	14.8	0.0	5.8	50.9	7.9	1.5



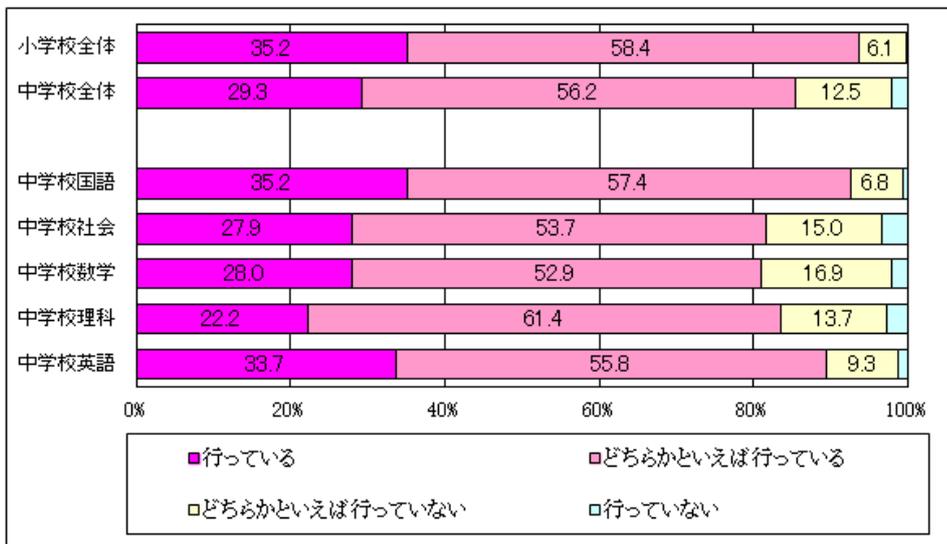
(14) 発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を行っていますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
多くの単元で行っている	48.0	26.1	30.2	22.2	31.9	24.2	20.4
半分程度の単元で行っている	25.3	14.0	19.8	10.5	13.3	14.2	12.9
3分の1程度の単元で行っている	17.0	23.6	30.8	19.9	14.6	29.5	24.9
少しは行っている	9.6	34.2	19.2	42.7	39.8	30.0	38.3
全く行っていない	0.2	2.1	0.0	4.7	0.4	2.1	3.5



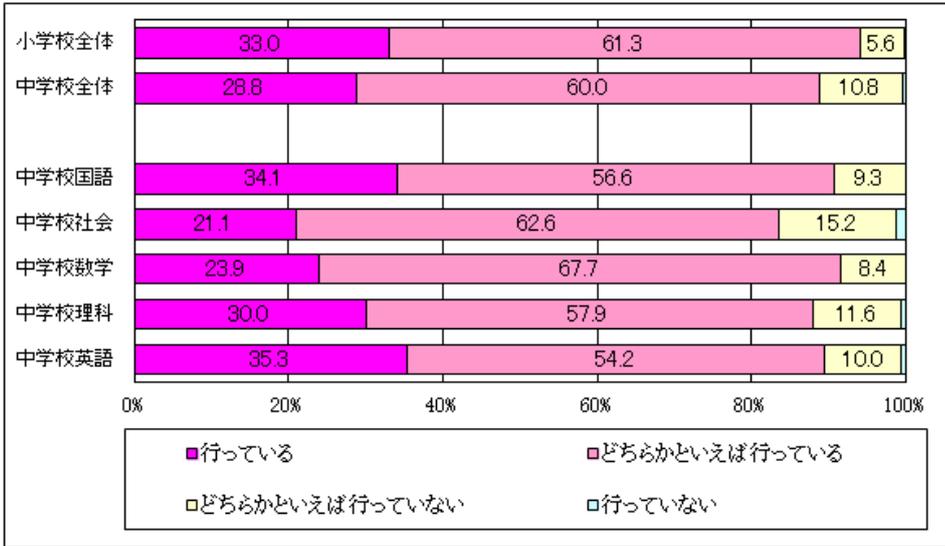
(15) 総合的な学習の時間においては、児童・生徒にどのような力を身につけさせるのかを意識した指導を行っていますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
行っている	35.2	29.3	35.2	27.9	28.0	22.2	33.7
どちらかといえば行っている	58.4	56.2	57.4	53.7	52.9	61.4	55.8
どちらかといえば行っていない	6.1	12.5	6.8	15.0	16.9	13.7	9.3
行っていない	0.2	2.0	0.6	3.4	2.1	2.6	1.2



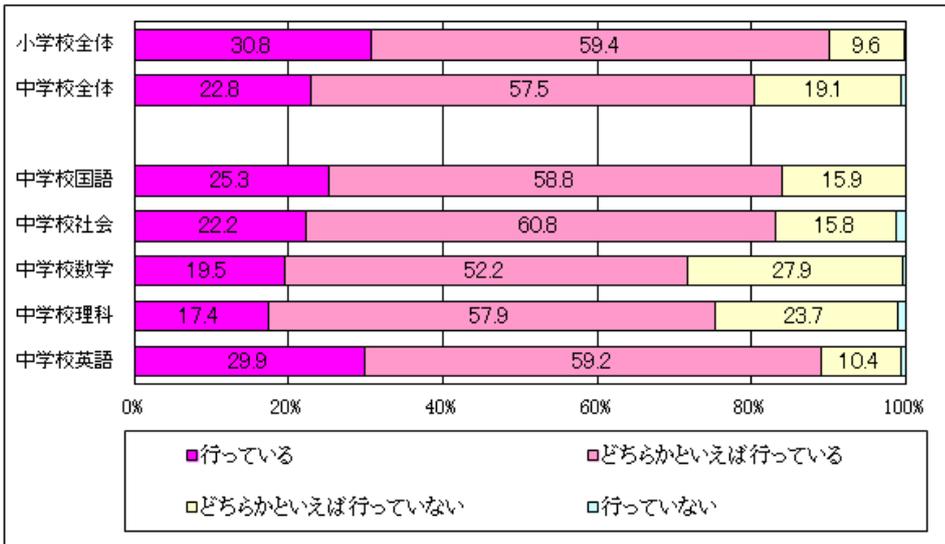
(16) 単元における学習目標や評価規準を明確にした上で、その目標を達成するために必要な教材や学習活動を指導計画に取り入れて指導を行っていますか。

	小学校 全体	中学校 全体		中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
行っている	33.0	28.8		34.1	21.1	23.9	30.0	35.3
どちらかといえば行っている	61.3	60.0		56.6	62.6	67.7	57.9	54.2
どちらかといえば行っていない	5.6	10.8		9.3	15.2	8.4	11.6	10.0
行っていない	0.2	0.4		0.0	1.2	0.0	0.5	0.5



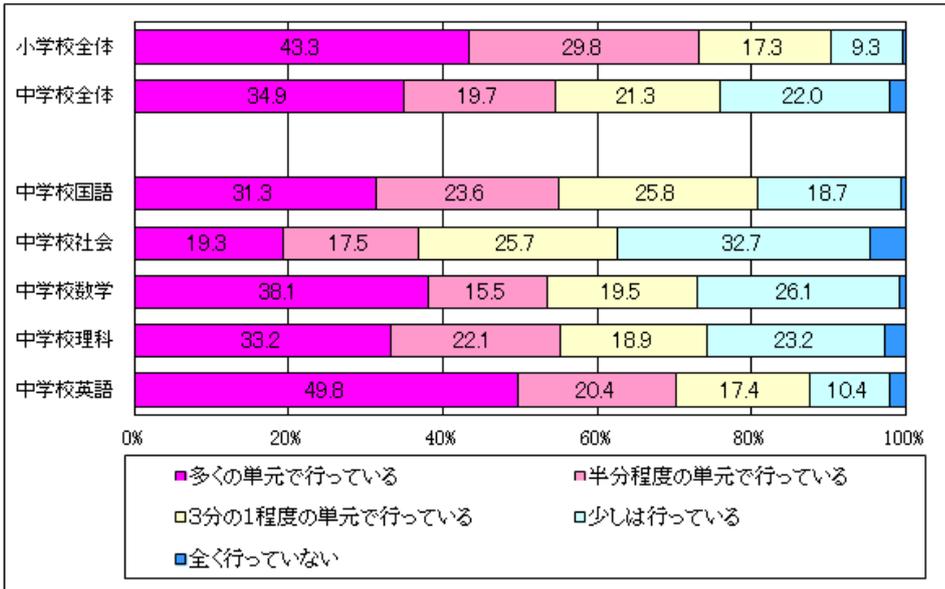
(17) ノートのまとめ方や話し合いの進め方など学習内容だけでなく学習方法についてもきめ細やかに指導を行っていますか。

	小学校 全体	中学校 全体		中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
行っている	30.8	22.8		25.3	22.2	19.5	17.4	29.9
どちらかといえば行っている	59.4	57.5		58.8	60.8	52.2	57.9	59.2
どちらかといえば行っていない	9.6	19.1		15.9	15.8	27.9	23.7	10.4
行っていない	0.2	0.6		0.0	1.2	0.4	1.1	0.5



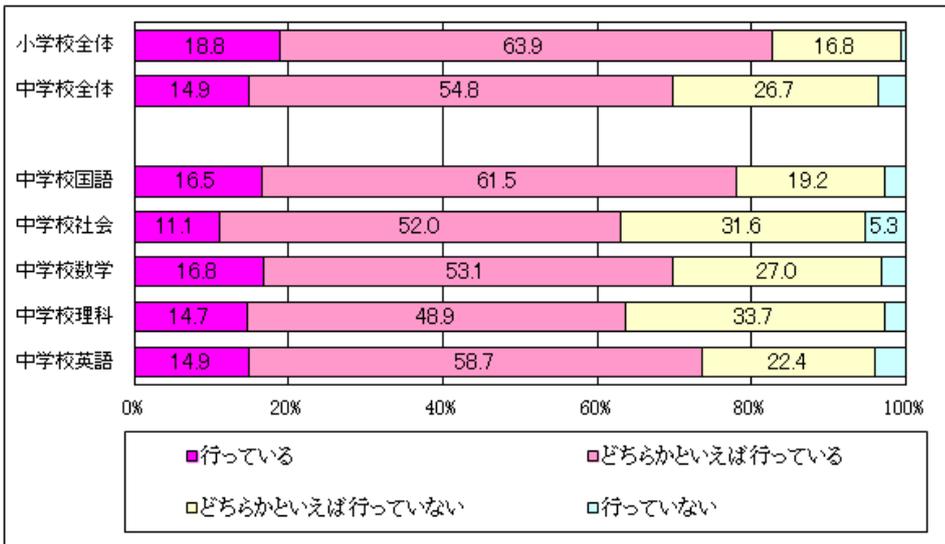
(18) 教師による指導をとおして確実に学習内容を身に付けさせる場合とグループ活動やペア活動の形態を取り入れ、児童・生徒の学び合い活動を通して学習内容を身に付けさせる場面を意識したメリハリのある授業を行っていますか。

	小学校全体	中学校全体	中学校国語	中学校社会	中学校数学	中学校理科	中学校英語
多くの単元で行っている	43.3	34.9	31.3	19.3	38.1	33.2	49.8
半分程度の単元で行っている	29.8	19.7	23.6	17.5	15.5	22.1	20.4
3分の1程度の単元で行っている	17.3	21.3	25.8	25.7	19.5	18.9	17.4
少しは行っている	9.3	22.0	18.7	32.7	26.1	23.2	10.4
全く行っていない	0.3	2.1	0.5	4.7	0.9	2.6	2.0



(19) 日常の授業や単元等の指導、学校における教育活動において、PDCAサイクルを踏まえた実践を行っていますか。

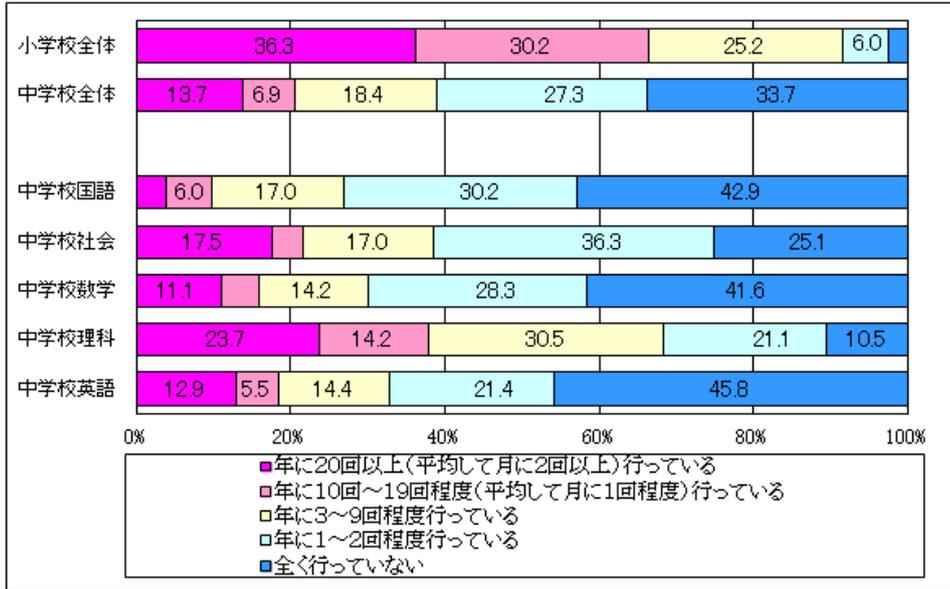
	小学校全体	中学校全体	中学校国語	中学校社会	中学校数学	中学校理科	中学校英語
行っている	18.8	14.9	16.5	11.1	16.8	14.7	14.9
どちらかといえば行っている	63.9	54.8	61.5	52.0	53.1	48.9	58.7
どちらかといえば行っていない	16.8	26.7	19.2	31.6	27.0	33.7	22.4
行っていない	0.5	3.5	2.7	5.3	3.1	2.6	4.0



学習環境の活用

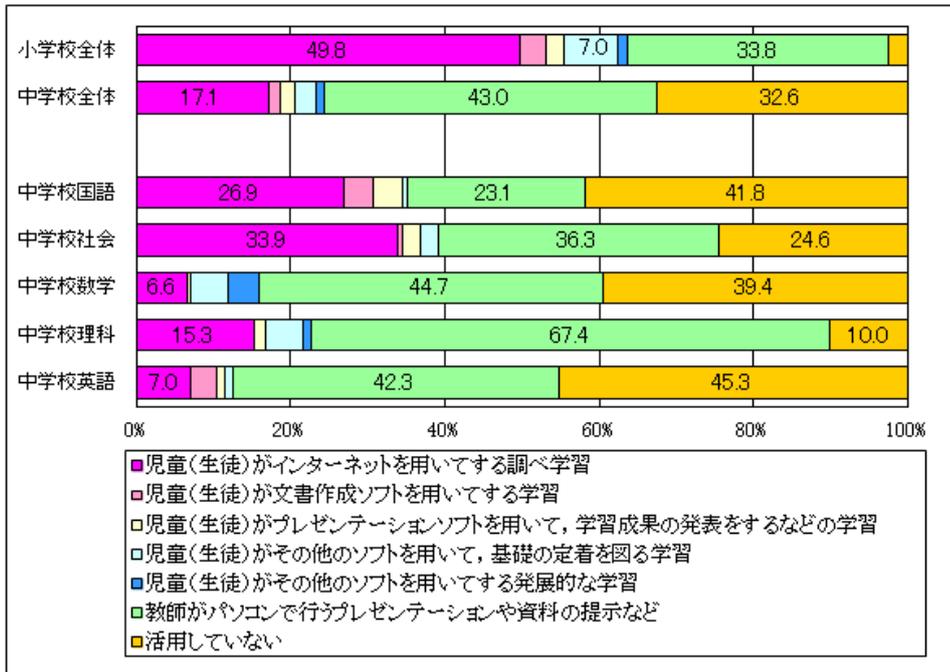
(7) コンピュータを活用した授業を行っていますか。

	小学校全体	中学校全体	中学校国語	中学校社会	中学校数学	中学校理科	中学校英語
年に20回以上(平均して月に2回以上)行っている	36.3	13.7	3.8	17.5	11.1	23.7	12.9
年に10回～19回程度(平均して月に1回程度)行っている	30.2	6.9	6.0	4.1	4.9	14.2	5.5
年に3～9回程度行っている	25.2	18.4	17.0	17.0	14.2	30.5	14.4
年に1～2回程度行っている	6.0	27.3	30.2	36.3	28.3	21.1	21.4
全く行っていない	2.4	33.7	42.9	25.1	41.6	10.5	45.8



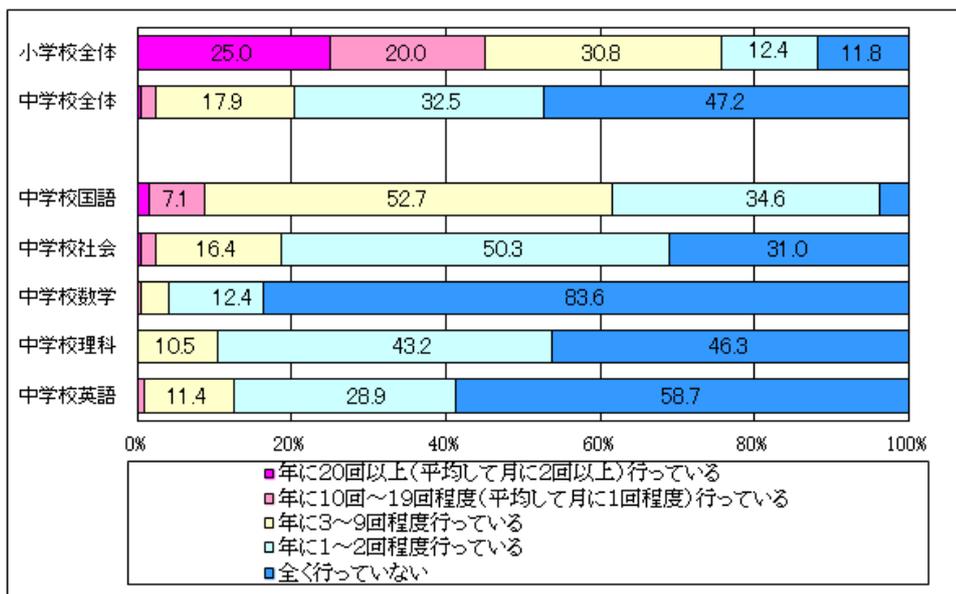
(8) 授業では、コンピュータを主にどのように活用していますか。

	小学校全体	中学校全体	中学校国語	中学校社会	中学校数学	中学校理科	中学校英語
児童(生徒)がインターネットを用いている調べ学習	49.8	17.1	26.9	33.9	6.6	15.3	7.0
児童(生徒)が文書作成ソフトを用いている学習	3.3	1.6	3.8	0.6	0.0	0.0	3.5
児童(生徒)がプレゼンテーションソフトを用いて、学習成果の発表をするなどの学習	2.4	1.8	3.8	2.3	0.4	1.6	1.0
児童(生徒)がその他のソフトを用いて、基礎の定着を図る学習	7.0	2.8	0.5	2.3	4.9	4.7	1.0
児童(生徒)がその他のソフトを用いている発展的な学習	1.2	1.1	0.0	0.0	4.0	1.1	0.0
教師がパソコンで行うプレゼンテーションや資料の提示など	33.8	43.0	23.1	36.3	44.7	67.4	42.3
活用していない	2.5	32.6	41.8	24.6	39.4	10.0	45.3



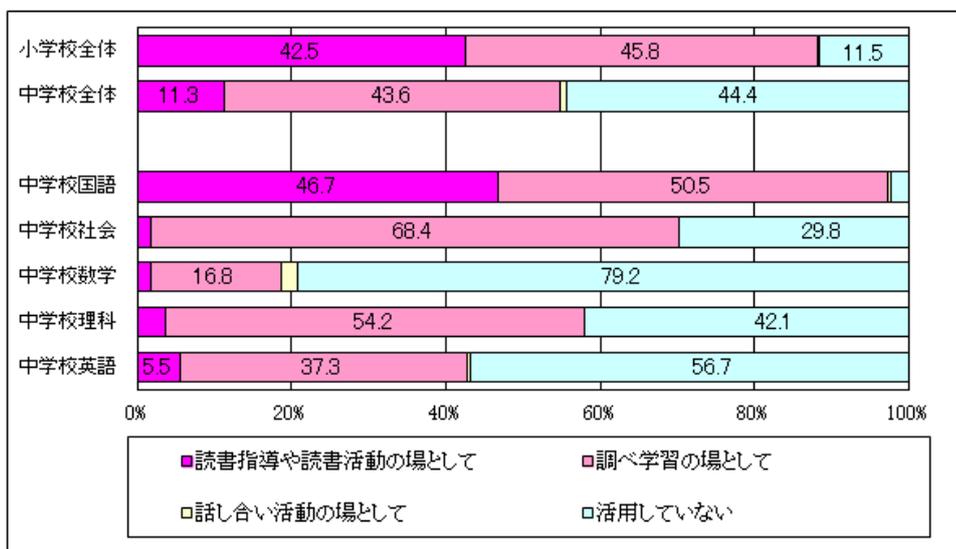
(9) 学校図書館を活用した授業を行っていますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
年に20回以上(平均して月に2回以上)行っている	25.0	0.4	1.6	0.6	0.0	0.0	0.0
年に10回～19回程度(平均して月に1回程度)行っている	20.0	2.0	7.1	1.8	0.4	0.0	1.0
年に3～9回程度行っている	30.8	17.9	52.7	16.4	3.5	10.5	11.4
年に1～2回程度行っている	12.4	32.5	34.6	50.3	12.4	43.2	28.9
全く行っていない	11.8	47.2	3.8	31.0	83.6	46.3	58.7



(10) 授業では、学校図書館を主にどのように活用していますか。

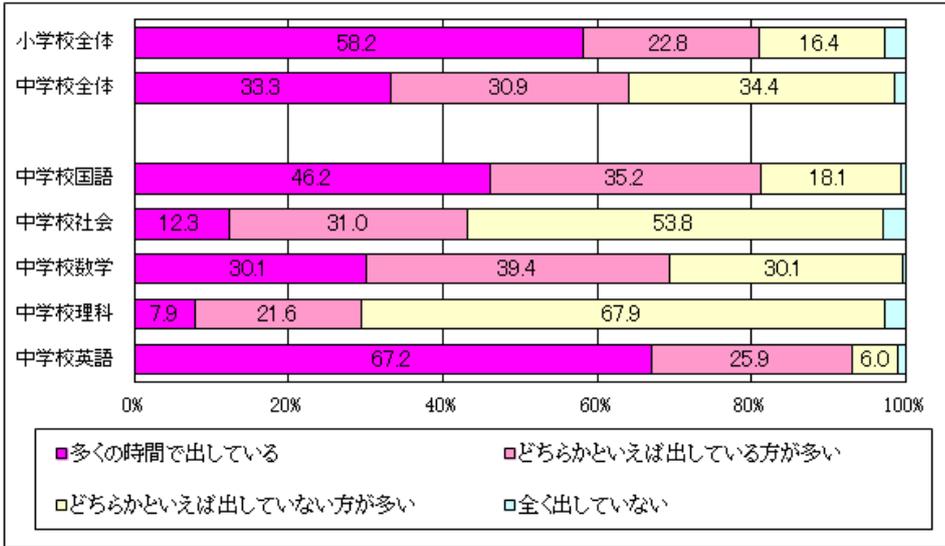
	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
読書指導や読書活動の場として	42.5	11.3	46.7	1.8	1.8	3.7	5.5
調べ学習の場として	45.8	43.6	50.5	68.4	16.8	54.2	37.3
話し合い活動の場として	0.2	0.7	0.5	0.0	2.2	0.0	0.5
活用していない	11.5	44.4	2.2	29.8	79.2	42.1	56.7



家庭学習への関与状況

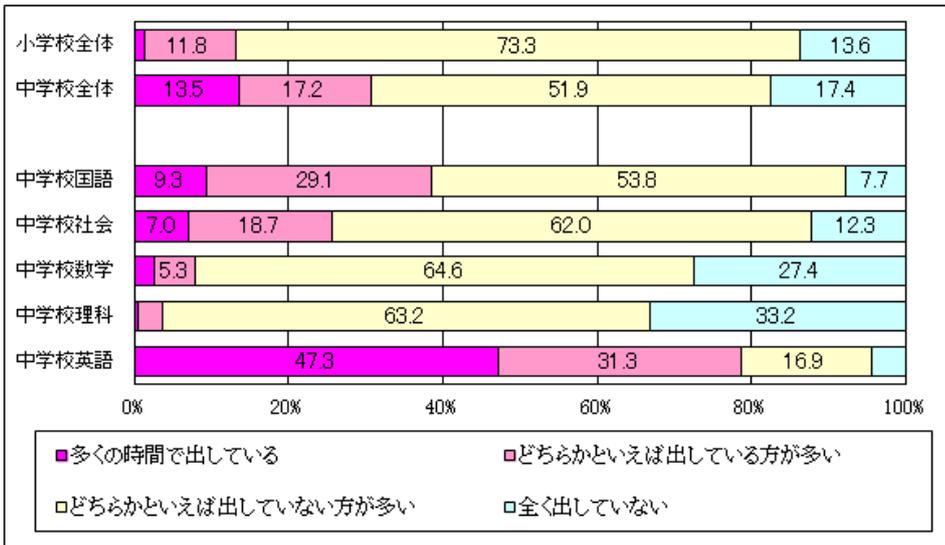
(2) 宿題を出していますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
多くの時間を出している	58.2	33.3	46.2	12.3	30.1	7.9	67.2
どちらかといえば出している方が多い	22.8	30.9	35.2	31.0	39.4	21.6	25.9
どちらかといえば出していない方が多い	16.4	34.4	18.1	53.8	30.1	67.9	6.0
全く出していない	2.7	1.5	0.5	2.9	0.4	2.6	1.0



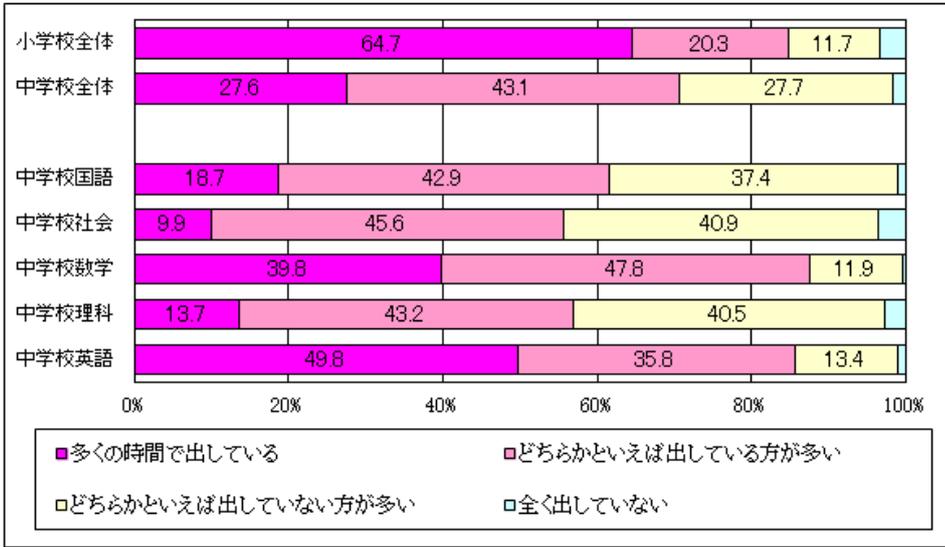
(3) 予習的な内容の宿題を出していますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
多くの時間を出している	11.8	13.5	9.3	7.0	2.7	0.5	47.3
どちらかといえば出している方が多い	11.8	17.2	29.1	18.7	5.3	3.2	31.3
どちらかといえば出していない方が多い	73.3	51.9	53.8	62.0	64.6	63.2	16.9
全く出していない	13.6	17.4	7.7	12.3	27.4	33.2	4.5



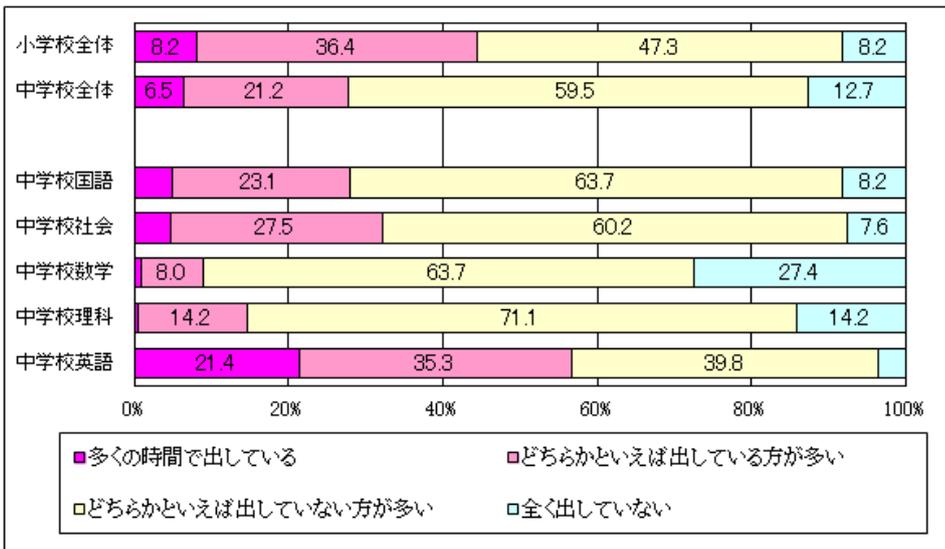
(4) 復習的な内容の宿題を出していますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
多くの時間で出している	64.7	27.6	18.7	9.9	39.8	13.7	49.8
どちらかといえば出している方が多い	20.3	43.1	42.9	45.6	47.8	43.2	35.8
どちらかといえば出していない方が多い	11.7	27.7	37.4	40.9	11.9	40.5	13.4
全く出していない	3.4	1.7	1.1	3.5	0.4	2.6	1.0



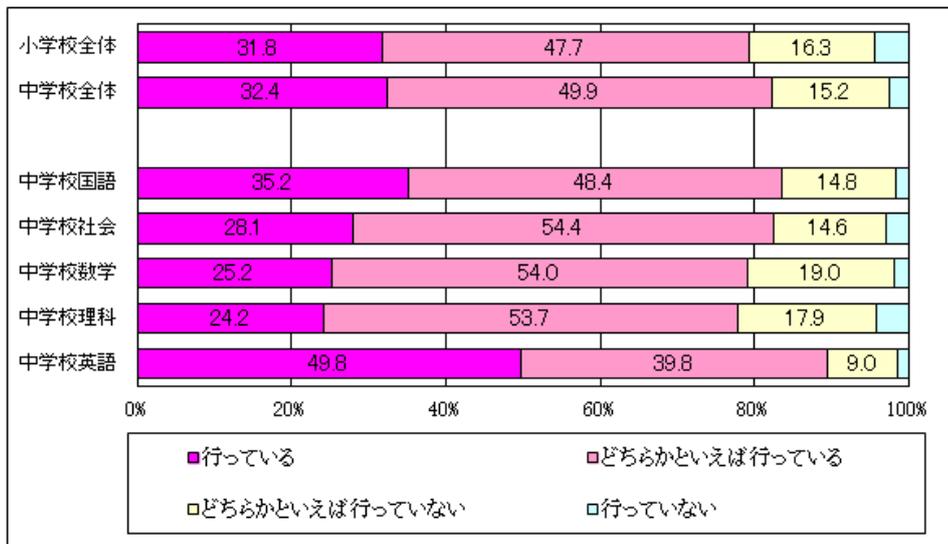
(5) 調べたり文章を書いたりする内容の宿題を出していますか。

	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
多くの時間で出している	8.2	6.5	4.9	4.7	0.9	0.5	21.4
どちらかといえば出している方が多い	36.4	21.2	23.1	27.5	8.0	14.2	35.3
どちらかといえば出していない方が多い	47.3	59.5	63.7	60.2	63.7	71.1	39.8
全く出していない	8.2	12.7	8.2	7.6	27.4	14.2	3.5



(6) 家庭での学習方法について、具体例を挙げながら指導していますか。

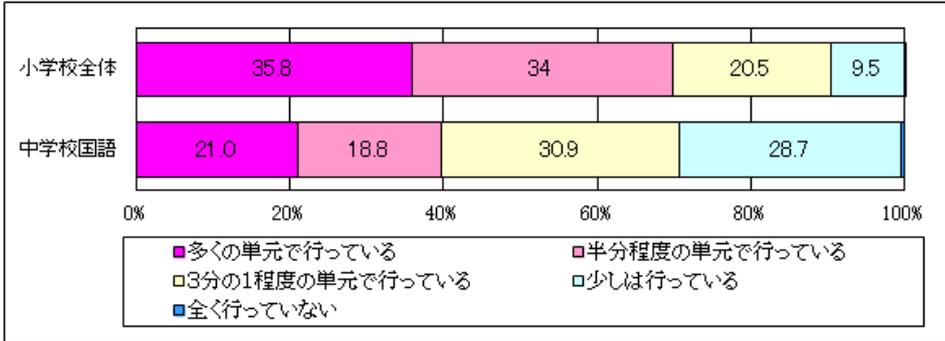
	小学校 全体	中学校 全体	中学校 国語	中学校 社会	中学校 数学	中学校 理科	中学校 英語
行っている	31.8	32.4	35.2	28.1	25.2	24.2	49.8
どちらかといえば行っている	47.7	49.9	48.4	54.4	54.0	53.7	39.8
どちらかといえば行っていない	16.3	15.2	14.8	14.6	19.0	17.9	9.0
行っていない	4.3	2.4	1.6	2.9	1.8	4.2	1.5



教科の特性に応じた指導法の工夫

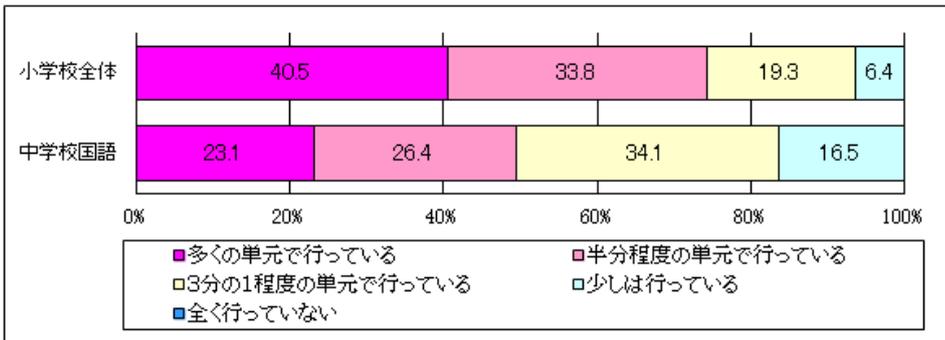
- (20) 国語で、話したり聞いたりしたことをもとに、自分の考えをもつことができるような活動を取り入れた授業を行っていますか。(小学校)
- (20) 国語で、目的や場面に応じて、話したり聞いたりしたことをもとに自分の考えをまとめる活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 国語
多くの単元で行っている	35.8	21.0
半分程度の単元で行っている	34	18.8
3分の1程度の単元で行っている	20.5	30.9
少しは行っている	9.5	28.7
全く行っていない	0.2	0.6



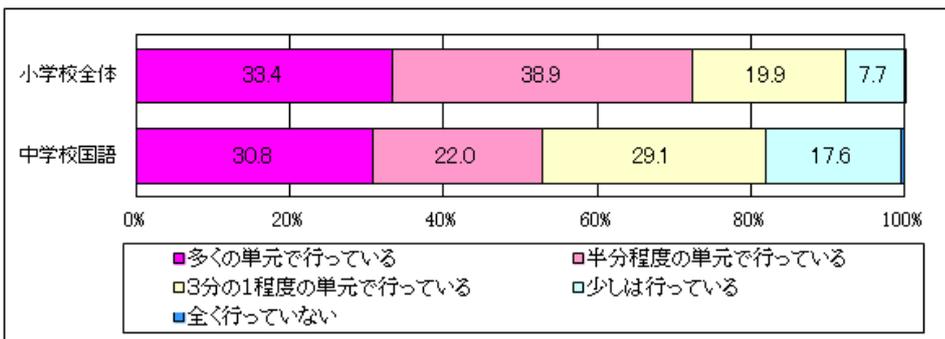
- (21) 国語で、書き手の考えや表現の仕方について、自分の考えをもつことができるような活動を取り入れた授業を行っていますか。(小学校)
- (21) 国語で、目的や意図に応じて、自分の思いや考えを書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 国語
多くの単元で行っている	40.5	23.1
半分程度の単元で行っている	33.8	26.4
3分の1程度の単元で行っている	19.3	34.1
少しは行っている	6.4	16.5
全く行っていない	0.0	0.0



- (22) 国語で、文章の内容や表現の仕方に注意して読み、それについての自分の考えをもつことができるような活動を取り入れた授業を行っていますか。(小学校)
- (22) 国語で、目的や意図に応じて、文章の内容や表現の仕方について注意して読み、それについての自分の考えをもつ活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

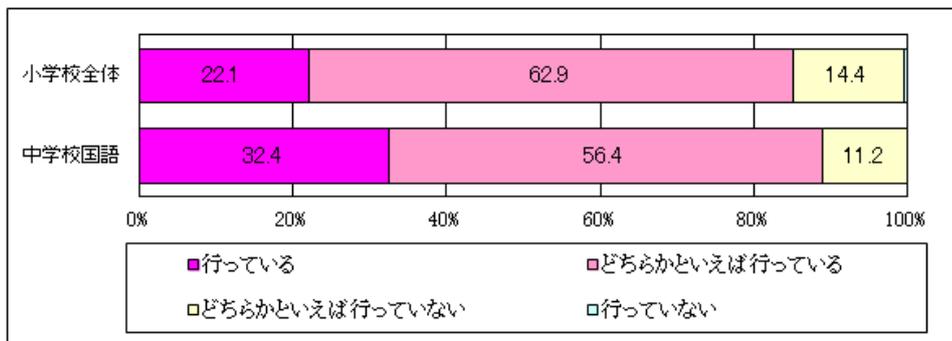
	小学校 全体	中学校 国語
多くの単元で行っている	33.4	30.8
半分程度の単元で行っている	38.9	22.0
3分の1程度の単元で行っている	19.9	29.1
少しは行っている	7.7	17.6
全く行っていない	0.1	0.5



(23) 国語で、言葉の特徴やきまり、文字などの指導を、年間を通して繰り返し行っていますか。  
(小学校)

(23) 国語で、言葉の特徴やきまり、漢字などの国語の特質に関する事項の学習を、日常生活に生かすことができるような指導を行っていますか。(中学校)

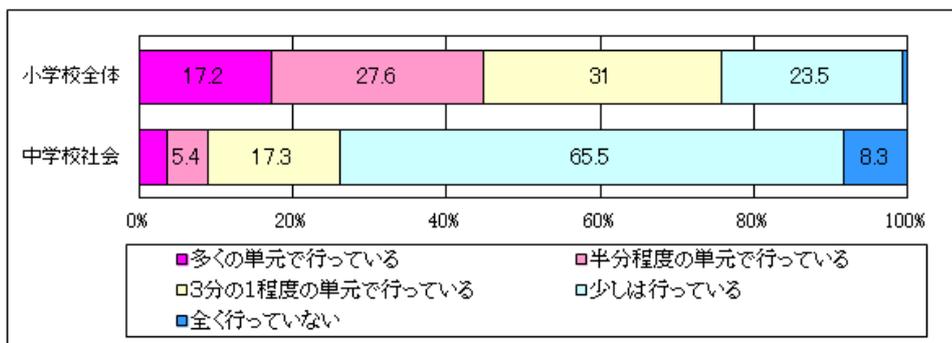
	小学校 全体	中学校 国語
行っている	22.1	32.4
どちらかといえば行っている	62.9	56.4
どちらかといえば行っていない	14.4	11.2
行っていない	0.6	0.0



(24) 社会で、児童が資料などから読み取ったことを基に、新聞のような形式でノートや広用紙にまとめる活動を取り入れた授業を行っていますか。(小学校)

(24) 社会で、生徒が資料などから読み取ったことを基に、新聞やレポートのような形式でノートや広用紙にまとめる活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

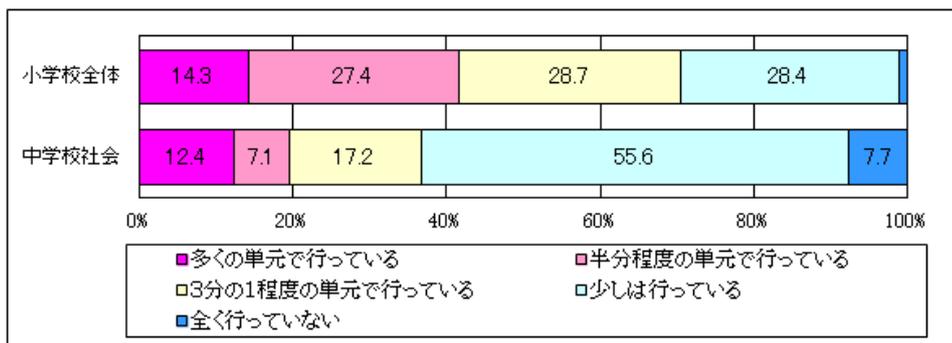
	小学校 全体	中学校 社会
多くの単元で行っている	17.2	3.6
半分程度の単元で行っている	27.6	5.4
3分の1程度の単元で行っている	31	17.3
少しは行っている	23.5	65.5
全く行っていない	0.7	8.3



(25) 社会で、児童が資料などから読み取ったことを基にして考えたことを、話し合う活動を取り入れた授業を行っていますか。(小学校)

(25) 社会で、生徒が資料などから読み取ったことを基にして考えたことを、話し合う(討論)活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

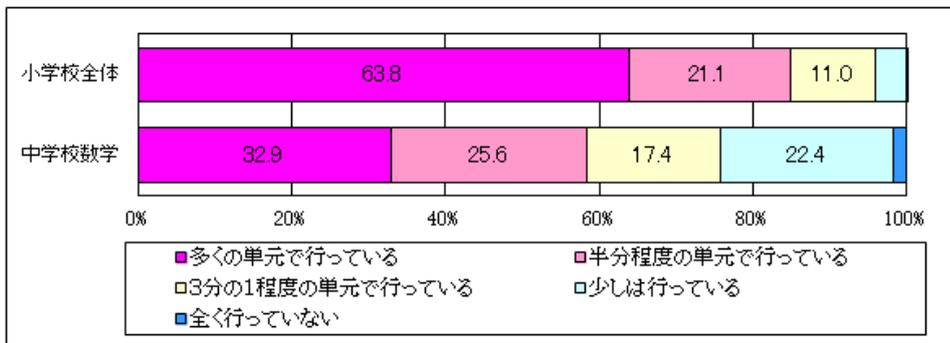
	小学校 全体	中学校 社会
多くの単元で行っている	14.3	12.4
半分程度の単元で行っている	27.4	7.1
3分の1程度の単元で行っている	28.7	17.2
少しは行っている	28.4	55.6
全く行っていない	1.2	7.7



(26) 算数で、算数的活動を通して課題を解決する授業を行っていますか。(小学校)

(26) 数学で、数学的活動を通して課題を解決する授業を行っていますか。(中学校)

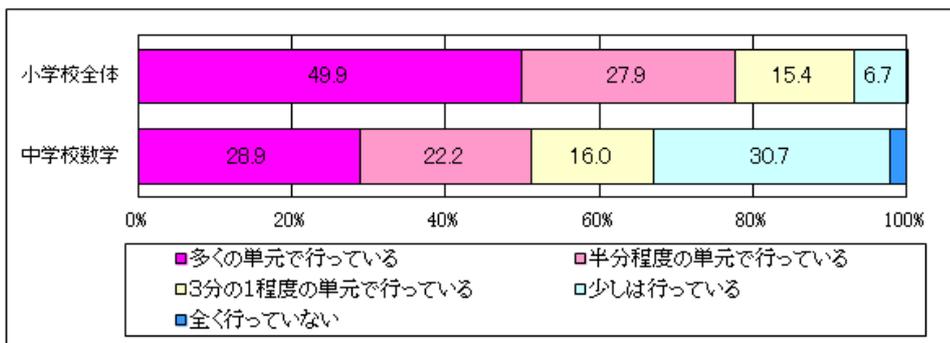
	小学校 全体	中学校 数学
多くの単元で行っている	63.8	32.9
半分程度の単元で行っている	21.1	25.6
3分の1程度の単元で行っている	11.0	17.4
少しは行っている	4.0	22.4
全く行っていない	0.1	1.8



(27) 算数で、児童が問題について自分なりに考え、それを出し合って問題を解決していくような学習(問題解決的な学習)を取り入れた授業を行っていますか。(小学校)

(27) 数学で、生徒が問題について自分なりに考え、それを出し合って問題を解決していくような学習(問題解決的な学習)を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

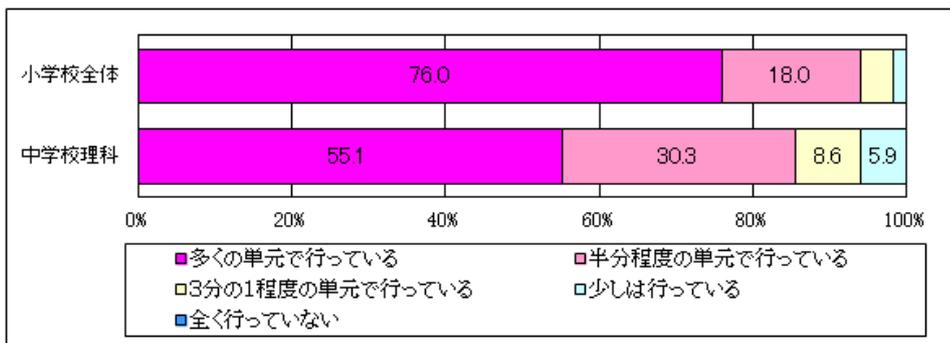
	小学校 全体	中学校 数学
多くの単元で行っている	49.9	28.9
半分程度の単元で行っている	27.9	22.2
3分の1程度の単元で行っている	15.4	16.0
少しは行っている	6.7	30.7
全く行っていない	0.2	2.2



(28) 理科で、児童がどのような結果が予想されるかの見通しをもち、観察や実験をするような授業を行っていますか。(小学校)

(28) 理科で、生徒がどのような結果が予想されるかの見通しをもち、観察や実験をするような授業を行っていますか。(中学校)

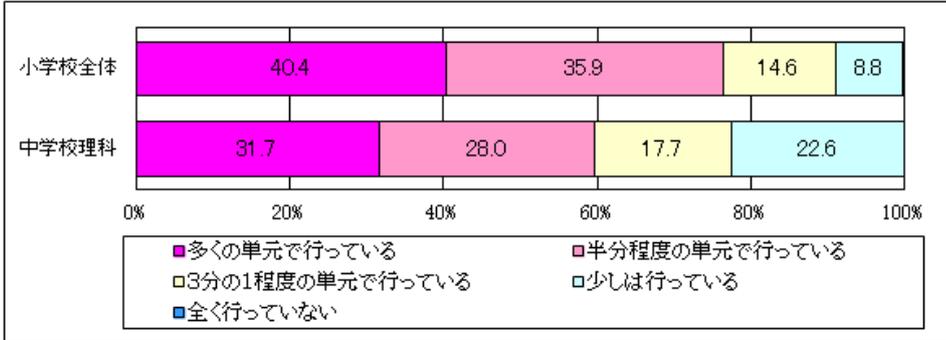
	小学校 全体	中学校 理科
多くの単元で行っている	76.0	55.1
半分程度の単元で行っている	18.0	30.3
3分の1程度の単元で行っている	4.3	8.6
少しは行っている	1.7	5.9
全く行っていない	0.0	0.0



(29) 理科で、実験結果やまとめの発表において、児童がお互いにいろいろな考えを出し合い、検討し合うような授業を行っていますか。(小学校)

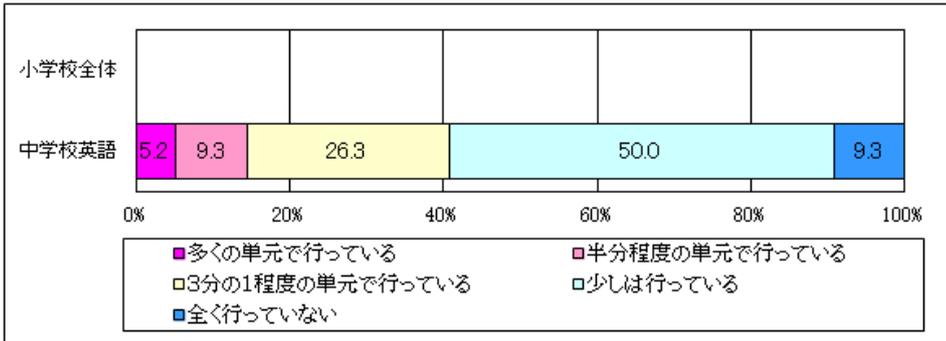
(29) 理科で、実験結果やまとめの発表において、生徒がお互いにいろいろな考えを出し合い、検討し合うような授業を行っていますか。(中学校)

	小学校全体	中学校理科
多くの単元で行っている	40.4	31.7
半分程度の単元で行っている	35.9	28.0
3分の1程度の単元で行っている	14.6	17.7
少しは行っている	8.8	22.6
全く行っていない	0.3	0.0



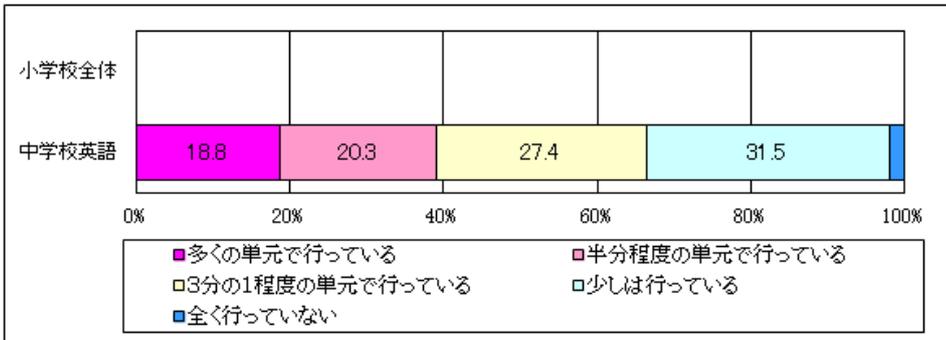
(30) 英語で、与えられたテーマについて簡単なスピーチをする活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

	小学校全体	中学校英語
多くの単元で行っている		5.2
半分程度の単元で行っている		9.3
3分の1程度の単元で行っている		26.3
少しは行っている		50.0
全く行っていない		9.3



(31) 英語で、身近な話題について自分の考えや気持ちなどを書く活動を取り入れた授業を行っていますか。(中学校)

	小学校全体	中学校全体
多くの単元で行っている		18.8
半分程度の単元で行っている		20.3
3分の1程度の単元で行っている		27.4
少しは行っている		31.5
全く行っていない		2.0

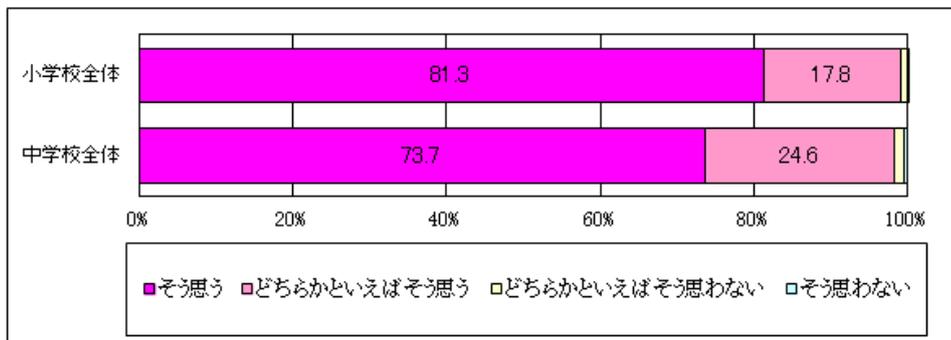


教師の指導観

(30) 教師は、児童ができるだけ勉強するよう、日頃から指導すべきだと思いますか。(小学校)

(32) 教師は、生徒ができるだけ勉強するよう、日頃から指導すべきだと思いますか。(中学校)

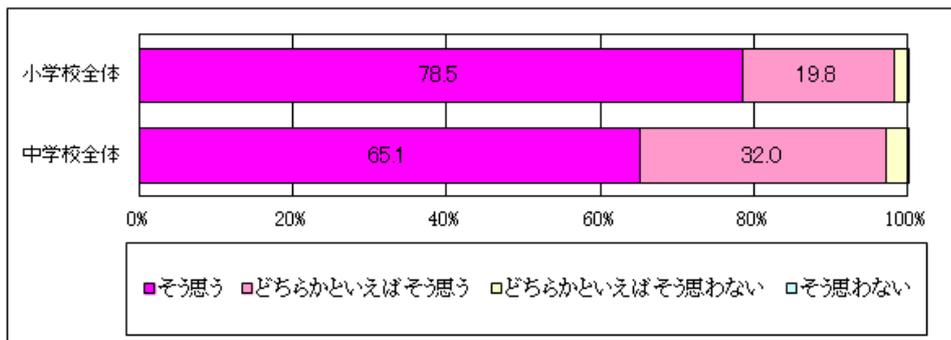
	小学校 全体	中学校 全体
そう思う	81.3	73.7
どちらかといえばそう思う	17.8	24.6
どちらかといえばそう思わない	0.7	1.2
そう思わない	0.2	0.5



(31) 教師は、児童が規則を守るよう、日頃から細かく指導すべきだと思いますか。(小学校)

(33) 教師は、生徒が規則を守るよう、日頃から細かく指導すべきだと思いますか。(中学校)

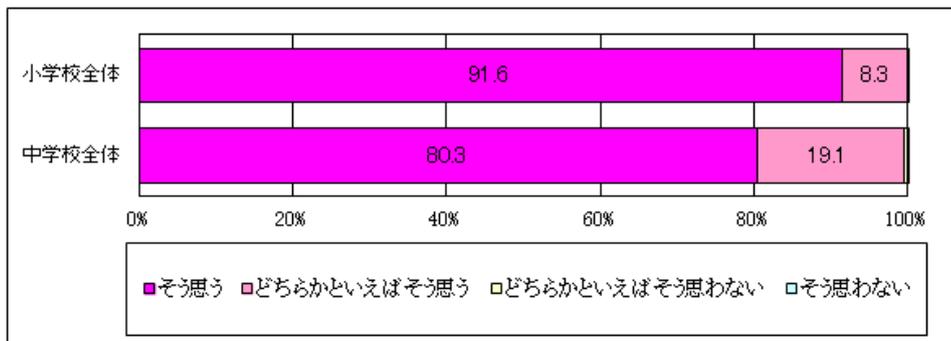
	小学校 全体	中学校 全体
そう思う	78.5	65.1
どちらかといえばそう思う	19.8	32.0
どちらかといえばそう思わない	1.5	2.7
そう思わない	0.2	0.2



(32) 教師は、勉強のことで児童がいつでも気軽に話しかけられるようにすべきだと思いますか。(小学校)

(34) 教師は、勉強のことで生徒がいつでも気軽に話しかけられるようにすべきだと思いますか。(中学校)

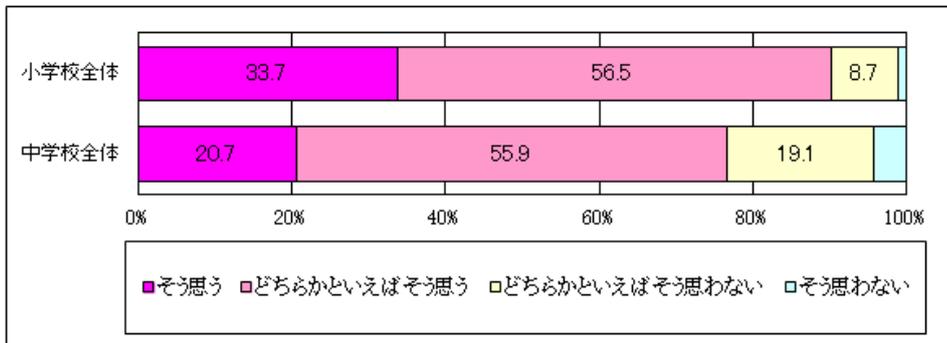
	小学校 全体	中学校 全体
そう思う	91.6	80.3
どちらかといえばそう思う	8.3	19.1
どちらかといえばそう思わない	0.2	0.5
そう思わない	0.0	0.1



(33) 教師は、学級で何か問題が起こった時、常に児童に意見を求めるべきだと思いますか。(小学校)

(35) 教師は、学級で何か問題が起こった時、常に生徒に意見を求めるべきだと思いますか。(中学校)

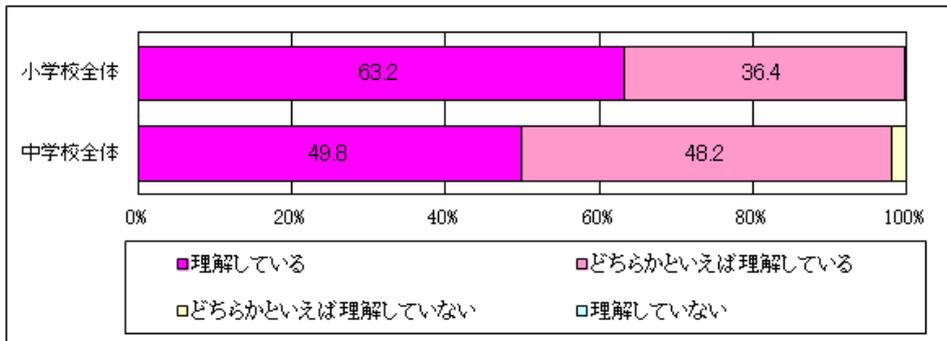
	小学校 全体	中学校 全体
そう思う	33.7	20.7
どちらかといえばそう思う	56.5	55.9
どちらかといえばそう思わない	8.7	19.1
そう思わない	1.2	4.4



学校組織マネジメントに対する意識

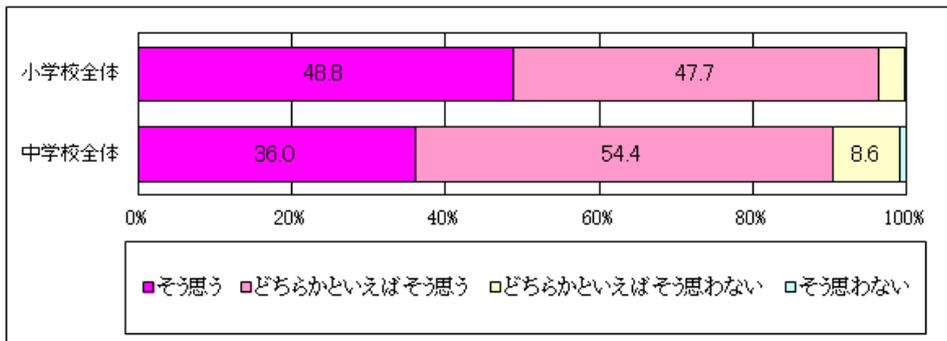
- (34) あなたは、学力向上や生徒指導など教育活動の具体的な内容についての学校の方針を理解していますか。(小学校)
- (36) あなたは、学力向上や生徒指導など教育活動の具体的な内容についての学校の方針を理解していますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 全体
理解している	63.2	49.8
どちらかといえば理解している	36.4	48.2
どちらかといえば理解していない	0.4	2.0
理解していない	0	0.0



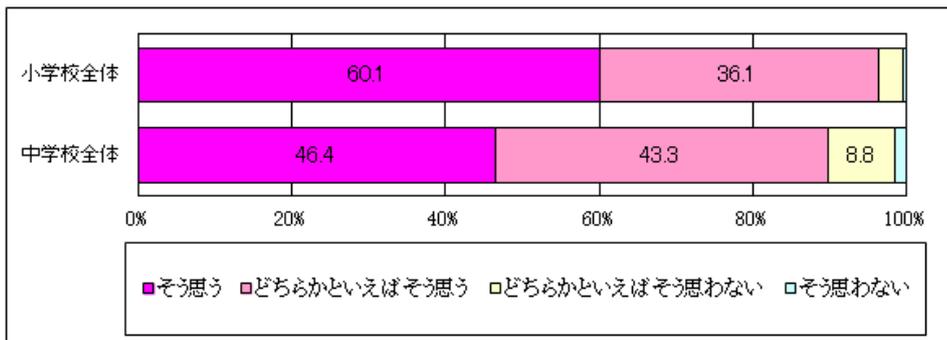
- (35) あなたの学校では、教育活動の方針や具体的な内容について、学校全体で共通理解が図られていると思いますか。(小学校)
- (37) あなたの学校では、教育活動の方針や具体的な内容について、学校全体で共通理解が図られていると思いますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 全体
そう思う	48.8	36.0
どちらかといえばそう思う	47.7	54.4
どちらかといえばそう思わない	3.3	8.6
そう思わない	0.3	1.0



- (36) あなたの学校では、指導の在り方や課題などについて、気軽に話し合える雰囲気がありますか。(小学校)
- (38) あなたの学校では、指導の在り方や課題などについて、気軽に話し合える雰囲気がありますか。(中学校)

	小学校 全体	中学校 全体
そう思う	60.1	46.4
どちらかといえばそう思う	36.1	43.3
どちらかといえばそう思わない	3.3	8.8
そう思わない	0.5	1.5



## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ>Ⅲ 各教科の調査結果の分析>小学校国語

### Ⅲ 各教科の調査結果の分析

※ 中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

#### 小学校国語

##### 「読むこと」における系統的・段階的な指導の工夫を

小学5年生では、「話す・聞く」「書く」「言語についての知識・理解・技能」の評価の観点は、「おおむね達成」の基準を上回った。小学6年生では、「話す・聞く」「言語についての知識・理解・技能」の評価の観点も、「おおむね達成」の基準を上回った。中学1年生の「言語についての知識・理解・技能」においては、「十分達成」の基準を上回った。しかし、小学5年生、中学1年生ともに、「読むこと」の「文章の内容を的確に押さえ、求められている表現の仕方に合わせてまとめる」に課題が見られた。今後は、「読むこと」における系統的・段階的な学習指導の工夫が必要である。

国語科においては、評価の観点と内容・領域が重なるという教科の特質上、以下のように記す。

- |                  |                         |
|------------------|-------------------------|
| ○国語への関心・意欲・態度    | → 「関心・意欲・態度」(小学6年生のみ設定) |
| ○話す・聞く能力         | → 「話す・聞く」               |
| ○書く能力            | → 「書く」                  |
| ○読む能力            | → 「読む」                  |
| ○言語についての知識・理解・技能 | → 「知識・理解・技能」            |

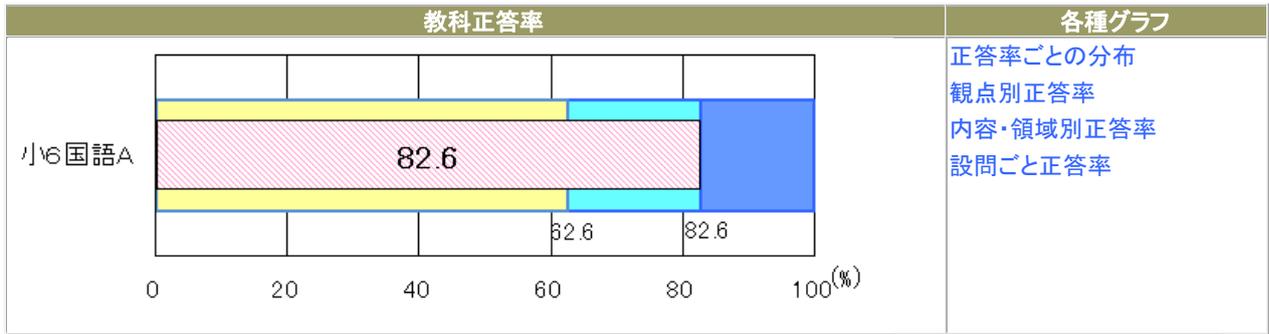
ア 結果の概要

各学年ごとに教科の正答率について到達基準との比較を示す。

(凡例) :要努力(おおむね達成の基準を下回る) :おおむね達成 :十分達成

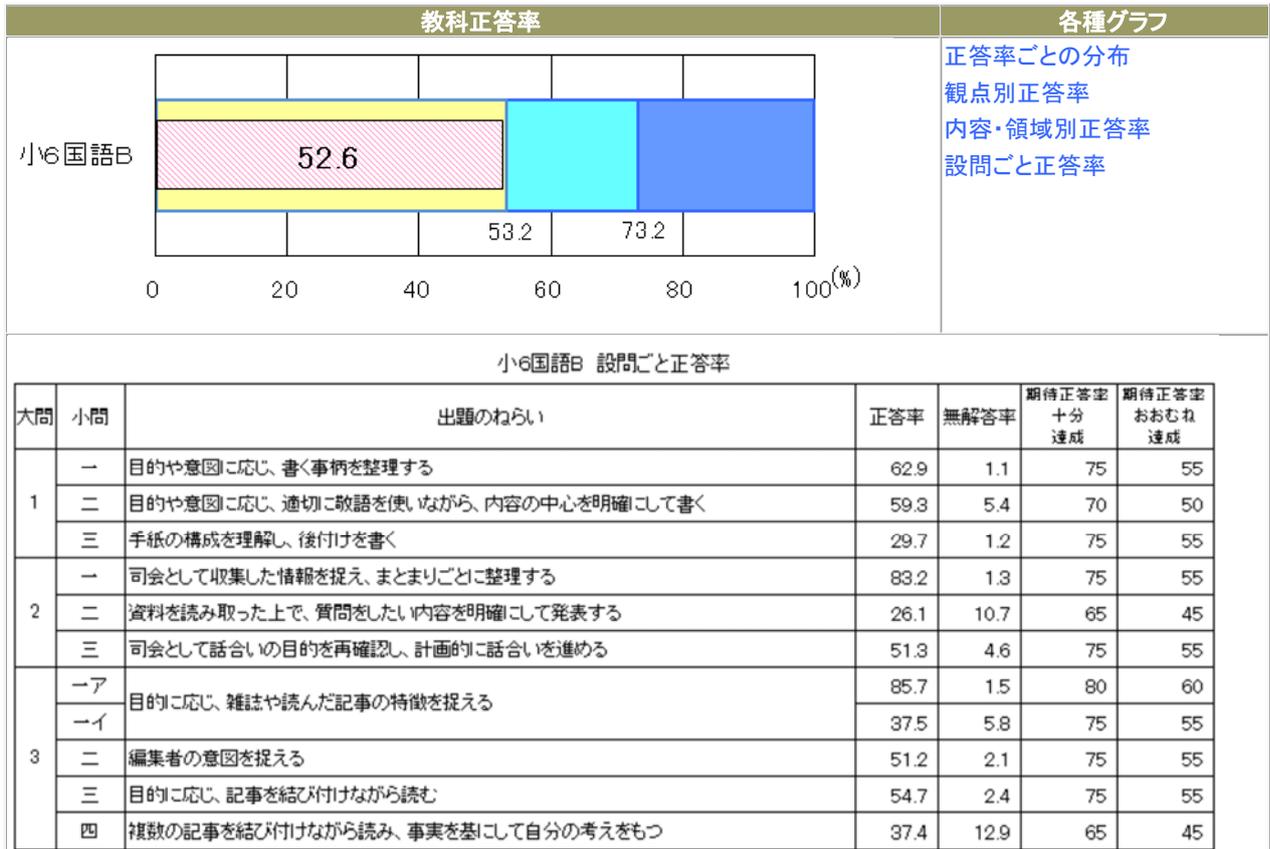
(ア) 教科及び設問ごと正答率

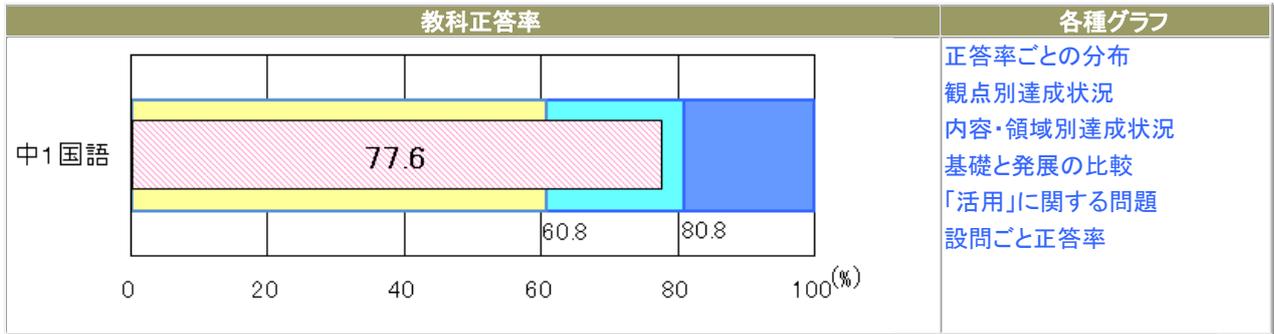




小6国語A 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	一(1)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	91.6	0.5	85	65
	一(2)		95.1	1.0	85	65
	一(3)		95.1	0.8	85	65
	二(1)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	86.0	1.7	80	60
	二(2)		88.2	0.9	85	65
	二(3)		93.3	1.6	85	65
2		狙いを明確にして質問をする	63.2	0.4	80	60
3	ア	目的に応じ、収集した情報を関係付けながら話し合う	93.3	0.5	85	65
	イ		78.3	0.6	80	60
4		場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら音読する	70.6	0.3	80	60
5	ア	百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を捉える	91.6	0.8	85	65
	イ		93.0	1.1	85	65
6		表現の効果について確かめながら物語を創作する	66.2	0.8	80	60
7		目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書く	48.3	4.5	75	55
8		日常生活で使われている慣用句の意味を正しく理解する	80.9	3.2	80	60
9	一	学年別漢字配当表に示されている漢字を筆順に従って正しく書く	84.7	3.0	85	65
	二		84.4	3.1	85	65





中1国語 設問ごと正答率						
大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	一	参加者の役割に基づいて、計画的に話し合う	77.9	0.1	85	65
	二	話し手の意図を捉えたり、自分の意見と比べたりしながら聞く	88.1	0.1	80	60
	三	話の目的や意図など、話の内容を聞き取る	77.3	0.1	80	60
	四	考えが明確に伝わるように話の構成を工夫する	56.4	0.3	80	60
	五	司会者の役割に基づいて、話し合いを計画的に進める	87.2	0.1	85	65
2	一	目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して整理する	88.5	0.3	85	65
	二	相手を読んで理解しやすいように改善できる部分について、よりよいものにする	87.0	0.2	80	60
	三	目的や意図に応じて、冒頭部の書き方を工夫する	81.5	0.3	85	65
	四	示す事実を分かりやすくするために、適切に図表やグラフなどを用いる	55.9	1.4	85	65
	五	目的や意図に応じて、見出しを工夫して書く	75.0	3.4	75	55
3	一	登場人物の相互関係や心情、場面についての様子を捉える	62.6	5.3	75	55
	二	登場人物の相互関係や心情、場面についての様子を捉える	65.5	1.6	85	65
	三	登場人物の相互関係から人物像やその役割を捉え、内面にある深い心情も合わせて捉える	39.6	7.7	70	50
4	一	筆者の意図や思考を想定しながら、文章全体の構成を把握する	75.5	0.5	80	60
	二	理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などの工夫を捉える	55.1	0.6	80	60
	三	書かれている意見について、自分の考えをまとめる	76.2	4.4	70	50
5	一1	文脈に則して漢字を正しく読む（音読みの熟語）「法律(りまうりつ)」	98.5	0.7	85	65
	一2	文脈に則して漢字を正しく読む（訓読み）「漱(しほげ)しい」	93.7	0.5	85	65
	一3	文脈に則して漢字を正しく読む（音読みの熟語）「沿岸(えんがん)」	82.3	2.5	80	60
	一4	文脈に則して漢字を正しく読む（訓読み）「断(ことわる)」	95.6	0.6	85	65
	一5	文脈に則して漢字を正しく読む（音読みの熟語）「災難(さいなん)」	92.6	1.0	85	65
	二1	文脈に則して漢字を正しく書く（音読みの熟語 同音異字）「担当(たんとう)」	80.8	8.3	80	60
	二2	文脈に則して漢字を正しく書く（訓読み）「洗(あら)う」	93.9	3.2	85	65
	二3	文脈に則して漢字を正しく書く（訓読み）「痛(いた)い」	87.7	5.1	80	60
	二4	文脈に則して漢字を正しく書く（訓読みの同訓異字）「負(お)う」	65.9	17.3	80	60
	二5	文脈に則して漢字を正しく書く（音読みの熟語）「危険(きけん)」	64.2	6.2	80	60
	三①	文や文章を書く際に、同音異義語「たいしょう」のもつ意味を考えながら正しく使う「対象」	91.5	0.7	80	60
	三②	文や文章を書く際に、同音異義語「たいしょう」のもつ意味を考えながら正しく使う「対照」	88.5	0.8	80	60
	四	故事成語の意味を理解し、日常の場面で適切に使う	55.9	1.0	80	60
	五	身体の一部を使った表現を、文の意味を捉えて適切に使う	90.0	0.9	80	60
六	熟語の成り立ちを理解し、分類する	75.3	1.0	80	60	

小学5年生、中学1年生ともに、「おおむね達成」の基準を上回った。小学6年生の主として「知識」に関する問題では、「十分達成」の基準と等しい正答率となり、主として「活用」に関する問題では、「おおむね達成」の基準を下回った。また、どの学年においても、無解答率が10.0を超える問題が見られる。

(イ) 評価の観点別正答率

①小学5年生

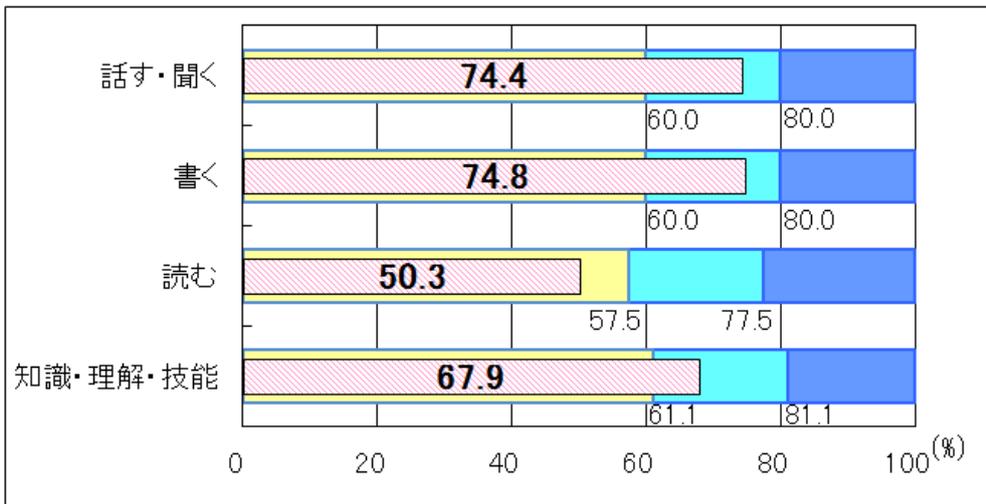


図1 H24年度(小学5年生国語)評価の観点別正答率

「話す・聞く」「書く」「知識・理解・技能」は、「おおむね達成」の基準を上回ったが、「読む」は、「おおむね達成」の基準を7.2ポイント下回った。特に、「文章の内容を的確に押さえ、求められている表現の仕方に合わせてまとめる」力を問う設問の正答率が低く、無解答率も高かった。いくつかの条件に合わせて自分の考えをまとめる力の定着に課題が見られる。

②小学6年生A

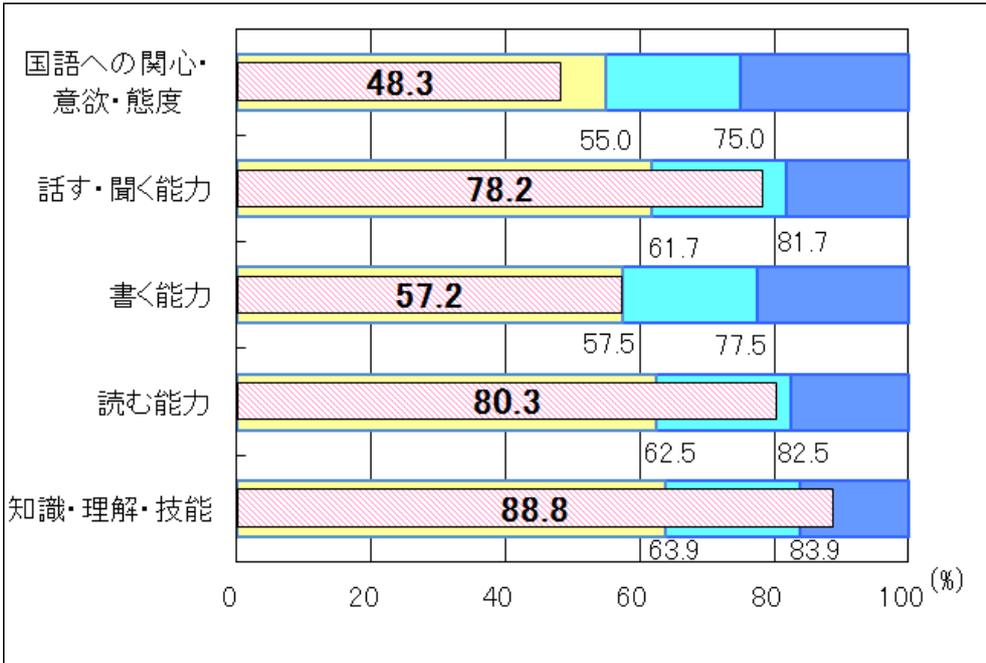


図2 H24年度(小学6年生国語A)評価の観点別正答率

「知識・理解・技能」は、「十分達成」の基準を4.9ポイント上回った。「話す・聞く」「読む」は、「おおむね達成」の基準を上回った。「書く」は、「おおむね達成」の基準を0.3ポイント下回った。「書く」観点については、相手や目的に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書くことに課題が見られる。

③小学6年生国語B

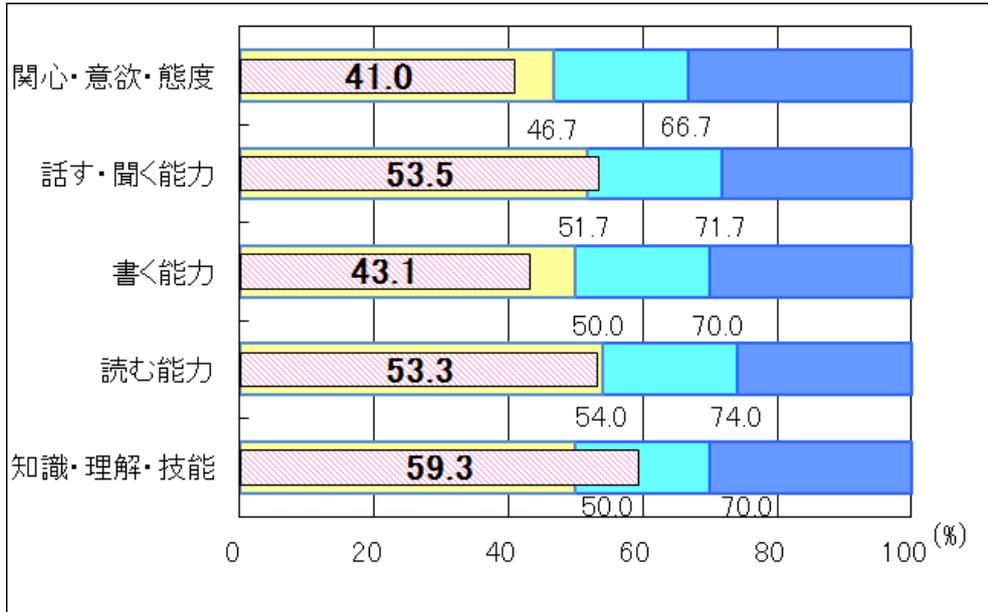


図3 H24年度(小学6年生国語B)評価の観点別正答率

「話す・聞く」「知識・理解・技能」は、「おおむね達成」の基準を上回った。「書く」は、「おおむね達成」の基準を6.9ポイント、「読む」は、「おおむね達成」の基準を0.7ポイント下回った。「読む」観点については、目的に応じて読み、事実を基にして自分の考えをまとめることに課題が見られる。

④中学1年生

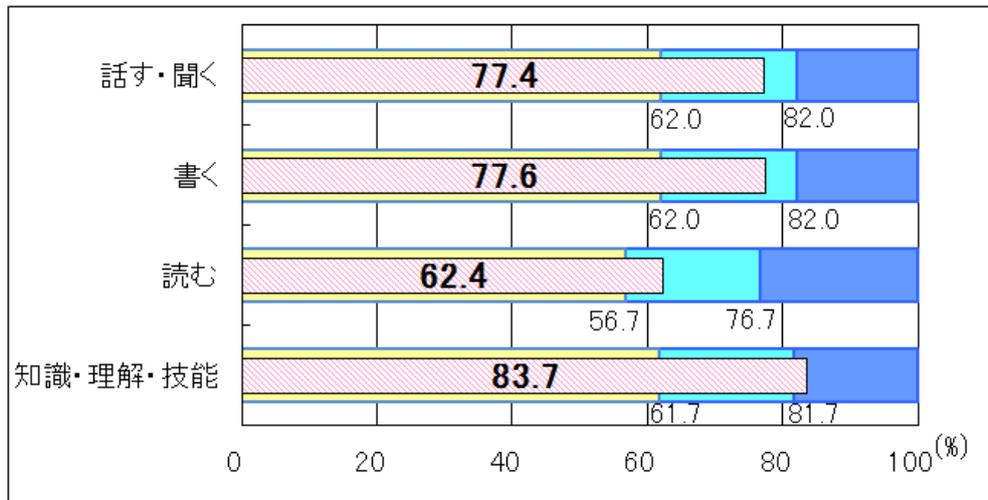


図4 H24年度(中学1年生国語)評価の観点別正答率

「知識・理解・技能」は、「十分達成」を2.0ポイント上回った。「話す・聞く」は、「おおむね達成」の基準を15.4ポイント、「書く」は、「おおむね達成」の基準を15.6ポイント上回った。一方で、「読む」では、「おおむね達成」を5.7ポイント上回ったものの、「登場人物の相互関係から人物像やその役割を捉え、内面にある深い心情も合わせて捉える」力や「理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などの工夫を捉える」力を問う設問の正答率が低く、内容から必要な情報を読みとることに課題が見られる。

(ウ) 内容・領域別正答率

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」については、評価の観点と項目が同じであるため、本項目では、言語事項「漢字の読み」「漢字の書き」「語句に関する知識」について分析する。

①小学5年生

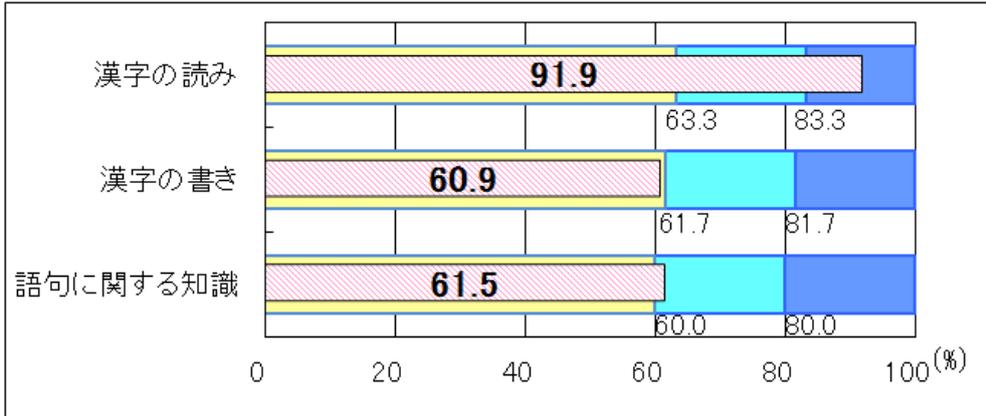


図5 H24年度(小学5年生国語)言語事項の内容・領域別の正答率

「漢字の読み」については、「十分達成」の基準を8.6ポイント上回った。「語句に関する知識」では、「おおむね達成」の基準を1.5ポイント上回った。「漢字の書き」では、「おおむね達成」の基準を0.8ポイント下回った。「漢字の書き」では、音読みの熟語を漢字で正しく書くこと、「語句に関する知識」では、ローマ字を読んだり書いたりすることに課題が見られる。

②中学1年生

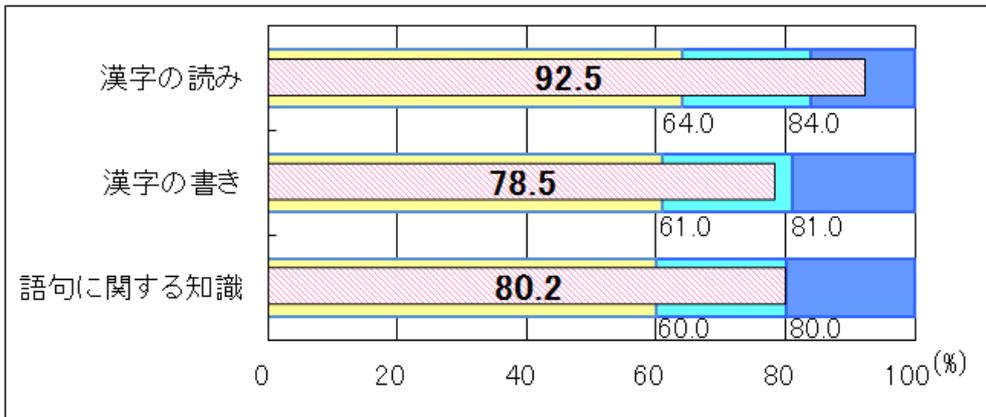


図6 H24年度(中学1年生国語)言語事項の内容・領域別の正答率

「漢字の読み」については、「十分達成」の基準を8.5ポイント、「語句に関する知識」については、0.2ポイント上回った。また、「漢字の書き」については、「おおむね達成」の基準を17.5ポイント上回った。「漢字の読み」に比べ、「漢字の書き」の無解答率が高く、中でも「負(お)う」の無解答率は17.3で一番高かった。また、「語句に関する知識」において、「故事成語の意味を理解し、日常の場面で適切に使う」という問題は、正答率が55.9と低く、課題が見られる。

イ 経年比較

(凡例) □:要努力(おおむね達成の基準を下回る) □:おおむね達成 □:十分達成

平成23年度の小学5年生の調査結果では、「書くこと」が、他の内容・領域に比べて正答率が低い傾向にあった。平成24年度では、「読むこと」が、他の内容・領域に比べて正答率が低い傾向にあった。そこで、経年比較では、まず、「書くこと」「読むこと」について、平成23年度と平成24年度において小学5年生同一学年を取り上げ、分析を行う。また、中学1年生でも、「読むこと」が、他の内容・領域に比べて正答率が低かった。よって、中学1年生では、「読むこと」について、平成23年度と平成24年度において中学1年生同一学年を取り上げ、分析を行う。さらに、同一児童生徒の変容を把握するために、平成22年度小学5年生と平成24年度中学1年生同一児童生徒を取り上げ、分析を行う。

(ア) 同一学年児童生徒の経年比較

①小学5年生の「書くこと」の経年比較

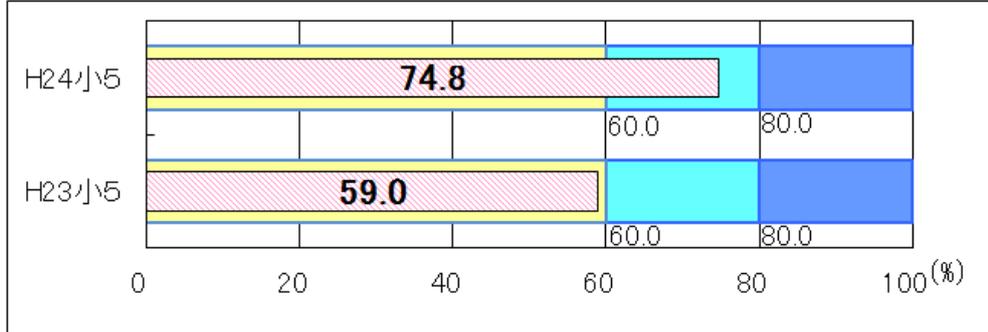


図7 H23・24年度(小学5年生国語)「書くこと」の正答率の経年比較

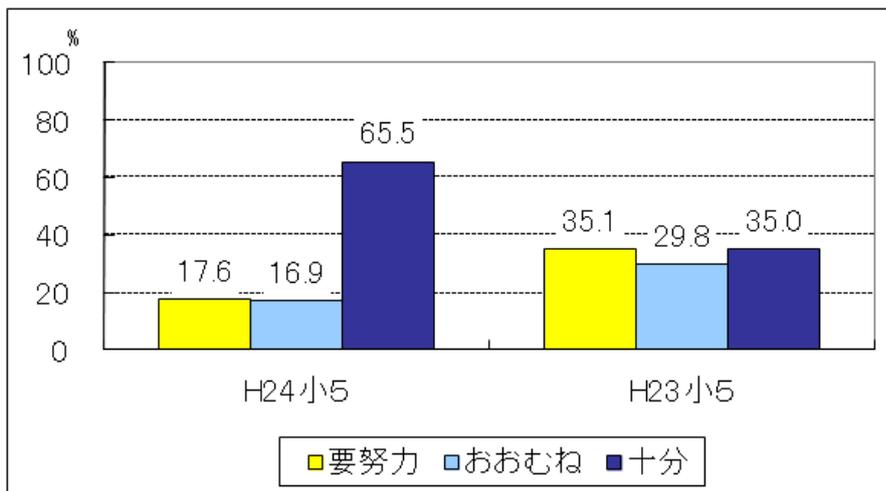


図8 H23・24年度(小学5年生国語)「書くこと」の到達度分布の経年比較

正答率の経年変化を見ると、平成23年度は「おおむね達成」を1.0ポイント下回ったが、平成24年度は「おおむね達成」を14.8ポイント上回った(図7)。到達度分布では、平成24年度は、平成23年度に比べて、「十分達成」の割合が30.5ポイント上回り、「要努力」の割合が17.5ポイント下回った(図8)。「書くこと」においては、目的や必要に応じて、中心となることを明確にして書くことの指導の工夫改善が図られてきていると考えられる。

②小学5年生の「読むこと」の経年比較

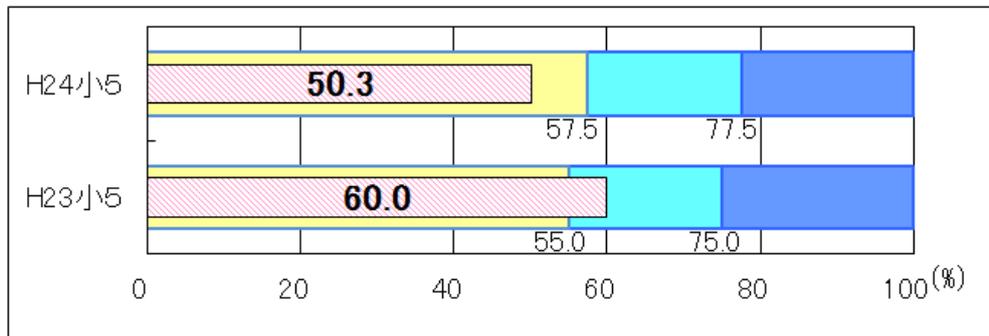


図9 H23・24年度(小学5年生国語)「読むこと」の正答率の経年比較

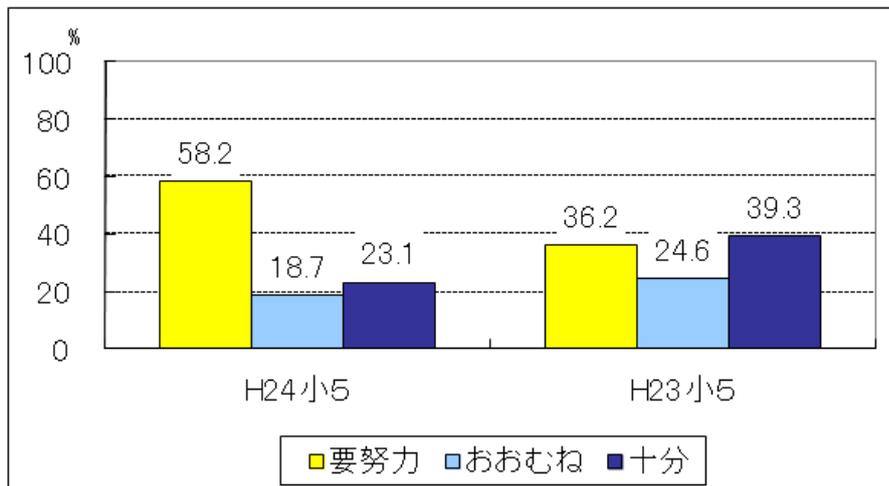


図10 H23・24年度(小学5年生国語)「読むこと」の到達度分布の経年比較

正答率の経年変化を見ると、平成23年度は「おおむね達成」の基準を5.0ポイント上回ったが、平成24年度は「おおむね達成」の基準を7.2ポイント下回った(図9)。到達度分布では、平成24年度は、平成23年度に比べて、「十分達成」の割合が16.2ポイント下回り、「要努力」の割合が22.0ポイント上回った(図10)。平成24年度の「要努力」の割合が、平成23年度の「要努力」の割合を大きく上回っていることから、文章の内容や構成を的確に押さえ、条件に合わせて自分の考えをまとめることに課題が見られると考えられる。

③ 中学1年生の「読むこと」の経年比較

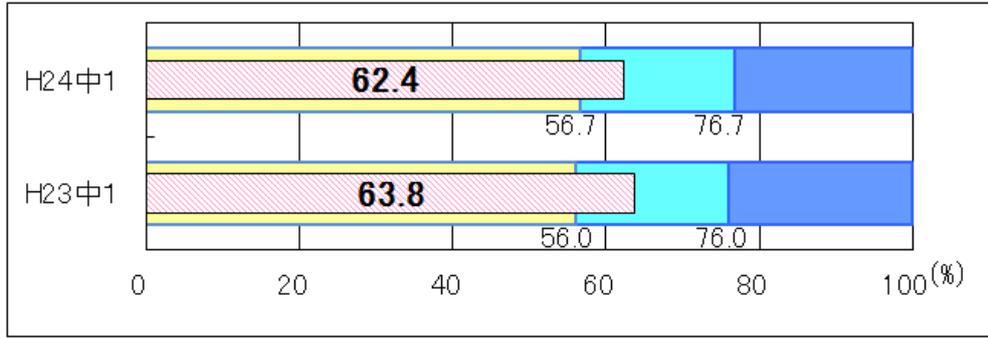


図11 H23・24年度(中学1年生国語)「読むこと」の正答率の経年比較

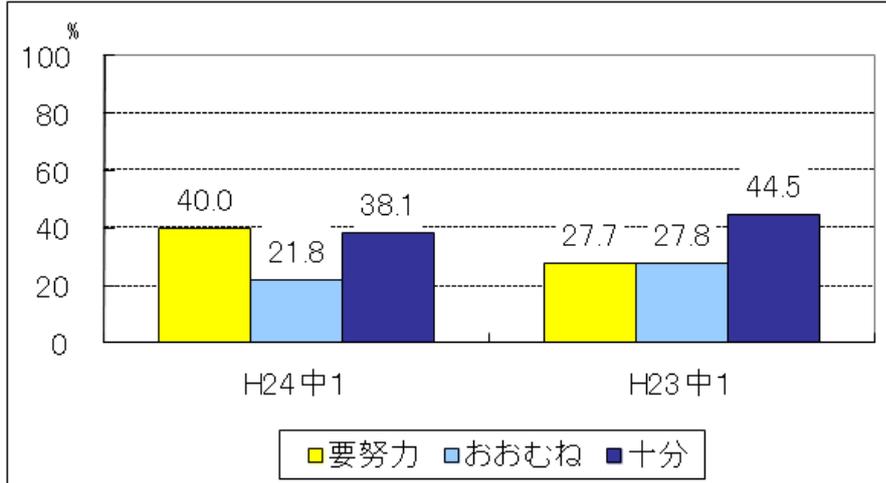


図12 H23・24年度(中学1年生国語)「読むこと」の到達度分布の経年比較

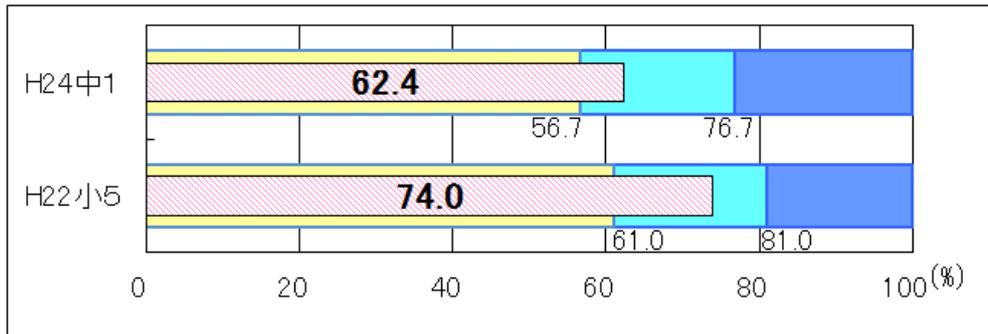


図13 H22年度(小学5年生国語)・H24年度(中学1年生国語)「読むこと」の正答率の経年比較

同一学年による正答率の経年変化を見ると、平成23年度は「おおむね達成」の基準を7.8ポイント上回り、平成24年度は「おおむね達成」の基準を5.7ポイント上回った(図11)。到達度分布では、平成23年度に比べ、「十分達成」の割合が6.4ポイント下回り、「要努力」の割合が12.3ポイント上回った(図12)。

同一児童生徒による正答率の経年変化を見ると、平成22年度は「おおむね達成」の基準を13.0ポイント上回り、平成24年度は「おおむね達成」の基準を5.7ポイント上回った(図13)。

同一学年による正答率の経年変化を見ると、あまり変化は見られないが、同一児童生徒による正答率の経年変化を見ると、「読むこと」において、学年が上がるにつれて、登場人物の相互関係から人物像や心情を読み取ることを苦手とする児童生徒が増えてきており課題が見られる。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導改善の手立て

平成24年度の調査結果を受け、主に「読むこと」領域における正答率が低い問題、無解答率が高い問題について分析する。

傾向1 **文章の内容を的確に読み取ることに課題がある。**

[小学5年生 大問4の三]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4三	文章の内容を的確に押さえ、求められている表現の仕方に合わせてまとめる。 (記述式)	資料を参考にして、段落の一部分を条件に合わせて書く。	23.2	22.8	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対し、正答率は23.2であり、21.8ポイント下回った。無解答率は22.8であった。本設問は、図鑑を参考にして必要な内容を捉え、他の段落の内容と同じ書き方で一文で書くものであったが、文章表現に着目した読み取り方ができていなかったと考えられる。

○ 指導改善の手立て

具体的には、次のような指導が効果的である。

- ① 目的に応じて、図鑑などの資料を効果的に活用させる。
- ② 資料を読むときに、内容面や形式面での様々な違いに気付かせる。
- ③ 目的に応じた適切な資料を通して、効果的な読みを身に付けさせる。

[中学1年生 大問3の三]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問3三	登場人物の相互関係から人物像やその役割を捉え、内面にある深い心情も合わせて捉える。 (記述式)	宣伝ポスターにあてはまる文を条件に合わせて書く。	39.6	7.7	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対し、正答率は39.6であり、10.4ポイント下回った。無解答率は7.7であった。本設問は、朗読劇の台本を基に、朗読劇を行うための宣伝ポスターの中に、当てはまる文を、「だと教えてください。」につながるように決められた字数で書くものであったが、登場人物の人物像や心情を読み取ることができなかったと考えられる。

○ 指導改善の手立て

物語文などの様々な文章の中の人物の相互関係や人物像、心情を捉えることができるような読み方、そして、条件に合わせて読み取ったことを書く指導を取り入れていくようにする。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ① 登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されていることにも注意して、想像を豊かにしながら読ませる。
- ② 場面の展開に沿って読みながら、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して自分の考えをまとめさせる。
- ③ 同じ作者や同じ題材の作品を比べて読むなど、児童が自分で優れた叙述に気付いていくことができるようにする。

傾向2 目的や意図に応じて書き換えたり、情報を取り出して自分の考えを書いたりすることに課題がある。

[小学6年生B 大問3の四]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問3四	複数の記事を結び付けながら読み、事実を基にして自分の考えをもつ。 (記述式)	二つの記事に書かれている内容を結び付けながら読み、理由となる事実を基にして自分の考えを記述する。	37.4	12.9	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対し、正答率が37.4であり、7.6ポイント下回った。無解答率は、12.9であった。本設問は、複数の記事を結び付けながら読み、理由となる事実を基にして自分の考えを記述するものであったが、情報を効果的に活用しながら読むことができていなかったと考えられる。

○ 指導改善の手立て

目的に応じて、複数の資料を結び付けながら、効果的な読みをすることが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ①目的に応じて、適切な資料を選び、その特徴を考えながら、比べ読み、速読、摘読、多読など多様な読み方を選択して、効果的に読む。
- ②目的に応じて、複数の資料を選び、それらに関係付けて読む。
- ③本や文章の情報を基にして、自分の考えをもち、発表し交流することで、自分の考えを広げたり、深めたりする。

[中学1年生 大問2の四]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問2四	示す事実を分かりやすくするために、適切に図表やグラフなどを用いる。 (選択式)	新聞の下書きの記事に加える資料として適切でないものを選ぶ。	55.9	1.4	85.0	65.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率65.0に対し、正答率は55.9であり、9.1ポイント下回った。本設問は、新聞の下書きに加える資料として適切でないものを選ぶというものであったが、相手に伝わるように全体の構成を考えて必要な情報を選ぶことができていなかったと考えられる。

○ 指導改善の手立て

目的や意図に応じて、書く材料の収集や選択の仕方、まとめ方などを様々に工夫することが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ①立場や意図を明確にし、情報を整理したり、資料を読み取ったりさせる。
- ②自分が経験したことや身の回りで起きた出来事、学習した内容など様々な書く活動を行わせる。
- ③紹介や案内、報告などの様々な文章を書く活動を行い、相手に分かりやすい内容を書くことができるよう指導する。

傾向3 簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと、長い間使われてきた故事成語の意味を正しく理解することに課題がある。

[小学5年生 大問5の三①]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問5三①	ローマ字で書く。 (短答式)	ねこ→neko	36.8	23.1	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対し、正答率は36.8であり、23.2ポイント下回った。無解答率は23.1であった。ローマ字の学習の定着には、繰り返し練習することや実際に使うことが必要であるが、そこまで至っていない。

○ 指導改善の手立て

ローマ字表記の案内板やパンフレットを見る機会やコンピュータを使う機会が増えるなど、ローマ字は児童の生活に身近なものになっている。このことから、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読んだり、書いたりすることができるようになることが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ①コンピュータ等のキーボード入力する方法を取り入れたり、自分の名前や身の回りのものの名前をローマ字で書くなど文字として書く活動を増やしたりする。
- ②ローマ字表記の指導を小学校中学年だけでなく、高学年においても実態に応じて指導していく。
- ③社会科や総合的な学習の時間などの調べ学習でコンピュータ等を使う際に、キーボード入力に慣れさせるなど、国語だけでなく、他教科との関連を図りながら、学習活動の様々な場面でローマ字にふれる機会を増やす。

[中学1年生 大問5の四]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問5の四	故事成語の意味を理解し、日常の場面で適切に使う。 (選択式)	四こままんがの内容を読み取り、適切な故事成語を選ぶ。	55.9	1.0	80.0	60.0

○ 解説状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対し、正答率は55.9であり、4.1ポイント下回った。日頃から、ことわざや慣用句、故事成語などの意味を正しく理解し、日常生活においてにおいて適切に用いることに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

長く使われてきたことわざや慣用句、故事成語などを自分の表現に用いるようにすることが重要である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- ①故事成語の意味や使い方を正しく理解させる。
- ②ことわざや慣用句、故事成語をスピーチや説明的な文章を書くときなど、自分の表現に用いさせる。
- ③様々な言葉の意味を国語辞典などを用いて調べさせる。

エ これからの指導に向けて

平成24年度の調査で明らかになった課題として、文章の内容を的確に押さえ、読み取ること、目的や意図に応じて、情報を取り出して読み取ったことを基に自分の考えをまとめることがあげられる。  
これらの課題を解決するためには、以下に示すような指導の工夫改善を図っていくことが大切である。

(ア) 系統的・段階的な学習内容の定着

児童の発達の段階を踏まえた学習の系統性を重視し、学校・学年ごとに、具体的に身に付けさせるべき能力の育成を目指し、重点的な指導を行うようにする。

例えば、「読むこと」では、説明的な文章について、以下の点を意識しながら指導改善を図っていくことが大切である。

○低学年では、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら読むことができる。

○中学年では、目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むことができる。

○高学年では、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたし読むことができる。

これらのことを学習するためには、6年間を見通して指導事項を身に付けさせていく必要がある。これらは、当該学年の指導に限らず、次の学年でも螺旋的・反復的に繰り返しながら学習させていくことで、能力の定着が更に図られていくものと考えられる。

(イ) 日常生活に生かせる言語活動の充実

「話す・聞く」「書く」「読む」の各領域では、日常生活で必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論などの言語活動を工夫し、その充実を図っていくことが重要となる。学校や児童の実態に応じて、課題に応じて必要な文章や資料等を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく活動を多く取り入れていく必要がある。そのためには、以下の点を意識しながら指導改善を図っていくことが大切である。

○低学年では、見たことや知らせたいことを記録し説明や紹介をしたり、体験したことを報告したりすることができる。

○中学年では、調べたことや観察・実験したことを記録・整理し、説明や報告にまとめて書き、資料を提示しながら発表することができる。

○高学年では、目的に応じて自分の立場から解説や意見、報告を書き、理由や根拠を示しながら説明することができるのとともに、自らの言語活動を振り返ることができる。

これらの指導の充実を図ることが、日常生活の中で生きて働く言語能力につながっていくものと考えられる。

オ 授業実践に参考となるリンク



最終更新日：2012-10-15

## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ> Ⅲ 各教科の調査結果の分析> 小学校社会

### Ⅲ 各教科の調査結果の分析

※中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

#### 小学校社会

**社会的事象についての知識・理解を基に、社会的な思考・判断・表現を育てる授業づくり**

小学5年生、小学6年生、中学1年生における全ての評価の観点、内容・領域が「おおむね達成」の基準を上回った。「知識・理解」の観点においては、全ての学年において「おおむね達成」の基準を上回った。また、「社会的な思考・判断・表現」の観点においても、全ての学年において「おおむね達成」の基準を上回った。しかし、中学1年生の「社会的な思考・判断・表現」の「活用」に関する問題については課題がみられた。指導に当たっては、社会的事象についての知識を確実に定着させ、社会的な思考・判断・表現を育てるための工夫や手立てが必要である。

この後、評価の観点については、以下のように記す。

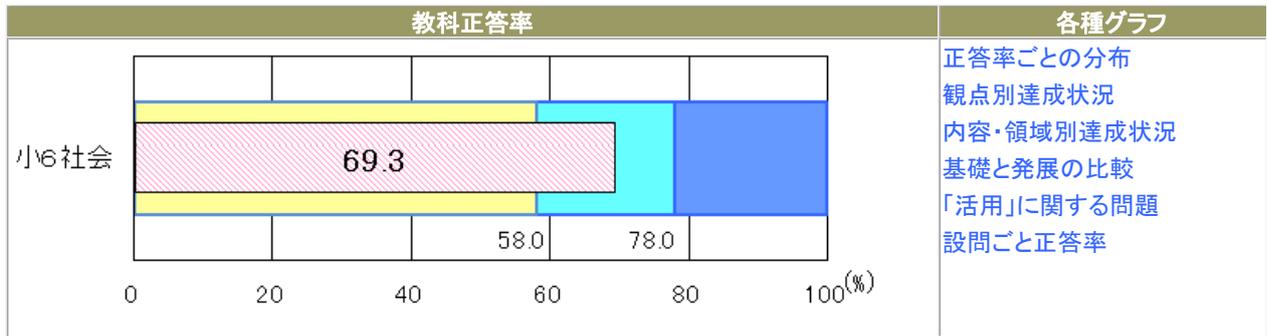
- |                   |   |            |
|-------------------|---|------------|
| ○社会的な事象への関心・意欲・態度 | → | 本調査では設定なし  |
| ○社会的な思考・判断・表現     | → | 「思考・判断・表現」 |
| ○観察・資料活用の技能・表現    | → | 「技能」       |
| ○社会的事象についての知識・理解  | → | 「知識・理解」    |

ア 結果の概要

(凡例) : 要努力(おおむね達成の基準を下回る) : おおむね達成 : 十分達成

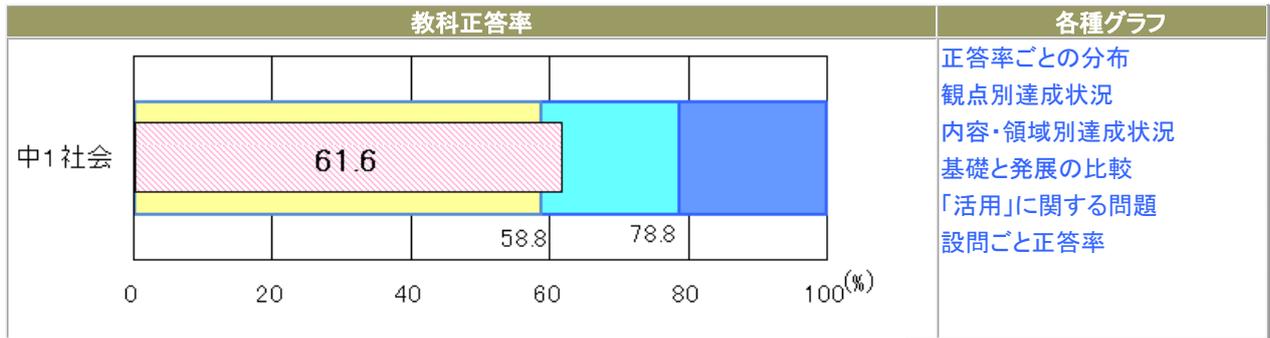
(ア) 教科及び設問ごと正答率

		教科正答率		各種グラフ		
小5社会				正答率ごとの分布 観点別達成状況 内容・領域別達成状況 基礎と発展の比較 「活用」に関する問題 設問ごと正答率		
小5社会 設問ごと正答率						
大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)①	主な地図記号を理解している(郵便局)	94.1	0.5	80	60
	(1)②	主な地図記号を理解している(神社)	86.5	0.5	80	60
	(2)	地図上の位置関係を、四方位を基に表すことができる	57.6	0.8	75	55
	(3)	地図から、駅周辺の様子を読み取ることができる	90.6	0.4	75	55
2	(1)①	資料から、販売の仕事に見られる工夫や努力を読み取ることができる	89.9	0.3	85	65
	(1)②	資料から、販売の仕事に見られる工夫や努力を読み取ることができる	94.9	0.3	85	65
	(2)	販売の仕事に見られる工夫や努力を理解している	67.0	4.8	80	60
	(3)①②	資料から、スーパーマーケットと産地との関わりについて読み取ることができる	55.7	3.4	80	60
3	(4)	販売の仕事と自分たちの生活との関わりについて説明することができる	78.9	6.6	70	50
	(1)	資料から、ごみの出し方を読み取ることができる	77.3	1.2	75	55
	(2)【メモ1】	清掃工場の仕組みを理解している	70.1	2.4	80	60
	(2)【メモ2】	清掃工場の仕組みを理解している	89.3	2.4	80	60
4	(3)	資料を基に、ごみ収集の工夫や努力について説明することができる	45.6	13.4	70	50
	(4)	家庭で取り組むことができるごみ減量の方法について考えることができる	77.8	6.0	70	50
	(1)	グラフから、家庭で多く水を使っている項目を読み取ることができる	96.0	1.3	85	65
	(2)	グラフから、水の使用量の変化を読み取ることができる	41.5	5.8	80	60
5	(3)	浄水場の働きを理解している	58.4	12.0	80	60
	(1)①②③	交通事故や事件を防ぐための警察官の工夫や努力を理解している	87.1	1.1	80	60
	(2)	資料を基に、交通事故を防ぐための工夫について説明することができる	84.3	3.5	70	50
6	(3)	交通事故をなくすために大切なことを理解している	88.3	3.2	85	65
	(1)	火事が発生した際の連絡の仕組みを理解している	73.3	1.5	85	65
	(2)①	火事が発生した際の警察の働きについて考えることができる	68.3	2.5	80	60
	(2)②	消防団の働きを理解している	54.9	15.9	80	60
7	(3)	資料を基に、火事が発生した際の消防署の消火活動の工夫について説明することができる	65.1	12.3	65	45
	(1)①	資料から、昔と今の道具の変化を読み取ることができる	94.0	2.8	80	60
	(1)②	資料から、昔と今の道具の変化を読み取ることができる	69.1	3.2	80	60
8	(2)	地域の年中行事を伝えている人々の願いを理解している	66.0	4.2	75	55
	(1)	佐賀県の位置を理解している	53.7	6.1	80	60
	(2)	県内の特色ある地域の様子を理解している	61.7	9.4	80	60
	(3)	自分が通う小学校のある市や町の地理的位置を理解している	63.1	18.9	75	55



小6社会 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)	日本の位置を理解している	61.2	0.1	80	60
	(2)	グラフから、日本の主な川の特徴を読み取ることができる	73.7	0.9	80	60
	(3)	資料から、日本海側の気候の特徴を読み取ることができる	74.0	0.3	80	60
2	(1)	水俣病が発生した位置を理解している	42.8	0.6	85	65
	(2)	資料から、水俣病と住民の生活や生活環境との関わりについて読み取ることができる	74.9	0.3	75	55
3	(1)	林業に従事する人々の工夫や努力を理解している	77.0	0.1	80	60
	(2)	資料を基に、森林資源が水産資源に及ぼす影響について考えることができる	58.0	3.4	70	50
4	(1)	グラフから、米づくりに適した気候の特徴を読み取ることができる	63.2	0.3	85	65
	(2)	米づくりの1年間の流れを理解している	91.8	0.1	85	65
	(3)	米づくりの仕事の工夫や努力の目的について考えることができる	67.6	5.5	75	55
5	(1)①	水産資源の保護のための200海里水域を理解している	59.6	8.9	85	65
	(1)②	グラフから、日本の遠洋漁業の生産量の変化を読み取ることができる	61.5	3.7	75	55
	(2)	つくり育てる漁業について理解している	68.0	0.8	80	60
	(3)	資料を基に、生産地と消費地を結ぶ運輸の工夫や努力について説明することができる	74.6	5.1	70	50
6		資料を基に、みかん農家がハウス栽培を行う理由を説明することができる	48.7	5.7	65	45
7	(1)	工業地帯の位置と名称を理解している(※)	53.2	1.1	80	60
	(2)	日本の工業のさかんな地域を理解している	82.7	5.0	85	65
	(3)①②	グラフから、日本の大工場と中小工場を比較し、中小工場の特徴を読み取ることができる	58.3	1.2	80	60
8	(1)①②③	資料から、自動車生産に従事する人々の工夫や努力を読み取ることができる	83.8	0.8	75	55
	(2)	日本の自動車会社が海外に工場をつくる理由について理解している	57.5	1.5	80	60
	(3)	資料を基に、これからの自動車生産について、安全、環境、福祉のいずれかの視点から考えることができる	68.7	4.9	70	50
9	(1)	メディアの特徴について理解している	93.3	1.8	85	65
	(2)	ニュース番組と新聞をつくる際の工夫や努力を理解している	47.2	5.0	80	60
	(3)	手話放送や文字放送をしたり、点字新聞の発行をしたりする理由を説明することができる	83.4	5.2	75	55
10	(1)	グラフから、インターネットの利用率の変化を読み取ることができる	61.3	3.9	75	55
	(2)①	資料から、病院で行っている情報ネットワークを使った工夫について読み取ることができる	91.2	4.4	80	60
	(2)②	資料から、コンビニエンスストアで行っている情報ネットワークを使った工夫について読み取ることができる	86.5	4.5	80	60
	(3)	インターネットを利用して情報を受けたり集めたりする際に、気を付けることを考えることができる	75.9	8.1	70	50



中1社会 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)	資料から、縄文土器の特徴を読み取ることができる	96.6	0.1	85	65
	(2)	資料を基に、農耕が始まったことによる社会の変化を説明することができる	68.9	5.7	70	50
	(3)	古墳について理解している	74.7	6.9	80	60
2	(1)	十七条の憲法について理解している	50.5	10.8	80	60
	(2)	仏教の発展に力を尽くした鑑真について理解している	77.2	0.3	85	65
	(3)	遣唐使の停止による日本の文化への影響を理解している	20.0	23.7	80	60
3	(1)	地図上から、源平の最後の戦いの場所の位置を読み取ることができる	46.4	0.9	80	60
	(2)	資料を基に、元寇と鎌倉幕府の衰退との関係を説明することができる	55.4	10.3	70	50
4	(1)	資料から、足利義満の業績を読み取ることができる	83.5	0.3	85	65
	(2)	室町時代の文化について理解している	49.7	10.9	80	60
5	(1)	長篠の戦いで鉄砲が使われたことを理解している	88.4	0.3	85	65
	(2)	資料から、豊臣秀吉が行った政策を読み取ることができる	57.9	16.5	75	55
	(3)	江戸幕府がキリスト教に対して行った政策を理解している	66.0	0.8	80	60
6	(1)	江戸時代の文化について理解している	50.3	10.2	80	60
	(2)	江戸時代の学問について理解している	92.7	0.4	85	65
7	(1)	幕末に日本に來航したペリーについて理解している	89.2	3.6	80	60
	(2)	資料を基に、明治政府が地租改正を行った目的を説明することができる	16.9	28.4	65	45
8	(1)	板垣退助らによって始まった自由民権運動を理解している	53.2	13.8	80	60
	(2)	陸奥宗光が改正に成功した不平等条約の内容を理解している	73.6	0.9	80	60
9	(1)	地図上から、満州国の位置を読み取ることができる	45.7	1.0	80	60
	(2)	戦争中の国民生活の様子を理解している	31.4	1.2	80	60
	(3)	戦争後の日本の課題について理解している	26.8	31.0	80	60
10	(1)	国会、内閣、裁判所の働きを理解している	45.8	1.0	80	60
	(2)AB	三権分立の仕組みについて理解している	81.5	0.7	80	60
11	(1)	平和主義について理解している	68.9	8.4	80	60
	(2)	選挙の意味を国民主権と関係付けて考えることができる	27.7	23.2	65	45
	(3)	資料から、国民の権利について読み取ることができる	80.1	2.1	85	65
12	(1)	アメリカ合衆国の位置を理解している	90.4	1.2	80	60
	(2)	資料から、日本と中国との結び付きを読み取ることができる	56.7	6.9	75	55
13	(1)	国際連合について理解している	40.2	18.5	80	60
	(2)	ユニセフの活動内容を理解している	79.2	2.1	80	60
	(3)	難民問題や環境問題の解決について自分の考えをもつことができる	86.0	4.0	70	50

全ての学年の教科正答率が、「おおむね達成」の基準を上回った。しかし、「十分達成」の基準を上回った学年は見られなかった。

(イ) 評価の観点別正答率

①小学5年生

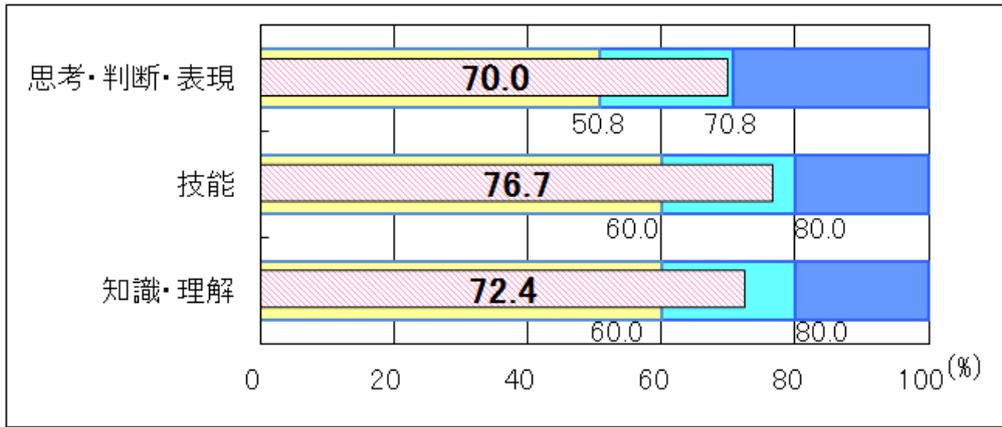


図1 H24年度(小学5年生社会)評価の観点別正答率

全ての観点において、「おおむね達成」の基準を上回った。特に、「思考・判断・表現」は、19.2ポイント上回った。授業の中で、資料やグラフを基に、販売の仕事に見られる工夫や努力について説明したり、まとめたりする指導を丁寧に行っているためと考えられる。

②小学6年生

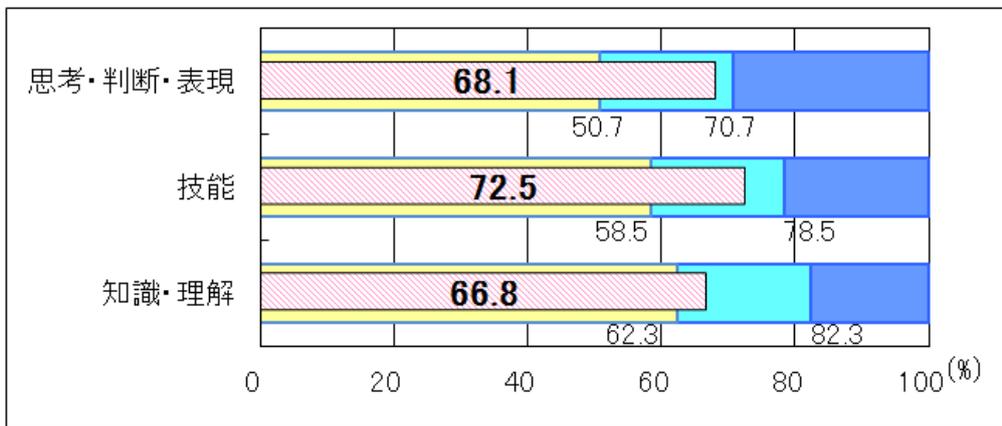


図2 H24年度(小学6年生社会)評価の観点別正答率

全ての観点において「おおむね達成」の基準を上回った。「知識・理解」の問題では、「米づくりの1年間の流れ」や「林業の仕事の工夫や努力」について課題が見られた。米づくりや林業の具体的な仕事内容について理解が深まっていないためだと考えられる。

③中学1年生

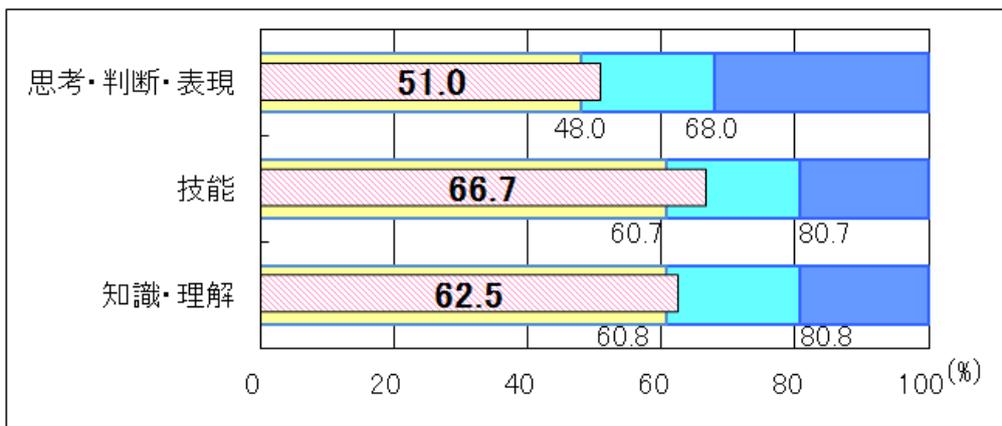


図3 H24年度(中学1年生社会)評価の観点別正答率

全ての観点において「おおむね達成」の基準を上回っている。しかし、「知識・理解」、「思考・判断・表現」に関して課題が見られた。「知識・理解」については人物、時代背景、政策などを関連付けて理解できていないために、断片的な知識になっていることが考えられる。また、「思考・判断・表現」については、時代背景と事実とを関連付けて理解できていないために、社会的事象について説明や解釈ができなかったことが考えられる。

(ウ) 内容・領域別正答率

①小学5年生

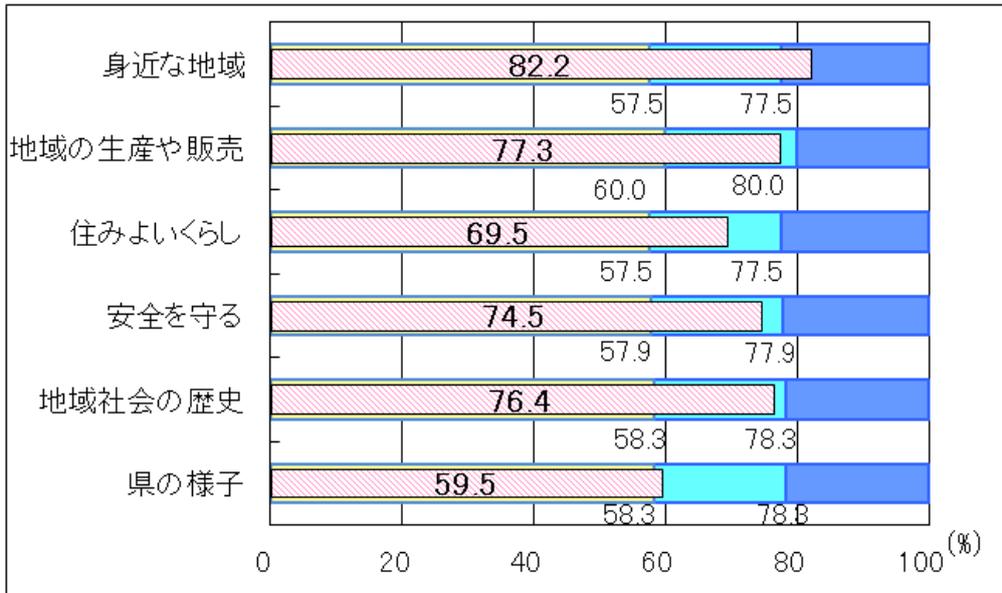


図4 H24年度(小学5年生社会)内容・領域別正答率

②小学6年生

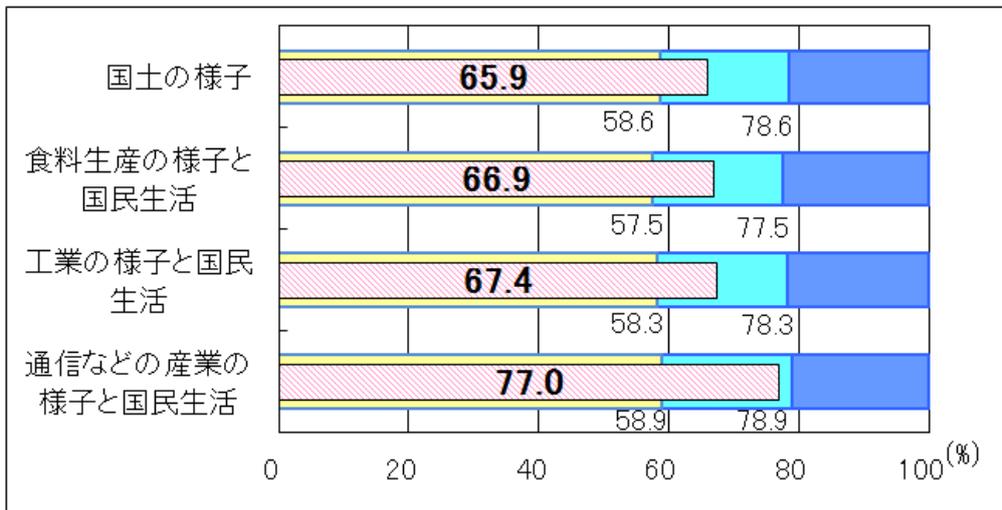


図5 H24年度(小学6年生社会)内容・領域別正答率

③中学1年生

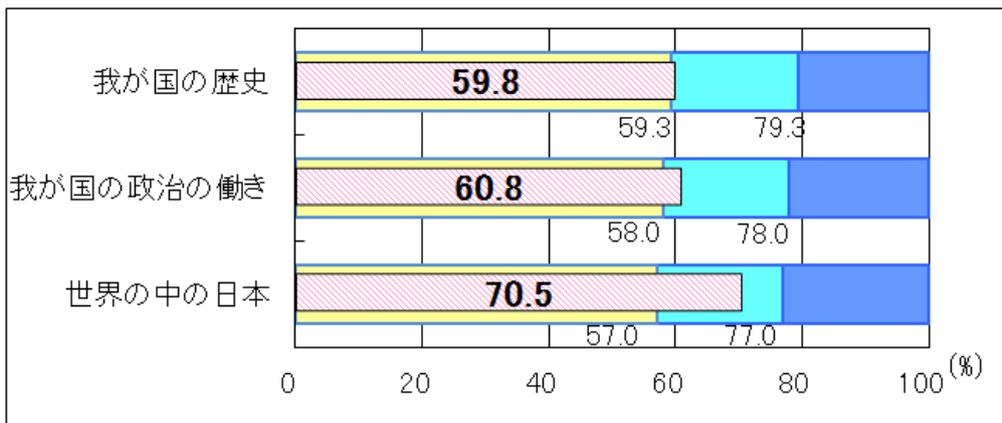


図6 H24年度(中学1年生社会)内容領域別正答率

小学5年生では「身近な地域」が「十分達成」の基準を4.7ポイント、「地域社会の歴史」が「おおむね達成」の基準を18.1ポイント上回った。小学6年生では「通信などの産業の様子と国民生活」が18.1ポイント上回った。中学1年生では「世界の中の日本」が13.5ポイント上回った。しかし、内容・領域別ごとに正答率の差が見られた。特に、小学5年生の「県の様子」は「おおむね達成」を1.2ポイント、中学1年生の「我が国の歴史」については、0.5ポイント上回るにとどまり、他の内容・領域と比べると課題が見られた。その原因として「県の様子」、「国の歴史」などの内容・領域については、身近な地域から、県、さらには国へと学習対象の範囲が広がったり、覚えるべき学習内容が増えたりすることで社会的事象について理解したり、事象について考えたりすることが難しくなると考えられる。

イ 経年比較

(凡例) □:要努力(おおむね達成の基準を下回る) □:おおむね達成 □:十分達成

これまでに示した結果を受け、(ア)では、小学5年生の「技能」の観点について、指導改善が図られたかを見るために同一学年の経年比較をする。(イ)では、中学1年生の「知識・理解」の観点について、指導改善が図られたかを見るために同一学年の経年比較を行い、さらに児童の変容と学習内容との関係を見るために同一児童の比較をする。なお、平成22年度、平成23年度の観点は、「技能・表現」であるが、「技能」と表記する。

(ア) 小学5年生の「技能」の観点についての経年比較(同一学年)

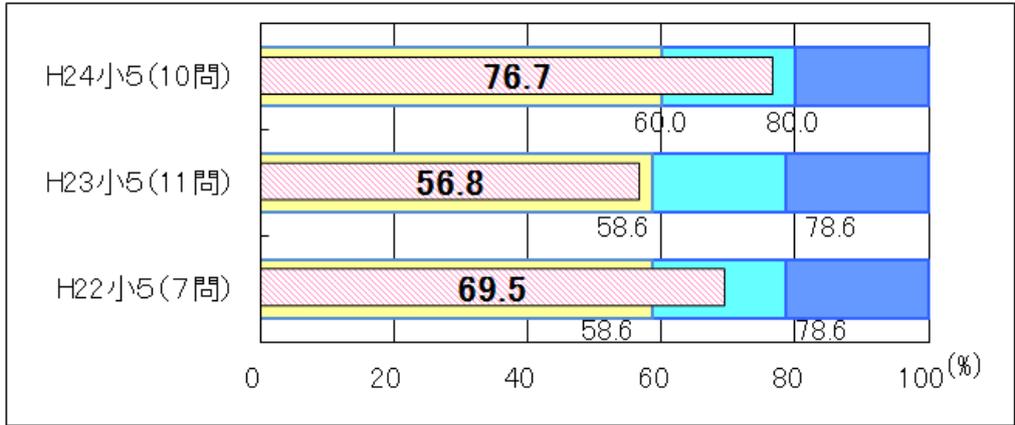


図7 H22・23・24年度(小学5年生社会)「技能」の正答率の経年比較

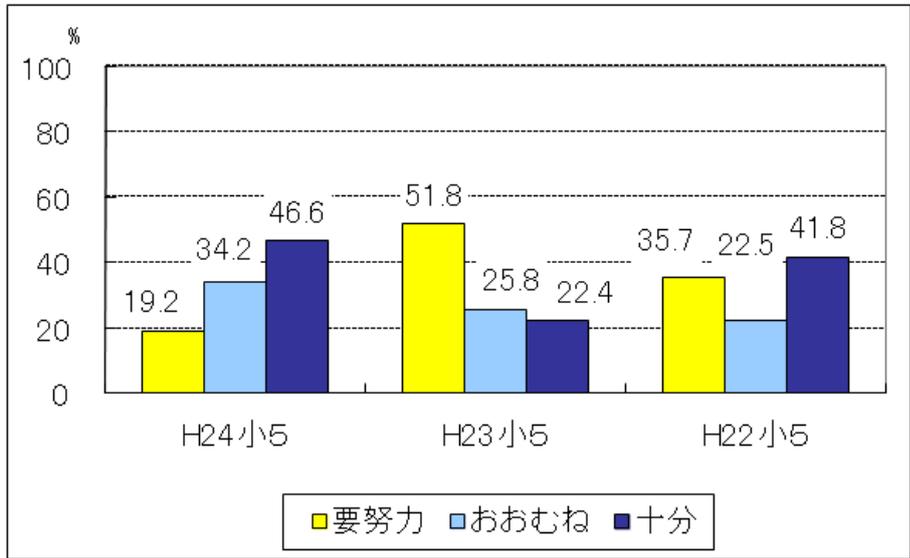


図8 H22・23・24年度(小学5年生社会)「技能」の到達度分布の経年比較

「技能」に関しては、平成22年度の調査では「おおむね達成」の基準を上回っていたが、平成23年度の調査では「おおむね達成」の基準を下回っていた。平成24年度の調査では「おおむね達成」の基準を上回っている。さらに、到達度分布(図8)を見ると、「十分達成」の児童の割合が増加し、「要努力」の児童は減少しており改善が図られている。

そこで、「技能」について、資料の内容を「グラフを読み取る技能の問題」(表1では「グラフ」と表記)と「図・写真等を読み取る技能の問題」(表1では「図・写真等」と表記)に分けて、正答率を比較することにした。

表1 H22・23・24年度(小学5年生社会)「技能」の資料の内容別の正答率比較

	H24	H23	H22
グラフ	68.8(2問)	64.8(2問)	74.7(3問)
図・写真等	78.6(8問)	55.0(9問)	65.7(4問)

※正答率のあとの( )には、出題した質問数を示している。

表1を見ると、平成23年度に比べ、図・写真等の正答率が23.6ポイント高い。昨年度の課題として図や写真などを基に情報を取り出す力が身に付いていないことが挙げられていた。本年度はこの結果を受け、図や写真などを基に必要な情報を読み取ったり、まとめたりする指導が徹底されることで改善がなされたと考えられる。

(イ) 中学1年生の「知識・理解」の観点についての経年比較

①同一学年

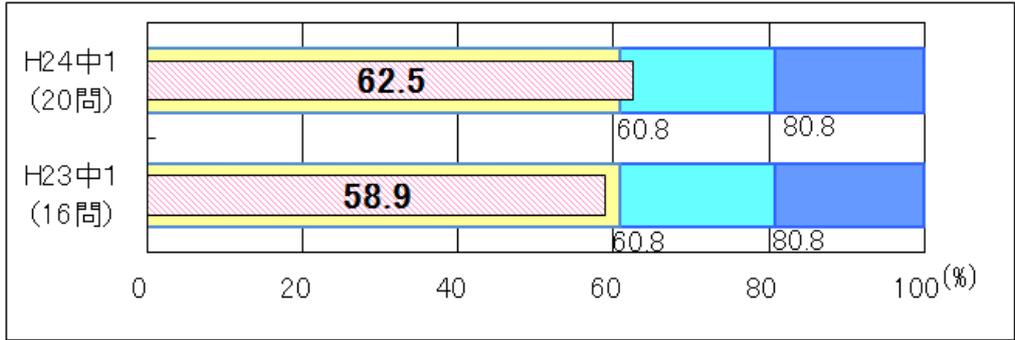


図9 H23・24年度(中学1年生社会)「知識・理解」の正答率の経年比較

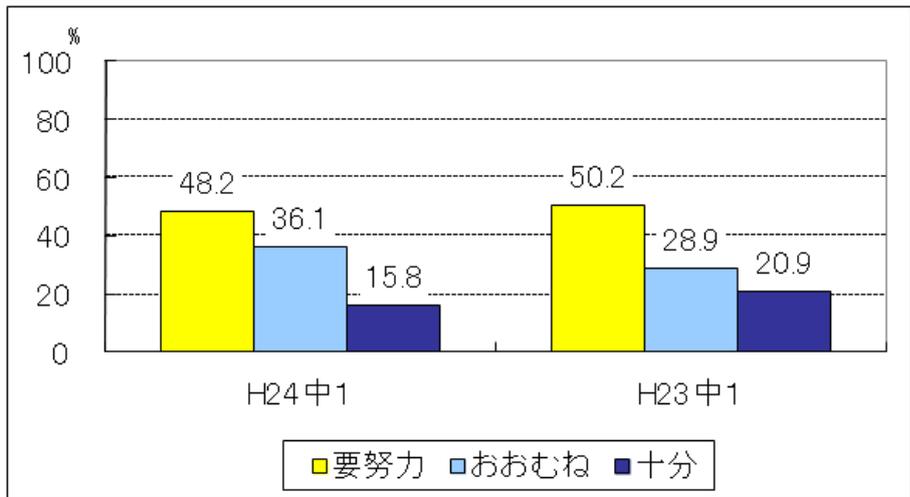


図10 H23・24度(中学1年生社会)「知識・理解」の到達度分布の経年比較

「知識・理解」について、平成23年度と比較すると、平成24年度の正答率は高くなっている(図9)。しかし、到達度分布を見ると、「十分達成」の割合は5.1ポイント減少していることは課題である(図10)。その原因の1つとして歴史学習の知識定着が不十分であることが考えられる。具体的には明治時代以降の学習内容である。明治時代以降の内容は日本が近代化した時代の内容であり、時代背景や人物、政策などの関係が複雑であり、理解するのが難しいということが理由として考えられる。

②同一児童生徒比較

平成24年度に課題が見られた中学1年生の「知識・理解」について、同一児童生徒の過去3年間を比較する。

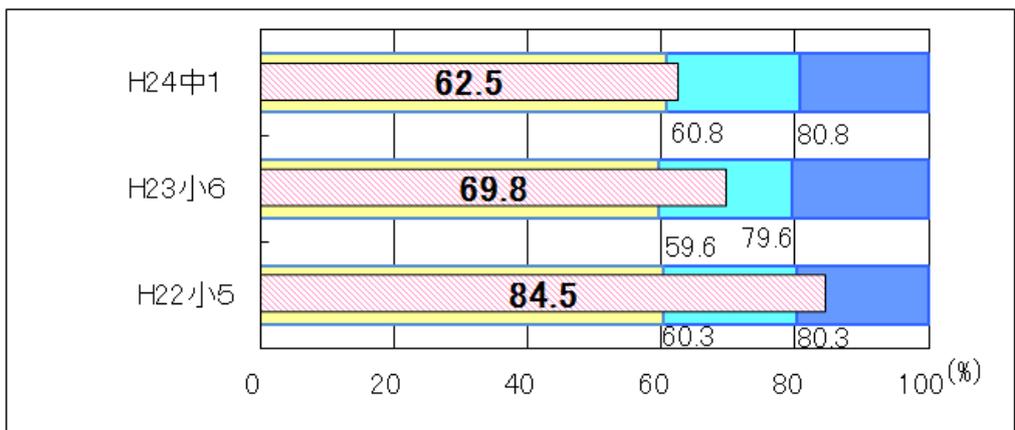


図11 H22・23・24年度(小学5年、小学6年、中学1年生社会)「知識・理解」の正答率の経年比較

平成22年度の小学5年生では、「知識・理解」の正答率は「十分達成」の基準を上回った。平成23年度の小学6年生は「おおむね達成」の基準を10.2ポイント、平成24年度の中学1年生は1.7ポイント上回った。学年が上がるにつれて「おおむね達成」の基準に対しての正答率が低くなっているが、これは身近な地域から日本や世界へと学習対象が広がることによって、児童の生活との結び付きが感じられなくなることが理由として考えられる。

(ウ) 「活用」に関する問題についての経年比較(同一児童・生徒比較)

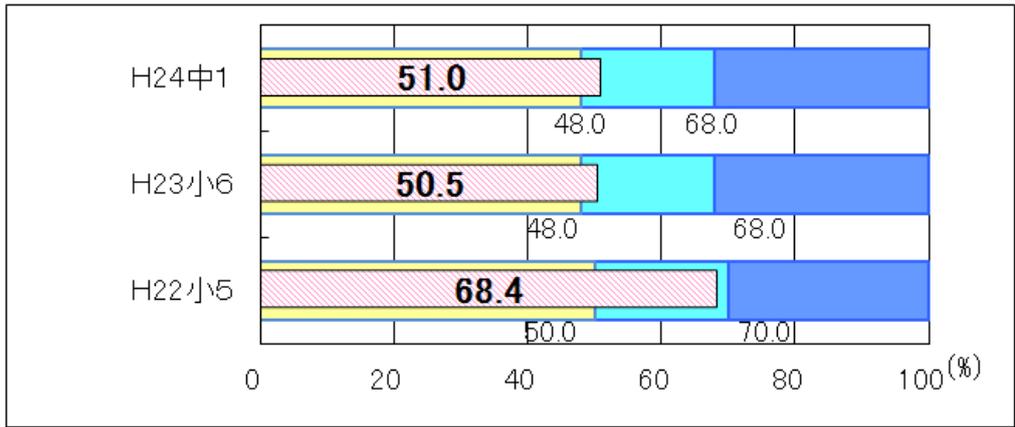


図12 H23年度(小学5年生社会)、H24年度(小学6年生社会)「活用」に関する問題の正答率の経年比較

「活用」に関する問題については、平成22年度、平成23年度、平成24年度の調査ともに「おおむね達成」の基準を上回っている。しかし、「おおむね達成」の基準を平成23年の小学6年生で2.5ポイント、平成24年度の中学1年生で3.0ポイント上回るとどまっている状況である。(図12)そこで、「活用」に関する問題を、大きく2つに分けて比較、分析していくこととする。  
 ○社会的な問題や社会の中で直面しそうな問題に対して自分の考えや解決策を論述する設問・・・図13では「論述」と表記  
 ○社会的事象の特色や関連、意味・意義について解釈したり説明したりする設問・・・図13では「説明・解釈」と表記

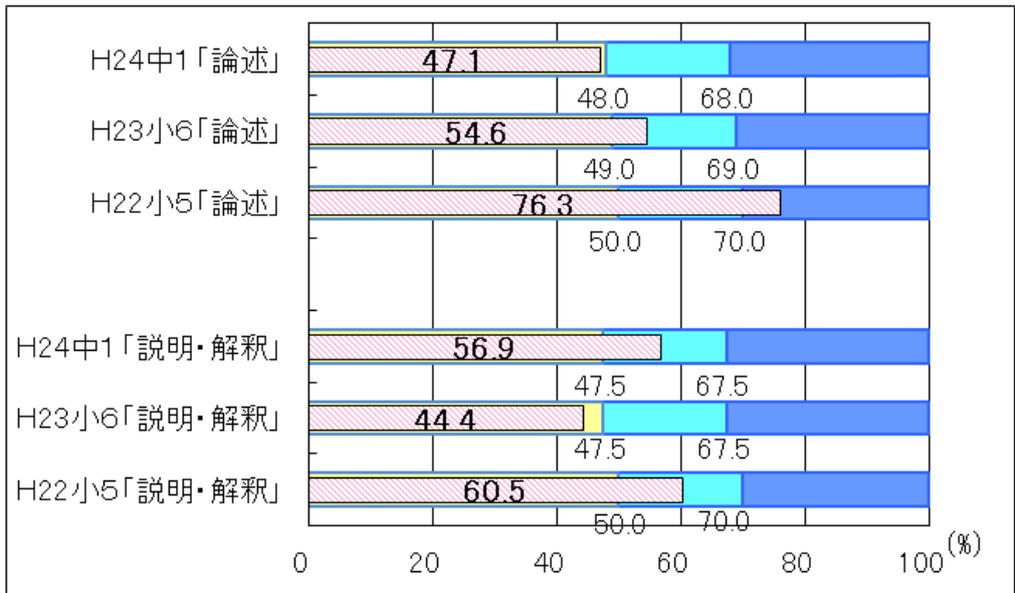


図13 H22年度(小学校5年生社会)H23年度(小学6年生社会)H24年度(中学1年生社会)「活用」に関する問題の設問内容ごとの正答率の経年比較

平成24年度中学1年生の「説明・解釈」の正答率は、「おおむね達成」の基準を上回っている。中学1年生の「説明・解釈」には歴史学習の年表・資料の読み取りについて問われており、このことから年表や資料から必要な情報を読み取る力は身に付いていると考えられる。しかし、平成24年度の中学1年生の「論述」の正答率は「おおむね達成」を下回る結果となっている。中学1年生の「論述」では社会的な問題に対しての解決策を述べる事が問われていることから、よりよい解決策を考えて述べる力が身に付いていないということが考えられる。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導法改善の手立て

平成24年度の結果の概要を踏まえ、傾向1では「社会的事象、歴史的事象に関わる知識の定着」について、傾向2では「技能」の中でも、「グラフなどの資料から必要な情報を読み取ること」について設問レベルで分析する。また、経年比較を踏まえ、傾向3では、「自分の考えを論述したり、事象の関連や意味を説明したりすること」について設問レベルで分析する。

傾向1 **社会的事象、歴史的事象に関わる知識の定着に課題がある。**

[小学5年生 大問4の(2)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問4(2)	浄水場の働きを理解している。  (短答式)	川やダムから水を取り入れて、ごみや砂を取り除いたり、消毒したりしてきれいな水をつくる施設の名称を書く。	58.4	12.0	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対し、正答率は58.4であり、「おおむね達成」を1.6ポイント下回った。特に無解答率も12.0であり、身近な水道水がどこで作られているのかを理解できていない児童が多かったことが事実として挙げられる。

○ 指導改善の手立て

浄水場の働きについて理解させる際は、実際に水道水が作られていく工程を見学する活動を取り入れるなどの指導の工夫が大切である。また、実際に見学できない場合は、水道水ができる工程についてまとめている写真やVTRなどを見せるなどして理解させていく指導が効果的である。

[小学6年生 大問9の(2)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問9(2)	ニュース番組と新聞をつくる際の工夫や努力を理解している。  (短答式)	新聞記者が読者に分かりやすく伝えるための工夫を記述する。	47.2	5.0	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対し、正答率は、47.2であり、12.8ポイント下回った。記者の工夫や努力を具体的に理解するだけでなく、一般化して理解していく指導が不十分であったために正答率が低くなったと考えられる。

○ 指導改善の手立て

具体的な知識から一般化した知識を導き出す際には、記者の仕事に見られる共通点などを発見させたり、違いについて話し合いを行ったりする場を設定していくことが大切である。また、可能であれば記者に実際に会い、インタビューする活動なども効果的である。

[中学1年生 大問9の(2)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問9(2)	戦時中の国民生活の様子を理解している。  (選択式)	戦時中の厳しい生活の様子を表す文で、う適切なものを4つの選択肢から選ぶ。	31.4	12.0	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対し、正答率は31.4であり、28.6ポイント下回った。戦時中の厳しい生活の様子について児童の実感が伴わず、時代背景の理解が不十分であったために正答率が低かったと考えられる。

○ 指導改善の手立て

戦時中の生活の様子を学習する際には、現代の生活との違いを明確にすることが大切である。そのためには、戦時中の小学校生活、食事、空襲による疎開などを取り上げたり、当時の生活について話を聞いたり、VTR等を使って視聴させたりする学習が効果的である。

傾向2 **グラフなどの資料から必要な情報を読み取ることに課題がある。**

[小学5年生 大問2の(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問2(3) ①②	資料から、スーパーマーケットと産地との関わりについて読み取ることができる。 (記述式)	資料をもとにスーパーマーケットで売られている肉や野菜がどこから送られているかを読み取り、記述する。	55.7	3.4	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対し、正答率は55.7であり、4.3ポイント下回った。原因としてスーパーマーケットで売られている肉や野菜と、産地との関係について資料から読み取ることができていないことが考えられる。

○ 指導改善の手立て

スーパーマーケットでは、肉や野菜は珍しいものではないため、児童にとっては、それらがどこで生産されたのかということについての意識は低いと考えられる。そのため、スーパーマーケットにある販売品の生産地、さらに輸送経路など、生産から販売までのルートについての指導を行うことで、まとまった知識となっていくと考えられる。

[小学6年生 大問7(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問7(3)	グラフから、日本の大工場と中小工場を比較し、中小工場の特色を読み取ることができる。 (選択式)	大工場と中小工場の資料から、中小工場の特色を読み取り、正しいものを選ぶ。	58.3	1.2	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対し、正答率は58.3であり、1.7ポイント下回った。日本の工業全体の特色は理解していても、大工場や中小工場のそれぞれの特色を捉えることができていないため、比較しながら読み取ることができなかったと考えられる。

○ 指導改善の手立て

日本の工業の特色として、ほとんどが従業員が299人以下の中小工場で占められていることが挙げられる。中小工場ではなにが主に生産されているのか、その理由はなぜかなどについて整理していくことが大切である。また、大工場と中小工場の違いを、自分の言葉でまとめさせたり、説明させたりする活動も効果的である。

[中学1年生 大問5(2)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問5(2)	資料から、豊臣秀吉が行った政策を読み取ることができる。 (短答式)	年表と資料から、豊臣秀吉が行った政策を記述する。	57.9	16.5	75.0	55.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率55.0に対し、正答率は57.9であり、2.9ポイント上回るにとどまった。原因として人物と政策が結び付いて理解できていないことが考えられる。加えて、人物の名前や政策の名称を正確に理解できていないことも原因として考えることができる。

○ 指導改善の手立て

豊臣秀吉は刀狩りや検地など様々な政策を行っている。歴史学習では、人物だけでなく、その人物を取りまく時代背景を理解していくことが大切となる。具体的には、VTRなどを活用して時代背景を理解させていくなどの工夫が効果的である。

傾向3 **自分の考えを論述したり、事象の関連や意味を説明したりすることに課題がある。**

[小学5年生 大問2(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問3(3)	資料を基に、ごみ収集の工夫や努力について説明することができる。 (記述式)	ごみ収集車のごみを回収する順番は決められている理由を考え、記述する。	45.6	13.4	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対し、正答率は45.6であり、4.4ポイント下回った。どこにごみが集められているかについては理解しているが、具体的にどのような工夫や努力がなされているかについて正確に把握できていないことが原因として挙げることができる。

○ 指導改善の手立て

ごみ収集は、自治体によって迅速にごみを収集するための工夫や努力がなされている。そのため、工夫や努力がどのように行われているかについて、実際に見学に行かせるなどの指導の工夫が考えられる。また、見学ができない場合でもVTRなどを活用していく指導の工夫も効果的である。

[小学6年生 大問6]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問6	資料を基に、みかん農家がハウス栽培を行う理由を説明することができる。 (記述式)	ハウス栽培の様子と収穫時期を表した資料からハウス栽培を行う理由について記述する。	48.7	5.7	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対し、正答率は48.7であり、3.7ポイント上回った。「おおむね達成」を上回っているが、高い正答率ではない。ハウス栽培のみかんが、露地栽培のみかんの収穫量が少ない時期に出荷されることを資料から読み取ることができなかったためだと考えられる。

○ 指導改善の手立て

ハウス栽培はみかんだけでなく、様々な果物や野菜を作る際に用いられる方法である。そのため、なぜハウス栽培の方法が取られているのかについての理由を明らかにしながら学習を進めていくことが大切である。また、VTRや資料集を活用するなど視覚的に考えていくことも効果的である。

[中学1年生 大問7(2)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問7(2)	資料を基に、明治政府が地租改正を行った目的を説明することができる。 (記述式)	地租改正を行った理由を「収穫量」と「収入」の言葉を使って記述する。	16.9	28.4	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対し、正答率は16.9であり、28.1ポイント下回った。明治政府により様々な政策が行われた。主な政策として地租改正があるのだが、資料から地租改正の内容あるいは地租改正による収入の変化を読み取れないことによって、目的について記述することができなかったと考えられる。

○ 指導改善の手立て

明治政府になり、地租改正、徴兵令、廃藩置県など様々な政策が行われたことについて学習する。その際、明治政府が目指した国のあり方を基に、1つ1つの政策の目的や理念を関連付けてまとめていくことが大切である。さらに、明治政府の立場からではなく、その政策によってどのような影響が出たのかについて国民の立場からも考察していくような指導が効果的である。

[中学1年生 大問11(2)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問11(2)	選挙の意味を国民主権 と関係付けて考えるこ とができる。  (記述式)	投票に行かない人が多 くいることが問題であ る理由について記述す る。	27.7	23.2	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対し、正答率は27.7であり、17.3ポイント下回った。国民主権は日本国民にとって大切な権利である。しかし、その権利を実際に行使することができる行動の1つが投票であることを関連付けることができなかつたことを考えることができる。

○ 指導改善の手立て

投票率の低下という社会的な問題は深刻な問題であり、将来、参政権をもつことになる児童が知っておくべき問題である。そのため、具体的には投票率低下の問題を取り上げ、今後どのようにしていくべきか考えたり、話し合ったりする場面を設定するなどの指導の工夫が効果的である。

エ これからの指導に向けて

本調査によって、「社会的事象、歴史的事象に関わる知識の定着」と「グラフなどの資料から必要な情報を読み取ること」、さらに「自分の考えを論述したり、事象の関連や意味を説明したりすること」に課題があることが分かった。学習指導要領では、社会的な事象に関する知識を基に、社会的な見方や考え方を養っていくことを求めている。そのため、社会的な事象についての知識を確実に定着させ、社会的な思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫が必要となってくる。

(ア) 知識を定着させる指導の工夫

学年が上がるにしたがって習得すべき知識は増えていく。そのため、歴史学習においては人物と政策、時代背景などを断片的に学習させるのではなく、それらを関連させながら学習させていくことが大切になっていく。更に、社会的事象の仕組みや構造など生活と関連付けて理解させていくことも大切となる。そのため、知識を定着させる指導法の改善を行う必要がある。具体的には、次のような方法が考えられる。

○1つの知識だけを習得させるのではなく、複数の知識を関連付けて習得できるようにする。

○社会的な問題を取り上げ、解決策を考えさせたり、問題に対する意見文を書かせたりする活動を取り入れるなど、習得した知識を活用する場面を学習過程に位置付ける。

(イ) 当事者意識を高める指導の工夫

生活場面との結び付きが感じられない内容・領域ほど正答率が低くなる傾向があった。特に、小学5年生の「県の様子」、中学1年生の「我が国の歴史」、「我が国の政治の働き」などは、生活場面との結び付きが感じられず、児童生徒の当事者意識が低いと考えられる。そこで、当事者意識を高めるため、教材の工夫が考えられる。

○佐賀の七賢人など地域の偉人を取り上げて学習させていく。

○佐賀県内で起きている社会的問題を取り上げ、学習させていく。

(ウ) 資料活用の技能を高める指導の工夫

社会科学習には資料を読み取ったり、活用したりする活動が多々ある。学習指導要領の小学6年生においては、「地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用」と表記してある。そのため、地図帳や地球儀、年表などの資料から必要な情報を読み取ったり、活用したりできるようにするための指導の工夫が求められる。更に、児童が地図帳や地球儀を見たり触れたりすることができる環境の整備も必要である。具体的には次のような方法が考えられる。

○教室に地球儀を置いたり、地図を常時掲示しておく。

○学習に地図を活用して調べたり、考えたりする活動を組み込む。

(エ) 言語活動の充実を図る指導の工夫

学習指導要領には、社会科学習においても言語活動の充実を図ることが記されている。社会科学習における言語活動には、資料から分かったことを話し合う活動、社会的な問題をどのように解決していくべきかについて話し合う活動などが考えられる。そのため、それらの活動が充実するように話し合いの必然性をもたせたり、話し合う内容を明確にしたりする指導が必要である。

(オ) 「思考力・判断力・表現力」を高めるための評価の工夫

国立教育政策研究所が示した『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』では、「社会的な思考・判断」の評価の観点を「社会的な思考・判断・表現」と改めた。そのため、それに応じてどのように「社会的な思考・判断・表現」を評価していくかは大切な課題である。例えば、児童が作成したレポートなどを対象に評価規準を作り、さらに判定基準を作り評価していくことが必要となってくる。特に判定基準ではどのような状況を「おおむね満足できる」状況(B)とするのかについて明確にすることが大切である。さらにそれを基準として「十分満足できる」状況(A)を作成していくこととなる。そのため、児童に期待する児童の発言やワークシートの記述内容を考えておくことが必要となる。

オ 授業実践に参考となるリンク



最終更新日：2012-10-15

## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

[Web報告書目次](#) > [Ⅲ 各教科の調査結果の分析](#) > 小学校算数

### Ⅲ 各教科の調査結果の分析

※ 中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

#### 小学校算数

**知識・技能を身に付け、筋道を立てて考え、表現する能力を育てる授業づくり**

「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」の評価の観点別正答率及びほとんどの内容・領域別正答率において、「おおむね達成」の基準を上回った。しかし、小学5年生と中学1年生の「数学的な考え方」の観点別正答率が「おおむね達成」の基準を共に下回った。また、「活用」に関する問題や「発展的・応用的問題」の正答率でも、小学5年生と中学1年生が「おおむね達成」の基準を共に下回っており、課題である。授業においても算数的活動を充実させ、数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、思考力・判断力・表現力を高めることが必要である。

この後、評価の観点については、以下のように記す。

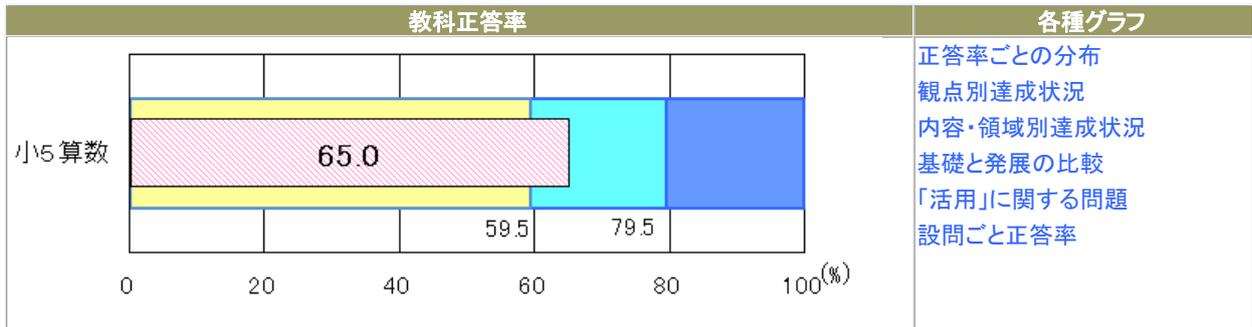
- |                  |   |           |
|------------------|---|-----------|
| ○算数への関心・意欲・態度    | → | 本調査では設定なし |
| ○数学的な考え方         | → | 「考え方」     |
| ○数量や図形についての技能    | → | 「技能」      |
| ○数量や図形についての知識・理解 | → | 「知識・理解」   |

ア 結果の概要

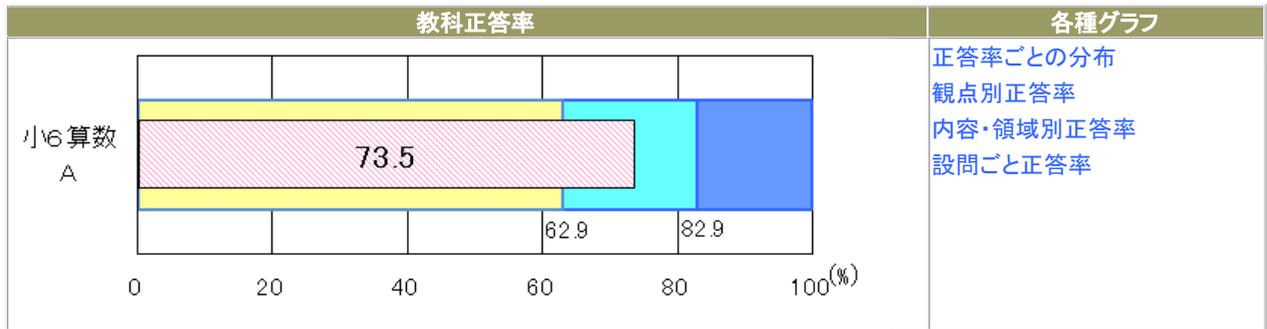
各学年ごとに教科の正答率について到達基準との比較を示す。

(凡例) :要努力(おおむね達成の基準を下回る) :おおむね達成 :十分達成

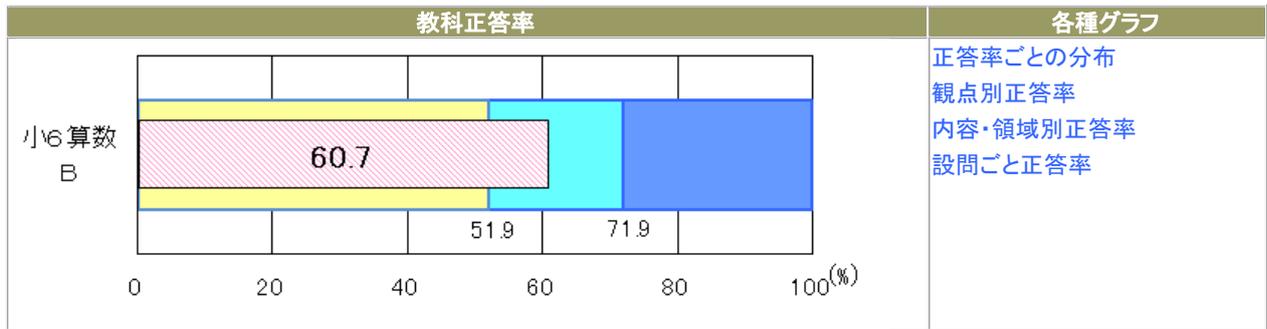
(ア) 教科及び設問ごと正答率



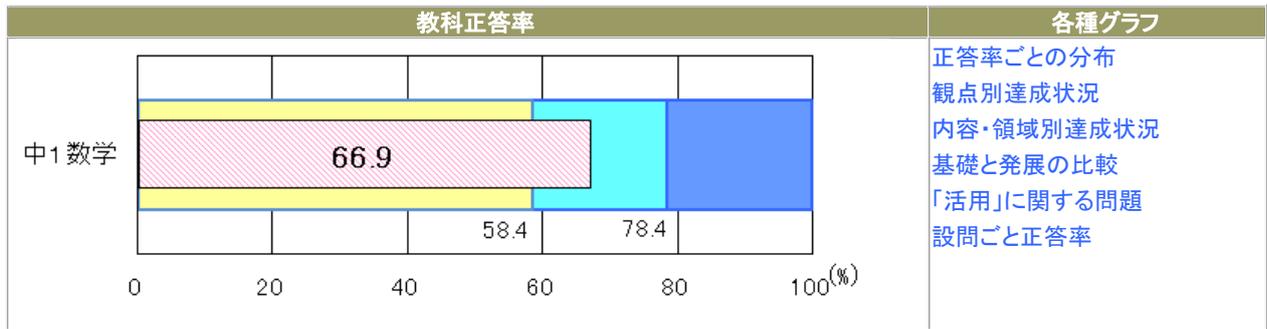
小5算数 設問ごと正答率						
大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)	1/100の位までの小数のたし算をすることができる	92.1	0.1	80	60
	(2)	3位数÷2位数の計算をすることができる	82.7	2.1	85	65
	(3)	1/10の位までの小数に2位数をかける計算をすることができる	62.9	0.8	85	65
	(4)	同分母の分数のたし算をすることができる	97.0	0.3	85	65
2	(1)	小数の意味と表し方について理解している	91.0	0.5	80	60
	(2)	分数の意味と表し方について理解している	67.9	1.5	80	60
	(3)	小数の意味と表し方について理解している	55.5	1.3	85	65
	(4)	長方形の面積の求め方について理解している	88.1	2.2	85	65
	(5)	m <sup>2</sup> で表された面積をcm <sup>2</sup> で表すことができる	31.7	1.6	80	60
3	(1)	除法に関して成り立つ性質について理解している	61.3	1.0	75	55
	(2)①	仮分数を帯分数で表すことができる	86.8	1.4	85	65
	(2)②	帯分数を仮分数で表すことができる	89.9	1.3	85	65
	(3)①②	条件に適した単位について理解している	55.6	0.7	80	60
4	(1)	正方形の面積を求めることができる	70.9	1.1	85	65
	(2)	角の大きさを求めることができる	87.3	1.5	85	65
5	(1)①	立方体について理解している	78.7	2.5	85	65
	(1)②	展開図について理解している	66.8	3.9	85	65
	(2)	直方体の面と面の垂直な関係や平行な関係について理解している	84.3	1.1	80	60
	(3)	直方体の辺と辺の平行な関係について理解している	86.3	1.1	80	60
6		直方体の見取図をかくことができる	69.4	0.6	75	55
7		台形を敷き詰めたときの角の関係を考えることができる	55.1	10.3	80	60
8	(1)	分配法則を使って計算をすることができる	60.9	6.3	80	60
	(2)	結合法則を使って、計算の仕方を工夫することができる	45.4	6.6	80	60
9		伴って変わる2つの数量の関係を口、△を用いて考えることができる	68.6	2.3	75	55
10		表された式を読み取って、( )を用いた正しい式を考えることができる	5.3	14.4	70	50
11	(1)	伴って変わる2つの数量の関係から未知数を求めることができる	80.0	3.5	80	60
	(2)	伴って変わる2つの数量の関係を調べ、並べた色紙の枚数を考えることができる	60.2	6.1	70	50
12		与えられた情報を基に、必要な材料の重さを考えることができる	38.0	4.8	70	50
13		直方体の回りの長さを基に、必要なリボンの長さを求め、その方法を説明することができる	15.9	19.2	70	50
14		与えられた情報を基に、画用紙と画用紙の間の長さを求め、その方法を説明することができる	14.6	26.3	65	45



大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)	132+459 を計算する	96.2	0.0	85	65
	(2)	148÷37 を計算する	95.5	0.6	85	65
	(3)	4.6-0.21 を計算する	61.9	0.8	80	60
	(4)	90×0.7 を計算する	91.8	0.4	85	65
	(5)	6×2+8×3 を計算する	80.7	0.3	85	65
	(6)	3/7-2/5 を計算する	86.4	1.0	85	65
	(7)	4/5÷8 を計算する	84.4	1.4	85	65
2	(1)	47000は1000が何個集まった数かを書く	87.5	0.3	85	65
	(2)	596の1/100の大きさの数を小数で書く	76.9	1.7	80	60
3	(1)	120cmの赤いテープの長さが白いテープの長さの0.6倍に当たるとき、二つのテープの長さの関係を表している図を選ぶ	32.3	0.7	80	60
	(2)	120cmの赤いテープの長さが白いテープの長さの0.6倍に当たるとき、白いテープの長さを求める式を書く	39.8	1.8	80	60
4		5日間で1日に平均何個のトマトがとれたことになるのかを書く	88.9	0.6	85	65
5	(1)	示されたはがきの面積は約何cm <sup>2</sup> かを選ぶ	62.7	0.6	80	60
	(2)	三角形の底辺に対応する高さを選ぶ	50.4	0.5	80	60
6	(1)	三つの角の大きさが60°、80°、90°である四角形の、残りの角の大きさを書く	75.3	1.3	85	65
	(2)	直方体において、与えられた面に垂直な辺を書く	64.5	1.4	85	65
7		示された半円をかくために、コンパスの針を刺す場所と、コンパスの開いている長さを答える	75.2	1.1	80	60
8		犬を飼っている8人が学級全体の人数の25%に当たるとき、学級全体の人数を求める式と答えを書く	59.7	5.8	80	60
9		直方体の底面の大きさを変えずに、高さを2倍、3倍、…にすると、体積はどのように変わるかを選ぶ	87.3	1.9	85	65



大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)	代金320円に対して520円を支払ったとき、おつりとしてもらった2枚の硬貨の種類を書く	92.8	0.2	75	55
	(2)	代金630円に対して、1030円よりも1130円を支払ったときの方が、おつりの硬貨の枚数が少なくなるわけを書く	58.2	4.3	70	50
2	(1)	中型の跳び箱を8段にしたときの高さを求める式を選ぶ	85.5	0.3	75	55
	(2)	中型の跳び箱を70cmの高さにすることができるかどうかを判断し、そのわけを書く	36.3	1.7	70	50
	(3)	2種類の跳び箱を30cm高くすると同じ高さになるわけとして、正しい記述を選ぶ	56.6	0.9	75	55
3	(1)	縦6cm、横10cmの長方形に内接するこし形の面積を求める式と答えを書く	71.8	2.0	75	55
	(2)	面積が等しい直角三角形を基に、長方形に内接する四角形の面積と長方形の面積の関係を書く	56.2	5.3	70	50
4	(1)	午前11時30分までにご飯が出来上がるようにするために、所要時間40分間を基に、こんろに点火する時刻を求める	79.6	1.4	75	55
	(2)	40分間以内でできることを判断するために、所要時間の範囲から適切な数値の組み合わせを書く	72.5	1.5	70	50
	(3)	はかりの目盛りと1人分の材料と分量を基に、班の人数分のご飯を作るために必要な水の重さの求め方と答えを書く	33.9	10.2	65	45
5	(1)	一輪車の高さを調節したときの、示された長さを求める	63.2	4.4	70	50
	(2)	一輪車のタイヤの回転数と進んだ長さが比例の関係にあることを基に、トラック一周の長さを求める式を選ぶ	56.7	4.2	75	55
	(3)	示された表から、合計の人数を基にした乗れる人数の割合は、男子と女子でどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く	26.3	11.7	70	50



中1数学 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)	異分母の分数の加法の計算ができる	84.5	0.8	85	65
	(2)	被乗数、乗数がともに分数の乗法の計算ができる	92.3	0.9	85	65
	(3)	被除数、除数がともに小数の除法の計算ができる	80.8	1.7	85	65
	(4)	小数及び分数を含んだ計算ができる	72.8	3.2	80	60
2	(1)	奇数について理解している	77.9	6.1	85	65
	(2)	逆数について理解している	45.1	22.4	85	65
	(3)	速さを求める公式を理解している	94.0	1.4	85	65
	(4)	秒速を基として、分速を求めることができる	62.5	3.9	80	60
	(5)	メートル法の単位の仕組みについて理解している	64.6	1.3	80	60
3		被乗数や乗数が小数である場合の乗法の計算の仕方を理解している	37.8	2.4	75	55
4	(1)	乗数が小数や分数である乗法において、乗数と積の大きさとの関係を理解している	83.0	0.6	80	60
	(2)	除数が小数や分数である除法において、除数と商の大きさとの関係を理解している	77.5	0.7	75	55
5	(1)	円の面積を求めることができる	82.1	1.4	80	60
	(2)	四角柱の体積を求めることができる	62.2	2.8	75	55
6	(1)	線対称な図形について理解している	79.0	0.6	80	60
	(2)	点対称な図形における対応する点や辺の位置関係を理解している	93.1	0.3	80	60
7		拡大図について理解している	88.4	0.2	80	60
8	(1)	縮図の対応する辺の長さを求めることができる	84.6	0.9	85	65
	(2)	縮図の対応する角の大きさを求めることができる	87.1	0.6	85	65
9		比の考え方をを使って、かげの長さから木の高さを考えることができる	26.2	3.8	75	55
10	(1)	比例の考え方をを使って、はがきの枚数を考えることができる	92.7	0.7	85	65
	(2)	数量の関係を、x や y に置き換えて式化することができる	57.5	1.6	75	55
11		旗の色のめり分け方について、何通りの場合があるかを求めることができる	80.4	0.5	80	60
12		最大公約数の考え方をを使って、条件に合った賞品の袋の数を考えることができる	45.3	8.9	70	50
13		角柱の体積の公式を使って、立方体に入っていた水の深さを考えることができる	26.0	11.0	65	45
14		与えられた情報から、長方形の1辺の長さや面積が比例の関係であることを考えることができる	51.0	2.3	70	50
15		平均の考え方をを使って、平均点が何点増加したかを求め、その方法を説明することができる	33.1	18.0	70	50
16	(1)	資料を読み取って、割合を百分率で表すことができる	55.0	12.0	75	55
	(2)	割合と比較量を考えて、条件に合った人数を求め、その方法を説明することができる	24.5	22.3	65	45

教科正答率においては、小学5年生、小学6年生(A問題・B問題)、中学1年生の全て「おおむね達成」の基準を上回る結果となった。

(イ) 評価の観点別正答率

①小学5年生

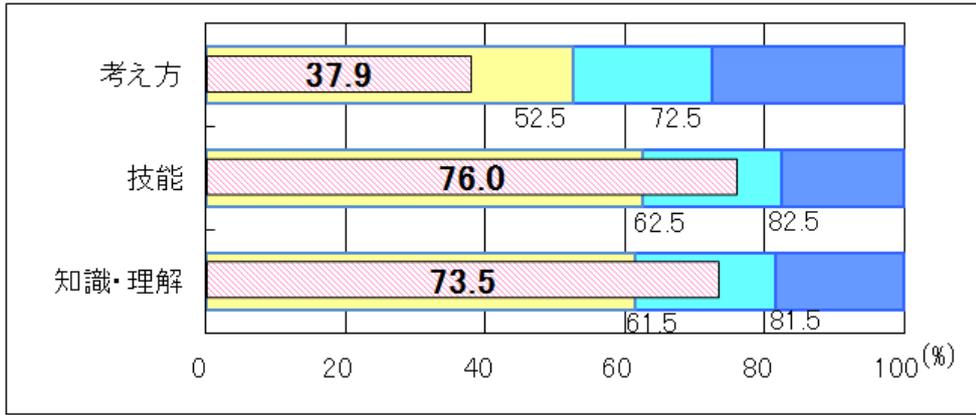


図1 H24年度(小学5年生算数)評価の観点別正答率

「技能」「知識・理解」では、「おおむね達成」の基準を上回った。一方、「考え方」においては、「おおむね達成」の基準を14.6ポイント下回っており、これについては中学校1年生においても同じような傾向が見られた。小学校5年生における課題としては、特に次の2点が挙げられる。

- 提示された場面と式を読み取る力が十分ではない。
- 提示された図形の回りの長さを求めるなどの、解決方法を説明する力が十分ではない。

②小学6年生

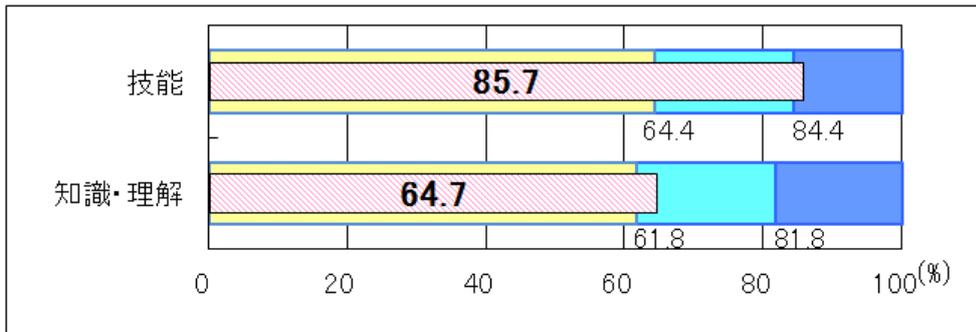


図2 H24年度(小学6年生算数A問題)評価の観点別正答率

「技能」では、「十分達成」の基準を1.3ポイント上回った。また、「知識・理解」では、「おおむね達成」の基準を2.9ポイント上回った。しかし、基準量、比較量、割合を図と対応させることが十分でなかったことや基準量の求め方が十分に理解できていないことが分かった。

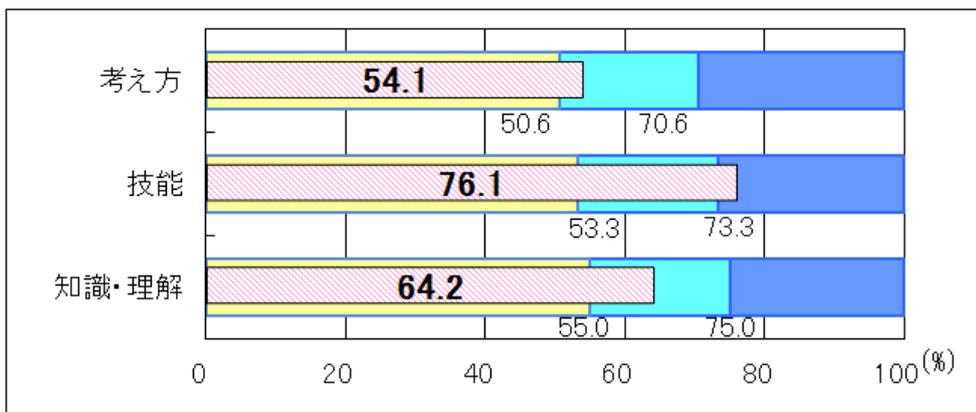


図3 H24年度(小学6年生算数B問題)評価の観点別正答率

「考え方」「知識・理解」では、「おおむね達成」の基準を上回った。さらに、「技能」においては、「十分達成」の基準を2.8ポイント上回る結果となった。「技能」においては、提示された図と式を関連付けさせる等の問題では高い正答率であったことなどが考えられる。「考え方」においては、「おおむね達成」の基準を3.5ポイント上回る結果となったが、判断した理由などを記述することには課題が見られる。

③ 中学1年生

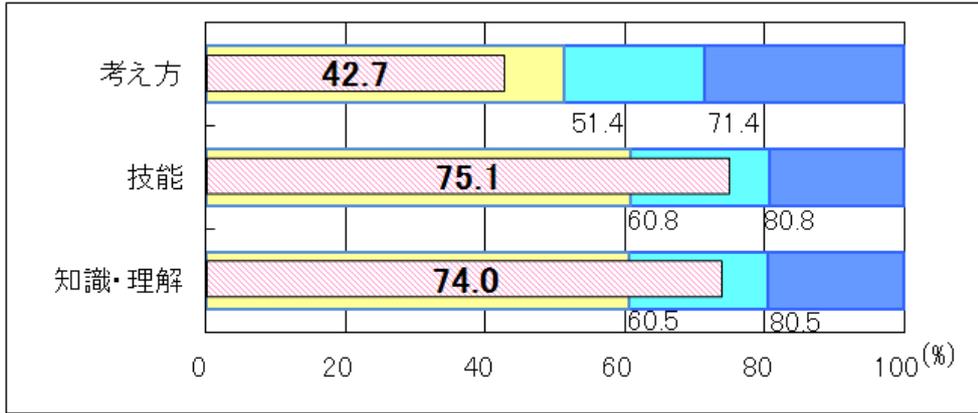


図4 H24年度(中学1年生数学)評価の観点別正答率

「技能」「知識・理解」では、「おおむね達成」の基準を上回った。一方、「考え方」においては、「おおむね達成」の基準を8.7ポイント下回っており、これについては小学5年生においても同じような傾向が見られた。中学1年生において特に課題としては、次の2点が挙げられる。

- 比の考え方を使って、指定された長さを求める考える力が十分ではない。
- 割合と比較量を考えて、条件に合った人数を求めるなど、解決方法を説明する力が十分ではない。

(ウ) 内容・領域別正答率

内容・領域別正答率においては、全ての学年で「数と計算」「量と測定」「図形」においては「おおむね達成」の基準を上回る結果であった。特に、中学校1年生における「図形」では「十分達成」の基準を上回る結果となった。一方、「数量関係」においては、小学5年生と小学校6年生算数B問題において「おおむね達成」の基準を下回る結果となった。

①小学5年生

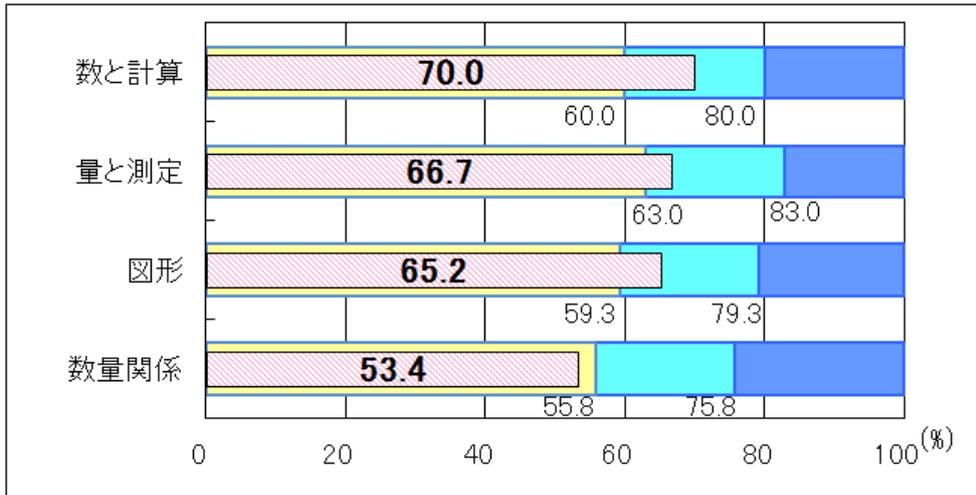


図5 H24年度(小学5年生算数)内容・領域別正答率

「数と計算」「量と測定」「図形」では「おおむね達成」の基準を上回る結果であったが、「数量関係」においては「おおむね達成」の基準を2.4ポイント下回っており、課題が残った。例えば表された式を読み取って、正しく( )を用いて式を考えるような問題などに課題が見られた。

②小学6年生

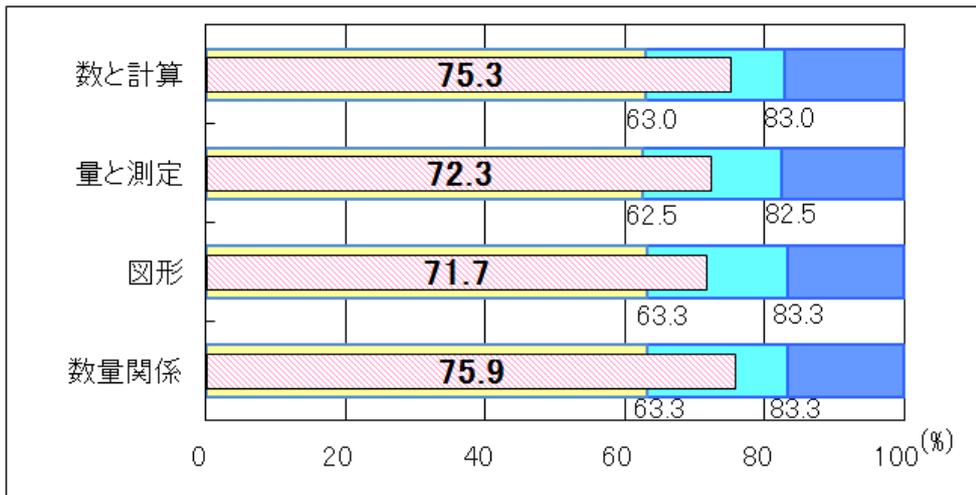


図6 H24年度(小学6年生算数A問題)内容・領域別正答率

「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の全ての内容・領域で「おおむね達成」の基準を上回る結果であった。しかし、「数と計算」の場面と図とを関連付けて、2つの数量の関係を理解する力や「数量関係」で百分率の理解が十分ではないことなどの課題が見られた。

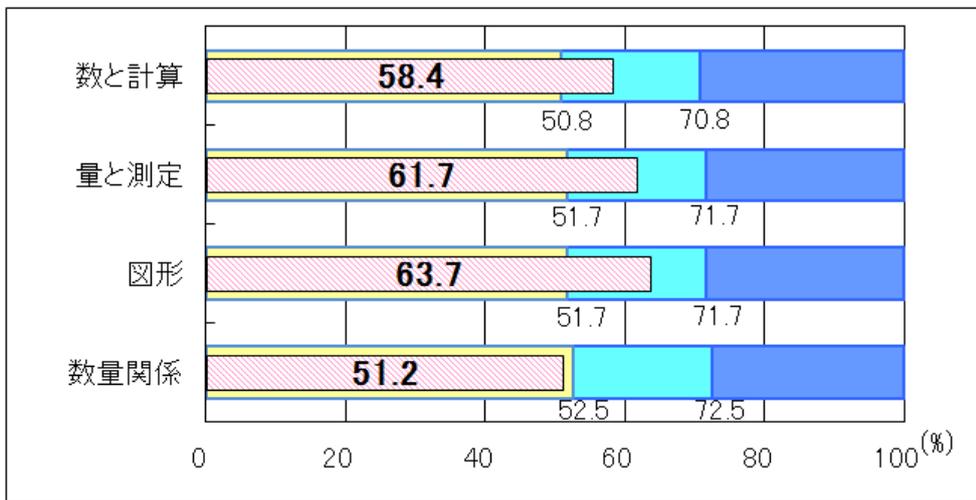


図7 H24年度(小学6年生算数B問題)内容・領域別正答率

「数と計算」「量と測定」「図形」では「おおむね達成」の基準を上回る結果であったが、表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断しその理由を言葉や式を用いて記述するような「数量関係」においては「おおむね達成」の基準を1.3ポイント下回っており、課題が見られた。

③中学1年生

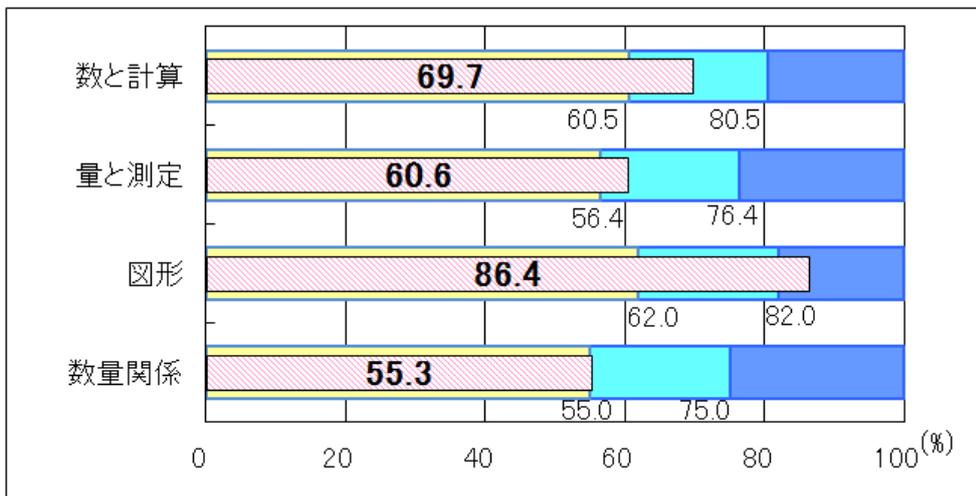


図8 H24年度(中学1年生数学)内容・領域別正答率

中学1年生においては全ての領域で「おおむね達成」の基準を上回る結果であった。特に点対称な図形における対応する点や辺の位置関係の理解などを問う問題の正答率が高かった「図形」では「十分達成」の基準を4.4ポイント上回る結果となった。しかし、「数量関係」では、割合と比較量を考えて、条件に合った人数を求め、その方法を説明する力が十分ではないことなどの課題が見られた。

イ 経年比較

(凡例) ■: 要努力(おおむね達成の基準を下回る) ■: おおむね達成 ■: 十分達成

小学校6年間の学習の成果を経年で比較して考察するために、平成23年度と平成24年度の中学1年生に着目し、同一学年の経年比較を行う。経年比較の内容は「基礎的・基本的問題」における正答率の比較と平成23年度に課題として挙げられていた「活用」における正答率の比較をして考察を行った。また、平成22年度の小学5年生と平成24年度の中学1年生の「基礎的・基本的問題」及び「発展的・応用的問題」の正答率を比較することで2年間の学習状況の変容について考察する。

(ア) 「基礎的・基本的問題」の経年比較

中学1年生(同一学年)

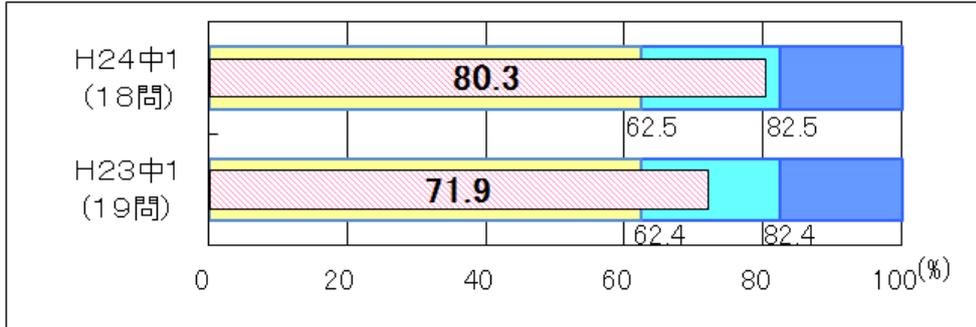


図9 H23・24年度(中学1年生数学)「基礎的・基本的問題」の正答率の経年比較

「基礎的・基本的問題」の正答率は、平成23年度の正答率は71.9で、「おおむね達成」の基準を9.5ポイント上回っていた。平成24年度の正答率は80.3で、「おおむね達成」の基準を17.8ポイント上回っていた。平成23年度と比較すると正答率は8.4ポイント上回っている。平成24年度は、「図形」において点対称な図形における対応する点や辺の位置関係についての理解や拡大図についての理解が良好であった。また、「量と測定」において速さを求める公式などの理解も良好であったことが要因であると考えられる。

(イ) 「活用」に関する問題の経年比較

① 中学1年生(同一学年)

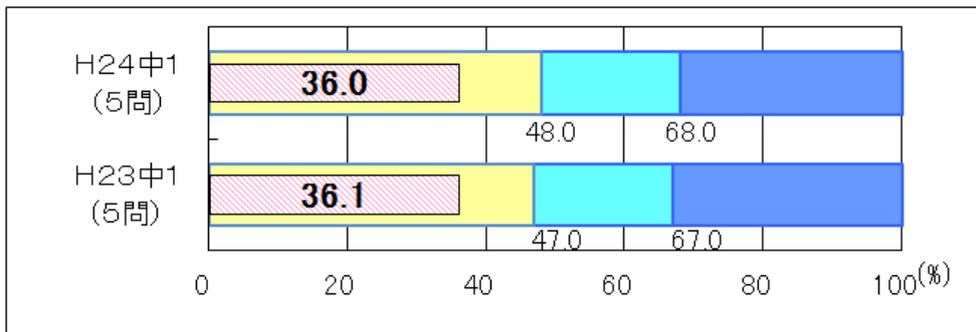


図10 H23・24年度「活用」に関する問題の正答率の経年比較

「活用」に関する問題の正答率は、平成23年度の正答率は36.1で、「おおむね達成」の基準を10.9ポイント下回っていた。また、平成24年度の正答率は36.0で、「おおむね達成」の基準を12.0ポイント下回っていた。平成23年度と同様に「活用」に関する問題においては課題が見られる。領域別に見てみると、「数と計算」においては最大公約数の考え方を使う問題、「量と測定」においては角柱の体積の公式を使って立方体に入っていた水の深さを考える問題、また、平均の考え方を使って平均点が何点増加したかを求め、その方法を説明する問題、「数量関係」において割合と比較量を考えて、条件に合った人数を求め、その方法を説明する問題において「おおむね達成」の基準を下回る状況であった。

(ウ) 平成24年度中学1年生と平成22年度小学5年生(同一生徒)  
 「基礎的・基本的問題」及び「発展的・応用的問題」の経年比較

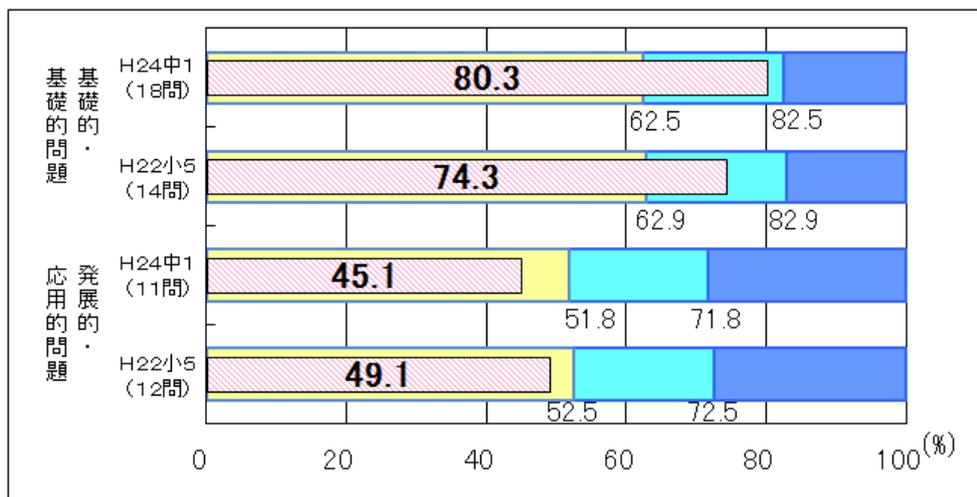


図11 H22年度小学5年生・H24年度中学1年生の「基礎的・基本的問題」及び「発展的・応用的問題」の正答率の経年比較

「基礎的・基本的問題」の正答率は、平成22年度の正答率は74.3で、「おおむね達成」の基準を11.4ポイント上回っていた。また、平成24年度の正答率は80.3で、「おおむね達成」の基準を17.8ポイント上回っていた。基礎的・基本的な力は2年間で更に向上していったと考えることができる。一方、「発展的・応用的問題」においては、平成22年度の正答率は49.1で、「おおむね達成」の基準を3.4ポイント下回っていた。平成24年度の正答率は45.1で、「おおむね達成」の基準を6.7ポイント下回っていた。「おおむね達成」の基準から見ると2年間で約3ポイント下回る結果となり課題である。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導改善の手立て

平成24年度の調査で、正答率が低かった問題と無解答率が高かった問題について、「基礎的・基本的な知識・技能の定着」と「数学的な思考力・判断力・表現力の育成」の2つの視点で、分析を行った。

傾向1 **基礎的・基本的問題の中で、一部の学習内容において定着に課題がある。**

[小学5年生 大問2の(5)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問2(5)	m <sup>2</sup> で表された面積をcm <sup>2</sup> で表すことができる。  (短答式)	1m <sup>2</sup> をcm <sup>2</sup> の単位に換算する。	31.7	1.6	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対して、正答率は31.7であり、28.3ポイント下回った。1m<sup>2</sup>という面積の単位の意味理解が確実にできていないことや1m<sup>2</sup>を1辺が100cmの正方形という見方をして計算で求めることができなかったことが要因であると考えられる。

○ 指導改善の手立て

1m<sup>2</sup>=10000cm<sup>2</sup>ということの意味理解が伴わずに暗記させるのではなく、mをcmに単位を変えさせてから1辺×1辺をして面積を求めさせる活動を取り入れて、計算で求められることを児童に気付かせることが大切である。

[小学6年生 A問題 大問3]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問3(1)	示された場面の数量の関係や基準量を求めるために除法が用いられていることを理解している。  (短答式)	基準量（基準にする大きさ）、比較量（割合にあたる大きさ）、割合を図と対応させる。	32.3	0.7	80.0	60.0
問3(2)		比較量と割合を基にして、基準量を求めるための立式をさせる。	39.8	1.8		

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対して、(1)の正答率は32.3であり、27.7ポイント下回った。また、(2)の正答率は39.8であり、20.2ポイント下回った。場面と図とを関連付けて、二つの数量の関係を理解することや、1に当たる大きさを求めるために除法が用いられることの理解が十分ではないことが要因であると考えられる。

○ 指導改善の手立て

問題の場面から、基準量と比較量を的確に捉えるために、数量の関係を図に表したり、図から読み取ったりする活動を仕組むことが大切である。数量の関係を図に表したり、図から読み取ったりして、基準量がどれに当たるのかを捉えさせたり、基準量を求める場面においても、基準量と割合を用いた乗法の式に表してから除法の式に表させたりすることが大切である。

[中学1年生 大問9]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問9	比の考え方をを使って、 かげの長さから木の高 さを考えることができ る。  (短答式)	人の身長と影の長さを 基にして、木にできた 影の長さから木の長さ を比の考え方をを使って 求める。	26.2	3.8	75.0	55.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率55.0に対して、正答率は26.2であり、28.8ポイント下回った。比の考え方をを使って木の高さを考えることができることに気付かなかったことや比の値を基にして木の高さを求めることができなかつたことが要因であると考えられる。

○ 指導改善の手立て

料理などの日常生活の場面から比を利用して材料の重さなどを求めることができるよさに気付かせることが必要である。また、比は、比例、反比例や縮図・拡大図などと深い関連があるので、相互に理解を深めることができるように配慮して指導することが大切である。

傾向2 基礎的・基本的な知識・技能を活用することに課題がある。

[小学5年生 大問10]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問10	表された式を読み取って、( )を用いた正しい式を考えることができる。 (短答式)	色紙が重なっていない部分の面積を求める式に( )を付けて、正しい式を完成させる。	5.3	14.4	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は5.3であり、44.7ポイント下回った。問題場面や言葉の式と式を関連付けて、正しく( )を付けることができなかったことが要因であると考えられる。

○ 指導改善の手立て

数量の関係を四則の混合した式や( )を用いた式に表したり、そのような式を読み取ったりして、式のよさが分かるようにするとともに、式を適切に用いることができるようにすることが大切である。そこで、問題場面と図示されたものを関連付けて考えさせるために、図示されたものに分かっている情報を付加するなどして理解を助けるように指導することが考えられる。また、言葉の式と図示されたものを関連付けていく指導も継続的に行う必要がある。さらに、式に( )が付いたときの計算方法について振り返らせるとともに、( )を付けた式が題意と対応しているかを確認させるような指導を行うことも大切である。

[小学5年生 大問14]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問14	与えられた情報を基に、画用紙と画用紙の間の長さを求め、その方法を説明することができる。 (短答式)	掲示板の中に同じ大きさの画用紙を並べたときにできる1つの間の長さの求め方を説明する。	14.6	26.3	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対して、正答率は14.6であり、30.4ポイント下回った。また、無解答率も26.3と高い状況であり、問題の意味を正確に捉えられなかったことや計算を段階的に行うことができなかったことが要因であると考えられる。

○ 指導改善の手立て

掲示板の横の長さや画用紙の縦の長さ、及び横の長さを基にして1つの間を求める問題であった。また、情報過多の問題場面から必要な情報を選択して解決を図らせる問題であった。このように問題場面を把握し、解決するには、どの情報が必要なのかを考えて問題解決に取り組ませることが必要である。また、式が多くなるような場合も、何を求めるための式なのかを言葉と結び付けて解決していく態度を養うことも大切である。さらに、問題文から分かった情報を図にかき入れるなどの活動を取り入れながら式を立てる際の手掛かりにさせていくなどの指導も大切である。

[小学6年生 A問題 大問5の(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	全国の 正答率	佐賀県の 正答率
問5(3)	表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を言葉や式を用いて記述できる。 (短答式)	示された表から合計の人数を基にした乗れる人数の割合は、男子と女子ではどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く。	26.3	11.7	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は26.3であり、23.7ポイント下回った。表の中から必要な数値を取り出して割合を求めることができなかったことが要因であると考えられる。

○ 指導改善の手立て

割合を求めさせるには、基準量と比較量の関係を関係図などを通して考えさせることが必要である。また、2つ以上の事象の大きさを比べるときには、量で比べる場合と割合で比べる場合があることを理解させ、目的に応じて適切に使い分けることができるように指導することが大切である。

[中学1年生 大問16の(2)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
大問16 (2)	割合と比較量を考え、条件に合った人数を求め、その方法を説明することができる。 (短答式)	ある中学校の2年生と3年生の生徒数とその割合を基にして、1年生の人数の求め方を説明する。	24.5	22.3	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対して、正答率は24.5であり、20.5ポイント下回った。中学2年生と中学3年生の生徒数を比較量として基準量を求めて中学1年生の生徒数を求めたり、比を活用して中学1年生の生徒数を求めることができなかったことが要因であると考えられる。

○ 指導改善の手立て

この問題では、割合と比較量から基準量を求めるという構成であるため、児童が苦手とするものである。しかし、表からどの情報を使うことができるかを考えさせ、関係図などを通して式を立てるときの手掛かりとなるように指導を続けることが必要である。また、中学2年生と中学3年生を合わせた生徒数が60%であるという情報から中学1年生は40%に当たるということも考えることができるように図などから判断できるように指導していくことも大切である。

エ これからの指導に向けて

今回の調査によって明らかとなったことは、図や表を使って解決を図ったり、問題場面と対応させ、式に表したり、式を読んだりすることに課題があることが分かった。また、いくつかの情報の中から必要な情報を取り出して解決したり、日常の事象を算数の知識・技能を使って解決したりすることに課題があることが分かった。そこで、これからの指導に向けて、以下の4点について留意しながら授業に取り組んでいくことが大切であると考えます。

**(ア) 図や表を用いて数量の関係を理解できるような活動を積極的に取り入れる。**

児童に図や表を読み取ったり、かいたりして数量の関係を理解させることは算数科の指導ではとても大切なことである。指導に当たっては、数量の関係が文章で与えられた場面で、文章から分かることを順序よく図に表す活動を取り入れることが大切である。また、小集団で図を基に友達に解決方法を説明させたり、図を基に話し合いを進めさせたりすることも有効である。さらに、全体の話合いにおいても図を使って解決方法の有効性などを検討していくような活動を取り入れることも大切である。例えば、関係図などを問題場面に即してかかせ、小集団の中で説明したり友だちの説明を聞いたりしながらどのような関係図が適切なかを話し合わせるなどが考えられる。また、全体でも関係図などをかくことによって数量の関係がよく分かることなどの有効性について話し合いの場をもつことも大切である。

**(イ) 問題場면을把握させ、それを式に表したり、式を読んだりする活動を積極的に取り入れる。**

図で示された事象を観察し、それを式に表したり読んだりすることができるようにすることは算数科の学習を進めていく上で大切なことである。指導に当たっては、示された図の中の情報と式とを適切に対応させることが大切である。また、考えた式がどのような意味をもつのか図と対応させたり、言葉で説明させたりすることも大切である。例えば、自分が立てた式を実際に解かせ、問題場面と対応するのかを自分で判断させたり、式に番号を付けるなどして番号と図に対応させることも大切である。また、小集団において問題場面の情報を使って、自分が立てた式の説明をさせることによって考えのよさや間違いに気付かせるような活動も大切である。

**(ウ) 必要な情報を取り出して説明する活動を積極的に取り入れる。**

判断の根拠を説明する際、問題場面から必要な情報を取り出したり、情報を組み合わせたりして表現することは、筋道立てて考えさせる上で大切である。また、どのような手順で考えていけばよいのかといった解決の見通しを吟味する活動を取り入れることも大切である。指導に当たっては、情報過多の問題場面から必要な情報を選択させ、児童一人一人に解決させたことを図や表などを使って説明させることが大切である。また、それを基にして小集団活動などを通して説明が十分なものであるか、解決の手順としてふさわしいものであるか、または説明のよさなどを相互評価させるような活動を取り入れることが大切である。例えば、情報過多の問題場面から指定された面積を求めるときにどの長さを測定すれば正しく面積を求められるかを説明させたり、小集団の中で解決方法を説明させたりして考え方のよさなどを児童に出し合わせることも有効な手段である。

**(エ) 日常の事象を、算数で学習した内容と関連付ける活動を積極的に取り入れる。**

児童が算数の知識・技能を実生活の様々な場面に活用することは、学習したことを定着させたり、算数のよさを実感させたりする上で大切なことである。指導に当たっては、日常の事象を数や量などに着目して観察する学習の機会を設定することが大切である。そのようなことが、児童の算数と日常生活との関わりについての興味・関心を高めることにつながると考える。例えば、拡大図・縮図の考え方をを使って校舎の高さを考えたりすることなども大切である。また、算数科ばかりでなく社会科や図画工作科などの他教科においても様々な事象を算数の視点からも振り返らせて、算数の用語を用いて捉えさせることも考えられる。

オ 授業実践に参考となるリンク



最終更新日：2012-10-15

## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書目次 > Ⅲ 各教科の調査結果の分析 > 小学校理科

### Ⅲ 各教科の調査結果の分析

※中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

#### 小学校理科

##### 目的意識を明確にし、意味付け・関係付けを図り、考えを表現させる授業

小学5年生、小学6年生、中学1年生の教科正答率では全て、「おおむね達成」の基準を上回った。評価の観点別正答率では中学1年生は全ての評価の観点で「おおむね達成」の基準を上回った。小学5年生と小学6年生は、「科学的な思考・表現」「自然事象の知識・理解」は「おおむね達成」の基準を上回ったが、「観察・実験の技能」は「おおむね達成」の基準を下回る結果となり、今後の指導に課題が残った。教師は、児童に学習の目的を明確にもたせ、それを解決するためにどのような観察、実験を行うのかを強く意識させる必要がある。その上で観察、実験の予想や計画、考察の場などで自分の考えをもち、友達と交流するような活動や学習内容と日常生活の関連を図るような学習活動が必要である。

この後、評価の観点については、以下のように記す。

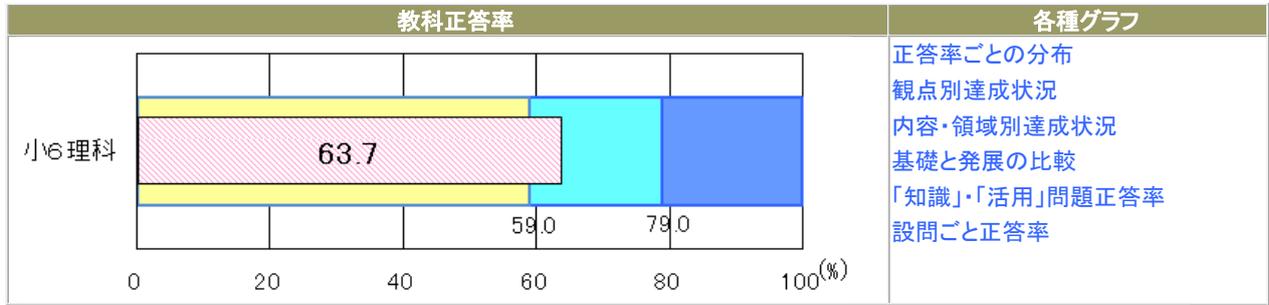
- |                 |   |           |
|-----------------|---|-----------|
| ○自然事象への関心・意欲・態度 | → | 本調査では設定なし |
| ○科学的な思考・表現      | → | 「思考・表現」   |
| ○観察・実験の技能       | → | 「技能」      |
| ○自然事象についての知識・理解 | → | 「知識・理解」   |

ア 結果の概要

(凡例) :要努力(おおむね達成の基準を下回る) :おおむね達成 :十分達成

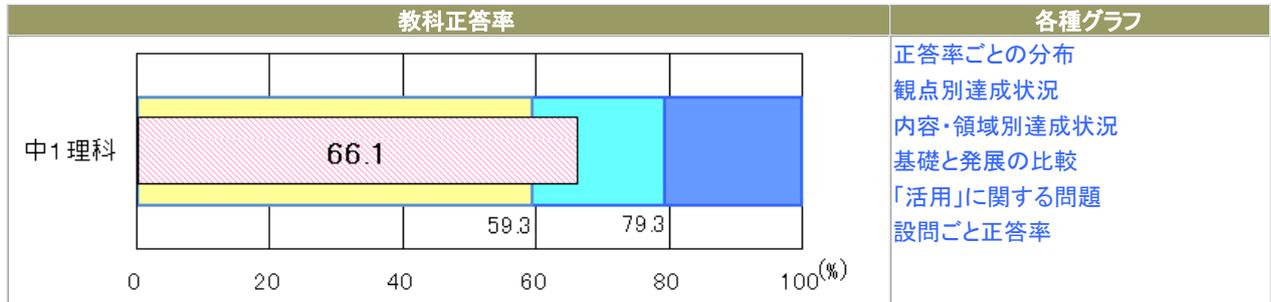
(ア) 教科及び設問毎正答率





小6理科 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)	物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解している	89.5	0.1	85	65
	(2)	物は、水に割けても重さは変わらないことを氷砂糖に適用できる	84.5	0.1	80	60
	(3)	水に割けている物の様子について、実験結果を基に自分の考えを改善して、その理由を記述できる	63.7	1.4	75	55
	(4)	物は、水に割けると液全体に広がることを、梅ジュースに適用できる	65.0	0.3	70	50
2	(1)	虫眼鏡の適切な操作方法を身に付けている	62.2	0.2	85	65
	(2)ア	学習した植物の成長の規則性を、他の対象であるサクラに適用できる	73.2	0.4	80	60
	(2)イ		87.8	0.4	80	60
	(3)太郎	気温が異なる地域のサクラの開花時期を、データを基に分析できる	74.4	0.8	70	50
	(3)花子	気温が異なる地域のサクラの開花時期を、データを基に分析できる	64.3	0.9	75	55
	(4)	植物の受粉と結実の関係について、科学的な言葉や概念を理解している	87.0	4.1	85	65
(5)	植物の受粉と結実の関係を調べる実験について、結果を基に方法を改善して、その理由を記述できる	50.5	4.6	75	55	
3	(1)ア	光電池や乾電池の働きを強くするための要因を理解している	77.2	2.3	85	65
	(1)イ		72.6	2.3	85	65
	(2)	ゴムをねじる回割についてグラフから分析して、予測することができる	55.7	0.4	75	55
	(3)	並列つなぎについて、乾電池の向きと車の進行方向とを関係付けて、分析できる	52.5	0.8	75	55
	(4)	電磁石の強さを変える要因について確かめる実験を、条件を制御しながら構想できる	69.0	3.4	80	60
	(5)オ	水は、温度によって状態が変化する性質を、物を動かす「エネルギーの見方」として適用できる	62.1	1.7	85	65
	(5)カ		40.3	1.9	80	60
(5)キ	41.7		2.1	85	65	
4	(1)	方位磁針の適切な操作方法を身に付けている	26.8	2.4	80	60
	(2)	方位磁針の名称を理解している	91.3	3.6	85	65
	(3)	「カサガの観察記録」を基に、木の影の長さの変化を表すグラフを分析できる	52.1	2.5	75	55
	(4)	日陰の様子と雲の様子とを関係付けて、木の影がなかった時間の空の様子を分析できる	62.8	2.7	75	55
	(5)	天気の様子と気温の変化の関係についてデータを基に分析して、その理由を記述できる	21.9	6.8	70	50



大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)	ダンゴムシの生活環境に合わせた、適切な実験をすることができる	69.8	4.9	85	65
	(2)	実験の結果を基に、ダンゴムシの仲間が何を食べて生きていのかを考えることができる	95.4	0.0	80	60
	(3)	食物連鎖の関わりを基に、大型の肉食動物の数が最も少ないことを考えることができる	83.6	0.1	75	55
2	(1)	月の形とモデル実験で使う道具の形とを関係付けて、モデル実験をすることができる	99.4	0.0	85	65
	(2)	新月のときの、太陽と月と地球との位置関係を調べるモデル実験をすることができる	78.4	0.2	80	60
	(3)	月と太陽との位置関係を基に、地球から見える月の見え方を考えることができる	71.7	0.2	75	55
	(4)	クレーターという月の表面にあるくまみの名称を理解している	83.7	6.9	85	65
3	(1)	コンデンサーという器具の名称を理解している(※)	65.2	14.3	80	60
	(2)	豆電球と発光ダイオードのつなぎ方の違いを理解している	37.3	1.1	80	60
	(3)	実験結果を基に、環境問題と発光ダイオードの特性とを関係付けて、説明することができる	64.6	4.7	75	55
4	(1)	だ液の働きを調べる実験をすることができる	53.1	10.8	75	55
	(2)	ヨウ素液の色の変化を基に、だ液の働きについて考えることができる	45.8	0.7	80	60
	(3)	だ液は、でんぷんを別のものにする働きがあることを理解している	37.1	10.8	85	65
	(4)	食べ物や、消化管を通る間に消化吸収されることを理解している	39.9	1.6	80	60
5	(1)	地層は奥まで広がっていることを理解している	82.6	3.4	80	60
	(2)	資料を基に、地層のつき方について考えることができる	32.5	2.2	70	50
6	(1)	ものを燃やす前の酸素について、気体検知管を使って調べることができる	78.8	0.9	85	65
	(2)	ものを燃やす前と燃やしたあとの実験結果を基に、空気の様子を考えることができる	60.8	0.5	75	55
	(3)	ものを燃やしたあとの気体の変化の様子を理解している	29.7	0.5	80	60
7	(1)	燃焼と新しい空気が入ることを関係付けて、炭の下にすまをを作る理由を説明することができる	74.4	2.8	75	55
	(2)	燃焼と新しい空気が入ることを関係付けて、火を弱める方法を考え、火が弱まる理由を説明することができる	75.9	1.4	75	55
8	(1)	酸性、中性、アルカリ性の水溶液の液性を理解している	60.1	1.7	85	65
	(2)	水溶液は、金属を変化させるものとそうでないものがあることを理解している	61.7	6.1	80	60
	(3)①	二酸化炭素が水に溶けることを調べる実験をすることができる	82.7	2.8	80	60
	(3)②	二酸化炭素が水に溶けていることを、その特性と関係付けて調べることができる	25.2	1.7	80	60
9	(1)①	てこの支点、力点、作用点を理解している	91.7	0.9	85	65
	(1)②	てこの支点、力点、作用点の位置関係を、作用点に働く力の大きさと関係付けて考えることができる	73.8	1.2	80	60
	(2)①	身の回りにおけるてこを利用した道具の支点、力点、作用点について考えることができる	70.3	1.1	75	55
	(2)②	身の回りにおける道具を、てこの働きと関係付けて考えることができる	71.5	1.4	80	60
10	(1)	支点からおもりまでの距離が同じ場合の、てこがつり合うときのおもりの重さについて理解している	75.9	1.7	85	65
	(2)	支点からおもりまでの距離が違う場合の、てこがつり合うときのおもりの重さと位置について理解している	63.7	2.0	80	60
	(3)	てこがつり合うときの規則性を基に、てこがつり合うときのおもりの位置を考えることができる	74.4	3.0	70	50
11	(1)	日光と植物の葉のでんぷんのでき方との関係を調べる実験をすることができる	25.6	13.0	80	60
	(2)	日光と植物の葉のでんぷんのでき方との関係を理解している	74.2	10.6	80	60
	(3)	日光とでんぷんのでき方の関係から、植物の葉の付き方について説明することができる	67.6	11.7	70	50
12	(1)	根から取り入れられた水が、植物の体中に行きわたっていることを理解している	87.9	5.3	85	65
	(2)①	根から取り入れられた水が、植物の体中に行きわたり、主に葉から出ていることを調べる実験をすることができる	86.4	5.8	80	60
	(2)②	根から取り入れられた水は、茎、葉を通り、主に葉から蒸散していることを理解している	61.3	12.5	80	60

教科の正答率については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回った。しかし、「十分達成」の基準を上回った学年は見られなかった。

(イ) 評価の観点別正答率

①小学5年生

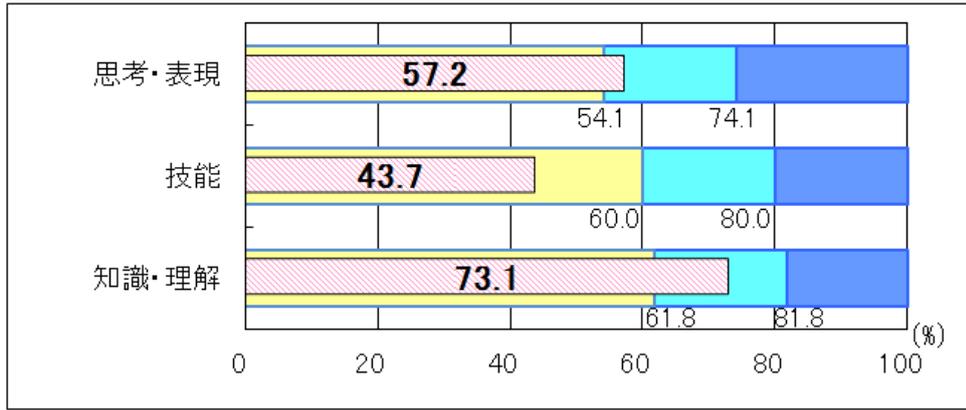


図1 H24年度(小学5年生理科)評価の観点別正答率

「思考・表現」は「おおむね達成」の基準を3.1ポイント、「知識・理解」は「おおむね達成」の基準を11.3ポイント上回った。基本的な見方や概念、知識の定着がなされている。しかし、「技能」は「おおむね達成」の基準を16.3ポイント下回った。特に、事物、現象の読み取り、観察、実験を行うことの理由に課題が見られた。学習課題や実験の目的を明確にしないまま活動を行っていることが考えられる。

②小学6年生

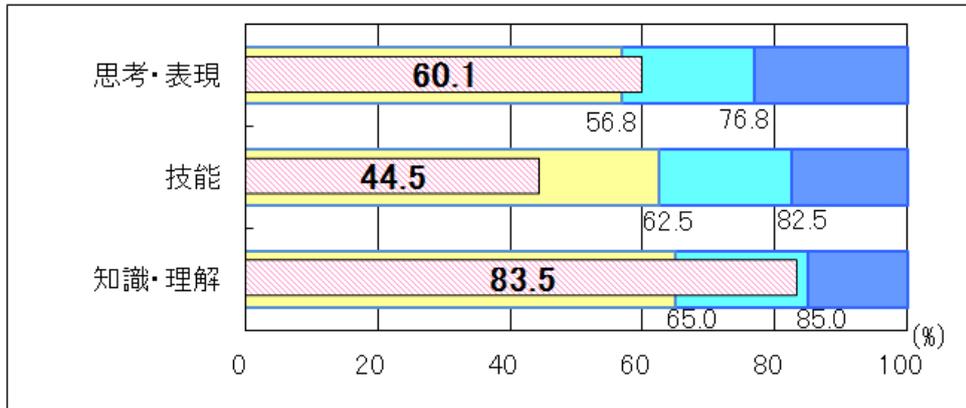


図2 H24年度(小学6年生理科)評価の観点別正答率

「思考・表現」は「おおむね達成」の基準を3.3ポイント、「知識・理解」は「おおむね達成」の基準を18.5ポイント上回った。基本的な見方や概念、知識の定着がなされている。しかし、「技能」は「おおむね達成」の基準を18.0ポイント下回った。観察、実験器具の正しい操作が、児童に身に付いていないと考えられる。

③中学1年生

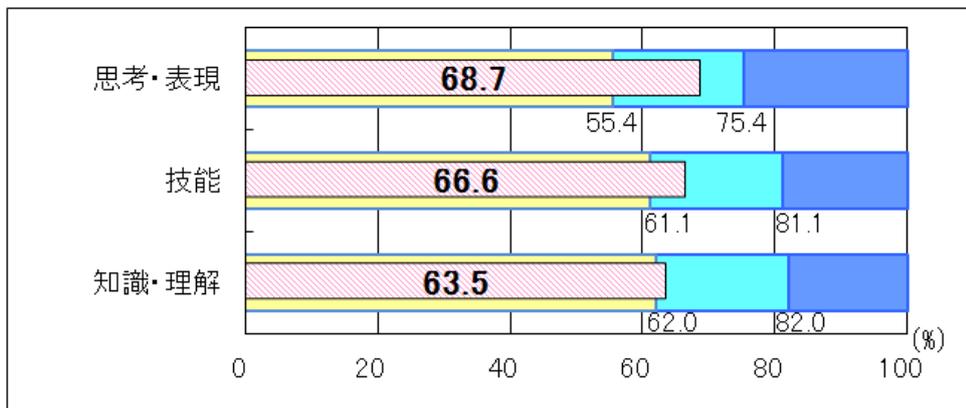


図3 H24年度(中学1年生理科)評価の観点別正答率

全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回った。基本的な見方や概念、知識の定着がなされている。高学年では、身近な事象であるが、普段は気にかけず生活している学習内容も多い。「体のつくりとはたらき」では、呼吸、消化、吸収、排出、血液の循環について学習する。それらの働きを相互に関係付け、意味付けをするなどの総合的な理解を図ることが難しかったと考えられる。

(ウ) 内容・領域別正答率

①小学5年生

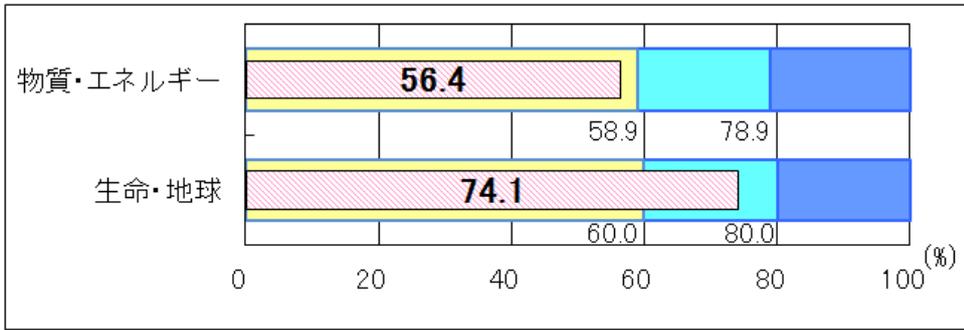


図4 H24年度(小学5年生理科)内容・領域別正答率

「生命・地球」は「おおむね達成」の基準を14.1ポイント上回り、「物質・エネルギー」は「おおむね達成」の基準を2.5ポイント下回った。中学年の「生命と地球」では、「季節と生き物」や「星の明るさや色」など身近な事物、現象で観察中心となる学習が多い。「物質・エネルギー」では「電池のはたらき」や「とじこめた空気や水」、「ものの温度とあたたまり方」など身近ではあるが実験的な活動が多い。そのため実験と事物、現象を結び付けていくことに難しさを感じていると考えられる。

②小学6年生

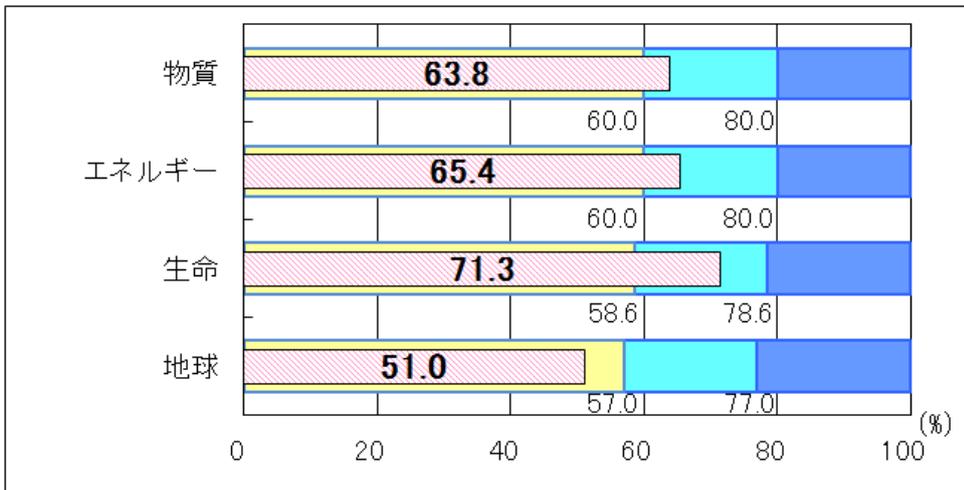


図5 H24年度(小学6年生理科)内容・領域別正答率

「物質」「エネルギー」「生命」はそれぞれ「おおむね達成」の基準を上回っている。「地球」は「おおむね達成」の基準を6.0ポイント下回っている。「地球」では、かげの観察記録を基に出題されている。かげが記録されなかった時刻は曇りであることや曇っているときには気温が上がらず、晴れると気温が上がる等のことを基に、一日の気温の移り変わりを推測させる内容が出題された。かげができないと曇り、曇りだと気温が上がらない、曇りとは全天の9割以上が雲で覆われているなどの学習内容を関係付けて理解できていないと考えられる。

③中学1年生

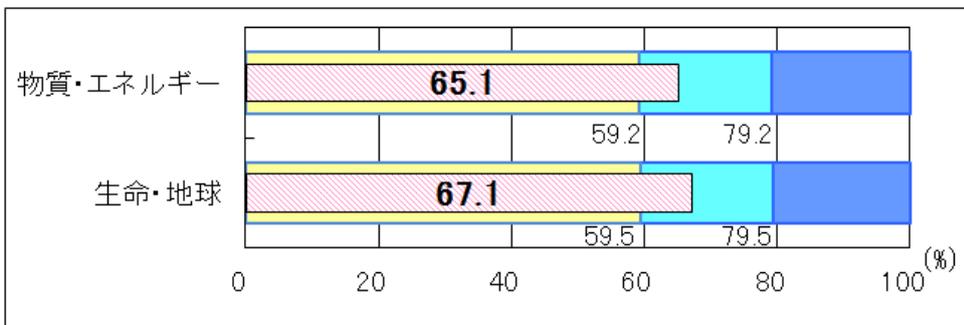


図6 H24年度(中学1年生理科)内容・領域別正答率

「物質・エネルギー」「生命・地球」ともに「おおむね達成」の基準を上回っている。「物質・エネルギー」は「おおむね達成」の基準を5.9ポイント、「生命・地球」は7.6ポイント上回っている。「物質・エネルギー」では、「電気の性質とはたらき」、「燃焼の仕組み」や「水溶液の性質」など実験的な内容が多いが、実験の結果を整理し、考察していく学習活動が行われ、学習内容の定着が図られたと考えられる。

イ 経年比較

(凡例) □:要努力(おおむね達成の基準を下回る) □:おおむね達成 □:十分達成

平成24年度の調査では「技能」の正答率が「おおむね達成」の基準を小学5年生では16.3ポイント下回った。そこで、原因を探るために、平成24年度と平成23年度の小学5年生(同一学年)についての経年比較を行う。学習指導要領では言語活動の充実を通して、科学的な思考力を育成することが求められていることから、平成24年度と平成23年度の中学1年生(同一学年)と平成24年度の小学6年生と平成23年度の小学5年生(同一児童)の科学的な思考について経年比較を行う。最後に、学習したことの意義や有用性を実感する意味で、実社会・実生活との関わりが重要視されていることから、平成24年と平成23年の中学1年生(同学年)の「活用」に関する問題の経年比較を行う。

(ア) 「技能」の経年比較

①H23年度小学5年生とH24年度小学5年生(同一学年)

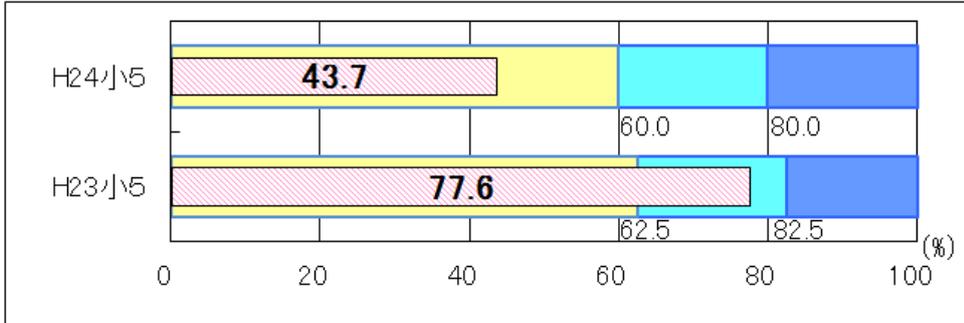


図7 H23・24年度(小学5年生理科)「技能」正答率の経年比較

平成23年度の小学5年生では、「おおむね達成」の基準を15.1ポイント上回る77.6ポイントであった。平成24年度の5年生は「おおむね達成」の基準を16.3ポイント下回った。「おおむね達成」の基準との比較で見ると平成24年度は平成23年度に比べて31.4ポイント下回ったことになる。さらにこれを、「技能」の到達度分布で平成24年度と平成23年度を比べてみると図8のようになる。

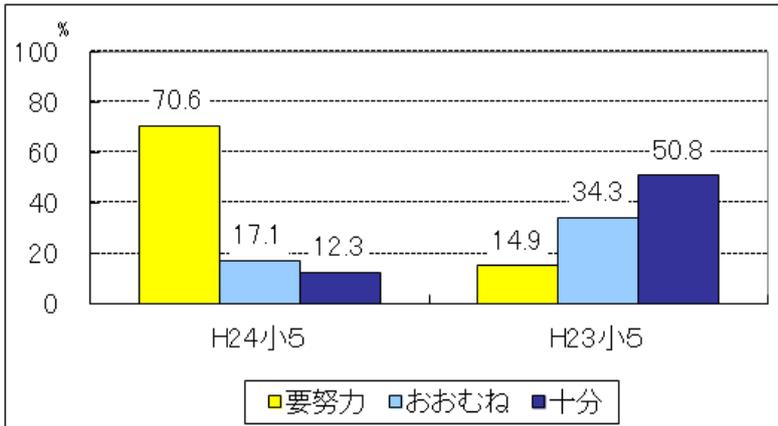


図8 H23・24年度(小学5年生理科)「技能」の到達度分布の経年比較

平成23年度に比べて平成24年度は「十分達成」の基準を上回っている割合は38.5ポイント、「おおむね達成」の基準を上回っている割合は17.2ポイント減少している。「要努力」の児童の割合が55.7ポイント上回り、課題である。平成24年度の小学5年生の「技能」の問題について見てみると「水のあたたまりかたを探る実験」、「金属のあたたまり方を探る実験」等が出題されている。観察、実験の計画で問題を解決するために、どの実験器具や材料を使えば良いかを考えることが難しかったようだ。

(イ) 「思考・表現」の経年比較

①H23年度中学1年生とH24年度中学1年生(同一学年)

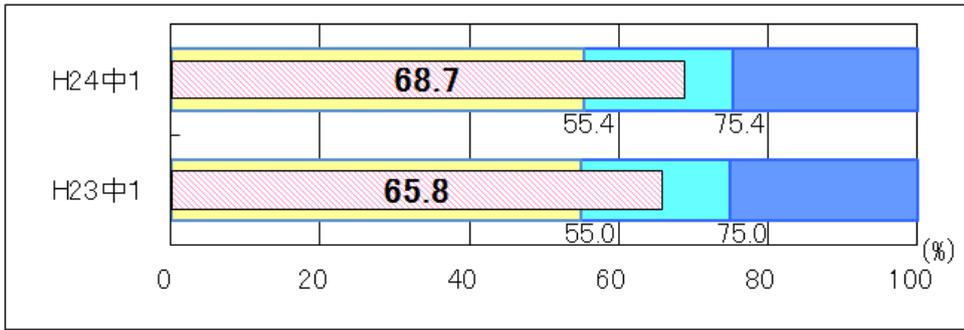


図9 H23・24年度(中学1年生理科)、「思考・表現」の正答率の経年比較

平成23年度の中学1年生では、「おおむね達成」の基準を10.8ポイント上回った。平成24年度の中学1年生は「おおむね達成」の基準を13.3ポイント上回った。「おおむね達成」の基準との比較で見ると平成24年度は平成23年度に比べて2.5ポイント増加したことになる。これを「思考・表現」の到達度分布で比べてみると図10のようになる。

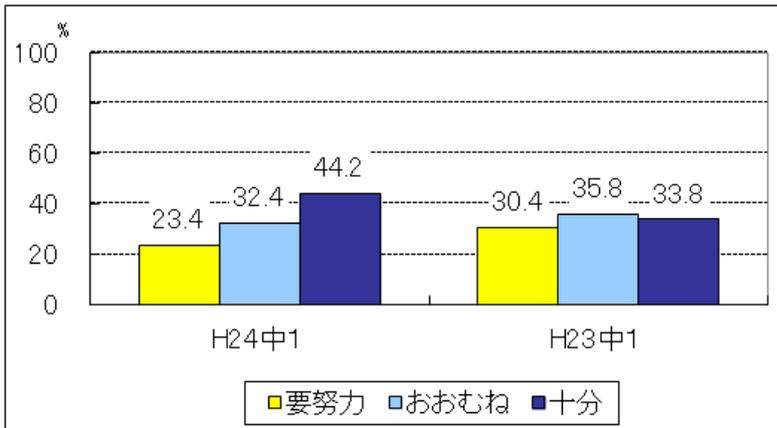


図10 H23・24年度中学1年生理科(同一学年)「思考・表現」の到達度分布の経年比較

平成23年度に比べて平成24年度は「十分達成」の児童の割合は10.4ポイント増加している。平成24年度の中学1年生の「思考・表現」の問題についてみると、モデル実験と自然の事物、現象を関係付けて考えさせたり、粒子モデルを使って表現させたりするような授業が展開されていることが「思考・表現」の「十分達成」の児童の割合の増加につながっていると思われる。

②H23年度小学5年生とH24年度小学6年生理科(同一児童)

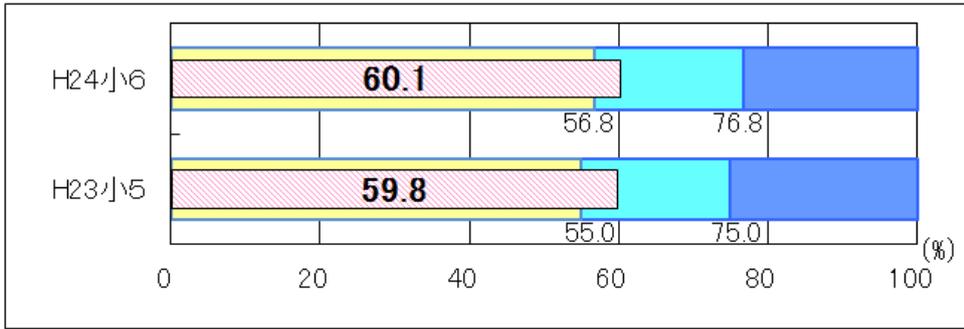


図11 H23年度小学5年生とH24年度小学6年生(同一児童)「思考・表現」の正答率の経年比較

平成23年度の小学5年生では、「おおむね達成」の基準を4.8ポイント上回った。平成24年度の6年生は「おおむね達成」の基準を3.3ポイント上回った。「おおむね達成」の基準との比較で見ると平成24年度は平成23年度に比べて1.5ポイント減少したことになる。これを、「思考・表現」の到達度分布で平成24年度と平成23年度を比べてみると図12のようになる。

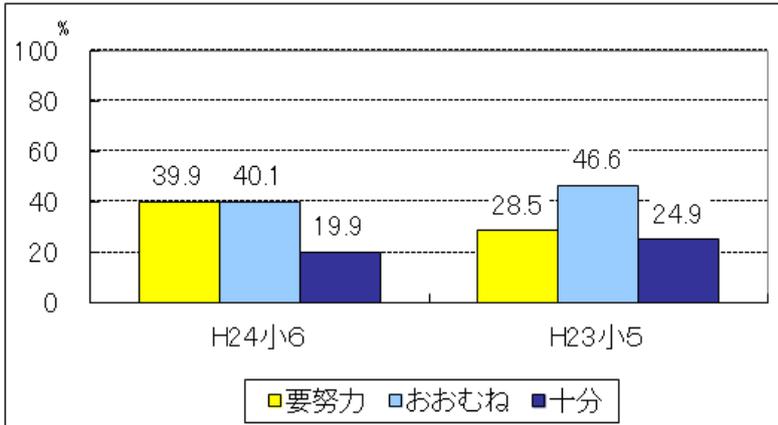


図12 H23小学5年生とH24年度小学6年生(同一児童)「思考・表現」の到達度分布の経年比較

平成23年度に比べ平成24年度は「十分達成」の児童の割合は5.0ポイント、「おおむね達成」の児童の割合は6.5ポイント減少している。逆に「要努力」の児童の割合が11.4ポイント増加した。観察の結果を表すグラフやデータの分析し自然現象に関係付けて思考することに課題が見られた。

(ウ) 「活用」に関する問題の経年比較

H23・H24年度中学1年生理科(同一学年)

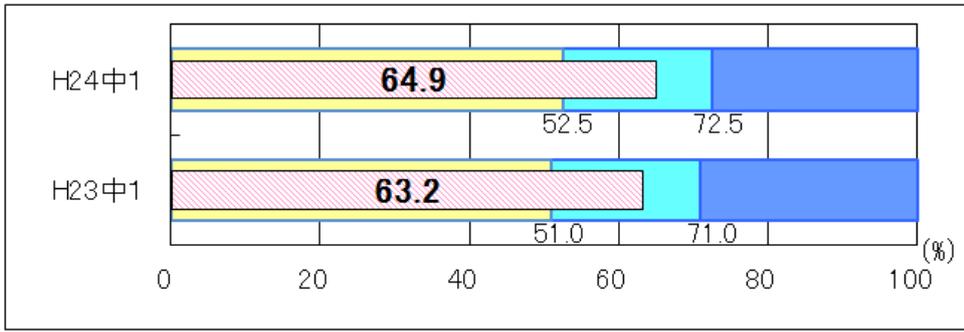


図13 H23・24年度(中学1年生理科)「活用」に関する問題の正答率の経年比較

平成23年度の中学1年生では、「おおむね達成」の基準を12.2ポイント上回った。平成24年度の中学1年生は「おおむね達成」の基準を12.4ポイント上回った。「おおむね達成」の基準との比較で見ると平成24年度は平成23年度に比べて0.2ポイント増加するにとどまった。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導法改善の手立て

平成24年度調査結果を受け、学習内容の理解、定着の面から「知識・理解」について、自らの考えを表現することの面から「思考・表現」を分析する。また、学習指導要領において重点の1つとなっている実社会・実生活との関連を重視する内容を充実させる点から「活用」に関する問題を分析する。

傾向1 **自然の事象の解釈をしたり、理由について考えを述べたりすることに課題がある。**

[中学1年生 大問4]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問4(3)	ヨウ素液の色の変化を基にだ液の働きについて考えることができる。 (記述式)	ご飯粒に含まれるデンプンがだ液により分解されデンプンではないものに変化する。	37.1	10.8	85.0	65.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率65.0に対して、正答率は37.1であり、27.9ポイント下回った。無解答率も10.8ポイントであった。デンプンにヨウ素液をつけると青紫色に変わることを、5年生で学んでいる。デンプンが含まれているご飯粒にだ液をつける。それにヨウ素液をつけても青紫色に変わらないことから、デンプンはだ液によって分解され、デンプンではない物質に変わったことを問う問題である。調べる目的と実験方法との関係付けが不十分であることが正答率の低さの理由として考えられる。

○ 指導法改善の手立て

この内容を学習する時には、「ご飯にはデンプンが含まれている」という前提で進んでいる。そこで、ヨウ素デンプン反応を児童に確認させる意味で、ご飯にヨウ素液をかけて青紫色になる様子を観察させる。その上で「①ご飯に水を加えたもの」「②ご飯にだ液を加えたもの」を比較させ、実験結果を表にまとめることで理解しやすくなる。また、45℃ぐらいのお湯を使い、5分ぐらい待つ理由(プレパラート上が人間の体温に近くなること、だ液がデンプンに反応する時間が必要なこと)を押さえておくことも大切である。

[小学5年生 大問6]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問6(1)	水の温まり方を見るための実験をすることができる。 (選択式・短答式)	水の温まり方の実験で、みその動きが温められた水の動きであることを理解している。	37.3	2.6	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対して、正答率は37.3であり22.7ポイント下回った。水の温まり方を学習するとき、みそや紅茶の葉、おがくず等が使われる。これは、それらは温められた水と一緒に動くことから、水の動きが見やすくなるからである。温められた水の動きを調べるといふ実験の目的とみそなどの動きを観察するといふ実験方法との関係付けが薄いために正答率が低くなったと考えられる。

○ 指導法改善の手立て

水の温まり方を学習するときには、水の動きを分かりやすくするために、みそや紅茶の葉、おがくず等を使う。実験の目的と実験の方法との関係付けが大切である。実験計画で水とともに動き、水の温まり方が分かるようなものを実験材料として考えさせると、実験の目的と実験方法が関係付けられ、目的意識も高まる。また、水が温まった順番を矢印、線等でピーカーの絵の中に描き込み、それを補助する形で言語表現するなど、水の動きがイメージできるような学習活動が必要である。さらに、水の温まり方と空気の温まり方が似ていることを関係付けて理解させることも考えられる。教科書に掲載されている示温インクを使って、最後に演示をしてまとめることなども考えられる。

傾向2 **学習したことを実生活での場面と関連させて考えたり生かしたりしていくことに課題がある。**

[小学5年生 大問8]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問8(1)	ぬれた服の重さと水の蒸発とを関係付けて考え、説明することができる。 (記述式)	洗濯物で乾く前のものと乾いた後のものの重さを比較し、差が出た理由について説明する。	38.6	6.6	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は38.6であり11.4ポイント下回った。「水の三態」のあと、「自然の中の水」で空気中の水蒸気の存在について学習する。水は熱しなくても蒸発すること、地面から蒸発していることを学ぶ。いろいろな場所から水が蒸発することと「洗濯物が乾く」とこととの関係付けがなされていないものと思われる。

○ 指導法改善の手立て

自然の中の水の蒸発については、単元の導入で、雨が降った後の水たまりがしばらくするとなくなっている現象をどのように考えるか、児童の考えを引き出すような丁寧な指導が必要である。児童はこの現象に対して、自分なりの考えをもつ。そこから予想を立て、水を入れた2つの容器で、ラップをかぶせたものとかぶせないものを比較する実験につなげていく。このとき、蒸発している水蒸気をイメージ図として描かせることで目に見えない水蒸気が空気中に出て行く様子をイメージとしてもたせることができる。このように、濡れた服から水分が蒸発している様子をイメージ図に描かせ、説明するような活動が大切であると考えられる。

[小学5年生 大問10]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問10(3)	気温の上がり方と地面の温まり方とを関係付けて説明することができる。 (記述式)	太陽の南中時間に比べて1日の最高気温の時間が遅れる理由を説明する。	7.3	29.3	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は7.3であり、42.7ポイント下回った。無解答率は29.3ポイントと高い。太陽の動き方は小学3年生で、気温の変化については小学4年生で学ぶ。太陽の光によって地面が温められ、温められた地面によって空気が温められるため、太陽の南中する時刻と最高気温を観測する時刻はずれてくる。日光が地面を温め、空気は地面に温められるためピークが遅れることを説明することが困難だったと思われる。

○ 指導法改善の手立て

小学4年生では天気と気温を学習する。学習時に天気の様子と気温の上がり方を記録し、グラフにしてまとめていく。(晴れと雨の日の記録を自記温度計で記録する。)このグラフを描くときに3年生で学んだ太陽の動きと同じグラフに描き、太陽の高度と気温の関係を説明させるような活動が大切である。

傾向3 **科学的用語の定着に課題がある。**

[中学1年生 大問3]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問3(1)	コンデンサーという器具の名称を理解している。 (短答式)	電気を蓄えることができる道具の名前を答える。	65.2	14.3	80.0	60.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率60.0に対して、正答率は65.2であり5.2ポイント上回った。しかし、他の知識を問う問題と比較すると、無解答率は14.3ポイントと高い。コンデンサー(キャパシタ・蓄電器)という用語は、本学習指導要領から使われるようになったものの1つである。また、コンデンサーを授業で扱うのは2時間程度で、児童にとって耳慣れない言葉であるため、難しい用語になるとと思われる。

○ 指導法改善の手立て

「電気は作り出したり蓄えたりすることができること」、「電気は光、音、熱等に変えることができること」、「電熱線の発熱は、その太さによって変わる」となどが今回の学習指導要領の内容に新たに加えられている。それに伴い、発光ダイオードやコンデンサー(キャパシタ・蓄電器)等の器具が使われるようになってきた。「コンデンサー」という言葉の定着には、教師が言語や板書で示し、児童に意識させることが大切である。

エ これからの指導に向けて

今回の調査によって、「自然の事物・現象の解釈をしたり、理由について考えを述べたりすること」、「実生活との関連を図ること」「観察、実験の意味を理解して、観察、実験に取り組むこと」について課題があることが分かった。そこで、学習指導要領の改善の具体的事項の中に「科学的な見方や考え方が一層深まるように、観察・実験の結果を整理し考察し表現する学習活動を重視する」と言語活動の充実が述べられていることを踏まえ(ア)から(エ)の手立てを通して、指導改善について述べる。

(ア) 日常生活と関連を図った問題解決に取り組ませること

学習と日常生活と関連を図るためには、児童が生活の事物・現象から問題を見出し、それを解決していこうとする態度をもたせることが大切である。例えば小学4年生の「自然の中の水」では、雨が降った後の運動場の様子の観察から始まり、水面から蒸発する様子、地表面から蒸発する様子を観察する。水面や地表面などから蒸発した水が、冷やされて結露することを学ぶ。一方、児童は日常生活で「池や沼から湯気が上がっている様子」や「ぬれていた洗濯物や道路が乾く様子」、「夏には冷たい飲み物の容器に水滴が付く様子」、「お風呂の窓や鏡に水滴が付く様子」などを経験している。これらの経験を単元の導入で提示し、「なぜコップの外側に水滴が付くの」、「どうして運動場や道路が乾くの」などの疑問をもたせる。それらの疑問を1単位時間で学習したことを使って説明するような活動を行うことによって、学びと日常生活や自然の事物・現象が関係付けられ確かな学びとなると考える。このように、常に教師は日常生活と学習との関連を意識した学習指導を行うことが大切である。

(イ) 観察、実験の意味を理解させて活動を行わせること

児童の多くは「実験をする」ことにはとても興味を抱き、楽しく学習活動を行う。しかし、観察、実験そのもののもつ操作の楽しさに終始してしまい、学ぶべきことに意識が働かないことがある。観察、実験を行う際には、児童と一緒に実験の計画を立てたり、目的を明確にして進めていったりすることが大切である。例えば小学4年生では、金属にロウを塗り、ロウの溶け方をみることで金属があたたまっていく様子を考察する。「金属が温まる様子が目に見えるようにするために、どんなものを使えばいいか」を児童と一緒に実験計画を立てることなどがそれに当たる。小学5年生では、種子が発芽するための条件を調べるために条件を制御する。「発芽に空気が必要なことを調べるためには、どの条件を揃え、どの条件を違えるのか」など実験の目的を明確にもたせる活動が大切である。実験の目的が明確で、正確に実験された結果を基に考察することが科学的な思考力につながると考える。また、このとき正しい実験器具や薬品の使い方を身に付けさせることも大切である。

(ウ) 思考と表現を結ぶ言語活動の充実を図ること

学習指導要領の改訂により評価の観点が「科学的な思考」から「科学的な思考・表現」となった。理科の学習において、児童の思考を表現させることで、その表現を基に思考の評価を行っていこうとするものである。児童が事物、現象に対してどのような考えをもっているのか、どのように解決しようとしているのか、なぜそう思うのかなど、児童に自分の考えを表現させる場の設定やワークシートの記述のさせ方の工夫が必要である。児童は、自分では分かっているつもりでも、実際に書いたり友達に説明したり、説明を聞いたりすることで、「自分の分かっている点」、「曖昧な点」、「間違っていた点」などを整理する。それらを自覚し、再思考することで探究活動がより充実したものになると考えられる。

(エ) 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた指導改善を図ること

全国学習状況調査の問題は、3年生から5年生までの学習内容によって構成されていた。佐賀県学習状況調査は前年度の学習内容を問うもので、その点に違いが見られたために解答に戸惑った児童も多かったのではないだろうか。理科の学習は「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の内容が各学年に系統的に配置されている。教師は学習を進めるときに、「どの領域の学習でどの学年のどの単元につながっているから、本単元ではこの力を付けたい」という学習の系統性を意識する必要がある。国立教育政策研究所の資料によると、全国学習状況調査は、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題で構成されている。主として「活用」に関する問題では、理科の学習で学んだ知識・技能が実際の自然の中で成り立っていることを捉えたり、日常生活の中で役立てられていることを確かめたりすることができるかどうか、つまり知識・技能を活用しているかどうかを問うものである。

学習で身に付けた知識・技能を活用する問題の視点として次の4つが挙げられている。

「適用」…理科で学んだ自然の事物・現象の性質や働き、規則性などに関する知識・技能を、実際の自然や日常生活などに当てはめて用いること。例えば、水は温度によって水蒸気や氷に変わることを学んだ後に、洗濯物を干していると自然に乾くことや、空気は押し縮めることができることを学んだ後に、どうしてボールは弾むのかなどを考えさせることが考えられる。

「分析」…自然の事物・現象に関する様々な情報及び観察、実験の結果などについて、その要因や根拠を考察し説明することができること。例えば、光電池をつけたモーターカーを教室の後ろの棚に置いていたら、誰もさわっていないのに次の朝には床に落ちていたのはなぜかなどを考えさせることである。

「構想」…身に付けた知識・技能を用いて、他の場面や他の文脈において、問題点を把握し解決の方法を構想したり、問題の解決を想定したりすることができること。例えば、ジャガイモの葉に日光が当たるとデンプンができるかを調べる実験計画を立てることなどが考えられる。

「改善」…身に付けた知識・技能を用いて、自分の考えを証拠や理由に立脚しながら主張したり、他者の考えを認識し、多様な観点からその妥当性や信頼性を吟味したりすることなどにより、批判的に捉え自分の考えを改善できること。例えば、空気と水を容

器に閉じ込めておき、上から圧すと両方縮むと思っていたが、実験結果はそうならなかった。それは、空気は押し縮めることができるが、水は押し縮めることができないからだ。と実験結果から自分の考えを改善させることなどが考えられる。これからは、この4つの視点をもった授業づくりをしていくことが必要だと考えられる。

これら(ア)から(エ)の手立てを通して指導改善を行っていくことが大切である。

#### オ 授業実践に参考となるリンク



最終更新日：2012-10-15

## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ>Ⅲ 各教科の調査結果の分析>中学校国語

### Ⅲ 各教科の調査結果の分析

※ 中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

#### 中学校国語

##### 「書くこと」「読むこと」指導の更なる充実を目指して

中学2年生、中学3年生ともに、全ての評価の観点において、「おおむね達成」の基準を上回った。特に、「話す・聞く」「言語についての知識・理解・技能」の観点においては、「十分達成」の基準を上回った。しかし、「書くこと」「読むこと」の観点に課題が見られた。設問ごとに見ていくと、「書くこと」の観点においては、相手や目的に応じて、分かりやすく書くこと、「読むこと」の観点においては、文章と図表などとの関連を考えながら、説明の文章を読むことに課題が見られる。このことを踏まえて、「書くこと」「読むこと」の観点の指導を充実させる必要がある。

国語科においては、評価の観点と内容・領域が重なるという教科の特質上、以下のように記す。

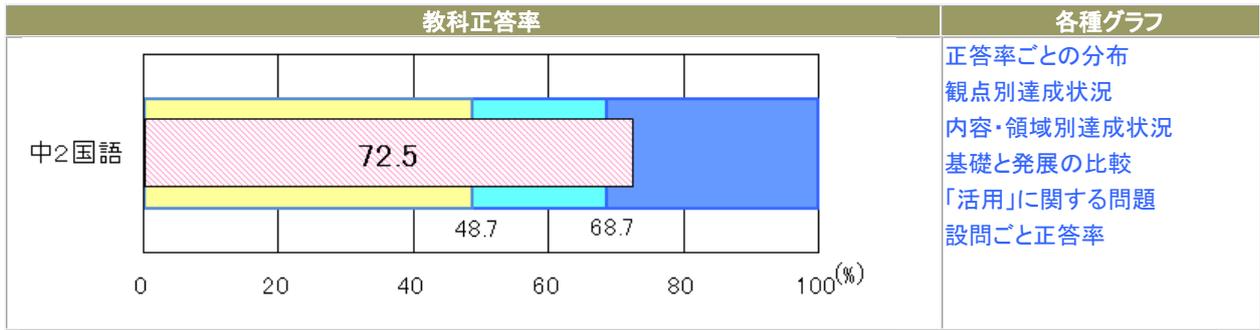
- |                  |                         |
|------------------|-------------------------|
| ○国語への関心・意欲・態度    | → 「関心・意欲・態度」(中学3年生のみ設定) |
| ○話す・聞く能力         | → 「話す・聞く」               |
| ○書く能力            | → 「書く」                  |
| ○読む能力            | → 「読む」                  |
| ○言語についての知識・理解・技能 | → 「知識・理解・技能」            |

ア 結果の概要

各学年ごとに教科の正答率について到達基準との比較を示す。

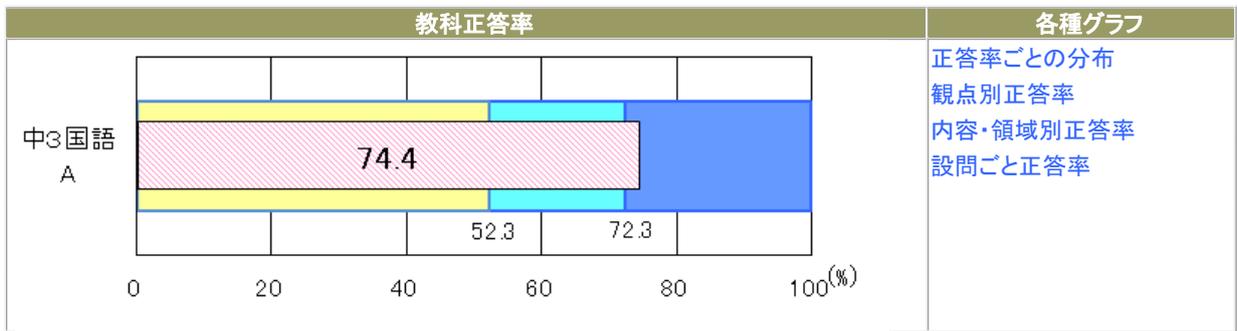
(凡例) : 要努力(おおむね達成の基準を下回る) : おおむね達成 : 十分達成

(ア) 教科及び設問ごと正答率



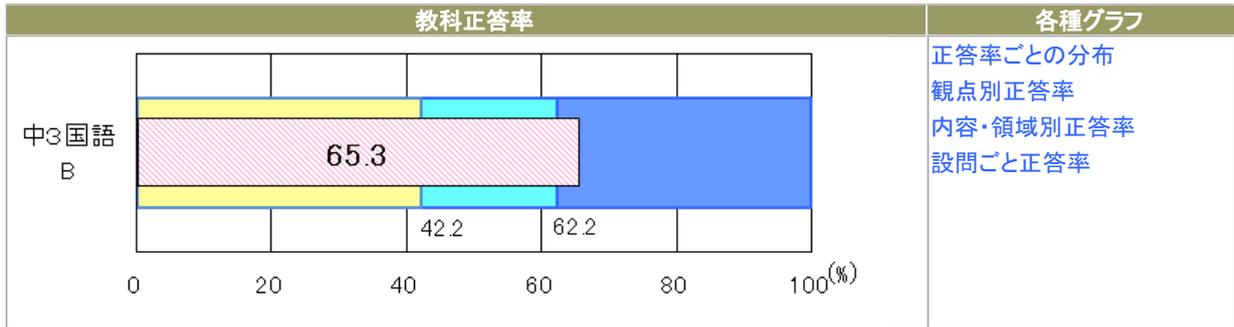
中2国語 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	一	話の要点を捉えながら聞き、話の内容を聞き取る	83.4	4.9	75	55
	二	話の要点を捉えながら聞き、話の内容を聞き取る	78.7	4.5	70	50
	三	話合いの話題や方向を捉えて、的確に聞く	94.9	0.2	70	50
	四	話の構成や論理的な展開を理解している	82.9	0.5	65	45
	五	話題の展開に即して、自分の考えを的確に話す	67.5	10.2	60	40
2	一	相手や目的に応じて、分かりやすく書く	35.3	9.3	60	40
	二	案内文の書き方を理解している	60.3	0.7	75	55
	三	相手意識を明確にして文章を書く	72.1	9.3	65	45
	四	目的に応じて、材料を選ぶ	79.9	1.4	70	50
	五	伝えたい事実や事柄を明確にして書く	52.5	9.1	60	40
3	一	文脈の中における語句の意味を正確に捉え、理解している	76.9	0.9	75	55
	二	文章の展開に即して内容を捉える	81.6	7.3	75	55
	三	文章に表れているものの見方や考え方を理解している	78.5	1.4	65	45
	四	文章の要旨を捉える	57.3	2.2	65	45
	五	筆者のものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げる	44.8	14.8	55	35
4	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「増減」	82.1	4.0	75	55
	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「快く」	82.2	5.5	75	55
	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「磁石」	97.4	0.7	75	55
	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「宮む」	89.7	2.5	75	55
	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「収集」	93.4	1.3	75	55
	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「捨う」	70.0	5.7	70	50
	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「貿易」	82.8	6.5	70	50
	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「異なる」	75.2	13.9	70	50
	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(同訓異字の書き分け)「空ける」	47.2	20.7	70	50
	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(同訓異字の書き分け)「謝る」	57.3	14.7	70	50
	三	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(四字熟語)	67.6	16.8	60	40
	四	漢字の行書の基礎的な書き方を理解している「くさかんむり」	87.7	1.6	70	50
	五	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(文節の働き)	23.9	2.3	65	45
	六1	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(同訓異字の使い分け)「計る」	86.7	1.9	70	50
六2	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(慣用語の適切な用法)「根も葉もない」	84.6	1.9	65	45	



中3国語A 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	一	自分の話を聞き手に理解してもらえるように、資料を用いて話す	85.4	0.1	75	55
	二	間の取り方に注意して話す	84.8	0.1	75	55
2	一	手紙の形式を理解して書く	88.1	0.1	75	55
	二	相手に応じて文章を書き直す	84.8	0.2	70	50
3	一	比喩を手掛かりにしながら文脈をたどり、内容を理解する	84.1	2.2	75	55
	二	比喩という言葉と結び付けて、表現の仕方を理解する	42.4	16.7	75	55
4	一	聞き手や場面を意識して、適切な語句を選択して話す	89.7	2.0	70	50
	二	話し言葉と書き言葉との違いを理解し、適切に使う	54.5	7.2	70	50
5	一	伝えたい事柄を明確にして書く	89.8	0.4	75	55
	二	必要な情報が相手に伝わるように説明する	80.5	3.9	70	50
6	一	文章の展開に即して内容を捉える	65.0	2.9	75	55
	二	目的に応じて必要な情報を読み取る	36.1	0.4	70	50
7	一1	文脈に即して漢字を正しく書く	48.9	12.8	70	50
	一2		90.5	5.8	75	55
	一3		73.0	3.9	70	50
	二1	文脈に即して漢字を正しく読む	61.0	11.4	75	55
	二2		83.9	4.9	70	50
	二3		76.2	3.6	70	50
	三ア	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	80.6	0.4	70	50
	三イ		87.8	0.3	75	55
	三ウ		57.0	0.5	70	50
	三エ		46.1	0.5	70	50
	三オ	91.2	0.5	70	50	
	四ア	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	84.3	0.5	75	55
	四イ		63.5	0.5	70	50
	五	はがきの書き方を理解して書く	81.1	2.2	70	50
六1	ひらがなで表記された作品名をローマ字で書く	89.5	2.0	75	55	
六2	ローマ字で表記された作品名を読み、ひらがなと漢字で正しく書く	81.3	4.0	70	50	
七1	抽象的な概念を表す語句について理解する	65.7	0.9	70	50	
七2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	90.3	3.0	75	55	
8	八1	漢字の音読みと訓読みについて理解する	68.4	0.8	75	55
	八2	辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える	75.1	1.0	75	55



大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	一	相手の話を踏まえて話す	77.5	0.2	65	45
	二	話の展開に注意して聞く	79.4	0.2	60	40
	三	相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書く	40.1	12.6	55	35
2	一	文脈の中における語句の意味を捉える	84.6	4.8	70	50
	二	効果的に伝わるように、内容や表現の仕方を工夫して書く	82.5	0.3	65	45
	三	資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書く	69.8	7.5	55	35
3	一	物語の展開や表現の特徴を捉える	58.9	0.6	65	45
	二	物語の場面の展開を捉える	39.7	0.6	65	45
	三	物語の内容や登場人物の言動の意味などを捉え、自分の考えを書く	55.4	12.3	60	40

中学2年生の教科全体の正答率は72.5で、「十分達成」の到達基準68.7に対して、3.8ポイント上回った。中学3年生国語Aの教科全体の正答率は74.4で、「十分達成」の到達基準72.3に対して、2.1ポイント上回った。中学3年生国語Bの教科全体の正答率は65.3で、「十分達成」の到達基準62.2に対して、3.1ポイント上回った。

(イ) 評価の観点別正答率

① 中学2年生

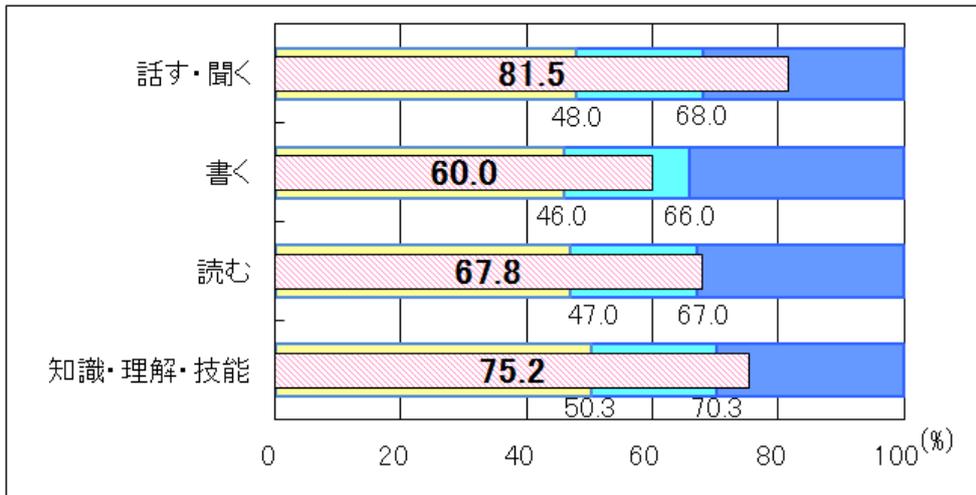


図1 H24年度(中学2年生国語)評価の観点別正答率

中学2年生を見ていくと「書く」が60.0で「おおむね達成」の到達基準46.0に対して、14.0ポイント上回ったが、他の観点に比べて最も低かった。

② 中学3年生

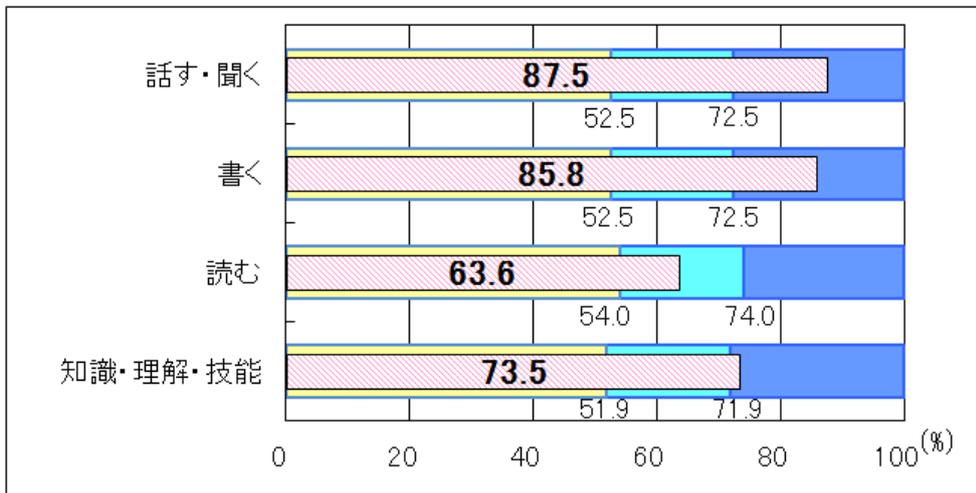


図2 H24年度(中学3年生国語A)評価の観点別正答率

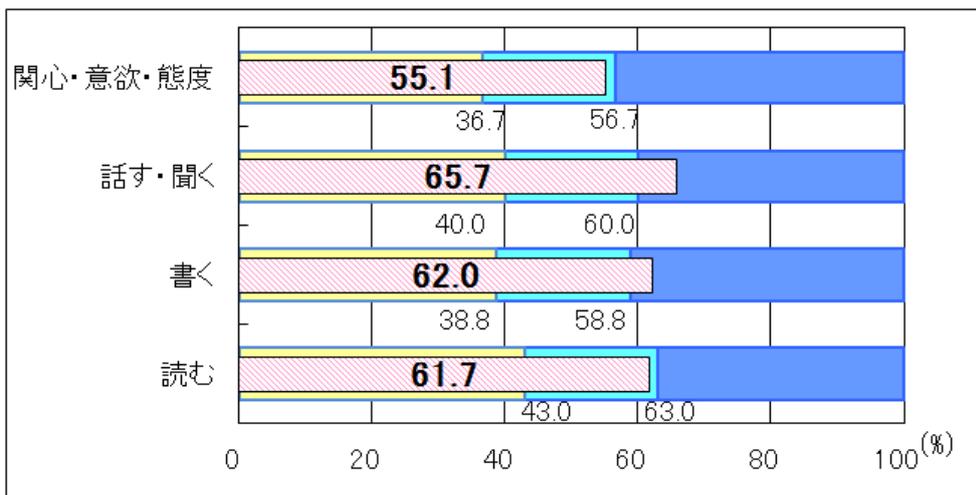


図3 H24年度(中学3年生国語B)評価の観点別正答率

中学3年生国語Aを見ていくと「読む」が63.6で「おおむね達成」の到達基準54.0に対して、9.6ポイント上回ったが、他の観点に比べて最も低かった。中学3年生国語Bを見ていくと「関心・意欲・態度」が55.1で「おおむね達成」の到達基準36.7に対して、18.4ポイント上回ったが、他の観点に比べて最も低かった。関心・意欲・態度を問う設問は、いずれも領域を関連させた記述式の問題であり、情報の読み取りや、読み取ったことを基に自分の考えを形成することに課題があるということが分かる。

(ウ) 内容・領域別正答率

①中学2年生

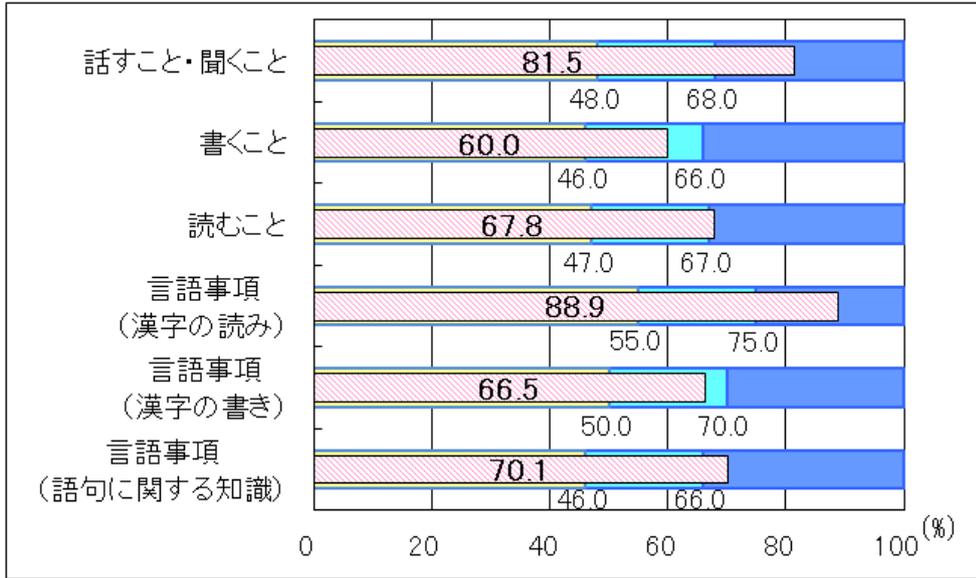


図4 H24年度(中学2年生国語)内容領域別正答率

「話すこと・聞くこと」と「言語事項」(漢字の読み)については、「十分達成」の基準を上回った。しかし、「書くこと」については、「おおむね達成」の基準を上回っているものの、「十分達成」の基準より6.0ポイント下回っている。特に、相手や目的に応じて分かりやすく書くねらいの設問に課題が見られた。

②中学3年生

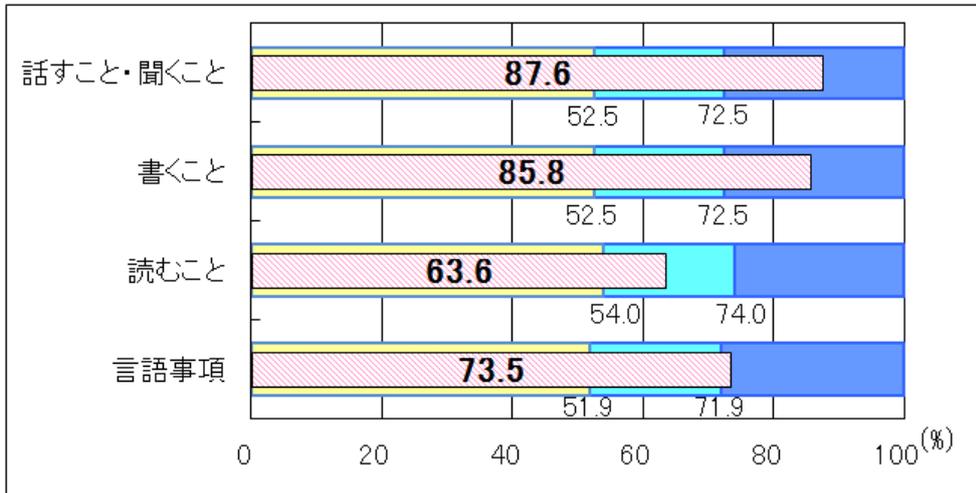


図5 H24年度(中学3年生国語A)内容領域別正答率

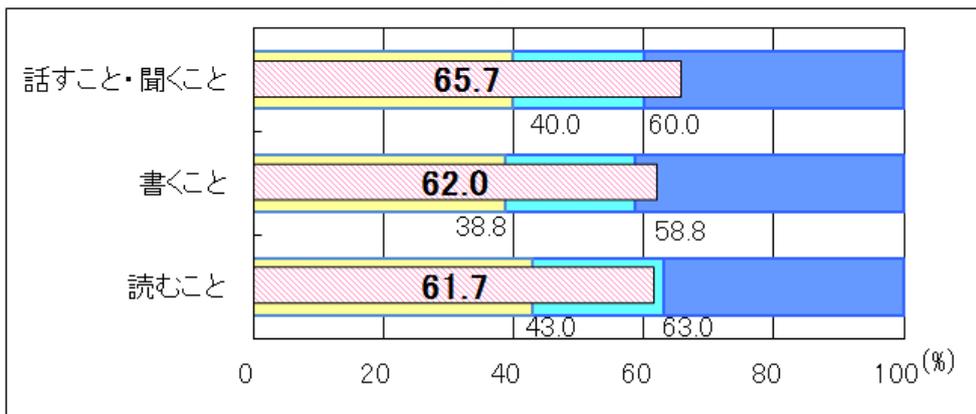


図6 H24年度(中学3年生国語B)内容領域別正答率

「話すこと・聞くこと」と「書くこと」と「言語事項」については、「十分達成」の基準を上回った。しかし、国語Aの「読むこと」については、「おおむね達成」の基準を上回っているものの、「十分達成」の基準より10.4ポイント下回っている。特に、目的に応じて必要な情報を読み取ることに課題が見られた。国語Bの「読むこと」についても「おおむね達成」の基準を上回っているものの、「十分達成」の基準より1.3ポイント下回っている。特に、物語の場面の展開を捉えることに課題が見られた。

イ 経年比較

(凡例) ■:要努力(おおむね達成の基準を下回る) ■:おおむね達成 ■:十分達成

平成24年度は、平成23年度と比べると、全体的に改善の傾向が見られる。しかし、同じねらいの問題が、2年連続で正答率が低いなど、課題も見られる。そこで、平成23年度からの課題になっている内容・領域の「書くこと」「読むこと」「言語事項(漢字の書き)」について分析を行い、原因を探ることとする。そのために、同一生徒に着目し、平成24年度と平成23年度の経年比較により分析を行う。

(ア) 「書くこと」に関する問題についての経年比較(同一生徒比較)

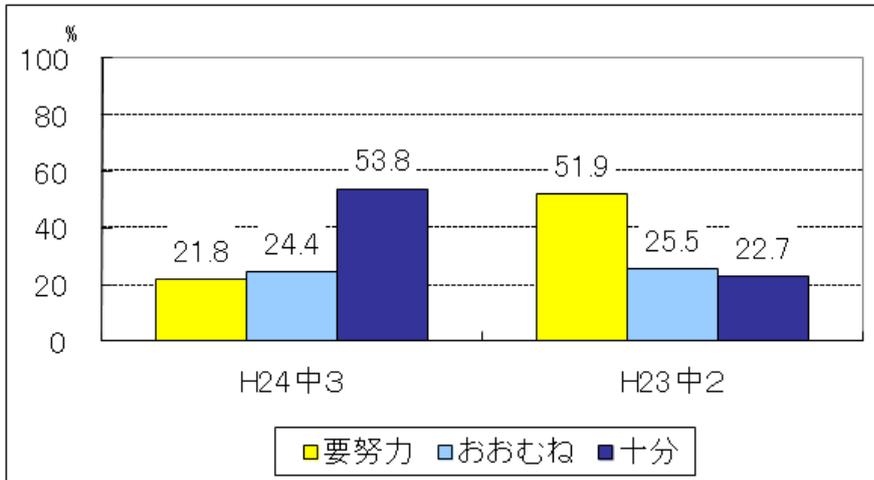


図7 H23度(中学2年生)H24年度(中学3年生)「書くこと」の到達度分布の経年比較

平成23年度(中学2年生)と平成24年度(中学3年生)「書くこと」の到達度分布において経年比較を行った。平成23年度は、「要努力」が51.9であったのに対し、平成24年度は21.8で、30.1ポイント減少している。また、平成23年度は、「十分達成」が22.7であったのに対し、平成24年度は53.8で、31.1ポイント増加している、このことから「書くこと」について改善が図られていることが分かる。平成23年度は、「書くこと」に課題があり、国語科の授業においても「書くこと」に力を入れて指導をなされた結果であると思われる。

(イ) 「読むこと」に関する問題についての経年比較(同一生徒比較)

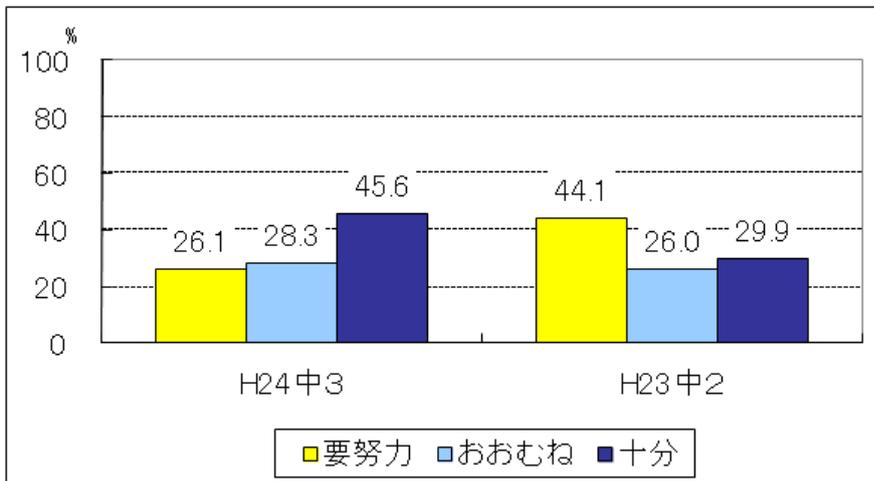


図8 H23年度(中学2年生)H24年度(中学3年生)「読むこと」の到達度分布の経年比較

平成23年度(中学2年生)と平成24年度(中学2年生)「読むこと」の到達度分布において経年比較を行った。平成23年度は、「要努力」が44.1であったのに対し、平成24年度は26.1で、18ポイント減少している。また、平成23年度は、「十分達成」が29.9であったのに対し、平成24年度は45.6で、15.7ポイント増加している、このことから「読むこと」について改善が図られていることが分かる。平成23年度は、「読むこと」に課題があったが、日頃から「読むこと」についての指導が熱心になされていることがうかがえる。

(ウ) 「言語事項(漢字の書き)」に関する問題についての経年比較(同一生徒比較)

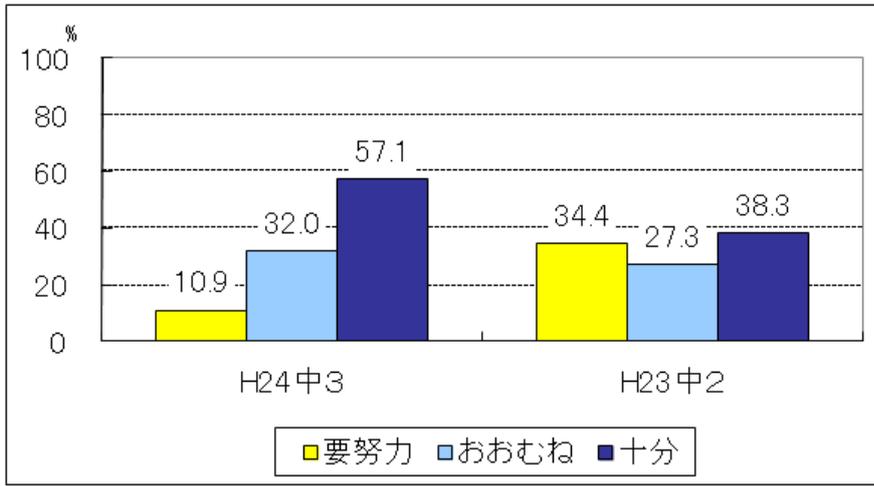


図9 H23年度(中学2年生)H24年度(中学3年生)「言語事項(漢字の書き)」の到達度分布の経年比較  
 平成23年度(中学2年生)と平成24年度(中学3年生)「言語事項(漢字の書き)」の到達度分布において経年比較を行った。平成23年度は、「要努力」が34.4であったのに対し、平成24年度は10.9で、23.5ポイント減少している。また、平成23年度は、「十分達成」が38.3であったのに対し、平成24年度は57.1で、18.8ポイント増加していて、このことから「言語事項(漢字の書き)」について改善が図られていることが分かる。日頃から漢字を読んだり書いたりする機会を多くして、習熟を図るような指導がなされていることがうかがえる。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導改善の手立て

上記の「ア結果の概要」と「イ経年変化」から、中学国語の指導に対して全体的に改善が図られているということが分かった。しかし、設問ごとに見ていくと、同じ出題のねらいの設問が2年連続正答率が低いという課題が見られる。そこで、「書くこと」「読むこと」「言語事項(漢字の書き)」の3つの内容・領域を取り上げ、正答率が低かった設問と無解答率が高かった設問について、分析を行うことにする。このことでより詳細に課題を把握し、具体的な改善の手立てについて探り、更なる改善を図りたい。

傾向1 **相手や目的に応じて分かりやすく書いたり、自分の考えを書いたりすることに課題がある**

[中学2年生 大問2一]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問2一	相手や目的に応じて、 分かりやすく書く。  (短答式)	部活動説明会の目的の 2文を、ポスターに合 う形に1文に書き換 える。	35.3	9.3	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率は35.3であり、4.7ポイント下回った。部活動説明会の目的の2文を1文に、しかも、文末を呼びかけの形式に書き換えることを答えとして求められていることから、相手や目的に応じて分かりやすく書くことに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

相手や目的に応じて書き換える際には、次のことに注意して指導したい。

- ・文脈の中における語句の意味を捉えること
- ・効果的に伝わるように、内容や表現の仕方を工夫すること
- ・資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるようにすること
- ・条件に合わせること

このねらいの設問については、平成23年度も正答率が低い結果になっていたもので、力を入れて指導をしたいところである。目的や対象、文章の様式などに応じて、文章を書き換えるような言語活動を取り入れる必要がある。言語活動例としては、保護者向けに書かれた体育大会の案内を基に、小学生や地域の方に向けた案内を作成するなどの活動が考えられる。

[中学3年生国語B 大問1三]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問1三	相手の発言を注意して 聞き自分の考えを書 く。  (記述式)	聞き取ったことを基 に、自分の考えを聞 く。	40.1	12.6	55.0	35.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率35.0に対して、正答率は40.1であり、5.1ポイント上回っているが、「十分達成」の期待正答率には到達していない。相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書くことがねらいの設問であるが、無解答率も高く、自分の考えを書くことに課題があるということが分かる。

○ 指導改善の手立て

文章を書く際には、伝えたい事実や事柄を明確にして、相手や目的に応じて分かりやすく書くことが大切である。その際、伝えたい事実や事柄が的確に盛り込まれているかなどを確認して書くように指導することが大切である。このねらいの設問については、平成23年度も正答率が低い結果になっていたもので、力を入れて指導をしたいところである。指導に当たっては、社会生活の中から課題を決め、学校図書館等を活用して材料を集め、自分の立場や意見が効果的に伝わるように、根拠を説明したり具体例を用いたりして文章を書くなどの学習活動が考えられる。

傾向2 目的に応じて必要な情報を読み取ることに課題がある

[中学3年生国語A 大問3二]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	設問の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問3二	比喻という言葉と結び付けて表現の仕方を理解する。 (短答式)	「まるで…だ」に使われている表現法を答える。	42.4	16.7	75.0	55.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率55.0に対して、正答率は42.4であり、12.6ポイント下回っている。これは表現の特徴に気付かなかったのか、もしくは表現の技法である比喻が理解できていないのかが原因であると考えられる。

○ 指導改善の手立て

文章を読む際には、内容だけでなく、文章の特徴や表現の仕方にも気を付けて読むように指導することが大切である。特に文学的な文章では、表現の仕方に注意して読むことが、登場人物の心情や情景などを豊かに捉えることにつながり、文章の内容を一層深く理解する上で有効である。比喻などの表現技法について指導する際には、文章の中の具体的な表現と結び付けながら考えさせたい。その際、比喻などを使って表されている事柄を、表に整理したりして表現の技法と文章の中の表現とを結び付けることが理解を深める上で有効であると思われる。

[中学3年生国語A 大問6二]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問6二	目的に応じて必要な情報を読み取る (選択式)	文章と図の内容を読み取り、選択肢を選ぶ。	36.1	0.4	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は36.1であり、13.9ポイント下回っている。これは、文章の内容を読み取ることができなかったか、もしくは、図の内容を読み取ることができなかったか、文章と図の両方を関連付けて読み取ることができなかったか、いずれかが原因であると思われる。

○ 指導改善の手立て

説明的な文章には、図表が使われている場合が多い。その際、図表が文章の内容をより分かりやすくするために使われている場合や、文章が図表の解説になっている場合がある。図表も大切な情報として読み取る習慣を身に付けさせるとともに、普段から文章と図表を関連させながら内容を読み取るように指導をする必要がある。なお、「書くこと」の「図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと」と関連させて指導することが効果的であると思われる。

傾向3 漢字の書き取りに関する知識や文節の働きに関する知識に課題が見られる

[中学2年生 大問4、中学3年生国語A 大問7]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
H24 問4二4	文脈に即して漢字を正しく書く。  (短答式)	同訓の書き分け 「席を空ける」と書く。	47.2	20.7	70.0	50.0
H24 問7一1		地域の人を「招待」すると書く。	48.9	12.8		

○ 解答状況

中学2年生の「席を空ける」の設問では、「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は47.2であり、2.8ポイント下回っている。中学3年生国語Aの「地域の人を招待する」の設問では、「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は48.9であり、1.1ポイント下回っている。

○ 指導改善の手立て

漢字は一字一字を正確に読み書きできるようにするだけでなく、文脈に即して使えるようにすることが大切である。そのためには、実際に文章の中で漢字を読んだり書いたりする機会を多くして、習熟を図るようにすることが求められる。

[中学2年生 大問4五]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4五	文脈の中で語句や語彙を正しく使う。 (選択式)	文節の働きが違うものを選択しから、選ぶ。	23.9	2.3	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対して、正答率は23.9であり、21.1ポイント下回っている。文節の働き(主語)を問う問題である。主語という言葉は知っていても、概念との結び付きが理解できていないことが原因であると考えられる。

○ 指導改善の手立て

語句の文脈上の意味は辞書的な意味を踏まえ、思考力や想像力を働かせて文脈において具体的かつ個別的に捉えることになる。また、語句が文章の中で果たしている役割を考えることも大切である。文法の指導となれば、練習問題を解いて知識の定着を図る指導に終始しがちだが、「読むこと」の文脈の中における語句の意味を捉え、理解することと関連を図りながら、常に語句や語彙にも関心をもたせるような指導を心掛けたい。

エ これからの指導に向けて

本調査で明らかになったことは、中学2年生と中学3年生の教科正答率は、ともに「十分達成」を上回ったが、「書くこと」「読むこと」に関しては、やや課題が残る結果であったということである。以下の点を意識しながら、改善を図っていくことが大切である。

(ア)「話すこと・聞くこと」

本調査では、「十分達成」の期待正答率を大きく上回っていた。「話すこと・聞くこと」は社会生活においても、会議で新しい企画を説明したり、調査したことを報告したりする際に、資料や機器などを効果的に使い、話の内容を分かりやすく相手に伝えることが求められる。話し手の考えを聞き手に分かりやすく伝えるためには、写真などを見せながらスピーチをする場面や調べたことを報告する場面に、最も伝えたいところ、話題が変わるところなどを強調するために、聞き手を意識した話す速度や間の取り方を考えさせることが大切である。

(イ)「書くこと」

本調査で一番課題となった領域であり、力を入れて指導すべき領域である。特に、相手や目的に応じて分かりやすく書く設問の正答率が低かった。

指導に当たっては、日常生活や社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えを書いてまとめるような機会を設けるようにする。書く際には、相手や目的に応じて構成や記述を工夫する必要がある。伝えたい情報を選んで説明の順序を考えたり、ふさわしい語句や表現を用いたりすることが大切である。

例えば、説明的な文章を、写真や図表を加えながら、小学生にも分かりやすいリーフレットに書き換えるなど、文章を相手や目的に応じて書き換える学習活動などが考えられる。

(ウ)「読むこと」

本調査で「書くこと」の次に課題となった領域であり、力を入れて指導すべき領域である。特に、目的に応じて必要な情報を読み取る設問の正答率が低かった。

説明的な文章は、中心となる部分とそれを支える付加的な部分、事実を述べた部分と意見を述べた部分などで構成されている。指導する際には、中心となる話題や重要な言葉が、文章全体の中でどのように位置付けられているのかを捉えさせることが大切である。その際、主張と根拠、問いと答え、繰り返し出てくる言葉などに注意しながら、内容を正確に捉えるように指導すると有効である。

また、本調査では文章と図表の関連を考えながら、説明や記録の文章を読むことの正答率が低かった。図などを用いて説明がなされている場合、図に描かれている内容と文章に書いてある内容を整理した上で、図と文章とを適切に関連させて読むことが重要である。指導に当たっては、図や写真、表などが用いられている説明書や報告書などを読み、必要な情報を取り出して、生活や仕事に役立てるなどの活動に取り組ませることが求められる。

(エ)「言語事項」など

漢字は、一字一字を正確に読み書きできるようにするだけでなく、文脈に即して使えるようにすることが大切である。そのため、実際に文章の中で漢字を読んだり書いたりする機会を多くして、習熟を図るようにすることが求められる。

語句・語彙の指導に当たっては、語句の辞書的な意味を基にして、話や文脈の中での意味を捉えさせることが大切である。また、語感を磨き、語彙を豊かにするためには、類義語を取り上げ、相手や場面に応じて使い分けたり、慣用句を話や文章の中で用いて、その意味や用法の違いを考えたりする学習活動が有効である。

オ 授業実践に参考となるリンク



最終更新日：2012-10-15

## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅲ 各教科の調査結果の分析 > 中学校社会

### Ⅲ 各教科の調査結果の分析

※中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

#### 中学校社会

##### 言語活動を通じた「思考力・判断力・表現力」の育成

中学2年生では、「資料活用の技能・表現」の観点は、「おおむね達成」の基準を上回ったが、「社会的な思考・判断」と「社会的事象についての知識・理解」は「おおむね達成」の基準を下回った。中学3年生では、「社会的な思考・判断」と「社会的事象についての知識・理解」は「おおむね達成」を上回ったが、「資料活用の技能・表現」は「おおむね達成」を下回った。平成23年度の調査で課題として挙げられた歴史的分野の基礎的・基本的な知識や技能・概念の習得と定着については、若干の改善は見られるものの、課題を残す結果となった。今後は身に付けた知識や資料から読み取った情報を活用し、自分の考えをまとめさせたり、思考・判断の過程や成果を自分の言葉で表現させる言語活動を充実させるための手立てが必要である。

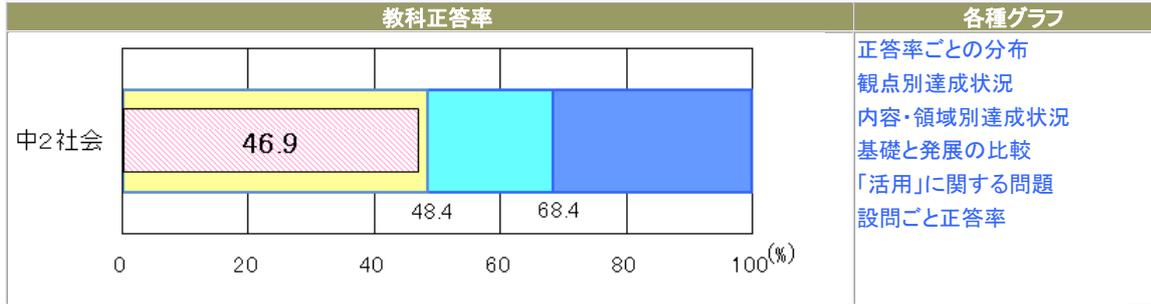
この後、評価の観点については、以下のよう記す。

- |                   |   |           |
|-------------------|---|-----------|
| ○社会的な事象への関心・意欲・態度 | → | 本調査では設定なし |
| ○社会的な思考・判断        | → | 「思考・判断」   |
| ○資料活用の技能・表現       | → | 「技能・表現」   |
| ○社会的事象についての知識・理解  | → | 「知識・理解」   |

ア 結果の概要

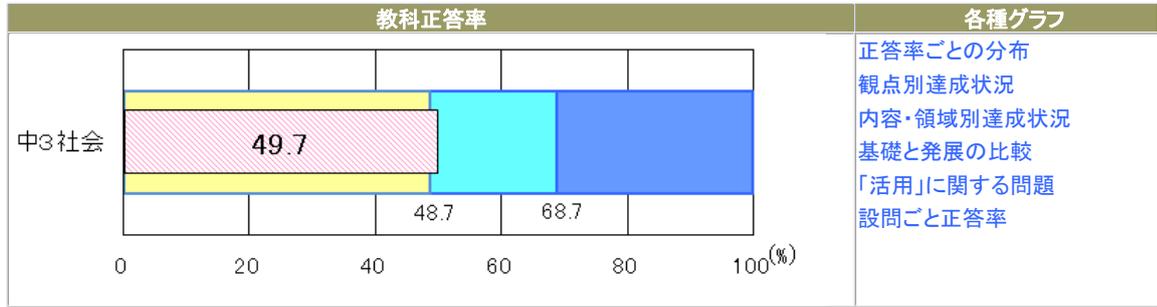
(凡例) :要努力(おおむね達成の基準を下回る) :おおむね達成 :十分達成

(ア) 教科及び設問ごと正答率



中2社会 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)A	太平洋の位置と名称について理解している	75.9	2.1	70	50
	(1)B	南アメリカ大陸の位置について理解している	45.1	0.7	70	50
	(2)①	本初子午線について理解している	58.1	0.5	75	55
	(2)②	東京の位置を緯度と経度を使って表すことができる	65.1	0.8	70	50
	(3)	世界地図の特徴から、地図上の2点間の最短距離を選ぶことができる	55.5	0.7	65	45
2	(1)①②	主な国々の特色から、国の位置と名称を特定することができる	55.4	0.7	70	50
	(2)	ユーラシア大陸は、ヨーロッパ州とアジア州に分けられることを理解している	59.2	5.3	70	50
	(3)	地図帳の索引を用いて、都市の位置を表すことができる	42.5	17.1	70	50
	(4)	アフリカの国々の国境線の一部が直線になっている理由を説明することができる	25.9	19.2	55	35
3	(1)	猿人や原人が打製石器(旧石器)を使用していたことについて理解している	73.2	7.3	70	50
	(2)	資料から、世界の古代文明が生まれた地域の共通点を読み取ることができる	69.4	11.4	65	45
	(3)	中国の古代文明から発生した(賈)の特色について理解している	42.0	1.1	70	50
	(4)	西暦について理解している	12.5	28.1	75	55
	(5)	世紀を使った年代の表し方について理解している	33.6	1.2	70	50
4	(1)	縄文時代の人々の生活の様子について理解している	44.8	0.7	70	50
	(2)	資料を基に、日本列島における人口の増加と生活の変化とを関連付けて説明することができる	48.0	12.3	55	35
	(3)	資料を基に、弥生時代から古墳時代にかけての国の統一の様子を考え、説明することができる	22.4	30.3	60	40
	(4)	平安時代の政治の流れについて理解している	50.2	1.4	70	50
	(5)	資料を基に、平安時代に国風文化が栄えた理由を説明することができる	27.8	31.1	60	40
5	(1)	執権について理解している	68.5	0.9	75	55
	(2)	奉公について理解している	35.0	12.5	70	50
	(3)	承久の乱の影響について理解している	43.9	1.8	70	50
	(4)	元寇がおきた時期について理解している	34.9	2.4	75	55
	(5)記号	南北朝の対立と室町幕府の成立の背景を読み取り、足利尊氏を選ぶことができる	61.6	2.3	70	50
	(5)B	南北朝の対立と室町幕府の成立の背景を読み取り、資料から後醍醐天皇を選ぶことができる	32.3	9.4	70	50
6	(1)	鎌倉時代の仏教文化について理解している	30.2	2.2	70	50
	(2)①	書院造について理解している	55.2	21.1	75	55
	(2)②	現代の日本風の住宅のつくり引き継がれている書院造の特徴について理解している	79.0	7.5	70	50
	(3)	資料から、室町時代の文化の特徴について考え、適切な資料を選ぶことができる	42.8	3.0	70	50
	(4)	惣(惣村)の仕組みについて理解している	28.6	32.9	70	50
(5)	資料を基に、室町時代の産業や経済の発達と、交通路の発達との関係を説明することができる	36.4	29.3	55	35	



中3社会 設問ごと正答率						
大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)	温帯の特徴について理解している	80.4	0.2	75	55
	(2)①②	環太平洋造山帯の特徴について理解している	60.4	2.2	70	50
	(3)①	日本の気候の特徴(北海道の気候)について理解している	88.7	0.5	70	50
	(3)②	日本の気候の特徴(太平洋側の気候)について理解している	34.4	0.6	70	50
	(4)	資料から、北半球と南半球では季節が逆になっていることを読み取ることができる	22.1	19.0	60	40
	(5)	人々が、自然環境などの条件に対応した衣服や住居を工夫していることについて考えることができる	70.8	8.1	55	35
2	(1)	資料から、日本で使われている石油の、おもな輸入先となっている地域を読み取ることができる	14.8	6.8	75	55
	(2)	日本で使われている石油の、おもな輸入先となっている国を理解している	93.4	0.5	75	55
	(3)	資料から、火力発電が日本の総発電量に占める割合が高いことを読み取ることができる	71.2	2.0	75	55
	(4)	資料を基に、風力発電の普及に関する課題について考えることができる	56.1	19.9	60	40
3	(1)	資料から、日本の第3次産業の特徴について読み取ることができる	54.0	0.9	75	55
	(2)	資料を基に、第3次産業の発達に伴っておきた、地域が抱える問題について説明することができる	48.9	23.1	65	45
	(3)	資料を基に、地域の気候の利点を生かした農家の工夫について説明することができる	27.3	22.6	60	40
4	(1)	豊臣秀吉が行った検地・刀狩などにより、兵農分離がすすんだことについて理解している	29.6	29.2	70	50
	(2)	島原・天草一揆について理解している	56.5	8.1	70	50
	(3)	資料を基に、江戸幕府がオランダとの貿易を出島に限った理由について考えることができる	17.9	26.1	60	40
	(4)	江戸時代に朝鮮との窓口となっていた対馬藩を理解している	50.6	1.5	75	55
	(5)	資料を基に、大阪が「天下の台所」とよばれ、経済の中心として繁栄した理由について説明することができる	35.5	17.5	55	35
5	(1)	江戸時代の享保の改革、天保の改革、寛政の改革を行った人物を理解している	53.5	1.0	70	50
	(2)	天保の改革の内容について理解している	31.9	1.4	70	50
	(3)	尊皇攘夷について理解している	24.8	28.6	70	50
6	(1)	明治時代初めの様々な改革について理解している	33.2	1.5	75	55
	(2)	地租改正で発行された地券を理解している	42.2	27.0	70	50
	(3)	板垣退助が結成した自由党について理解している	58.9	1.3	70	50
	(4)	大隈重信について理解している	86.4	1.2	75	55
	(5)①	三国干渉について理解している	39.8	38.3	70	50
	(5)②	地図上で遼東半島の場所を示すことができる	59.5	2.7	70	50

中学2年生は「おおむね達成」の基準を下回り、中学3年生は「おおむね達成」の基準を上回った。

(イ) 評価の観点別正答率

① 中学2年生

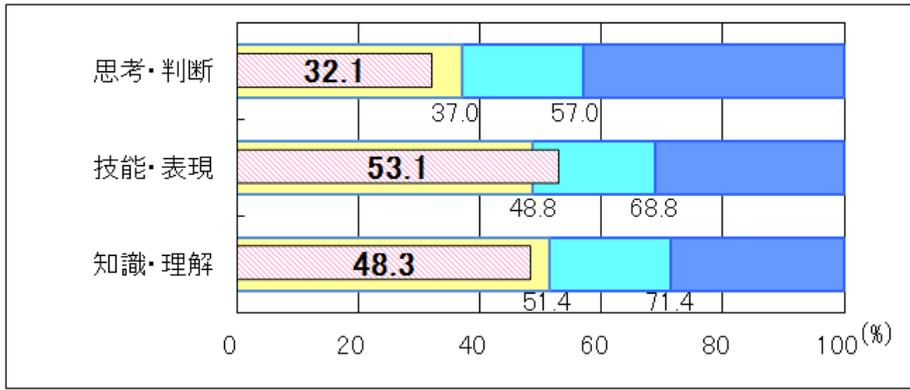


図1 H24年度(中学2年生社会)評価の観点別正答率

「技能・表現」は「おおむね達成」の基準を4.3ポイント上回ったが、「思考・判断」と「知識・理解」は「おおむね達成」の基準を下回った。「思考・判断」については、資料を読み取り、読み取った情報を基に、その解釈を書いたり、理由を説明したりする設問であったが、他の観点の設問と異なり、文章記述で解答する形式の設問であったことが、正答率が低かった要因として考えられる。

② 中学3年生

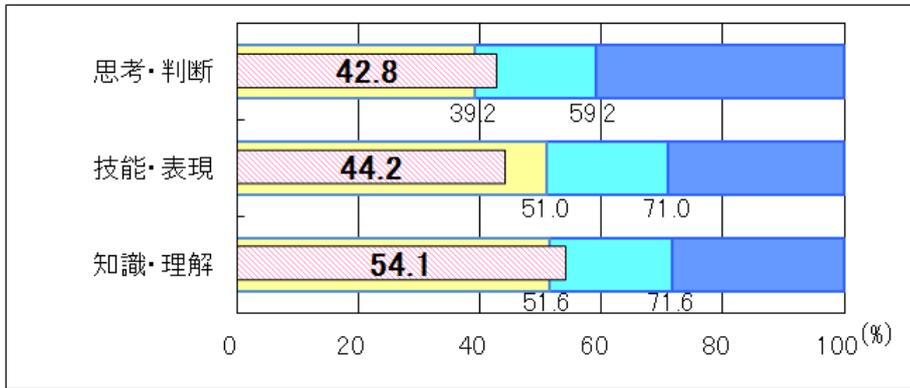


図2 H24年度(中学3年生社会)評価の観点別正答率

「思考・判断」と「知識・理解」は「おおむね達成」の基準を上回ったが、「技能・表現」は「おおむね達成」の基準を6.8ポイント下回った。提示された資料に示してある情報を読み取り、説明する問題に課題が見られた。これは、問われている事柄に関係する箇所を資料からの確に読み取ることと、その読み取った内容を基に説明することに課題があったと考えられる。

(ウ) 内容・領域別正答率

①中学2年生

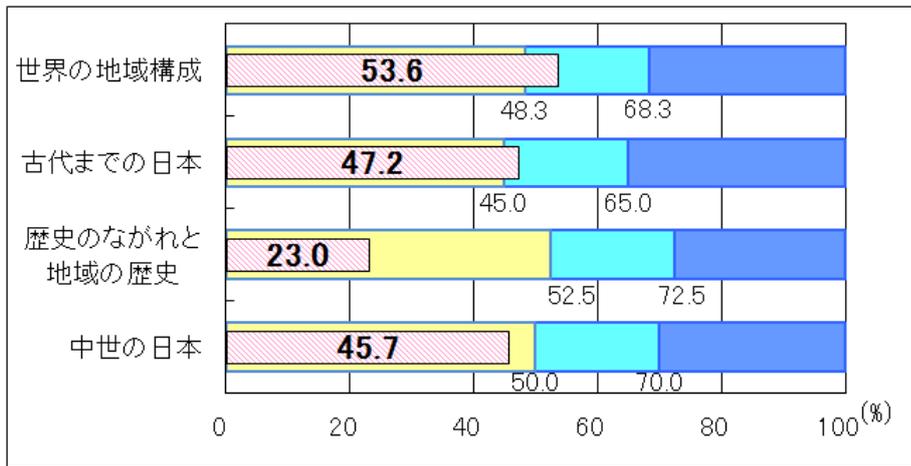


図3 H24年度(中学2年生社会)内容・領域別正答率

地理的分野の「世界の地域構成」は「おおむね達成」の基準を5.3ポイント上回った。特に地球儀や地図を活用した問題では「おおむね達成」の基準を上回っている。歴史的分野では、「古代までの日本」は「おおむね達成」の基準を2.2ポイント上回ったが、時代の特色や転換の様子について考える問題においては、課題が見られた。「歴史のながれと地域の歴史」「中世の日本」では、「おおむね達成」の基準を下回った。「歴史の流れと地域の歴史」では、歴史の流れをつかむ基本となる時代区分や時代の表し方についての理解や定着が不十分だったと思われる。「中世の日本」については、鎌倉時代と室町時代の歴史的事象についての理解や定着に課題が見られた。

②中学3年生

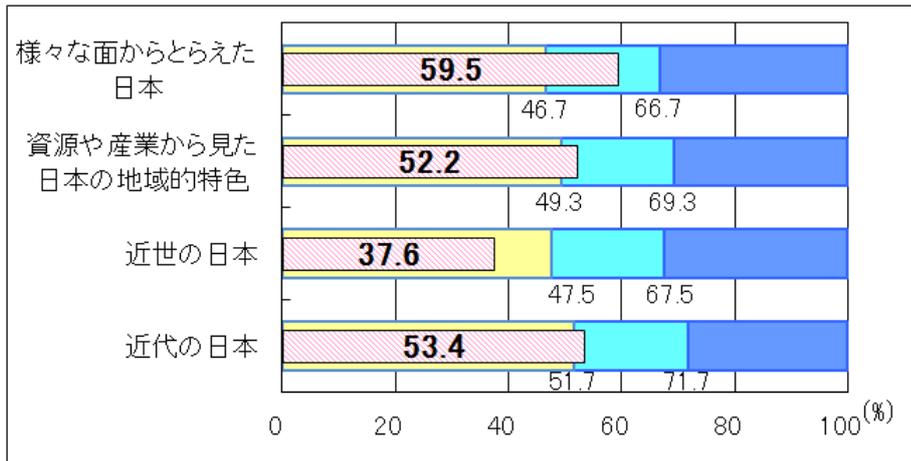


図4 H24年度(中学3年生社会)内容・領域別正答率

地理的分野はそれぞれの内容・領域で「おおむね達成」の基準を上回った。歴史的分野の「近代の日本」では「おおむね達成」の基準を1.7ポイント上回った。明治維新に携わった人物については学習内容の定着が見られる。「近世の日本」では「おおむね達成」の基準を9.9ポイント下回った。「近世の日本」については、年表に記してある江戸中期から幕末までの「知識・理解」を問う設問において、享保の改革・寛政の改革・天保の改革の中心人物や改革の内容についての理解や、幕末の動乱期についての理解が不十分だったために、正答率が低かったと思われる。

イ 経年比較

(凡例)  : 要努力(おおむね達成の基準を下回る)  : おおむね達成  : 十分達成

中学2年生については、中学1年生時の調査が小学6年生の内容であることから、同一生徒の学習内容の変容を経年比較することはむずかしい。そこで中学2年生においては、平成23年度と平成24年度の同一学年のみの経年比較により分析をする。

中学3年生では、中学校における社会科の学習内容の定着状況と各観点別の学習状況を継続的に把握し、分析するために、平成23年度と平成24年度の同一生徒の経年比較による分析をする。

中学2年生では「思考・判断」の正答率は、「おおむね達成」の到達基準37.0と比べると低かった。中学3年生では「技能・表現」の正答率は、「おおむね達成」の到達基準51.0と比べると低かった。そこで(ア)では中学2年生で正答率が低かった「思考・判断」の観点について、(イ)では中学3年生の正答率が低かった「技能・表現」の観点について分析していくこととする。また、2年生において、正答率が低かった「歴史的分野」の「思考・判断」についてもそれぞれ分析していくこととする。

(ア) 中学2年生の「思考・判断」についての経年比較(同一学年)

① 評価の観点別正答率

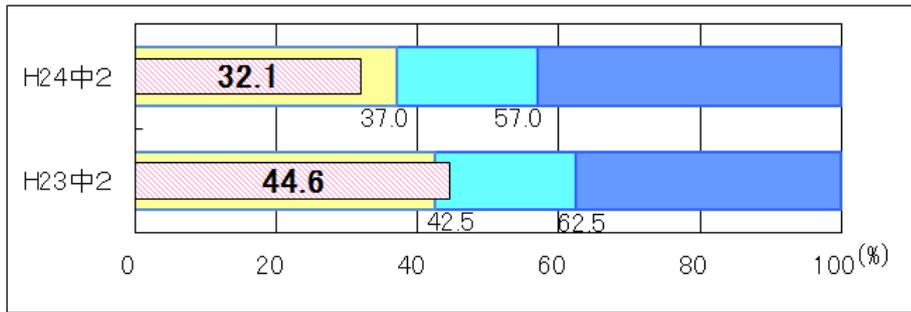


図5 H23・H24年度(中学2年生社会)「思考・判断」の正答率の経年比較

平成23年度の調査結果との比較では、平成24年度の正答率が平成23年度の正答率を12.5ポイント下回った。また、「おおむね達成」の基準値に違いはあるが、平成23年度は「おおむね達成」の基準値を2.1ポイント上回り、平成24年度の調査では「おおむね達成」の基準を4.9ポイント下回っている。平成24年度は前年度に比べて、内容に関する資料が多くなり、その中から読み取った事柄をそれぞれ関連付けて考えることを求める設問が増え、なおかつ文章記述の形式で解答する設問が多かったことが、平成23年度よりも正答率が下回った原因ではないかと考えられる。

次に、内容・領域別正答率の低かった「歴史的分野」の「思考・判断」の正答率について経年比較を行う。

② 「歴史的分野」の「思考・判断」についての経年比較

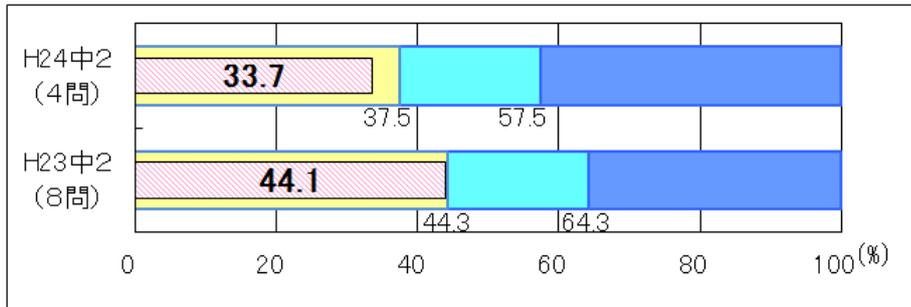


図6 H23・H24年度(中学2年生社会)「歴史的分野」の「思考・判断」の正答率の経年比較

平成23年度、平成24年度ともに「おおむね達成」の基準を下回っている。中学2年生では、ここ数年、「歴史的分野」について特に「思考・判断」の観点について正答率が伸び悩んでおり、その中でも時代の特色や流れを、既習の知識や資料を読み取った情報を基に、説明する設問に課題が見られた。

③問題形式別正答率

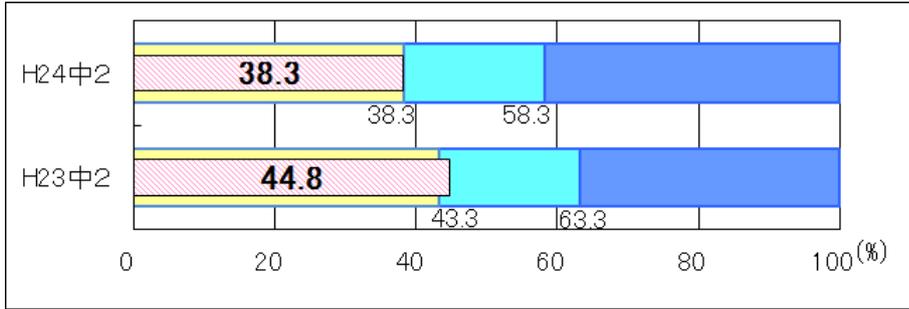


図7 H23・H24年度(中学2年生社会)の「記述式」の正答率の経年変化

中学2年生において、記述式の正答率は、平成23年度は「おおむね達成」の基準を1.5ポイント上回ったが、平成24年度は「おおむね達成」の基準と等しく38.3ポイントであった。正答率を平成23年度と比較すると、6.3ポイント下回った。文章記述で解答する形式において、考察したことや解釈したことを自分の言葉で記述する力に課題があると思われる。

図5、図6、図7より、中学2年生では、既習の知識や資料から読み取った情報を基に考察した上で、判断する「思考・判断」の観点や、「歴史的分野」の内容・領域において、自分の考えや解釈を文章記述で解答する設問形式について、課題が見られる傾向が、ここ数年続いている。

(イ) 中学3年生の「技能・表現」についての経年比較(同一生徒)

①評価の観点別正答率

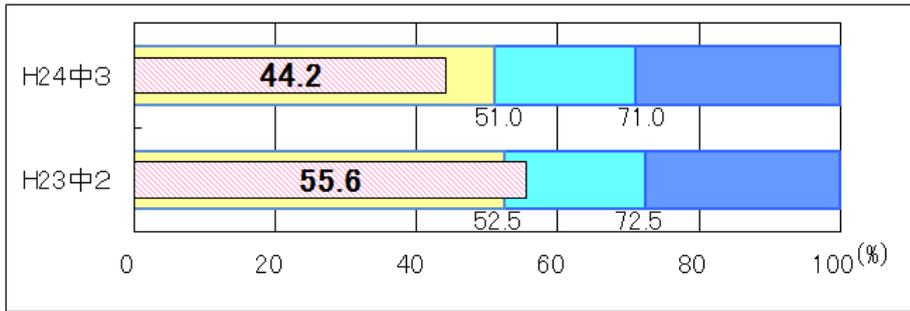


図9 H23年度(中学2年生社会)、H24年度(中学3年生社会)「技能・表現」の正答率の経年比較

②評価観点別到達度分布正答率

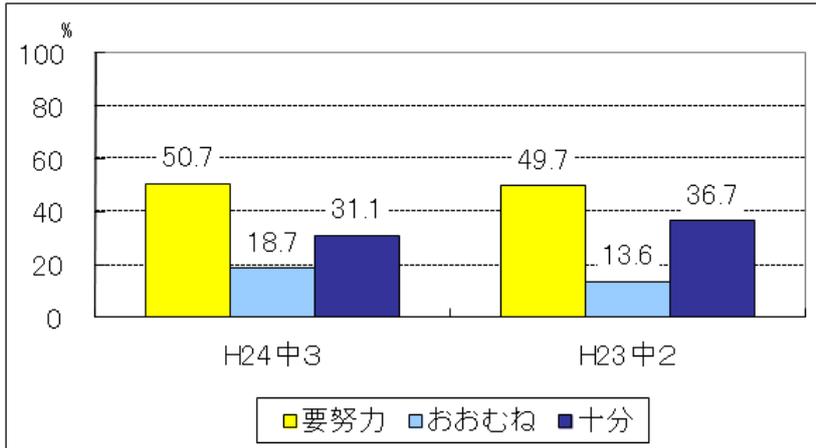


図10 H23年度(中学2年生社会)、H24年度(中学3年生社会)「技能・表現」の評価観点別到達度分布の正答率の経年比較

正答率について平成23年度の調査結果と比較すると、図9から平成24年度の正答率が11.4ポイント下回っている。平成23年度は「おおむね達成」の基準を3.1ポイント上回ったことに対して、平成24年度は「おおむね達成」の基準を6.8ポイント下回る結果となった。また、図10から、平成23年度は「十分達成」の割合が36.7ポイントである一方で、「要努力」の割合が49.7ポイントであった。平成24年度においても、23年度と同様の状況が見られる。特にグラフなどの資料から変化の様子を数量的に捉えたり、複数の資料を比較して違いや変容の様子を説明する設問に課題が見られた。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導法改善の手立て

上記の「ア結果の概要」と「イ経年比較」から、中学2年生では「歴史的分野」の内容・領域において、「思考・判断」の観点に課題が見られた。また問題形式別では「記述式」で答える問題。中学3年生では「技能・表現」の観点に課題があることが分かった。そこで、中学2年生については「歴史的事象の意味や意義を、既習の知識や資料を基に解釈し、説明する問題」について、中学3年生は「社会的事象の意味や特色を、資料から読み取る問題」について分析することとする。

傾向1 **歴史的事象の意味や意義を、既習の知識や資料を基に解釈し、説明することに課題がある。**

[中学2年生 大問4(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4(3)	資料を基に、弥生時代から古墳時代にかけての国の統一の様子を考え、説明することができる (記述式)	古墳の分布を示した地図と倭王武の手紙から大和政権の勢力拡大の様子を読み取り、説明する。	22.4	30.3	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率は22.4であり、17.6ポイント下回った。この問題は古墳の分布を示した地図と倭王武の手紙から大和政権の勢力拡大の様子を説明する問題である。

古墳が古代の権力者の墓であり、権力の大きさは大きさや数、分布によって示されることを学習している。この問題では「倭王武の手紙」から大和政権が徐々に他の国を支配下に置いていったことや、古墳の分布図から、大和地方を中心に勢力範囲が広がっていったことを捉えられなかったことや、それらを関連付けて解釈できなかったことが理由として考えられる。

○ 指導改善の手立て

古墳や古墳の埋葬品から、古墳が何かをとらえさせる。その上で「古墳はどのように分布しているだろうか?」、「倭王武はどのように周辺の国を支配していったか?」をテーマに資料から調べさせ、大和政権の勢力の広がりについてまとめさせることで、弥生時代から古墳時代の国の統一の様子が捉えやすくなるものと思われる。

[中学2年生 大問4(5)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4(5)	資料を基に、平安時代に国風文化が栄えた理由を説明することができる (記述式)	隋・唐と日本の交流の様子を示した年表と菅原道真の意見から、国風文化が栄えていった理由を説明する。	27.8	31.1	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率は27.8であり、12.2ポイント下回った。この問題や平安時代に国風文化が栄えた理由を、隋・唐と日本の交流の様子を示した年表と菅原道真の意見から説明する問題である。古代からの東アジアと日本との文化的な交流は、日本の発展に大きく影響をもたらしていることを学習している。この問題では、遣唐使の廃止を年表から捉えられなかったことや、菅原道真の手紙から遣唐使が廃止に至った理由を関連付けることができなかったことが理由として考えられる。

○ 指導改善の手立て

国風文化が栄えたことは、我が国の文化史の大きな転換期になった。そこで、平安時代前後の文化遺産を比較させることにより、国風文化の特色を捉えさせる。まず菅原道真の手紙やこの時代の年表から、唐が衰退していることや、遣唐使が廃止になったことを読み取らせ、次に二つの事象を関連付けさせることで、国風文化が栄えた歴史的背景を捉えさせることができる。

傾向2 **社会的事象の意味や特色を、資料から読み取ることに課題がある。**

[中学3年生 大問1(4)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問1(4)	資料から、北半球と南半球では季節が逆になっていることを読み取ることができる (記述式)	同じ温帯でも年間の気温や降水量の様子に違いが見られるの理由をグラフから読み取り説明する。	22.1	19.0	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率は22.1であり、17.9ポイント下回った。この問題はグラフを比較することにより、北半球と南半球の季節が逆になることを読み取る問題である。グラフから、月ごとの降水量や平均気温の変化について、比較することによって、その違いを的確に捉えることができなかったと思われる。

○ 指導改善の手立て

世界各地の気候は、気温や降水量、その他の自然条件などにより分類される。雨温図を活用すると、世界各地の気候の特色を捉えやすくなり、分類も容易になる。その上で効果的なのは、グラフから読み取ったことを説明することである。さらに人々の生活と関連付けたり、他の気候区との違いを説明したりすることで、さらに理解が深まるとと思われる。

[中学3年生 大問2(1)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問2(1)	資料から、日本で使われている石油の、おもな輸入先となっている地域を読み取ることができる (選択式)	日本の石油輸入国を資料から読み取り、地域名で解答する。	14.8	6.8	75.0	55.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率55.0に対して、正答率は14.8であり、40.2ポイント下回った。この問題は花子さんが資源やエネルギーについて学習したことをまとめた「エネルギー新聞」の資料「石油の主な生産地域と移動の様子」から、日本の石油輸入先となっている地域を読み取る問題である。石油の移動の方向と量を矢印の向きや太さで示してあることが、読み取れなかったためであると思われる。

○ 指導改善の手立て

日本は石油をはじめとする地下資源のほとんどを輸入に頼っているエネルギー消費大国である。その地下資源をどこから、どのように供給しているかを理解させる方法として、資料のような統計地図を用いることが考えられる。その際には、「地下資源をもたない日本が、大量の地下資源をどのように供給しているか？」など、学習課題を設定した上で、資料を提示し、何について示されているかを捉えさせ、読解のポイントを明確にすることで、より着実な資料の読み取りができると考えられる。また、読み取ったことをグループ内で発表させ、共有することで、より理解が深まるものと思われる。

エ これからの指導に向けて

本調査では、「社会的な思考・判断に関する問題」と「資料活用の技能・表現に関する問題」について課題があることが分かった。社会科学習では、様々な資料を適切に収集し、活用して事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てることを目標としている。また、生徒の思考・判断の過程や成果を、自分で書き記したり、他者に伝えたりするための表現力が求められている。この思考力・判断力・表現力を育むという観点から、言語活動を充実することが求められている。そこで、(ア)思考力・判断力・表現力を育む活動、(イ)言語活動の充実、(ウ)資料活用の技能の習得について取り組んでいくことが必要と考える。

(ア)思考力・判断力・表現力を育む活動

思考力・判断力・表現力は、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、レポートの作成や論述といった知識・技能を活用する学習活動を充実させることで育まれると考えられる。また言語活動の充実を図る観点から、考察や判断の過程や成果は、レポートにまとめさせたり、自分の意見として他者に伝えさせたりする活動を取り入れることも必要である。また、思考力・判断力・表現力を育む活動については、各分野の特質に応じて、工夫や改善を図ることも必要がある。以下はその一例である。

- ① 地理的分野の「世界各地の人々の生活と環境」の学習では、気温図を用いて、気候の特色を捉えさせ、そこで生活する人々の様子や特色について考察させる活動を通して、人々の生活と環境との関連を理解できるようにする。
- ② 歴史的分野の「中世の日本」の学習では、古代から中世への転換の様子を、古代の天皇や貴族の政治との違いに着目して考察させる学習を通して、武家政治の特色について理解できるようにする。
- ③ 公民的分野の「国民の生活と政府の役割」では、統計資料や新聞の記事などを用いることから、租税の意義や税制度のあり方について考えさせる学習を通して、租税の意義と役割について理解できるようにする。

以上のような学習活動において、明確な評価規準や判定基準の基に、定期的に評価・確認し、生徒の形成的評価に結びつけることで、思考力・判断力・表現力を育成できるものと思われる。

(イ)言語活動の充実

学習指導要領には「生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること」として、言語活動の重要性について述べてある。社会科における言語活動は、各分野の特性によって様々であるが、活動内容の特性から「自分の考えを書く活動」と、「発表や話し合いなどの活動」に分けられる。以下はその一例である。

- ① 地理的分野の「身近な地域の調査」では、自分が住んでいる地域の特色を捉えさせるために、地形図の読図や調査結果の内容を地形図に書き込む学習に取り組ませる。
- ② 歴史的分野の各単元のまとめとして、その時代を大観させたり、時代の変換の様子を捉えさせる学習において、学習した内容を活用して、自分の言葉で記述したものを発表したりする学習に取り組ませる。
- ③ 公民的分野の「民主主義と民主政治」では、民主主義についての学習で習得した知識を生かして、民主主義の課題について考えたことをまとめて説明したり、論述や議論などを通して、考えを深めさせたりする。

また、言語活動をより充実させるための工夫点として、作成したレポートの発表会や、討論学習後に再考察した自分の考えをまとめるなど、「自分の考えを書く活動」と「発表や話し合いなどの活動」の関連を図った指導を仕組むことが考えられる。

(ウ)資料活用の技能の習得

資料活用の技能を習得することで、資料を適切に収集、選択、処理、活用できるようになる。さらに得られた情報を比較したり、関連付けたりすることにより、社会的事象について、様々な角度や立場から考察したことを基に、公正に判断をする能力や、資料に基づいて考察しようとする態度が養われるものと思われる。資料活用の技能を高めるためには、学習過程において、資料活用の場を設定し、資料を読み取るねらいや着目するポイントを明確した上で、学習活動に取り組ませる指導が求められる。資料活用の技能は「見つけ・選ぶ力」「読み取る力」「生かす力」が考えられ、学習活動の中で習得させなければならない。以下はその一例である。

- ① 「見つけ・選ぶ力」…教科書や地図帳、インターネットを活用して課題解決に適切な資料を見つけることができる。
- ② 「読み取る力」…グラフの変化の様子や地形図の土地利用の変化、写真から有用な情報を読み取るができる。
- ③ 「生かす力」…読み取った情報を基に、自分の考えをまとめてレポートにしたり、コンピュータを活用してプレゼンテーション資料を作成したり、討論の根拠として発表したりすることができる。

資料活用の技能の習得に関しては、初期の段階では、情報収集の手段や、読み取る技能の習得を目標として学習活動を設定する必要がある。個々の技能の定着や活用の状況を把握しながら、最終的には学習課題の内容にあった資料を的確に選択し、課題解決に有用な情報を適切に収集し、活用することができるように系統立てて指導することが必要である。

オ 授業実践に参考となるリンク



## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ>Ⅲ 各教科の調査結果の分析>中学校数学

### Ⅲ 各教科の調査結果の分析

※ 中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

#### 中学校数学

**知識・技能の習得を図り、数学的な思考力・判断力・表現力を育むために**

教科正答率においては、中学3年生の主として「知識」に関する問題(以下、A問題)と主として「活用」に関する問題(以下、B問題)は共に「おおむね達成」の基準を上回ったが、中学2年生は「おおむね達成」の基準を下回った。内容・領域別に見ると、2年生の「図形」「関数」「資料の活用」、3年生の「数量関係」が「おおむね達成」の基準を下回った。評価の観点別に見ると、「数学的な表現・処理」については、中学3年生は「おおむね達成」の基準を上回ったが、中学2年生は「おおむね達成」の基準を下回った。「数学的な見方や考え方」については、中学2年生、中学3年生共に「おおむね達成」の基準を下回った。設問ごとに見ると、中学2年生、中学3年生共に「数学的な見方や考え方」の「与えられた情報を読み取り、成り立つ事柄や問題解決方法を説明すること」に課題が見られた。今後の指導の当たっては、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせ、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育むために、数学的活動を位置付けた指導を一層充実させる必要がある。

この後、評価の観点については、以下のように記す。

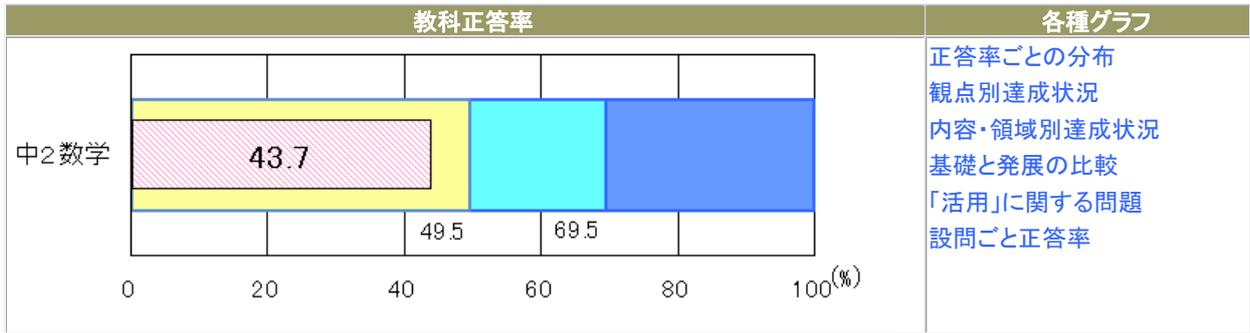
- |                    |   |           |
|--------------------|---|-----------|
| ○数学への関心・意欲・態度      | → | 本調査では設定なし |
| ○数学的な見方や考え方        | → | 「見方や考え方」  |
| ○数学的な表現・処理         | → | 「表現・処理」   |
| ○数量、図形などについての知識・理解 | → | 「知識・理解」   |

ア 結果の概要

各学年ごとに教科全体の正答率について到達基準との比較を示す。

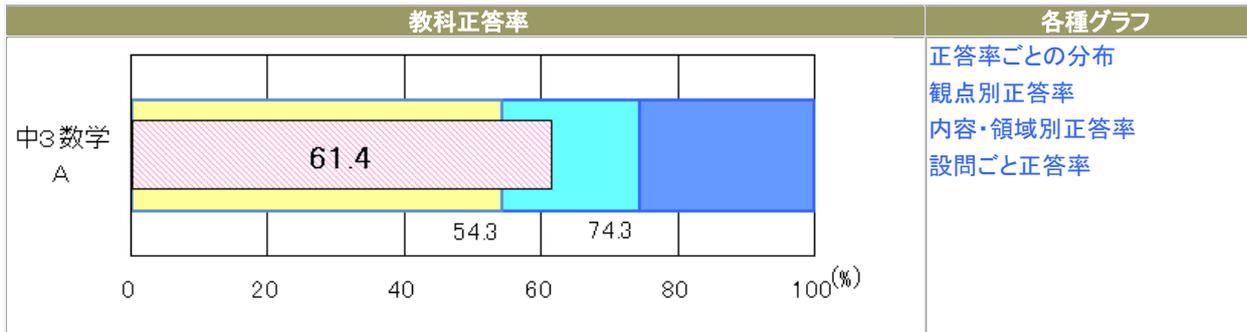
(凡例) :要努力(おおむね達成の基準を下回る) :おおむね達成 :十分達成

(ア) 教科及び設問ごと正答率

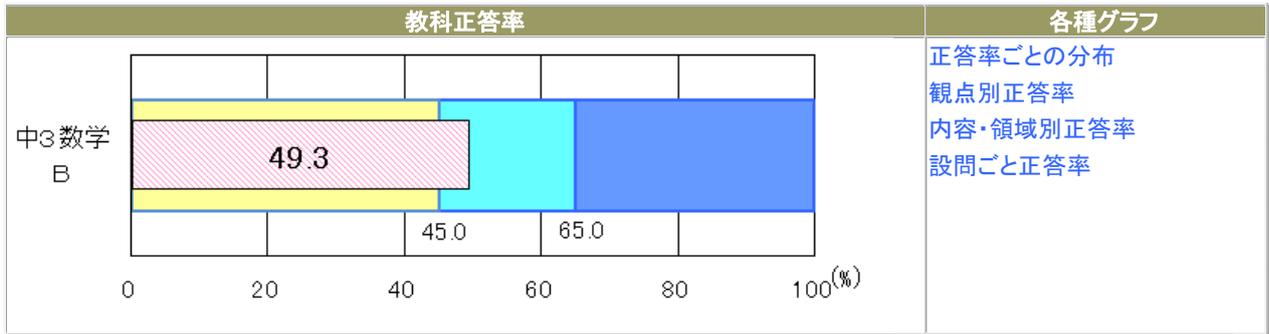


中2数学 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)	正の数・負の数の加減の計算をすることができる	91.3	0.5	75	55
	(2)	指数を含んだ正の数・負の数の四則計算をすることができる	67.5	1.6	70	50
	(3)	分配法則を使って文字を用いた式の計算をすることができる	57.8	5.5	70	50
2	(1)	絶対値について理解している	56.0	6.7	75	55
	(2)	文字を用いた式に数を代入して式の値を求めることができる	62.6	6.2	75	55
	(3)①	一元一次方程式を解くことができる	78.8	4.5	75	55
	(3)②	分数を含む一元一次方程式を解くことができる	37.3	20.0	70	50
	(3)③	比例式を解くことができる	82.2	7.6	70	50
3	(1)	2通りに表される数量を見いだし、等式に表すことができる	30.3	12.1	65	45
	(2)	文字を用いた不等式から、数量の大小関係を読み取り、説明することができる	22.1	20.2	60	40
4		与えられた情報を的確に読み取り、正しい方程式に表すことができる	6.1	14.0	60	40
5	(1)	扇形の面積を求めることができる	23.9	17.2	70	50
	(2)	垂線の作図の方法を用いて、三角形の高さを作図することができる	29.8	21.3	65	45
	(3)①	対称移動について理解している	68.4	4.6	75	55
	(3)②	平行移動について理解している	71.7	4.9	75	55
6	(1)	球の表面積を求めることができる	18.9	24.4	75	55
	(2)	球の体積を求めることができる	16.0	29.0	75	55
	(3)	空間図形における直線や平面の位置関係について理解している	72.8	2.8	70	50
7		点が動いたあとの長さを的確に捉え、扇形の弧の長さの求め方を利用して求めることができる	5.4	21.8	55	35
8		錐体及び柱体の体積の求め方を利用して、問題解決の方法について説明することができる	15.0	46.4	60	40
9	(1)	比例の関係をグラフに表すことができる	66.4	9.3	75	55
	(2)	比例の関係について理解している	40.3	2.7	65	45
	(3)	反比例のグラフから、 $x$ と $y$ の関係を読み取り、式に表すことができる	62.8	3.3	75	55
	(4)	反比例のグラフ上にある点の座標について理解している	29.3	30.9	70	50
10	(1)	与えられた情報から、 $x$ と $y$ の関係が反比例であることとその関係を表す式を考えることができる	37.9	11.3	65	45
	(2)	与えられた情報を基に、 $x$ と $y$ の関係が比例であることを説明することができる	20.8	48.5	60	40
11	(1)	度数分布表について理解している	75.4	3.5	75	55
	(2)	相対度数を求めることができる	21.9	22.5	70	50
12	(1)	中央値について理解している	36.2	12.7	75	55
	(2)	最頻値について理解している	45.6	14.8	75	55
13		与えられた数値を有効数字で表すことができる	5.6	16.2	65	45



大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分達成	期待正答率 おおむね達成
1	(1)	8と12の最小公倍数を求める	69.8	2.4	75	55
	(2)	$6 - (-7)$ を計算する	92.7	0.6	75	55
	(3)	数直線上の点が表す負の整数の値を読み取る	65.6	1	75	55
	(4)	天気予報の情報から、ある市の最高気温と最低気温の差を求める	76.4	1.5	75	55
2	(1)	$(7x + 5y) - (5x + 2y)$ を計算する	77.2	1.5	75	55
	(2)	$x = 3$ のときの式 $-x^2$ の値を求める	65.9	5.6	75	55
	(3)	整数 $a$ を用いて、式 $2a$ で表すことのできる数を選ぶ	36.3	4	70	50
	(4)	「1個 $a$ 円の品物を2個買った代金は1000円より安い。」という数量の関係を表した式として正しいものを選ぶ	65.3	0.3	75	55
3	(1)	比例式 $6:8 = x:12$ を解く	62.9	4.7	75	55
	(2)	連立方程式 $\begin{cases} a + b = 8 \\ 2a + b = 11 \end{cases}$ を解く	80.8	5.4	75	55
	(3)	一次方程式を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ	77.6	0.3	75	55
	(4)	方程式の解が問題の答えとして適切なものであるかどうかを調べることについて、正しい記述を選ぶ	47.8	0.7	75	55
4	(1)	与えられた方法で作図された直線がもつ性質として、正しい記述を選ぶ	54.6	0.7	75	55
	(2)	三角形を、直線を軸として対称移動した図形をかく	80.9	2.3	75	55
	(3)	中心角 $120^\circ$ の扇形の面積について正しいものを選ぶ	67.6	0.7	75	55
5	(1)	直方体の辺と面上の線分との位置関係について、正しい記述を選ぶ	59.2	0.5	75	55
	(2)	1回転させると円柱ができる平面図形として正しいものを選ぶ	85.2	0.3	75	55
	(3)	三角形の展開図として正しいものを選ぶ	91.9	0.3	75	55
	(4)	正四角錐の体積を求める式として正しいものを選ぶ	56.8	0.6	75	55
6	(1)	三角定規による平行線の作図について、正しい記述を選ぶ	40.4	0.8	75	55
	(2)	$n$ 角形の内角の和を求める式で、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ	45.8	0.6	75	55
	(3)	与えられた三角形と合同な三角形を選ぶ	66.0	0.5	75	55
7		図形に成り立つ性質の逆の事柄を完成する	75.6	6.1	75	55
8		証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについての正しい記述を選ぶ	63.7	0.9	70	50
9	(1)	$y$ が $x$ に比例し、比例定数が3のとき、 $x$ 、 $y$ の値について、正しい記述を選ぶ	49.0	1.1	75	55
	(2)	$y = 2x$ 上の点を選ぶ	46.7	0.9	75	55
10	(1)	反比例の表を完成する	47.9	3	75	55
	(2)	反比例のグラフを選ぶ	51.1	1.2	75	55
11	(1)	$(-1, -4)$ の位置を座標平面上に示す	57.8	4	75	55
	(2)	一次関数のグラフから式を選ぶ	75.5	0.9	75	55
12		一次関数を表した事象を選ぶ	38.1	1.3	70	50
13		二元一次方程式の解を座標とする点について、正しい記述を選ぶ	37.6	1.8	70	50
14	(1)	1枚の硬貨を投げたときの確率について、正しい記述を選ぶ	56.1	1.5	75	55
	(2)	数字の書かれた3枚のカードから2枚のカードをひくとき、両方とも奇数のカードである確率を求める	57.3	6.1	75	55
15	(1)	度数分布表について、正しい記述を選ぶ	47.6	2.6	70	50
	(2)	フリースローでボールの入った回数と人数の関係をまとめた図から、ボールの入った回数の最頻値を求める	39.6	15.6	75	55



中3数学B 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)	ISSの高度を1cmとしたときの、ひまわり7号の高度を選ぶ	61.0	0.4	65	45
	(2)	2つの人工衛星の軌道の長さの差を求める計算から分かることを選び、その理由を説明する	13.4	19.2	60	40
2	(1)	連続する3つの自然数の和が3の倍数になることを説明する	37.6	26.9	60	40
	(2)	連続する3つの偶数の和について成り立つ事柄を表現する	54.5	23.0	65	45
3	(1)	原田選手と船木選手の飛んだ回数を求める	72.7	4.6	75	55
	(2)	次の1回でより遠くへ飛びそうな選手を選び、その理由を説明する	47.9	9.6	60	40
4	(1)	線対称な図形を対称の軸で折り返したとき、対応する点を答える	88.9	4.8	75	55
	(2)	2つの直線が垂直に交わることを、三角形の合同を利用して証明する	44.6	22.3	60	40
	(3)	異なる場合での垂線の作図で、共通して利用されている図形の性質を選ぶ	48.4	1.4	65	45
5	(1)	CDが1.2m、DBが8.3mのときの、木の高さABを求める	69.5	10.3	70	50
	(2)	長さを置き換えてよい根拠となる、長方形の性質を選ぶ	55.0	2.0	65	45
	(3)	AEの長さを求められるようにするための方法を説明する	24.8	41.0	60	40
6	(1)	正十二角形の1つの外角の大きさを求める	74.9	5.6	70	50
	(2)	正多角形の頂点の数と正多角形の1つの外角の大きさの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	21.2	29.6	65	45
	(3)	正多角形の頂点の数と正多角形の1つの外角の大きさの関係がどのような関数であるかを選び、その理由を説明する	25.2	23.7	60	40

中学2年生において、教科正答率は「おおむね達成」の基準を5.8ポイント下回り、出題された全31問中18問が「おおむね達成」の基準を下回った。中学3年生において、「A問題」の教科正答率は「おおむね達成」の基準を7.1ポイント上回り、出題された36問中23問が「おおむね達成」の基準を上回った。「B問題」の教科正答率は「おおむね達成」基準を4.3ポイント上回り、出題された全15問中10問が「おおむね達成」の基準を上回った。

(イ) 評価の観点別正答率

中学2年生

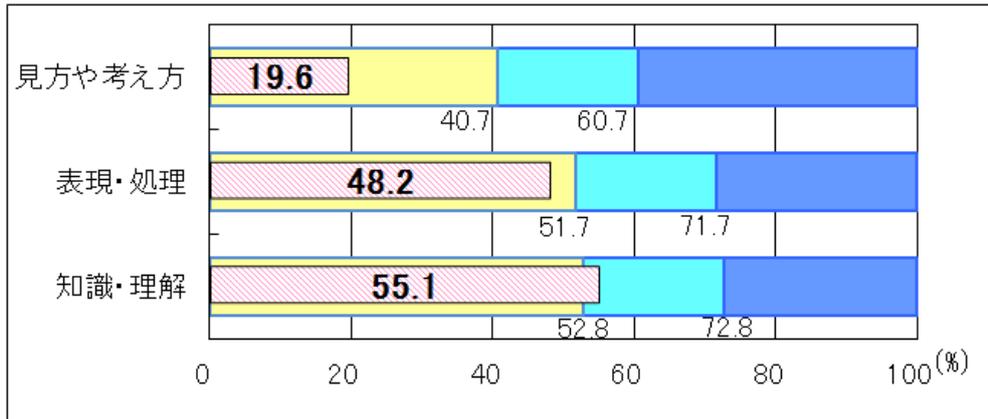


図1 H24年度(中学2年生数学)評価の観点別正答率

「知識・理解」については、「おおむね達成」の基準を2.3ポイント上回る結果となったが、「中央値、最頻値などの用語に関すること」や「グラフ上の座標に関すること」には課題が見られた。「表現・処理」と「見方や考え方」については「おおむね達成」の基準を下回った。「表現・処理」については、「球や扇形に関すること」や「相対度数や有効数字に関すること」の設問の正答率が低かった。「見方や考え方」については、「与えられた情報を的確に読み取り、正しい方程式に表したり、数学的に処理したりすること」や「与えられた情報を基に、比例であることを説明すること」の設問の無解答率が高かった。

中学3年生

①A問題

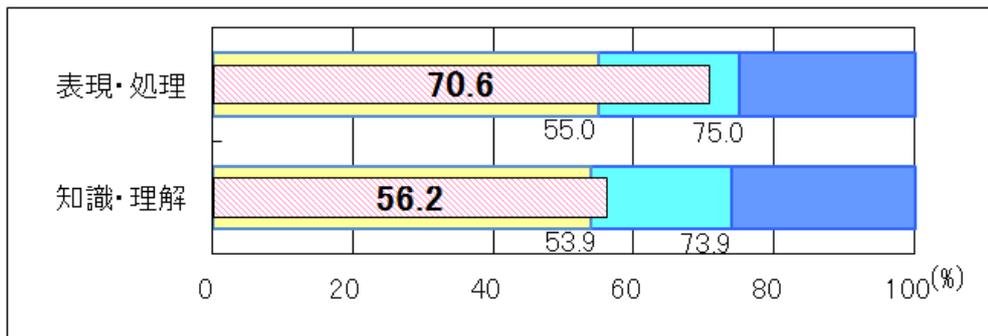


図2 H24年度(中学3年生数学「A問題」)評価の観点別正答率

「表現・処理」と「知識・理解」については共に「おおむね達成」の基準を上回った。しかしながら、「表現・処理」については、「反比例の関係を表す表を完成すること」には課題が見られた。「知識・理解」については、「文字の値が整数のときに、式の値について考察すること」「二元一次方程式の解とグラフの関係に関すること」「2つの数量関係が一次関数になること」などには課題が見られた。

②B問題

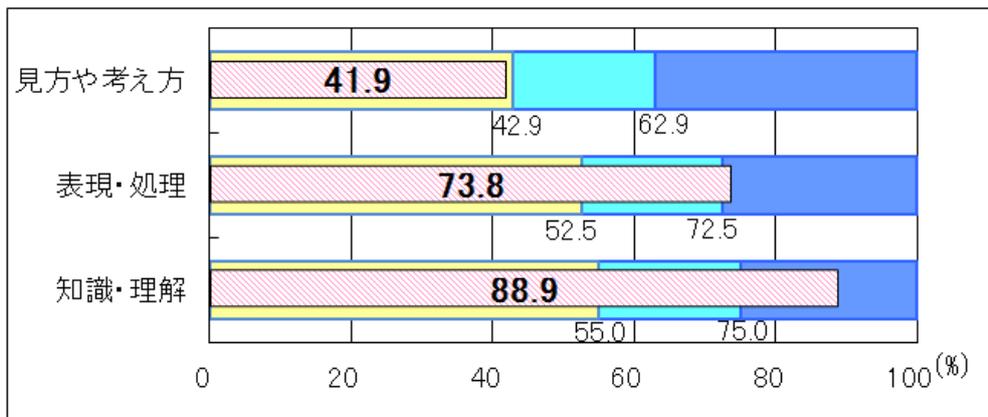


図3 H24年度(中学3年生数学「B問題」)評価の観点別正答率

「表現・処理」と「知識・理解」については共に「十分達成」の基準を上回ったが、「見方や考え方」については、中学2年生と同様に「おおむね達成」の基準を1.0ポイント下回った。「見方や考え方」については、「事柄が成り立つ理由や問題解決の方法について説明すること」や「数量の関係を数学的に解釈し、数学的な表現を用いて説明すること」などの設問の無解答率が高かった。

(ウ) 内容・領域別正答率  
 中学2年生

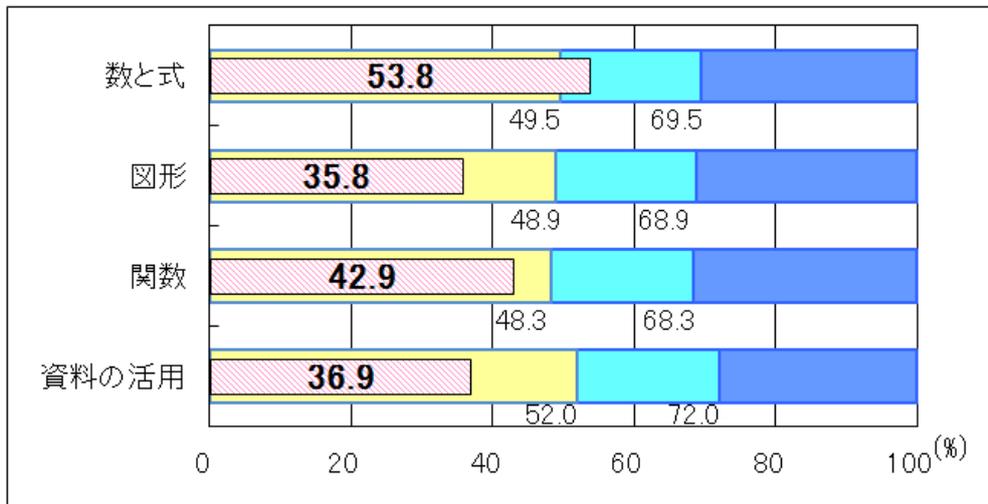


図4 H24年度(中学2年生数学)内容・領域別正答率

「数と式」については、「おおむね達成」の基準を4.3ポイント上回ったが、「正しい方程式に表すこと」「不等式から、数量の大小関係を読み取り、説明すること」には課題が見られた。「図形」については、「扇形の弧の長さの求め方を利用すること」「球に関すること」などの設問の正答率が低かった。「関数」については、「与えられた情報を基に、比例であることを説明すること」「グラフ上の座標に関すること」「与えられた情報から反比例であることとその関係を式に表すこと」に課題が見られた。「資料の活用」については、「有効数字、中央値、最頻値などの用語に関すること」「相対度数を求めること」などの設問の正答率が低かった。

中学3年生

①A問題

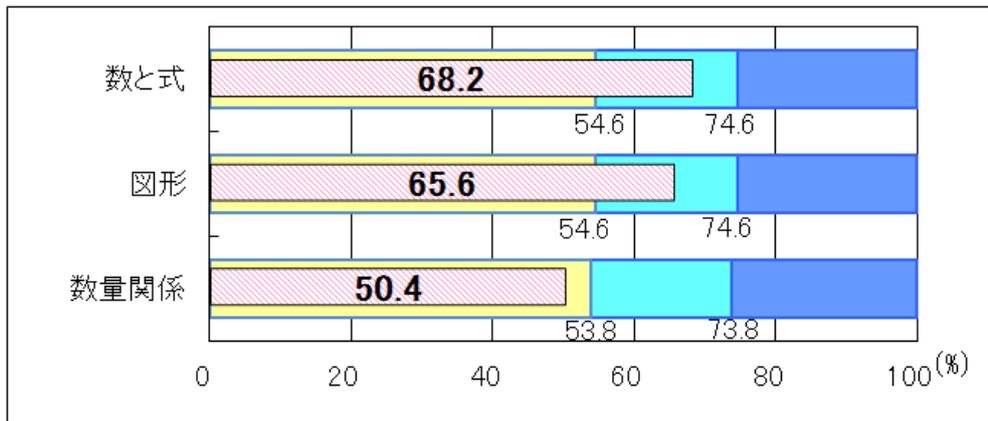


図5 H24年度(中学3年生数学「A問題」)内容・領域別正答率

「数と式」については、「おおむね達成」の基準を3.6ポイント上回ったが、「文字の値が整数のときの式の値についての考察すること」には課題が見られた。「図形」についても「おおむね達成」の基準を9.0ポイント上回ったが、「平行線の作図に関すること」「内角の公式の意味の理解に関すること」には課題が見られた。「数量関係」については、「比例や反比例の表、式、グラフに関すること」「最頻値や度数分布に関すること」などの設問の正答率が低かった。

②B問題

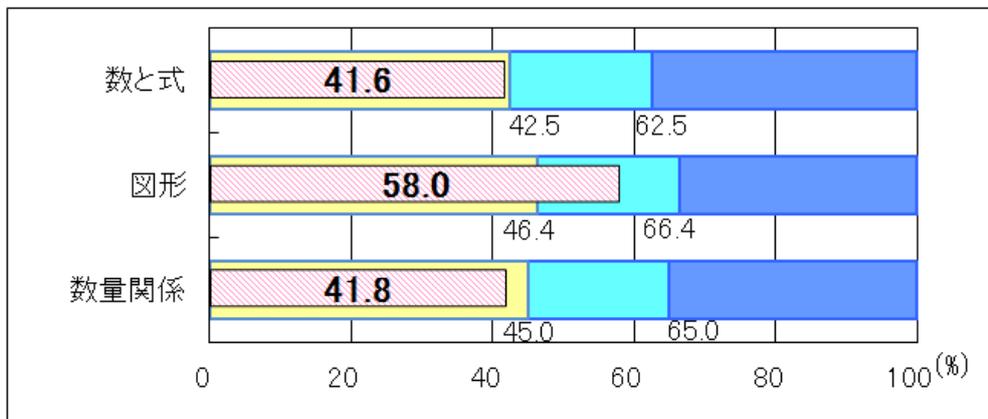


図6 H24年度(中学3年生数学「B問題」)内容・領域別正答率

「数と式」については、「おおむね達成」の基準を0.9ポイント、「数量関係」については3.2ポイント下回り、「数学的な表現を用いて説明すること」「事柄が成り立つ理由を説明すること」「数量の関係を数学的に解釈すること」などの設問の無解答率が高かった。「図形」については、「おおむね達成」の基準を11.6ポイント上回っていたが、「問題解決の方法を数学的に説明すること」に課題が見られた。

イ 経年比較

(凡例) : 要努力(おおむね達成の基準を下回る) : おおむね達成 : 十分達成

中学2年生では、平成23年度の課題であり、「おおむね達成」の基準を下回った「基礎的・基本的な問題」と、「活用」する力を問う問題、「移行に伴い追加された学習内容」についての変容を考察するため、同一学年の経年比較を行った。また、中学3年生では、同一出題主旨で達成基準が等しい「A問題」について考察するため、平成23年度の秋に実施された問題と平成24年度の問題を同一学年で経年比較した。「B問題」については、平成23年度に「おおむね達成」の基準を下回ったものが多かった、記述式を中心に変容を考察するため、また、2年間の学習状況の変容を考察するため、同一生徒の1年生の内容である平成23年度2年生の問題と平成24年度3年生の「A問題」「B問題」の中から1年生の内容を抽出した問題を比較し、評価の観点別正答率にまとめ、考察を行った。

(ア) 「基礎的・基本的な問題」の経年比較(同一学年)

中学2年生

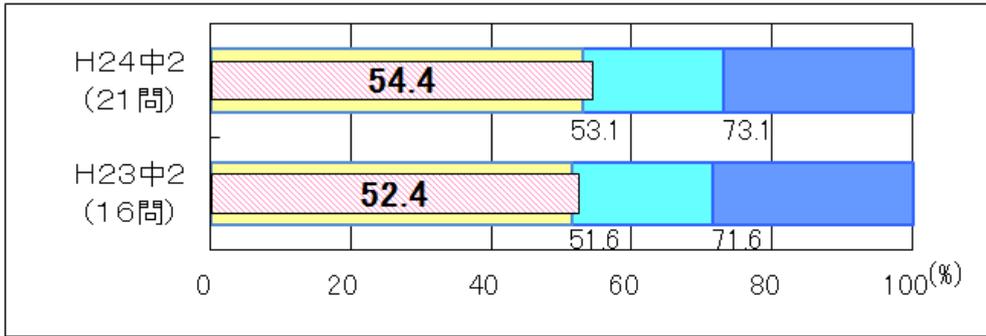


図7 H23・H24年度(中学2年生数学)「基礎的・基本的な問題」の正答率の経年比較

「基礎的・基本的な問題」については、「おおむね達成」の基準が異なるために、単純に比較することはできないが、平成23年度と比べると、正答率は上回る結果となった(図7)。設問別に見ると、「分数を含む一元一次方程式」「球や扇形に関すること」「反比例のグラフの上の座標に関することや比例に関すること」「数学の用語に関すること」に課題が見られた。

また、表1は「数と式」の領域の「基礎的・基本的な問題」(正の数・負の数や文字の式、比例式等、主に計算の技能を必要とする問題)における年度ごとの正答率を表したものである。出題のねらいや「おおむね達成」の基準及び「十分達成」の基準も等しかったため、比較を行った。

表1 H23・24年度(中学2年生数学)「計算の技能を必要とする問題」の正答率の経年比較

主な出題内容	H24正答率	H23正答率	十分達成	おおむね達成
正の数・負の数の計算	91.3	90.4	75.0	55.0
指数を含んだ数の計算	67.5	34.4	70.0	50.0
分配法則を用いた文字式の計算	57.8	58.0	70.0	50.0
比例式を解く	82.2	44.8	70.0	50.0
平均正答率	74.7	56.9	71.3	51.7

4問の平均正答率を比べると、17.8ポイント上回る結果となり、改善が図られてきているが、「分配法則を用いた文字の計算」については、平成23年度より0.2ポイント下回る結果となった。

中学3年生数学A問題

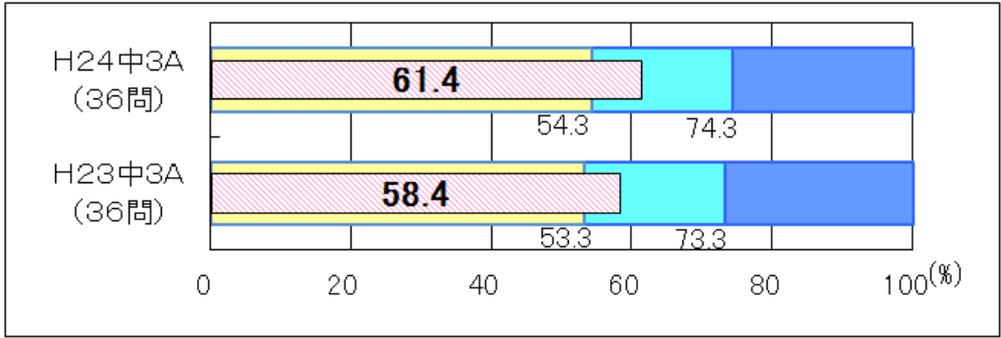


図8 H23・H24年度(中学3年生数学A問題)の正答率の経年比較

「基礎的・基本的な問題」については、「おおむね達成」の基準や「十分達成」の基準が異なるため単純に比較することはできないが、平成23年度と比べると、正答率は上回る結果となった(図8)。設問別に見ると、中学2年生と同様に「数量関係」の「比例と反比例の表、式、グラフに関すること」に課題が見られた。また、「二元一次方程式の解とグラフに関すること」「作図に関すること」「数学の用語に関すること」など、「知識・理解」に関することの習得に課題が見られた。また、表2は、「同一の出題の趣旨」における年度ごとの正答率を比較したものであり、「おおむね達成」の基準及び「十分達成」の基準も等しかったため、比較を行った。

表2 H23・24年度(中学3年生数学A問題)「同一の出題の趣旨」の正答率の経年比較

主な出題内容	H24正答率	H23正答率	十分達成	おおむね達成
整式の加法と減法の計算	77.2	82.8	75.0	55.0
簡単な連立二元一次方程式	80.8	72.3	75.0	55.0
証明の意義	63.7	28.4	70.0	50.0
事象の起こる確率	57.3	52.7	70.0	50.0
平均正答率	69.8	59.1	72.5	53.3

4問の平均正答率を比べると、10.7ポイント上回る結果となり、改善が図られてきているが、「整式の加法と減法の計算」については、平成23年度より5.6ポイント下回る結果となった。

(イ) 「活用」に関する問題の経年比較(同一学年)  
 中学2年生

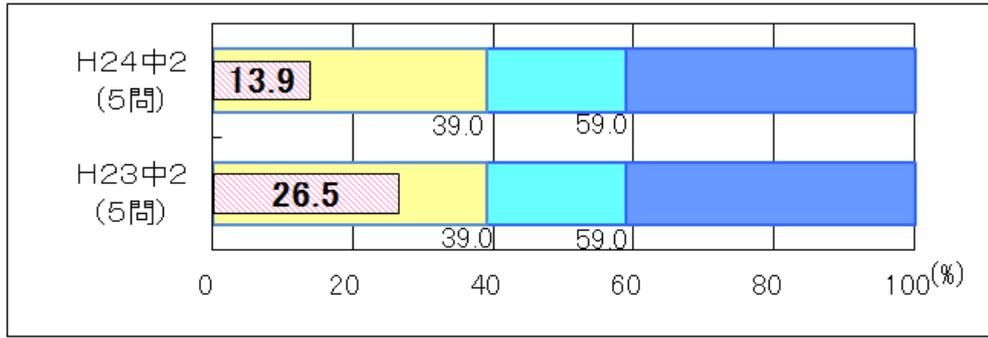


図9 H23・H24年度(中学2年生数学)「活用」に関する問題の正答率の経年比較

「活用」に関する問題については、「おおむね達成」の基準及び「十分達成」の基準も等しかったため、比較を行った。平成23年度と比べると、正答率が12.6ポイント下がり、課題が見られる結果となった(図9)。表3は、与えられた情報を読み取り、数学的な表現を用いて説明するなどの言葉や数を使って説明する問題について比較したものである。また、表4は、数量の関係を見だし、方程式をつくる問題について比較したものである。

表3 H23・H24年度(中学2年生数学)記述式問題の  
 正答率・無解答率の経年比較

	主な出題内容	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
H24	不等式を読み取り、説明する	22.1	20.2	60.0	40.0
	問題解決方法について説明する	15.0	46.4	60.0	40.0
	比例であることを説明する	20.8	48.5	60.0	40.0
	平均正答率	19.3	38.4	60.0	40.0
H23	不等式を読み取り、説明する	54.7	14.0	60.0	40.0
	グラフや式を基に説明する	19.7	39.4	60.0	40.0
	中央値を用いて傾向を説明する	9.7	50.4	55.0	35.0
	平均正答率	28.0	34.6	58.3	38.3

表4 H22・H23・H24年度(中学2年生数学)数量の関係を見だし方程式をつくる問題の  
 正答率・無解答率の経年比較

	出題方法	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
H24	短答式	6.1	14.0	60.0	40.0
H23	短答式	3.7	52.0	55.0	35.0
H22	選択式・短答式	8.7	4.8	55.0	35.0

表3、表4より与えられた情報を読み取り、数学的表現を用いて説明するような記述式の問題と数量関係を見だし、方程式を作る問題については、平成22年度から継続して、全体の正答率が「おおむね達成」の基準を下回り、課題を残す結果となった。

「活用」に関する問題の経年比較(同一学年)  
 中学3年生

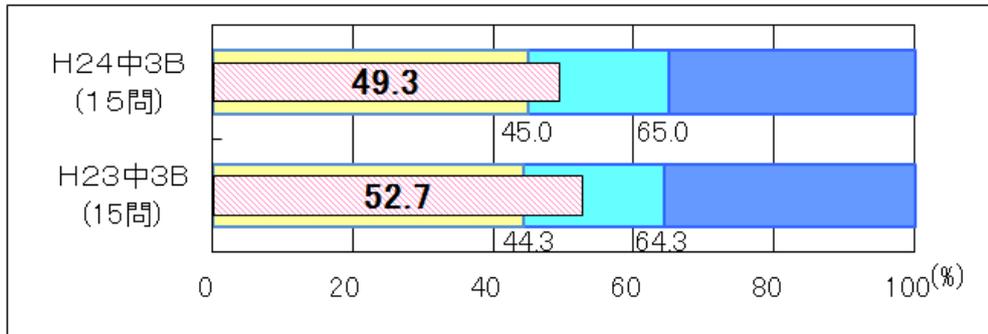


図10 H23・H24年度(中学3年生数学B問題)の正答率の経年比較

B問題については、「おおむね達成」の基準及び「十分達成」の基準が異なるために単純に比べることができない。しかし、平成23年度より「おおむね達成」の基準が上がっているにもかかわらず、正答率が下がる結果となった。表5については、数学的な表現を用いて説明したり、問題解決の方法を説明したりするなどの記述式の問題について比較したものである。

表5 H23・H24年度(中学3年生数学)記述式問題の正答率・無解答率の経年比較

	主な出題内容	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
H24	軌道の長さの差を求める計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明する	13.4	19.2	60.0	40.0
	事柄が成り立つ理由を示された方針に基づいて説明する	37.6	26.9	60.0	40.0
	発展的に考え、予想した事柄を説明する	54.5	23.0	65.0	45.0
	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する	47.9	9.6	60.0	40.0
	筋道を立てて考え、証明する	44.6	22.3	60.0	40.0
	問題解決の方法を数学的に説明する	24.8	41.0	60.0	40.0
	問題解決を振り返って、数量の関係を数学的に解釈し、関係が成り立つ理由を説明する	25.2	23.7	60.0	40.0
	平均正答率	35.4	23.7	60.7	40.7
H23	問題解決の方法を数学的に説明する	56.9	4.4	60.0	40.0
	発展的に考えて説明する	66.0	15.1	60.0	40.0
	事象を数学的に解釈し、成り立つ事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明する	32.5	27.3	60.0	40.0
	与えられた証明を振り返り、類似場面で証明する	50.2	27.6	65.0	45.0
	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する	29.3	31.0	60.0	40.0
	平均正答率	47.0	21.1	61.0	41.0

※太字・網掛けの項目は、正答率が「おおむね達成」の基準を下回った問題

「おおむね達成」の基準と「十分達成」の基準が異なるために単純に比較することはできないが、記述式問題の平均正答率は平成23年度と比較すると、11.6ポイント下がり、無解答率は2.6ポイント上がる結果となった。中学2年生同様に「数学的な表現を用いて説明すること」「理由について説明すること」に関しては平成23年度と引き続き課題を残す結果となった。

(ウ) 「学習指導要領の移行に伴い追加された学習内容に関する問題」の経年比較(同一学年)  
 中学2年生

表6 H23・H24年度(中学2年生数学)学習指導要領の移行に伴い追加された  
 学習内容に関する問題の正答率の経年比較

主な出題内容	問題形式	H24正答率	H23正答率	十分達成	おおむね達成
比例式を解く	短答式	82.2	44.8	70.0	50.0
不等式を読み取り、説明する	記述式	22.1	54.7	60.0	40.0
度数分布表を理解する	短答式	75.4	83.4	75.0	55.0
相対度数を求める	短答式	21.9	20.1	70.0	50.0
有効数字を表す	短答式	5.6	3.7	65.0	45.0
平均正答率		41.4	41.3	68.0	48.0

※太字・網掛けの項目は、平成23年度、平成24年度の正答率が「おおむね達成」の基準を共に下回った問題

表6は、「おおむね達成」及び「十分達成」の基準が等しい問題を取り上げて比較を行った。平均正答率は、平成24年度は41.4、平成23年度は41.3となり、共に「おおむね達成」の基準を下回り、「資料の活用」については、平成23年度に引き続き課題を残す結果となった。

「学習指導要領の移行に伴い追加された学習内容に関する問題」の経年比較(同一学年)  
 中学3年生

表7 H23・H24年度(中学3年生数学)A問題及びB問題についての学習指導要領の  
 移行に伴い追加された学習内容に関する問題の正答率の経年比較

	主な出題内容	問題形式	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
H24 中3 A	相対度数の必要性と意味	選択式	47.6	2.6	70.0	50.0
	資料を整理した図から最頻値を読み取る	短答式	39.6	15.6	75.0	55.0
	平均正答率		43.6	9.1	72.5	52.5
H23 中3 A	関数関係の意味	選択式	29.2	1.3	70.0	50.0
	中央値の意味	選択式	30.1	4.0	70.0	50.0
	目的に応じてヒストグラムから資料の傾向を読み取る	選択式	62.0	4.0	75.0	55.0
	平均正答率		40.4	3.1	71.7	51.7
H24 中3 B	総度数の意味に基づいてヒストグラムから必要な情報を適切に選択する	短答式	72.7	4.6	75.0	55.0
	資料の傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する	記述式	47.9	9.6	60.0	40.0
	図形の性質を数量関係に着目して捉え直し、その特徴を捉え、数学的に表現する	短答式	21.2	29.6	65.0	45.0
	平均正答率		47.3	14.6	66.7	46.7
H23 中3 B	範囲の意味に基づいて表から必要な情報を読み取る	短答式	26.5	12.5	75.0	55.0
	資料の傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する	記述式	29.3	31.0	60.0	40.0
	資料の傾向を的確に捉える	選択式	48.9	2.1	65.0	45.0
	平均正答率		34.9	15.2	66.7	46.7

※太字・網掛けの項目は、正答率が「おおむね達成」の基準を下回った問題  
 ※H23中3A、中3Bは参考値である。

表7より学習指導要領の移行に伴い追加された学習内容については、「B問題」については、平成23年度より改善が図られてきているが、「A問題」については、依然として「おおむね達成」の基準に到達することができていない。特に中学2年生と同

様に「資料の活用」に課題が見られる結果となった。

(エ) 平成23年度2年生及び平成24年度中学3年生(「A問題」「B問題」の1年生出題内容)の経年比較(同一生徒)

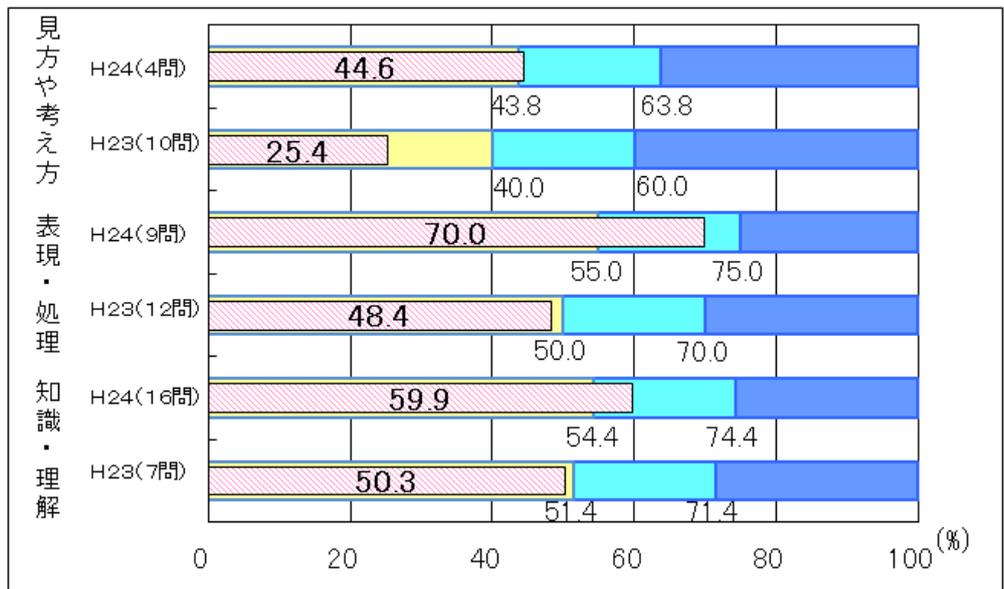


図11 H23年度中学2年生・H24年度中学3年生の観点別正答率の経年比較

「おおむね達成」及び「十分達成」の基準が異なるために、単純に比較することはできないが、平成23年度中学2年生は、「おおむね達成」の基準を全ての観点で下回ったが、平成24年度中学3年生は「おおむね達成」の基準を全ての観点で上回った。しかし、平成23年度に引き続き、「知識・理解」では、「比例や反比例の表、式、グラフに関すること」「度数分布表や最頻値の用語に関すること」に課題が見られた。「見方や考え方」では、「数学的な表現を用いて説明すること」に課題が見られる結果となった。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導改善の手立て

上記の「ア結果の概要」と「イ経年比較」から、学習指導要領の移行に伴い追加された知識・技能に関する学習内容、特定の基礎的・基本的な知識・技能に関する学習内容、数学的な表現を用いて説明するなどの記述式の学習内容に課題が見られた。これらを踏まえて、設問ごとに分析を行うことで、より課題を詳細に把握し、具体的な改善策や方策を提示することとした。

傾向1 **学習指導要領の移行に伴い追加された知識・技能に関する学習内容の習得に課題がある。**

[中学2年生 大問6]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問6(1)	球の表面積を求めることができる (短答式)	半径6cmの球の表面積を求める。	18.9	24.4	75.0	55.0
問6(2)	球の体積を求めることができる (短答式)	半径6cmの球の体積を求める。	16.0	29.0	75.0	55.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率55.0に対して、問6(1)の正答率が18.9で36.1ポイント、問6(2)の正答率が16.0で39.0ポイント下回った。与えられた図形や立体において、長さ、面積や体積を求める等の知識・技能の習得に課題があると考えられる。特に、公式を用いて数を当てはめて値を求めることに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

球の表面積については、模型を用いたり、実験による測定を行ったりして、実感を伴って理解できるようにすることが必要である。また、底面の半径が等しく、高さが底面の直径になるような円錐、球、円柱の体積を求め、比較させることを通して、体積比が1:2:3になることを確認させることでより理解が深まるような指導を行っていくことが大切である。

[中学2年生 大問11、大問12、大問13]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問11(2)	相対度数を求めることができる (短答式)	度数分布表を基に階級20～25mの相対度数を求める。	21.9	22.5	70.0	50.0
問12(1)	中央値について理解している (短答式)	ヒストグラムから、中央値を求める。	36.2	12.7	75.0	55.0
問12(2)	最頻値について理解している (短答式)	ヒストグラムから、最頻値を求める。	45.6	14.8	75.0	55.0
問13	与えられた数値を有効数字で表すことができる (短答式)	有効数字3けたで表す。	5.6	16.2	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率は、問11(2)は50.0、問12(1)(2)は55.0、問13は45.0であったが、正答率は、問11(2)は21.9、問12(1)は36.2、問12(2)は45.6、問13は5.6と、全て下回った。相対度数の求め方、中央値、最頻値等の用語に関すること、有効数字の表し方などの知識の確実な習得に課題があると考えられる。

[中学3年生「A問題」大問15]

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問15(1)	相対度数の必要性と意味を理解している  (短答式)	度数分布表について、正しい記述を選ぶ。	47.6	2.6	70.0	50.0
問15(2)	資料を整理した図から最頻値を読み取ることができる  (短答式)	フリースローでボールの入った回数と人数の関係をまとめた図から、ボールの入った回数の最頻値を求める。	39.6	15.6	75.0	55.0

○ 解答状況

問15(1)の正答率は、「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、47.6で2.4ポイント下回り、問15(2)は、期待正答率55.0に対して、正答率が39.6で15.4ポイント下回った。相対度数の意味や最頻値についての知識の習得に課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

大きさの異なる2つ以上の資料の傾向を比較するためには、相対度数が必要であることを実感させる必要がある。そのままの階級の度数を比較した場合と相対度数を比較した場合の結果が異なる場面を設定し、より理解を深めさせたいと考える。代表値を用いて資料の傾向を読み取る場合には、平均値、最頻値、中央値等を求め、これらを適切に使用し比較できるようにする場面を設定する必要がある。特に、日常生活の身近な題材を数値として取り上げ、数学を多くの場面で活用できることを実感させながら、資料の傾向を比較させることが大切である。また、資料を整理する際に、コンピュータを利用して代表値や相対度数を求めさせ、資料の傾向を捉え説明することができるような活動を数多く取り入れる必要がある。

傾向2 特定の基礎的・基本的な知識・技能に関する学習内容の習得に課題がある。

[中学2年生 大問4]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4	与えられた情報を的確に読み取り、正しい方程式に表すことができる (短答式)	間違えた式を正しく直し、方程式をつくる。	6.1	14.0	60.0	40.0

○ 解答状況

問4は「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率が6.1で、33.9ポイント下回った。与えられた情報から数量を読み取り、文字を用いた式に表すことに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

方程式をつくる際には、問題の中の数量やその関係から2通りに表される数量を見だし、文字を用いた式や数で表すことができるようにすることが大切である。表、言葉の式や線分図等で表す活動を取り入れ、問題場面の理解を深められるようする。数量を文字を用いて式に表すことができるようにするために、具体的な数を取り上げて式に表したり、文字を用いた式を読み取ったりする活動を取り入れていく必要がある。

[中学2年生 大問5]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問5(1)	扇形の面積を求めることができる (短答式)	半径が90mで中心角の大きさが60°である扇形の面積を求める。	23.9	17.2	70.0	50.0

○ 解答状況

問5(1)は「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率が23.9で、26.1ポイント下回った。扇形の面積を求めることについての知識・技能の習得に課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

扇形に関しては、同一円の弧の長さがその中心角の大きさに比例することを理解して、扇形の弧の長さや面積を求めることができるようにすることが大切である。その際、扇形を作図する時間を確保し、作図した図形を基に、公式を用いて求めたり、比の考え方を利用して求めたりして、より理解が深まるようにする。日常生活の身近な題材であるピザやケーキ等を用いて、数学が日常生活で利用できることを実感させながら、技能の習熟を図っていく必要がある。

[中学2年生 大問9]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問9(2)	比例の関係について理解している  (選択式)	yがxに比例しているものを選択する。	40.3	2.7	65.0	45.0
問9(4)	反比例のグラフ上にある点の座標について理解している  (短答式)	点(5、2)を通る反比例のグラフ上の点で、x座標が-1のときのy座標を求める。	29.3	30.9	70.0	50.0

○ 解答状況

問9(2)は「おおむね達成」の期待正答率45.0に対して、正答率が40.3で、4.7ポイント下回り、問9(4)は「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率が29.3で、20.7ポイント下回った。具体的な事象を式に表すこと、比例の意味、グラフ上の座標の意味や表し方についての理解が十分でなかったことが考えられる。

○ 指導改善の手立て

具体的な事象について式に表す際には、文字の代わりに具体的な数を当てはめて考察できるようにすること、また、簡単な表に表し、変化や対応の様子を考察することができるようにすることが大切である。グラフ上の座標については、式に具体的な数を代入しながら表を作成していく際に、表、式、グラフの相互の関連性をもたせた指導をする。特に、座標を求める際には、反比例の式を求めて、その式にxの値を代入して求めたり、表に表して反比例の特徴から求めたりすることができるようにする必要がある。このような複数の解き方がある問題を設定し、取り組ませることは、数学的な思考力、判断力、表現力を育むことにもつながると考えられる。

[中学3年生「A問題」 大問6]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問6(2)	n角形の内角の和を求める公式の意味を理解している  (選択式)	n角形の内角の和を求める式で、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ。	45.8	0.6	75.0	55.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率55.0に対して、問6(1)の正答率が40.4で14.6ポイント、問6(2)の正答率が45.8で9.2ポイント下回った。2つの直線が平行になるための根拠と多角形の内角の和を表す式の意味についての理解に課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

多角形の内角の和を表す式が、多角形を三角形に分割することによって導くことができることを理解させる必要がある。三角形に分割する活動では、1つまたは2つの頂点から対角線を引いたり、三角形の内部、外部や辺上の点から各頂点に直線を引いたりして、いろいろな方法で三角形に分割することができることを実感させることが大切である。式を導く際には、分割してできる三角形の個数を、もとの多角形の辺や頂点の数等と対応させて数え上げることによって、より理解を深めさせた。多角形の内角の和を求める際には、計算の過程を振り返る活動として、式の意味を確認する活動を取り入れることも必要である。

[中学3年生「A問題」 大問12]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問12	2つの数量の関係が一次関数になることを理解している (短答式)	一次関数を表した事象を選ぶ。	38.1	1.3	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率が38.1であり、11.9ポイント下回った。具体的な事象の中から、2つの数量を取り出し、数量の関係を式に表すことに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

具体的な事象の中から、2つの数量を取り出し、数量の関係を式に表すために、数量の関係を具体的な数を使って表したり、言葉の式や線分図等で表したりする活動を取り入れ、問題場面の理解を深められるように配慮する必要がある。

[中学3年生A問題 大問13]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問13	二元一次方程式の解とグラフの関係を理解している (短答式)	二元一次方程式の解を座標とする点について、正しい記述を選ぶ。	37.6	1.8	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率が37.6であり、12.4ポイント下回った。二元一次方程式の解を座標とする点の集合が、一次関数のグラフの直線となるという知識に課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

二元一次方程式の解について、いくつかの  $x$  の値に、対応する  $y$  の値を求めさせ、それを座標とする点を座標平面上に表す活動を取り入れることが必要である。その際、 $x$  や  $y$  の値が整数でない座標があることも確かめる場面を設定することが大切である。

傾向3 数学的な表現を用いて説明することなどの記述式の学習内容に課題がある。

[中学2年生 大問3]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問3(2)	文字を用いた不等式から、数量の大小関係を読み取り、説明することができる (記述式)	$\frac{x}{80} < \frac{y}{100}$ の不等式がどのような式を表してるか、言葉で説明する。	22.1	20.2	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率が22.1であり、17.9ポイント下回った。与えられた事柄から数量の大小関係を読み取って、成り立つ数学的な事実について説明することに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

これまでの数値の大小関係から、数量の大小関係へと見方を変えていかなければならないことに配慮する必要がある。特に、式に表されている文字の式について、数量の関係を把握し、さらに大小関係を把握できるよう一つ一つ丁寧に指導する必要がある。その際、文字だけで考えるよりも、具体的な数に置き換えて考えさせる場面を数多く設定していきたい。これらの学習内容を通して、等号の他に不等号を用いることで、数量の大小関係を式に表したり、その意味を読み取ったりすることができることを理解できるようにし、数学的な見方や考え方を身に付けさせることが大切である。

[中学2年生 大問10]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問10(2)	与えられた情報を基に、 $x$ と $y$ の関係が比例であることを説明することができる (記述式)	時計の長針の説明を基に、 $x$ 分間に短い針が動く角度を $y^\circ$ としたときの、 $x$ と $y$ の関係について、説明する。	20.8	48.5	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率が20.8であり、19.2ポイント下回った。事柄が成り立つ理由を与えられた情報を基に説明することに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

新たに見いだした事柄を説明するためには、新たに見いだすために基になっている説明を振り返ることが考えられる。この問題は、時計の長い針の説明を基に、短い針の時間と角度の関係について説明をするものであった。そのため、短い針について説明する際に、基になっている長い針の説明と何が変わり、何が変わっていないかを明らかにしながら考えさせる必要がある。このように基になっている説明を振り返り、新しく見いだした事柄が成り立つか成り立たないかを説明することができるような場面を設定することは、数学的な思考力、判断力、表現力を育むことにつながると考える。

[中学3年生「B問題」 大問1]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問1(2)	軌道の長さの差を求める計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる (記述式)	2つの人工衛星の軌道の長さの差を求める計算から分かることを選び、その理由を説明する。	13.4	19.2	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率が13.4であり、26.6ポイント下回った。数学的に解釈したり、事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

表、式、グラフ等から得られた数学的な結果を事象に即して解釈できるようにすることが大切である。指導に当たっては、文字式を用いて求めた後で、計算の過程を振り返る場面を設定することが考えられる。その際、計算の過程で消去された文字に注目し、その意味をもとの事象に即して考えさせる場面を取り入れ、消去された文字の値に関係なく決まると解釈する活動を取り入れる必要がある。ある事柄が成り立つ理由を説明する際に、説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、数学的な表現を用いて説明できるような学習活動を数多く取り入れる必要がある。

[中学3年生「B問題」 大問5]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問5(3)	問題解決の方法を数学的に説明することができる  (記述式)	CDが1.2m、DBが8.3mのときの、木の高さABを求める。	24.8	41.0	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率が24.8で、15.2ポイント下回った。問題解決の方法や手順を、数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられる。

○ 指導改善の手立て

AE=CEが成り立つことを説明するために、△ACEに着目し、△ACEが直角二等辺三角形または二等辺三角形になっていることに気付かせる必要があると考える。さらに、△ACEが直角二等辺三角形または二等辺三角形であることを説明するために三角形の内角の和が180° を利用していることにも気付かせる必要がある。このように長さを置き換えて考察することができるような課題に数多く取り組ませることによって、図形についての数学的な見方や考え方を高めることができると考える。また、図形領域の指導において、等しい辺や等しい角を説明する際に、どのような図形の性質などを根拠として利用しているかなどを説明する場面を取り入れる必要があると考える。

**エ これからの指導に向けて**

今回の調査によって明らかになった指導改善のための重点項目は、次の通りである。

(ア) 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ること。特に学習指導要領の移行措置により追加された学習内容や課題が見られる学習内容における知識・技能の習得を図ること。

(イ) 基礎的・基本的な知識・技能を活用して問題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育むこと。

以上の2つの重点項目を踏まえて、指導改善を図っていく必要がある。特に、日々の授業においては、授業のねらいを達成するために数学的活動を位置付けた授業展開や指導の手立ての工夫や改善を図っていくことが大切であると考えられる。

※数学的活動は、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けるとともに、数学的に考える力を高めたり、数学を学ぶことの楽しさや意義を実感するために、重要な役割を果たすものである。

**(ア) 基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けて**

「球や扇形に関すること」「相対度数を求めること」「中央値、最頻値、有効数字などの用語に関すること」などの基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題があることが分かった。今後、これらの課題を解決するためには、数学的活動を位置付けた授業実践を積み重ねていくことが大切であると考えられる。数学的活動を位置付けた授業を行う上での配慮事項は以下の3つである。

○ 観察、操作や実験などの具体的な活動を通して、より理解が深まるような指導の充実。

○ 内容系統と関連性が少ない学習内容については、意図的に再度取り上げることによって、理解を深めたり掘げたりする指導の充実。

○ 数学の用語については、数学の用語の使い方に慣れることで、思考をより正確に、よりの確に、より能率的に行うことができるようになるため、用語を用いることのよさを実感を伴って理解できるような指導の充実。

**(イ) 数学的な思考力、判断力、表現力を育むために**

「数学的な表現を用いて説明すること」「与えられた情報を基に、成り立つ事柄を説明すること」などの数学的な思考力・判断力・表現力を問う問題に課題があることが分かった。数学的な思考力、判断力、表現力を育むためには、言語活動を重視した数学的活動を位置付けた授業実践を積み重ねていくことが大切であると考えられる。数学的活動を位置付けた授業を行う上での配慮事項は以下の3つである。

○ 試行錯誤をしたり、観察、操作や実験をしたりするなどの具体的な操作活動と考えたり説明したりする活動を結び付けた指導の充実

○ 新しく見いだした事柄、問題解決の方法や手順、事柄が成り立つ理由などについて自分の考えをまとめたり、他の人に分かりやすく説明したり、他の人の考えを理解したりする活動を取り入れた指導の充実

○ 身近な日常生活と結び付きのあるものや多様な見方や考え方ができるものなど、題材や課題についての設定を工夫した指導の充実。

**オ 授業実践に参考となるリンク**



最終更新日：2012-10-15

## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ>Ⅲ 各教科の調査結果の分析>中学校理科

### Ⅲ 各教科の調査結果の分析

※中学1年生の調査については、小学6年生の学習内容としているため、小学校の項で分析している。

#### 中学校理科

**習得と活用のバランスを考え、知識・技能の定着、思考力・表現力の向上を図る授業**

教科全体正答率は、中学2年生と中学3年生共に、「おおむね達成」の基準を上回った。評価の観点別正答率では、「思考・表現」において、平成23年度と比較し改善が見られた。しかし、中学2年生は「技能」において、「おおむね達成」の基準を下回った。また中学3年生でも、「技能」を問う問題において課題が見られた。そこで、理科においては基礎的・基本的な知識・技能を習得する活動と、それらを活用する活動がバランスよく行われるよう指導を工夫していく必要がある。

この後、評価の観点については、以下のように記す。

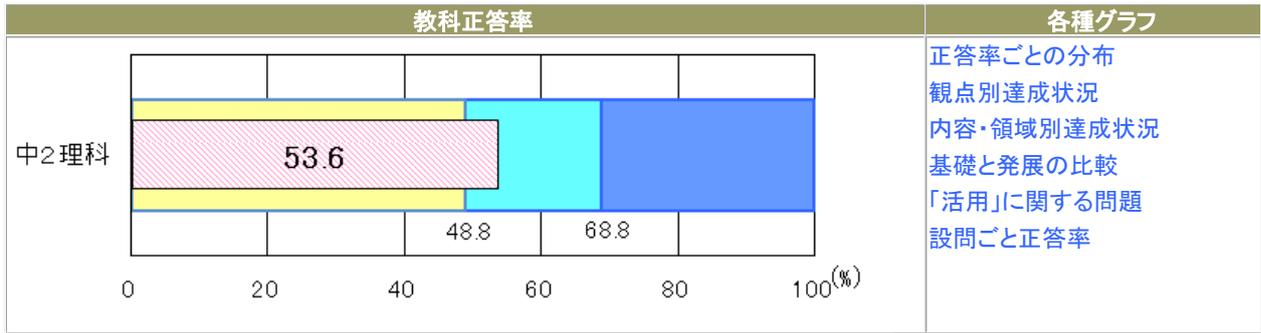
- |                 |   |           |
|-----------------|---|-----------|
| ○自然事象への関心・意欲・態度 | → | 本調査では設定なし |
| ○科学的な思考・表現      | → | 「思考・表現」   |
| ○観察実験の技能        | → | 「技能」      |
| ○自然事象についての知識・理解 | → | 「知識・理解」   |

※中学2年生で実施した佐賀県小・中学校学習状況調査における評価の観点については、全国学力・学習状況調査を活用した調査に合わせ、新学習指導要領にある評価の観点で表記する。

ア 結果の概要

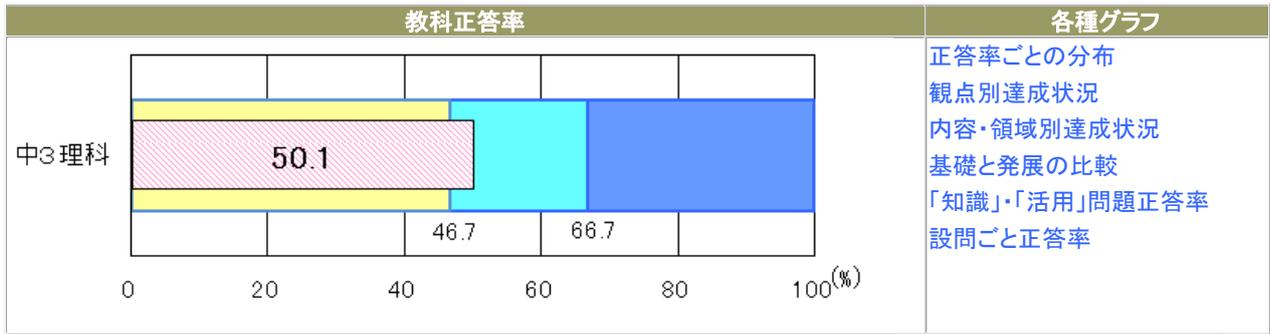
(凡例) :要努力(おおむね達成の基準を下回る) :おおむね達成 :十分達成

(ア) 教科及び設問ごと正答率



中2理科 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)	被子植物のつくりを理解している	65.7	3.9	75	55
	(2)	子房の有無で被子植物・裸子植物に分類できることを理解している	67.6	5.6	75	55
	(3)	裸子植物の仲間について理解している	70.8	0.4	70	50
	(4)	マツの花粉のつくりと働きとを関連付けて考えることができる	74.4	0.5	65	45
2	(1)	蒸散の実験方法を身に付けている	76.5	6.2	70	50
	(2)	蒸散について理解している	72.2	7.1	70	50
	(3)	気孔について理解している	72.4	13.0	75	55
	(4)	蒸散の実験結果を基に、蒸散量を求める方法を身に付けている	14.5	9.4	70	50
3	(1)	反射した光の道筋の示し方を身に付けている	19.3	5.1	70	50
	(2)①	全反射の特性を説明することができる	57.4	3.7	65	45
	(2)②	全反射の利用例について理解している	75.4	0.9	75	55
4	(1)	物体に働く力の大きさを求めることができる	46.5	6.4	70	50
	(2)	力を受ける面積と圧力の大きさとの関係を考えることができる	74.2	1.5	70	50
	(3)①	計算によって圧力を求めることができる	8.2	16.0	65	45
	(3)②	力を受ける面積と圧力の大きさとの関係を考えることができる	79.3	1.7	65	45
	(4)	圧力についての知識と身近な事象とを関連付けて説明することができる	40.6	17.4	60	40
5	(1)	融点について理解している	53.2	13.6	75	55
	(2)	液体のろうが固体になったときの体積変化の表し方を身に付けている	54.8	8.0	70	50
	(3)	状態変化が起こっても、ろうの質量は変化しないことを理解している	59.2	0.9	75	55
6	(1)	ガスバーナーの火のつけ方を身に付けている	37.1	0.5	70	50
	(2)	ガスバーナーの炎の調節の仕方を身に付けている	66.1	0.6	70	50
	(3)	ガスバーナーの火の消し方を身に付けている	65.9	0.5	70	50
7		液体と気体の状態変化と身近な事象とを関連付けて考えることができる	62.5	4.1	65	45
8	(1)	質量パーセント濃度を求める公式を使って、溶質の量を考えることができる	46.2	9.7	70	50
	(2)	質量パーセント濃度を求め、濃さの違いを考えることができる	54.3	2.6	70	50
	(3)	濃度の違う2つの水溶液を混ぜ合わせたときの濃度を考えることができる	20.3	20.0	60	40
	(4)	物質を溶解度まで溶かした水溶液を飽和水溶液ということを理解している	53.1	22.2	75	55
9	(1)	花こう岩(深成岩)の等粒状組織を理解している	44.8	24.3	75	55
	(2)	マグマの冷え方によって火成岩の組織が違ふことを理解している	58.2	1.9	70	50
	(3)	火成岩の色合いと含まれる鉱物との関係について説明することができる	28.6	33.5	60	40
	(4)①	マグマの粘性と火山の形との関係を理解している	69.8	1.5	70	50
	(4)②	マグマの粘性と岩石の色との関係を理解している	38.9	1.5	70	50
10	(1)	柱状図について理解している	19.9	21.6	75	55
	(2)	示相化石を基に、地層が堆積した当時の環境を考えることができる	74.1	1.6	65	45
	(3)①	柱状図とかき層を基に、地層のつながりを考えることができる	60.6	3.5	60	40
	(3)②	柱状図とかき層を基に、地層のつながりと重なりを考えることができる	63.1	3.9	60	40
	(4)	柱状図を基に、地層が堆積した当時の環境について考えることができる	37.6	7.2	60	40



中3理科 設問ごと正答率						
大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)	魚類の呼吸と水草の光合成を理解している	53.7	9.9	75	55
	(2)	動物を飼育する場面で、両生類の子と親の体のつくりと働きや生活場所に関する知識を活用して、飼育の環境を整えた理由を説明することができる	55.4	10.2	65	45
	(3)	「胚珠は、めしべの子房の中にあり、成長すると種子になる」という知識を身に付けている	67.5	0.2	75	55
	(4)	花のつくりを考える場面で、花のつくりの共通点や規則性に関する知識を活用して、アブラナの花のつくりを表している模式図を指描することができる	65.3	0.2	70	50
	(5)	「花が開くには温度が関係している」という考察を導くために、実験結果を分析し解釈して、比較する実験結果の組合せを指描することができる	41.9	0.3	65	45
	(6)	実験結果の考察から花が開く温度を予想して、適切に温度を設定し、追実験を計画することができる	34.1	7.7	55	35
2	(1)	電流計の読み方の技能を身に付けている	43.2	6.4	70	50
	(2)	抵抗の直列つなぎ、並列つなぎなどに関する知識を活用して、他者の実験方法を検討し改善して、正しい実験方法を説明することができる	19.1	17.3	65	45
	(3)X	実験結果を分析し、豆電球と発光ダイオードの消費する電力を比較することができる	50.0	10.7	70	50
	(3)Y	実験の考察とLED電球の省エネの効果に関連付けている場面で、電力に関する知識を活用して、LED電球の省エネの効果を考えることができる	62.6	9.2	70	50
	(4)	「省エネの効果と比較する」という実験の目的のもと、「明るさ」の条件を制御した実験を計画することができる	68.5	0.8	65	45
	(5)	白熱電球をLED電球に交換しようとする場面で、電力量の知識を活用して、最も省エネの効果がある場所を考え、その根拠を説明することができる	57.2	4.5	60	40
3	(6)	電力量を理解している	9.6	39.5	60	40
	(1)	「地層の連続性や成因を調べるために、断層の有無や地層に含まれている粒に着目する」という地層観察に関する技能を身に付けている	86.4	0.6	75	55
	(2)	観察地における地層の広がり方について、観察地の図と観察結果から分析して解釈し、地層の傾きを認識して、その傾きの方向を指描することができる	31.7	1.1	60	40
	(3)	地層などの知識を活用し、過去の火山活動が活発だった時期の回数についての他者の考察を検討し、根拠を示して改善した考察を説明することができる	13.6	9.3	60	40
	(4)	火山灰の広がり方を考察する場面で、火山などの知識を活用し、偏西風の影響などの情報から、火山と観察地などの位置関係を推定することができる	45.9	1.6	60	40
	(5)	示相化石に関する知識を身に付けている	59.1	0.9	75	55
4	(6)	「石灰岩(石灰石)にうすい塩酸をかけると二酸化炭素が発生する」という石灰岩の見分け方に関する技能を身に付けている	71.6	9.6	75	55
	(1)	「特定の質量」パーセント濃度の水溶液をつくる」という技能を身に付けている	49.4	16.2	70	50
	(2)	実験結果や卵の断面図を分析し解釈して、卵の構造を推定することができる	58.3	1.9	65	45
	(3)	浮力を理解している	35.0	39.8	70	50
	(4)	「いくらでも食塩水を濃くできるわけではない」という他者からの指描を分析し解釈して、他者の考えの根拠を説明することができる	45.2	26.6	65	45
	(5) 和宏さん	水溶液においては、溶質が均一に分散していることを粒子のモデルと関連付けて理解している	70.2	2.5	70	50
(5) 望さん	液体のようすについて予想を立てる場面で、水溶液の知識を活用して、予想を粒子のモデルで表している図を指描することができる	66.1	2.6	65	45	
(6)	「水槽の中の液体が、食塩水の1層なのか、上層が水、下層が食塩水の2層なのか」ということを検証する実験を計画することができる	41.1	3.1	60	40	

教科正答率について、全ての学年において、「おおむね達成」の基準を上回った。しかし、「十分達成」の基準を上回った学年は見られなかった。また、全ての学年において無解答率が30.0を超える問題も見られた。

(イ) 評価の観点別正答率

① 中学2年生

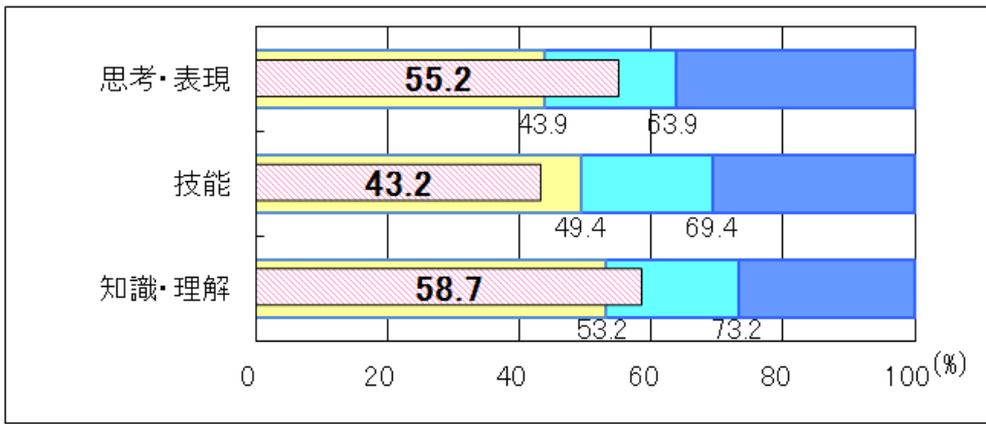


図1 H24年度(中学2年生理科)評価の観点別正答率

中学2年生は、「思考・表現」と「知識・理解」において、「おおむね達成」の基準を上回ったが、「技能」は、「おおむね達成」を6.2ポイント下回った。光の道筋を作図する技能や、計算によって圧力を求める技能を問う問題などの正答率が低かったためと考えられる。

② 中学3年生

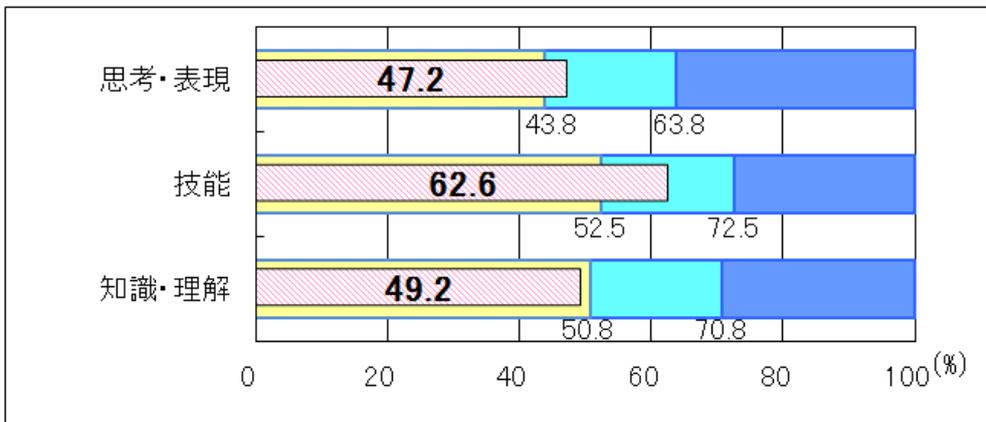


図2 H24年度(中学3年生理科)評価の観点別正答率

中学3年生は、「思考・表現」と「技能」において、「おおむね達成」の基準を上回ったが、「知識・理解」は、「おおむね達成」を1.6ポイント下回った。電力量や浮力についての理解を問う問題などの正答率が低かったためと考えられる。

(ウ) 内容・領域別正答率

①中学2年生

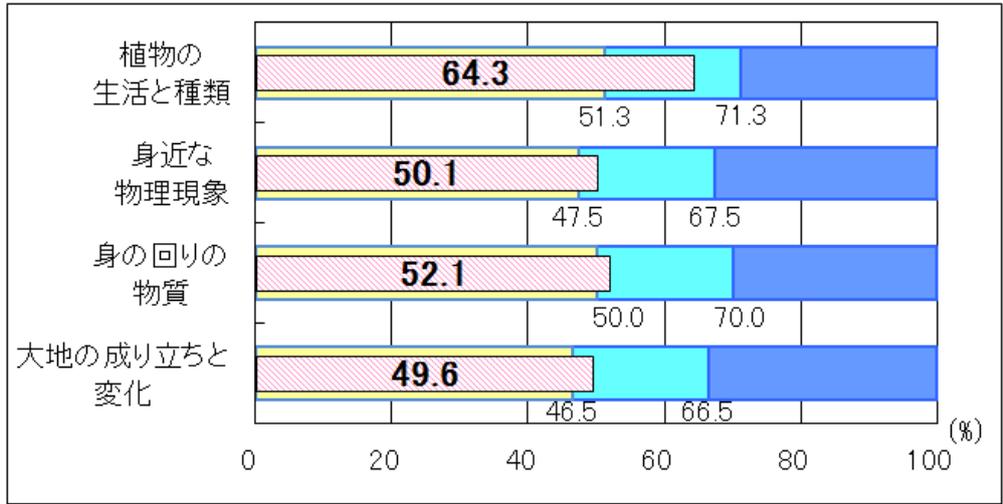


図3 H24年度(中学2年生理科)内容・領域別正答率

中学2年生は、全ての内容・領域において「おおむね達成」の基準を上回ったが、「十分達成」の基準には届かなかった。平成23年度に「おおむね達成」の基準を8.2ポイント下回った「大地の成り立ちと変化」は、平成24年度「おおむね達成」の基準を3.1ポイント上回っており、各学校において昨年度の課題を踏まえながら指導等の改善が行われたのではないかと考えられる。

②中学3年生

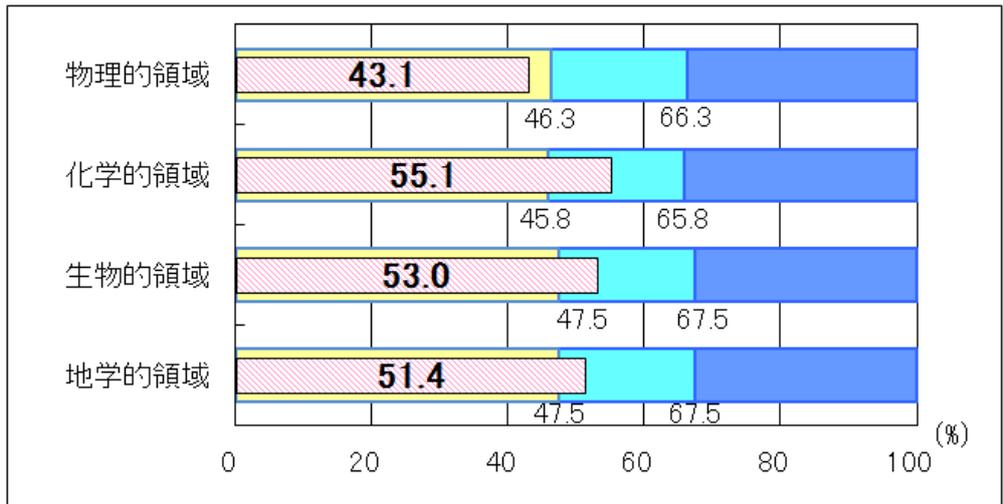


図4 H24年度(中学3年生理科)内容・領域別正答率

「化学的領域」「生物的領域」「地学的領域」においては、「おおむね達成」の基準を上回ったが、「十分達成」の基準には届かなかった。今回の調査では、「物理的領域」以外は、そのほとんどが中学1年生で学習する内容であり、内容面では昨年度との比較を十分に行うことができなかった。

「物理的領域」は、「おおむね達成」の基準を3.2ポイント下回った。電力量についての理解を問う問題が、「おおむね達成」の基準を30.4ポイント下回ったことが「物理的領域」全体の正答率を低くしたためと考えられる。

イ 経年比較

(凡例) □:要努力(おおむね達成の基準を下回る) □:おおむね達成 □:十分達成

平成23年度は、「思考・表現」、「活用」において課題が見られた。そこで、これらについて同一学年の経年比較を行うこととした。また、中学2年生で正答率が「おおむね達成」の基準を下回った「技能」についても、同一学年の比較を行うこととした。

(ア) 「思考・表現」の経年比較

①H24中学2年生とH23中学2年生

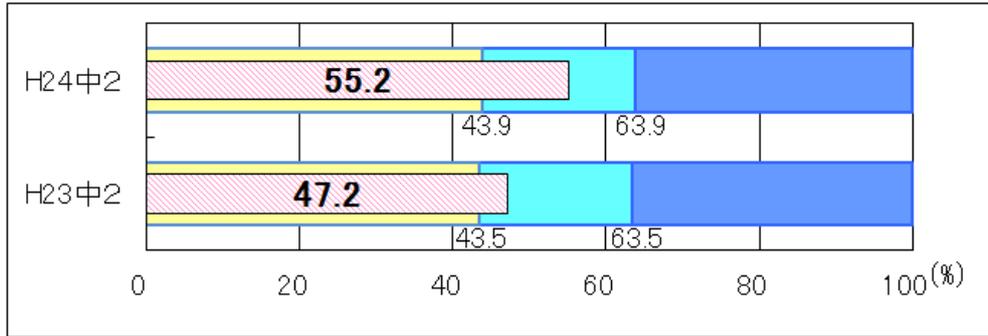


図5 H24年度(中学2年生理科)、H23年度(中学2年生理科)「思考・表現」の正答率の経年比較

平成23年度は「おおむね達成」の基準を3.7ポイント上回っているのに対し、平成24年度は「おおむね達成」の基準を11.3ポイント上回っていた。平成23年度の分析結果を生かしながら、指導等を工夫したことが改善につながったと考えられる。しかし、知識と事象を関連付けたり、用語同士のつながりを考えたりする力においてはまだ十分ではない。

②H24中学3年生とH23中学3年生

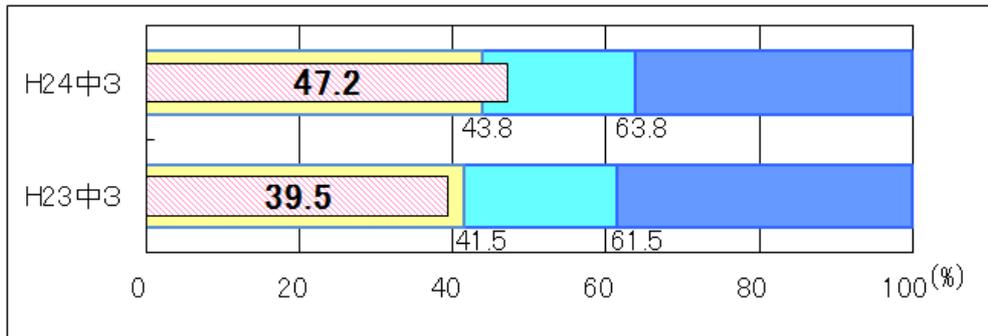


図6 H24年度(中学3年生理科)、H23年度(中学3年生理科)「思考・表現」の正答率の経年比較

平成23年度は「おおむね達成」の基準を2.0ポイント下回っているのに対し、平成24年度は「おおむね達成」の基準を3.4ポイント上回っていた。学習内容を日常生活や社会の特定の場面に適応させる力が高まってきたためであると考えられる。

(イ) 「活用」に関する問題の経年比較

①H24中学2年生とH23中学2年生

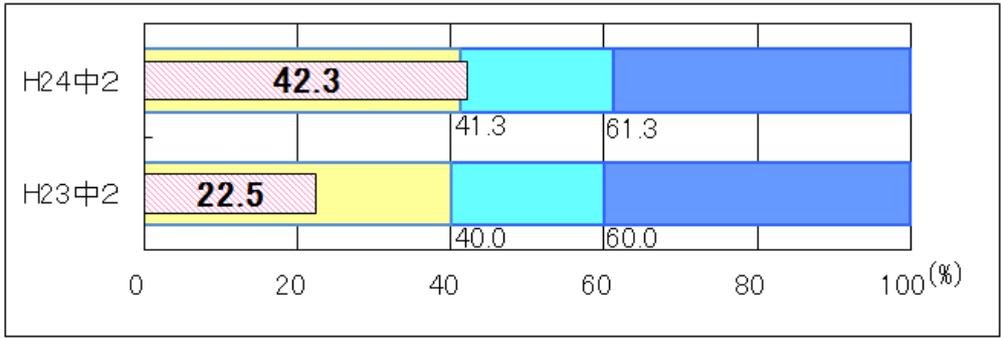


図7 H24年度(中学2年生理科)、H23年度(中学2年生理科)「活用」に関する問題の正答率の経年比較

平成23年度は「おおむね達成」の基準を17.5ポイント下回っているのに対し、平成24年度は「おおむね達成」の基準を1.0ポイント上回っていた。学習内容を身近な事象と関連付ける力が高まってきたことが原因と考えられる。しかし、平成23年度と全く同じ趣旨で出題された、指定語句を用いて火成岩の色合いと含まれる鉱物との関係について説明する問題の正答率は、平成23年度同様「おおむね達成」の基準を大きく下回っており、思考したことを文章で記述する力は、まだ十分に身に付いていないと考えられる。

②H24中学3年生とH23中学3年生

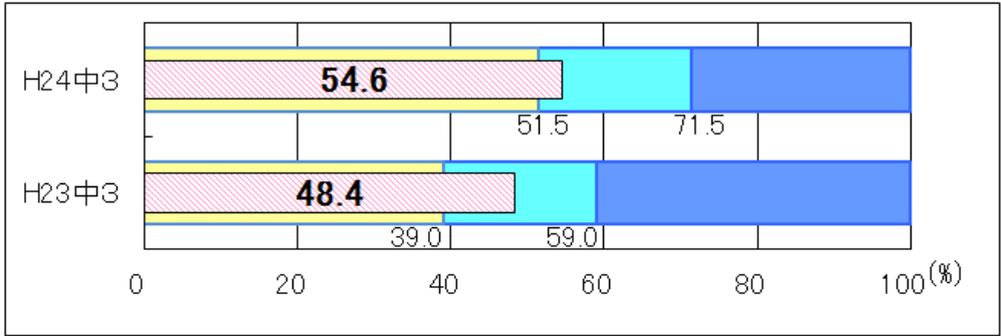


図8 H24年度(中学3年生理科)、H23年度(中学3年生理科)「活用」に関する問題の正答率の経年比較

平成23年度は「おおむね達成」の基準を9.4ポイント上回っているのに対し、平成24年度は「おおむね達成」の基準を3.1ポイント上回っていた。正答率は高くなっているが、「おおむね達成」の基準と比較すると下がっている。実験結果を分析・解釈し活用する力を問う問題などの正答率が低いため、これらの力を高めていく必要がある。

(ウ) 「技能」に関する問題の経年比較  
 ①H24中学2年生とH23中学2年生

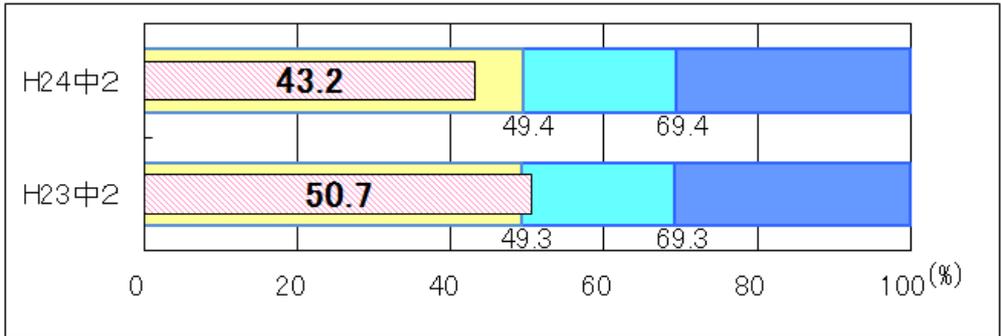


図9 H24年度(中学2年生理科)、H23年度(中学2年生理科)「技能」に関する問題の正答率の経年比較

平成23年度は「おおむね達成」の基準を1.4ポイント上回っているのに対し、平成24年度は「おおむね達成」の基準を6.2ポイント下回っていた。特に、作図や公式を用いた計算などの正答率が低く、技能の定着を図る指導等の工夫が求められる。

②H24中学3年生とH23中学3年生

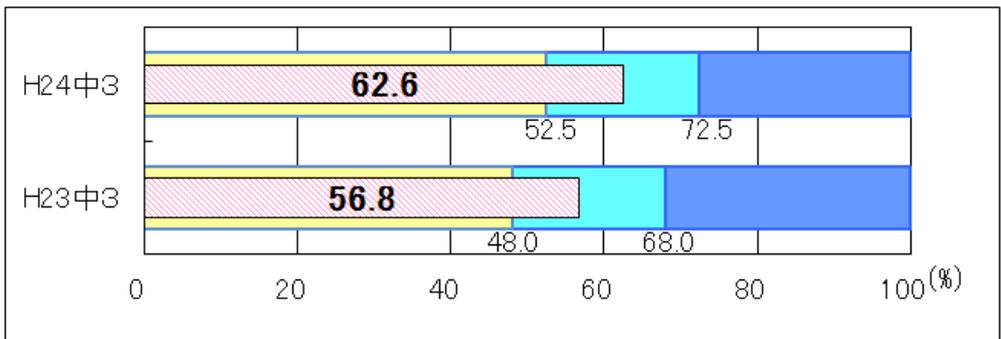


図10 H24年度(中学3年生理科)、H23年度(中学3年生理科)「技能」に関する問題の正答率の経年比較

平成23年度は「おおむね達成」の基準を8.8ポイント上回っているのに対し、平成24年度は「おおむね達成」の基準を10.1ポイント上回っていた。しかし、今回出題された「技能」を問う4問の設問ごと正答率を見ると、電流計の読み方を問う問題と、質量パーセント濃度を問う問題の2問は「おおむね達成」の基準を下回っており、中学2年生と同様、技能の定着に課題が見られる。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導法改善の手立て

平成23年度の調査と比較し改善が見られた「思考・表現」及び「活用」に関する問題の中で、引き続き課題が見られた問題と、平成24年度の調査で、正答率が「おおむね達成」の基準を下回った「技能」に関する問題について、更に分析を行った。

傾向1 **基礎的・基本的な技能の定着に課題**

[中学2年生 大問4の(3)①]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4(3) ①	計算によって圧力を求めることができる。 (短答式)	直方体の置かれた台が受ける圧力の大きさを求める。	8.2	16.0	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対して、正答率は8.2であり、36.8ポイント下回った。誤答の原因として、圧力の定義を理解していないこと、単位変換をうまくできていないことなどが考えられる。

○ 指導法改善の手立て

圧力や密度の定義などは、単位を含めて理解させることが大切である。単位変換を含めた演習問題に取り組みさせるなどの工夫が必要である。また、定義や公式などは、ある事象という文脈の中で課題解決の手段として活用することがほとんどである。単位や法則の活用場面を想定した授業の工夫が必要である。

[中学3年生 大問2(1)]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問2(1)	電流計の読み方の技能を身に付けている。 (短答式)	電流計の針が示している大きさを読み取る。	43.2	6.4	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は43.2であり、6.8ポイント下回った。誤答の原因として、接続されている端子がどこなのかをしっかりと把握していなかったこと、最小目盛りの10分の1まで目分量で読むことができなかったことが考えられる。

○ 指導法改善の手立て

最小目盛りの10分の1まで目分量で読むことは、電流計だけでなく、電圧計やメスシリンダー、定規などすべての測定器具に必要な読みの技能である。実験結果をまとめる際に、目分量まで読み取った値を記入しているかなどを確認しながら、技能の定着を見取っていく必要がある。

[中学3年生 大問4(1)]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問4(1)	「特定の質量パーセント濃度の水溶液をつくる」という技能を身に付けている。 (短答式)	10%の食塩水1000gをつくるために必要な、食塩と水の質量をそれぞれ求める。	49.4	16.2	70.0	50.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率50.0に対して、正答率は49.4であり、0.4ポイント下回った。計算を伴う問題であるが、複雑な計算を要する問題ではない。質量パーセント濃度の定義を曖昧に捉えていることが、誤答の一番大きな原因ではないかと考えられる。

○ 指導法改善の手立て

質量パーセント濃度は公式を用いて求める場合が多いが、公式を使わせる前に、公式がもつ意味をしっかりと生徒に理解させる必要がある。なぜ溶液全体の質量で割るのか、なぜ100を掛ける必要があるのかなどを、生徒自身に考えさせるような活動を取り入れるなどの工夫が必要である。

傾向2 **予想や仮説を立てたり、観察・実験の条件を考えたりすることに課題**

[中学3年生 大問1の(5)]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問1(5)	「花が開くには温度が関係している」という考察を導くために、実験結果を分析し解釈して、比較する実験結果の組合せを指摘することができる。 (選択式)	チューリップの花を開かせるために調べた光と温度の実験結果から、チューリップの花が開くには、温度が関係しているという考察を導くための実験結果を選択肢から選ぶ。	41.9	0.3	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対して、正答率は41.9であり、3.1ポイント下回った。適切な条件制御を行い、実験を構想することができなかつたためと考えられる。

○ 指導法改善の手立て

理科の場合、変化する事象の要因に着目し、条件を制御させながら対照実験を行うことが大切である。対照実験を行う意味をしっかりと理解させた上で、統一する条件を意識させながら実験を計画し、実施させる必要がある。

傾向3 **思考したことを、論理的な文章として表現することに課題**

[中学2年生 大問9(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問9(3)	火成岩の色合いと含まれる鉱物との関係について説明することができる。 (記述式)	花こう岩が斑れい岩と比べて全体的に白っぽく見える理由を、「花こう岩」「斑れい岩」「鉱物」の語句を使って説明する。	28.6	33.5	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率は28.6であり、11.4ポイント下回った。平成23年度も同じ問題が出題されているが、正答率は平成23年度も平成24年度も「おおむね達成」の基準を下回っている。

○ 指導法改善の手立て

思考したことを論理的な文章で表現するためには、まず事象とその要因がどのように関係しているかを明確にすることが必要である。また、読み手を意識した文章の構成も必要である。実験結果をもとに生徒が考察したものなどを互いに評価し合う活動などを取り入れながら、表現する力を高めていくことが必要である。

[中学3年生 大問3(3)]

○ 問題の概要

	出題の趣旨 (出題方法)	問題の概要	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問3(3)	地層などの知識を活用し、過去の火山活動が活発だった時期の回数についての他者の考察を検討し、根拠を示して改善した考察を説明することができる。 (選択式・記述式)	露頭のようなすを表した図から、火山活動が活発だった時期の回数は、少なくとも何回であるかを選択肢から選び、その理由を説明する。	13.6	9.3	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対して、正答率は13.6であり、26.4ポイント下回った。選択した根拠を露頭のようなすを表した図から読み取り、分析・解釈することができなかつたことが原因として考えられる。

○ 指導法改善の手立て

論理的な文章で表現するためには、観察・実験結果にどのような特徴が見られるのか、結果から言えることは何かを明確にさせることが大切である。文章で表現させる前に、キーワードや箇条書きで書かせるような活動などを取り入れ、それらを基に文章を書かせていくような指導の工夫が必要である。

エ これからの指導に向けて

今回の調査では、平成23年度の課題であった「思考・表現」において改善が見られた。しかし、「思考・表現」においては新たな課題も見られ、今後さらに高めていくよう指導の工夫が必要である。また、平成24年度は中学2年生、中学3年生の「技能」において課題が見られた。

これらの課題を解決するためには、知識・技能の確実な定着を図るとともに、それらを活用しながら課題を解決していくような活動を一層充実させることが重要である。

特に、次の4つを大切に、これからの指導に取り組むことが重要であると考ええる。

**(ア) 知識・技能の習得と活用のバランスを考える**

「基礎的・基本的な知識・技能は、実生活における活用や論理的な思考力の基盤として重要な意味をもっている」と学習指導要領に記されている。つまり、知識・技能は、単に演習問題などができるようになるだけでなく、様々な場面の中で活用できるようになってはじめて、定着していると判断することができる。知識・技能を活用させる活動を充実させるためには、課題を解決するために必要な知識・技能は何なのかということ明らかにし、その知識・技能をどのように活用させるのかを、しっかりと教師が考え授業を行う必要がある。習得のための反復学習や活用のための探究的な学習をバランスよく授業に取り入れることで、知識・技能が定着していくとともに、思考力・表現力も高まっていくと考えられる。また、習得と活用の中で、思考したことを論理的な文章として表現させる活動も積極的に取り入れていく必要がある。

**(イ) 探究的な学習の中で、観察・実験を構想させる活動や、結果を分析・解釈させる活動を工夫し、思考力・表現力の更なる向上をねらう**

平成24年度全国学力・学習状況調査解説資料では、「思考・表現」の主な視点として「適用」「分析・解釈」「構想」「検討・改善」が示されている。今回の調査ではこの4つの視点の中で、「適用」する力を問う問題の正答率が高かったことが、全体として「思考・表現」の改善につながったと考えられる。しかし、観察・実験を構想する力、結果を分析・解釈する力には課題が見られた。

今回示された4つの視点は、「思考・表現」の育成に向けたこれからの授業改善のポイントになると考える。そして、4つの視点に関わる力は、探究的な学習の中でより高まっていくと考える。ただ、視点を難しく捉えるのではなく、自然の事物・現象の中に問題を見いださせたり、課題を設定させたり、予想や仮説を立てさせたり、観察・実験の条件を考え計画させたり、結果から考察させたりするなど、これまで行われてきた活動を振り返り、充実させていくことが、結果として思考力・表現力を向上させることにつながると考える。思考力・表現力の育成については、本教育センターWebページに掲載しているプロジェクト研究の成果報告や、本年度教育センターが取り組んでいる理科授業改善サポートチームの取組なども参考にさせていただきたい。

**(ウ) 多様な評価方法で生徒の実態を把握し、特に「おおむね達成」を下回る生徒に対する支援の充実を図る**

生徒の実態を正確に把握するためには、評価方法を見直す必要がある。見直す視点としては、評価の観点1つについて、定期テストなど1つの方法での評価ではなく、できるだけ多様な方法で評価しているかどうかである。例えば「技能」を評価する場合、定期テストに加え、日々の授業で行う実技テストや授業で用いるワークシートなどを利用する方法が考えられる。他の評価の観点についても同じことがいえるが、一単位時間の中で、評価の観点4つ全てについて評価規準を設定し、生徒全員を評価し、指導の改善に生かしていくことは現実的には困難である。単元の指導計画を立てる際に、一単位時間の中でどの観点を評価するのかを明確にすること、そして実際に評価を行う場合は、「おおむね満足できる」状況(B)にあるかどうかを中心に評価から始めることが大切である。

多様な評価方法を用いる中で、「おおむね達成」の基準を下回る状況が見られた場合は、つまずきの原因をしっかりと分析した上で、個別に対応していくとともに、指導等の改善を図ることが大切である。

**(エ) 学習指導要領で新しく追加された内容に対する教材研究を十分に行う**

学習指導要領の改訂に伴い、追加された内容は次のとおりである。

[第1分野]

力とばねの伸び、重さと質量の違い、水圧、プラスチック、電力量、熱量、電子、直流と交流の違い、力の合成と分解、仕事、仕事率、水溶液の電気伝導性、原子の成り立ちとイオン、化学変化と電池、熱の伝わり方、エネルギー変換の効率、放射線、自然環境の保全と科学技術の利用

[第2分野]

種子をつくらぬ植物の仲間、無脊椎動物の仲間、生物の変遷と進化、日本の天気の特徴、大気の動きと海洋の影響、遺伝の規則性と遺伝子、DNA、月の運動と見え方、日食、月食、銀河系の存在、地球温暖化、外来種、自然環境の保全と科学技術の利用

特に中学3年生は、多くの内容が追加されており、教材研究や指導法などの研究を十分に行うことができていないのではないかと考える。追加された内容が他の内容とどのように関連しているかを考えながら教材研究を行い、各学校で指導計画を立て、計画的に授業を行っていくことが必要である。また、授業研究会を開いたり、研修会に参加したりするなど、研修の機会を増やすことも大切である。



オ 授業実践に参考となるリンク



授業に役立つ実践研究



授業・自己研修・校内研修のための資料集

最終更新日：2012-10-15

## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web 報告書

[Web報告書もくじ](#) > [Ⅲ 各教科の調査結果の分析](#) > 中学校英語

### Ⅲ 各教科の調査結果の分析

#### 中学校英語

##### 書くことを関連付けた言語活動の充実

全ての評価の観点、内容・領域において、「おおむね達成」の基準を上回る成果が見られた。特に、中学2年生は「聞くこと」の領域で、中学3年生は「聞くこと」及び「書くこと」の領域で「十分達成」の基準を上回った。「書くこと」の領域では、まとまった内容の文章を書くことができる中学3年生の割合が増え、学年が上がっても「要努力」の生徒の割合は増えなかった。しかし、文と文のつながりを工夫して書いたり、疑問詞を含む質問に英語で自分の考えや気持ちを書いたりすることに課題があった。今後の指導に当たっては、実際に互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を行うときに、書くことを関連付けて定着を図ることが大切である。

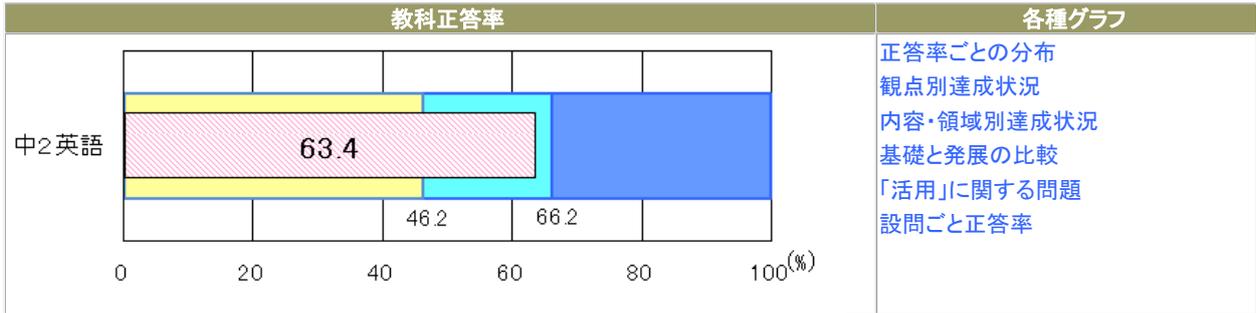
この後、評価の観点については、以下のように記す。

- |                      |   |           |
|----------------------|---|-----------|
| ○コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | → | 本調査では設定なし |
| ○表現の能力               | → | 「表現」      |
| ○理解の能力               | → | 「理解」      |
| ○言語や文化についての知識・理解     | → | 「言語・文化」   |

ア 結果の概要

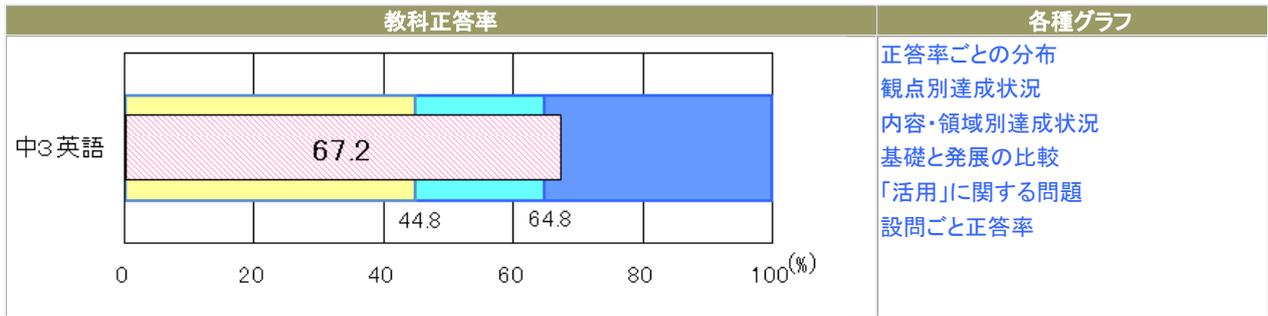
(凡例) :要努力(おおむね達成の基準を下回る) :おおむね達成 :十分達成

(ア) 教科及び設問ごと正答率



中2英語 設問ごと正答率

大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)	事実や出来事についての具体的な事柄を聞き取る	98.8	0.1	75	55
	(2)	事実や出来事についての具体的な事柄を聞き取る	58.8	0.3	75	55
2	(1)	事実や出来事についての具体的な事柄を聞き取る	85.0	0.3	70	50
	(2)	事実や出来事についての具体的な事柄を聞き取る	60.6	0.6	70	50
3		対話を聞いて、事実や出来事についての具体的な事柄を聞き取る	94.9	0.4	75	55
4	(1)	対話を聞いて、事実や出来事についての具体的な事柄を聞き取る	89.4	0.4	65	45
	(2)	対話を聞いて、事実や出来事についての具体的な事柄を聞き取る	77.8	0.2	65	45
	(3)	対話を聞いて、事実や出来事についての具体的な事柄を聞き取る	15.8	0.4	60	40
5	(1)	対話を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じる	67.7	0.8	65	45
	(2)	対話を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じる	58.0	1.0	65	45
	(3)	対話を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じる	61.3	1.1	65	45
6	(1)	説明文を読んで、大切な部分を的確に読み取る	71.8	1.4	60	40
	(2)	説明文を読んで、大切な部分を的確に読み取る	47.3	1.5	65	45
7	(1)	対話を読んで、大切な部分を的確に読み取る	79.9	0.8	70	50
	(2)	対話を読んで、適切な表現を書く	27.3	31.4	65	45
	(3)	対話を読んで、大切な部分を的確に読み取る	75.4	1.1	60	40
8	(1)	説明文を読んで、大切な部分を的確に読み取る	70.0	1.5	65	45
	(2)	説明文を読んで、大切な部分を的確に読み取る	25.5	23.9	60	40
	(3)	説明文を読んで、大切な部分を的確に読み取る	69.2	2.7	65	45
9	(1)	対話を読んで、適切な表現を正しい語順で書く	48.3	2.4	70	50
	(2)	対話を読んで、適切な表現を正しい語順で書く	58.6	2.6	75	55
	(3)	対話を読んで、適切な表現を正しい語順で書く	73.2	2.5	70	50
10	(1)	自分の伝えたいことを適切な表現を用いて書く	70.5	11.9	65	45
	(2)	自分の伝えたいことを適切な表現を用いて書く	70.2	8.0	65	45
	(3)	自分の伝えたいことを適切な表現を用いて書く	34.3	26.2	60	40
11		テーマについて、伝える内容を整理し、条件に沿って適切な表現を用いて書く	60.1	10.7	55	35



大問	小問	出題のねらい	正答率	無解答率	期待正答率 十分 達成	期待正答率 おおむね 達成
1	(1)	対話を聞いて、適切に応じる	76.2	0.3	75	55
	(2)	対話を聞いて、適切に応じる	81.0	0.3	75	55
2	(1)	事実や出来事についての具体的な事柄を聞き取る	97.2	0.3	75	55
	(2)	事実や出来事についての具体的な事柄を聞き取る	72.5	0.5	65	45
3	(1)	対話を聞いて、大切な部分を的確に聞き取る	94.4	0.3	65	45
	(2)	対話を聞いて、大切な部分を的確に聞き取る	78.8	0.4	65	45
4	(1)	相手の意向を聞いて理解し、適切に応じる	34.2	0.7	60	40
	(2)	相手の意向を聞いて理解し、適切に応じる	71.4	0.6	60	40
5	(1)	対話文を読んで、大切な部分を的確に読み取る	64.1	0.4	65	45
	(2)	対話文を読んで、大切な部分を的確に読み取る	65.9	1.0	60	40
6	(1)	手紙を読んで、大切な部分を的確に読み取る	53.4	1.6	65	45
	(2)	手紙を読んで、大切な部分を的確に読み取る	11.9	22.4	55	35
7	(1)	対話文を読んで、大切な部分を的確に読み取る	86.1	0.7	65	45
	(2)	対話文を読んで、大切な部分を的確に読み取る	51.6	0.9	60	40
	(3)	対話文を読んで、大切な部分を的確に読み取る	66.3	1.0	65	45
	(4)	事実や出来事についての具体的な事柄を読み取る	74.5	1.1	60	40
8	(1)	対話文を読んで、適切な表現を正しい語順で書く	91.6	1.5	75	55
	(2)	対話文を読んで、適切な表現を正しい語順で書く	87.3	1.7	75	55
	(3)	対話文を読んで、適切な表現を正しい語順で書く	75.2	2.4	70	50
9	(1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く	78.4	8.9	65	45
	(2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く	46.7	13.1	60	40
	(3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く	47.0	17.2	60	40
10		読んだことについて、聞きたいことを書く	54.1	15.0	60	40
11		テーマについて、伝える内容を整理し、条件に沿って適切な表現を用いて書く	52.5	13.8	55	35

教科正答率では、中学2年生が「おおむね達成」の基準を上回っており、中学3年生が「十分達成」の基準を上回っている。このことを設問ごとで見ると、中学3年生の大問10のように、読み取った文章について質問を書く設問の正答率が向上しており、書くことに対する指導が成果として表れている。

(イ) 評価の観点別正答率

①中学2年生

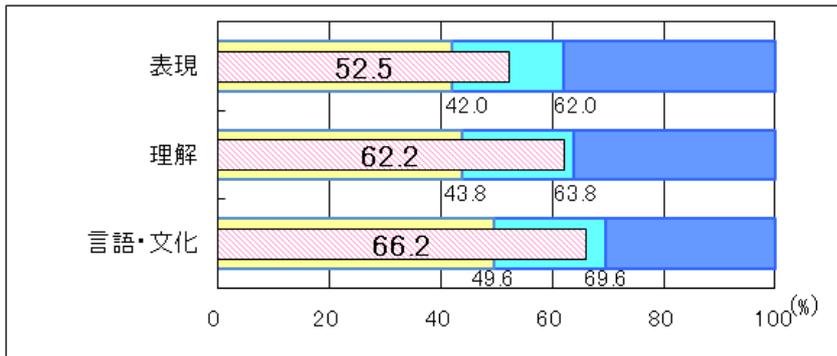


図1 H24年度(中学2年生英語)評価の観点別正答率

全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回った。特に、聞いたり読んだりした英語の内容から、いつ、どこで、どのような用件かなどの具体的な情報を正しく理解する能力が身に付いている。しかし、聞いたり読んだりして得た複数の情報(例えば、中学2年生の大問4(3)の「現在10:15」と「次のバスは20分後」という2つの情報から「次のバスの発車時刻」を考える問題など)を結び付けて理解し、判断する力は十分には身に付いていないと考えられる。

②中学3年生

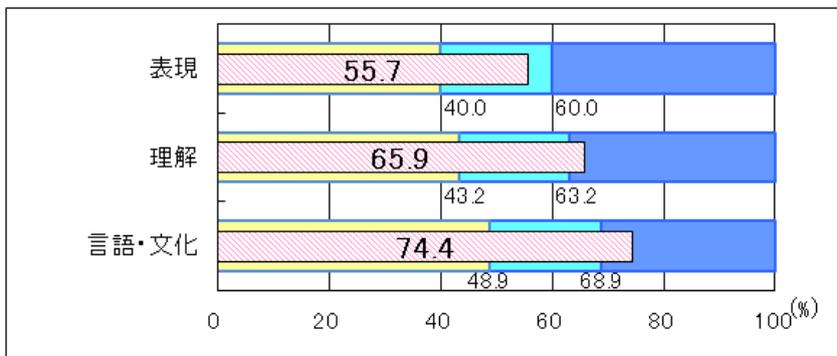


図2 H24年度(中学3年生英語)評価の観点別正答率

全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回った。特に、「理解」及び「言語・文化」の観点で「十分達成」の基準を上回っている。読んだ内容からいつ、どこで、どのような用件かなどの具体的な情報を正しく聞き取る力や語と語のつながりに注意して正しく書く力が身に付いているためと考えられる。

(ウ) 内容・領域別正答率

中学2年生及び中学3年生の「聞くこと」の領域及び中学3年生の「書くこと」の領域で「十分達成」の基準を上回っており、指導は良好と言える。

①中学2年生

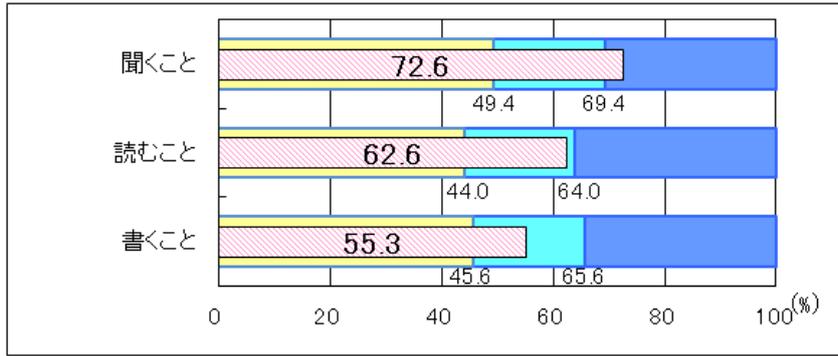


図3 H24年度(中学2年生英語)内容・領域別正答率

「聞くこと」については「十分達成」の基準を3.2ポイント上回り、良好だった。「書くこと」については、与えられたテーマなどについて自分の考えを書く力は付いているが、疑問詞を含む英文を語と語のつながりに注意して正しい語順で書く力や疑問詞で始まる質問に適切な表現を用いて自分のことを書く力が付いていない。疑問詞の知識はあっても、実際のコミュニケーションの場面で疑問詞を含んだ質問に適切に回答するという経験が不足していると考えられる。

②中学3年生

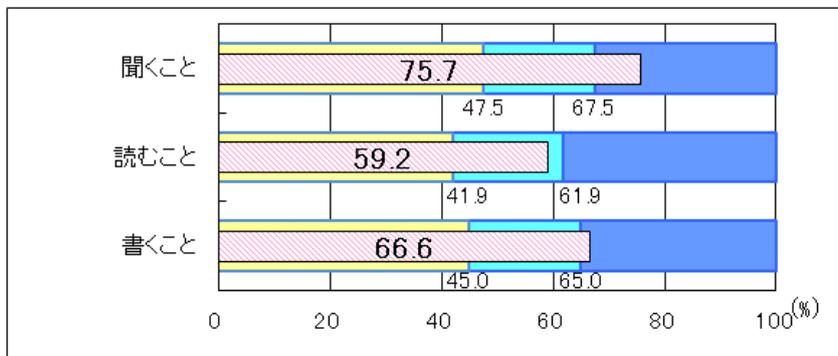


図4 H24年度(中学3年生英語)内容・領域別正答率

「聞くこと」及び「書くこと」については、「十分達成」の基準を上回り、良好だった。「読むこと」については、大問6(2)のような短答式の問題の答え方に課題はあるが、「おおむね達成」の基準を17.3ポイント上回り、良好と言える。なお、「書くこと」については、疑問詞を含んだ英語での質問に対して、自分の考えや気持ちを簡単な英語で答える問題で、無解答率の改善が見られるが、語と語のつながりに注意して正しく書く力には課題があり、日常の授業での書く活動の取組が必要である。

イ 経年比較

(凡例) □:要努力(おおむね達成の基準を下回る) □:おおむね達成 □:十分達成

定着に差が出やすい「書くこと」の領域について、同一学年の経年比較(平成23年度中3年生と平成24年度中学3年生)及び同一生徒の経年比較(平成23年度中学2年生と平成24年度中学3年生)を行い、到達度分布の変容を分析した。さらに、具体的な問題で変容を分析するために、まとまった英文を書く力を見る問題、読んだ文章に簡単な英語で質問する問題及び指示に従って簡単な英文を書く問題で経年比較を行った。

(ア) 「書くこと」の領域での経年比較

①同一学年経年比較

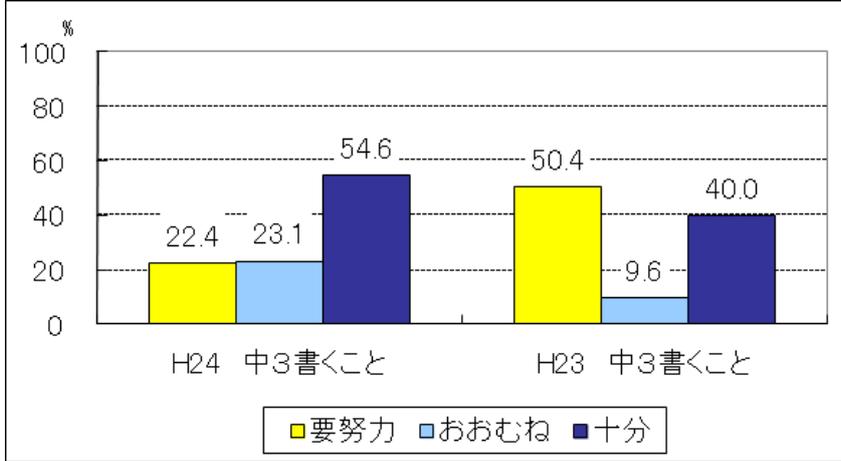


図5 H24年度(中学3年生)、H23年度(中学3年生)の「書くこと」の内容・領域別の到達度分布の経年比較

「要努力」の割合に注目すると、平成24年度の「要努力」の割合は平成23年度よりも28.0ポイント減少している。正しい語順で英文を書く問題やまとまった内容の文章を書く問題の正答率が上がっていることから、書くことの基礎的・基本的な知識・技能が定着し、まとまりのある文章を書くことに慣れてきたのではないかと考えられる。

②同一生徒経年比較

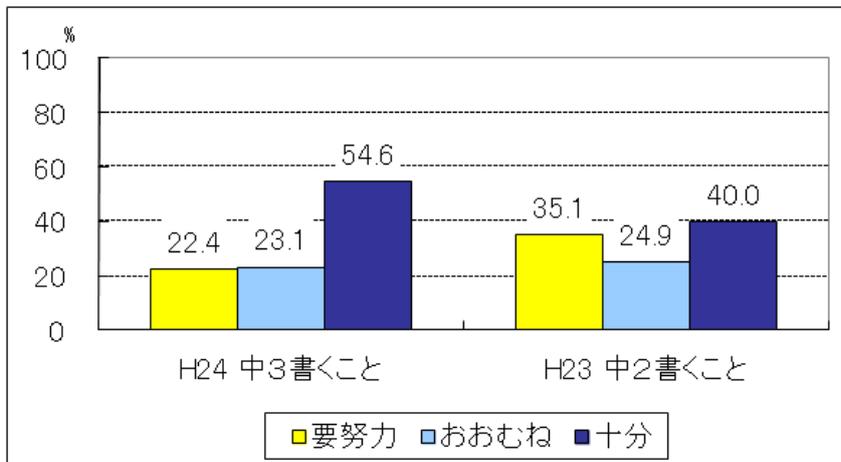


図6 H24年度(中学3年生)、H23年度(中学2年生)の「書くこと」の内容・領域別の到達度分布の経年比較

「要努力」の割合に注目すると、平成24年度の「要努力」の割合は前年度よりも12.7ポイント減少している。中学2年生で書く活動を多く取り入れたことが、定着へつながったと考えられる。

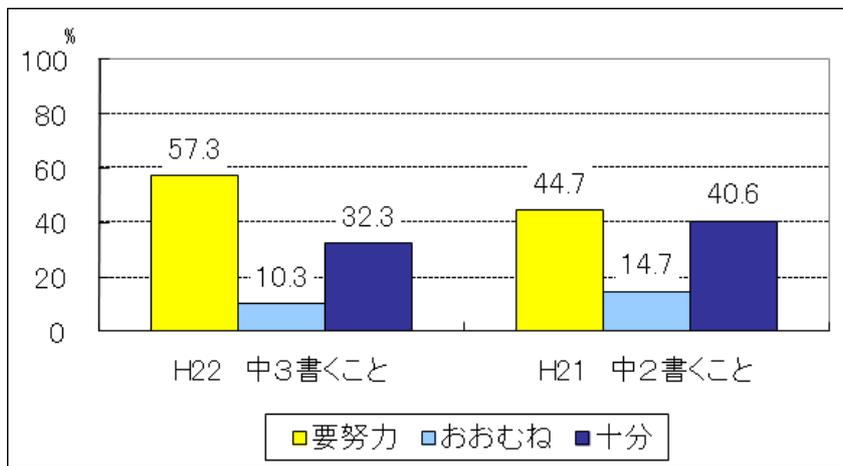


図7 H22年度(中学3年生)、H21年度(中学2年生)「書くこと」の内容・領域別の到達度分布の経年比較

平成22年度の「要努力」の中学3年生は57.3%だった。平成21年度の中学2年生の「要努力」が44.7%だったことから、学年が上がるについて、「書くこと」を苦手にする生徒が増えていたことが分かる。平成21年度以前についても同傾向が見られた。図6と図7の比較を通して、「『書くこと』を苦手とする生徒は学年が上がるにつれて増える」という傾向が、平成23年度及び平成24年度では見られないことが分かる。

中学3年生の同一学年経年比較と同一生徒経年比較を通して、「書くこと」を苦手になっている割合が減少し、これまでの学年が上がるにつれて二極化するという傾向が改善されつつあると言える。

(イ) 設問ごとの経年比較

①まとまった内容の文章を書く力を見る問題

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
H24 問11	テーマについて、伝える内容を整理し、条件に沿って適切な表現を用いて書く。  (記述式)	「私の好きなこと人物」というテーマで4文以上の紹介文を書く。	52.5	13.4	55.0	35.0
H23 問11		「私の将来の夢」というテーマで4文以上の紹介文を書く。	41.3	21.8		
H22 問10		「私の住んでいる町」というテーマで4文以上の紹介文を書く。	27.5	13.4		

図8 H24年度(中学3年生の間11)、H23年度(中学3年生の間11)、平成22年度(中学3年生の間10)正答率の経年比較  
 中学3年生が自分の考えや気持ちを4文以上の英文で書く問題を経年比較したものである。平成23・24年度は「おおむね達成」の基準を上回った。テーマが異なるために単純比較はできないが、県正答率が年々上昇している。なお、無解答率にばらつきがあるのは、テーマについての書きやすさの違いが影響していると考えられる。さらに、平成24年度中学3年生と平成23年度中学2年生の同一生徒で図9のように比較を行った。

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
H24 問11	テーマについて、伝える内容を整理し、条件に沿って適切な表現を用いて書く。  (記述式)	「私の好きなこと人物」というテーマで4文以上の紹介文を書く。	52.5	13.4	55.0	35.0
H23 問11		「私の好きなこと人物」というテーマで3文以上の紹介文を書く。	61.5	11.1		

図9 H24年度(中学3年生の間11)、H23年度(中学2年生の間11)正答率の経年比較  
 「私の好きなこと人物」というテーマについて、同一生徒が中学2年生では3文から中学3年生では4文に増やして、自分の考えや気持ちを書く問題である。平成23年度(中学2年生)は「十分達成」を上回っていたが、平成24年度(中学3年生)は「十分達成」を下回った。4文に増えると、1つのテーマについて文と文のつながりを考えて文章を構成する力がより必要になり、学年が上がっても、正答率が上がらなかったと考えられる。  
 図8から、まとまった英文を書く力は、少しずつ身に付いてきているが、図9から文と文のつながりに注意して、条件に応じた分量の英文を書くことについては課題があると言える。

②読んだ文章に簡単な英語で質問する問題

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
H24 問10	読んだことについて、聞きたいことを書く。  (記述式)	英語教師の自己紹介文について、質問する英文を1つ書く。	54.1	15.0	65.0	45.0
H23 問10			49.1	16.9		

図10 H24年度(中学3年生問10)、H23年度(中学3年生問10)正答率の経年比較  
 中学3年生が、紹介文を読んで“What sport do you like?”などの質問をする英文を書く問題である。平成23・24年度共に「おおむね達成」の基準を上回っている。また、県正答率が5.0ポイント上がり、無解答率が1.9ポイント下がっている。スピーチなどの表現活動や教科書本文の内容理解の後に質問したり感想を述べたりする活動を行う機会が増えてきたことが要因の一つと考えられる。

③指示に従って簡単な英文を書く問題

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
H24 問10(2)	自分の伝えたいことを適切な表現を用いて書く。  (記述式)	canを使って自分ができることを表現する英文を書く。	70.2	8.0	65.0	45.0
H23 問9(1)			74.4	6.7		
H22 問8(1)			71.5	7.0		

図11 H24年度(中学2年生問10(2))、H23年度(中学2年生問9(1))、H22年度(中学2年生問8(1))正答率の経年比較  
 中学2年生が、canを使って自分ができることを英語で書く問題である。平成22・23・24年度共に「十分達成」の基準を上回っている。無解答率も10.0を下回っており、他の記述式問題よりも低い。簡単な自己表現の英作文を書く力は付いていると言える。  
 以上のことから、「書くこと」については「要努力」の生徒の割合が少なくなり、まとまった英文、読んだ文(文章)に答える英文、簡単な英文などを書く力が少しずつ身に付いてきたと考えられる。

ウ 設問ごとに見た傾向と指導改善の手立て

平成24年度の調査で、正答率が低かった問題のうち、「簡単な自己表現」「複数の情報を結び付けて判断する聞き取り」「疑問詞を含む質問への応答」について分析を行った。

傾向1 **英語の質問を読んで、自分のことを簡単な英語で書くことには課題がある。**

[中学2年生 大問10(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
大問10 (3)	自分の伝えたいことを適切な表現を用いて書く。 (記述式)	“What do you do after dinner?”に答えを英文で書く。	34.3	26.2	60.0	40.0

○ 解答状況

疑問詞で始まる疑問文に対して“I study English.”や“I watch TV.”と答える問題である。「おおむね達成」の期待正答率40.0に対し県正答率は34.3で、5.7ポイント下回っている。無解答率は26.2である。単純に比較はできないが、平成23年度の中学2年生の類似問題(大問9(4)“What do you do after school?”)と比較すると、正答率が24.2ポイント下がり、無解答率が6.0ポイント上がっている。中学1年生で学習したwhat, who, whose, whenなどをそれぞれ区別して理解できていないことや「主語+動詞+目的語」の語順で正しく答えることができなかったことが要因と考えられる。

○ 指導改善の手立て

普段の授業の冒頭で“What day is it today?”という疑問詞を含む質問はよく行われている。このときに“What do you do after dinner?”という質問を意図的に行うことから始めるとよい。他に、“What sports do you like?”“When do you watch TV?”など複数の疑問詞を用いて生徒同士で問答する活動を取り入れたり、「私の一日」というテーマで原稿を書かせ、スピーチ活動を行うことも定着を図るのに効果的である。

[中学3年生 大問9(2)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
大問9 (2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く。 (記述式)	“What did you do last Sunday?”に答えを英文で書く。	46.7	13.1	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対し県正答率は46.7で、6.7ポイント上回っている。無解答率は13.1である。平成23年度の同問題(大問9(3))の正答率42.2(無解答率18.7)と比較すると、正答率が上がり無解答率が下がっており、改善の傾向が見えるが、依然として中学3年生の2人に1人はこの質問に適切な表現を用いて書けていない。疑問詞で始まる疑問文に対して「主語+動詞(過去形)+目的語」で答えることができなかったことが要因と考えられる。

○ 指導改善の手立て

英語の質問に答える言語活動として、スピーチ活動が考えられる。中学1年生の前半の自己紹介スピーチでは、Do you ...?やWhat's your ...?などの質問をしながら定着を図り、後半では好きな友達や好きなものの紹介スピーチを通してWhen do you ...?などの疑問詞を実際に使いながら定着を図ることができる。また、中学2年生の活動では、友達の日記を読んで、そのことに質問をして、答える活動なども考えられる。このように、書いて終わる活動から、書いたものを次のコミュニケーション活動につなげて定着を図る活動へ発展することが期待される。

傾向2 **聞き取った複数の情報を結び付けて理解し、判断する力に課題がある。**

[中学2年生 大問4(3)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
大問4 (3)	対話を聞いて、具体的な 事柄を聞き取る。  (選択式)	バスが何時に来るか、現在時刻と待ち時間から判断する。	15.8	0.4	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対し県正答率は15.8で24.2ポイント下回っている。「It's 10:15 now. So, please wait about 20 minutes.」から、10:35にバスが来ると判断しなければならないが、聞こえてくる2つの数字を関連付けず、そのままどちらかの数字を選んだことが要因と考えられる。

○ 指導改善の手立て

実際のコミュニケーションの場面では、「今10時15分です。20分後に集合してください。」というような複数の情報を結び付けて行動する場面がよくある。指導に当たっては、YesやNoで答えられる簡単な問いだけでなく、複数の情報を聞いて判断させるような問いを意識して設定する必要がある。例えば、「Hideki likes English. Takako likes science.」の後に「Does Hideki like English?」よりも「Who likes English, Hideki or Takako?」の方がより思考が深まる。「ヒデキが英語、タカコが理科」という聞き取った2つの情報を結び付けて、適切に答えるにはどうすればよいか考える場面があるからである。

[中学3年生 大問4(1)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
大問4 (1)	相手の意向を聞いて理解し、適切に応じる。  (選択式)	「サッカーしよう。」という誘いに適切に答える。	34.2	0.7	60.0	40.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率40.0に対し県正答率は34.2で5.8ポイント下回っている。相手が「Let's play soccer!」と誘っているが、選択肢に「Yes, let's.」がなく、同じような意味で別の表現を類推することができなかったと考えられる。

○ 指導改善の手立て

時間を知りたい人から、「Do you have a watch?」と尋ねられたとき、文法的に言えば「Yes, I do.」と言って時刻を伝えるが、「Sure.」や「Sorry.」と答える場合もある。型どおりの基本的な応答について練習して定着を図ることと併せて、複数の応答がある場面を生徒に考えさせる場面をつくる必要がある。

傾向3 **疑問詞で始まる質問に適切な表現を用いて書くことに課題がある。**

[中学2年生 大問7(2)]

○ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
大問7 (2)	対話文を読んで、適切な表現を書く。  (記述式)	「She's over there.」と答える質問の英文を書く。	27.3	31.4	65.0	45.0

○ 解答状況

「おおむね達成」の期待正答率45.0に対し県正答率は27.3で17.7ポイント下回っている。「over there」が「あちら」という場所を表す語だという知識がないこと、「She is ...」という答え方の形式から「Who is ...?」と混同したこと、または「Where」のつづりの誤りとその後に続く文構造の誤りが誤答の要因と考えられる。

○ 指導改善の手立て

中学1年生では、主な疑問詞を知識として学習するが、実際のコミュニケーションで使用する場面が不足しがちである。したがって、who, what, when, whereなど複数の疑問詞を積極的に使用するコミュニケーション活動が中学1年生の後半に求められる。例えば、「Who am I?」のクイズであれば、「Where do I see you?」や「Who is your friend?」などの疑問詞を用いた質問が生徒から出され、コミュニケーションを楽しみながら、疑問詞の定着を図ることができる。

エ これからの指導に向けて

平成24年度から英語の授業が全学年で週3時間から4時間に増加した。指導すべき文法事項は従来のものであり、コミュニケーション能力の育成を目指した言語活動の充実が今まで以上に求められている。指導に当たっては、増えた1時間を文法事項の説明やワークブックでの文法の確認に充てるのではなく、スピーチ活動やインタビュー活動の時間を充てる工夫が必要である。具体的には次の3点に留意して指導を行いたい。

(ア) 「書くこと」を活動の中に関連付けた指導

週4時間になり、授業中に書く活動を取り入れやすくなった。例えば、自己紹介は、友達のスピーチを聞いて拍手をして終わっていたが、これからは聞いた内容をメモして他の聞いていない友達に伝えたり、友達のスピーチ原稿を読んで、質問を書いたりする活動ができるようになる。書くことで「自分の英文が正しいか」など検証しながら学習が深まっていく効果もあり、「話す→書く」「読む→書く」など書くことを関連付けて指導することが望まれる。

(イ) 活動を行いながら文法の定着を図る指導

三単現のSは脱落しても、コミュニケーションが成立することは多い。関係代名詞を使わなくても、2文で表現することで代用できる。これらの文法説明は、丁寧に説明すればするほど時間が掛かり、実際に学習した文法を使って言語活動を行う時間が不足しがちである。指導に当たっては、文法説明を最小限にして、友達紹介とその問答の時間に充てたり、関係代名詞を実際に使っているインターネットのニュース記事を読む時間に充てたりするなど、実際に活動を行いながら文法の定着を図ることが大切である。

(ウ) 生徒が思考・判断する場面を活動の中に取り入れる工夫

“Thank you.”に対して“You're welcome.”と答える基本的な応答については、生徒が場面に応じてどのように応答すべきか考える必要がない。しかし、対話の中で“Thank you for …”の後にどう続ければよいか？”という発問であれば、前後の文脈から判断し、“Thank you for your present.”や“Thank you for coming.”など適切な応答を考える必要がある。このように答えが1つではない活動を1時間の中に1つ取り入れることで、思考力・判断力を育てる必要がある。

オ 授業実践に参考となるリンク



最終更新日：2012-10-15

## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

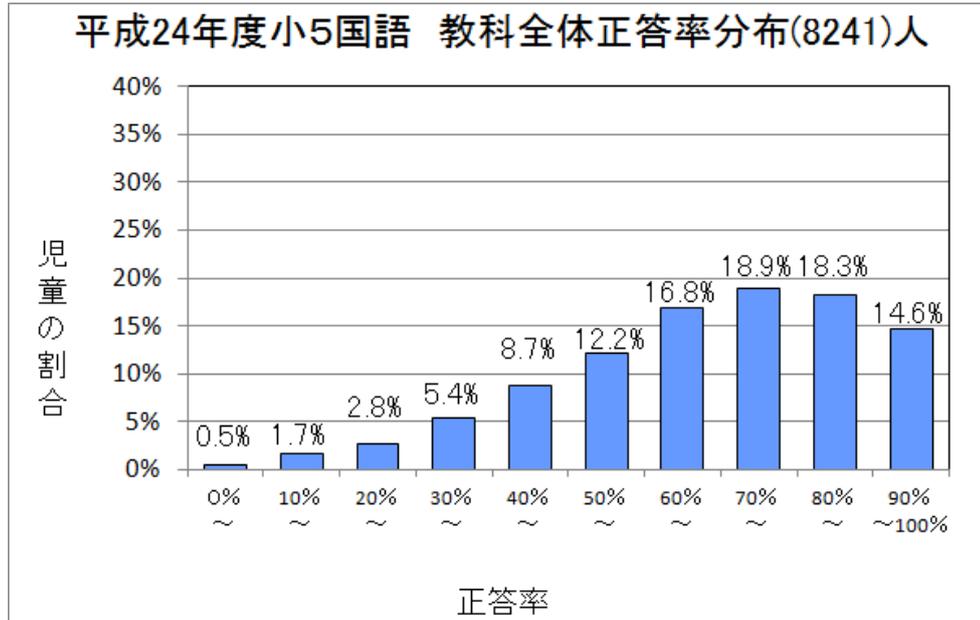
[Web報告書もくじ](#) > Ⅲ 各教科の調査結果の分析 > 正答率ごとの分布

### Ⅲ 各教科の調査結果の分析

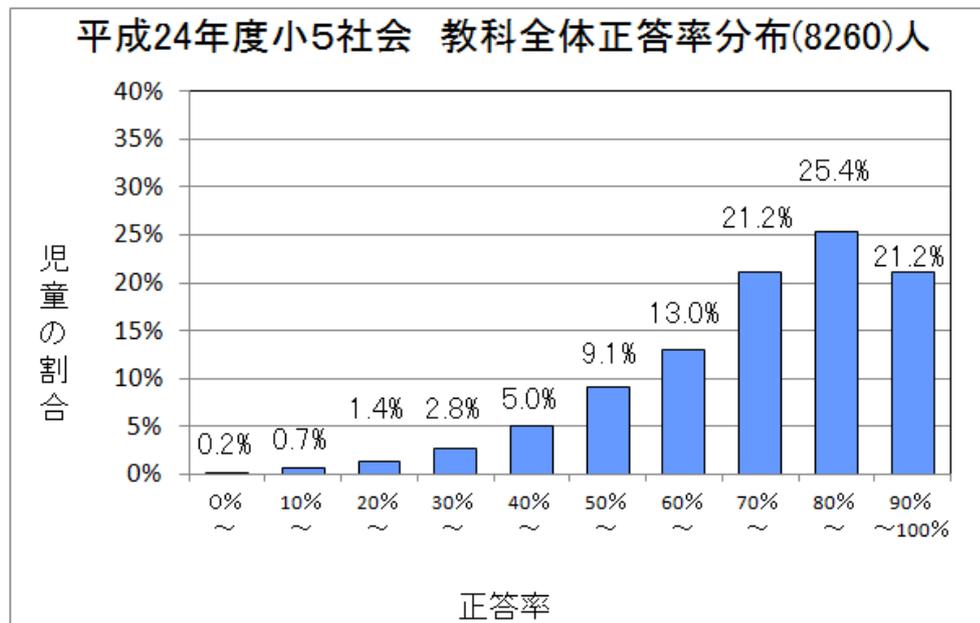
#### 正答率ごとの分布状況

#### 1 正答率ごとの分布(小学校)

##### ○ 小学校第5学年

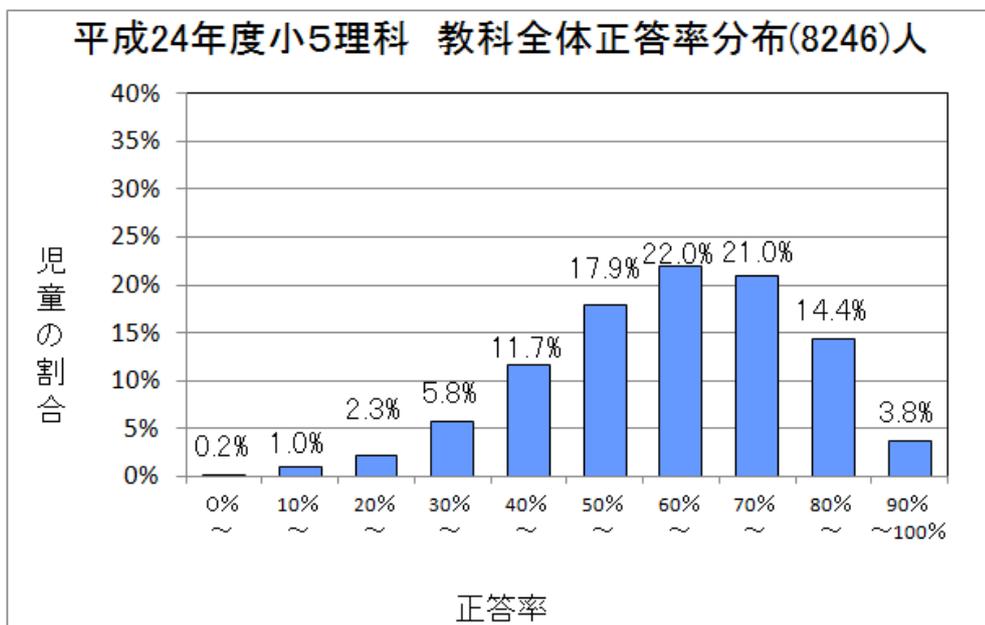
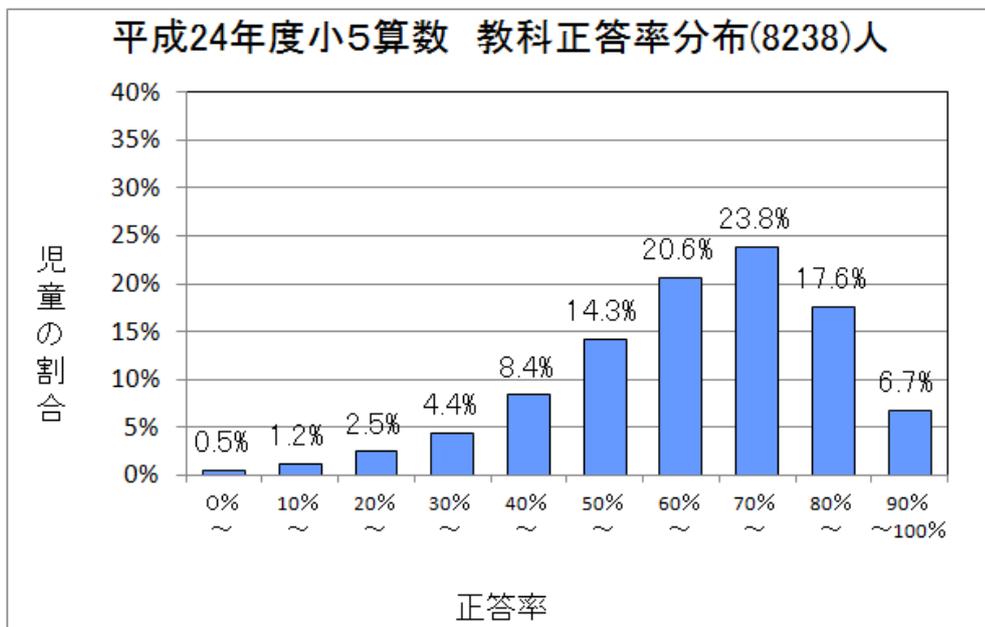


[→全体の概要に戻る](#)



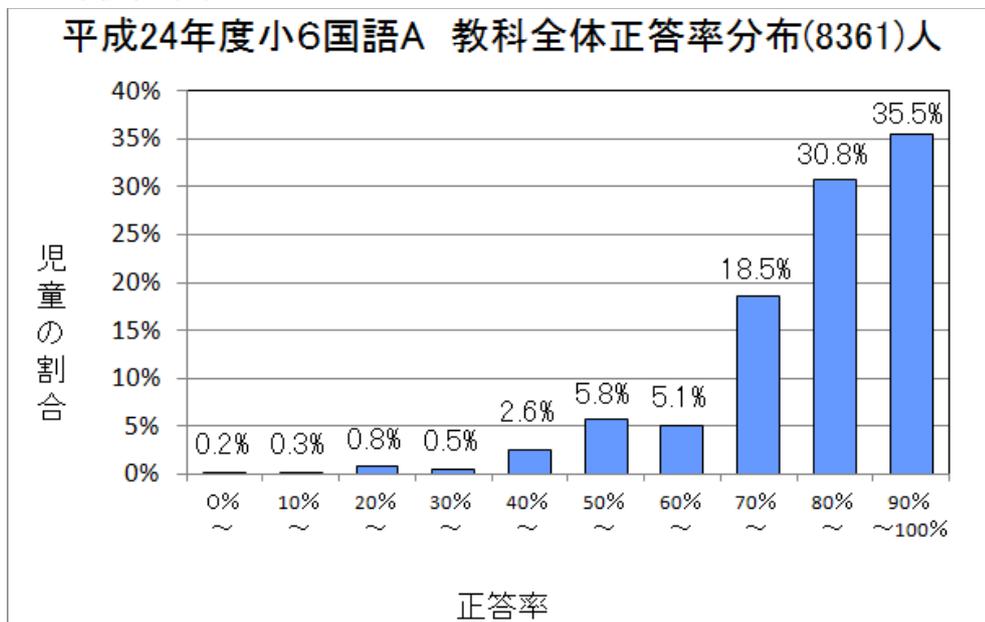
[→全体の概要に戻る](#)

[→全体の概要に戻る](#)



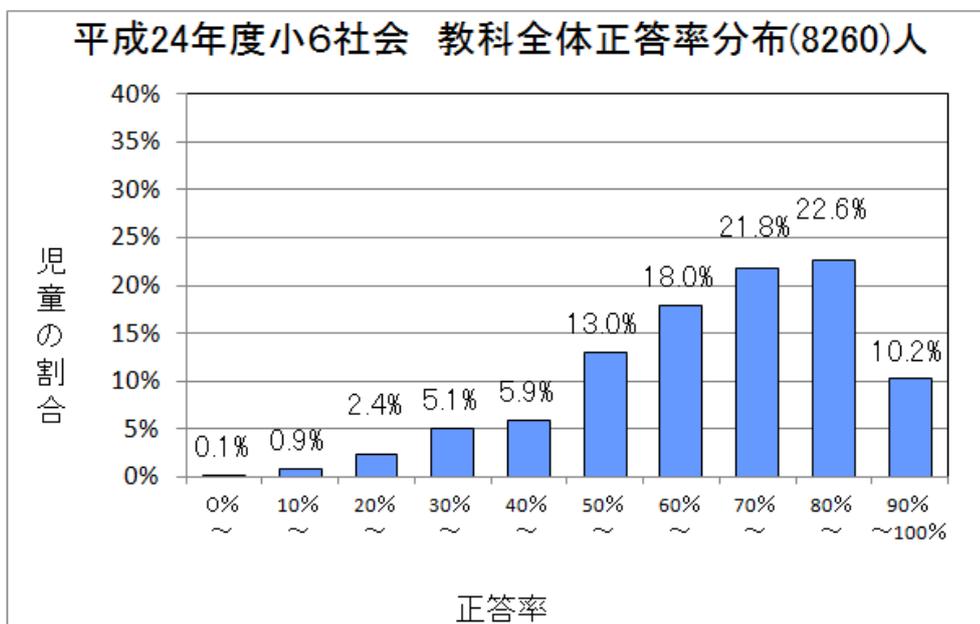
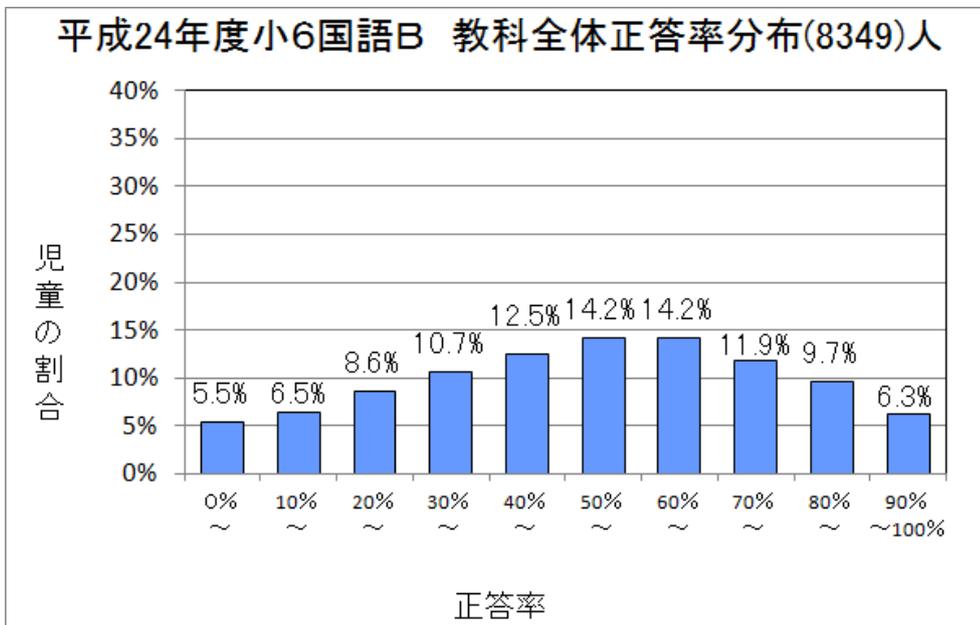
[→全体の概要に戻る](#)

○ 小学校第6学年

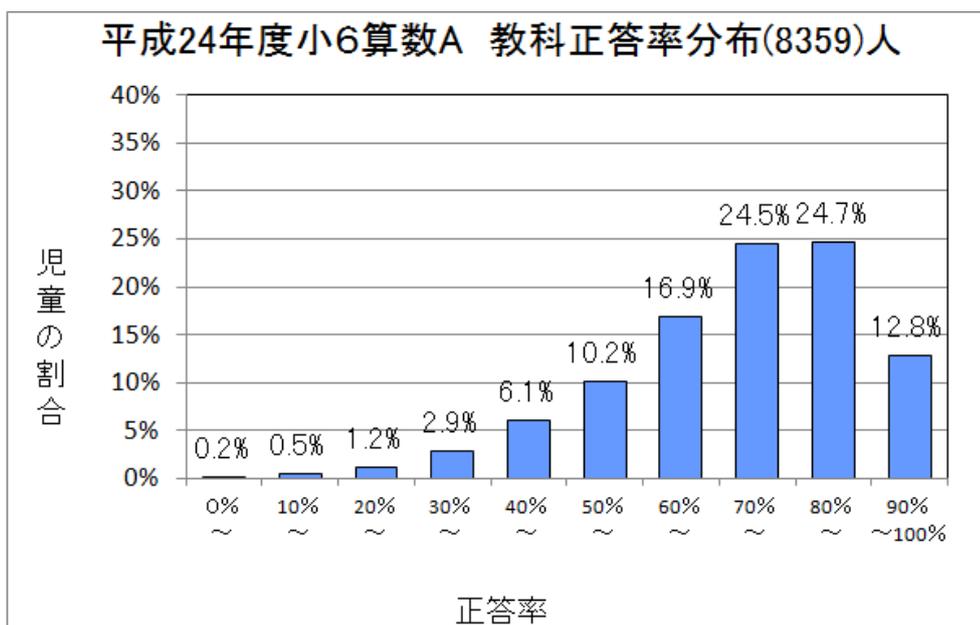


[→全体の概要に戻る](#)

[→全体の概要に戻る](#)

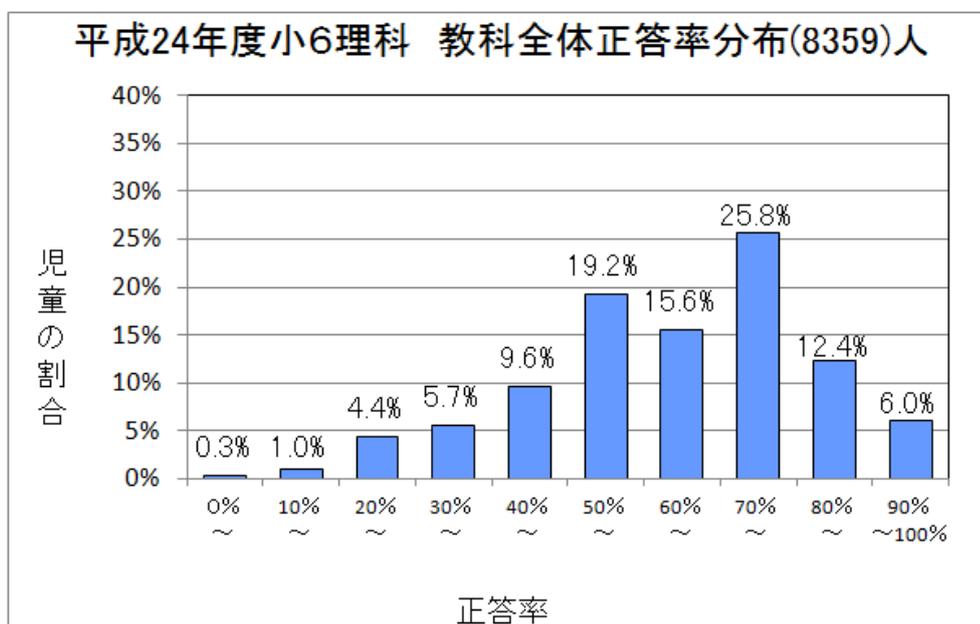
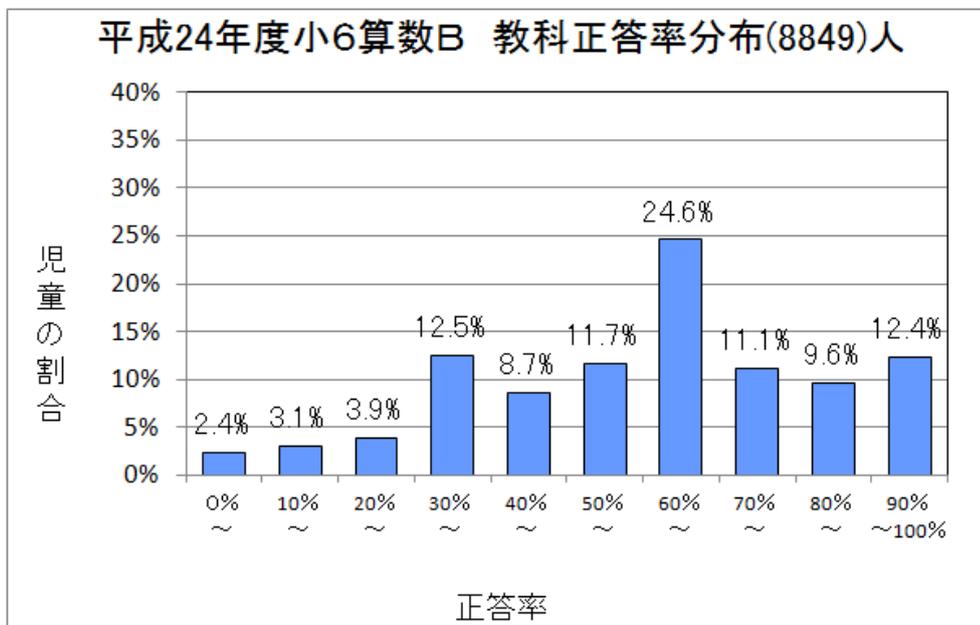


[→全体の概要に戻る](#)



[→全体の概要に戻る](#)

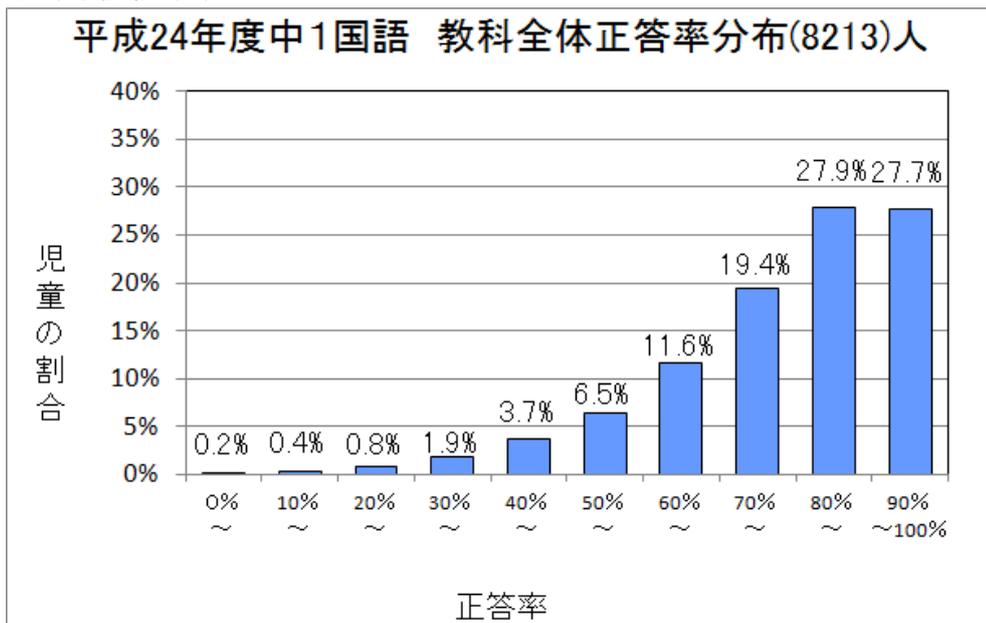
[→全体の概要に戻る](#)



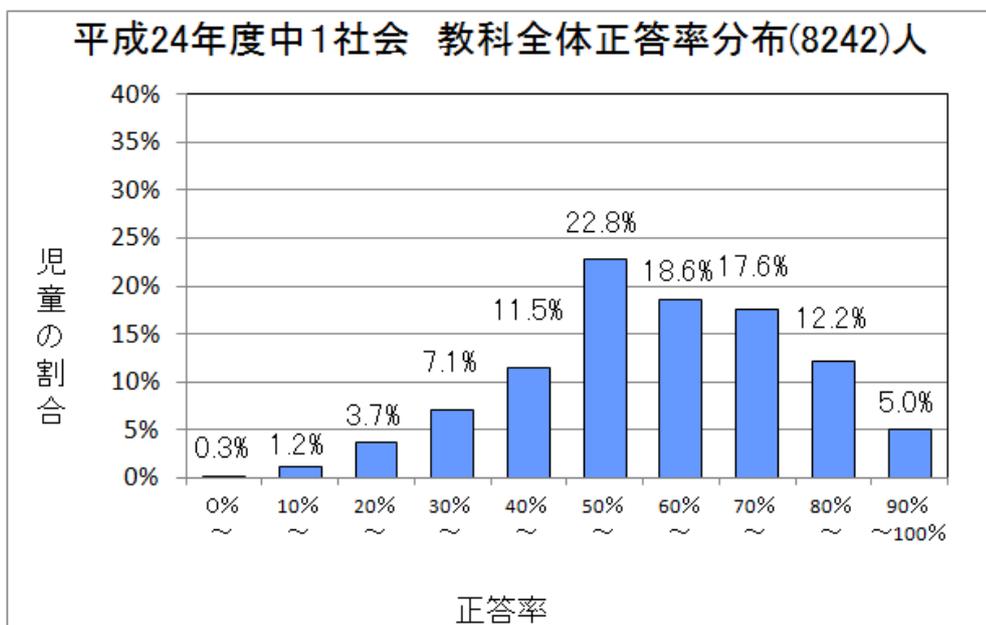
[→全体の概要に戻る](#)

2 正答率ごとの分布(中学校)

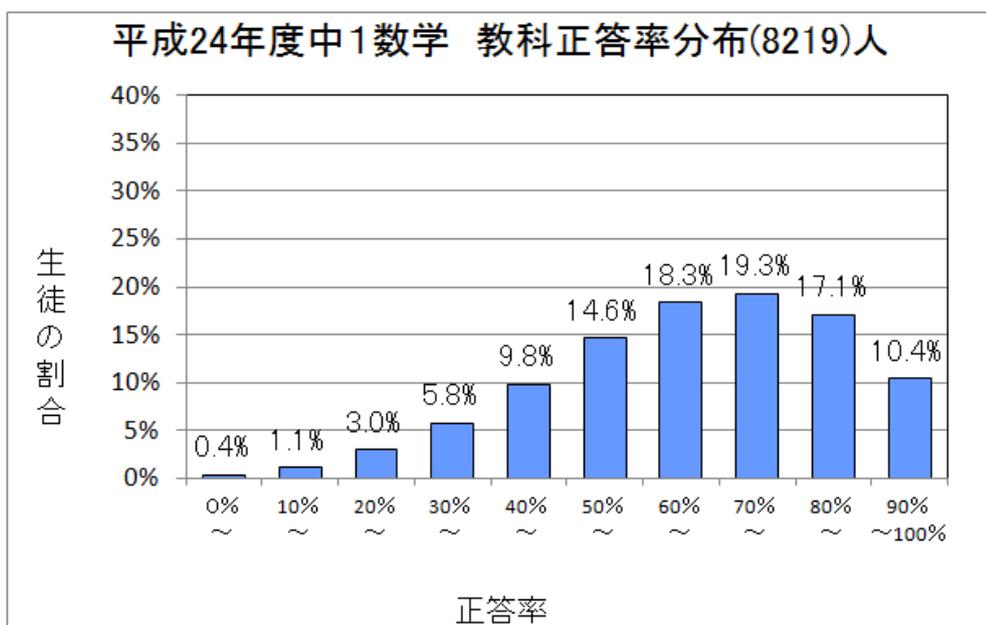
○ 中学校第1学年



[→全体の概要に戻る](#)

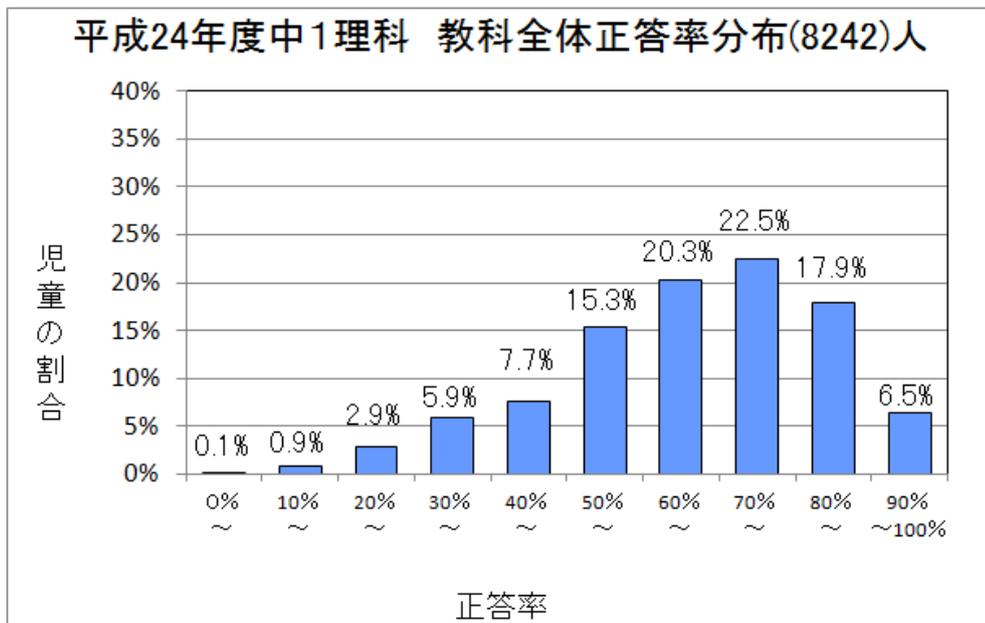


[→全体の概要に戻る](#)

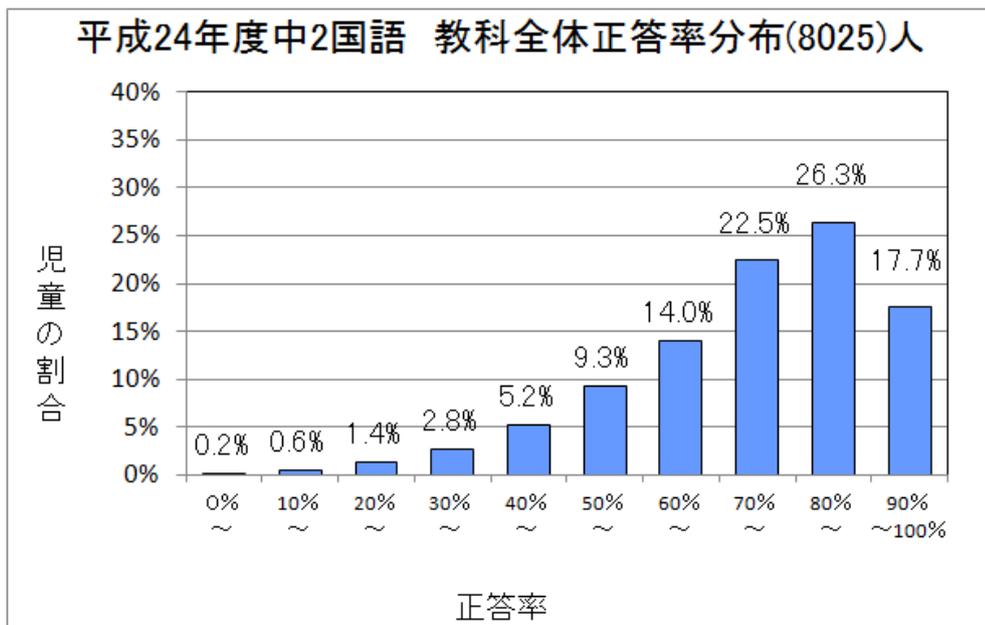


[→全体の概要に戻る](#)

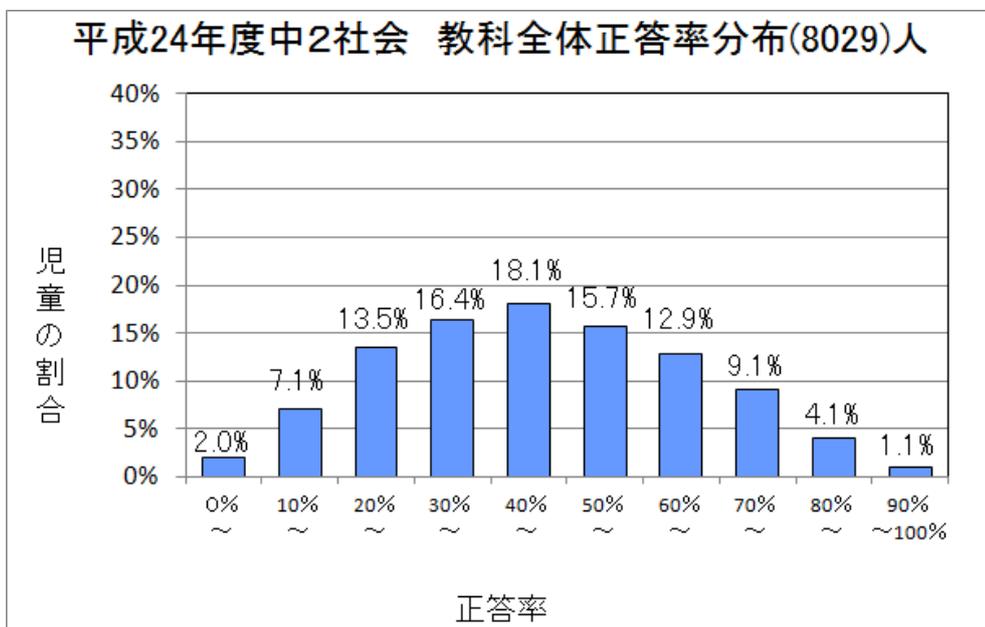
[→全体の概要に戻る](#)



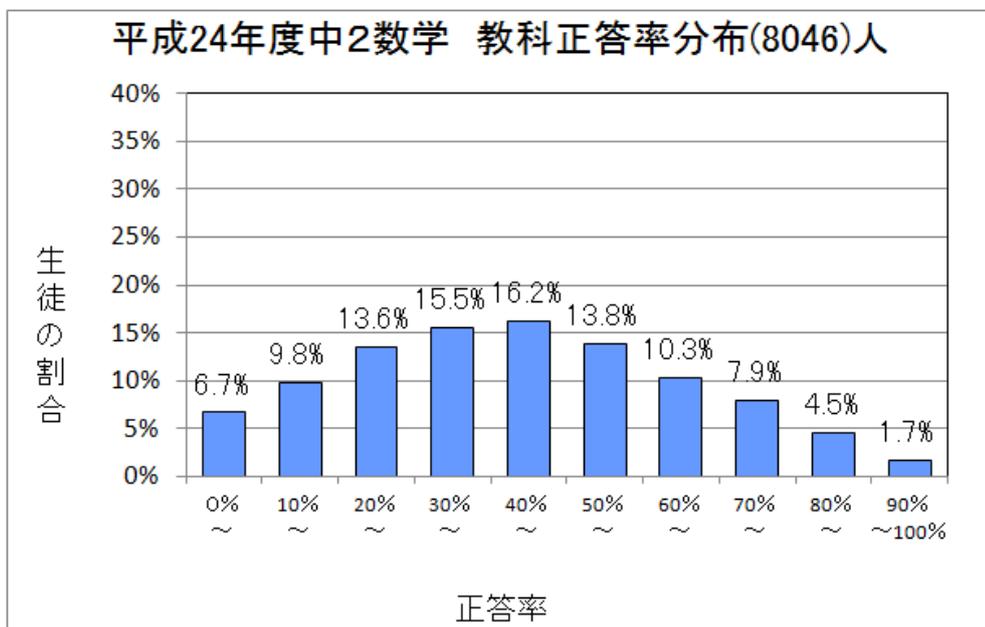
○ 中学校第2学年



[→全体の概要に戻る](#)

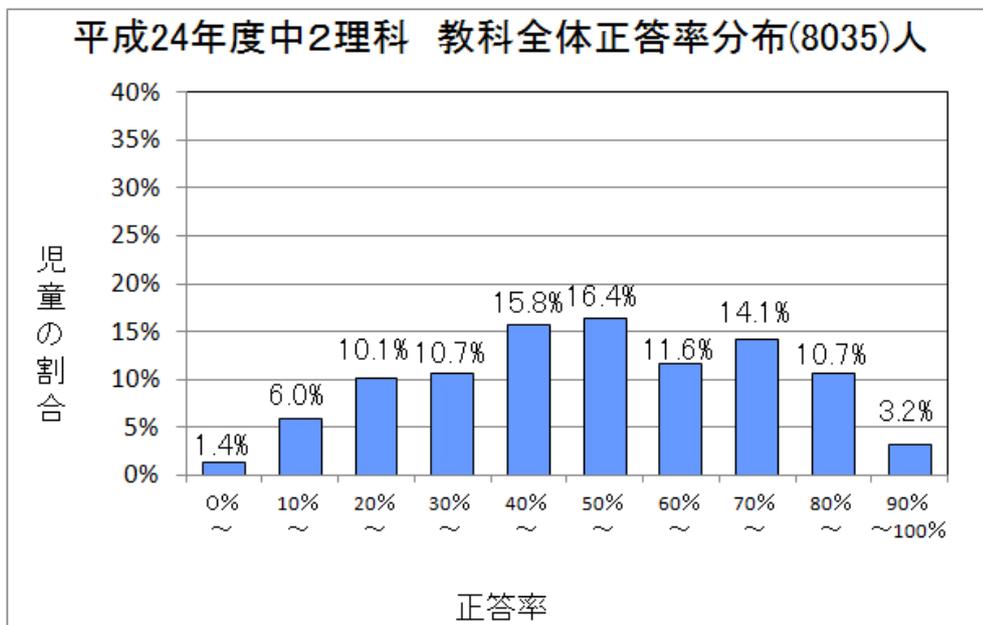


[→全体の概要に戻る](#)

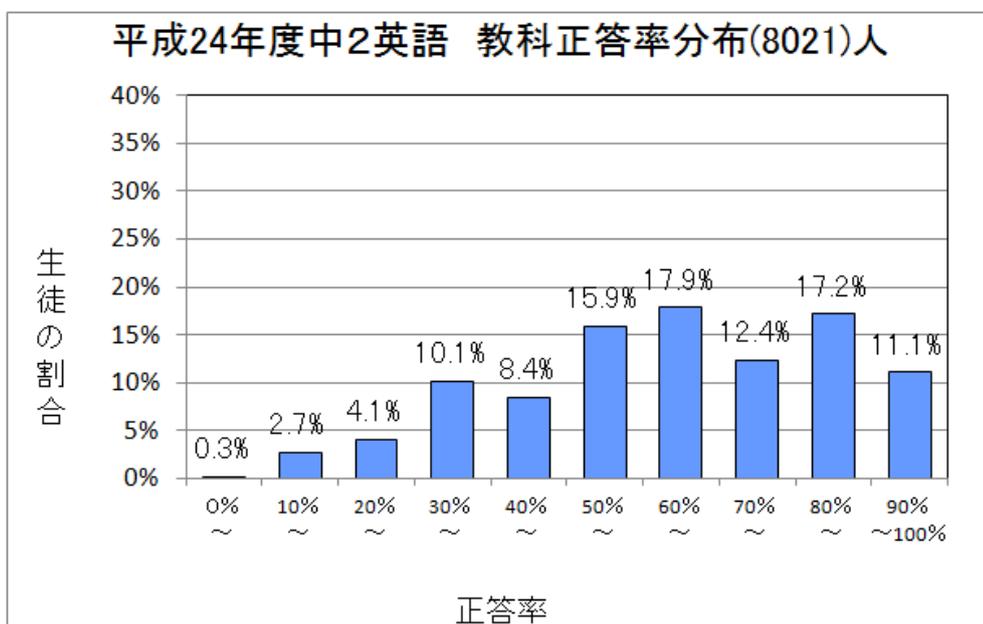


[→全体の概要に戻る](#)

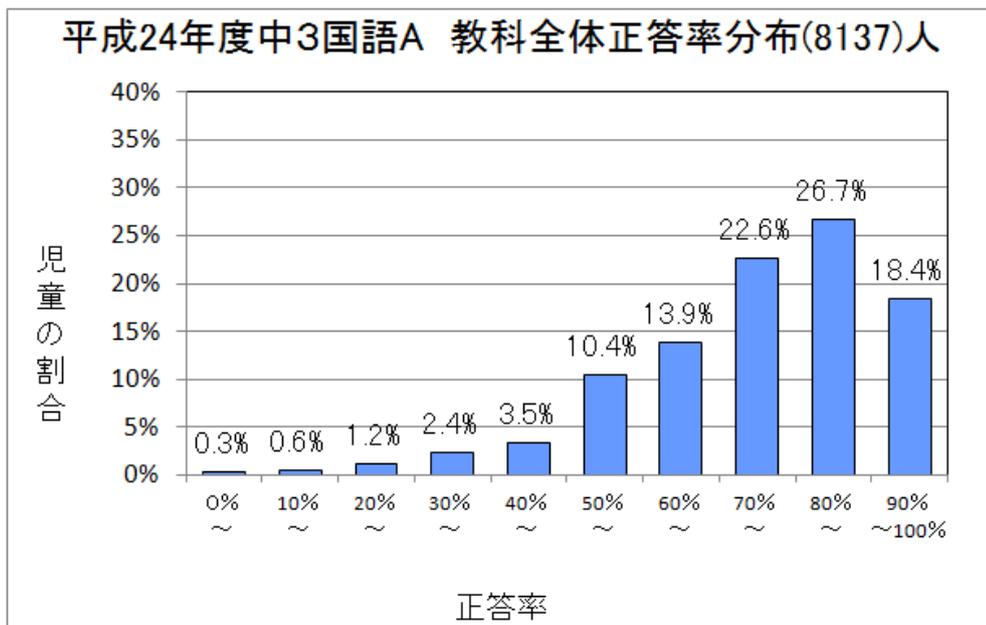
[→全体の概要に戻る](#)



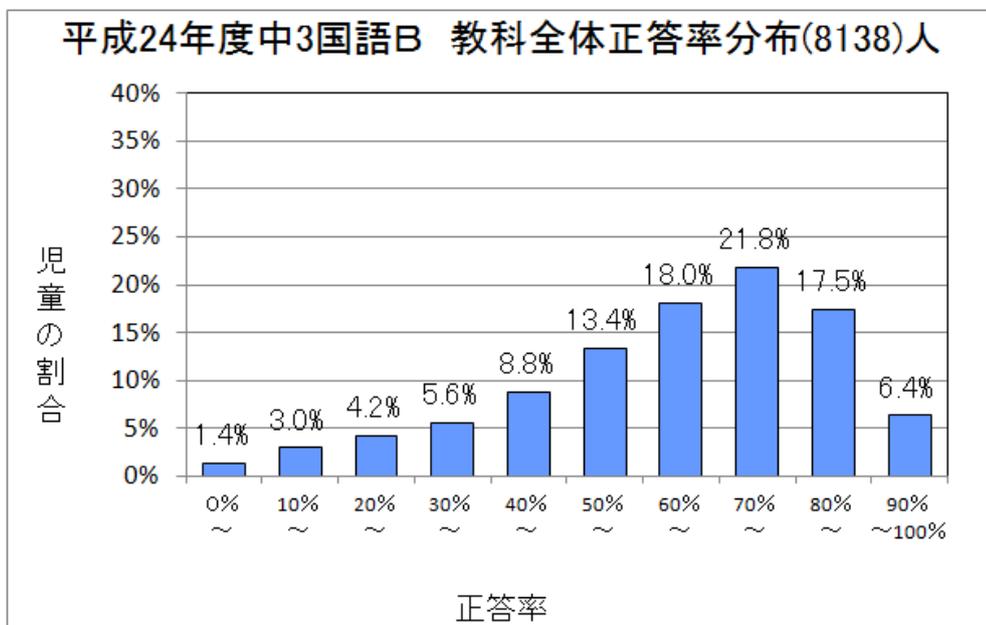
[→全体の概要に戻る](#)



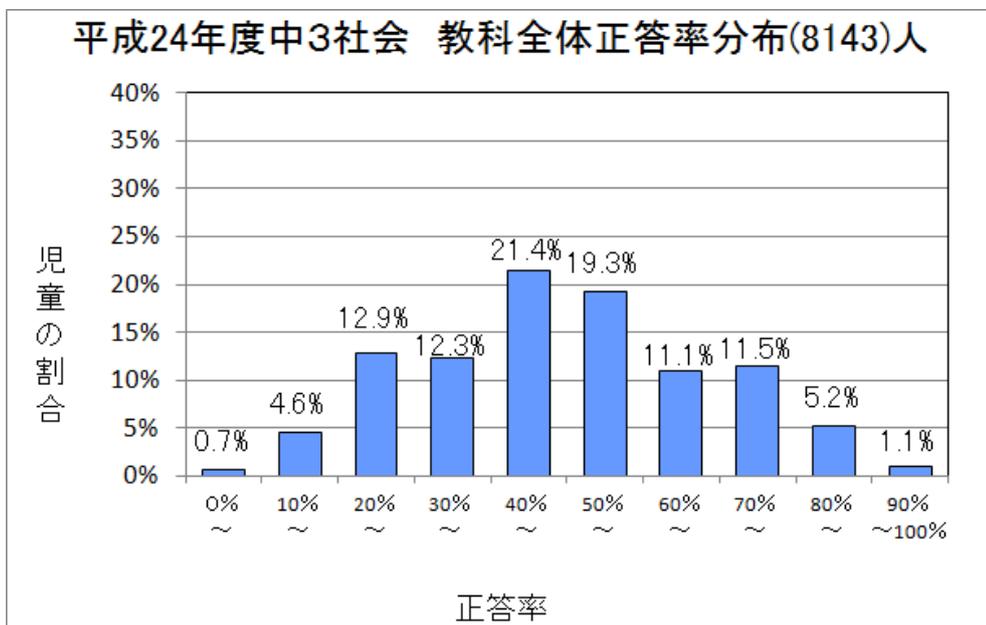
○ 中学校第3学年



[→全体の概要に戻る](#)

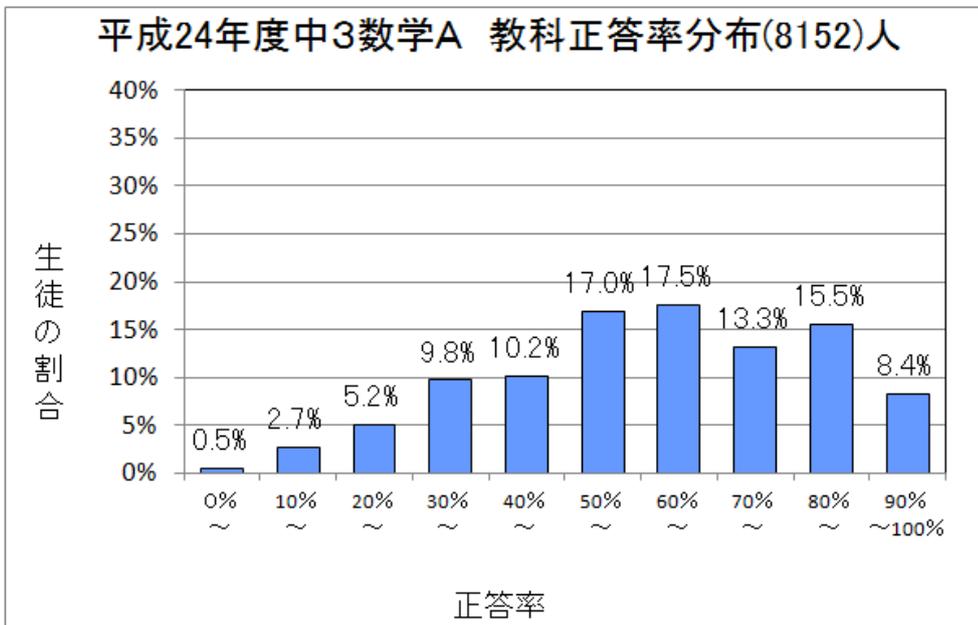


[→全体の概要に戻る](#)

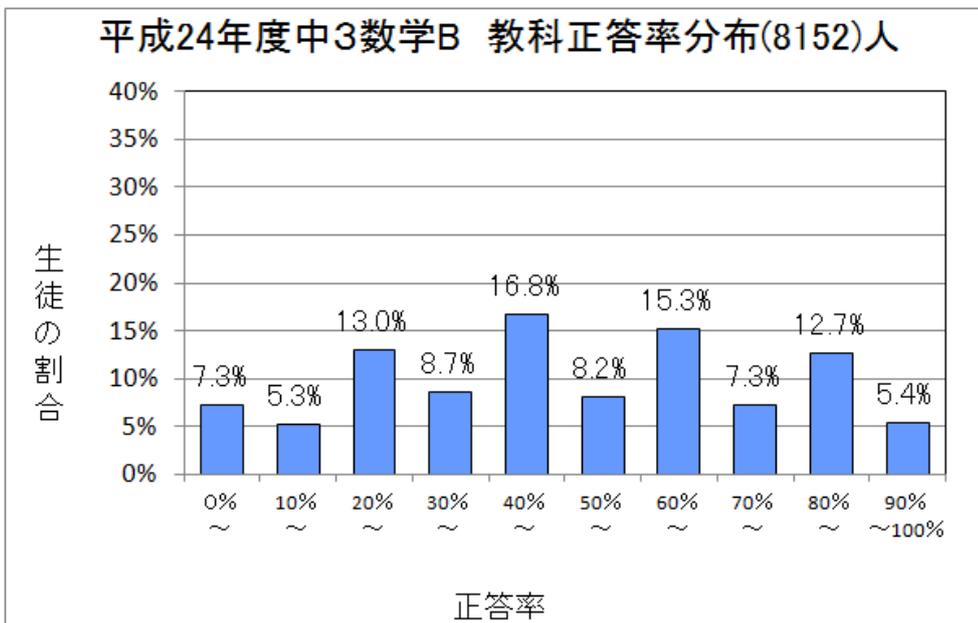


[→全体の概要に戻る](#)

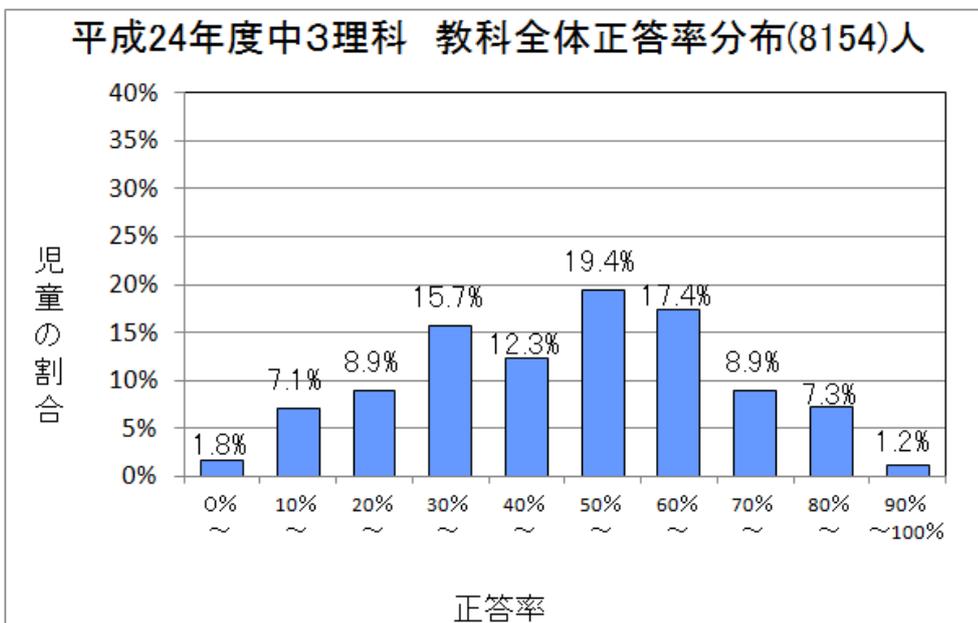
[→全体の概要に戻る](#)



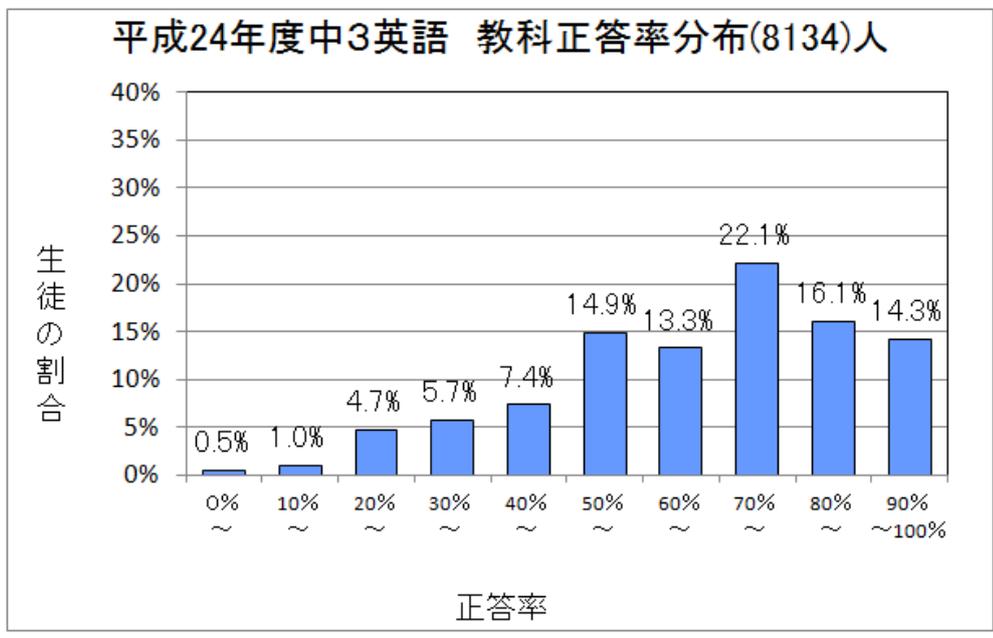
[→全体の概要に戻る](#)



[→全体の概要に戻る](#)



[→全体の概要に戻る](#)



最終更新日: 2012-10-15

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅲ 各教科の調査結果の分析 > 評価の観点別達成状況

## Ⅲ 各教科の調査結果の分析

### 評価の観点別達成状況

#### 評価の観点別に見た到達基準との比較

各学年ごとに評価の観点別の平均正答率について到達基準との比較を示す。

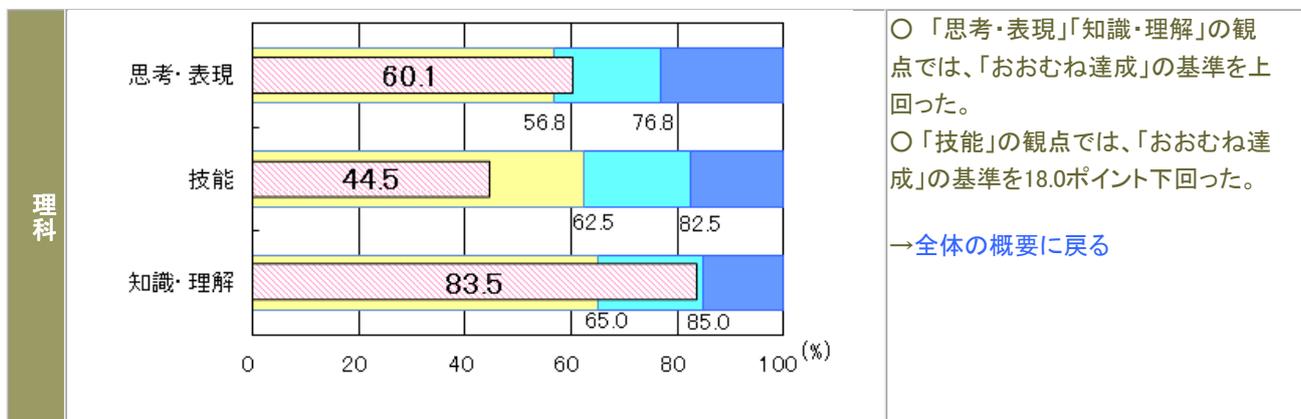
(凡例) :要努力(おおむね達成の基準を下回る) :おおむね達成 :十分達成

#### ○ 小学校第5学年

	到達基準との比較	概要
国語	話す・聞く	○ 「話す・聞く」「書く」「知識・理解・技能」の観点では、「おおむね達成」の基準を上回った。 ○ 「読む」の観点では、「おおむね達成」の基準を7.2ポイント下回った。 → <a href="#">全体の概要に戻る</a>
	書く	
	読む	
	知識・理解・技能	
社会	思考・判断・表現	○ 全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回った。 → <a href="#">全体の概要に戻る</a>
	技能	
	知識・理解	
算数	考え方	○ 「技能」「知識・理解」の観点では「おおむね達成」の基準を上回った。 ○ 「考え方」の観点では、「おおむね達成」の基準を14.6ポイント下回った。 → <a href="#">全体の概要に戻る</a>
	技能	
	知識・理解	
理科	思考・表現	○ 「思考・表現」、「知識・理解」の観点で「おおむね達成」の基準を上回った。 ○ 「技能」の観点で「おおむね達成」の基準を16.3ポイント下回った。 → <a href="#">全体の概要に戻る</a>
	技能	
	知識・理解	

○ 小学校第6学年

	到達基準との比較	概要
国語 A		<p>○ 「知識・理解・技能」の観点は、「十分達成」の基準を4.9ポイント上回った。</p> <p>○ 「話す・聞く能力」「読む能力」の観点では、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>○ 「関心・意欲・態度」「書く能力」の観点では、「おおむね達成」の基準を下回った。</p> <p>→ <a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
		<p>○ 「話す・聞く能力」「知識・理解・技能」の観点では、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>○ 「関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」の観点では、「おおむね達成」の基準を下回った。</p> <p>→ <a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
		<p>○ 「技能」は「十分達成」の基準を1.3ポイント上回った。</p> <p>○ 「知識・理解」の観点は「おおむね達成」の基準を2.9ポイント上回った。</p> <p>→ <a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
		<p>○ 「考え方」と「知識・理解」の観点は、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>○ 「技能」の観点では、「十分達成」の基準を2.8ポイント上回った。</p> <p>→ <a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
		<p>○ 全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→ <a href="#">全体の概要に戻る</a></p>



○ 中学校第1学年

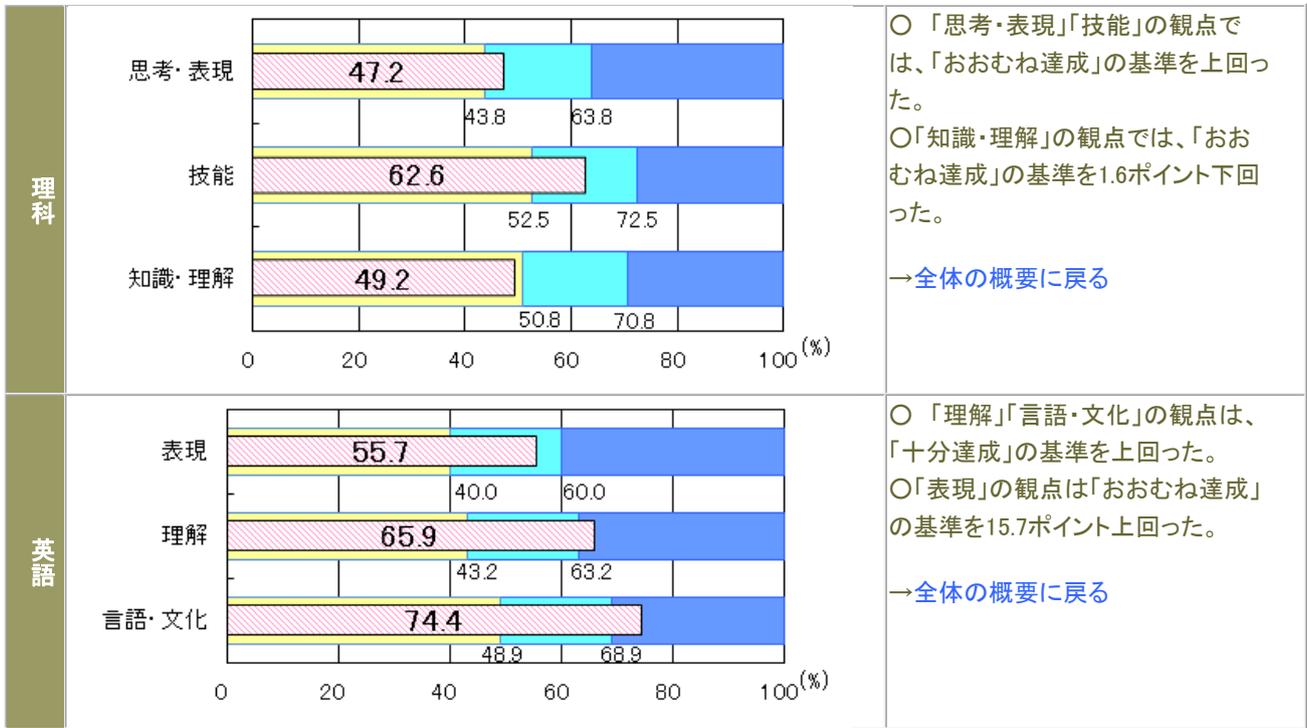
	到達基準との比較	概要
国語	<p>話す・聞く</p> <p>77.4</p> <p>62.0 82.0</p>	<p>○ 「知識・理解・技能」の観点では「十分達成」の基準を2.0ポイント上回った。</p> <p>○ 「話す・聞く」「書く」「読む」の観点では「おおむね達成」を上回った。</p> <p>→ <a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	<p>書く</p> <p>77.6</p> <p>62.0 82.0</p>	
	<p>読む</p> <p>62.4</p> <p>56.7 76.7</p>	
	<p>知識・理解・技能</p> <p>83.7</p> <p>61.7 81.7</p>	
社会	<p>思考・判断・表現</p> <p>51.0</p> <p>48.0 68.0</p>	<p>○ 全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→ <a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	<p>技能</p> <p>66.7</p> <p>60.7 80.7</p>	
	<p>知識・理解</p> <p>62.5</p> <p>60.8 80.8</p>	
数学	<p>考え方</p> <p>42.7</p> <p>51.4 71.4</p>	<p>○ 「技能」「知識・理解」の観点では、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>○ 「考え方」の観点では、「おおむね達成」の基準を8.7ポイント下回った。</p> <p>→ <a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	<p>技能</p> <p>75.1</p> <p>60.8 80.8</p>	
	<p>知識・理解</p> <p>74.0</p> <p>60.5 80.5</p>	
理科	<p>思考・表現</p> <p>68.7</p> <p>55.4 75.4</p>	<p>○ 全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→ <a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	<p>技能</p> <p>66.6</p> <p>61.1 81.1</p>	
	<p>知識・理解</p> <p>63.5</p> <p>62.0 82.0</p>	

○ 中学校第2学年

	到達基準との比較	概要
国語	話す・聞く	<p>○ 「話す・聞く」「読む」「知識・理解・技能」の観点では、「十分達成」の基準を上回った。</p> <p>○ 「書く」の観点では、「おおむね達成」の基準を14.0ポイント上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	書く	
	読む	
	知識・理解・技能	
社会	思考・判断	<p>○ 「技能・表現」の観点では、「おおむね達成」の基準を4.3ポイント上回った。</p> <p>○ 「思考・判断」「知識・理解」の観点では、「おおむね達成」の基準を下回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	技能・表現	
	知識・理解	
数学	見方や考え方	<p>○ 「知識・理解」の観点で「おおむね達成」の基準を2.3ポイント上回った。</p> <p>○ 「見方や考え方」「表現・処理」の観点は、「おおむね達成」の基準を下回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	表現・処理	
	知識・理解	
理科	思考・表現	<p>○ 「思考・表現」「知識・理解」の観点で「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>○ 「技能」の観点を「おおむね達成」の基準を6.2ポイント下回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	技能	
	知識・理解	
英語	表現	<p>○ 全ての観点「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	理解	
	言語・文化	

○ 中学校第3学年

	到達基準との比較	概要		
国語A	<p>話す・聞く: 87.5 (52.5, 72.5)</p> <p>書く: 85.8 (52.5, 72.5)</p> <p>読む: 63.6 (54.0, 74.0)</p> <p>知識・理解・技能: 73.5 (51.9, 71.9)</p>	<p>○ 「話す・聞く」「書く」「知識・理解・技能」の観点は、「十分達成」の基準を上回った。</p> <p>○ 「読む」の観点は「おおむね達成」の基準を9.6ポイント上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>		
	国語B	<p>関心・意欲・態度: 55.1 (36.7, 56.7)</p> <p>話す・聞く: 65.7 (40.0, 60.0)</p> <p>書く: 62.0 (38.8, 58.8)</p> <p>読む: 61.7 (43.0, 63.0)</p>	<p>○ 「話す・聞く」「書く」の観点は、「十分達成」の基準を上回った。</p> <p>○ 「読む」「関心・意欲・態度」の観点は、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>	
		数学A	<p>表現・処理: 70.6 (55.0, 75.0)</p> <p>知識・理解: 56.2 (53.9, 73.9)</p>	<p>○ 全ての観点「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
			数学B	<p>見方や考え方: 41.9 (42.9, 62.9)</p> <p>表現・処理: 73.8 (52.5, 72.5)</p> <p>知識・理解: 88.9 (55.0, 75.0)</p>
社会		<p>思考・判断: 32.1 (37.0, 57.0)</p> <p>技能・表現: 53.1 (48.8, 68.8)</p> <p>知識・理解: 48.3 (51.4, 71.4)</p>		<p>○ 「技能・表現」の観点では、「おおむね達成」の基準を4.3ポイント上回った。</p> <p>○ 「思考・判断」「知識・理解」の観点では、「おおむね達成」の基準を下回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>



○「思考・表現」「技能」の観点では、「おおむね達成」の基準を上回った。  
 ○「知識・理解」の観点では、「おおむね達成」の基準を1.6ポイント下回った。  
 →[全体の概要に戻る](#)

○「理解」「言語・文化」の観点は、「十分達成」の基準を上回った。  
 ○「表現」の観点は「おおむね達成」の基準を15.7ポイント上回った。  
 →[全体の概要に戻る](#)

最終更新日：2012-10-15

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅲ 各教科の調査結果の分析 > 内容・領域別達成状況

## Ⅲ 各教科の調査結果の分析

### 内容・領域別達成状況

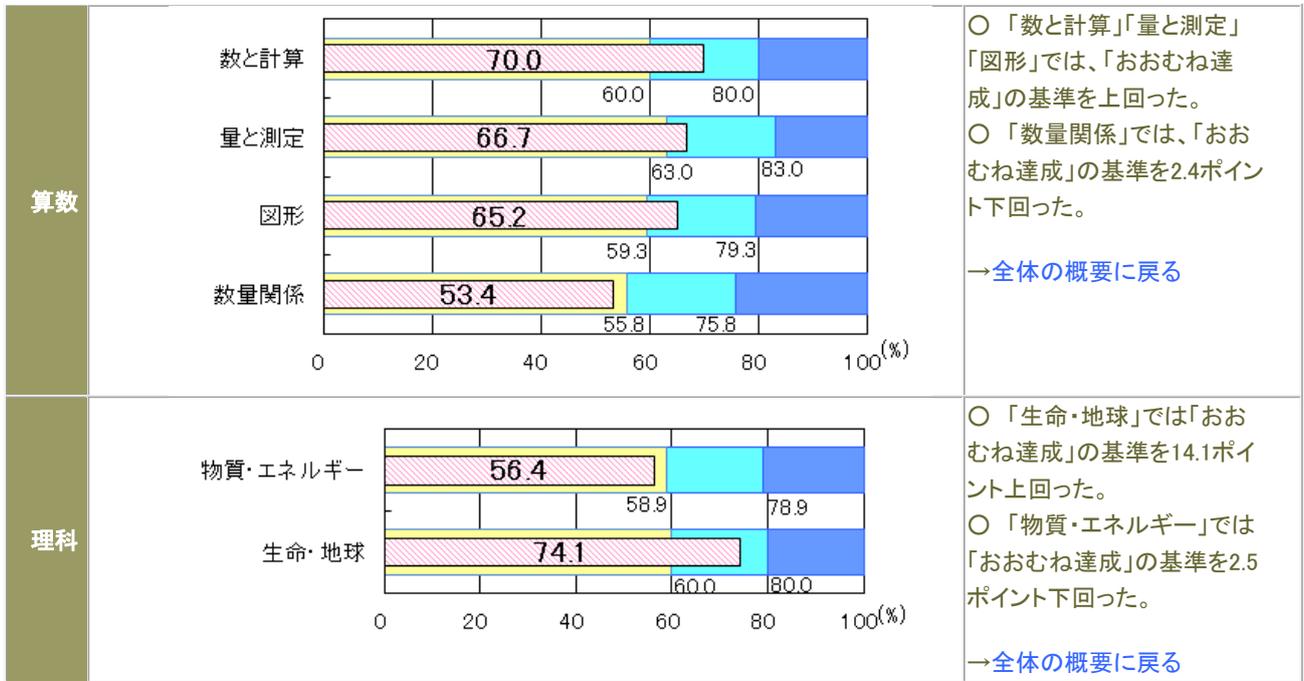
#### 内容・領域別に見た到達基準との比較

各学年ごとに内容・領域別の平均正答率について到達基準との比較を示す。

(凡例) : 要努力(おおむね達成の基準を下回る) : おおむね達成 : 十分達成

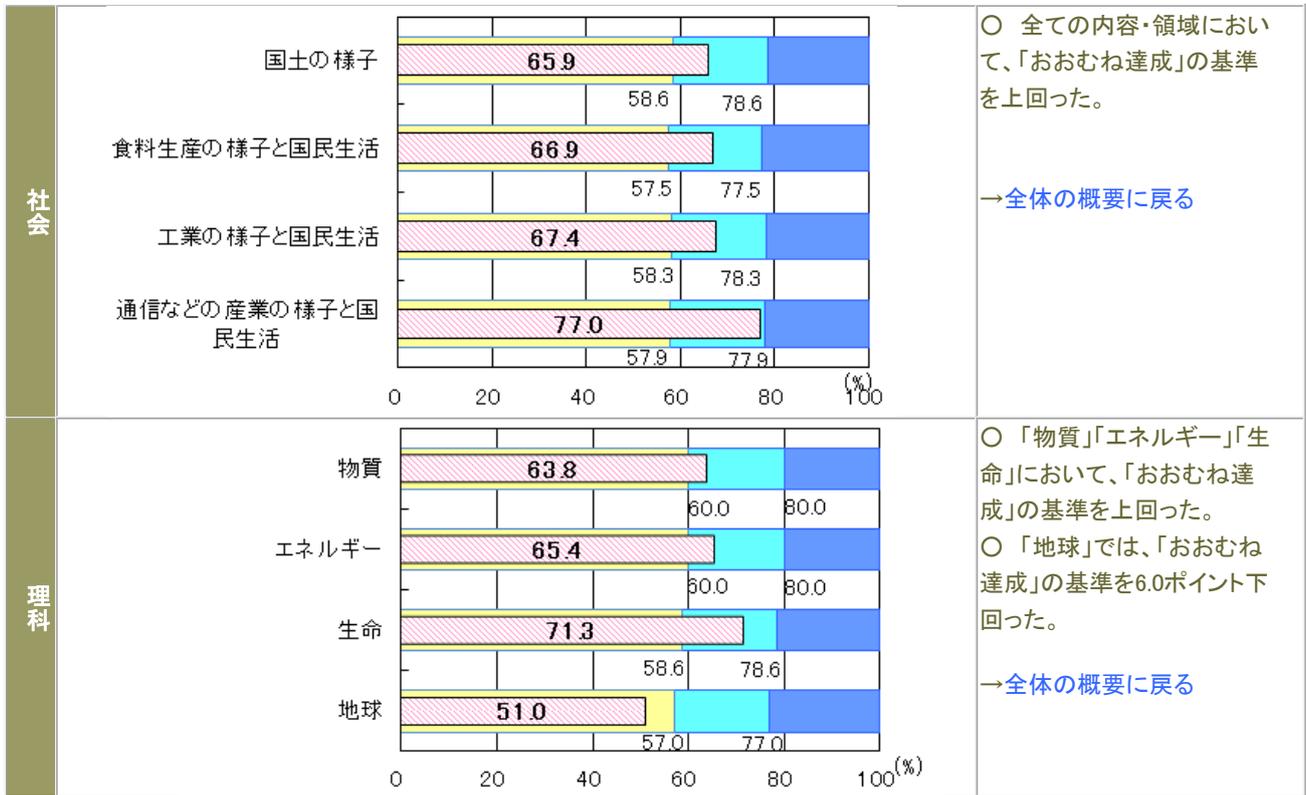
#### ○ 小学校第5学年

	到達基準との比較	概要	
国語	話すこと・聞くこと	74.4 60.0 80.0	○ 「言語事項(漢字の読み)」では、「十分達成」の基準を8.6ポイント上回った。 ○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言語事項(語句に関する知識)」では、「おおむね達成」の基準を上回った。 ○ 「読むこと」「言語事項(漢字の書き)」では、「おおむね達成」の基準を下回った。 → <a href="#">全体の概要に戻る</a>
	書くこと	74.8 60.0 80.0	
	読むこと	50.3 57.5 77.5	
	言語事項(漢字の読み)	91.9 63.3 83.3	
	言語事項(漢字の書き)	60.9 61.7 81.7	
	言語事項(語句に関する知識)	61.5 60.0 80.0	
	社会	身近な地域	
地域の生産や販売	77.3 60.0 80.0		
住みよいくらし	69.5 57.5 77.5		
安全を守る	74.5 57.9 77.9		
地域社会の歴史	76.4 58.3 78.3		
県の様子	59.5 58.3 78.3		



○ 小学校第6学年

		到達基準との比較	概要
国語 A	話すこと・聞くこと	<p>78.3 61.7 81.7</p>	<p>○「伝統的な言語文化と国語の特質にかんする事項」では、「十分達成」の基準を4.9ポイント上回った。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「読むこと」では、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>○「書くこと」では、「おおむね達成」の基準を6.7ポイント下回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	書くこと	<p>48.3 55.0 75.0</p>	
	読むこと	<p>80.4 62.5 82.5</p>	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>88.8 63.9 83.9</p>	
国語 B	話すこと・聞くこと	<p>67.3 55.0 75.0</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質にかんする事項」では、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>○「書くこと」「読むこと」では、「おおむね達成」の基準を下回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	書くこと	<p>39.6 51.7 71.7</p>	
	読むこと	<p>53.3 54.0 74.0</p>	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>59.3 50.0 70.0</p>	
算数 A	数と計算	<p>75.3 63.0 83.0</p>	<p>○ 全ての内容・領域で、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	量と測定	<p>72.3 62.5 82.5</p>	
	図形	<p>71.7 63.3 83.3</p>	
	数量関係	<p>75.9 63.3 83.3</p>	
		<p>75.9 63.3 83.3</p>	
算数 B	数と計算	<p>58.4 50.8 70.8</p>	<p>○「数と計算」「量と測定」「図形」では、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>○「数量関係」では、「おおむね達成」の基準を1.3ポイント下回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	量と測定	<p>61.7 51.7 71.7</p>	
	図形	<p>63.7 51.7 71.7</p>	
	数量関係	<p>51.2 52.5 72.5</p>	

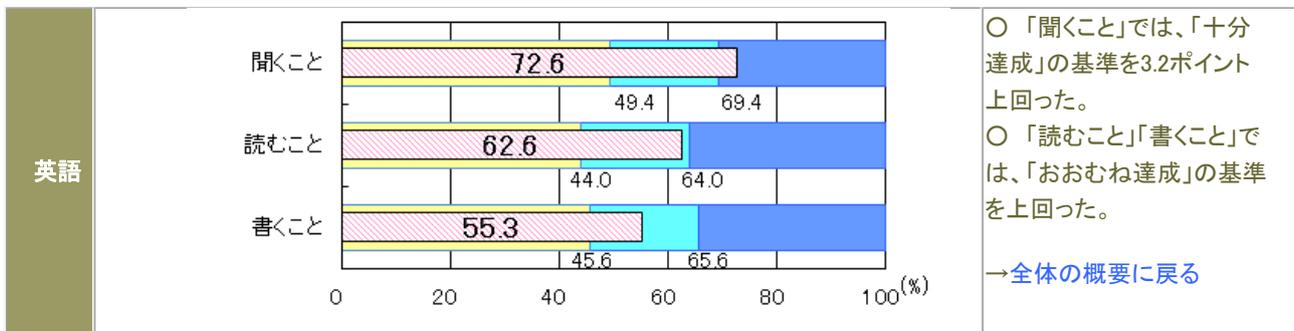


○ 中学校第1学年

	到達基準との比較	概要
国語	<p>話すこと・聞くこと</p> <p>77.4</p> <p>62.0 82.0</p>	<p>○ 「言語事項(漢字の読み)」「言語事項(語句に関する知識)」では、「十分達成」の基準を上回った。</p> <p>○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項(漢字の書き)」では、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	<p>書くこと</p> <p>77.6</p> <p>62.0 82.0</p>	
	<p>読むこと</p> <p>62.4</p> <p>56.7 76.7</p>	
	<p>言語事項(漢字の読み)</p> <p>92.5</p> <p>64.0 84.0</p>	
	<p>言語事項(漢字の書き)</p> <p>78.5</p> <p>61.0 81.0</p>	
	<p>言語事項(語句に関する知識)</p> <p>80.2</p> <p>60.0 80.0</p>	
	<p>0 20 40 60 80 100(%)</p>	
社会	<p>我が国の歴史</p> <p>59.8</p> <p>59.3 79.3</p>	<p>○ 全ての内容・領域において、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	<p>我が国の政治の働き</p> <p>60.8</p> <p>58.0 78.0</p>	
	<p>世界の中の日本</p> <p>70.5</p> <p>57.0 77.0</p>	
<p>0 20 40 60 80 100(%)</p>		
数学	<p>数と計算</p> <p>69.7</p> <p>60.5 80.5</p>	<p>○ 「図形」では、「十分達成」を4.4ポイント上回った。</p> <p>○ 「数と計算」「量と測定」「数量関係」では、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	<p>量と測定</p> <p>60.6</p> <p>56.4 76.4</p>	
	<p>図形</p> <p>86.4</p> <p>62.0 82.0</p>	
	<p>数量関係</p> <p>55.3</p> <p>55.0 75.0</p>	
<p>0 20 40 60 80 100(%)</p>		
理科	<p>物質・エネルギー</p> <p>65.1</p> <p>59.2 79.2</p>	<p>○ 全ての内容・領域において、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	<p>生命・地球</p> <p>67.1</p> <p>59.5 79.5</p>	
<p>0 20 40 60 80 100(%)</p>		

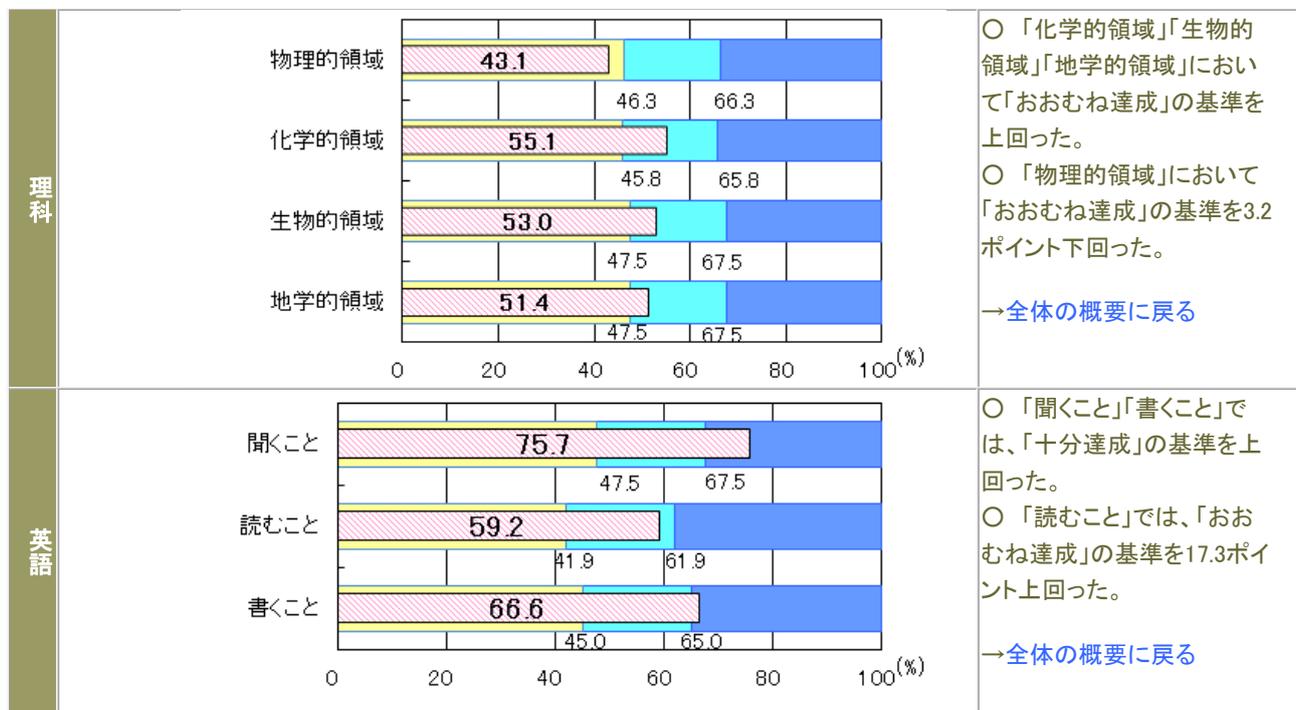
○ 中学校第2学年

	到達基準との比較	概要
国語	話すこと・聞くこと	<p>○ 「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項(漢字の読み)」「言語事項(語句に関する知識)」では、「十分達成」の基準を上回った。</p> <p>○ 「書くこと」「言語事項(漢字の書き)」では、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	書くこと	
	読むこと	
	言語事項 (漢字の読み)	
	言語事項 (漢字の書き)	
	言語事項 (語句に関する知識)	
	世界の地域構成	
古代までの日本		
歴史の流れと地域の歴史		
中世の日本		
数学	数と式	<p>○ 「数と式」では、「おおむね達成」の基準を4.3ポイント上回った。</p> <p>○ 「図形」「関数」「資料の活用」では、「おおむね達成」の基準を全て下回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	図形	
	関数	
	資料の活用	
理科	植物の生活と種類	<p>○ 全ての内容・領域において、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	身近な物理現象	
	身の回りの物質	
	大地の成り立ちと変化	



○ 中学校第3学年

		到達基準との比較	概要				
国語A	<p>話すこと・聞くこと</p> <p>書くこと</p> <p>読むこと</p> <p>言語事項</p>	<p>話すこと・聞くこと: 87.6 (十分達成: 52.5, 未達成: 72.5)</p> <p>書くこと: 85.8 (十分達成: 52.5, 未達成: 72.5)</p> <p>読むこと: 63.6 (十分達成: 54.0, 未達成: 74.0)</p> <p>言語事項: 73.5 (十分達成: 51.9, 未達成: 71.9)</p>	<p>○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言語事項」では、「十分達成」の基準を上回った。</p> <p>○ 「読むこと」では、「おおむね達成」の基準を9.6ポイント上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>				
		国語B	<p>話すこと・聞くこと</p> <p>書くこと</p> <p>読むこと</p>	<p>話すこと・聞くこと: 65.7 (十分達成: 40.0, 未達成: 60.0)</p> <p>書くこと: 62.0 (十分達成: 38.8, 未達成: 58.8)</p> <p>読むこと: 61.7 (十分達成: 43.0, 未達成: 63.0)</p>	<p>○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、「十分達成」の基準を上回った。</p> <p>○ 「読むこと」では、「おおむね達成」の基準を18.7ポイント上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>		
				数学A	<p>数と式</p> <p>図形</p> <p>数量関係</p>	<p>数と式: 68.2 (十分達成: 54.6, 未達成: 74.6)</p> <p>図形: 65.6 (十分達成: 54.6, 未達成: 74.6)</p> <p>数量関係: 50.4 (十分達成: 53.8, 未達成: 73.8)</p>	<p>○ 「数と式」「図形」では、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>○ 「数量関係」では、「おおむね達成」の基準を3.4ポイント下回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
						数学B	<p>数と式</p> <p>図形</p> <p>数量関係</p>
社会	<p>様々な面からとらえた日本</p> <p>資源や産業から見た日本の地域的特色</p> <p>近世の日本</p> <p>近代の日本</p>						



○ 「化学的領域」「生物的領域」「地学的領域」において「おおむね達成」の基準を上回った。

○ 「物理的領域」において「おおむね達成」の基準を3.2ポイント下回った。

→[全体の概要に戻る](#)

○ 「聞くこと」「書くこと」では、「十分達成」の基準を上回った。

○ 「読むこと」では、「おおむね達成」の基準を17.3ポイント上回った。

→[全体の概要に戻る](#)

最終更新日: 2012-10-15

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅲ 各教科の調査結果の分析 > 基礎と発展

## Ⅲ 各教科の調査結果の分析

### ◆基礎と発展の比較

#### 基礎的・基本的問題と発展的・応用的問題の比較

基礎的・基本的問題の平均正答率と、発展的・応用的問題の平均正答率を示す。

(凡例) : 要努力(おおむね達成の基準を下回る) : おおむね達成 : 十分達成

#### ○ 小学校第5学年

	到達基準との比較	概要
国語	基礎的・基本的問題 (26問) 	○基礎的・基本的問題については、「おおむね達成」の基準を8.2ポイント上回った。 ○発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を3.8ポイント下回った。 → <a href="#">全体の概要に戻る</a>
	発展的・応用的問題 (4問) 	
社会	基礎的・基本的問題 (20問) 	○基礎的・基本的問題及び発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を上回った。 → <a href="#">全体の概要に戻る</a>
	発展的・応用的問題 (10問) 	
算数	基礎的・基本的問題 (22問) 	○基礎的・基本的問題については、「おおむね達成」の基準を11.0ポイント上回った。 ○発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を9.6ポイント下回った。 → <a href="#">全体の概要に戻る</a>
	発展的・応用的問題 (8問) 	
理科	基礎的・基本的問題 (30問) 	○基礎的・基本的問題については、「おおむね達成」の基準を7.0ポイント上回った。 ○発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を2.8ポイント下回った。 → <a href="#">全体の概要に戻る</a>
	発展的・応用的問題 (9問) 	

○ 小学校第6学年

		到達基準との比較	概要
社会	基礎的・基本的問題 (17問)	<p>69.5</p> <p>61.8 81.8</p>	<p>○基礎的・基本的問題及び発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	発展的・応用的問題 (11問)	<p>68.9</p> <p>52.3 72.3</p>	
理科	基礎的・基本的問題 (14問)	<p>68.9</p> <p>62.9 82.9</p>	<p>○基礎的・基本的問題及び発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	発展的・応用的問題 (10問)	<p>56.3</p> <p>53.5 73.5</p>	

○ 中学校第1学年

		到達基準との比較	概要
国語	基礎的・基本的問題 (27問)	<p>79.7</p> <p>82.0</p>	<p>○基礎的・基本的問題及び発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	発展的・応用的問題 (4問)	<p>63.4</p> <p>72.5</p>	
社会	基礎的・基本的問題 (25問)	<p>64.1</p> <p>81.2</p>	<p>○基礎的・基本的問題及び発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	発展的・応用的問題 (7問)	<p>52.8</p> <p>70.0</p>	
数学	基礎的・基本的問題 (18問)	<p>80.3</p> <p>82.5</p>	<p>○基礎的・基本的問題については、「おおむね達成」の基準を17.8ポイント上回った。</p> <p>○発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を6.7ポイント下回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	発展的・応用的問題 (11問)	<p>45.1</p> <p>71.8</p>	
理科	基礎的・基本的問題 (27問)	<p>66.1</p> <p>81.7</p>	<p>○基礎的・基本的問題及び発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	発展的・応用的問題 (11問)	<p>66.3</p> <p>73.6</p>	

○ 中学校第2学年

	到達基準との比較	概要
国語	基礎的・基本的問題 (19問) 	○基礎的・基本的問題については、「十分達成」を6.9ポイント上回った。 ○発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を17.7ポイント上回った。  <a href="#">→全体の概要に戻る</a>
	発展的・応用的問題 (11問) 	
社会	基礎的・基本的問題 (24問) 	○基礎的・基本的問題については、「おおむね達成」の基準を2.3ポイント下回った。 ○発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を1.5ポイント上回った。  <a href="#">→全体の概要に戻る</a>
	発展的・応用的問題 (7問) 	
数学	基礎的・基本的問題 (21問) 	○基礎的・基本的問題については、「おおむね達成」の基準を1.3ポイント上回った。 ○発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を20.7ポイント下回った。  <a href="#">→全体の概要に戻る</a>
	発展的・応用的問題 (10問) 	
理科	基礎的・基本的問題 (25問) 	○基礎的・基本的問題及び発展的・応用的問題共については、「おおむね達成」の基準を上回った。  <a href="#">→全体の概要に戻る</a>
	発展的・応用的問題 (12問) 	
英語	基礎的・基本的問題 (9問) 	○基礎的・基本的問題については、「十分達成」の基準を0.9ポイント上回った。 ○発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を15.4ポイント上回った。  <a href="#">→全体の概要に戻る</a>
	発展的・応用的問題 (17問) 	

○ 中学校第3学年

		到達基準との比較	概要
社会	基礎的・基本的問題 (20問)	<p>53.2 52.0 72.0</p>	<p>○基礎的・基本的問題及び発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	発展的・応用的問題 (7問)	<p>39.8 39.3 59.3</p>	
理科	基礎的・基本的問題 (12問)	<p>59.5 52.1 72.1</p>	<p>○基礎的・基本的問題については、「おおむね達成」の基準を7.4ポイント上回った。</p> <p>○発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を0.1ポイント下回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	発展的・応用的問題 (14問)	<p>42.0 42.1 62.1</p>	
英語	基礎的・基本的問題 (6問)	<p>84.7 54.2 74.2</p>	<p>○基礎的・基本的問題は「十分達成」の基準を10.5ポイント上回った。</p> <p>○発展的・応用的問題については、「おおむね達成」の基準を19.6ポイント上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
	発展的・応用的問題 (18問)	<p>61.3 41.7 61.7</p>	

最終更新日：2012-10-15

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ > Ⅲ 各教科の調査結果の分析 > 「活用」に関する問題

## Ⅲ 各教科の調査結果の分析

### 「活用」に関する問題

#### 「活用」に関する問題の達成状況

「活用」に関する問題の平均正答率と到達基準との比較を示す。

(凡例)  : 要努力(おおむね達成の基準を下回っている)  : おおむね達成  : 十分達成

#### ○ 小学校第5学年・第6学年

	到達基準との比較	概要
国語	<p>小5(3問) 75.0 (標準: 65.0, 目標: 85.0)</p> <p>小6(10問) 52.6 (標準: 53.2, 目標: 73.2)</p>	<p>○第5学年では、「おおむね達成」の基準を10.0ポイント上回った。</p> <p>○第6学年では、「おおむね達成」の基準を0.6ポイント下回った。</p> <p><a href="#">→全体の概要に戻る</a></p>
	<p>小5(5問) 70.3 (標準: 49.0, 目標: 69.0)</p> <p>小6(5問) 65.2 (標準: 49.0, 目標: 69.0)</p>	<p>○第5学年では、「十分達成」の基準を1.3ポイント上回った。。</p> <p>○第6学年では、「おおむね達成」の基準を16.2ポイント上回った。</p> <p><a href="#">→全体の概要に戻る</a></p>
算数	<p>小5(5問) 26.8 (標準: 49.0, 目標: 69.0)</p> <p>小6(13問) 60.7 (標準: 51.9, 目標: 71.9)</p>	<p>○第5学年では、「おおむね達成」の基準を22.2ポイント下回った。</p> <p>○第6学年では、「おおむね達成」の基準を8.8ポイント上回った。</p> <p><a href="#">→全体の概要に戻る</a></p>
	<p>小5(5問) 40.6 (標準: 50.0, 目標: 70.0)</p> <p>小6(7問) 63.7 (標準: 59.0, 目標: 79.0)</p>	<p>○第5学年では、「おおむね達成」の基準を9.4ポイント下回った。</p> <p>○第6学年では、「おおむね達成」の基準を4.7ポイント上回った。</p> <p><a href="#">→全体の概要に戻る</a></p>

○ 中学校第1学年・第2学年・第3学年

	到達基準との比較	概要
国語	<p>中1(3問) 63.6 (基準: 51.7, 71.7)                      中2(5問) 53.5 (基準: 39.0, 59.0)                      中3(9問) 65.3 (基準: 42.2, 62.2)</p>	<p>○第1学年、第2学年ともに、「おおむね達成」の基準を上回った。                      ○第3学年は、「十分達成」の基準を3.1ポイント上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
社会	<p>中1(5問) 51.0 (基準: 48.0, 68.0)                      中2(4問) 33.6 (基準: 37.5, 57.5)                      中3(4問) 47.4 (基準: 37.5, 57.5)</p>	<p>○第1学年、第3学年共に、「おおむね達成」の基準を上回った。                      ○第2学年では「おおむね達成」の基準を3.9ポイント下回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
数学	<p>中1(5問) 36.0 (基準: 48.0, 68.0)                      中2(5問) 13.9 (基準: 39.0, 59.0)                      中3(15問) 49.3 (基準: 45.0, 65.0)</p>	<p>○第1学年、第2学年共に、「おおむね達成」の基準を下回った。                      ○第3学年では、「おおむね達成」の基準を4.3ポイント上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
理科	<p>中1(6問) 64.9 (基準: 52.5, 72.5)                      中2(4問) 42.3 (基準: 41.3, 61.3)                      中3(10問) 54.6 (基準: 51.5, 71.5)</p>	<p>○すべての学年において、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>
英語	<p>中2(5問) 50.2 (基準: 41.0, 61.0)                      中3(8問) 60.4 (基準: 40.6, 60.6)</p>	<p>○第2学年、第3学年では共に、「おおむね達成」の基準を上回った。</p> <p>→<a href="#">全体の概要に戻る</a></p>

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

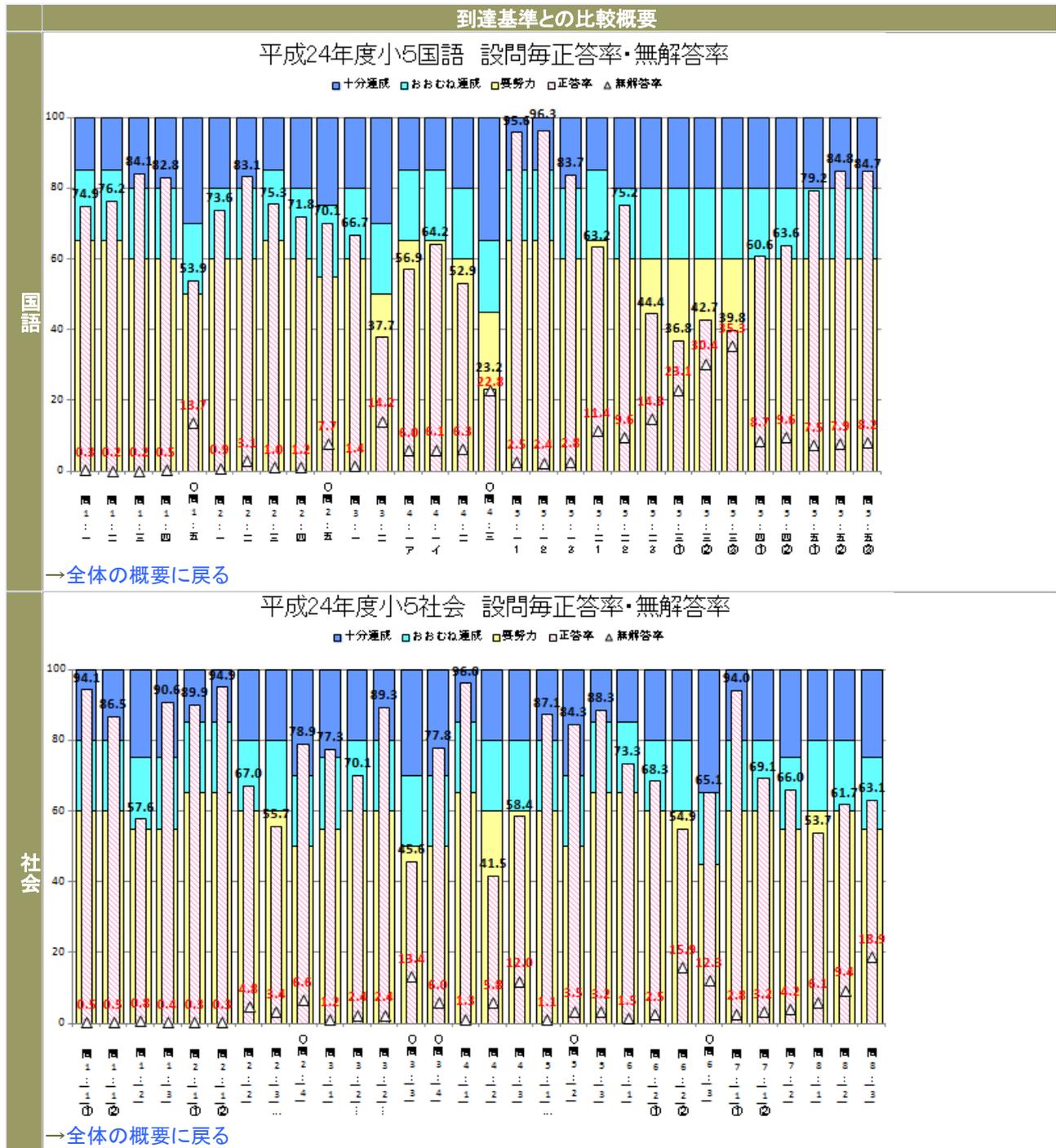
Web報告書もくじ > Ⅲ 各教科の調査結果の分析 > 設問ごとの達成状況

## Ⅲ 各教科の調査結果の分析

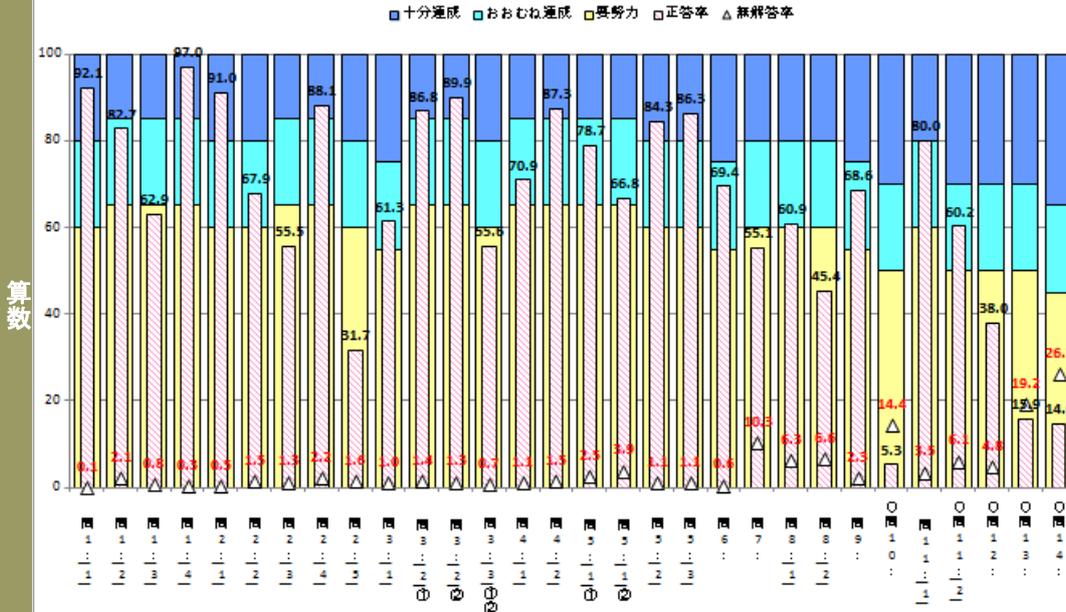
### 設問ごと正答率

#### 設問ごとに見た期待正答率との比較

#### ○ 小学校第5学年

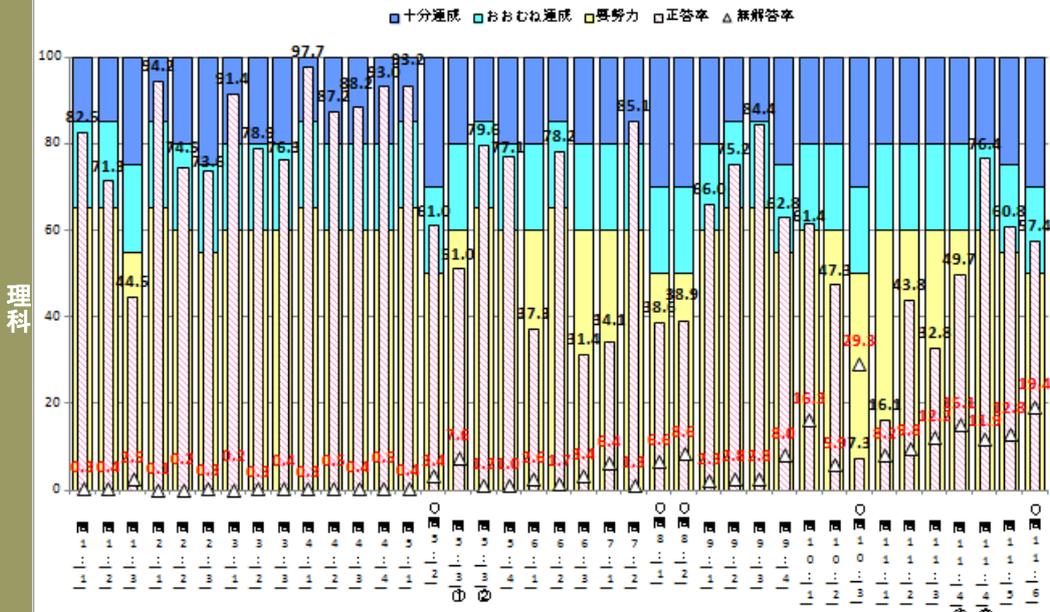


平成24年度小5算数 設問ごと正答率・無解答率



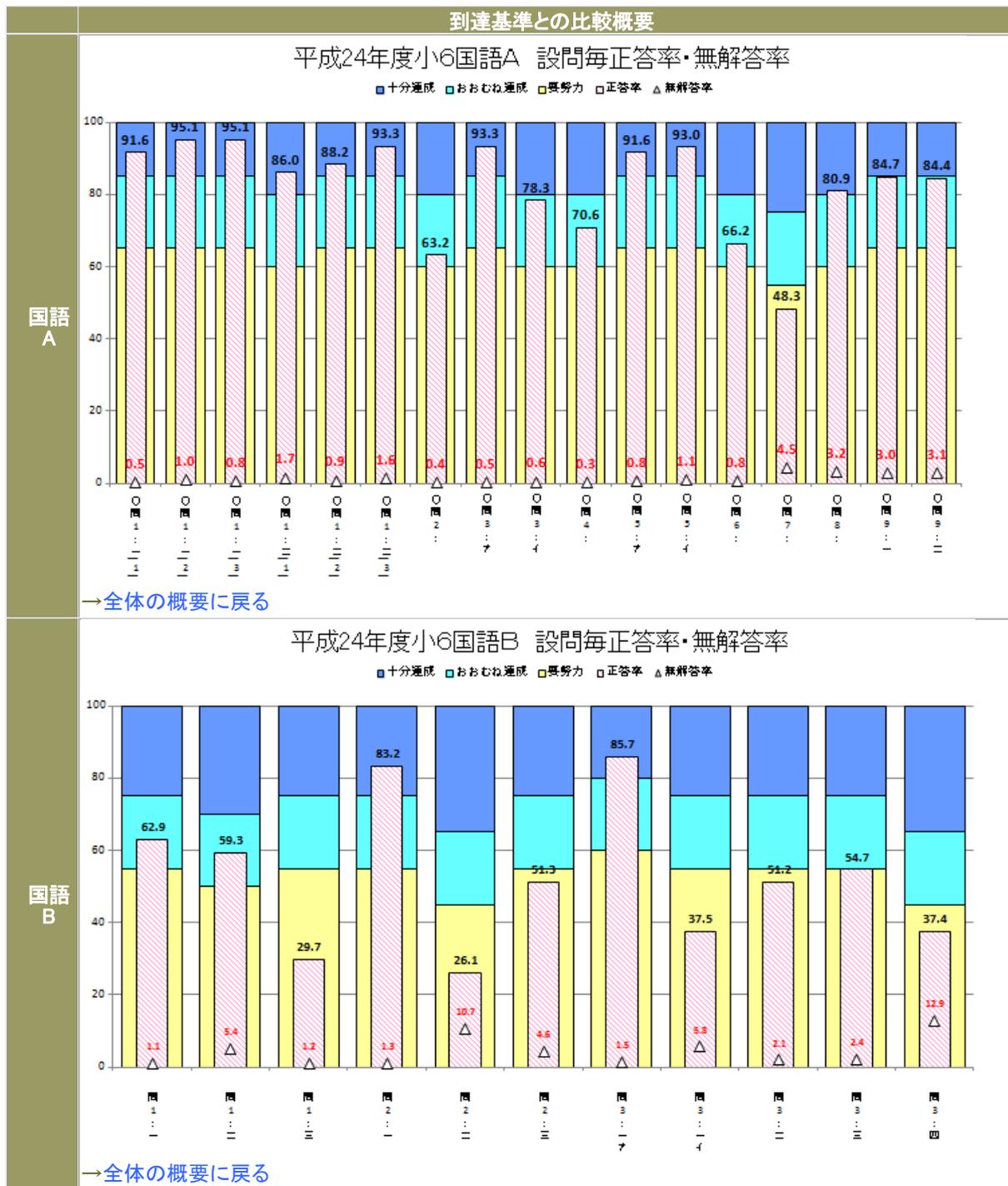
→全体の概要に戻る

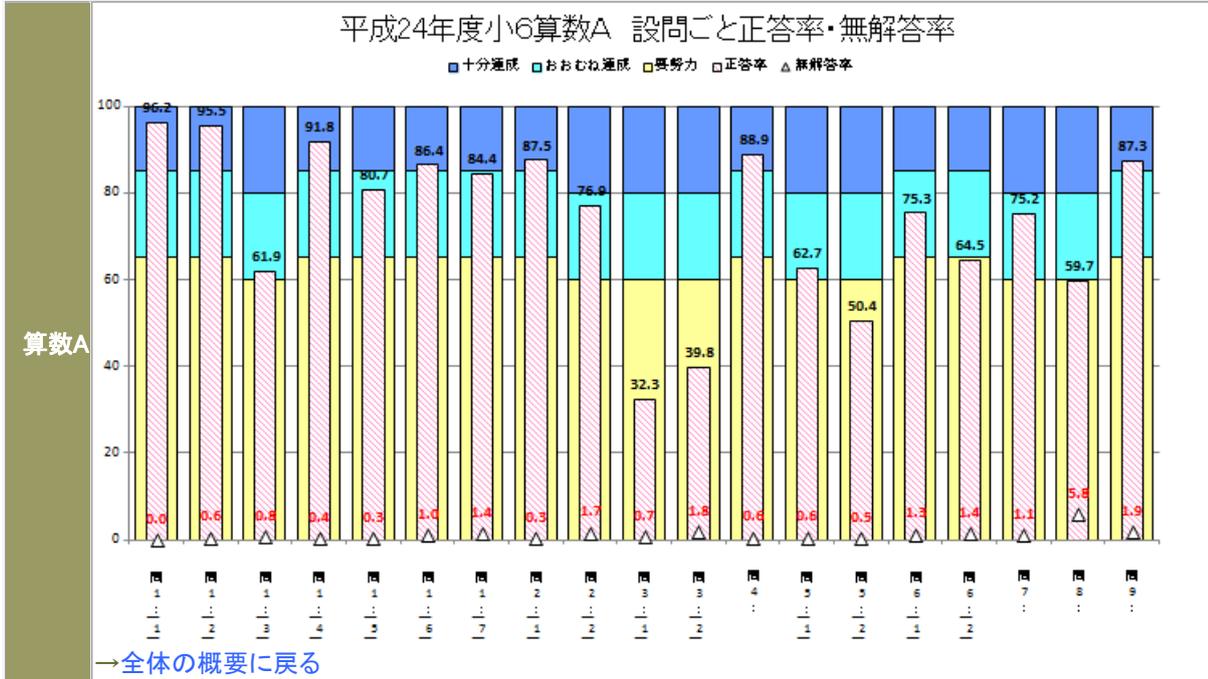
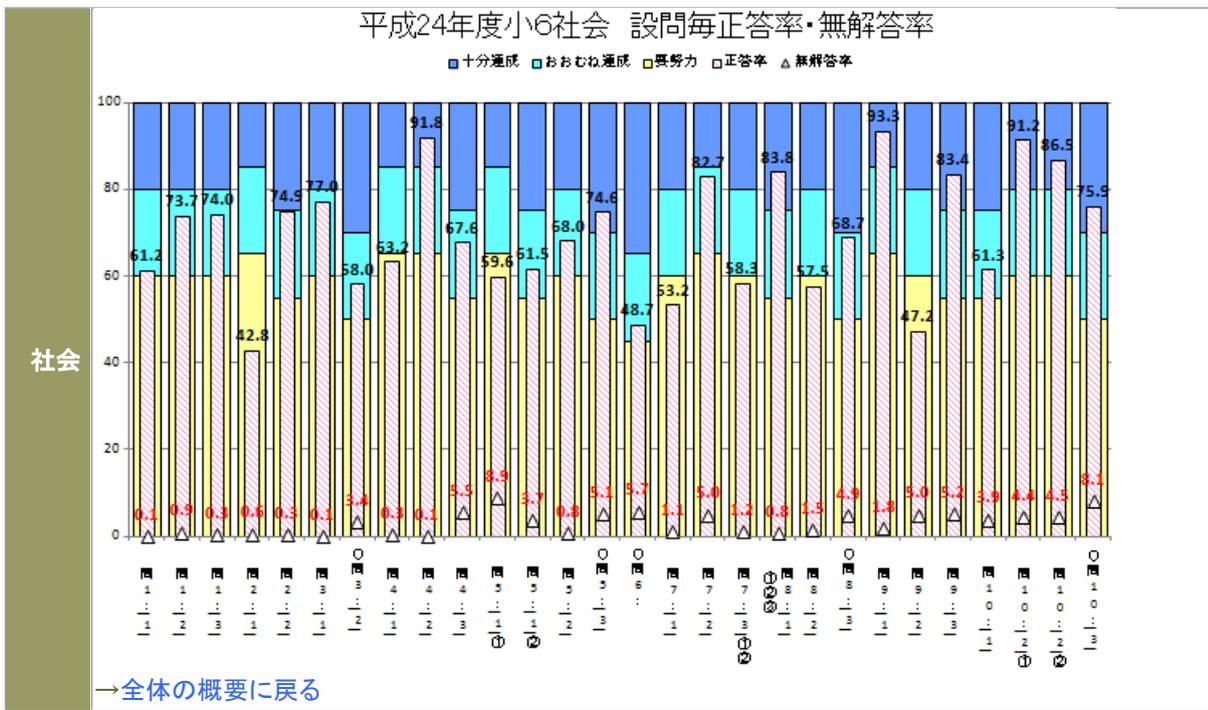
平成24年度小5理科 設問毎正答率・無解答率

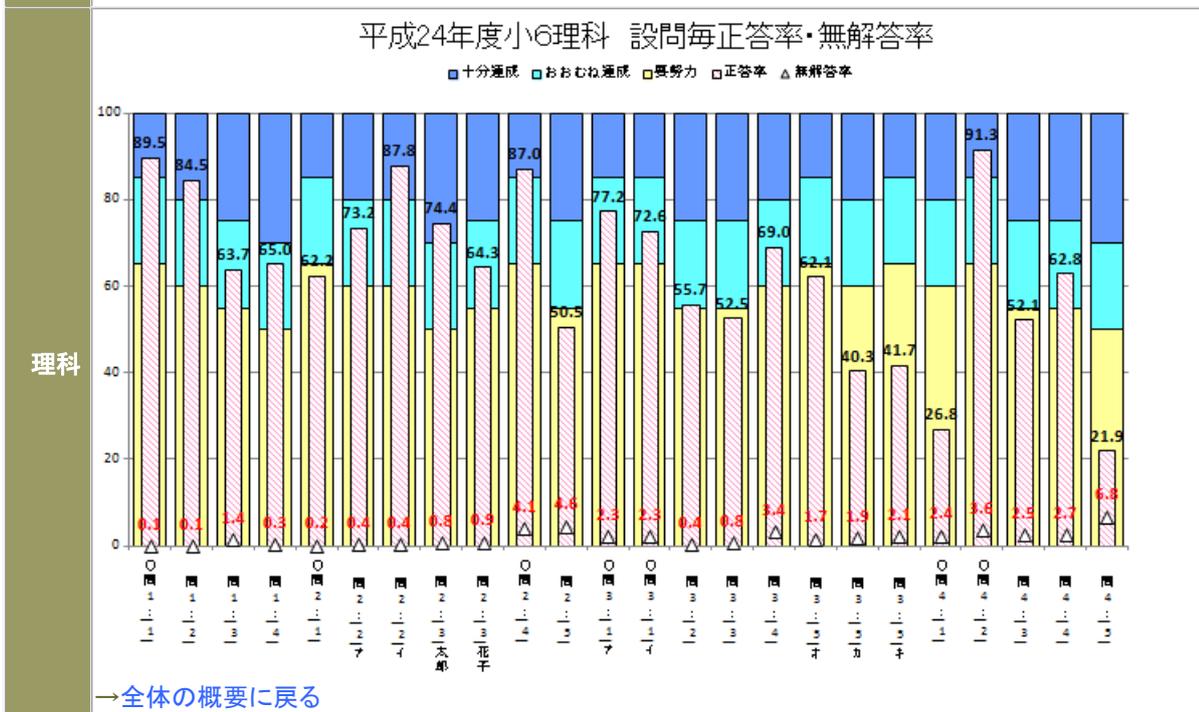
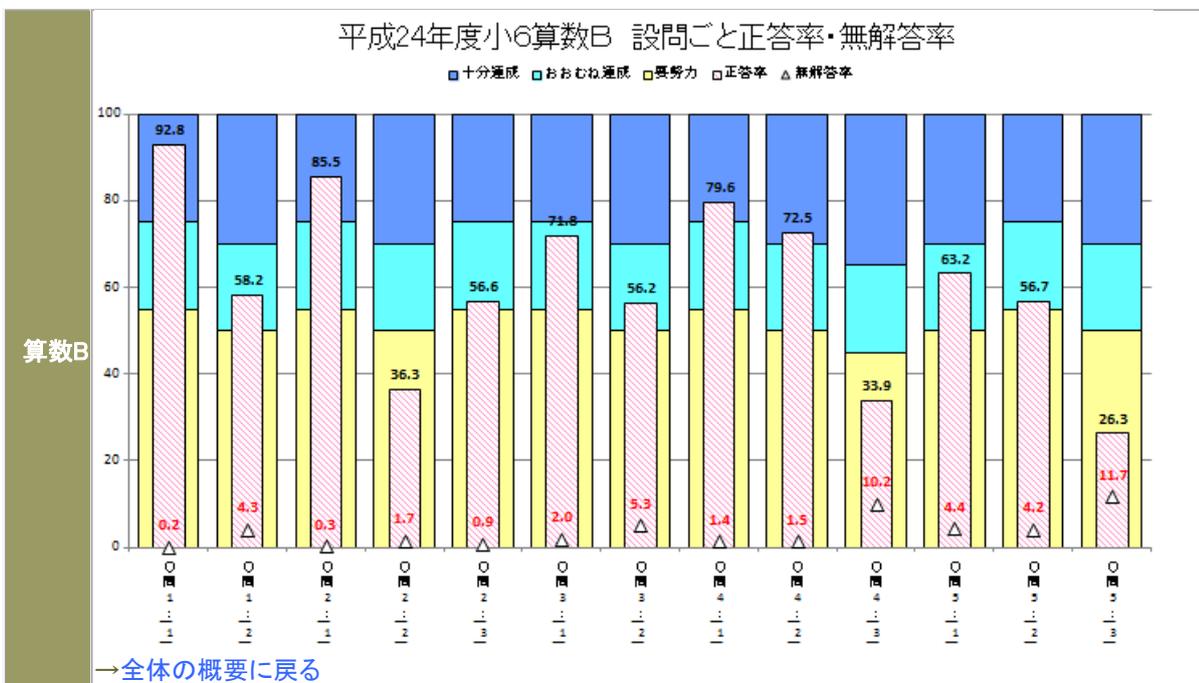


→全体の概要に戻る

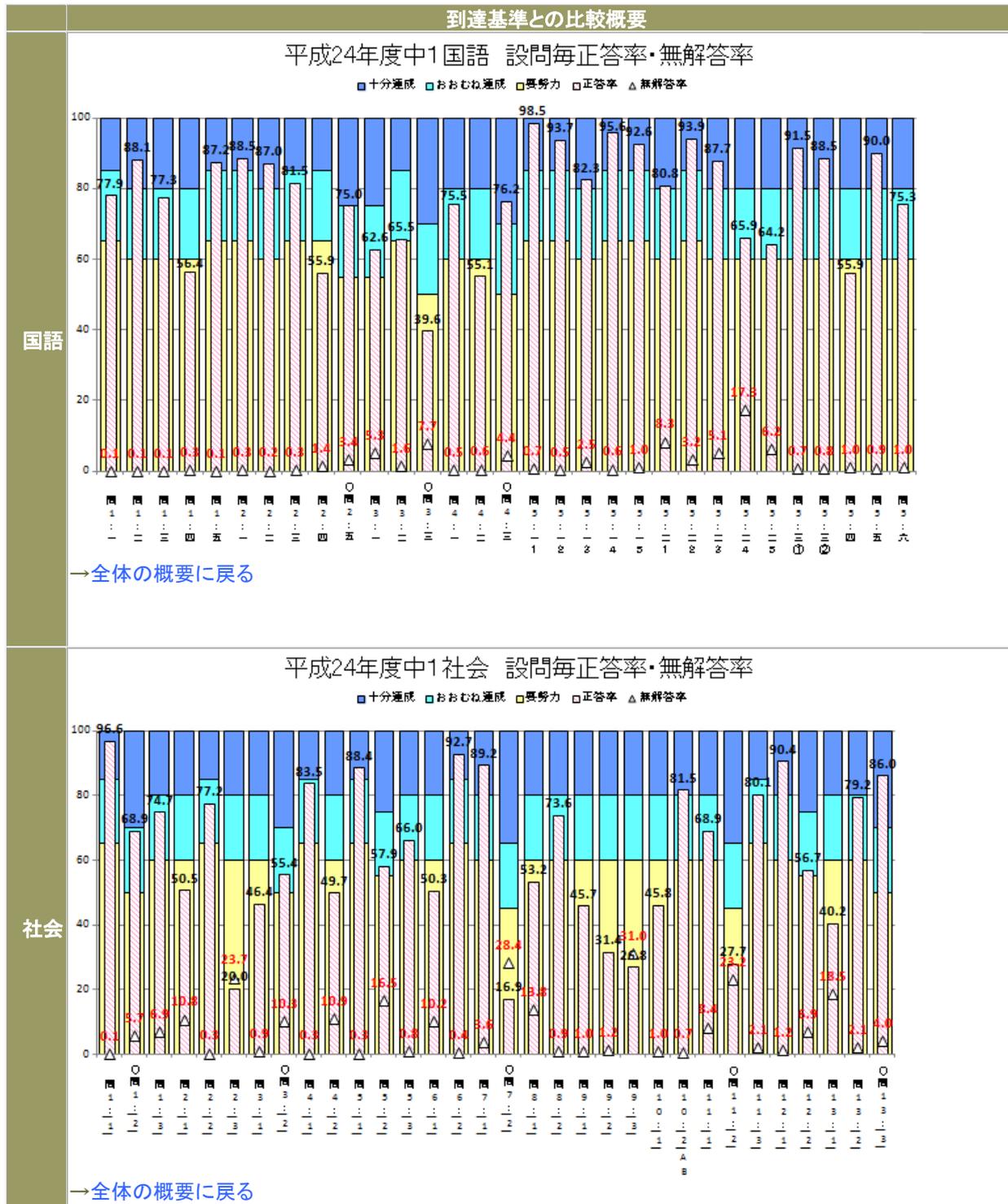
○ 小学校第6学年

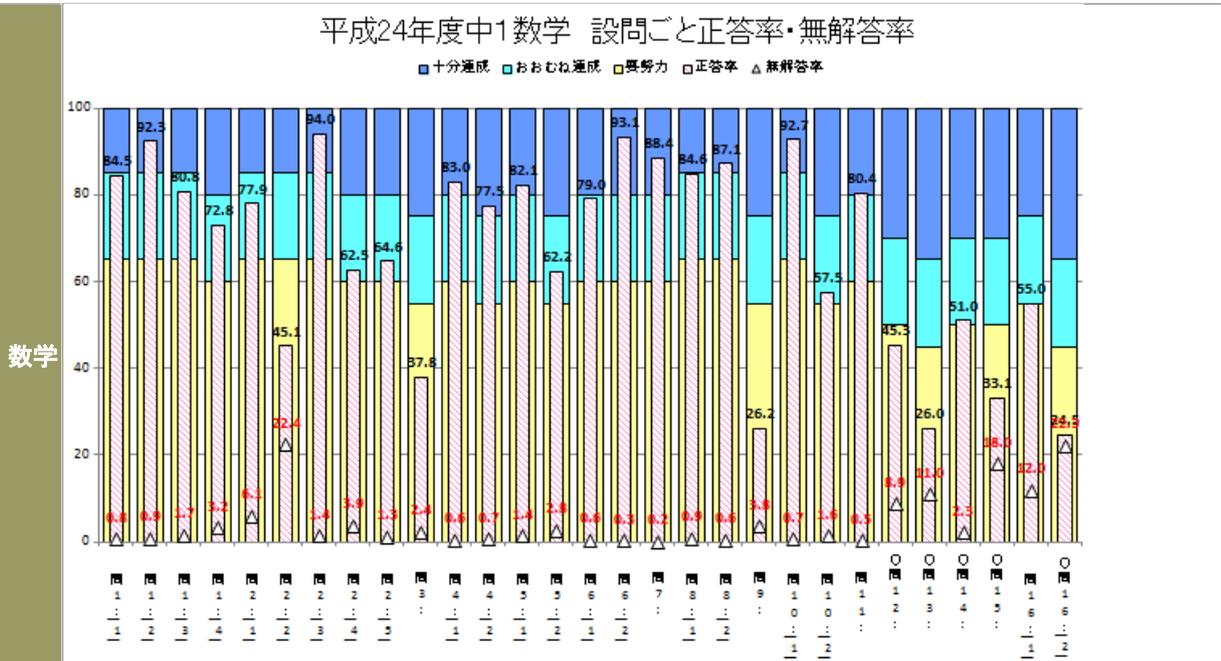




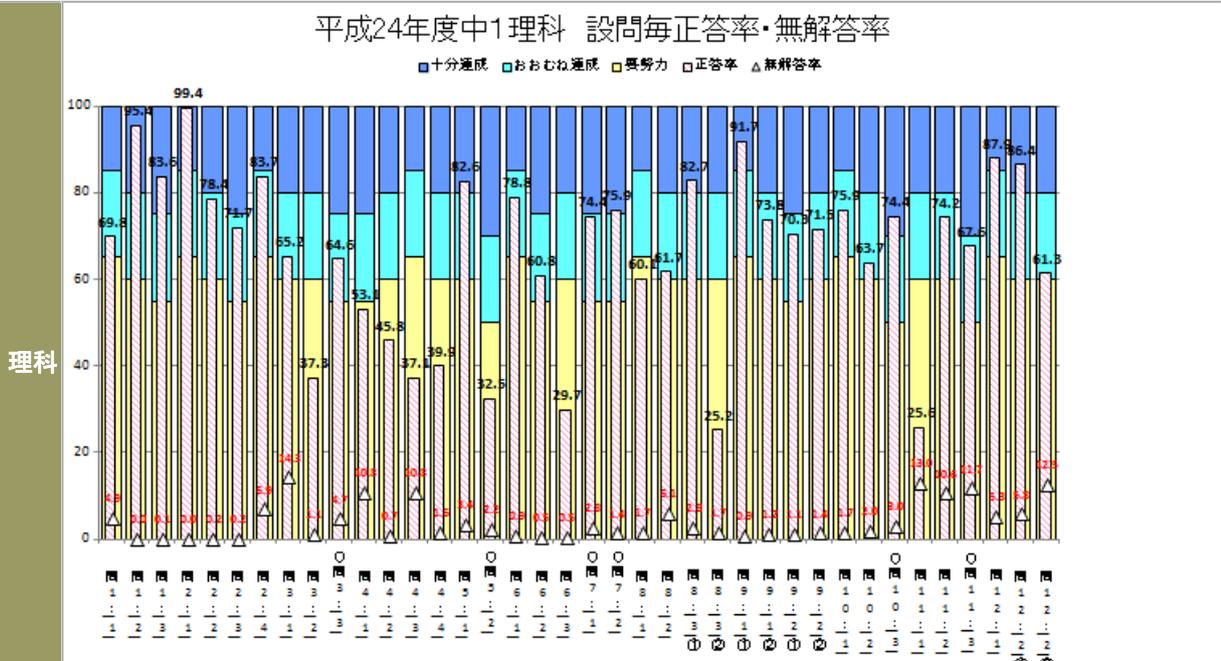


○ 中学校第1学年



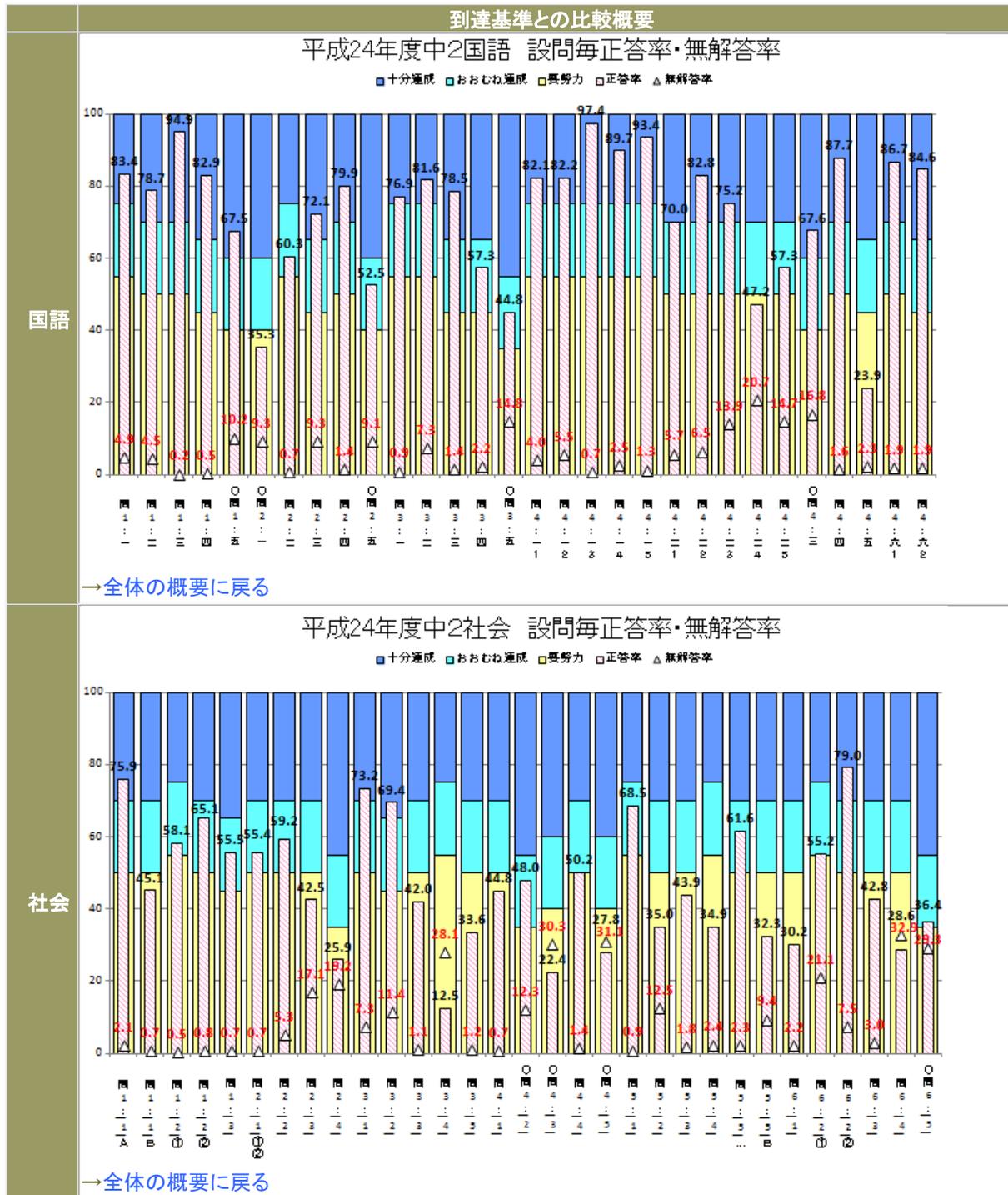


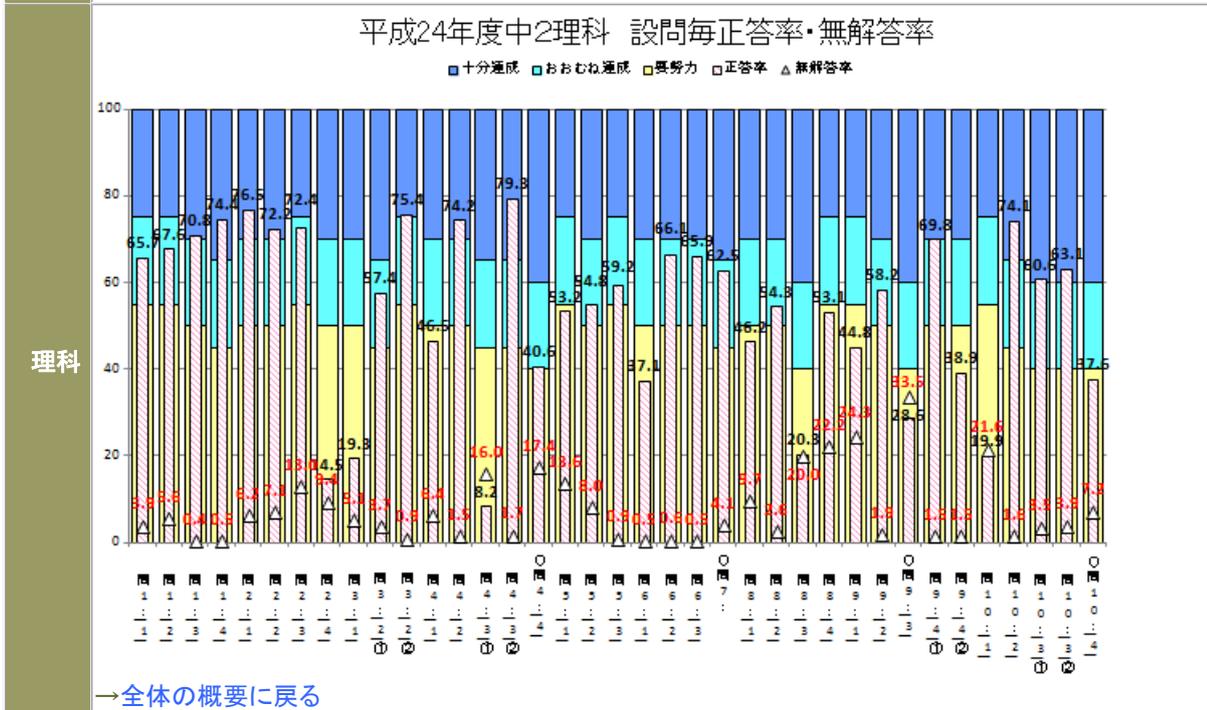
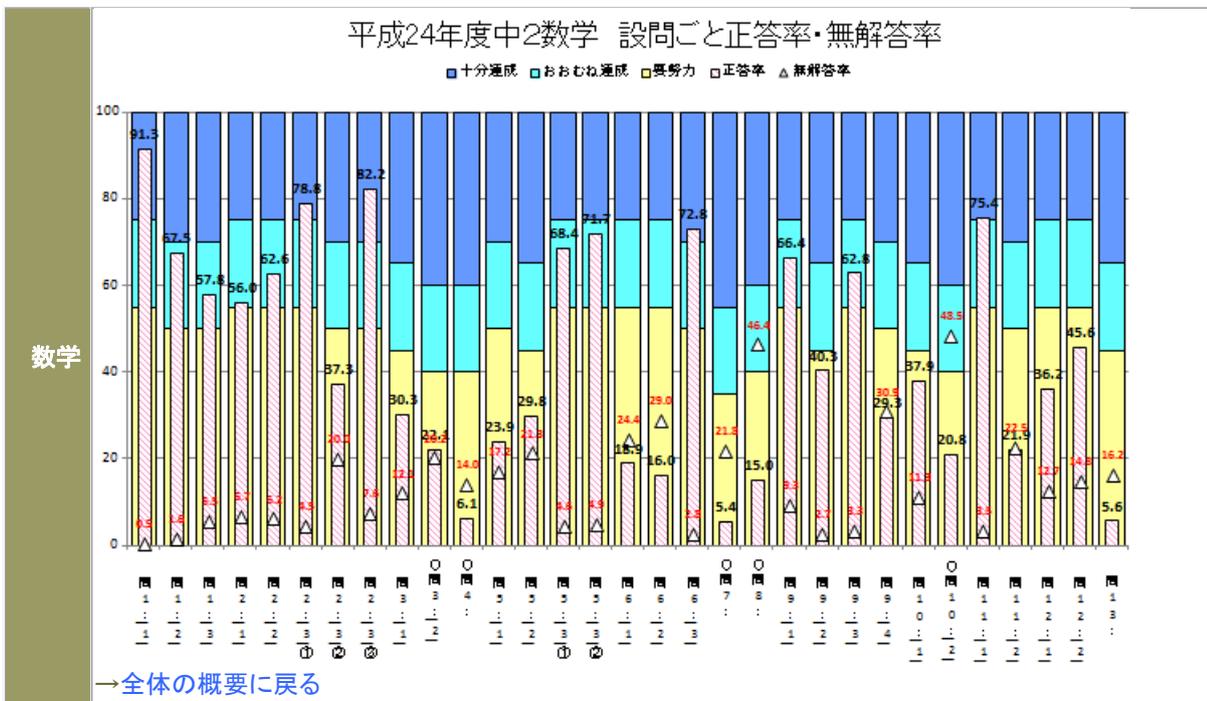
→ [全体の概要に戻る](#)

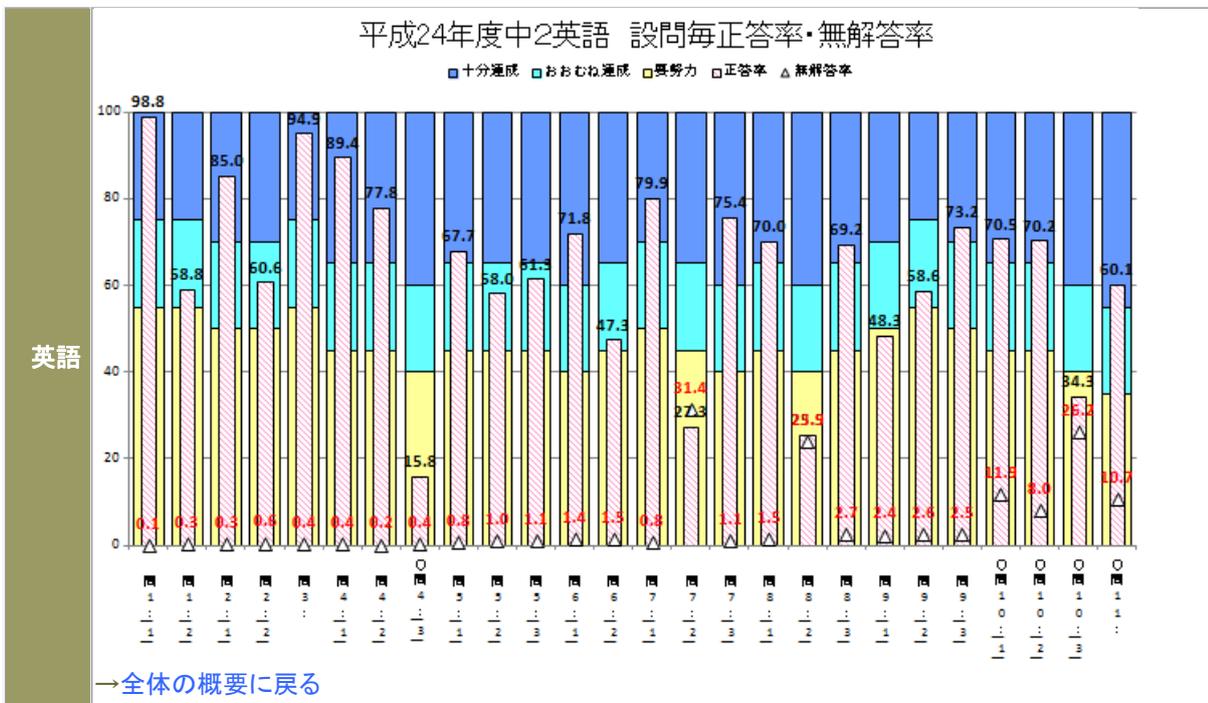


→ [全体の概要に戻る](#)

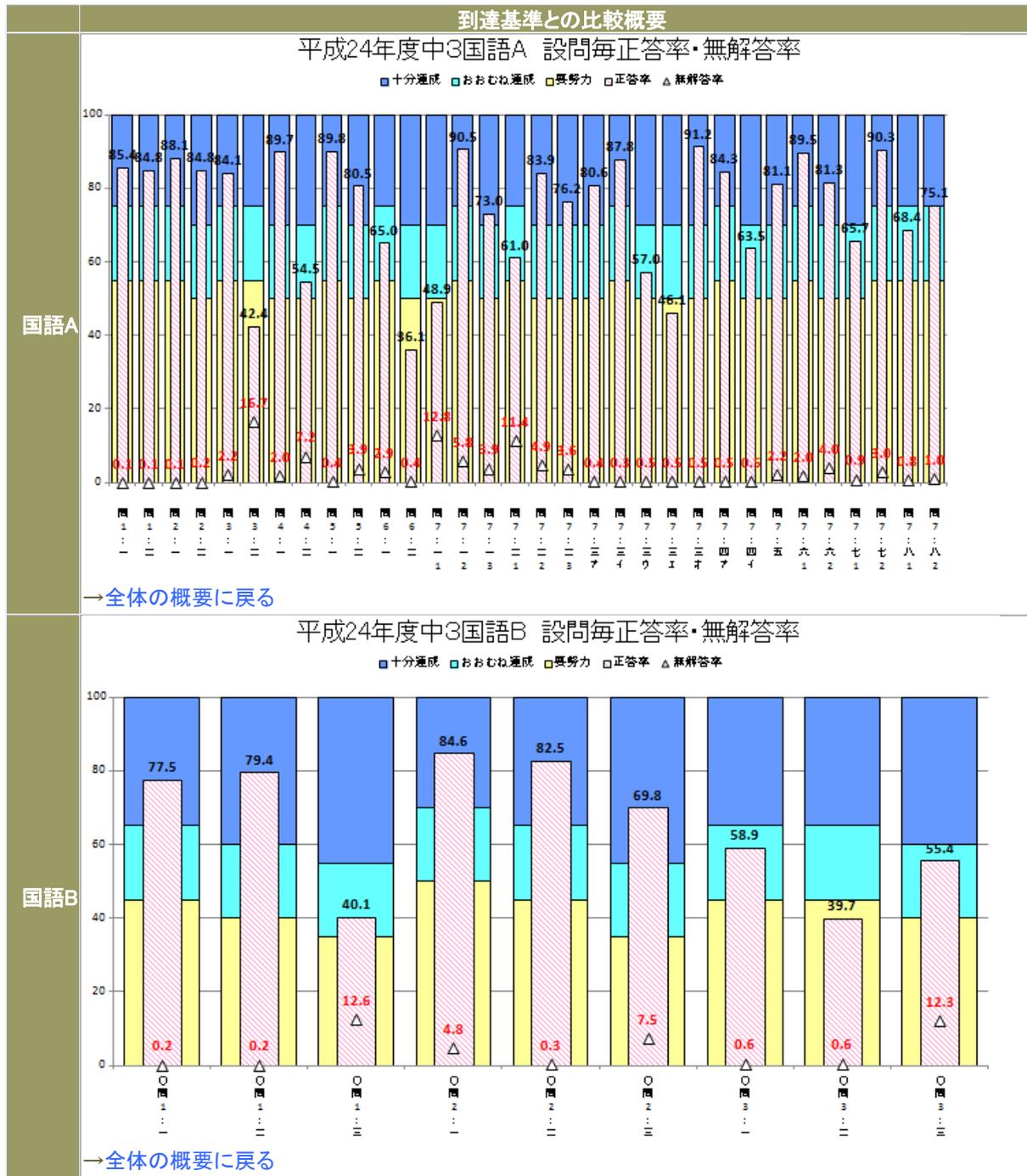
○ 中学校第2学年

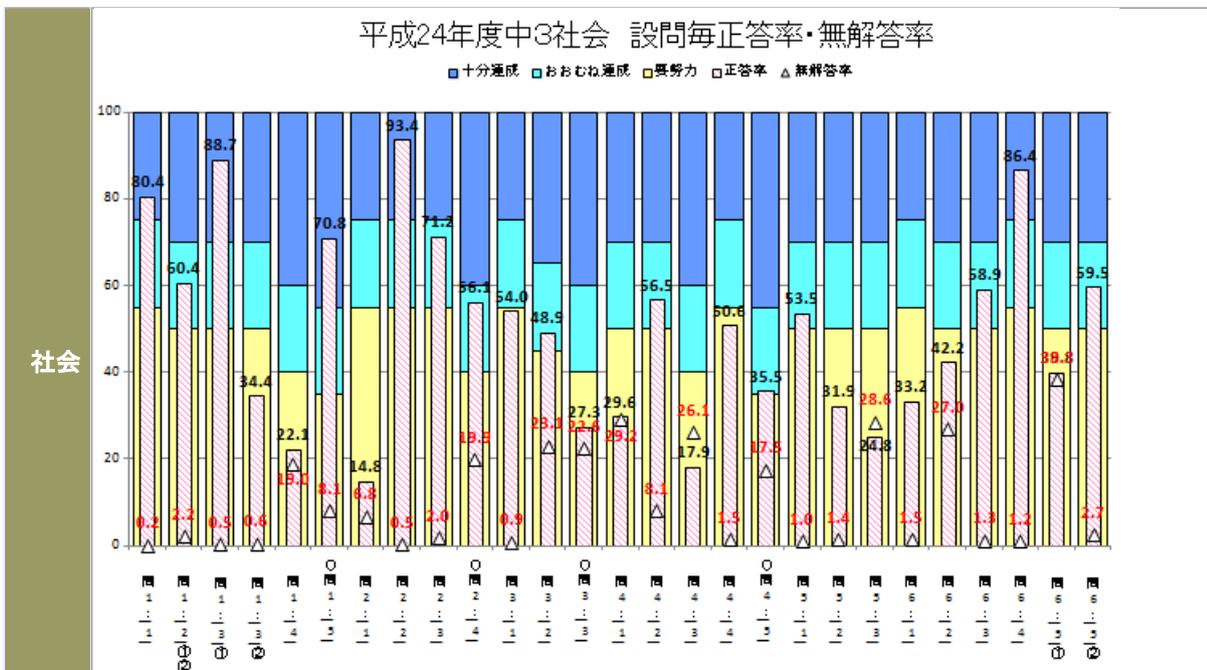




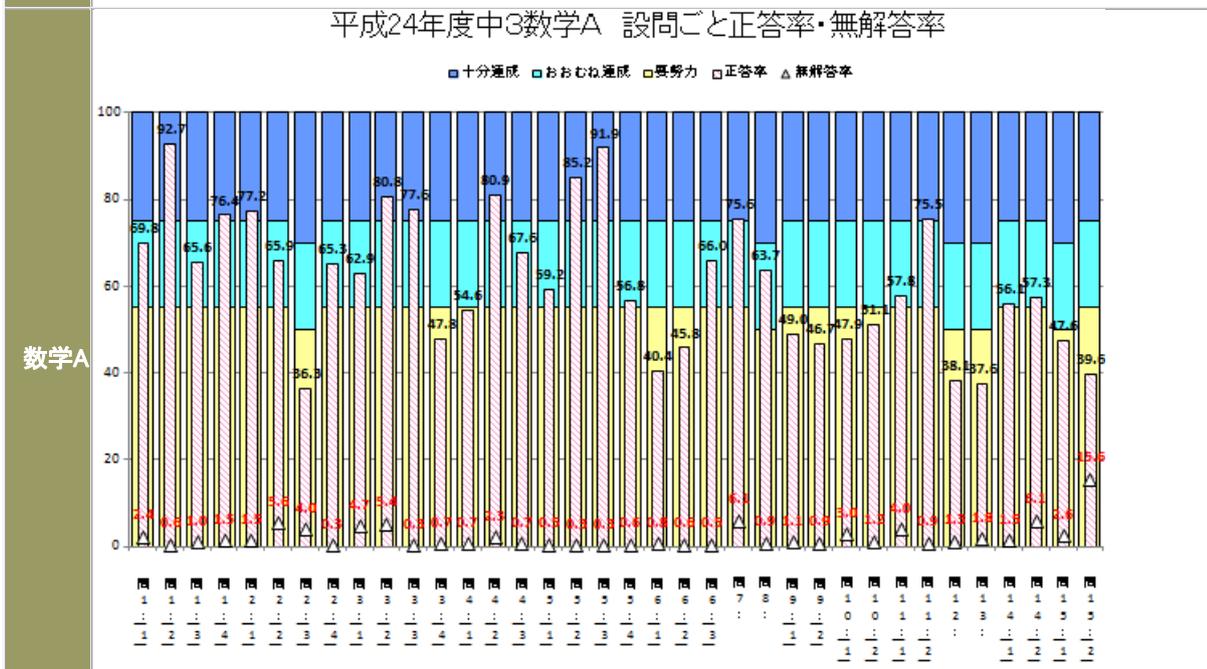


○ 中学校第3学年

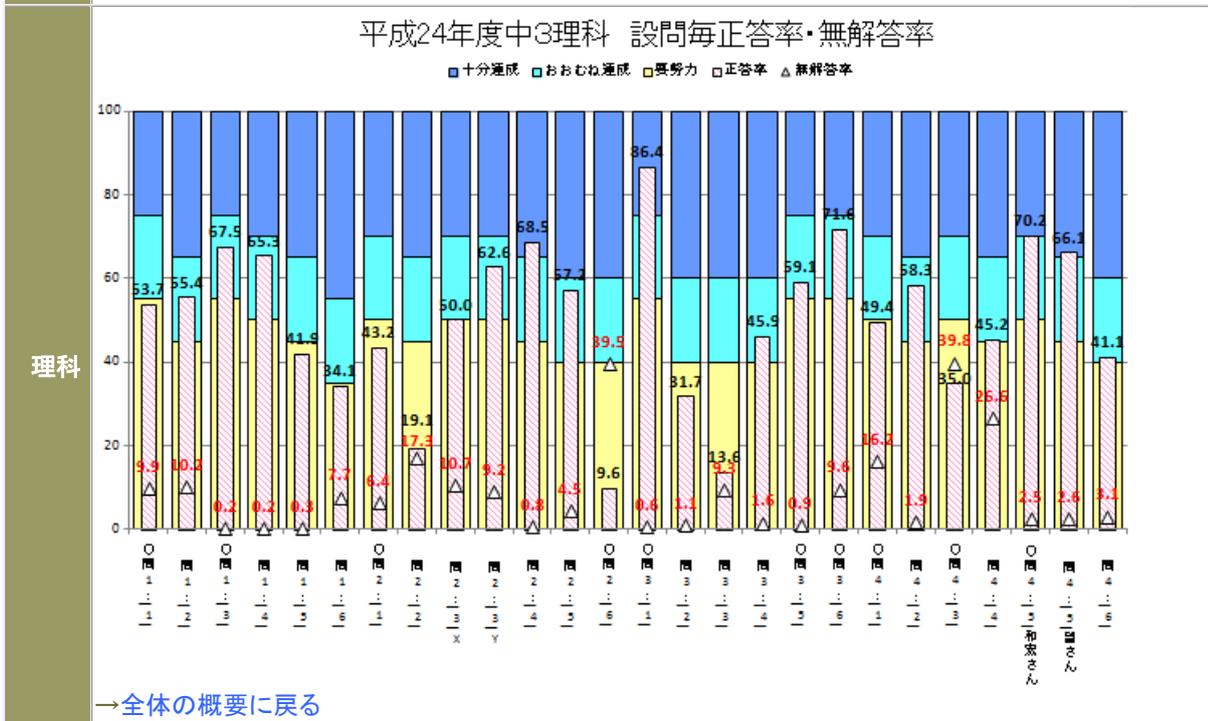
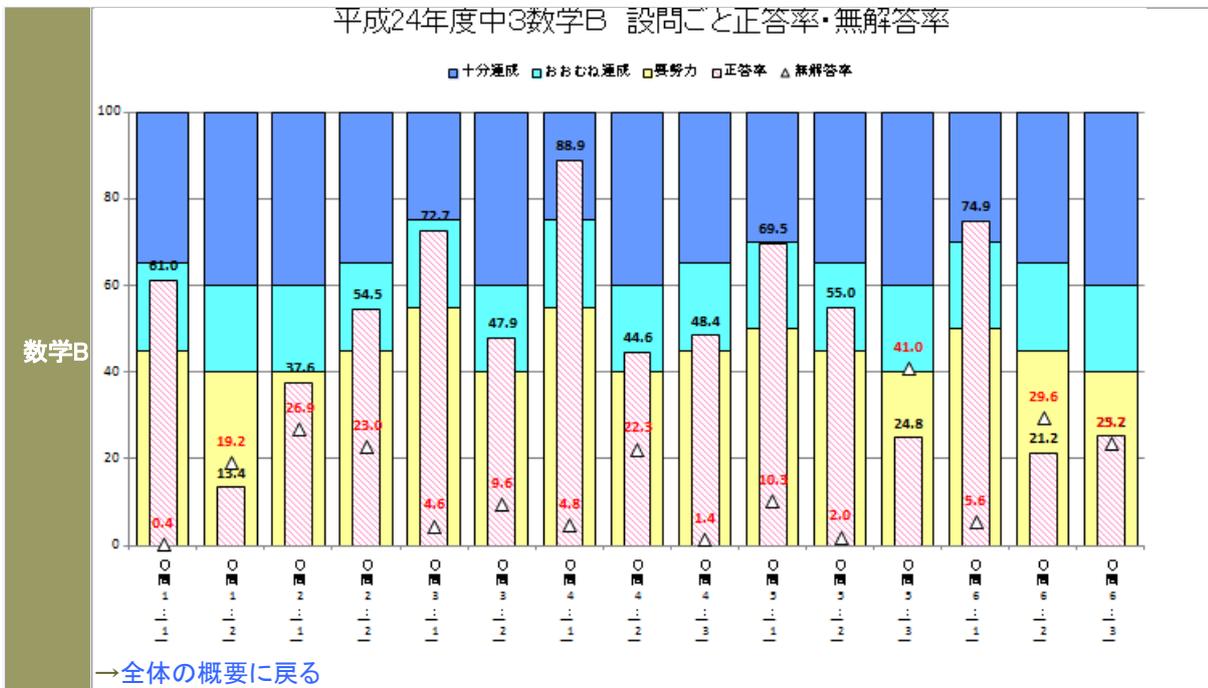


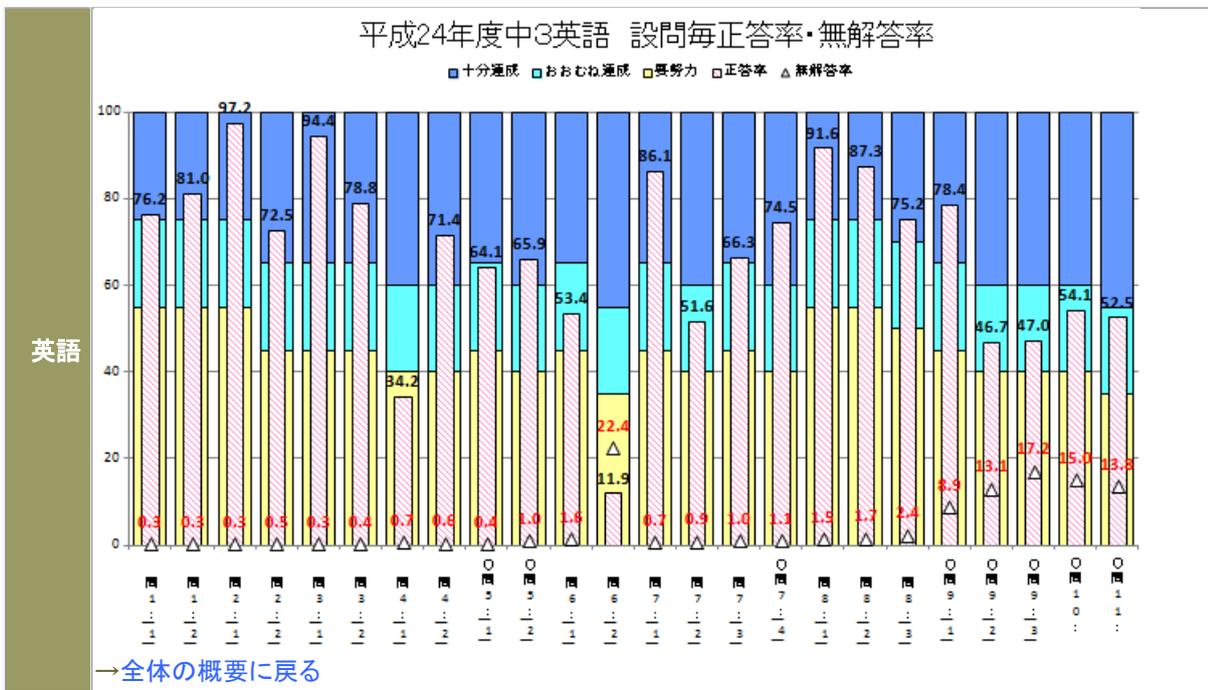


→ 全体の概要に戻る



→ 全体の概要に戻る





最終更新日：2012-10-15

## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ>IV 児童生徒意識調査結果の分析

### IV 意識調査結果の分析

#### 児童生徒意識調査結果の分析に当たって

##### 1 分析の方針

児童生徒意識調査の分析に当たっては、第I章の調査内容の中で述べた質問項目の構成から「学校生活」「学習動機」「学習活動(教科全般)」「家庭学習」「生活習慣等」というカテゴリーに分けて、分析を行った。

それぞれの設問については、

- ① 今回の調査に見られるおおまかな傾向
- ② 小学5年から中学3年までの5学年を通じた比較
- ③ 同一学年での定点比較(昨年度の小学6年と今年度の小学6年というような比較)
- ④ 回答状況と正答率との関連

という観点から調査結果の分析を行った。

##### 2 分析に当たって留意した点

- (1) 分析の対象となるデータについては、「回答状況と正答率との関連」を見る関係上、各学年において全教科(小学5年、小学6年は4教科、中学1年は4教科、中学2年、中学3年は5教科)のペーパーテストを受検した児童生徒のデータを、有効回答としている。各学年の有効回答者数と有効回答者率は、下記のとおりである。

	有効回答者数	全回答者数	有効回答者率
小学5年	7,923人	8,356人	94.8%
小学6年	7,889人	8,433人	93.5%
中学1年	8,093人	8,452人	95.8%
中学2年	7,718人	8,066人	95.7%
中学3年	7,790人	8,164人	95.4%

- (2) 本章で記述する「正答率」については、有効回答者の全教科(小学5年、小学6年は4教科、中学1年は4教科、中学2年、3年は5教科)の平均正答率を用いた。
- (3) 「回答状況と正答率との関連」について記述については、それぞれの回答選択肢を選択した児童生徒全員の正答率の平均を求めて比較した。選択肢の回答状況によりそれぞれの回答選択肢を選択した児童生徒数は異なるため、児童生徒数が極めて少ない回答選択肢については、その正答率を比較することが適切でない場合も考えられる。このような場合については、その旨を文中に記した。

## 3 意識調査質問項目の構成

## ア 質問項目の構成

- (ア) 学校生活
- (イ) 学習動機
- (ウ) 学習活動(教科全般)
- (エ) 学習活動(各教科)
- (オ) 家庭学習
- (カ) 生活習慣等

質問項目とそれぞれの設問との関係は以下の表のとおりである。

※ 小学校第6学年、中学校第3学年は全国調査の質問紙調査を実施。

質問項目		小学校 [全46問]	中学校 [全49問]
(ア) 学校生活		1・2・3・4	1・2・3・4
(イ) 学習動機		5・18(ア・イ・ウ・エ)・ 20(ア・イ・ウ・エ)・35・ 36	5・18(ア・イ・ウ・エ・ オ)・20(ア・イ・ウ・エ・ オ)・38・39 ※18(オ)・20(オ)は中2のみ
(ウ) 学習活動 (教科全般)		15・16・17・37	15・16・17・40
(エ) 学習活動 (各教科)	国語	19ア・22・23・24・25	19ア・22・23・24・25
	社会	19イ・26・27・28	19イ・26・27・28
	算数 数学	19ウ・29・30・31	19ウ・29・30・31
	理科	19エ・32・33・34	19エ・32・33・34
	英語		19オ・35・36・37 ※中2のみ
(オ) 家庭学習		6・7・8・9・10・11・ 12・13・14	6・7・8・9・10・11・ 12・13・14
(カ) 生活習慣等		21・38・39・40・41・42・ 43・44・45・46	21・41・42・43・44・45・ 46・47・48・49

## イ 質問の意図

## (ア) 学校生活

学校生活の楽しさ、好きな授業の有無などについて問うことにより、児童生徒の学校生活の実態を把握する。

## (イ) 学習動機

勉強に対する興味や有用性、将来の夢や目標の有無について問うことにより、学習動機の高さについての実態を把握する。

## (ウ) 学習活動(教科全般)

自分の考えを発表する機会や児童生徒の間で話し合う活動の頻度、自分の考えの表現に対する抵抗感について問うことにより、児童生徒の学習活動全般の実態について把握する。また、電子黒板などのICTを活用した授業の分かりやすさと利用状況を問うことにより、その効果と利活用の状況を把握する。

## (エ) 学習活動(各教科)

各教科の内容の理解度についての自己評価、各教科の特性に応じた学習内容や学習方法についての児童生徒の興味・関心・意欲・態度について問うことにより、それぞれの教科についての学習活動の実態について把握する。

## (オ) 家庭学習

授業以外の勉強時間や勉強の内容、塾や家庭教師の有無など児童生徒の学習方法全般について問うことにより、児童生徒の家庭学習の実態について把握する。

## (カ) 生活習慣等

読書時間、テレビやゲームなどの時間、就寝時刻、朝食や家の手伝いの頻度、地域における行事などへの参加の頻度などについて問うことにより、児童生徒の家庭における生活習慣の実態について把握する。

## 教師意識調査結果の分析に当たって

## 1 分析の方針

教師意識調査の分析に当たっては、第 I 章の調査内容の中で述べた質問項目の構成から「教科全般における指導法の工夫」「学習環境の活用」「家庭学習への関与状況」「学校組織マネジメントに対する意識」というカテゴリーに分けて、分析を行った。

それぞれの設問については、

- ① 今回の調査に見られる全体的な傾向
- ② 学校スコアによるグループ比較

という観点から調査結果の分析を行った。

## 2 分析に当たって留意した点

- (1) 分析の対象となるデータについては、昨年度、小学校第4学年、小学校第5学年、小学校第6学年、中学校第1学年、中学校第2学年を担当した教師の2月調査での回答を用いている。回答者数は、下記のとおりである。

## 回答者数

小学校	1200人
中学校	965人

- (2) 教師意識調査の回答選択肢を指導の頻度や内容に応じて点数化し、各学校の有効回答者の平均を求めたものを学校スコアとしている。詳細は第 I 章の註を参照していただきたい。
- (3) 指導状況の違いを明らかにするために、各設問ごとに小、中学校の学校スコア上位四分の一の学校群をAグループ、下位四分の一の学校群をBグループとして、グループにおける平均正答率の状況を比較した。基本的にAグループがその指導が多く行われている(又は、意識が高い)学校群、Bグループがその指導があまり行われていない(又は、意識があまり高くない)学校群となっている。

## 3 意識調査質問項目の構成

## ア 質問項目の構成

カテゴリ	小学校	中学校
(ア) 家庭学習への関与状況	設問2～6	設問2～6
(イ) 学習環境の活用	設問7～10	設問7～10
(ウ) 教科等全般における指導法の工夫	設問11～19	設問11～19
(エ) 教科の特性に応じた指導法の工夫	設問20～29	設問20～31
(オ) 教師の指導観	設問30～33	設問32～35
(カ) 学校組織マネジメントに対する意識	設問34～36	設問36～38

## イ 質問の意図

## (ア) 家庭学習への関与状況

宿題を出している頻度ならびに出している宿題の質(予習的宿題・復習的宿題)について問うことにより、宿題の出題状況を把握する。

## (イ) 学習環境の活用

授業におけるコンピュータや学校図書館の活用頻度とその活用内容を把握する。

## (ウ) 教科等全般における指導法の工夫

発展的な課題を取り入れた授業の実施状況、理解が十分でない児童生徒に対する授業外での対応状況、書いて表現する活動や話し合い活動を取り入れた授業の実施(教科の授業・総合的な学習の時間)、身に付けさせた力を意識した総合的な学習の時間の指導、学習方法についての指導状況、学習形態の工夫、目標や評価規準を明確にした授業の実施について問うことにより、発展的学習・補充的指導・表現力の育成、総合的な学習の時間の指導、学習方法の指導、学習形態の工夫、目標を明確にした指導などの状況を把握する。

## (エ) 教科の特性に応じた指導法の工夫

国語における言語活動、読書指導、社会における調査学習を生かした発表・討論、算数・数学における算数(数学)的活動、問題解決的な学習、理科における見通しをもった観察や実験とそのまとめ、英語におけるコミュニケーション能力を高める指導や書く活動などについて問うことにより、各教科の特性に応じた指導法の工夫の状況を把握する。

## (オ) 教師の指導観

教師の指導行動を主に、課題達成の意識、集団維持の意識の2点から問うことにより、教師の指導観と正答率に及ぼす影響を分析する。

## (カ) 学校組織マネジメントに対する意識

教育活動方針の理解、方針や内容についての共通理解、職員間の雰囲気について問うことにより、学校組織マネジメントが児童生徒の正答率や児童生徒の学習に対する意識に及ぼす影響を把握する。

最終更新日：2012-10-15

## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ&gt;IV 児童生徒意識調査結果の分析

## 児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析に関わる全てのグラフ

## 1 学校生活

- 「友達に会うのは楽しい」及び「学校で落ち着いて勉強することができる」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに全体の9割を越えている。[図1][図3]
- 全ての学年において、「友達と会うのは楽しい」、「落ち着いて勉強することができる」と回答している児童生徒ほど、平均正答率が高くなっている。[図2][図4]
- 「教科の勉強が好きだ」と感じている児童生徒の割合は、国語の小学6年生、中学3年生、算数・数学の小学6年生において増加している。[図5][図6]

ここでは、児童生徒の学校生活についての調査結果を述べる。具体的には、学校生活の楽しさや学習状況の設問について分析した。

## ア 「友達に会うのは楽しい」について

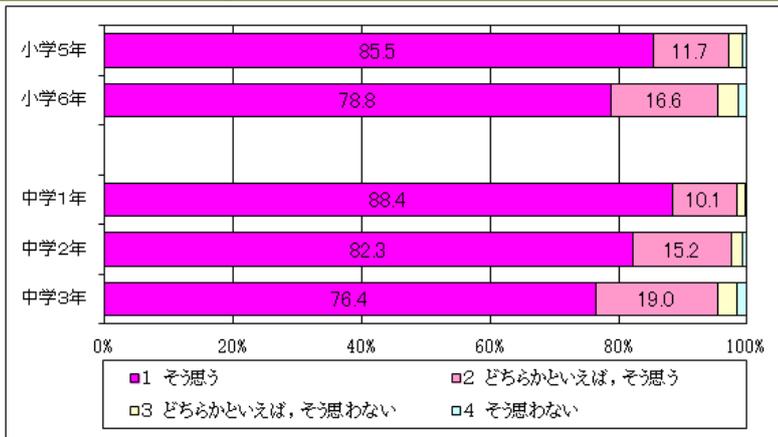


図1 「友達に会うのは楽しい」の回答の割合

「そう思う」と回答した児童生徒の割合は、小学5年85.5%、小学6年78.8%、中学1年88.4%、中学2年82.3%、中学3年76.4%となっている。「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合を合わせると、小学生、中学生ともに、どの学年も9割を越えている。特に、中学1年では98.5%と最も高い割合である。[図1]

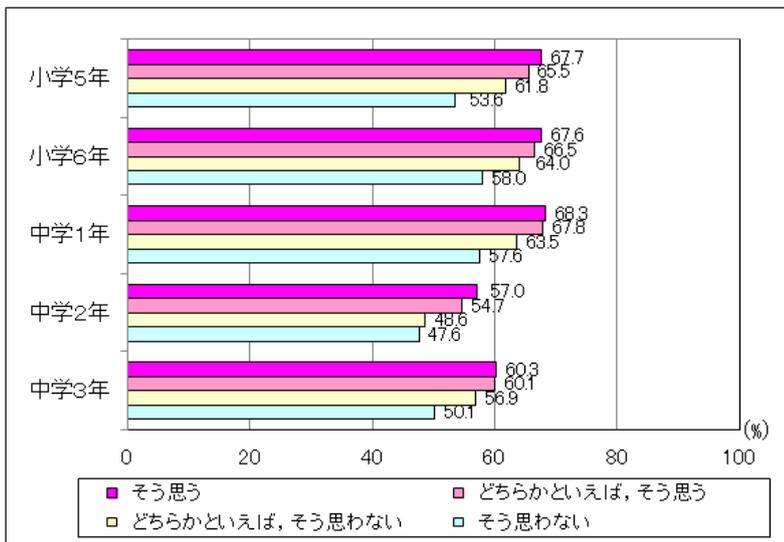


図2 「友達に会うのは楽しい」の回答状況と正答率

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、全ての学年において、「そう思う」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっている。「友達と会うのが楽しい」と回答した児童生徒ほど、平均正答率が高くなっている。[図2]

イ 「学校では落ち着いて勉強することができる」について

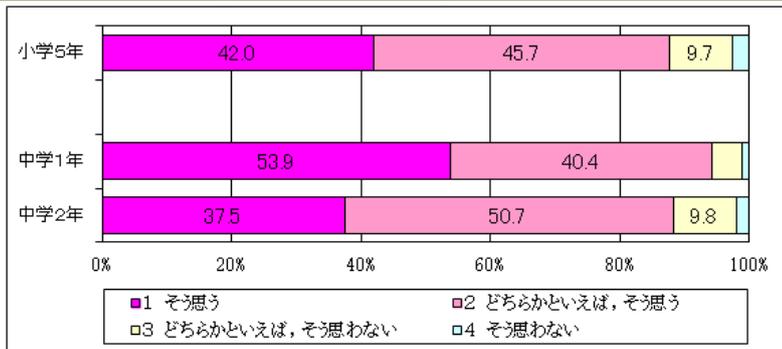


図3 「学校では落ち着いて勉強することができる」の回答の割合

「そう思う」と回答した児童生徒の割合は、小学5年42.0%、中学1年53.9%、中学2年37.5%となっている。「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合を合わせると、小学5年では87.7%、中学1年では94.3%、中学2年では88.2%である。中学1年では94.3%と最も高い割合である。[図3]

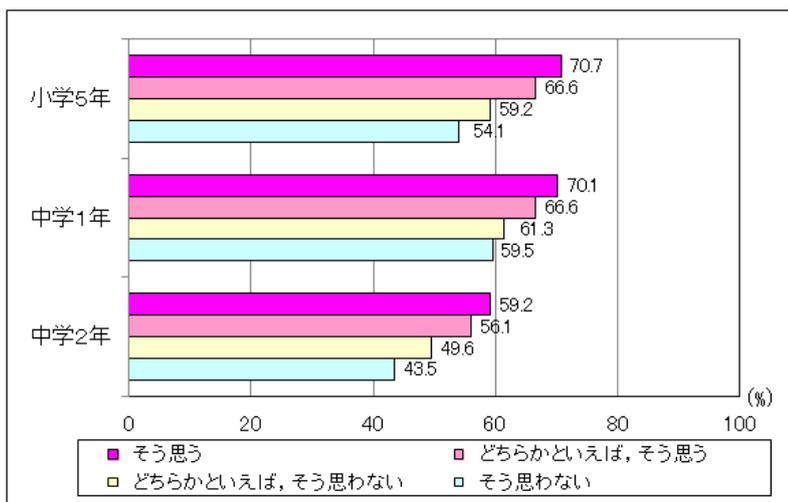


図4 「学校では落ち着いて勉強することができる」の回答状況と正答率

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、全ての学年において「そう思う」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっている。「落ち着いて勉強することができる」と回答した児童生徒ほど、平均正答率が高くなっている。[図4]

## ウ 「教科の勉強が好きだ」について

## ① 国語について

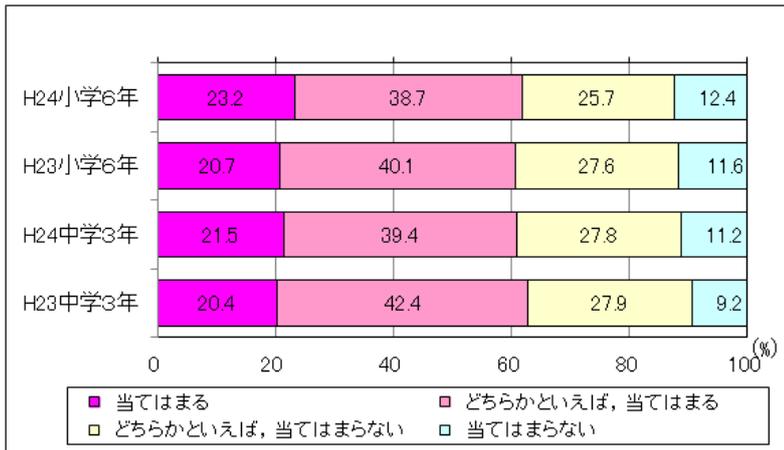


図5 「国語の勉強が好きだ」の回答の割合

平成24年度の小学6年における「当てはまる」の割合は、2.5ポイント増えている。中学3年においても「当てはまる」の割合は1.1ポイント増えているが大きな変化は見られない。平成23年度では「教科の勉強が好きだ」との回答が減っているという課題があった。そのことを考慮すると、今後も指導改善が必要となってくる。【図5】

## ② 算数について

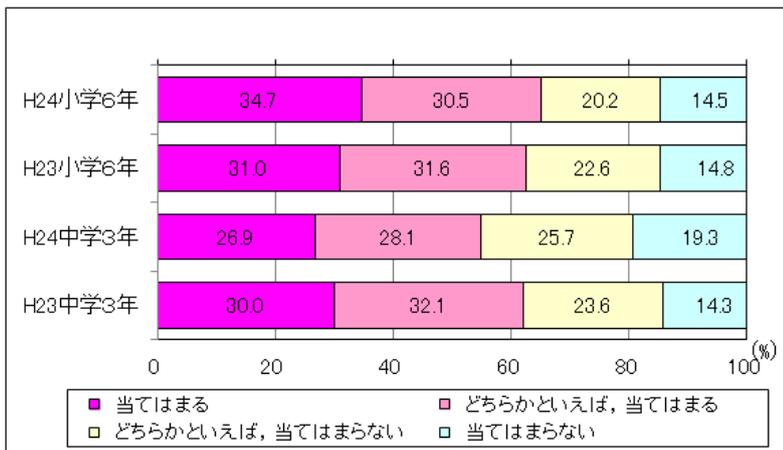


図6 「算数・数学の勉強が好きだ」の回答の割合

小学6年生においては、「当てはまる」の割合が3.7ポイント増えている。しかし、中学3年生においては、「当てはまる」の割合が3.1ポイント減っている。そのことからすれば、中学3年生においては指導改善が必要となってくる。【図6】

## ○ これからの指導に向けて

「友達に会うことの楽しさ」や「落ち着いた学習への取り組み」について「そう思う」と回答した児童の平均正答率が最も高くなっている。このことから、友達に会ったり、落ち着いて学習できたりするなどの学級づくりと学力の定着については関係があると考えられる。クラスが落ち着き、友達どうしが互いに認め合ったり、励まし合ったりしていくことで学習への意欲も高まっていくことが考えられる。そのため、学級経営を基盤とした授業づくりが必要である。平成24年度の「国語の学習が好きだ」においては「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答率が増加したが大きな変化は見られなかった。算数・数学においては、小学6年と中学3年を比較すると、中学3年になると好きな教科が減っていくという結果がでている。理由として学習内容が増えることや難易度が上がることが挙げられる。好きな教科がある児童の平均正答率が最も高くなっているため、教科を好きになるような指導を考えていくことが大切である。

最終更新日: 2012-10-15

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ>IV 児童生徒意識調査結果の分析

## 児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析に関わる全てのグラフ

### 2 学習動機

- 「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童生徒は、小学校で8割を超えている。しかし、中学校3年では7割を越えるほどとなる。学年が上がるごとにその割合は減少している。[図1]。

ここでは、「将来の夢や目標をもっているか」という設問を通して、児童生徒の将来に対する意識と全教科平均正答率との関連についての調査結果を述べる。

#### ア「将来の夢や目標をもっている」について

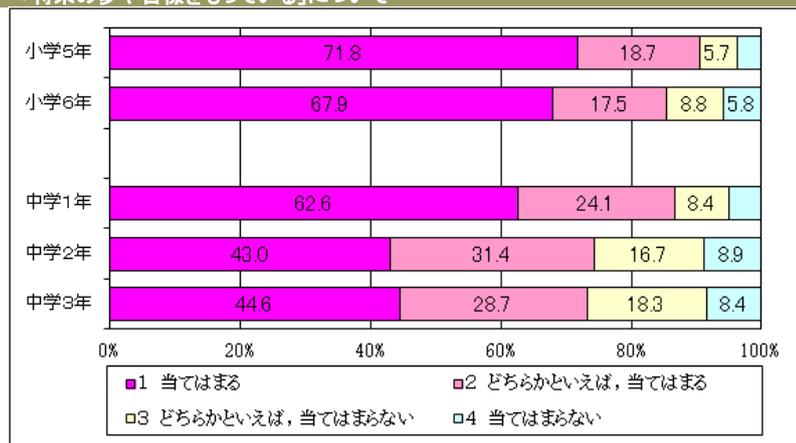


図1 「将来の夢や目標をもっている」の回答状況

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が小学5年71.8%、小学6年67.9%、中学1年62.6%、中学2年43.0%、中学3年44.6%となっている。「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合を合わせると、小学校では80%を、中学校では70%を上回っている。全体として、学年が上がるにしたがって、「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童生徒の割合が低くなっている。[図1]

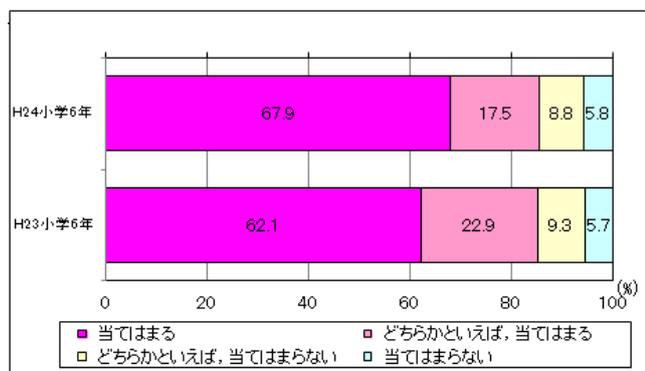


図2-1「将来の夢や目標をもっている」の小学6年の経年比較

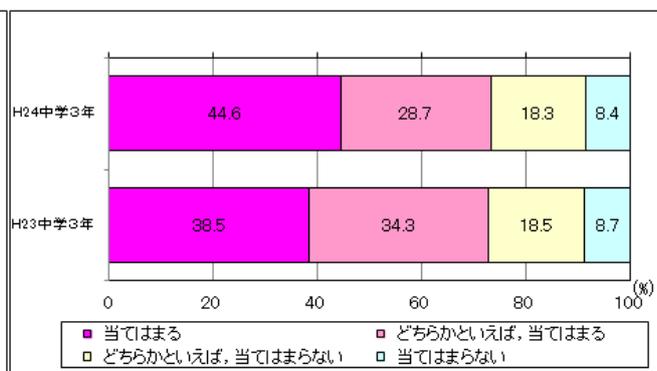


図2-2「将来の夢や目標をもっている」の中学3年の経年比較

小学6年と中学3年における「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、平成23年度と比べると、増えている。しかし、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合を合わせて比べると、大きな変化は見られない。[図2-1][図2-2]

#### ○ これからの指導に向けて

「将来の夢をもつ」と学習意欲には大きな関係があると考えられる。なぜなら、将来の夢を持つことで将来への見通しが明確となり、学習意欲が高まっていくと考えられるからである。夢をもたせることは、教科だけでなくキャリア教育や特別活動など学校教育全体で取り組むことが大切である。しかし、現状の学習と将来の夢についての関係があいまいになることで学習意欲が低くなる児童、生徒が出てくることも考えられる。そのため、現状の学習が将来のためにどのように役立っていくのか、あるいはつながっていくのかを実感させていくような支援を考えていくことが大切である。

最終更新日：2012-10-15

## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

[Web報告書もくじ](#)>IV 児童生徒意識調査結果の分析

### 児童生徒意識調査結果の分析

[児童生徒意識調査結果の分析に関わる全てのグラフ](#)

#### 3 学習活動(教科全般)

- 学年が上がるにつれて、話し合う活動をよく行っていると思う生徒の割合が減り、自分の考えを表現することが難しいと思う生徒の割合が増えている。[図1][図2][図3][図4]

ここでは、授業中に「話し合う活動をよく行っているか」「他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思うか」という設問を通して、平成23年度と平成24年度の児童生徒の経年比較(同一学年及び同一児童生徒)の授業中における表現活動に関する意識の状況と、平成24年度の回答状況と全教科平均正答率との関連について調査結果を述べる。

ア 「普通の授業では、児童(生徒)の間で話し合う活動をよく行っていると思う」についての経年比較(同一学年及び同一児童生徒)

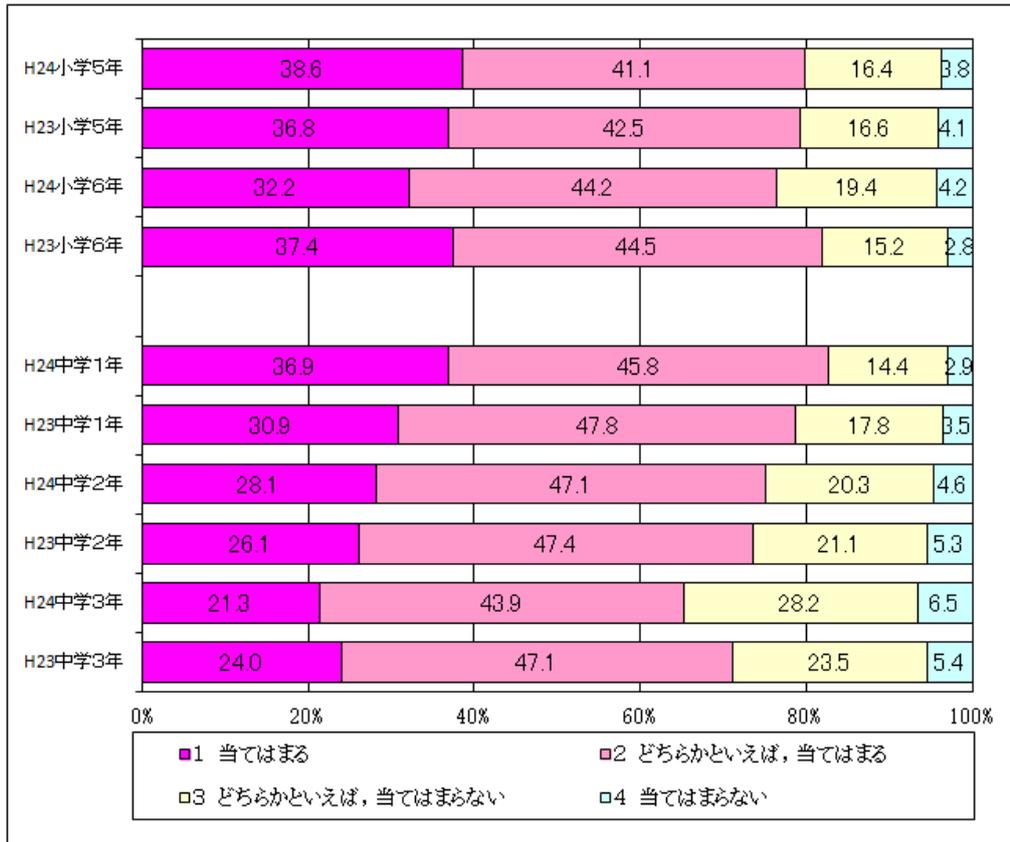


図1 「授業では、話し合う活動をよく行っていると思う」の回答状況の経年比較

小学5年から小学6年、中学1年から中学3年と学年が上がるごとに、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が減っていた。同一学年の経年比較では、小学5年、中学1年、中学2年において、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合が増えていた。同一児童生徒の経年比較では、小学6年から中学3年までは、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が減っていた。[図1]

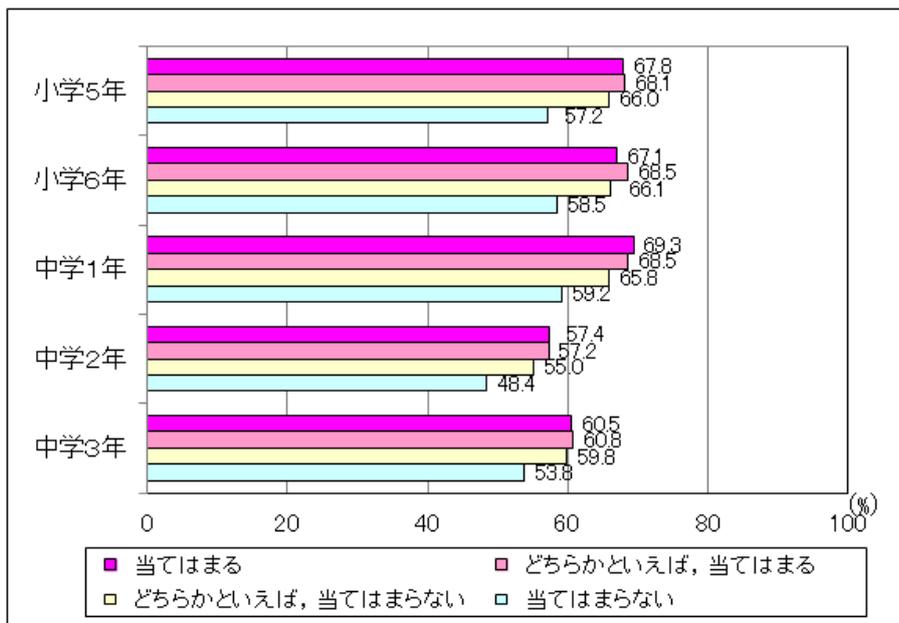


図2 「授業では、話し合う活動をよく行っていると思う」の回答状況と平成24年度の全教科平均正答率

「授業では、話し合う活動をよく行っていると思う」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率との関連を見ると、明確な関連は見られないが、全ての学年に共通して、授業でよく話し合う活動を行っていると思うことに対し、「当てはまらない」と回答している児童生徒の平均正答率は、他の回答をした児童生徒に比べ、低くなっていた。[図2]

イ 「学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」についての経年比較(同一学年及び同一児童生徒)

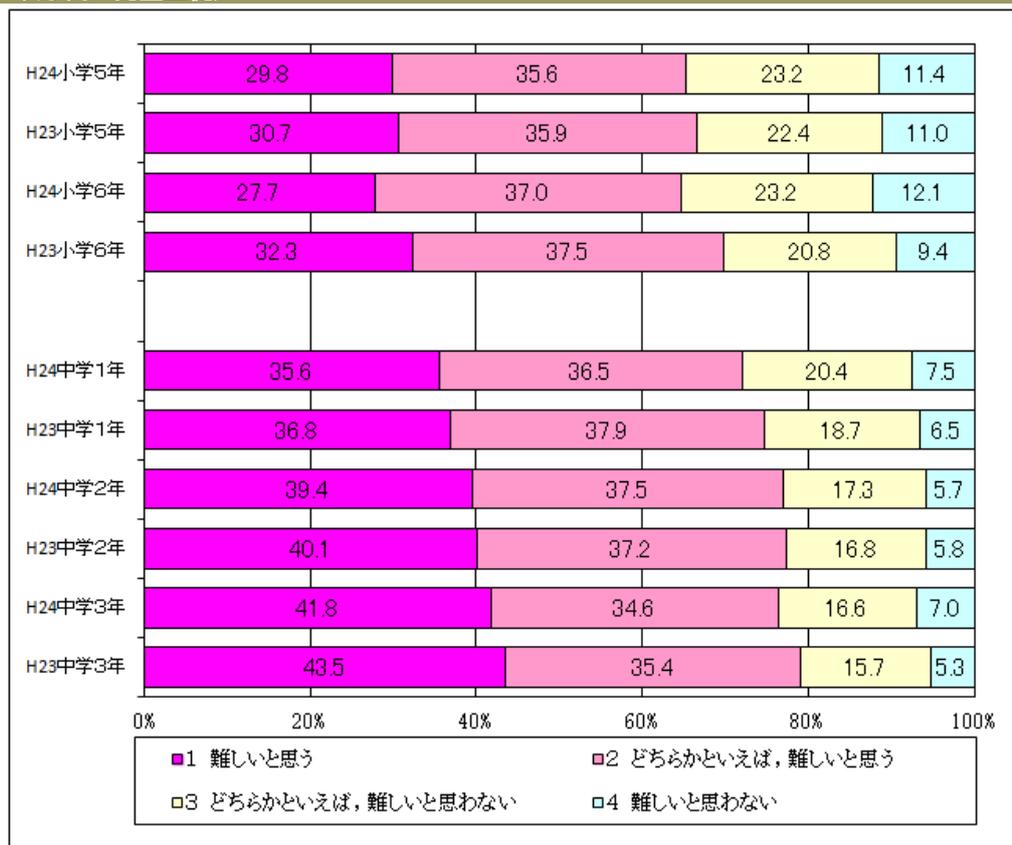


図3 「授業などで、自分の考えを表現するのは難しい」の回答状況の経年比較

中学1年から中学3年まで、学年が上がるごとに、「難しいと思う」と回答した生徒の割合が増えていた。しかし、同一学年の経年比較では、全ての学年で「難しいと思う」と回答した児童生徒の割合は減っていた。同一児童生徒の経年比較では、中学校の全学年において、「難しいと思う」と回答した生徒の割合が増えており、自分の考えを表現するのが難しいと思う中学生の割合が増える傾向にある。[図3]

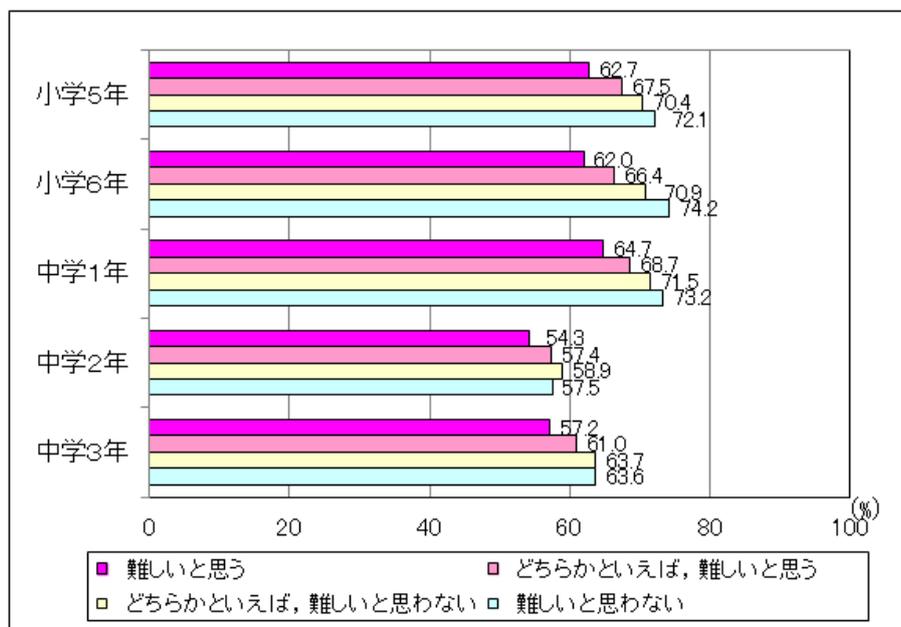


図4 「授業などで、自分の考えを表現するのは難しい」の回答状況と平成24年度の全教科平均正答率

「授業などで、自分の考えを表現するのは難しい」の回答状況と全教科平均正答率との関連から、学年を問わず「難しいと思う」と回答した児童生徒の平均正答率が最も低くなっている。小学5年、小学6年、中学1年については、「難しいと思わない」「どちらかといえば、難しいと思わない」と回答している児童生徒ほど、平均正答率が高くなっている。[図4]

**○ これからの指導に向けて**

児童生徒の意識調査の経年比較と教科平均正答率の結果より、毎日の授業の中で、最低1回は自分の考えをかく時間と書いたものを説明する時間を必ず確保することが大切であると考え。自分の考えを説明したり、文章にかいたりすることが難しいと思っている児童生徒に対しては、選択式を取り入れたり、グループ活動を取り入れたりして自分の思いや考えを表現する場のハードルを低く設定し、選択した理由についても説明させることで自分の思いや考えを表現することに慣れさせる必要があると考える。

---

最終更新日：2012-10-15

## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ> IV 児童生徒意識調査結果の分析

### 児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析に関わる全てのグラフ

#### 4 家庭学習

- 1日あたりの学習時間については、平成23年度と平成24年度の児童生徒共に同程度であり、学習時間が増えてないのが現状である。[図1][図2][図3][図4]
- 自分で計画を立てて勉強する生徒、特に、学校の宿題、予習や復習をしている児童生徒ほど全教科平均正答率が高くなっている。[図5][図6][図7][図8][図9][図10][図11][図12]

ここでは、児童生徒の家庭学習についての調査結果について述べる。具体的には、家庭学習の時間と学習の内容や仕方について、平成23年度と平成24年度の経年比較(同一学年及び同一児童生徒)と、平成24年度の回答の状況と全教科平均正答率との関連について述べる。

#### ア 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」についての経年比較(同一学年及び同一児童生徒)

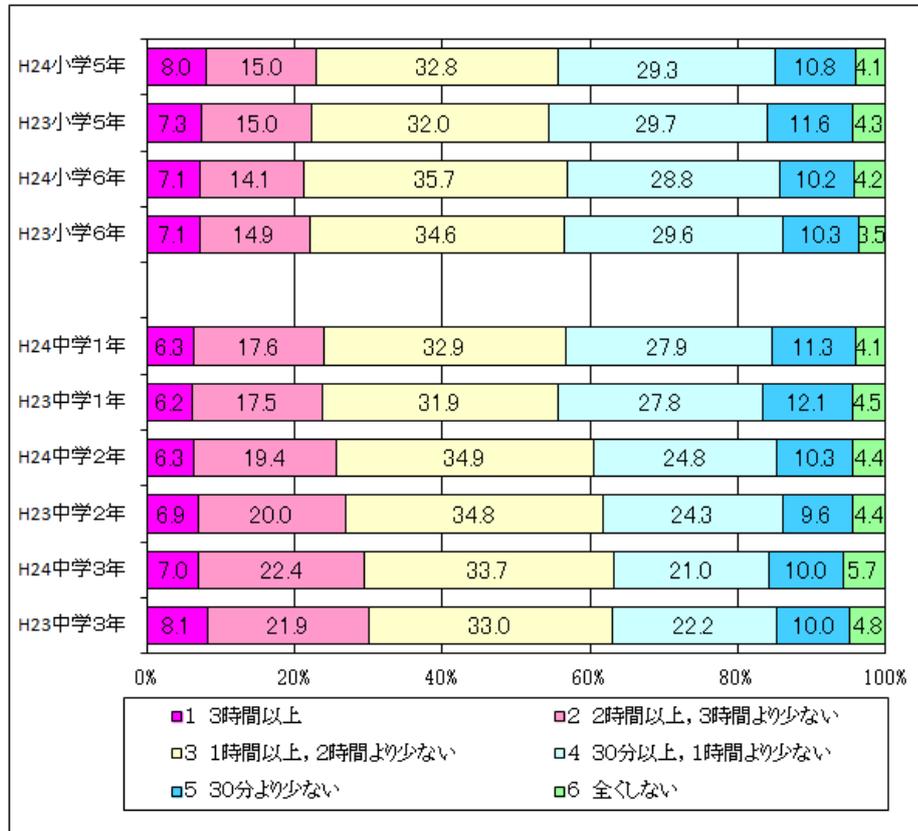


図1 「普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答状況の経年比較

学習時間については、中学校においては、学年が上がるごとに増加する傾向が見られる。同一学年の経年比較については、「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した児童生徒の割合は、小学5年と中学1年は増えていた。1時間以上していると回答した児童生徒の割合は、小学5年、小学6年、中学1年、中学3年は増えていた。全学年において1時間より少ないと答えた児童生徒の割合は、平成23年度同様に4割程度となった。同一児童生徒の経年比較については、1時間以上していると回答した児童生徒の割合は、小学6年から中学校3年まで増えていた。[図1]

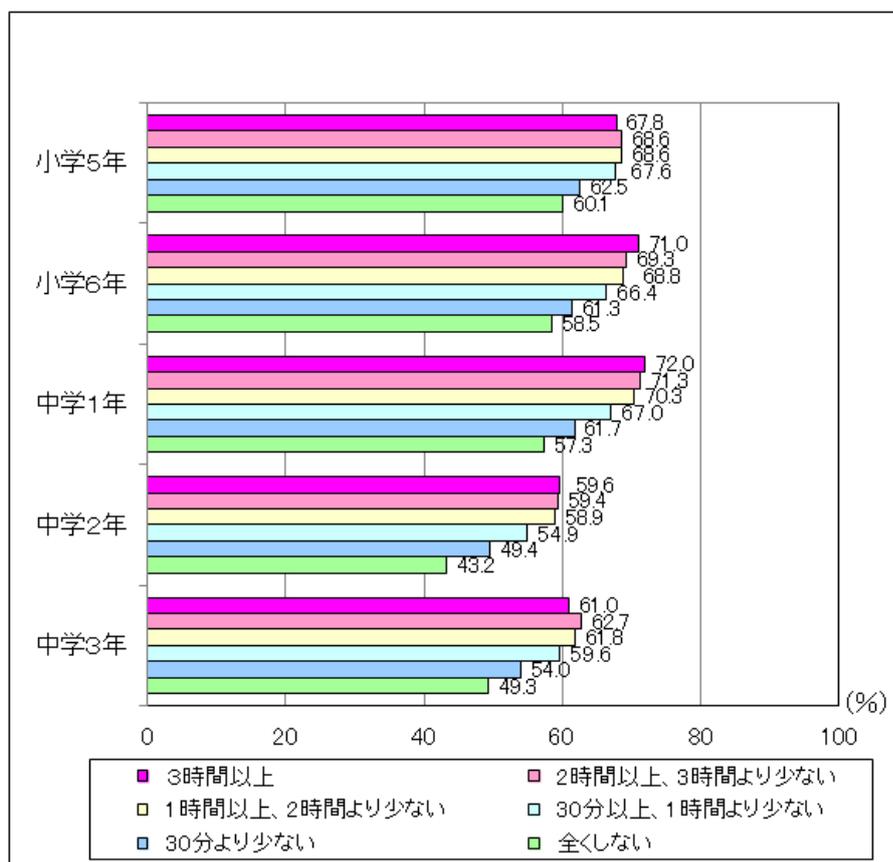


図2 「普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答状況と  
平成24年度全教科平均正答率

「普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答状況と平成24年度の全教科平均正答率との関連から、小学6年、中学1年、中学2年については、勉強する時間が長い児童生徒ほど平均正答率が高くなっている。[図2]

## イ 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」についての経年比較(同一学年及び同一児童生徒)

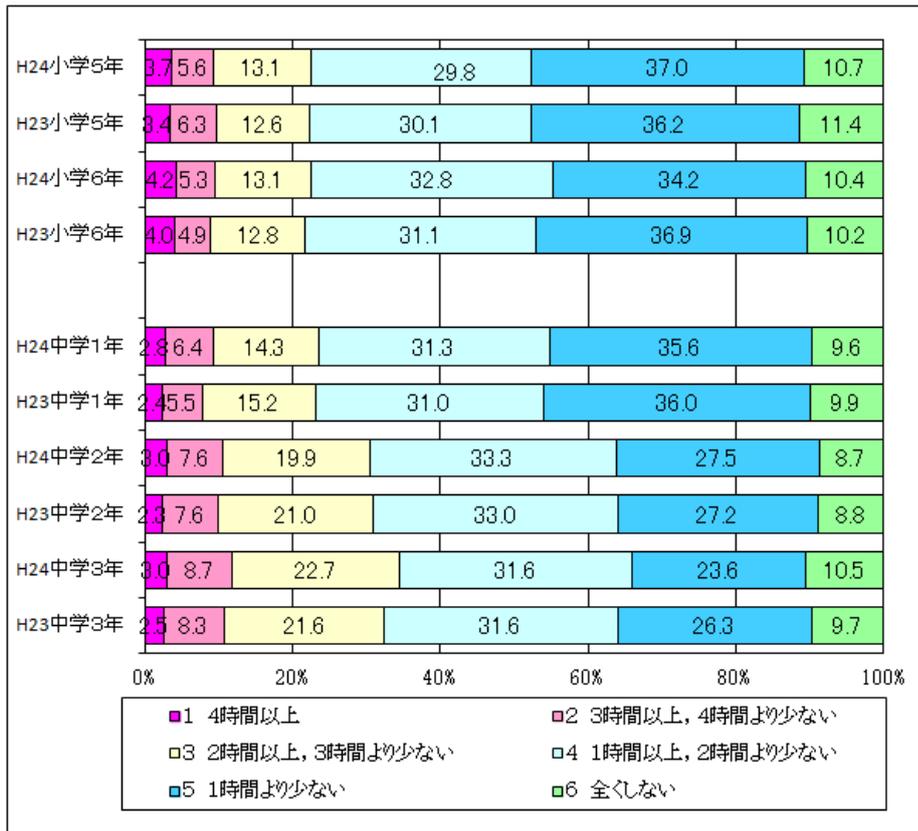


図3 「休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答状況の経年比較

2時間以上していると回答した児童生徒の割合は、学年が上がるごとに増えている。同一学年の経年比較については、2時間以上していると回答した児童生徒の割合が、小学6年、中学1年、中学3年が増えていた。全学年において、1時間より少ないと回答した児童生徒の割合は、平成23年度同様に3割から4割程度となった。同一児童生徒の経年比較については、2時間以上または1時間以上していると回答した児童生徒の割合は、小学6年から中学校3年まで増えていた。[図3]

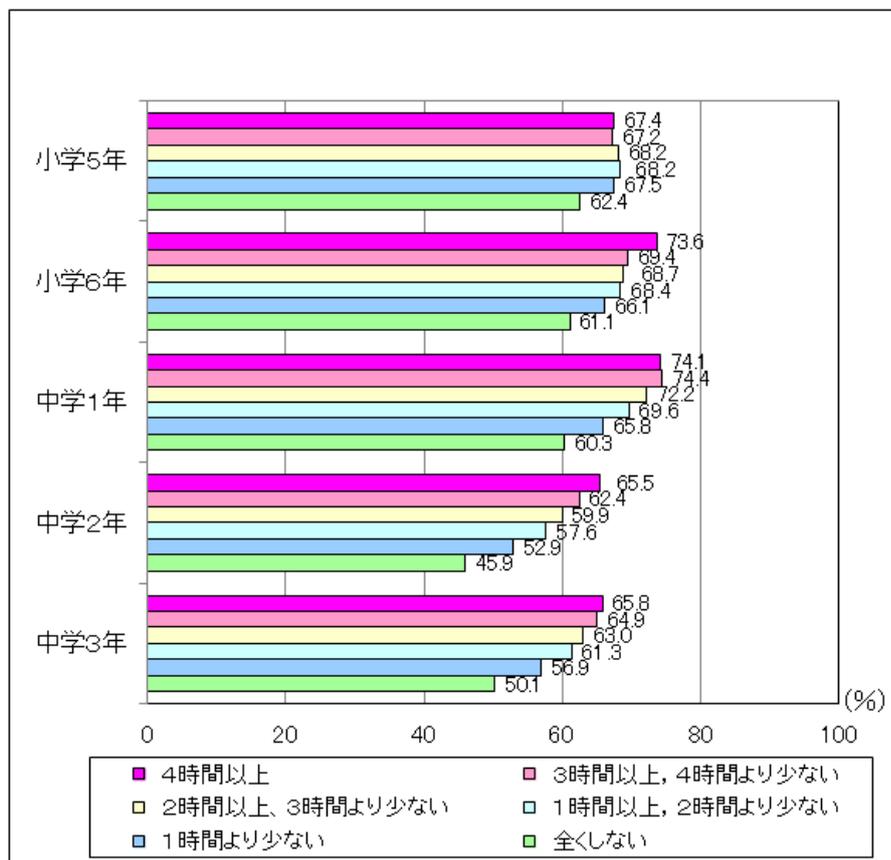


図4 「学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率

「学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の回答状況と平成24年度の全教科平均正答率との関連から、小学6年生、中学2年生、中学3年生については、勉強時間が長ければ長いほど平均正答率が高くなっている。[図4]

ウ 「自分で計画を立てて勉強している」についての経年比較(同一学年及び同一児童生徒)

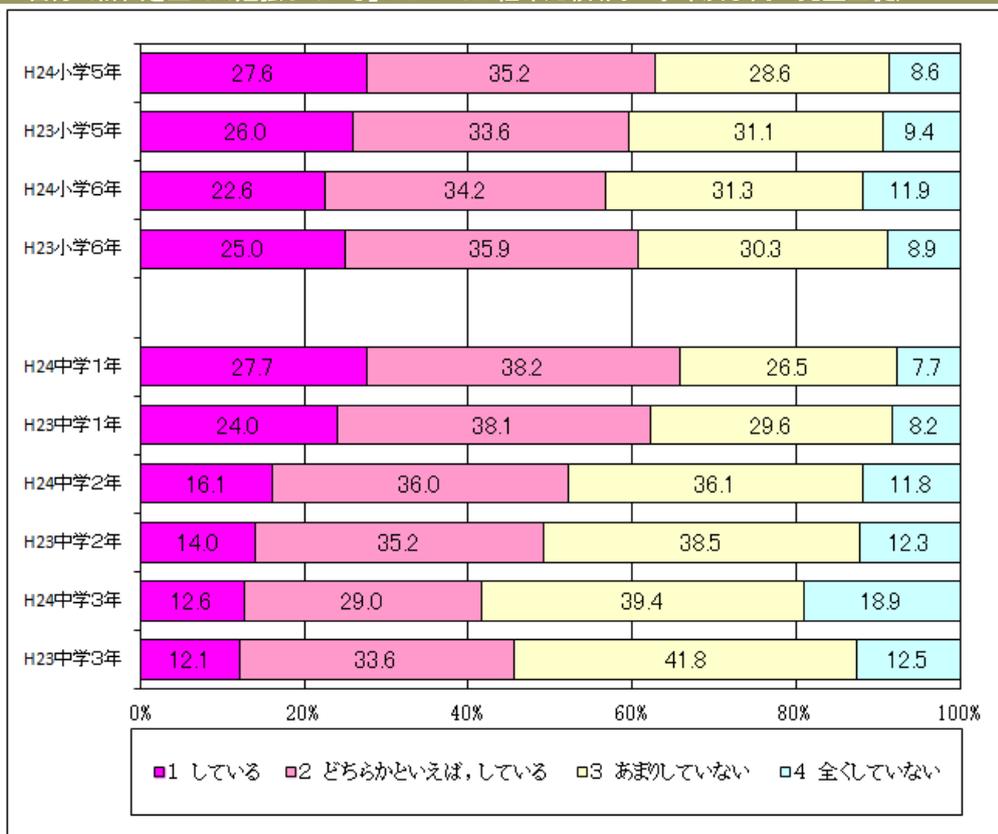


図5 「自分で計画を立てて勉強している」の回答状況の経年比較

小学5年から小学6年、中学1年から中学3年と学年が上がるごとに、「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合が減っていた。同一学年の経年比較については、小学5年、中学1年、中学2年の「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合が増えていた。同一児童生徒の経年比較については、中学1年生の「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合が増えていた。[図5]

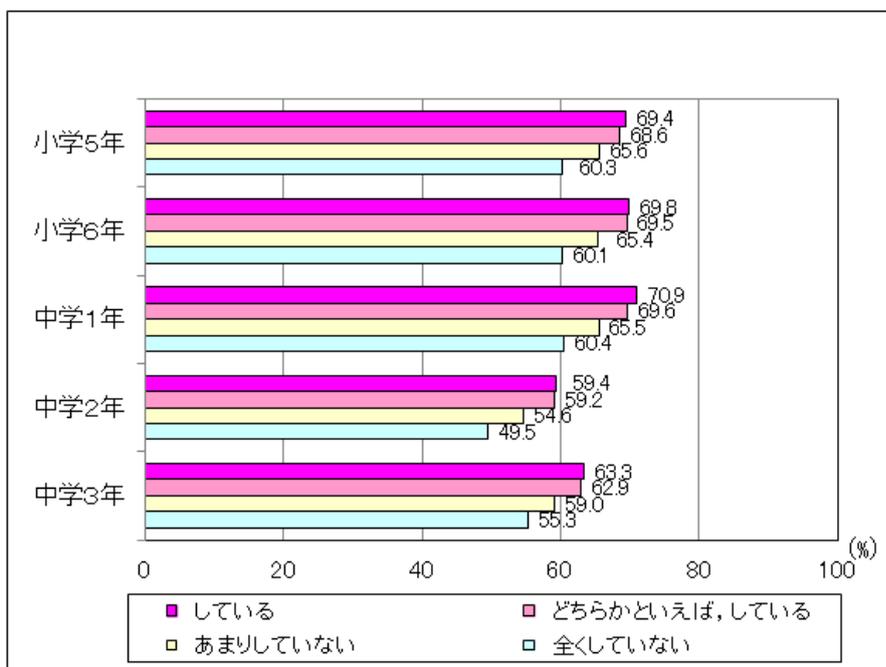


図6 「自分で計画を立てて勉強している」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率

「自分で計画を立てて勉強している」の回答状況と平成24年度の全教科平均正答率との関連から、全学年において、「予習をしている」と回答した児童生徒ほど平均正答率が高くなっている。[図6]

エ 「学校の宿題をしている」についての経年比較(同一学年及び同一生徒児童)

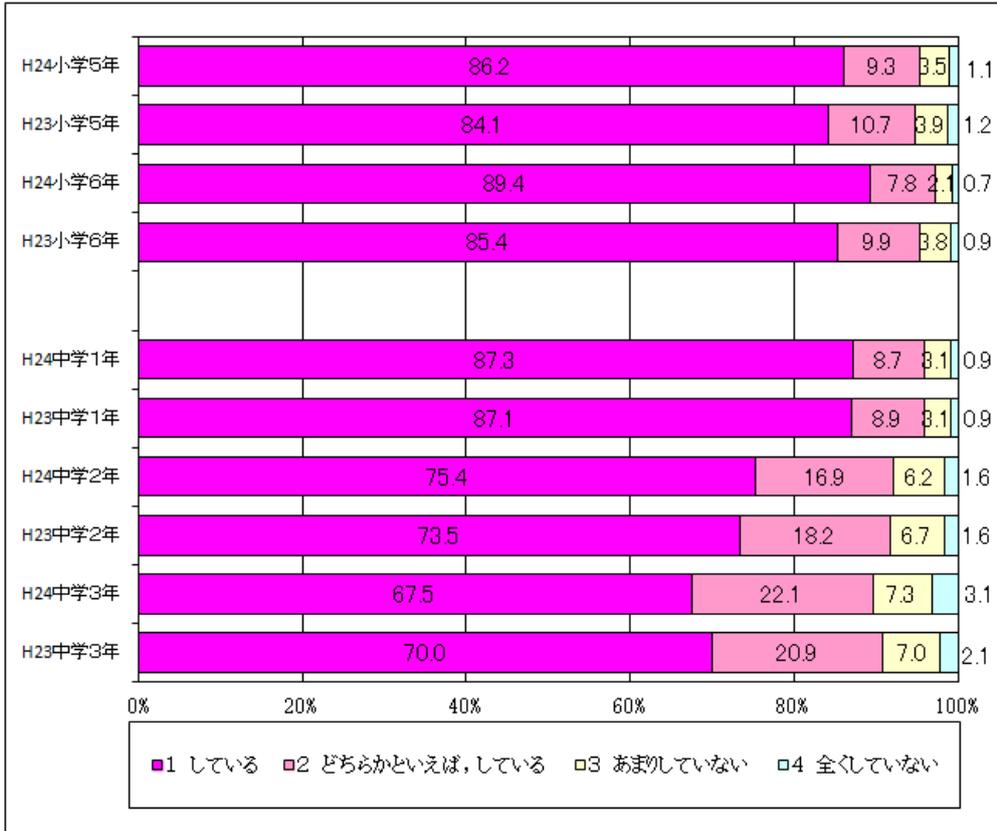


図7 「学校の宿題をしている」の回答状況の経年比較

小学6年から中学3年まで学年が上がるごとに、「している」と回答した児童生徒の割合が減っていた。同一学年の経年比較では、小学5年、小学6年、中学1年、中学2年の「している」と回答した児童生徒の割合が増えていた。同一生徒の経年比較では、小学6年、中学1年の「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合が増えていた。[図7]

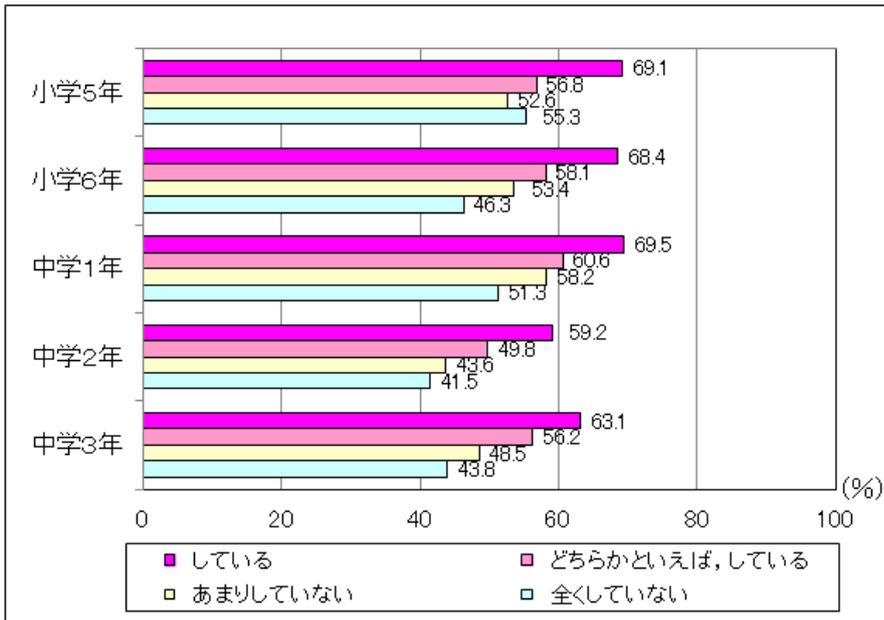


図8 「学校の宿題をしている」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率

「学校の宿題をしている」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率との関連を見ると、全学年において、「している」と回答した児童生徒ほど平均正答率が高くなっている。[図8]

オ 「学校の授業の予習をしている」についての経年比較(同一学年及び同一児童生徒)

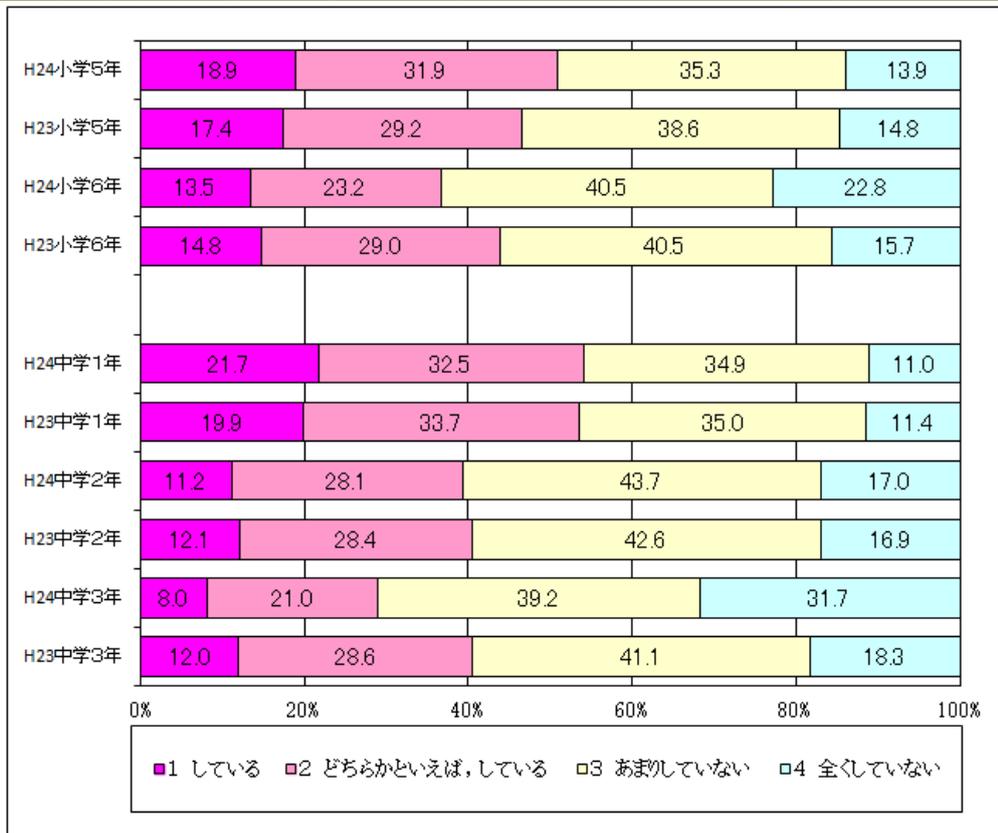


図9 「学校の授業の予習をしている」の回答状況の経年比較

学校の授業の予習について、中学1年の「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合が最も多い。同一学年の経年比較については、小学5年、中学1年、中学2年の「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合が増えていた。同一児童生徒の経年比較については、中学1年の「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合が増えていた。[図9]

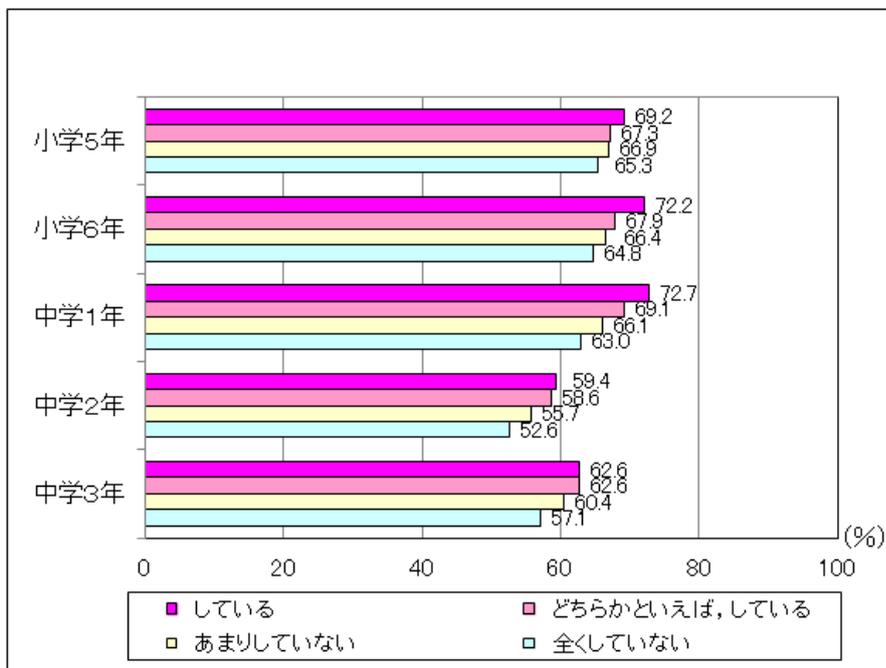


図10 「学校の授業の予習をしている」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率

「学校の授業の予習をしている」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率との関連を見ると、「している」と回答している児童生徒ほど平均正答率が高くなっている。[図10]

カ 「学校の授業の復習をしている」についての経年比較(同一学年及び同一児童生徒)

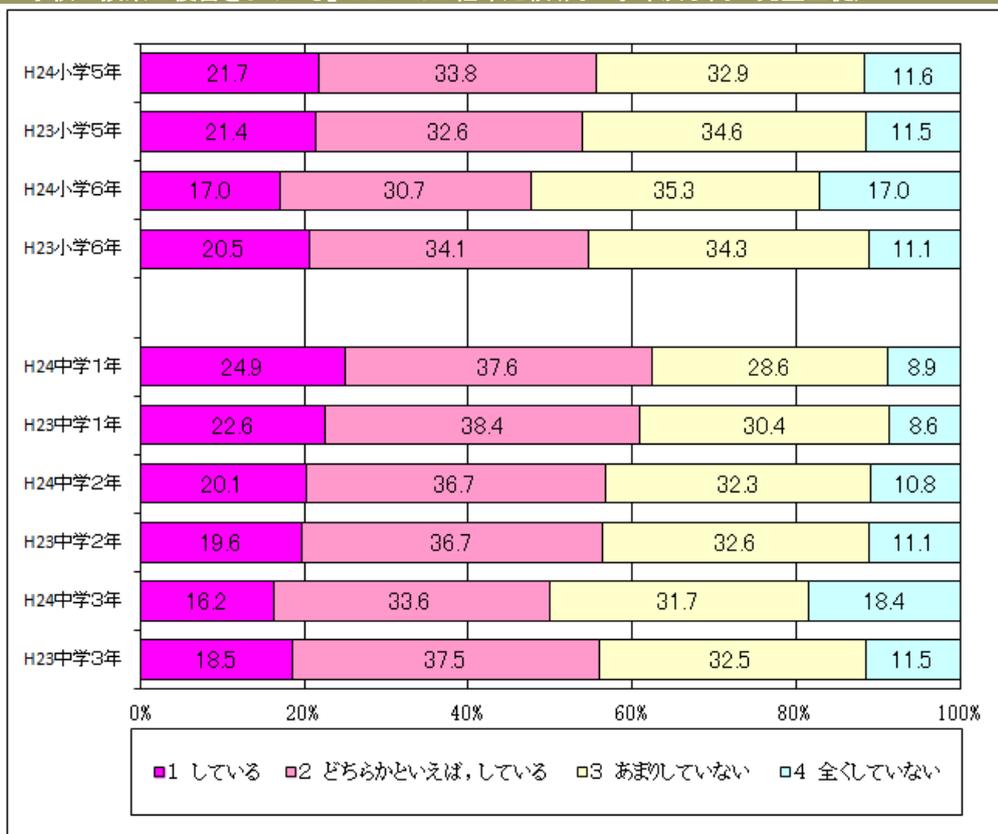


図11 「学校の授業の復習をしている」の回答状況の経年比較

学校の授業の復習について、中学1年生の「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合が最も多い。同一学年の経年比較については、小学5年、中学1年、中学2年の「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合が増えていた。同一児童生徒の経年比較については、中学1年の「している」「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合が増えていた。[図11]

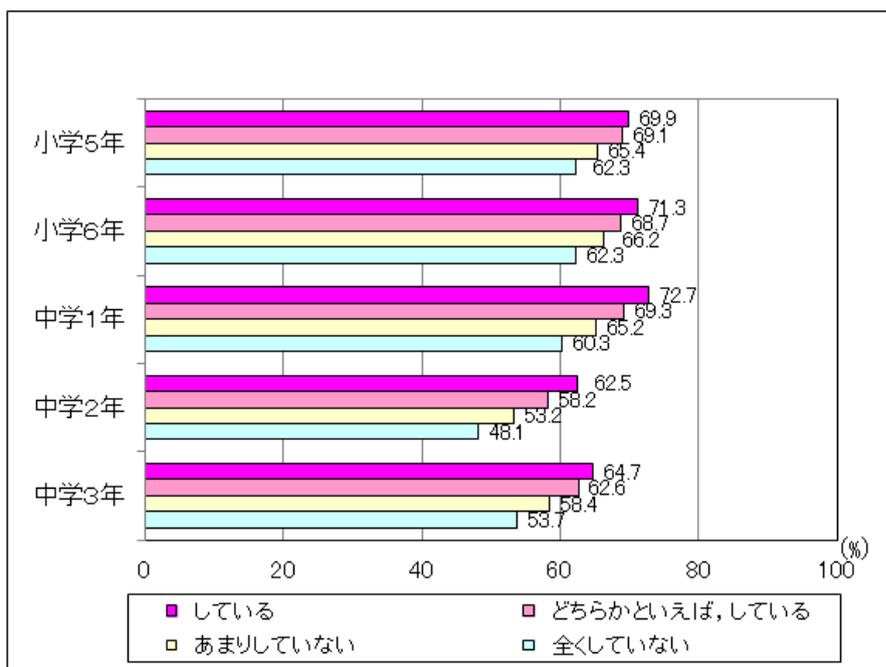


図12 「学校の授業の復習をしている」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率

「学校の授業の復習をしている」の回答状況と平成24年度全教科平均正答率との関連を見ると、「している」と回答している児童生徒ほど平均正答率が高くなっている。[図12]

### ○ これからの指導に向けて

1日あたりの家庭学習の時間についての児童生徒の経年比較では、各学年における学習時間の割合は、ほぼ同程度で、家庭学習の時間が増えていないのが現状である。自分で計画を立てて勉強をする児童生徒、特に学校の宿題、予習や復習をしている児童生徒ほど全教科平均正答率が高い傾向が見られた。そのため、自分で家庭学習の計画を立てて学習に取り組むことができるようにする必要がある。児童生徒が家庭学習の計画を考える時間を設定し、その際に、宿題、予習や復習に取り組む時間を確保し、計画的に実施することができるよう無理のない計画を立てさせるようにすることが大切である。当たり前のことに当たり前に取り組むことができる児童生徒の育成を図りたい。宿題については、発達の段階に応じて、宿題の質や量、チェックの仕方、家庭学習に対する意識のもたせ方、保護者との連携の図り方等、再度家庭学習に関して見直し、改善を図って行く必要がある。

最終更新日：2012-10-15

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ> IV 児童生徒意識調査結果の分析

## IV 児童生徒意識調査結果の分析

児童生徒意識調査結果の分析に関わる全てのグラフ

### 5 生活習慣等

- 読書が好きな児童生徒は、どの学年も70%を上回っている。[図1]しかし、読書の時間について、「まったくしない」、「10分より少ない」と回答した児童生徒の割合は、学年が上がるにつれて増加している。[図4]
- 朝食を毎日食べていると回答した児童生徒の割合は、各学年とも8割を上回っている。[図7]また、朝食をきちんと食べている児童生徒ほど平均正答率が高くなっている。[図8]
- テレビを視聴したりテレビゲームをしたりする時間が長くなるほど、平均正答率も低くなる傾向が見られる。[図13、図16]

ここでは、読書時間、テレビやゲームなど自由に過ごす時間、就寝時刻、朝食など、生活習慣全般についての設問から、児童生徒の生活習慣についての調査結果を述べる。

なお、経年を比較する際には、小学校、中学校の最高学年である小学6年と中学3年の結果を基に比較することとする。

#### ア 「読書は好きだ」について

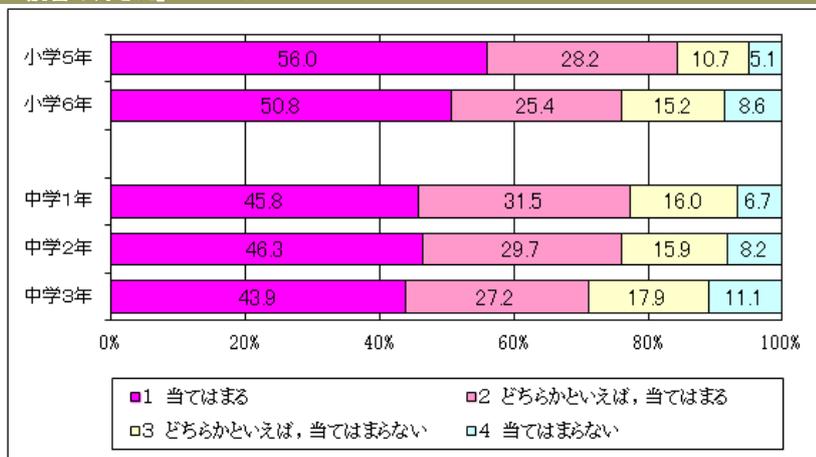


図1 「読書は好きだ」の回答状況

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学5年56.0%、小学6年50.8%、中学1年45.8%、中学2年46.3%、中学3年43.9%となっている。「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合を合わせると、全ての学年が7割を上回っている。特に、小学5年では、84.2%と最も高い割合であった。一方で、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答している児童生徒の割合を見ると、学年が上がるにしたがって、高くなる傾向が見られた。[図1]

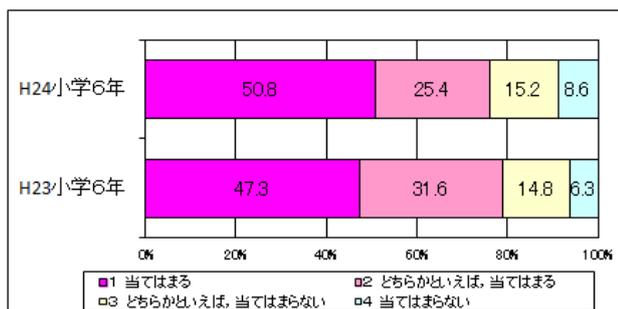


図2-1 小学6年の「読書は好きだ」の回答状況

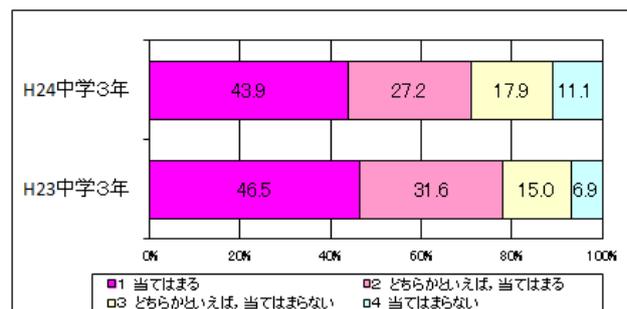


図2-2 中学3年の「読書は好きだ」の回答状況

この設問について、小学6年と中学3年を平成23年度と比べると、小学6年においては、「当てはまる」と回答した児童の割合が3.5ポイント上回った。一方で「どちらかといえば、あてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童の割合も2.7ポイント上回る結果となった。中学3年においては、「どちらかといえば、あてはまらない」「当てはまらない」と回答した生徒の割合が7.1ポイント上回った。[図2-1、図2-2]

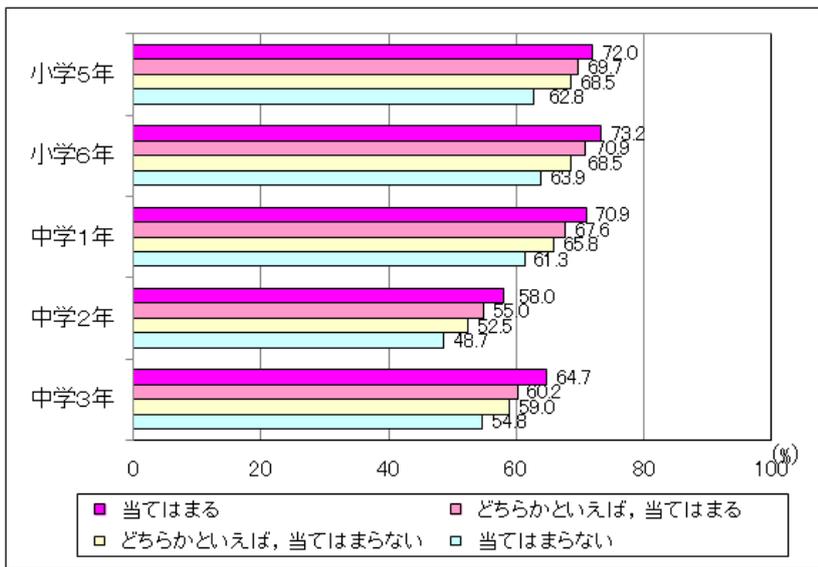


図3 「読書が好きだ」の回答状況と正答率

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、全ての学年において、「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっている。読書が好きだと感じている児童生徒ほど、平均正答率が高くなっている。[図3]

イ 「普段(月曜日から金曜日)、何時ごろにねますか」について

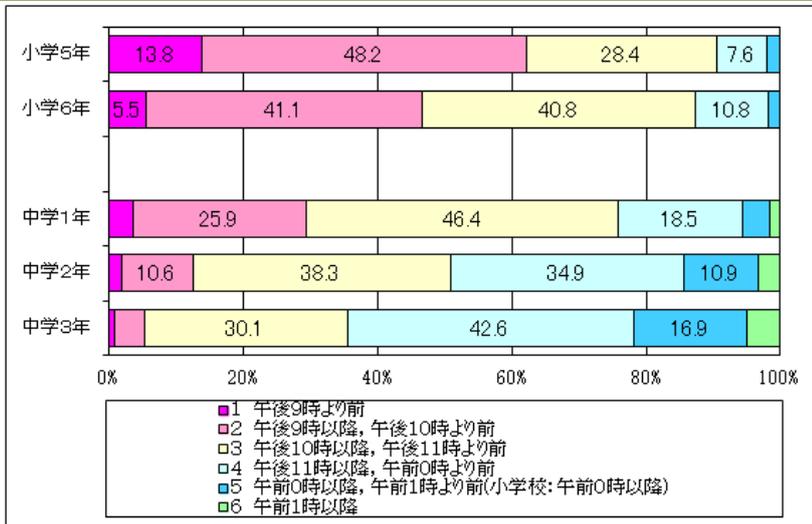


図4 「普段、何時ごろにねますか」の回答状況

小学校では、「午後9時以降、午後10時より前」と回答した児童の割合が、小学5年48.2%、小学6年41.10%と最も高かった。中学1年と中学2年では、「午後10時以降、午後11時より前」が最も高く、中学1年では、46.4%、中学2年では38.3%となっている。中学3年では、「午後11時以降、午前0時より前」が最も高く、42.6%となっている。また、午後11時以降と回答している児童生徒の割合は、学年が上がるにしたがって、高くなっている。[図4]

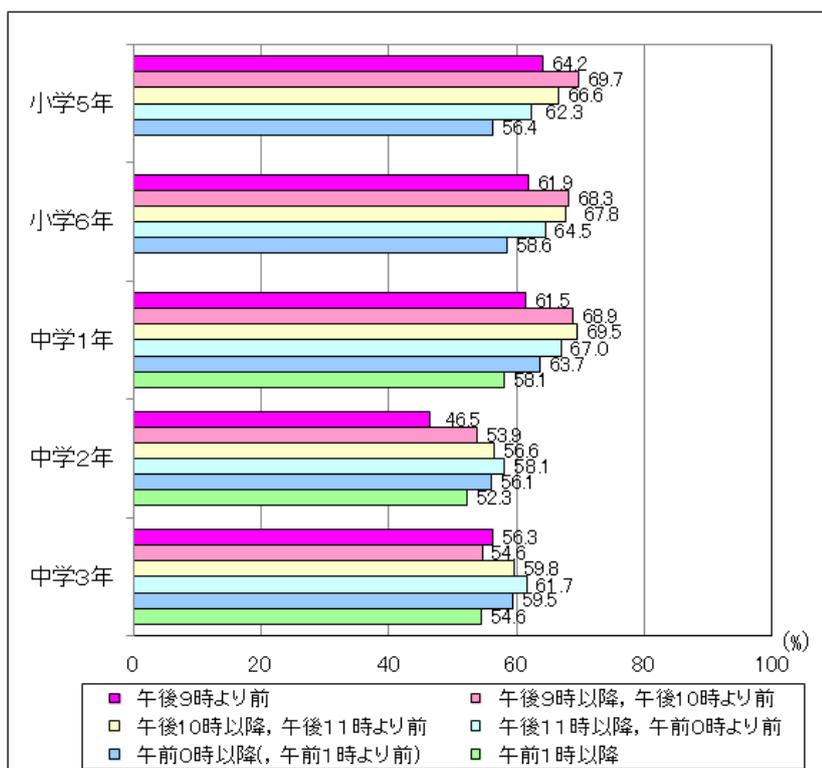


図5 「普段、何時ごろねますか」の回答状況と正答率

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、小学5年と小学6年では「午後9時以降、10時より前」、中学1年では「午後10時から11時までの間」、中学2年と中学3年では「午後11時から0時までの間」と回答した生徒の平均正答率が最も高くなっている。[図5]

ウ 「普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」について



図6 「普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」の回答状況

小学5年生で「1時間以上、2時間より少ない」が25.3%と最も高く、小学6年生から中学3年生では「2時間以上、3時間より少ない」が最も高く、小学6年25.1%、中学1年26.7%、中学2年28.1%、中学3年27.8%となっている。また、小学校では、学年が上がると視聴する時間が長くなる傾向があるが、中学校では、逆に短くなる傾向が見られる。[図6]

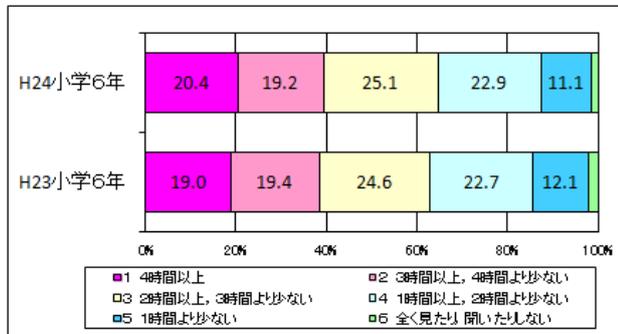


図7-1 小学6年生の「普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビやDVD等を見聞きますか」の経年比較

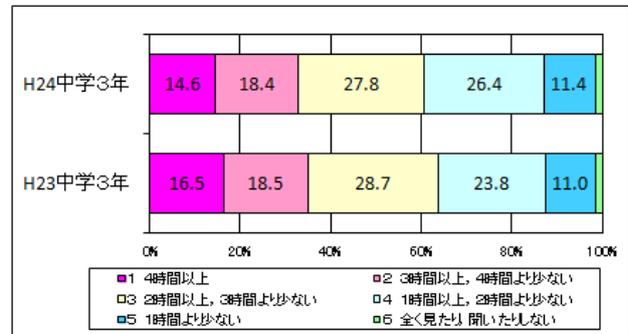


図7-2 中学3年生の「普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビやDVD等を見聞きますか」の経年比較

この設問について、小学6年と中学3年を平成23年度と比べると、小学6年、中学3年共に、テレビやDVD等を視聴する時間は、中学3年では4時間以上の割合は低くなっている。全体的には、小学6年では、視聴する時間は増加しており、中学3年では減少している。[図7-1、7-2]

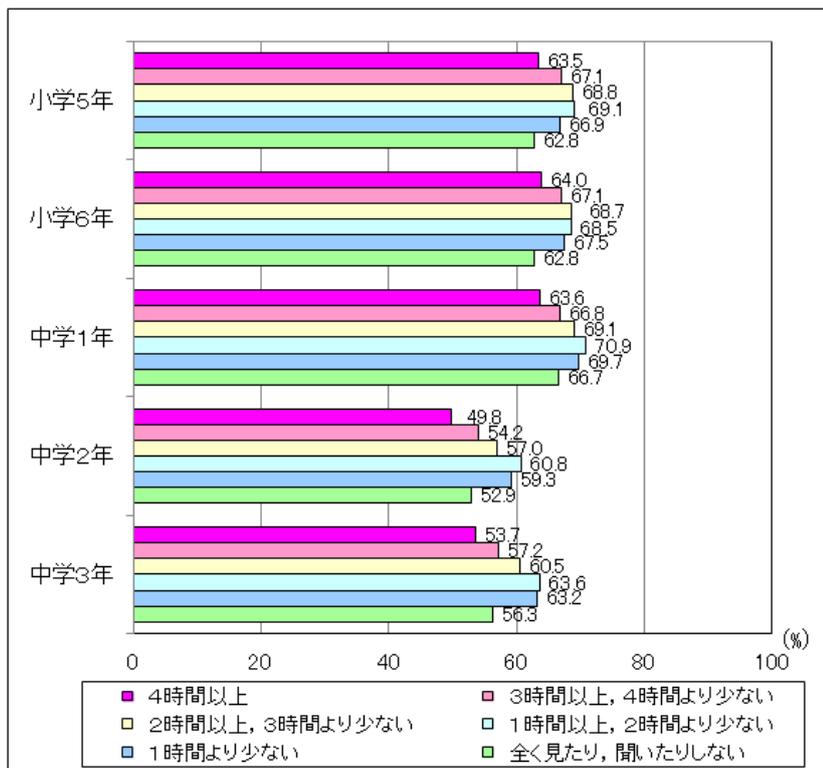


図8 「普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビやDVD等を見聞きますか」の回答状況と正答率

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、小学5年と小学6年では、「1時間以上、2時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した児童の平均正答率が高くなっている。中学校では、全ての学年で、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した生徒の平均正答率が高くなっている。また、小学校、中学校共に、「4時間以上」「全く見たり、聞いたりしていない」と回答した児童生徒の平均正答率が低くなっている。[図8]

エ 「普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれぐらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲームをふくみます。)をしますか」について

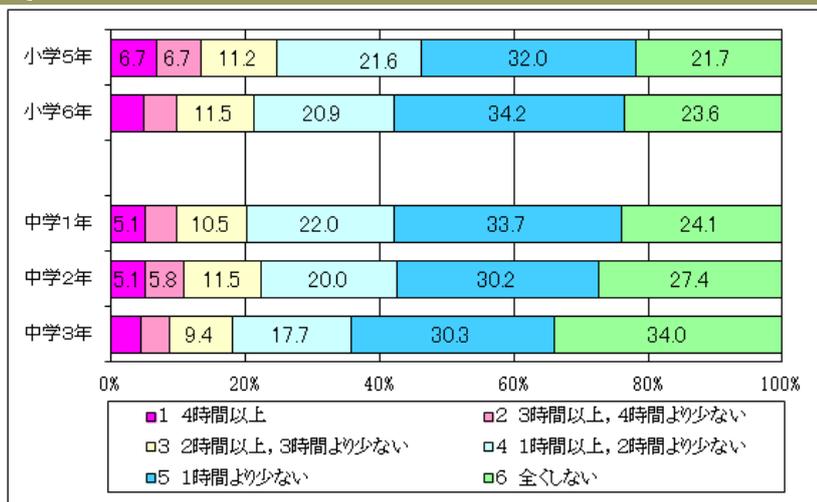


図9 「普段、1日あたりどれぐらいの時間、テレビゲームをしますか」の回答状況

どの学年においても「1時間より少ない」と回答している児童生徒の割合が最も高く、小学5年32.6%、小学6年34.2%、中学1年33.7%、中学2年30.2%、中学3年30.3%となっている。また、小学校、中学校ともに、学年が上がるとテレビゲームをする時間が減少する傾向が見られる。[図9]

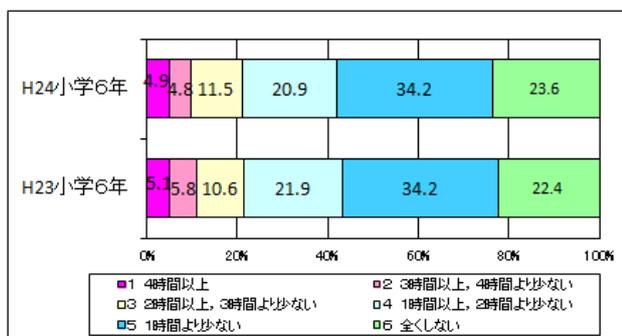


図10-1 小学6年生の「普段、1日あたりどれぐらいの時間、テレビゲームをしますか」の経年比較

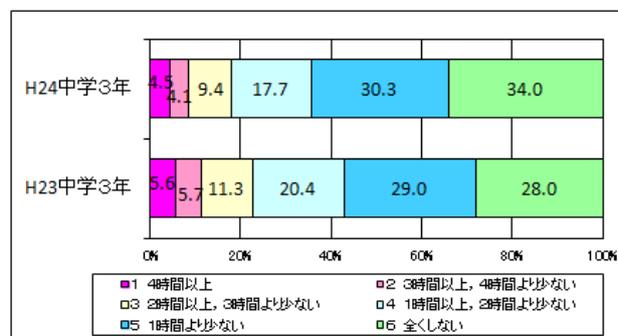


図10-2 中学3年生の「普段、1日あたりどれぐらいの時間、テレビゲームをしますか」の経年比較

この設問について、小学6年と中学3年とで平成23年度の調査と比較すると、小学6年、中学3年共に、テレビゲームをする時間は減少している。[図10-1、図10-2]

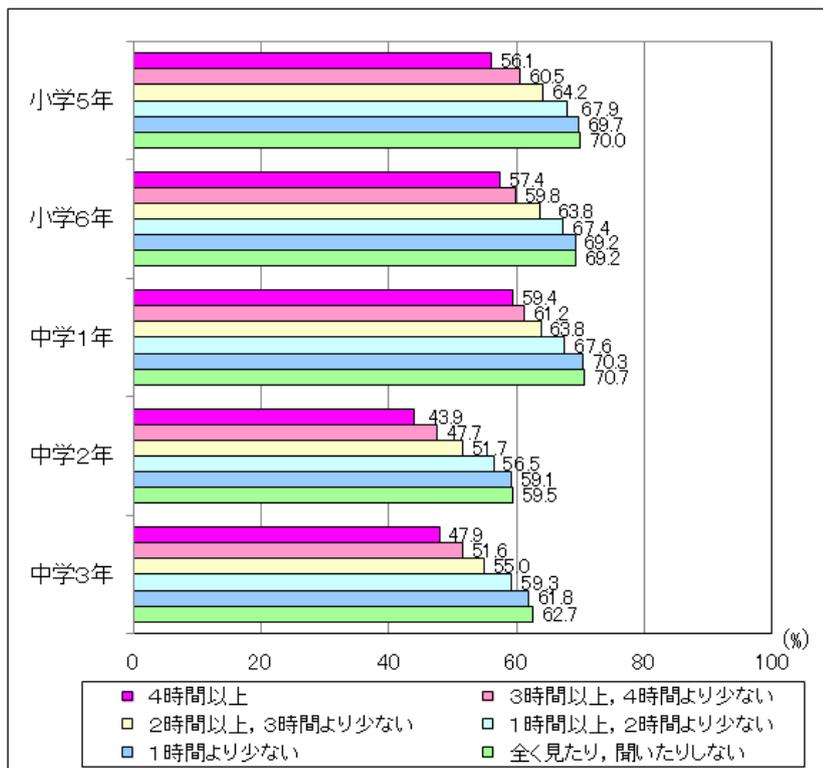


図11 「普段、1日あたりどれぐらいの時間、テレビゲームをしますか」の回答状況と正答率

回答状況と全教科平均正答率との関連を見ると、全ての学年において「全くしない」または「1時間より少ない」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高く、ゲームをする時間が増えるにしたがって、平均正答率も低くなっている。[図11]

**○ 今後の指導に向けて**

読書については、学年が上がるにつれて読書が好きだと感じている児童生徒の割合が減少する結果となった。「PISA2009の課題を受けた今後の取組」[※1]の中で、「子どもの読書活動の推進」を挙げている。そこでは、家庭、地域、学校における取組の一体的推進を掲げている。今回の調査結果を見ても、読書が好きだと感じている児童生徒ほど高い正答率を示していることから、読書をするのが学力の向上により影響を与えていることがうかがえる。今後もより一層の読書の定着を図る上において、朝の10分間読書や読書週間の設定、家庭・地域との連携による読書習慣の確立、学校図書館等の環境整備など、取組の工夫改善が望まれる。

就寝時刻については、家庭学習の時間や読書時間のことを考えると、早ければよいというわけではない。しかし、極めて遅い就寝時刻は、「授業に集中できない」「学習意欲が湧かない」といった学習意欲に悪影響を及ぼしている可能性があると考えられる。各学年の状況に応じて、帰宅してから就寝までの時間の有効な使い方について、家庭との連携を図りながら指導していくことが望まれる。

テレビゲームをする時間については、ゲームをする時間が増えるにしたがって、全教科平均正答率が低くなっていることがうかがえる。ゲームに夢中になった結果、家庭学習の時間の確保や生活の悪循環などの課題を抱えている可能性があると考えられる。そこでテレビゲームが身体や生活に及ぼす影響を考えさせた上で、家庭との連携を図りながら指導していくことが望まれる。

---

最終更新日：2012-10-15

## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ>IV 教師意識調査結果の分析

### 教師意識調査結果の分析

#### 教師意識調査の全てのグラフ(II 教師像共通グラフへ)

#### 1 教科全般における指導法の工夫

- 小学校、中学校共に、学習の形態を工夫し、考えをひろげたり深めたりする活動を取り入れる教師の割合が高くなってきている。[図1、図3]
- 小学校、中学校共に、多くの単元で課外の時間を利用して、補充的な指導を行う教師の割合が高くなってきている。[図5]また、補充的な指導を行っている学校ほど、各教科とも正答率が高くなっている。[図6-1][図6-2]

この節では、

- ・ 表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業
- ・ 学習形態を工夫したメリハリのある授業
- ・ 理解が十分でない児童生徒への補充状況

の設問から、補充的指導、表現力の育成、総合的な学習の時間の指導、学習形態の工夫などの状況について分析する。

なお、学校スコアによるグループ比較においては、小学校、中学校の最高学年である小学6年生と中学3年生の結果を基に比較することとする。

ア 「発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を行っていますか」について

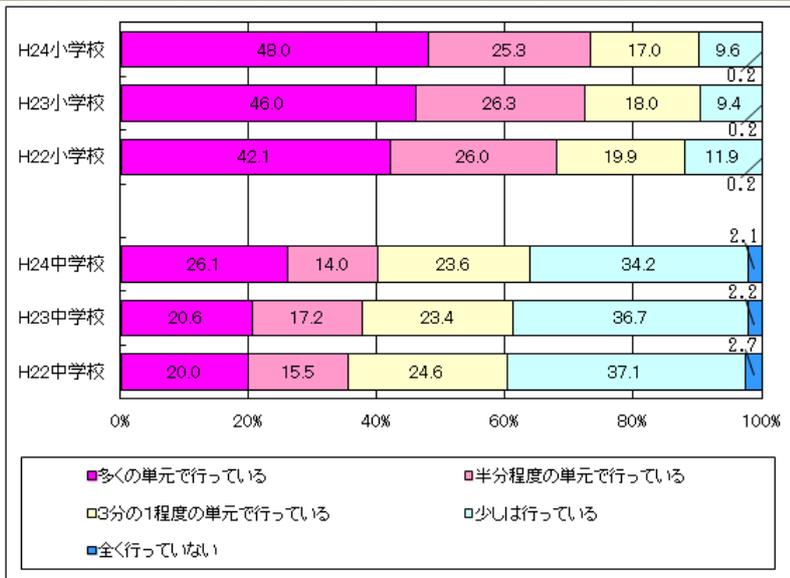


図1 「発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を行っていますか」の回答の割合(経年比較)

平成24年度の結果を見ると、「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」と回答をした小学校教師の割合は73.3%であり、同じ回答をした中学校教師の割合は40.1%である。

経年で比較すると、小学校、中学校共に、「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」と回答した教師の割合は増加している。特に、中学校においては「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合が、平成23年度から平成24年度にかけて5.5ポイント増加している。**[図1]**

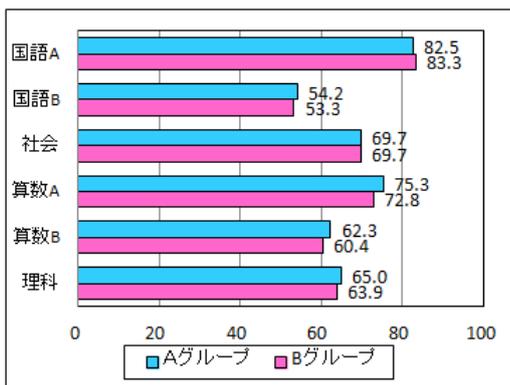


図2-1「発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業の頻度」と教科別正答率(小学6年生)

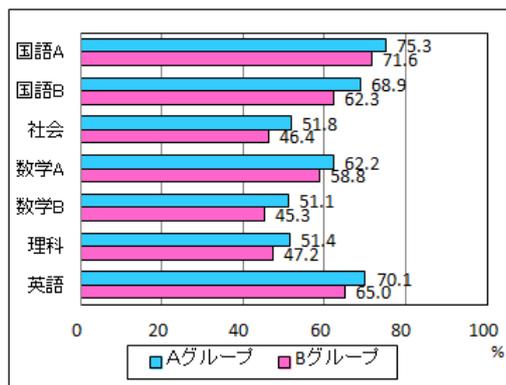


図2-2「発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業の頻度」と教科別正答率(中学3年生)

この設問においてAグループとBグループの教科別平均正答率を比較すると、小学校では、6教科中4教科においてAグループの平均正答率がBグループの平均正答率よりも高くなっている。中学校では、全ての教科においてAグループの平均正答率が高くなっている。特に、中学校では、国語Aと数学Bにおいては、6.0ポイント程度上回る結果となった。**[図2-1][図2-2]**

イ 「教師による指導を通して確実に学習内容を身に付けさせる場面とグループ活動やペア活動の形態を取り入れ、生徒の学び合い活動を通して学習内容を身に付けさせる場面を意識したメリハリのある授業を行っていますか」について

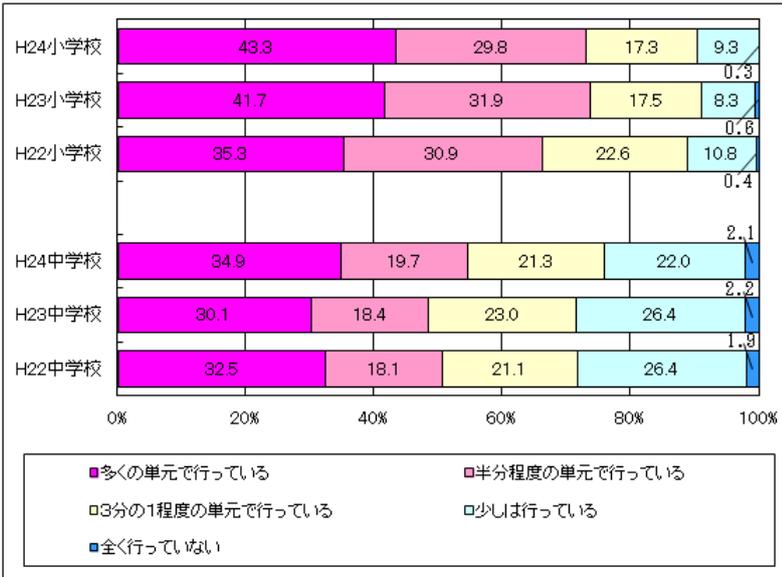


図3 「教師による指導を通して確実に学習内容を身に付けさせる場面とグループ活動やペア活動の形態を取り入れ、生徒の学び合い活動を通して学習内容を身に付けさせる場面を意識したメリハリのある授業を行っていますか」の回答の割合(経年比較)

「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」と回答をした小学校教師の割合は73.1%である。これに対し、同じ回答をした中学校教師の割合は54.6%である。小学校は中学校に比べると、教師による指導を通して確実に学習内容を身に付けさせる場面と、グループ活動やペア活動の形態を取り入れ、生徒の学び合い活動を通して学習内容を身に付けさせる場面を意識したメリハリのある授業を行っている教師の割合が多い。

経年で比較すると、小学校では、「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合が年々増加しており、「半分程度の単元で行っている」と回答した教師の割合と合わせてみても、増加する傾向にある。中学校で「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」と回答した教師の割合を見ると、平成24年度が最も高い割合を示しており、平成23年度と比べ5.5ポイント上回っている。中学校においても、メリハリのある授業を行っている教師の割合が増加する傾向が見られる。[図3]

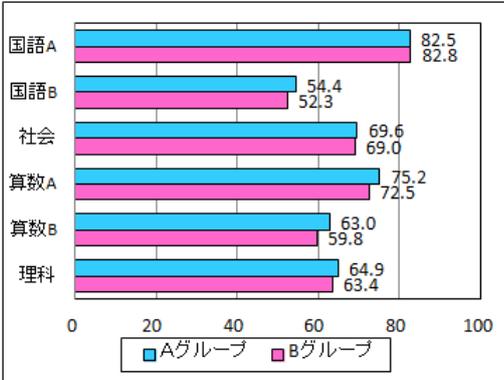


図4-1 「グループ活動やペア活動の形態を取り入れ、児童・生徒の学び合い活動を通して学習内容を身に付けさせる場面を意識した授業を行っている頻度」と教科別正答率(小学6年生)

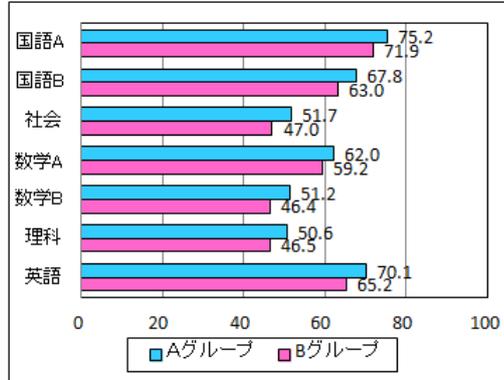


図4-2 「グループ活動やペア活動の形態を取り入れ、児童・生徒の学び合い活動を通して学習内容を身に付けさせる場面を意識した授業を行っている頻度」と教科別正答率(中学3年生)

この設問においてAグループとBグループの教科別平均正答率を比較すると、小学校では、6教科中5教科においてAグループの平均正答率が高くなっている。中学校では、全ての教科においてAグループの平均正答率が高くなっている。[図4-1][図4-2]

ウ 「理解が十分でない児童生徒に対し、授業の合間や放課後などに更に指導していますか」について

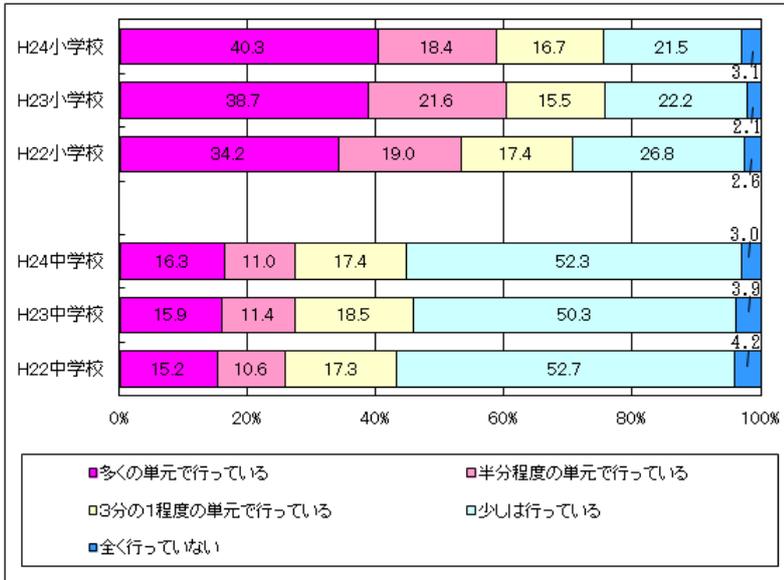


図5 「理解が十分でない児童生徒に対し、授業の合間や放課後などに更に指導していますか」の回答の割合(経年比較)

平成24年度の結果を見ると、「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」と回答をした小学校教師の割合は58.7%であり、同じ回答をした中学校教師の割合は27.3%である。

経年で比較すると、小学校、中学校共に、「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合が増加している。また、中学校においては、「全く行っていない」と回答した教師の割合が減ってきている。[図5]

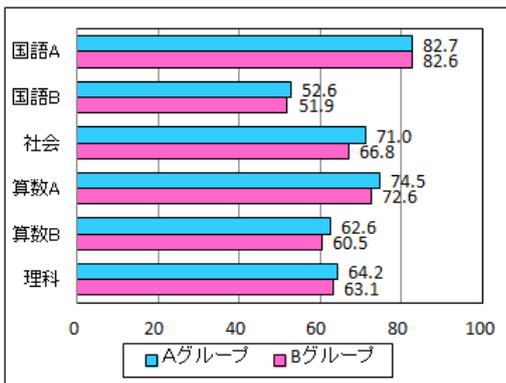


図6-1「理解が十分でない児童・生徒に対し、授業の合間や放課後に更に指導している頻度」と教科別正答率(小学6年生)

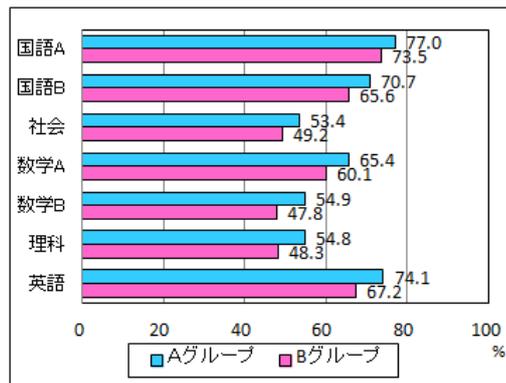


図6-2「理解が十分でない児童・生徒に対し、授業の合間や放課後に更に指導している頻度」と教科別正答率(中学3年生)

この設問においてAグループとBグループの教科別平均正答率を比較すると、小学校、中学校共に、全ての教科においてAグループの平均正答率が高くなっている。特に、中学校では、7教科中5教科において5.0ポイント以上上回る結果となった。[図6-1][図6-2]

## ○ これからの指導に向けて

## 言語活動の充実を図る授業

今回の調査結果から、各教科の指導に当たって、「発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動」が、学力の向上に効果的であることが読み取れた。また、学習指導要領にも「各教科等の指導に当たっては、児童(生徒)の思考力、判断力、表現力等をはぐくむという観点から、基礎的・基本的な知識及び技能を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童(生徒)の言語活動を充実すること。(※1)」とある。特に、表現する活動は、自分の考えを広げたり深めたりすることに有効であると考えられる。この表現活動は、「自分の考えを書いて表現する活動」と、「発表や話し合いなどの表現活動」に分けることができる。「自分の考えを書いて表現する活動」は、レポートや作文の作成などを通して、自分の考えを整理しながら、文章に分かりやすくまとめる活動である。「発表や話し合いなどの表現活動」は、作成したレポートや作文などを発表したり、自分の意見を、他者と交流させることにより、考えを深めたり、発展させたりする学習である。これらの表現活動を充実させることにより、児童生徒の知識・技能の定着が図られ、思考力、判断力、表現力が育まれることが求められる。

充実させる手立てとして、レポートや作文を書くだけでなく、書いたものを基に発表する場を設定したり、話し合う前に自分の考えを書いて整理させたりするなど、「自分の考えを書いて表現する活動」と「発表や話し合いなどの表現活動」との調和が図られ、両者の関連を図った指導を工夫することにあると考えられる。その上で、児童生徒の実態や学習内容によって、ペア学習やグループ学習などの場を設定したり、コンピュータや学校図書館など学習環境の効果的な活用を図ったりすることが挙げられる。

---

最終更新日：2012-10-15

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ> IV 教師意識調査結果の分析

## 教師意識調査結果の分析

教師意識調査の全てのグラフ(II 教師像共通グラフへ)

### 2 学習環境の活用

- 平成22年度、平成23年度と比べて、小中学校共に、コンピュータを活用した授業を行う教師の割合が増加している。[図1]
- 小学校、中学校共に、コンピュータを活用した授業を行っている学校ほど、各教科とも正答率が高くなってきている。[図2-1][図2-2]
- 小学校、中学校共に、コンピュータを、プレゼンテーションや資料提示に活用する教師の割合が高くなってきている。[図3]

この節では、授業におけるコンピュータの活用頻度と教科別正答率との関連及び活用内容について分析する。

なお、学校スコアによるグループ比較においては、小学校、中学校の最高学年である小学6年生と中学3年生の結果を基に比較することとする。

#### ア 「コンピュータを活用した授業を行っていますか」について

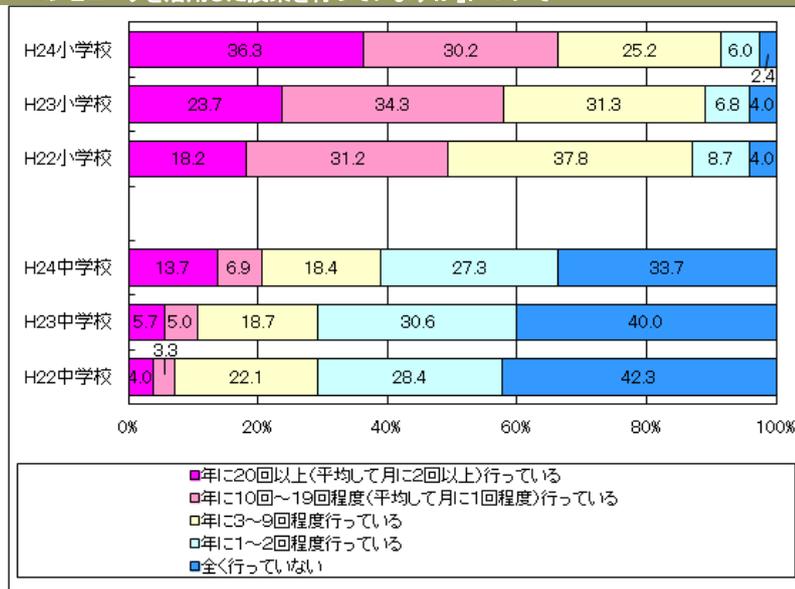


図1 「コンピュータを活用した授業を行っていますか」の回答の割合(経年比較)

平成24年度の結果を見てみると、「年に20回以上(平均して月に2回以上)行っている」「年に10回から19回程度(平均して月1回程度)行っている」と回答した小学校教師の割合は66.5%であり、同じ回答をした中学校教師の割合は20.6%である。経年比較で見ると、「年に20回以上(平均して月に2回以上)行っている」「年に10回から19回程度(平均して月1回程度)行っている」と回答した教師の割合は、小学校で8.5ポイント程度ずつの増加が見られる。中学校では、平成23年度と比較して9.9ポイント上回る結果であった。小学校、中学校共にコンピュータを活用した授業を行う傾向が見られる。[図1]

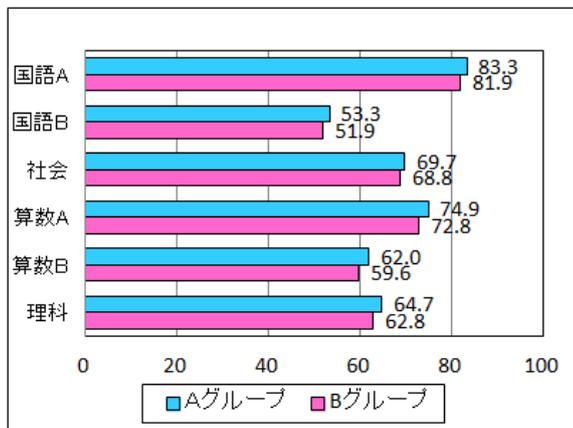


図2-1 コンピュータを活用した授業を行っている頻度と教科別正答率(小学6年生)

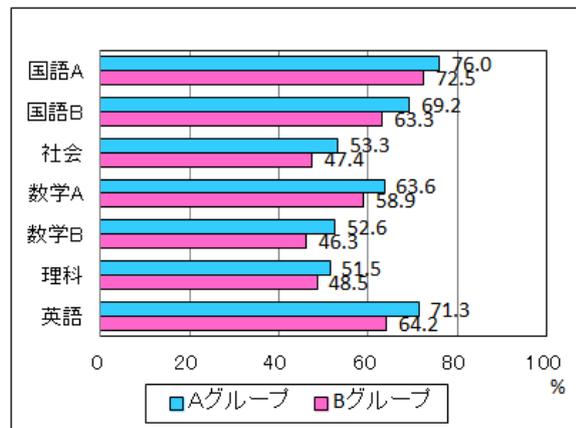


図2-2 コンピュータを活用した授業を行っている頻度と教科別正答率(中学3年生)

この設問においてAグループとBグループの教科別平均正答率を比較すると、小学校、中学校共に全ての教科において、Aグループの平均正答率が高くなってきている。特に中学校においては、7教科中4教科で5.0ポイント以上、Aグループの方が上回る結果である。

[図2-1][図2-2]

## イ 「授業では、コンピュータをどのように活用していますか」について

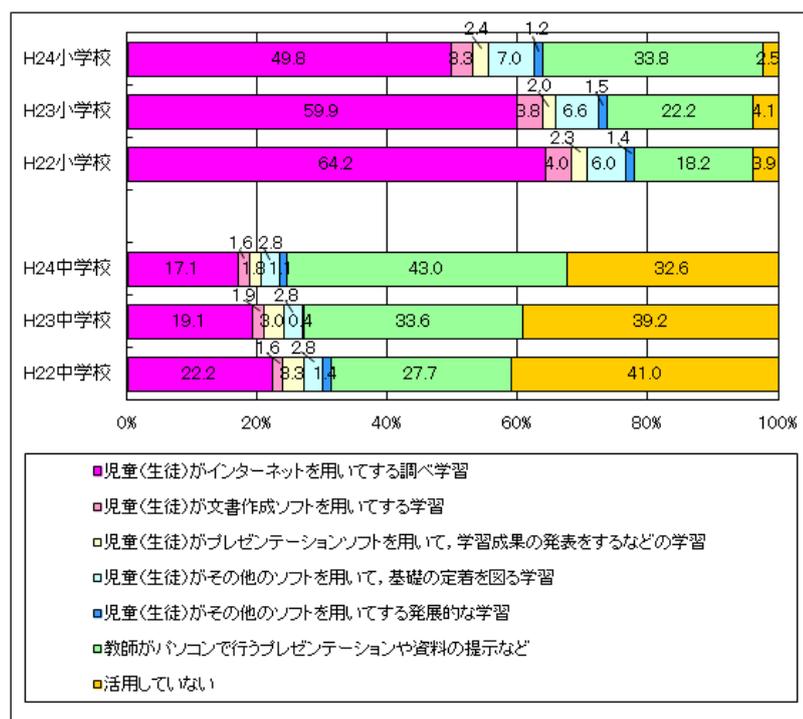


図3 「授業では、コンピュータを主にどのように活用していますか」の回答の割合(経年比較)

小学校ではコンピュータを活用していると回答をした教師の中において、「児童がインターネットを用いてする調べ学習」と回答をした教師の割合が49.8%と、最も高くなっている。これに対し、中学校では「教師がパソコンで行うプレゼンテーションや資料の提示など」と回答をした教師の割合が43.0%と最も高くなっている。

経年比較で見ると、「教師がパソコンで行うプレゼンテーションや資料提示など」の割合が、小学校、中学校共に毎年増加してきている。昨年度と比較してみても、「教師がパソコンで行うプレゼンテーションや資料の提示など」と回答した教師の割合が、小学校で11.6ポイント、中学校で9.4ポイント上回る結果であった。[図3]

## ○ これからの指導に向けて

## ICTを利活用した授業づくりを

昨年度同様、平成24年度佐賀県教育の基本方針において、ICT利活用教育の推進が掲げられている。授業の中でコンピュータを活用することだけでなく、電子黒板やプロジェクターといったICT機器を活用することには、

- ・ 写真や図表を大きく提示することで教師の指示を明確にすることができる
- ・ 画面を見せながら話して、分かりやすく説明やまとめをすることができる
- ・ 身近に感じる教材を提示することで関心や意欲を高めることができる[※1]

など、様々な利点がある。

現在、佐賀県内の各学校においても、電子黒板やコンピュータなどのICT機器の充実が図られている。また、ICT利活用を図るための教師のスキルアップ研修も数多く行われている。インターネットを使う際の情報モラルに関わる教育を行う一方で、今後もコンピュータに限らずICTを利活用した授業づくりを推進していくことが大切である。

※1 一般財団法人コンピュータ教育開発センター 『学力向上 ICT指導ハンドブック』 平成20年

<http://www.cec.or.jp/monbu/report/handbook.pdf>

## 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ>IV 教師意識調査結果の分析

### 教師意識調査結果の分析

教師意識調査の全てのグラフ(II 教師像共通グラフへ)

#### 3 家庭学習への関与状況

- 8割ほどの教師が、家庭での学習方法に対して、具体例を挙げながら指導している。平成23年度と比較すると、わずかながら家庭学習の方法について指導を行っている教師の割合が増加している。[図1]
- 家庭における具体的な学習方法を挙げて指導している学校ほど、教科別平均正答率が高い結果であった。[図2-1][図2-2]

この節では、家庭での学習方法に関する指導と教科別平均正答率との関連について分析する。

なお、学校スコアによるグループ比較においては、小学校、中学校の最高学年である小学6年生と中学3年生の結果を基に比較することとする。

#### ア 「家庭での学習方法について、具体例を挙げながら指導していますか」について

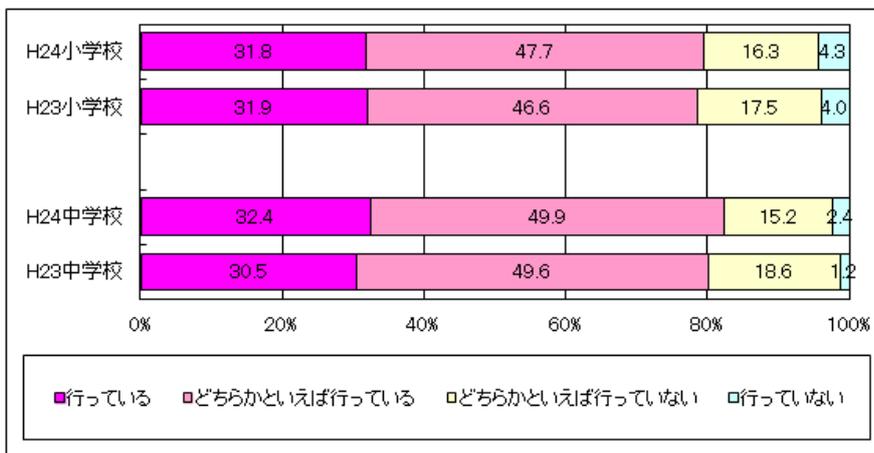


図1 「家庭での学習方法について、具体例を挙げながら指導していますか」の回答の割合(経年比較)

「行っている」「どちらかといえば行っている」と回答した小学校教師の割合は79.5%である。これに対し、同じ回答をした中学校教師の割合は82.3%である。小学校、中学校共に8割程度となっている。[図1]

経年で比較すると、小学校、中学校共に大きな変化は見られない。

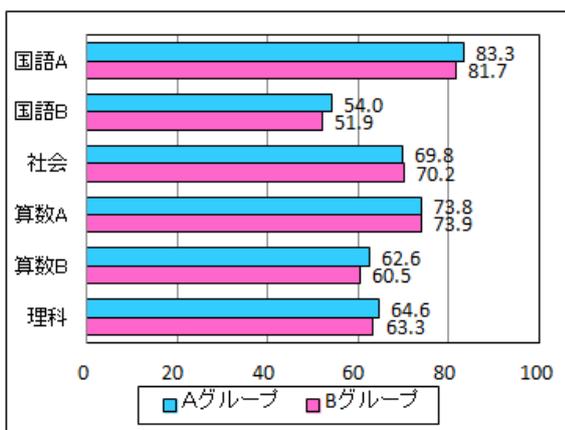


図2-1 家庭学習に対する指導の程度と教科別正答率(小学6年生)

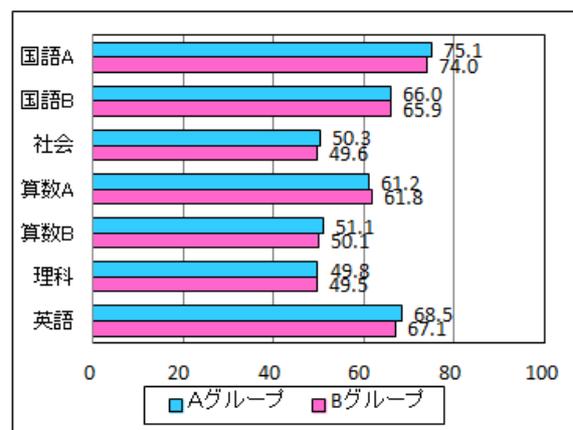


図2-2 家庭学習に対する指導の程度と教科別正答率(中学3年生)

この設問においてAグループとBグループの教科別平均正答率を比較すると、小学校では、6教科中4教科においてAグループの平均正答率が高くなる結果である。中学校では、7教科中6教科においてAグループの平均正答率が高くなる結果である。[図2-1][図2-2]

**○ これからの指導に向けて****家庭との連携を図り、家庭学習の充実を**

学力の向上を図るための1つに家庭学習の充実があり、家庭との連携が大切となってくる。そのため、学校においては、学校独自に「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習の重要性や家庭での学習方法などについて示している。この中で、学習方法については、多くの教師が「家庭学習の手引き」で提示するだけでなく、具体的な学習方法を提示しながら指導に当たってきた。今後も、具体的な学習方法の提示を示すことはもちろんのこと、家庭学習の効果を児童生徒はもちろんのこと、家庭にも示すことで、家庭との連携を図り、家庭学習の充実を目指すことが大切である。

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

Web報告書もくじ>IV 教師意識調査結果の分析

## 教師意識調査結果の分析

教師意識調査の全てのグラフ(II 教師像共通グラフへ)

### 4 学校組織マネジメントに対する意識

- 教育活動の具体的な内容についての学校の方針を理解していると回答した教師は9割を大きく上回っており、増加する傾向が見られる。[図1]
- 平成24年度の調査結果において、教育活動の具体的な内容についての共通理解が図られていると回答した教師は9割を上回っており、増加する傾向が見られる。[図3]

この節では、教育活動方針の理解、方針や内容についての共通理解について問うことにより、教師の学校組織のマネジメントに対する意識を把握する。

なお、学校スコアによるグループ比較においては、小学校、中学校の最高学年である小学6年生と中学3年生の結果を基に比較することとする。

#### ア「あなたは、学力向上や生徒指導など教育活動の具体的な内容についての学校の方針を理解していますか」について

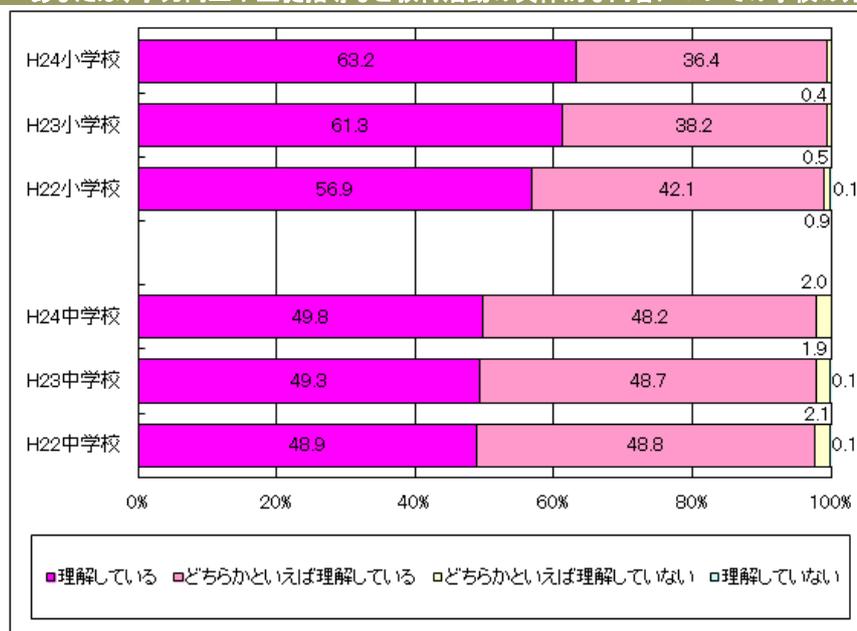


図1 学力向上や生徒指導など学校の方針を理解している割合(経年比較)

平成24年度の結果を見てみると、「理解している」「どちらかといえば理解している」と回答をした小学校教師の割合は99.6%であり、同じ回答をした中学校教師の割合は98.0%である。小学校と中学校のほとんどの教師が、学力向上や生徒指導など教育活動の具体的な内容についての学校の方針を理解していることが分かる。

経年比較で見ると、小学校、中学校共に「理解している」「どちらかといえば理解している」と回答した教師の割合に大きな変化は見られないが、「理解している」と回答した教師の割合については、毎年増加する傾向にあることが分かる。[図1]

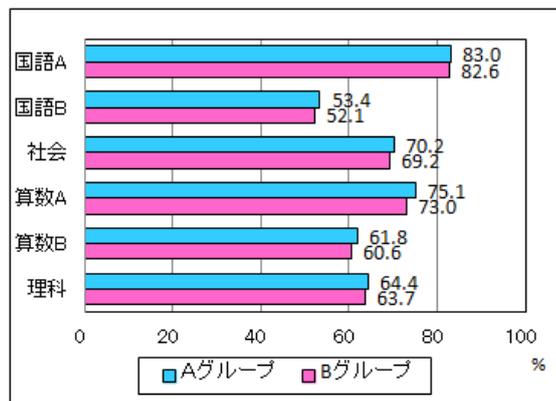


図2-1 学力向上や生徒指導など学校の方針に対する理解度と教科正答率(小学6年生)

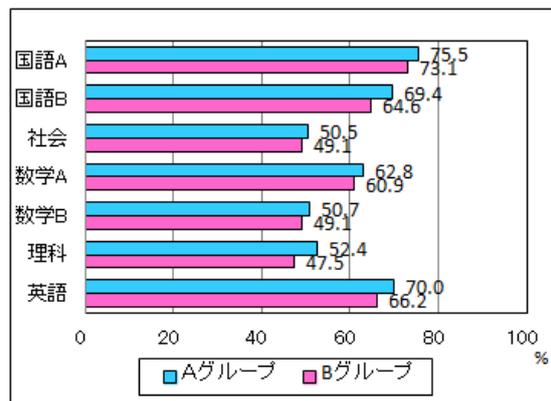


図2-2 学力向上や生徒指導など学校の方針に対する理解度と教科正答率(中学3年生)

この設問においてAグループとBグループの教科別平均正答率を比較すると、小学校と中学校ともにAグループの平均正答率が高くなっている。特に、中学3年生の国語Bや理科では、5.0ポイント近く上回る結果である。[図2-1][図2-2]

## イ「あなたの学校では、教育活動の方針や具体的な内容について、学校全体で共通理解が図られていると思いますか」について

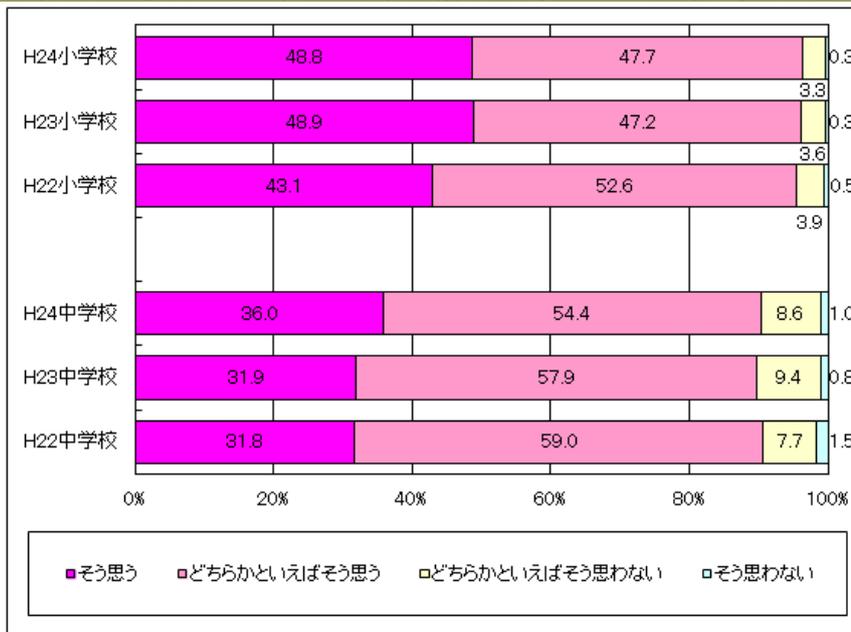


図3 教育活動の方針や具体的な内容についての共通理解が図られている割合(経年比較)

平成24年度の結果を見てみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した小学校教師の割合は96.5%である。同じ回答をした中学校教師の割合は90.4%である。小学校と中学校のほとんどの教師が、教育活動の方針や具体的な内容について、学校全体で共通理解が図られていると思っていることが分かる。経年比較で見ると、小学校、中学校共に大きな変化は見られないが、「そう思う」と回答した教師の割合を見ると、小学校では平成22年度から平成23年度にかけて増え、中学校では平成23年度から平成24年度にかけて増えている。各学校において、共通理解を図りながら指導に当たろうという意識の向上がうかがえる。[図3]

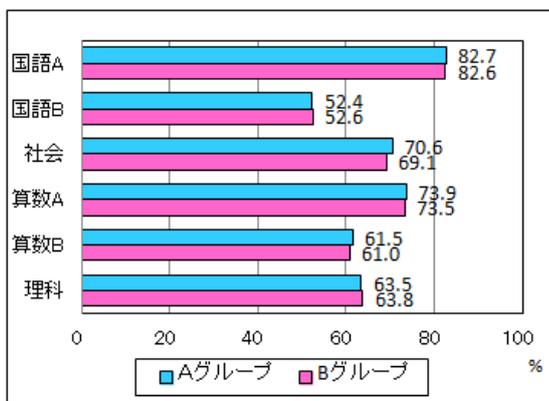


図4-1 教育活動の方針や具体的な内容についての共通理解度と教科正答率(小学6年生)

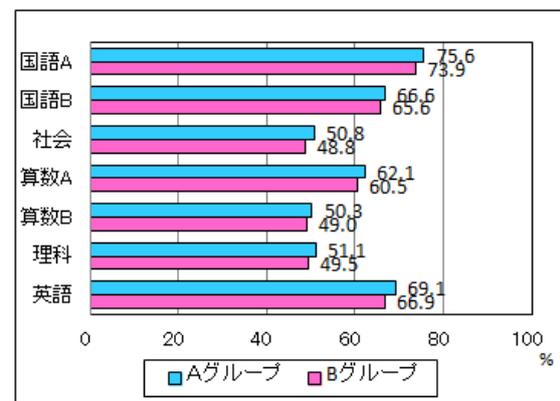


図4-2 教育活動の方針や具体的な内容についての共通理解度と教科正答率(中学3年生)

この設問においてAグループとBグループの教科別平均正答率を比較すると、小学校では、AグループとBグループで大きな差は見られないが、多くの教科でAグループの教科別平均正答率が高くなっている。中学校では、全ての教科で中学校ともにAグループの教科別平均正答率が高くなっている。教育活動の方針や具体的な内容について共通理解を図っている学校ほど、正答率が高くなっている。[図4-1][図4-2]

## ○ これからの指導に向けて

## 学校組織マネジメントの充実を

学校としての課題を解決していくためには、教師間の共通理解を図り、学校全体で取り組むことが大切である。そのため、学校組織マネジメントの充実は不可欠である。たとえ教師一人一人が、教育活動の方針や内容を理解していても、教師間の共通理解が図れていなければ、教育効果はなかなか向上しない。今回の調査結果を、学校組織マネジメントの視点から見た場合、少しずつではあるが向上する傾向にあり、おおむね良好であるといえる。これは、学校全体で教育に取り組む風土が醸成されていることの表れであると考えられる。また、学校の方針の共通理解が、学力向上により影響を与えていることが分かる。これからも、時間や場を工夫して設定し、教育活動の方針や具体的な内容について共通理解を図ることが大切である。

# 平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査を活用した調査Web報告書

[Web報告書もくじ](#) > V まとめ

## 学校の状況に応じた学習評価の工夫改善へ向けて

### 1 学習評価の在り方について

新学習指導要領については、小学校は平成23年4月から、また、中学校は平成24年4月から全面実施となった。新学習指導要領の下での学習評価については、国立教育政策研究所教育課程研究センターが作成した「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」第1編総説第1章に、次のように述べられている。

新学習指導要領の下での学習評価については、児童生徒の「生きる力」の育成を目指し、児童生徒一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況をみる評価を着実に実施し、児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要であるとともに、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが重要である。

また、今回の観点別学習状況の評価の改善は、特に、学力の重要な要素を示した新学習指導要領等の趣旨の反映と関連している。

学校教育法の一部改正を受けて改訂された新学習指導要領の総則に示された学力の3つの要素を踏まえて、評価の観点に関する考え方が整理された結果、これまでの観点の構成と比べると、「思考・判断」が「思考・判断・表現」となり、「技能・表現」が「技能」として設定されることとなった。

さらに、各学校や設置者の創意工夫を一層生かしていくことが求められており、各学校では、組織的な取組を推進し、学習評価の妥当性、信頼性等を高めることが重要である。(※1)

児童生徒一人一人の状況を把握するとともに、その後の指導に生かすことが重要であることが示されている。また、各学校において組織的な取組を推進することや学習評価の妥当性、信頼性等を高めることが重要であることも示されている。

## 2 学習指導と学習評価に対する意識調査より

「学習指導と学習評価に対する意識調査報告書」(平成21年度文部科学省委託調査)によると、目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)や観点別学習状況の評価に対する考えについて、図1及び図2のようなグラフが示されている。

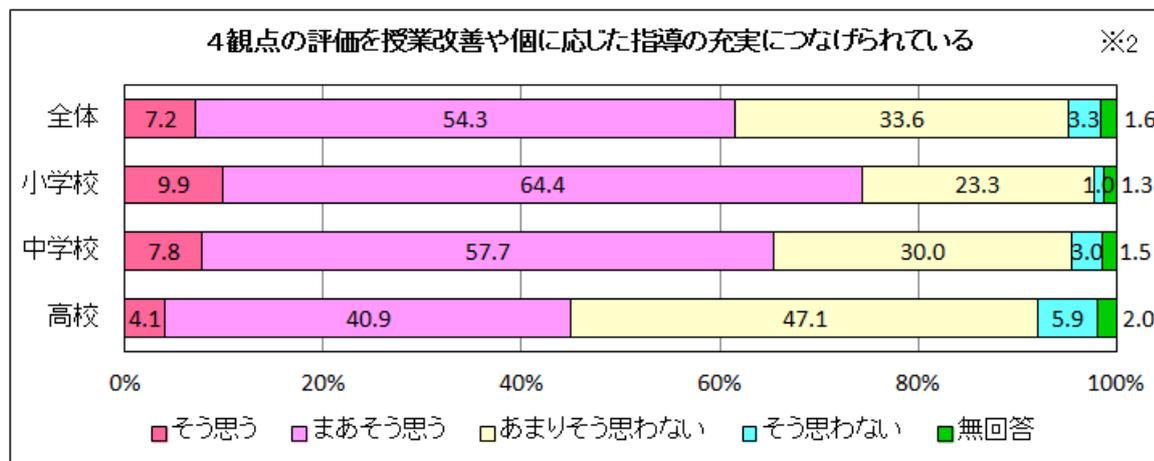


図1 学校段階別項目ごとの回答分布

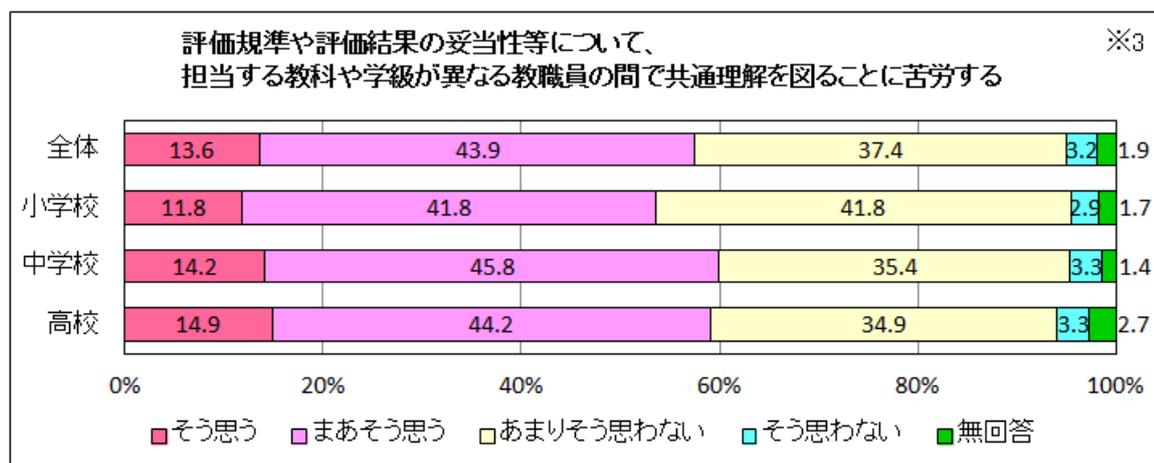


図2 学校段階別項目ごとの回答分布

図1の「4観点の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられている」の項目では、小学校の74.3%の教師が、また、中学校の65.5%の教師が、「そう思う」「まあそう思う」と回答している。ただし、「そう思う」と回答している教師の割合は、小学校、中学校共に10%を下回っている。一方、図2の「評価規準や評価結果の妥当性等について、担当する教科や学級が異なる教職員の間で共通理解を図ることに苦勞する」の項目では、小学校の53.6%の教師が、また、中学校の60.0%の教師が、「そう思う」「まあそう思う」と回答している。また、「そう思う」と回答している教師の割合は、小学校、中学校共に10%を上回っている。

小学校及び中学校において、「4観点の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられている」と感じている教師の割合は半数を超えているが、「評価規準や評価結果の妥当性等について、担当する教科や学級が異なる教職員の間で共通理解を図ることに苦勞する」と感じている教師の割合も半数を超えている。このことは、4観点の評価については充実感があるものの、教職員の間での共通理解をすることは難しいことを表していると考えられる。

### 3 学習評価の工夫改善に向けて

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」第1編総説第3章には、

学習評価の工夫改善を進めるに当たっては、評価規準を適切に設定するとともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士で検討すること、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等について、校長のリーダーシップの下、学校として、組織的・計画的に取り組むことが必要である。(※4)

と述べられている。

学習評価については、教職員の間で共通理解を図りにくい状況があるものの、共通理解を図ることについては有用感が高いことから、上記(※4)に関わる各学校のこれからの実践について、以下のような手立てを挙げたい。

#### (ア)評価規準を適切に設定すること

教育課程の実施に当たっては、新学習指導要領に示されている内容が児童生徒一人一人に確実に身に付いているかどうかを評価することが大切である。その際、前述の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を活用したい。この参考資料は、

第1編 総説(学習評価の基本的な考え方についての解説)

第2編 評価規準に盛り込むべき事項等

第3編 評価に関する事例(各教科4事例程度)

で構成されている。各教科の評価規準の設定について、具体的な事例を挙げながら示されている。授業実践において参考となる資料である。

#### (イ)評価方法の工夫改善を進めること

評価方法については、文部科学省の「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について(答申)」(平成12年12月4日)に次のような指摘がある。

具体的な評価の方法としては、ペーパーテストのほか、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポート等を用い、その選択・組合せを工夫すること、などが求められる。(※5)

これらの方法については、各教科の特性や指導する内容に合わせて、絶対評価を行うのか、相対評価を行うのか、また、自己評価を行うのか、相互評価を行うのか等について検討を加える必要がある。さらに、結果の蓄積や分析には、作業の効率化の観点からICTの利活用が考えられる。

#### (ウ)評価結果について教師同士で検討すること

評価結果について、教職員の間で検討するためには、各教科の指導する内容において、目指す児童生徒の姿を共有することが重要であるとする。目指す児童生徒の姿の具体については、前述の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」に示されている評価規準を参考にしたい。また、学習状況調査の結果を基にして教職員の間で検討することも考えられる。調査問題の内容について意見交換したり、結果を県が設定した到達基準や県正答率等と比較することにより、児童生徒の状況を探ってほしい。評価結果を、何を基にして検討するのかについて考えることが重要だと思われる。

#### (エ)授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること

授業研究においては、授業展開案に記された学習評価を基に、評価の時期や方法について教職員の間で協議することによって、その妥当性や信頼性を高めることが期待できる。教育センターでは、授業研究等に役立つ資料について、小学校国語科・中学校国語科・小学校算数科・中学校数学科の4つの研究委員会より、単元ごとや時間ごとの評価規準を示した「すぐに役立つ授業プラン」(授業展開案)を随時発信している。教師一人一人の力量の向上を図る上で、是非活用してほしい。

## 4 学校の状況に応じた指導改善へ向けた支援におけるアンケートより

平成20年度から始まった学校の状況に応じた指導改善へ向けた支援については、のべ250件を超えた。支援の目的は、以下のとおりである。

## 《目的》

- ① 分析ツールを使った学習状況調査の結果の分析方法についての周知と理解を図る。
- ② 結果データなど各学校の児童生徒の実態に基づく指導方法の工夫改善の進め方についてワークショップを通して理解を図る。
- ③ 学習状況調査の結果をはじめとする客観的な数値による評価資料の有用性について教師の認識を高めるとともに、教師のPDCAサイクルへの意識化・具体化を図る。

上記の《目的》に関しては、平成22年度よりアンケートを実施し、各学校の職員の反応を集約するようにしている。

図3のグラフは、平成22年度と平成23年度のアンケート結果について、各項目の4つの選択肢

(例: 思う…4 やや思う…3 あまり思わない…2 思わない…1)

を加重平均したものである。

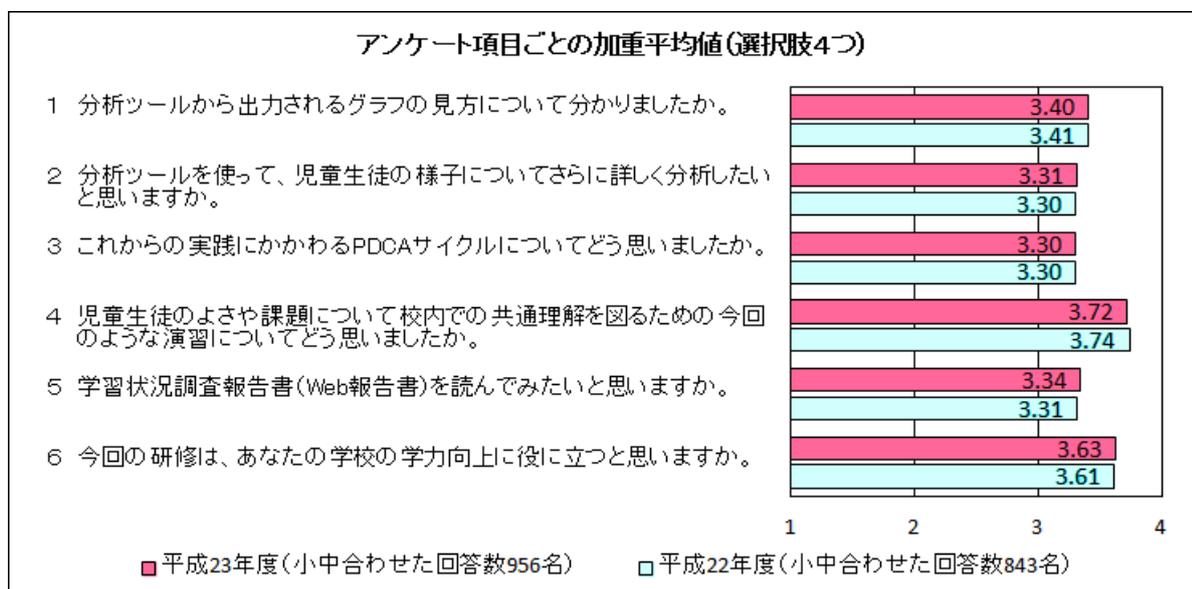


図3 平成22年度と平成23年度のアンケート結果

平成23年度と平成22年度共に最も高い数値を示している項目が「4 児童生徒のよさや課題について校内での共通理解を図るための今回のような演習についてどう思いましたか。」である。次に高い数値を示している項目が「6 今回の研修は、あなたの学校の学力向上に役に立つと思いますか。」である。

教育センターが県内小・中学校を対象に行っている支援では、学習状況調査の結果から見える学校の状況についての説明を行った後にワークショップを行うスタイルを多くの学校で取り入れている。図3は、教職員の間で児童生徒の状況を共通理解することに対する有用感が高いことを表していると考えられる。

学習評価における組織的・計画的な取組については、「平成23年度佐賀県小・中学校学習状況調査Web報告書第V章『3 組織的・計画的な取組に向けて』」に提言をまとめている。参照してほしい。

## 《引用文献》

※1 ※4 国立教育政策研究所 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』 平成23年11月  
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouusiryu.html>

※2 ※3 文部科学省 『学習指導と学習評価に対する意識調査報告書』 平成22年1月

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryu/\\_icsFiles/fieldfile/2010/02/19/1289879\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryu/_icsFiles/fieldfile/2010/02/19/1289879_1.pdf)

※5 文部科学省 『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について(答申)』 平成12年12月4日  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/t20001204001/t20001204001.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t20001204001/t20001204001.htm)